

基本計画書

基本計画書								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の学科の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ム コ ガワ ガク イン 学校法人 武庫川学院							
フリガナ大学の名称	ム コ ガワ ヲシダ ガク 武庫川女子大学 (Mukogawa Women's University)							
大学本部の位置	兵庫県西宮市池開町6番46号							
大学の目的	武庫川学院立学の精神に基づき、女子に広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、高い知性と善美な情操と高雅な徳性を兼ね具えた有為な日本女性を育成して、平和的世界文化の向上に貢献することを目的とする。							
新設学部等の目的	健康・スポーツ科学の優れた知見を広く学び、多角的な視点からスポーツマネジメントやビジネスに対する理解を深めるとともに、スポーツの学びと実践を通して、多様な社会的課題の解決やダイバーシティの推進に資するマネジメント力、高い共感性と創造性を身につけることを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	健康・スポーツ科学部 [School of Health and Sports Sciences] スポーツマネジメント学科 [Department of Sport Management] 計	年	人	年次人	人	学士 (スポーツマネジメント学) 【Bachelor of Sport Management】	令和5年4月 第1年次	兵庫県西宮市池開町 6番46号
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	心理・社会福祉学部 心理学科 (150) (令和4年4月届出) 社会福祉学科 (70) (令和4年4月届出) 社会情報学部 社会情報学科 (180) (令和4年4月届出) 文学部 心理・社会福祉学科 (廃止) (△160) (3年次編入学定員) (△17) 生活環境学部 情報メディア学科 (廃止) (△150) ※令和5年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和7年4月学生募集停止) 武庫川女子大学短期大学部 心理・人間関係学科 (廃止) (△100) 健康・スポーツ学科 (廃止) (△80) ※令和5年4月学生募集停止 令和5年4月名称変更予定 文学部 英語文化学科 → 英語グローバル学科							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
	健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科	講義	演習	実験・実習	計	124 単位		
		107 科目	93 科目	37 科目	237 科目			

教員	新設分	学部等の名称	専任教員等					兼任 教員等	人
			教授	准教授	講師	助教	計		
教	新	健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科	6 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	10 (9)	0 (0)	110 (78)
		心理・社会福祉学部 心理学科	6 (4)	5 (5)	4 (2)	2 (0)	17 (11)	0 (0)	104 (76)
		社会福祉学部 社会福祉学科	6 (4)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	12 (10)	0 (0)	102 (81)
		社会情報学部 社会情報学科	11 (8)	7 (5)	1 (0)	1 (0)	20 (13)	0 (0)	88 (70)
員	設	計	29 (21)	17 (15)	9 (6)	4 (1)	59 (43)	0 (0)	— (—)
		文学部 日本語日本文学科	10 (10)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	117 (117)
		英語グローバル学科	8 (8)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	124 (124)
		教育学部 教育学科	17 (17)	10 (10)	3 (3)	0 (0)	30 (30)	1 (1)	140 (140)
組	既	健康・スポーツ科学部 健康・スポーツ科学科	12 (10)	5 (3)	3 (3)	0 (0)	20 (16)	2 (2)	103 (103)
		生活環境学部 生活環境学科	8 (8)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	21 (21)	4 (4)	129 (113)
		食物栄養科学部 食物栄養学科	10 (10)	11 (11)	1 (1)	1 (1)	23 (23)	6 (6)	90 (90)
		食創造科学科	8 (8)	3 (3)	1 (1)	2 (2)	14 (14)	7 (7)	74 (74)
織	設	建築学部 建築学科	7 (7)	6 (6)	1 (1)	1 (1)	15 (15)	2 (2)	109 (109)
		景観建築学科	7 (7)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	105 (105)
		音楽学部 演奏学科	7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	90 (90)
		応用音楽学科	3 (3)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	83 (83)
の	設	薬学部 薬学科	21 (21)	6 (6)	9 (9)	5 (5)	41 (41)	17 (17)	104 (104)
		健康生命薬科学科	7 (7)	2 (2)	1 (1)	2 (2)	12 (12)	4 (4)	83 (83)
		看護学部 看護学科	13 (13)	3 (3)	5 (5)	19 (19)	40 (40)	0 (0)	80 (80)
		経営学部 経営学科	9 (9)	2 (2)	3 (3)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	83 (83)
概	分	共通教育部	3 (3)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	68 (68)
		教育研究所	4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	2 (2)	0 (0)
		発達臨床心理学研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)
		言語文化研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
要	分	生活美学研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)
		情報教育研究センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)
		バイオサイエンス研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		国際健康開発研究所	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
要	分	トルコ文化研究センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)
		健康運動科学研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)
		栄養科学研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)
		学校教育センター	6 (6)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	1 (1)
要	分	附属総合ミュージアム	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		PCRセンター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
		女性活躍総合研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)
		計	161 (159)	80 (78)	29 (29)	39 (39)	309 (305)	52 (52)	— (—)
合計	190 (180)	97 (93)	38 (35)	43 (40)	368 (348)	52 (52)	— (—)		

※令和4年5月
名称変更届出予定

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		160 (160)	88 (88)	248 (248)					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)	0 (0)	2 (2)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	2 (2)	2 (2)					
	計		162 (162)	90 (90)	252 (252)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	68,039.60 m ²	78,529.75 m ²	0 m ²	146,569.35 m ²	武庫川女子大学短期大学部（必要面積10,400 m ² ）と共用（収容定員：1,040人※令和5年度収容定員変更後の定員） 借用面積：1,129.19 m ² 借用期間：2018年12月1日から2048年11月30日まで				
	運 動 場 用 地	0 m ²	90,463.09 m ²	0 m ²	90,463.09 m ²					
	小 計	68,039.60 m ²	168,992.84 m ²	0 m ²	237,032.44 m ²					
	そ の 他	400.00 m ²	10,640.27 m ²	0 m ²	11,040.27 m ²					
	合 計	68,439.60 m ²	179,633.11 m ²	0 m ²	248,072.71 m ²					
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計						
	71,942.11 m ² (71,942.11 m ²)	119,664.40 m ² (119,664.40 m ²)	0 m ² (0 m ²)	191,606.51 m ² (191,606.51 m ²)	武庫川女子大学短期大学部（必要面積7,450 m ² ）と共用（収容定員：1,040人※令和5年度収容定員変更後の定員）					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	158 室	205 室	461 室	8 室 (補助職員 1人)	4 室 (補助職員 2人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科		10 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体		
	健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科	700,104 [163,545] (700,104 [163,545])	9,552 [1,956] (9,552 [1,956])	8,832 [7,281] (8,832 [7,281])	11,241 (11,241)	10,590 (10,590)	37 (37)			
	計	700,104 [163,545] (700,104 [163,545])	9,552 [1,956] (9,552 [1,956])	8,832 [7,281] (8,832 [7,281])	11,241 (11,241)	10,590 (10,590)	37 (37)			
図書館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体		
	12,450.21 m ²		1,740		868,000					
体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
	17,308.50 m ²		武庫女SC7ヶ所1（ウエビ館）、総合スタジアムスタンド、各グラウンド内のトイレ、更衣室							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	学部全体 図書費には、電子ジャーナル、データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。
		教員1人当り研究費等		292千円	292千円	292千円	292千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		1,300千円	1,300千円	1,300千円	1,300千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	3,460千円	3,460千円	3,460千円	3,460千円	3,460千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	13,000千円	13,000千円	13,000千円	13,000千円	13,000千円	— 千円	— 千円		
	学生1人当り納付金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次			
	1,251千円	1,331千円	1,305千円	1,305千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	武庫川女子大学大学院								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次	人		倍			
	文学研究科									
	日本語日本文学専攻（修士課程）	2	12	—	24	修士（文学）	0.12	昭和46年度	兵庫県西宮市池開町6番46号	
	日本語日本文学専攻（博士後期課程）	3	3	—	9	博士（文学）	0.22	平成3年度	同上	
	英語英米文学専攻（修士課程）	2	12	—	24	修士（文学）	0.12	昭和46年度	同上	
	英語英米文学専攻（博士後期課程）	3	3	—	9	博士（文学）	0.33	平成12年度	同上	
教育学専攻（修士課程）	2	6	—	12	修士（教育学）	0.16	平成17年度	同上		
臨床心理学専攻（修士課程）	2	20	—	40	修士（臨床心理学）	0.80	平成11年度	同上		

教育課程等の概要																	
(健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
人文科学科目	神話・伝説の世界から	1前・後		2		○									兼1		
	平安朝文学の世界	1前		2		○									兼1		
	鎌倉時代の文学への誘い	1前・後		2		○									兼1		
	平安時代の文学への誘い	1前・後		2		○									兼1		
	日常生活からの哲学入門	1前・後		2		○									兼1		
	現代フランスの音楽事情	1前・後		2		○									兼1		
	ミュージカル歌唱法	1前・後		1			○								兼1		
	音楽の科学	1前・後		2		○									兼1		
	フランスの音楽と芸術文化	1前・後		2		○									兼1		
	先端芸術表現	1前・後		1				○							兼1		
	自己発見アート	1前・後		1				○							兼1		
	未来造形	1前・後		1				○							兼1		
	歌舞伎鑑賞入門	1後		2		○									兼1		
	日本の文化Ⅰ	1前		2		○									兼1		
	日本の文化Ⅱ	1後		2		○									兼1		
	遊びの人類学	1後		2		○									兼1		
	SNSから日本語を見る	1前・後		2		○						1			兼1		
小計(17科目)	—		0	30	0	—					1	0	0	0	0	兼11	—
社会科学科目	現代世界の教育	1前・後		2		○									兼1		
	差別と暴力のない世界をめざして	1後		2		○									兼1		
	メディアに映る女性	1前・後		2		○									兼1		
	生涯福祉論	1前・後		2		○									兼1		
	社会福祉とボランティア	1前・後		2		○									兼1		
	福祉レクリエーションの実践	1後		2		○									兼1		
	子育てと家族関係	1前		2		○									兼1		
	子育てと母性の気づき	1前		2		○									兼1		
	環境心理学入門	1前・後		2		○									兼1		
	現代社会と憲法	1前・後		2		○									兼1		
	教養としての法律	1前		2		○									兼1		
	暮らしと法律	1後		2		○									兼1		
	女性と子どものヘルスケア	1後		2		○									兼2	オムニバス	
	消費者生活論	1前		2		○									兼1		
	英語で学ぶやさしい経済学	1前		2		○									兼1		
	英語で学ぶお金の知識	1後		2		○									兼1		
	我々の暮らしと日本の産業	1前・後		2		○									兼1		
メディア技術と文字デザイン	1前		2		○									兼1			
まちづくりと地方自治の役割	1前・後		2		○									兼1			
小計(19科目)	—		0	38	0	—					0	0	0	0	0	兼16	—
自然科学科目	文化を創造する数学	1後		2		○									兼1		
	生命科学入門	1前		2		○									兼1		
	生活の中の物理学	1後		2		○									兼1		
	最先端物理学が描く宇宙	1後		2		○									兼1		
	微生物がつくる発酵食品の不思議	1前		2		○									兼1		
	薬の歴史と未来	1後		2		○									兼2	オムニバス	
	薬とからだ	1後		2		○									兼2	オムニバス	
	医薬品概論	1前		2		○									兼2	オムニバス	
小計(8科目)	—		0	16	0	—					0	0	0	0	0	兼10	—
国際理解科目	韓国文化の理解	1前・後		2		○									兼1		
	中国文化論	1前・後		2		○									兼1		
	国際協力入門	1前		2		○									兼1		
	世界の中の日本人	1前		2		○									兼1		
	小計(4科目)	—		0	8	0	—					0	0	0	0	兼4	—
現代トピック科目	モラルジレンマから考える私	1前		2		○									兼1		
	女性のためのマーケティング	1前・後		2		○									兼1		
	Current Affairs in Japan I	1前		2		○									兼1		
	Current Affairs in Japan II	1後		2		○									兼1		
	小計(4科目)	—		0	8	0	—					0	0	0	0	兼4	—
ジェンダー科目群	セクシュアリティ入門	1前・後		2		○									兼1		
	女性の身体とセクシュアリティ	1前・後		2		○									兼1		
	メディアに見るジェンダー	1前・後		2		○									兼1		
	女性が輝く社会づくり	1前・後		2		○									兼1		
	小計(4科目)	—		0	8	0	—					0	0	0	0	兼3	—
キャリア科目群	女性のためのライフプランニング	1前・後		2		○									兼1		
	自己アピールトレーニング	1前・後		2			○								兼1		
	キャリアビジョンと人物評価	1前・後		2			○								兼1		
	小計(3科目)	—		0	6	0	—					0	0	0	0	兼3	—
	言語・情報科目群	英語コミュニケーションⅠ	1前・後		2				○							兼1	
英語コミュニケーションⅡ		1前・後		2				○							兼1		
英語コミュニケーションⅢ		1前・後		1				○							兼1		
英語コミュニケーションⅣ		1前・後		1				○							兼1		
英語リーディングⅠ		1前・後		1				○							兼2		
英語リーディングⅡ		1前・後		1				○							兼1		
英語ライティングⅠ		1前・後		1				○							兼2		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
言語・情報科目群	英語ライティングⅡ	1前・後		1			○									兼1	
	TOEIC演習Ⅰ	1前・後		1			○									兼1	
	TOEIC演習Ⅱ	1前・後		1			○									兼1	
	TOEIC演習Ⅲ	1前・後		1			○									兼1	
	TOEFL演習	1前・後		1			○									兼1	
	TOEIC(初級)	1後		1			○									兼1	
	Basics for PresentationⅠ	2前		1			○									兼1	
	Basics for PresentationⅡ	2後		1			○									兼1	
	Grammar for Communication	2前		1			○									兼1	
	Reading & Writing	2後		1			○									兼1	
	Speaking & ListeningⅠ	2前		1			○									兼1	
	Speaking & ListeningⅡ	2後		1			○									兼1	
	Speaking & ListeningⅢ	3後		1			○									兼1	
	Presentation	3後		1			○									兼1	
	WritingⅠ	3前		1			○									兼1	
	WritingⅡ	3後		1			○									兼1	
	English for Careers	3前		1			○									兼1	
	Reading & Discussion	3後		1			○									兼1	
	Global CommunicationⅠ	4前		1			○									兼1	
	Global CommunicationⅡ	4後		1			○									兼1	
	Current EventsⅠ	4前		1			○									兼1	
	Current EventsⅡ	4後		1			○									兼1	
	Reading & Critical Thinking	4前		1			○									兼1	
	Career Workshop	4後		1			○									兼1	
	ドイツ語Ⅰ	1前・後		2			○									兼2	
	ドイツ語Ⅱ	1後		2			○									兼1	
	フランス語Ⅰ	1前・後		2			○									兼2	
	フランス語Ⅱ	1後		2			○									兼1	
	フランス語ⅠA	1前		1			○									兼1	
	フランス語ⅠB	1後		1			○									兼1	
	中国語Ⅰ	1前・後		2			○									兼3	
	中国語Ⅱ	1前・後		2			○									兼3	
	イタリア語ⅠA	1前・後		1			○									兼1	
	イタリア語ⅠB	1前・後		1			○									兼1	
	スペイン語Ⅰ	1前・後		2			○									兼1	
	ハンブルⅠ	1前・後		2			○									兼2	
	ハンブルⅡ	1後		2			○									兼1	
	特別英語演習Ⅰ	1前・後		4			○									兼1	
	特別英語演習Ⅱ	1前・後		4			○									兼1	
	特別中国語演習Ⅰ	1前		2			○									兼1	
	特別中国語演習Ⅱ	1前		2			○									兼1	
	特別ハンブル演習Ⅰ	1前		4			○									兼1	
	特別ハンブル演習Ⅱ	1前		4			○									兼1	
	(小計50科目)	—		0	75	0		—								兼19	—
	共通教育科目	情報リテラシー科目	1前・後		2			○									兼1
		Accessデータベース基礎	1前・後		2			○									兼1
		情報社会を生きる技術	1前・後		2			○									兼1
		Webデザイン基礎	1前・後		2			○									兼1
		Webデザイン応用	1前・後		2			○									兼1
		Scratchによるプログラミング	1前・後		2			○									兼1
		グラフィックデザイン基礎	1後		2			○									兼1
		フォトタッチ基礎	1前		2			○									兼1
		データサイエンスの基礎とExcel	1前・後		2			○									兼1
		データサイエンスの応用とExcel	1後		2			○									兼1
	データリテラシー・AIの基礎	1後		2			○									兼1	
(小計10科目)	—		2	18	0		—								兼3	—	
健康・スポーツ科目群	健康・スポーツ科目	1前・後		2			○									兼1	
	スポーツと栄養	1前・後		2			○									兼1	
	生涯スポーツ論	1後		2			○									兼1	
	スポーツと現代社会	1前・後		2			○									兼1	
	(小計3科目)	—		0	6	0		—								兼2	—
	スポーツ実技科目	スポーツ実技(テニス)	1前・後		1					○							兼1
		スポーツ実技(ゴルフ)	1前・後		1					○							兼1
		スポーツ実技(バレーボール)	1前・後		1					○							兼1
		スポーツ実技(バドミントン)	1前・後		1					○							兼1
		スポーツ実技(ジャズダンス)	1前・後		1					○			1				兼1
		スポーツ実技(エアロビクス)	1前・後		1					○							兼1
		スポーツ実技(スリムエアロ)	1前・後		1					○							兼1
		スポーツ実技(ダンスエアロ)	1前・後		1					○							兼1
		スポーツ実技(水泳)	1後		1					○							兼1
		スポーツ実技(軽スポーツ)	1前・後		1					○							兼1
		スポーツ実技(ヨガ)	1前・後		1					○							兼1
		スポーツ実技(サッカー)	1前・後		1					○							兼1
		からだ気づきと姿勢法	1後		1					○							兼1
		スポーツ実技(スタイルジャズ)	1前・後		1					○							兼1
(小計14科目)		—		0	14	0		—								兼12	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎教育科目	初期演習Ⅰ	1前	1				○		1						
	初期演習Ⅱ (スポーツマネジメント)	1後	1				○		1						
	健康・スポーツ科学論	1前	2			○								兼1	
	スポーツの文化・歴史	1前	2			○			1					兼2	
	情報リテラシー	1前	2				○							兼2	
	基礎英語Ⅰ	1前	1				○							兼2	
	基礎英語Ⅱ	1後	1				○							兼2	
	Oral CommunicationⅠ	2前	1				○							兼1	
	Oral CommunicationⅡ	2後	1				○							兼1	
小計 (9科目)	—	—	12	0	0		—		2	0	1	0	0	兼6	—
学科専門教育科目	スポーツビジネス最前線	1後	2			○			1						
	スポーツ産業と政策	1前		2		○					1				
	スポーツビジネス論	1前	2			○			1						
	スポーツマネジメント論	1後	2			○			1						
	スポーツマーケティング論	2前	2			○				1					
	スポーツガバナンス論	2前		2		○					1				
	スポーツ情報・メディア論	3前	2			○									兼1
	スポーツイノベーション論	4後	2			○			1						
	ホスピタリティマネジメント論	1後	2			○									兼1
	地域スポーツマネジメント論	2前	2			○			1						
	スポーツイベントの企画・運営	2後	2			○			1						
	スポーツ施設マネジメント論	3前	2			○			1						
	トップスポーツ経営論	3後	2			○					1				
	スポーツ・ヘルストゥリズム論	3後	2			○			1						
	ヘルスケアマネジメント論	4前	2			○			1						
	アカウンティングⅠ	1前	2			○			1						
	アカウンティングⅡ	1後	2			○			1						
	実務技能対策論	2後	2			○			1						
	経営組織論	2後	2			○				1					
	ファイナンシャルマネジメント	2前	2			○			1						
	消費者行動論	3前	2			○				1					
	販売管理論	3前	2			○			1						
	マーチャンダイジング	3後	2			○				1					
	ヒューマンリソースマネジメント	4前	2			○					1				
	スポーツマネジメント学内演習	2後	2				○		3	1	2				
	スポーツマネジメント学外実習	3後	1					○	3	1	2				集中・共同
	専門英語A	3前	1				○		1						
	専門英語B	3後	1				○				1				
	海外のスポーツビジネス研究	1前	2					○	3	1	2				集中・共同
小計 (29科目)	—	—	10	45	0		—		4	1	2	0	0	兼2	—
専門教育科目	スポーツ心理学	1前		2		○									兼1
	スポーツ栄養学	2前		2		○									兼1
	運動生理学	1前		2		○									兼1
	スポーツ医学	2前		2		○									兼2
	スポーツ運動学	1後		2		○									兼1
	体育原理	1後		2		○			1						
	運動器の解剖と機能	1前		2		○									兼1
	スポーツトレーニングの科学	2後		2		○									兼1
	救急処置演習	1前	1					○							兼1
	バイオメカニクス	2前		2		○									兼1
	学校保健	2前		2		○									兼1
	公衆衛生学	3後		2		○									兼1
	発育発達・老化論	3前		2		○									兼1
	スポーツ指導論	2後		2		○				1					
	スポーツ社会学	2後		2		○				1					
	スポーツ行政・法規	2後		2		○									兼1
	スポーツ経営管理学	2前		2		○				1					
	体力の測定評価演習	2前		2			○								兼1
	コーチング論	3前		2		○									兼1
	健康・スポーツカウンセリング	3前		2		○									兼1
	生活習慣病論	3前		2		○									兼1
	運動処方	2後		2		○				1					
	フィットネス指導法	3後		2				○							兼1
	介護法・介護予防演習	3後		2				○							兼1
	運動療法演習	4前		2				○							兼2
	健康行動科学・演習	4前		2				○							兼1
	健康・スポーツ実践実習	4前		1					○						兼1
	レクリエーション論	2後		2		○				1					
	レクリエーション指導法演習	3前		1				○		1					
	レクリエーション指導法実習	3後		1					○	1					
	障がい者スポーツ論Ⅰ	3後		2			○								兼1
	障がい者スポーツ論Ⅱ	4前		2			○								兼1
障がい者スポーツ指導法	4後		2				○							兼1	
スイミング	1前		1											兼1	
トラックアンドフィールド	1後		1											兼1	
体操	1前		1											兼1	
器械運動	1後		1							1					
バレーボール	1後		1											兼1	
バスケットボール	1後		1											兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	ハンドボール	2前		1				○								兼1	
	柔道	3後		1				○								兼1	
	剣道	2後		1				○								兼1	
	ダンスⅠ	1前	1					○			1						
	ダンスⅡ	1後		1				○								兼1	
	ダンスⅢ	2前		1				○								兼1	
	卓球	4前		1				○								兼1	
	バドミントン	4後		1				○								兼1	
	学部共通専門教育科目	保健体育科指導法Ⅰ	1後		2		○										兼1
		保健体育科指導法Ⅱ	2前		2			○									兼1
		保健体育科指導法Ⅲ	2後		2			○			1					兼1	
		保健体育科指導法Ⅳ	3前		2			○								兼1	
		保健体育科指導法(体づくり運動・器械運動)	2後		1			○								兼1	
		保健体育科指導法(陸上競技・水泳)	2後		1			○								兼2	
		保健体育科指導法(球技)	2後		1			○								兼1	
		保健体育科指導法(武道・ダンス)	3後		1			○				1				兼1	
		エアロビックダンス	1後		1				○							兼1	
		アクアエクササイズ	3前		1				○							兼1	
		マリンスポーツ実習	2前		1				○							兼1	
		キャンブ実習	2前		1				○							兼1	
	スノースポーツ実習	2後		1				○			1				兼1		
	健康・スポーツ科学の統計学演習	3後		1				○			1				兼1		
	卒業研究Ⅰ	3通	2					○			6	2	2				
	卒業研究Ⅱ	4通	4				○				6	2	2				
	小計(63科目)	—	8	92	0		—				6	2	2	0	0	兼24	
合計(237科目)			—	32	364	0	—				6	2	2	0	0	兼110	
学位又は称号		学士(スポーツマネジメント学)		学位又は学科の分野				体育関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
4年以上在学し、共通教育科目8単位以上、基礎教育科目12単位(必修科目12単位)、専門教育科目から62単位以上(必修科目18単位)を修得し、合計124単位以上修得すること。なお、TOEICのスコアに応じて単位(2~8単位)を基礎教育科目として認定する。 (履修科目の登録の上限:50単位未満(年間))							1学年の学期区分			2学期							
							1学期の授業期間			15週							
							1時限の授業時間			90分							

教育課程等の概要														
(健康・スポーツ科学部 健康・スポーツ科学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
人文科学科目	神話・伝説の世界から	1前・後		2		○								兼1
	平安朝文学の世界	1前		2		○								兼1
	鎌倉時代の文学への誘い	1前・後		2		○								兼1
	芭蕉をめぐる人々	1前		2		○								兼1
	雨月物語に込められた情念	1前		2		○								兼1
	芭蕉と旅	1後		2		○								兼1
	「心中天網島」の女房「おさん」	1後		2		○								兼1
	日本近代文学の魅力 I	1前・後		2		○								兼1
	日本近代文学の魅力 II	1前・後		2		○								兼1
	平安時代の文学への誘い	1前・後		2		○								兼1
	日常生活からの哲学入門	1前・後		2		○								兼1
	現代フランスの音楽事情	1前・後		2		○								兼1
	ミュージカル歌唱法	1前・後		1			○							兼1
	合唱表現 I	1前		1				○						兼1
	合唱表現 II	1後		1					○					兼1
	音楽の科学	1前・後		2			○							兼1
	フランスの音楽と芸術文化	1前・後		2			○							兼1
	先端芸術表現	1前・後		1				○						兼1
	自己発見アート	1前・後		1				○						兼1
	未来造形	1前・後		1				○						兼1
	書の世界	1前・後		2			○							兼1
	日本舞踊に学ぶ着付けと作法	1前・後		1				○						兼1
	歌舞伎鑑賞入門	1後		2										兼1
	日本の文化 I	1前		2			○							兼1
	日本の文化 II	1後		2			○							兼1
	遊びの人類学	1後		2			○			1				
	SNSから日本語を見る	1前・後		2			○							兼1
	心理学入門	1後		2			○							兼1
	人間関係の心理学	1前・後		2			○							兼1
	心理学実践演習	1前		2				○						兼1
	生と死の心理学	1後		2			○							兼1
	建築文化論	1後		2			○							兼1
	小計(32科目)		—	0	57	0		—		0	1	0	0	0
社会科学科目	現代世界の教育	1前・後		2		○								兼1
	情報化と教育	1前・後		2		○								兼1
	差別と暴力のない世界をめざして	1後		2		○								兼1
	メディアに映る女性	1前・後		2		○								兼1
	カウンセリングの実際	1前・後		2		○								兼1
	カウンセリングスキル	1前・後		2		○								兼1
	実践カウンセリング	1前・後		2		○								兼1
	生きがい探しのボランティア論	1前・後		2		○								兼1
	生涯福祉論	1前・後		2		○								兼1
	社会福祉とボランティア	1前・後		2		○								兼1
	福祉レクリエーションの実際	1後		2		○								兼1
	子育てと家族関係	1前		2		○								兼1
	「ふつ」を考える社会学	1前・後		2		○								兼1
	子育てと母性の気つき	1前		2		○								兼1
	環境心理学入門	1前・後		2		○								兼1
	現代社会と憲法	1前・後		2		○								兼1
	教養としての法律	1前		2		○								兼1
	暮らしと法律	1後		2		○								兼1
	女性と子どものヘルスケア	1後		2		○								兼2
	外国から見た日本社会のしくみ	1後		2		○								オムニバス
	経営学入門	1前・後		2		○								兼1
	消費者生活論	1前		2		○								兼1
	日本経済のしくみ	1前		2		○								兼1
	英語で学ぶやさしい経済学	1前		2		○								兼1
	英語で学ぶお金の知識	1後		2		○								兼1
	我々の暮らしと日本の産業	1前・後		2		○								兼1
メディア技術と文字デザイン	1前		2		○								兼1	
甲子園と阪神電鉄	1前		2		○								兼1	
建築と人間行動	1前		2		○								兼1	
まちづくりと地方自治の役割	1前・後		2		○								兼1	
小計(30科目)		—	0	60	0		—		0	0	0	0	0	兼24
自然科学科目	エコロジーと私たちの暮らし	1後		2		○								兼1
	数や図形の科学	1後		2		○								兼1
	文化を創造する数学	1後		2		○								兼1
	生命科学入門	1前		2		○								兼1
	身近な動植物の起源と歴史	1前・後		2		○								兼1
	生命の恒常性と情報伝達	1前・後		2		○								兼1
	環境問題の歴史	1前		2		○								兼1
	科学技術の歩み	1後		2		○								兼1
	生命科学の基礎	1前		2		○								兼1
	科学への入門	1前・後		2		○								兼1
	生活の中の物理学	1後		2		○								兼1
最先端物理学が描く宇宙	1後		2		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
基礎 教養 科目 群	自然 科学 科目	微生物がつくる発酵食品の不思議	1前	2		○									兼1	オムニバス	
		健康を支える仕組み	1前・後	2		○									兼2		
		生活習慣と脳と心と身体の科学	1前・後	2		○									兼1		
		薬の歴史と未来	1後	2		○									兼2		
		薬とからだ	1後	2		○									兼2		
		健康生活とライフステージ	1前	2		○									兼3		
		医薬品概論	1前	2		○									兼2		
	小計(19科目)	—	0	38	0	—			0	0	0	0	0	0	兼22	—	
	国際 理解 科目	韓流ブーム	1前・後	2		○										兼1	
		韓国文化の理解	1前・後	2		○									兼1		
		World English I	1前	2		○									兼1		
		World English II	1後	2		○									兼1		
		中国文化論	1前・後	2		○									兼1		
		国際協力入門	1前	2		○									兼1		
		世界の中の日本人	1前	2		○									兼1		
小計(7科目)	—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	0	兼6	—		
現代 トピ ック 科目	モラルジレンマから考える私	1前	2		○										兼1		
	テレビ映像と現代社会	1前・後	2		○										兼1		
	女性のためのマーケティング	1前・後	2		○										兼1		
	Current Affairs in Japan I	1前	2		○										兼1		
	Current Affairs in Japan II	1後	2		○										兼1		
	命を守る生体の機構と科学	1前・後	2		○										兼1		
	小計(6科目)	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	0	兼6		—
ジェ ンダ ー 科 目 群	セクシュアリティ入門	1前・後	2		○										兼1		
	女性と教育	1前・後	2		○										兼1		
	ジェンダーとアイデンティティ	1前・後	2		○										兼1		
	女性の身体とセクシュアリティ	1前・後	2		○										兼1		
	メディアに見るジェンダー	1前・後	2		○										兼1		
	アジアのなかのジェンダー	1前・後	2		○										兼1		
	ジェンダーと社会	1後	2		○										兼1		
	女性が輝く社会づくり	1前・後	2		○										兼1		
小計(8科目)	—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	0	兼4	—		
キャ リア ア デ ザ イ ン 科 目 群	女性のためのライフプランニング	1前・後	2		○										兼1		
	キャリアと学び	1前	2		○										兼1		
	卒業生が語る仕事と人生	1後	2		○										兼1		
	ヒューマンスキル入門	1前	2		○										兼1		
	パーソナルコミュニケーション	1後	2		○										兼1		
	自己アピールトレーニング	1前・後	2		○		○								兼1		
	仕事を考える	1前・後	2		○										兼1		
	チームで学ぶ課題解決	1前・後	2		○										兼1		
	キャリアビジョンと人物評価	1前・後	2		○			○							兼1		
	プレゼンテーションの基礎	1前・後	2		○										兼1		
	文章表現の基礎	1前・後	2		○										兼1		
	企業での女性活躍と働き方改革	1前・後	2		○										兼1		
	企業で役に立つ情報収集と企画力	1前	2		○										兼1		
	グローバル化と企業の海外展開	1後	2		○										兼1		
	公務員の魅力	1前	2		○										兼1		
小計(15科目)	—	0	30	0	—			0	0	0	0	0	0	兼8	—		
共通 教育 科目	言語・ 情報 科目 群	英語コミュニケーションⅠ	1前・後	2		○										兼1	
		英語コミュニケーションⅡ	1前・後	2		○										兼1	
		英語コミュニケーションⅢ	1前・後	1		○										兼1	
		英語コミュニケーションⅣ	1前・後	1		○										兼1	
		英語リーディングⅠ	1前・後	1		○										兼2	
		英語リーディングⅡ	1前・後	1		○										兼1	
		英語ライティングⅠ	1前・後	1		○										兼2	
		英語ライティングⅡ	1前・後	1		○										兼1	
		TOEIC演習Ⅰ	1前・後	1		○										兼1	
		TOEIC演習Ⅱ	1前・後	1		○										兼1	
		TOEIC演習Ⅲ	1前・後	1		○										兼1	
		TOEFL演習	1後	1		○										兼1	
		TOEIC(初級)	1後	1		○										兼1	
		Basics for Presentation Ⅰ	2前	1		○										兼1	
		Basics for Presentation Ⅱ	2後	1		○										兼1	
		Grammar for Communication	2前	1		○										兼1	
		Reading & Writing	2後	1		○										兼1	
		Speaking & Listening Ⅰ	2前	1		○										兼1	
		Speaking & Listening Ⅱ	2後	1		○										兼1	
		Speaking & Listening Ⅲ	3後	1		○										兼1	
		Presentation	3後	1		○										兼1	
		Writing Ⅰ	3前	1		○										兼1	
		Writing Ⅱ	3後	1		○										兼1	
		English for Careers	3前	1		○										兼1	
		Reading & Discussion	3後	1		○										兼1	
		Global Communication Ⅰ	4前	1		○										兼1	
		Global Communication Ⅱ	4後	1		○										兼1	
		Current Events Ⅰ	4前	1		○										兼1	
		Current Events Ⅱ	4後	1		○										兼1	
		Reading & Critical Thinking	4前	1		○										兼1	
		Career Workshop	4後	1		○										兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通教育科目	言語・情報科目群	ドイツ語Ⅰ		2			○									兼2	
		ドイツ語Ⅱ		2			○									兼1	
		フランス語Ⅰ		2				○								兼2	
		フランス語Ⅱ		2				○								兼1	
		フランス語ⅠA		1				○								兼1	
		フランス語ⅠB		1				○								兼1	
		中国語Ⅰ		2				○								兼3	
		中国語Ⅱ		2				○								兼3	
		イタリア語ⅠA		1				○								兼1	
		イタリア語ⅠB		1				○								兼1	
		スペイン語Ⅰ		2				○								兼1	
		ハンブルⅠ		2				○								兼2	
		ハンブルⅡ		2				○								兼1	
		手話		1				○								兼2	
		特別英語演習Ⅰ		4				○								兼1	共同
		特別英語演習Ⅱ		4				○								兼1	集中
		特別中国語演習Ⅰ		2				○								兼1	集中
	特別中国語演習Ⅱ		2				○								兼1	集中	
	特別ハンブル演習Ⅰ		4				○								兼1	集中	
	特別ハンブル演習Ⅱ		4				○								兼1	集中	
	(小計51科目)		—	0	76	0		—		0	0	0	0	0	0	兼21	—
	情報リテラシー科目群	Accessデータベース基礎			2			○								兼1	
		情報社会を生きる技術			2			○								兼1	
		Webデザイン基礎			2			○								兼1	
		Webデザイン応用			2			○								兼1	
		Scratchによるプログラミング			2			○								兼1	
		グラフィックデザイン基礎			2			○								兼1	
フォトタッチ基礎				2			○								兼1		
データサイエンスの基礎とExcel				2			○								兼1		
データサイエンスの応用とExcel				2			○								兼1		
データリテラシー・AIの基礎			2												兼1		
データリテラシー・AI入門			2											兼1			
(小計11科目)		—	2	20	0		—		0	0	0	0	0	0	兼4	—	
健康・スポーツ科目群	健康・スポーツ科学論			2			○								兼1		
	知っておきたい応急処置			2			○								兼1		
	女性の健康と運動			2			○								兼1		
	生涯スポーツ論			2			○								兼1		
	スポーツと現代社会			2			○								兼1		
	(小計5科目)		—	0	10	0		—		1	0	0	0	0	兼4	—	
	スポーツ実技科目群	スポーツ実技(テニス)			1				○							兼1	
		スポーツ実技(ゴルフ)			1				○							兼1	
		スポーツ実技(バレーボール)			1				○							兼1	
		スポーツ実技(バドミントン)			1				○							兼1	
		スポーツ実技(ジャズダンス)			1				○							兼1	
		スポーツ実技(エアロビクス)			1				○							兼1	
		スポーツ実技(スリムエアロ)			1				○							兼1	
		スポーツ実技(ダンスエアロ)			1				○							兼1	
		スポーツ実技(水泳)			1				○							兼1	
		スポーツ実技(軽スポーツ)			1				○							兼1	
スポーツ実技(遊びと障害)				1				○							兼1		
スポーツ実技(ヨガ)				1				○							兼1		
スポーツ実技(サッカー)				1				○							兼1		
からだど気づきと姿勢法				1				○							兼1		
スポーツ実技(バンジーエクササイズ)			1				○							兼1			
スポーツ実技(エアリアルワーク)			1				○							兼1			
スポーツ実技(スタイルジャズ)			1				○							兼1			
(小計17科目)		—	0	17	0		—		0	0	0	0	0	兼14	—		
初年次ゼミ	学び発見ゼミ			2			○								兼39	—	
(小計1科目)		—	0	2	0		—		1					兼39	—		
基礎教育科目	初期演習Ⅰ			1				○		1	1				兼2		
	初期演習Ⅱ(健康・スポーツ)			1				○		1	1				兼2		
	健康・スポーツ科学論			2				○		2					オムニバス		
	スポーツの文化・歴史			2				○		1					兼4		
	情報リテラシー			2				○							兼3		
	基礎英語Ⅰ			1				○							兼3		
	基礎英語Ⅱ			1				○							兼1		
	Oral CommunicationⅠ			1				○							兼1		
	Oral CommunicationⅡ			1				○							兼1		
	健康科学Ⅰ			2				○							兼3	オムニバス	
(小計10科目)		—	12	2	0		—		3	2	0	0	0	兼13	—		
専門教育科目	学科共通専門教育科目	スポーツ心理学			2			○							兼1		
	スポーツ栄養学			2				○									
	運動生理学			2				○		1							
	スポーツ医学			2				○		2							
	スポーツ運動学			2				○									
	体育原理			2				○		1							
	運動器の解剖と機能Ⅰ			2				○		1							
運動器の解剖と機能Ⅱ			2				○		2								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門教育科目	スポーツ傷害の基礎知識 I	1後		2		○			2							兼1		
	スポーツトレーニングの科学 I	2後		2		○										兼1		
	アスレティックトレーニング論	1前		2		○				1								
	コンディショニング論	1後		2		○											兼1	
	救急処置演習	1後	1				○		2									
	バイオメカニクス	2前		2		○			1								兼1	
	学校保健	2前		2		○											兼1	
	公衆衛生学	3後		2		○											兼1	
	発育発達・老化論	3前		2		○											兼1	
	スポーツ指導論	2後		2		○			1									
	スポーツ社会学	2後		2		○				1								
	スポーツ行政・法規	2後		2		○				1							兼1	
	スポーツ経営管理学	2前		2		○				1								
	体力の測定評価演習	2前		2			○										兼1	
	スポーツ心理学実験	3前		1					○		1							
	運動生理学実験	3前		1					○	1								
	バイオメカニクス実験	3前		1					○	1								
	専門英語A	3前		1					○								兼1	
	専門英語B	3前		1					○								兼1	
	専門英語C	3前		1					○								兼1	
	専門英語D	3前		1					○		1							
	コーチング論	3前		2			○			1								
	健康・スポーツカウンセリング	3前		2			○			1								
	生活習慣病論	3前		2			○			1								
	運動処方	2後		2			○			1								
	フィットネス指導法	3後		2			○			1								
	介護法・介護予防演習	3後		2			○										兼1	
	運動療法演習	4前		2			○			1							兼1	
	健康行動科学・演習	4前		2			○			1								
	健康・スポーツ実践実習	4前		1					○	1							集中	
	レクリエーション論	2後		2			○			1								
	レクリエーション指導法演習	3前		1					○	1								
	レクリエーション指導法実習	3後		1					○	1								
	障がい者スポーツ論 I	3後		2			○										兼1	
	障がい者スポーツ論 II	4前		2			○										兼1	
	障がい者スポーツ指導法	4後		2			○										兼1	
	スポーツマネジメント論	1後		2			○			1								
	スポーツビジネス最前線	1後		2			○			1								
	スミミング	1前		1						1								
	トラックアンドフィールド	1後		1						1								
	体操	1前		1						1							兼1	
	器械運動	1後		1						1							兼1	
	バレーボール	1後		1						1							兼1	
	バスケットボール	1後		1						1								
	ハンドボール	2前		1						1							兼1	
	柔道	3後		1						1							兼1	
	剣道	2後		1						1							兼1	
	ダンス I	1前		1						1							兼1	
	ダンス II	1後	1								1							
	ダンス III	2前		1							1							
	卓球	4前		1						1							兼1	
	バドミントン	4後		1						1							兼1	
	保健体育科指導法 I	1後		2			○			1								
	保健体育科指導法 II	2前		2			○			1								
	保健体育科指導法 III	3後		2			○										兼1	
	保健体育科指導法 IV	2前		2			○			1								
	保健体育科指導法(水泳)	2後		1					○	1							兼1	
	保健体育科指導法(球技)	2後		1					○								兼1	
	保健体育科指導法(ダンス)	3後		1					○								兼1	
	保健体育科指導法(武道)	3後		1					○								兼1	
	保健体育科指導法(体づくり運動)	2後		1					○								兼1	
	保健体育科指導法(器械運動)	2後		1					○								兼1	
	保健体育科指導法(陸上競技)	2後		1					○	1							兼1	
	エアロビックダンス	1後		1													兼2	
	アクアエクササイズ	3前		1					○								兼1	
	海外の健康・スポーツの研究	1前		1						1	1							
	マリンスポーツ実習	1前		1						1							集中	
	キャンプ実習	2前		1						1							集中	
	スノースポーツ実習	2後		1							1						集中	
	健康・スポーツ科学の統計学演習	3後		1					○	1	1							
	2年次演習	2後		1					○	2	2							
	健康・スポーツ科学演習	3通		2					○	14	5	1					兼8	
	卒業研究	4通		4					○	12	4	1					兼7	
	小計(81科目)	—		9	115	0				14	5	1	0	0			兼25	—
	学共専門教育科目	教職入門	1前		2		○			1							兼1	
		教育原理	1後		2		○										兼1	
		人権教育の理論と方法	1前		2		○										兼1	
		教育史	2前		2		○										兼1	
		教育心理学	1後		2		○										兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	中学校・高等学校教職課程	発達心理学	2後	2		○										兼1	
		教育行政学	3後	2		○										兼1	
		教育課程総論	2前	2		○										兼1	
		教育方法の理論と実践	4前	2		○										兼1	
		道徳教育指導論	2後	2		○										兼1	
		生徒指導・進路指導	2後	2		○										兼1	
		教育相談の理論と方法	4前	2		○										兼1	
		教育実習事前指導(中高)	3後	1		○				1							
		教育実習事後指導(中高)	4通	1		○				1							
		教育実習Ⅰ(中高)	4前	2						1							
		教育実習Ⅱ(中高)	4前	2					○	1							
		特別支援学校参加実習	1後	1												兼2	
		教職実践演習(中高)	4後	2					○							兼1	
		特別支援教育論	3前	2			○									兼2	
	総合的な学習の時間と特別活動	3後	2			○									兼1		
	教育実習事前指導(中高)	3後	1			○											
	小計(21科目)	—	0	38	0					2	0	0	0	0	0	兼14	
	連携	健康科学Ⅱ	3後	0	2	0	○									兼6	オムニバス・共同(一部)
		小計(1科目)	—	0	2	0				0	0	0	0	0	0	兼6	—
	スポーツ教育コース	スポーツ傷害の基礎知識Ⅱ	2前		2		○			2							
		コンディショニング指導論	2後		2		○				1						
コンディショニング指導演習Ⅰ		2後		2			○				1						
コンディショニング指導演習Ⅱ		3前		2			○										
検査・測定評価実習Ⅰ		2後		2				○							兼1		
保健の授業研究		3前		2		○									兼1		
保健体育科教材演習Ⅰ		3後		1				○		1							
保健体育科教材演習Ⅱ		4前		1				○		1							
教科外体育論		4後		2		○				1							
小計(9科目)		—	0	15	0					4	1	1				兼2	—
スポーツ科学コース	パフォーマンス向上論	3前		2		○										兼1	
	パフォーマンス向上演習	3後		1		○										兼1	
	ジュニアスポーツ指導論	4前		2		○					1						
	ジュニアスポーツ指導演習	4後		1				○			1						
	健康管理とスポーツ医学	3前		2		○										兼1	
	AT実践実習	2通		2							1		1				
	スポーツトレーニングの科学Ⅱ	4前		2		○				1							
	検査・測定評価実習Ⅱ	3前		1							1		1				
	アスレティックトレーニングⅠ	2後		2				○								兼1	
	アスレティックトレーニングⅡ	3前		2				○									
アスレティックトレーニングⅢ	3後		2				○										
スポーツの心理と栄養	4前		2		○						1				兼1	オムニバス	
小計(12科目)	—	0	21	0					1	2	1	0	0		兼4	—	
スポーツマネジメントコース	簿記	2前		2		○											
	スポーツマーケティング論	2前		2		○											
	消費者行動	3前		2		○						1					
	スポーツイベントの企画運営	2後		2		○										兼1	
	販売管理論	3前		2		○				1							
	実務技能対策論	2後		2		○				1							
	ファシリティマネジメント	3前		2		○										兼1	
スポーツビジネス学内演習	2後		1				○		2	1							
スポーツビジネス学外実習	3後		1						2	1							
小計(9科目)	—	0	16	0					2	1					兼2	—	
合計(345科目)			—	23	661	0				14	5	1	0	0	兼189	—	
学位又は称号		学士(健康・スポーツ科学)			学位又は学科の分野			体育関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
4年以上在学し、共通教育科目14単位以上、基礎教育科目12単位、専門教育科目から62単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限:50単位未満(年間)) なお、共通教育科目は、『基礎教養科目群』、『ジェンダー科目群』、『学び発見ゼミ』から合計6単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)を含めて習得すること。また、共通教育科目、基礎教育科目及び専門教育科目に開講される外国語科目を合計8単位以上修得しなければならない。							1学年の学期区分		2 学 期								
							1学期の授業期間		15 週								
							1時限の授業時間		90 分								

授 業 科 目 の 概 要			
(健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎教養科目群 人文科学科目	神話・伝説の世界から	民衆の中から発生した文学の背景を見つめ、本質に触れながら作品を鑑賞し、多くの文学作品の根底に流れるものを読み取る力をつけることを目的とする。古代の人々は、文字を持たない時代から、生活の中に起こるいろいろな事象を、感動や信仰に結びつけて語り伝えてきた。それが神話や伝説として記録されたのである。古代の人々は一体どのようなものを神と感じ、伝えようとしたのだろうか。この授業では、古事記神話や伝説を読みながら現代の私達の生活の中にも、神話的なものや伝説が生きていることを知り、日本を理解する。	
	平安朝文学の世界	平安朝の文学を通して、当時の人々の生活・風俗や考え方に触れ、我が国の文学や文化についての理解を深めることを目標とする。 平安時代には、仮名文字の発達により、物語文学や日記文学・随筆など、さまざまなジャンルの散文学が開花した。この時代の人々は、何を考え、どのように生活していたのだろうか。恋愛は、家庭生活は、そして仕事は？——平安時代の文学作品を読み味わい、この時代を身近に感じることを通して、理解を深める。	
	鎌倉時代の文学への誘い	平家一門の盛衰の歴史を描いた軍記物語『平家物語』について学び、その文学的背景を複数の資料から読み解くことによって、日本の古典文学および日本文化への理解を深める。 『平家物語』を順次、取り上げて読み進めるが、そこに描かれる歴史的事件にのみ着目するのではなく、巻々から人々の歓喜と失意、執着と諦念、忠義と保身など、さまざまな生の諸相を迎ってゆく。同時代を描く歴史物語や女流日記、貴族の漢文日記などを参考資料として併読しながら、『平家物語』の叙述の独自性を考え、古典文学作品を読み味わう力を高めることをめざす。	
	平安時代の文学への誘い	平安時代に清少納言によって書かれた『枕草子』の「日記・回想章段」について学び、その文学的背景を複数の資料から読み解くことによって、日本の古典文学および日本文化への理解を深める。 『枕草子』の「日記・回想章段」を可能な限り年代順に取り上げ、清少納言の官仕え人生を迎ってゆく。その際、同時代を描く歴史物語『栄花物語』や『紫式部日記』などを参考資料として比べ読みをしつつ、『枕草子』が書いたもの、書かなかったものを抽出して、その執筆意図を考える。作品の文学的基盤を検討しながら、古典文学作品を読み味わう力を高めることをめざす。	
	日常生活からの哲学入門	西洋と日本の哲学者のさまざまな議論を紹介しながら、「見る」「触れる」「感じる」といった日常にありふれた経験を分析する。これらの経験について考えた哲学者たちの議論の仕方を学ぶことによって、哲学的な考え方・ものの見方を身につけることを目的とする。何気ない日常生活の中にひそむ哲学的な問題を取り上げ、関連する哲学者の議論を学ぶ。まずは、ふだん当たり前のように感じていることに対して疑問を投げかけるところから出発する。その上で、新しい眼差しのもとでこの現実を見つめ直していくような視点を、一つ一つ身につけていく。哲学の枠組みを通して現実を分析することで、日常生活の中にどのような問題が立ち現われてくるのか体験し、理解する。	
	現代フランスの音楽事情	フランスの音楽事情を通してフランスの一側面を学ぶと同時に、音楽と社会について考察できる力を培う。フランスの例から日本の音楽事情にも考えを巡らせることや、更には自らの専門領域に対する深い思考力を身につける。「芸術の都パリ」と言われるが、その表面的な煌びやかさだけでなくそれを支える背景、また社会における芸術の位置づけまで想像できるようにする。まず、フランスに関する基礎知識を学んだ上で、フランスと文化芸術ないしは音楽の関係について学習する。全授業回数のうち2/3程度は、公的な文化支援について学び、関連する事柄について視聴覚資料などを参照する。残りの1/3では、「芸術音楽」と「ポピュラー・ミュージック」というふたつの側面から、音楽作品の鑑賞を中心に行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	基礎教養科目群 人文科学科目	ミュージカル歌唱法	音楽によって感受性を豊かにし、表現することで積極性を養うことを目的とする。歌を通じて客観的に自分を理解し、それを表現し伝えることを体感する。 「サウンド・オブ・ミュージック」を教材に、歌唱の基本的なトレーニング、発声練習をし、作品の理解を深めると共に豊かに表現することの実現をめざす。	
		音楽の科学	音楽は今も昔も私たちの生活の一部であり、暮らしに彩りを添えてくれる。近年の研究において、音楽を聴く、歌う、演奏するといった活動を行っている時には、脳の様々な領域が働いていることがわかってきた。本講義では、音や音楽の科学的な側面と社会とのつながりに焦点を当て、音楽を享受する人間の本質の一端を明らかにすることを目的とする。各回の講義についてテーマを設定し、その内容を配信動画で説明する。また、各回のテーマに関する小課題に取り組み提出する。小課題の内容は適宜次回の講義でフィードバックを行い、他の学生の意見やコメントに触れることで視野を広げる。本講義では、高校までの音楽の授業では学習しない内容を多く含んでおり、音楽と脳科学の関係や音楽とともに生きる私たちの暮らしについて、多様な視点から考察していく。	
		フランスの音楽と芸術文化	芸術的創造の拠点となる都市としてパリは人を惹きつけ続けている。音楽を中心とする西洋の芸術文化を社会との関わりという視点を交えて体系的に学ぶことで、芸術文化について考察する力を培う。フランスの例から日本の芸術創造環境にも考えを巡らせ、更には自らの専門領域に対する洞察力を身につける。 先ずフランスに関する基礎知識を学びパリという都市について考える。そして、パリで脚光を浴びた作曲家や作品を追いながら、音楽を中心とする芸術文化と社会の関係について学習する。その際、歴史的には王室などの権力やキリスト教と音楽について見渡し、第五共和制以降は文化芸術政策として行われた具体的施策も紹介する。	
		先端芸術表現	膨大な情報そしてモノが溢れる現代社会において、芸術表現の手段となり得るメディアは多岐にわたる。先端芸術の「今」を理解し自ら表現することを通して、芸術表現の可能性に挑む。原始美術から現代美術に至るまで、人類が飽くことなく続けてきた表現の諸相を概観する。美術史の流れに照らして、現在の様々な表現へとつながる文脈を解説する。その上で、先端芸術表現の背景にある時代性をふまえたいくつかの技法・材料による表現活動を行う。	
		自己発見アート	アート表現を使ったセラピー的学習。ものを創造し、表現していく過程から、普段の生活では自覚しにくい潜在的な自己を発見する。自分自身をうまく表現する術、自発的にものを考える力、さらには、人とうまくコミュニケーションをとる手段などを身につける。様々な方法で自己表現の可能性を追求する。鉛筆を使ったドローイングや、紙を使った造形、プロジェクターを使った現代美術の紹介や、アートや表現についてのディスカッションを行う。	
		未来造形	未来について考え、そのイメージを作品として表現することで、現代を生きる自分自身が未来を構築していくための一員であることを自覚する。既成概念に捕われない発想力や想像力の育成と、基本的な表現技術の習得を目的とする。未来について考え、想像し、そこから生まれるイメージを絵本や作品にして表現する。様々な素材や方法を使い表現の可能性を追求する。	
		歌舞伎鑑賞入門	日本の伝統芸能の一つである歌舞伎について学び、その魅力に触れるとともに、そうした芸能を育んできた我が国の文化についても理解を深めることを目的とする。歌舞伎は、江戸時代以来の歴史を持つ日本独自の演劇であるが、多種多様な娯楽があふれる現代においても、なお多くの観客に支持され続けている。時代の変化と共に新たな要素を盛り込み、現代も生き続けている歌舞伎の魅力を探るとともに、これから歌舞伎を見たい、どんな世界か知りたいといった初心者にも楽しめるよう、代表的な演目について、映像や資料を使い、エピソードも交えて、歌舞伎の見方を解説する。	
		日本の文化 I	自国の文化を学び、異なる文化的背景を持つ人々と知識を共有することは、現在のグローバル社会を理解するために有意義なアプローチである。この授業では、伝統的な日本文化と現代の日本文化の両方の重要な概念を学ぶことを目的としている。ディスカッションを通して自分の考えをクラスメートと共有し、日本文化を先入観にとらわれずに見直し、自分達の文化を考察することに重点を置く。「Long-Established Businesses」「Uniforms」「Homemakers of Japan」などをテーマとする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	基礎教養科目群	人文科学科目	日本の文化Ⅱ	自国の文化を学び、異なる文化的背景を持つ人々と知識を共有することは、現在のグローバル社会を理解するために有意義なアプローチである。この授業では、伝統的な日本文化と現代の日本文化の両方の重要な概念を学ぶことを目的としている。ディスカッションを通して自分の考えをクラスメートと共有し、日本文化を先入観にとらわれずに見直し、自分達の文化を考察することに重点を置く。「Japanized Foreign Dishes」「Voice Actors」「Senior Citizens」などをテーマとする。	
		遊びの人類学	「遊びとは何か」、遊びを文化（約束事）の問題として考えることを目的とする。遊びに凝縮・刻印されている文化と社会を、異文化理解と自文化理解の展望のもとに「調べ・考え・まとめ・実践する」ことを進めてゆく。初めに、J.ホイジンガとR.カイヨワや早くから遊びに注目して教育的価値を見出していたプラトンやソクラテスの遊び論について整理しながら、俯瞰的に見ていく。次いで、人類学、歴史学における世界各地の民族・集団における遊び現象についての豊富な事例研究の蓄積を分析することによって、遊びの当該社会においてもつ意味や価値について明らかにしていく。		
		SNSから日本語を見る	身近な存在であるSNSの言葉そのものに焦点を当て、表現や表記などの用いられ方に一定の法則があることなど、SNSの言葉の面白さと特徴を知ることが第一の目的とする。また、SNSで用いられる言葉の特徴やコミュニケーションのあり方について、その面白さをレポートとして記述できることを第二の目的とする。 SNSで用いられている言葉は、一般的な書き言葉とは異なる表記・表現が多く用いられている。しかし、それらも私たちが日ごろ使っている日本語の一部であることに変わりはない。その特徴的な表記・表現を具体的に引き上げ説明する。そして、それらの多くは無秩序に現れるのではなく傾向が認められることを確認する。また、SNSという身近な言葉の面白さを知るために、ミニ調査を行い、ミニレポートを作成する。		
	社会科学科目	現代世界の教育	現代世界の主な教育事情に注目し、それらにみられる特徴を明らかにし、世界の教育の動向を知ることによって、日本の教育の課題についてともに考えることを目的とする科目である。世界の主だった教育事情の概要およびそれとの関連で日本の教育の課題について受講生が理解し、説明できるようになることを到達目標とする。 世界の教育を、できるだけ視覚的、体験的に学習し、他の受講生の意見を共有しながら、世界や日本の教育が有する世界観・教育観の多様性を理解することをめざす。主に、ヨーロッパ、アメリカ、アジアの国や地域を対象とする。		
	差別と暴力のない世界をめざして	急激な変化を見せている現代社会において、未来世代の子どもたちと共に新しい人権・平和文化を育むことは、教養教育に課せられた大事な仕事である。そのために、人権・平和に関する諸問題について研究を行い、個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求する人間形成のあり方を探求する。 現代社会を生きる子どもと、子どもたちを取り巻く環境の検討から、人権感覚や平和を阻害している諸矛盾を解明することを目指す。そして、そこで明らかとなった今日的な課題を克服するのにふさわしい人権及び平和問題について研究活動を行い、その教訓を学び取る。そのことを通して、人権・平和文化が根差す新しい社会を形成していくことに貢献する共通教養のあり方を究明する。			
	メディアに映る女性	様々なメディアが映し出す女性の今を「送り手」と「受け手」の両方の視点から探り、真実に迫るスキルと習慣を養うことを目的とする。新聞を中心に雑誌、インターネット、SNSなど様々なメディアから「女性」をキーワードに記事を取り上げ、同じニュースがメディアによってどのように報じられているか、差異があるならその違いはどこから生まれるのか、それぞれの記事がどのように真実を切り取り、記事として構成されているかを考える。			

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	基礎教養科目群	社会科学科目	生涯福祉論	学生が、福祉における「ゆりかごから墓場まで」の生涯を通して日常生活で「快い生活とは何か」というサブテーマを考えながら、授業内容に関係する基本の福祉制度を知る。授業の約3分の2は、身近な生活をテーマに生涯福祉を「快い生活とは何か」を考えながら学習する。日本やアメリカでの社会の出来事、講師の経験談、著書、新聞スクラップ、既にサイトに公開されているYouTubeの閲覧、そして他の受講生の一部の匿名の課題等を用いてテーマに関する状況や制度について学習する。そして、自分にとっての「快い生活とは何か」を考え、最終的に授業内容を通して「自分はどう生きるか」を考える。残りは、提示された新聞スクラップ記事を用いて事前・事後学習に取り組む。	
		社会福祉とボランティア	学生が、福祉における医療、高齢者の介護、障がい者、そして貧困の領域で、「よりよい生活の確立」と、そのためのボランティアについて考える。サブテーマである「生きる力」について各領域で考え、ボランティアが「生きる力」にどのように繋がるのか具体的に考えることを目的とする。 ボランティアについての基礎的な知識を学んだ後、ボランティア経験のある学生から実際に経験したことを紹介してもらい、受講生のそれぞれの立場でボランティアの意義や動機など、深く考える時間を設ける。それ以外の授業内容の基礎的な知識、制度や事例については、新聞スクラップ記事、講師の経験談や事例（日本やアメリカでの）、著書、そして既にサイトで公開されているYouTube等を用いて各学習領域について深く考える。		
		福祉レクリエーションの実践	福祉レクリエーションとは、高齢者や障がい者に多く見られる生活支援を必要としている人々に対して、身体的・精神的な健康を意図して行われるレクリエーションの一分野である。とすれば、専門職に就く人間にのみ必要と特別扱いされ敬遠されがちな分野であるが、コミュニケーションやレクリエーションの方法を実際に体験しそのスキルを身につけるとともに、学生自身がおかれている家庭環境や社会環境を通じて、そのスキルや考えがこの社会で生活するすべての人間が必要なことであると理解することを目的とする。前半はレクリエーションゲームを体験しながら、コミュニケーションの変化や自分から他者へのアプローチについて学ぶ。後半は高齢者向けの「作る」レクリエーションを体験しながら、高齢者の理解と関わり方について学ぶ。		
		子育てと家族関係	家族の中には、夫婦、親子、兄弟姉妹などといったさまざまな関係が存在している。将来、親として子どもに接する自分像、あるいは家族像を構築するために、青年期から成人期における女性の発達をこれらの家族関係とのかかわりでとらえることにより、現在の家族の一員としての自分を再確認することを目的としている。 現代社会における「家族」は女性のライフスタイルの変化などの影響を受け、その形態も変化してきている。家族の意味と機能をふまえて、子育てという選択を自らの人生の中でどのように位置づけるのか、また、家族の中の人間関係がどのように影響し合っているのかについて講述する。さらに、家族をとりまく現代的課題を紹介する。		
		子育てと母性の気づき	現代は、女性の社会進出によるライフスタイルの変化や、日常生活における乳児との接触機会の減少などの影響により、「産む」「育てる」ことが、個々の選択により委ねられる時代になったといえる。これをふまえた上で、出産というライフイベントに対する興味を喚起することを目的としている。母性本能、育児本能という言葉がある一方で、育児意欲の低下についての問題が世界的に一般化しつつあることも事実である。本講義では前半で子どもの発達について、特に変化の著しい乳幼児の身体発育、運動能力や感情の発達を、後半で母性に関するデータを紹介したり、子育て中の母親の問題をとりあげ、心理学的観点から講述する。		
		環境心理学入門	学生が身の回りの環境と私たちの心の働きとがどのように関連するのかを学び、理解できるようになることを目的とする。私たちの心の働きは身の回りを取り巻くさまざまなものとの関係から影響を受けているが、その影響は必ずしも意識しやすい「モノ」との関係からとは限らない。人と人の距離、建物や通路の形が作り出す空間、コミュニケーションの方法など、意識化が難しいものからの影響も大きい。この授業では、私たちの心の働きを環境との関わりの中で考察する。その際、環境とは、地理的・物的な環境だけでなく、身の回りの他者に代表される社会的環境、インターネットなどの情動的環境、さらには、環境そのものが持っているシンボリックな意味を指す。授業で取り上げるトピックは、環境の知覚や空間行動などの基礎的な事柄から、環境問題や防犯・防災行動、SNSでの対人行動まで、比較的広範な事柄について取り上げる。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	基礎教養科目群	社会科学科目	現代社会と憲法	日本国憲法の理念、体系について学ぶとともに、日本国憲法が具体的にいかなる形で日常生活に影響を与えているかを知ることによって、法的な思考プロセスの基礎を養うことを目的とする。各回の該当項目につき、パワーポイントで作成した資料を掲げつつ、要点を説明する。主要な論点については、判例等の具体例を示しつつ、掘り下げた説明を行う。必要に応じて最新のトピックにも触れ、憲法の理念を日常生活の具体的事象に落とし込むプロセスを紹介する。	
			教養としての法律	初めて法律を学ぶ学生に対して、法律とは何かを学んでもらうとともに、身近な事例を題材として、法律が生活とどのように関わっているのか、いろいろな角度から考えてみることを目的とする。日常生活に根差した具体的な事例をもとに、法律のしくみについて学ぶ。また、法律は時代とともに変化する学問であることを理解するため、講義では裁判員制度や法改正による選挙権者の年齢の変化など、最新の状況を反映したテーマを扱う。さらに、法律に関する事件や事例で近年耳目を集めるものがあれば、積極的に取り上げることで、法律問題に興味を持ってもらう。	
			暮らしと法律	初めて法律を学ぶ学生に対して、法律とは何かを学んでもらうとともに、身近な事例を題材として、法律が生活とどのように関わっているのか、いろいろな角度から考えてみることを目的とする。日常生活に根差した具体的かつ現実的な事例をもとに、法律のしくみについて学ぶ。取り上げるテーマは、暮らしと関係をもとに大別して、人権・生活・犯罪の3つに分け、それぞれのテーマについて法律がどのように日常生活と関わっているのかを意識しながら、事例とともに学ぶ。また、法律に関係する事件や事例で近年耳目を集めるものがあれば、積極的に取り上げることで、法律問題に興味を持ってもらう。	
			女性と子どものヘルスケア	(概要) 思春期から老年期までの女性に特有な健康課題、および健康を増進し、疾病を予防するためのセルフケアについて学ぶ。さらに子どもの成長に伴う身体的特徴、病気や事故の予防のための手立てや対策、罹りやすい病気や症状に対するケア方法について学ぶことを目的とする。 (オムニバス方式/全15回) (55 北尾 美香/8回) 子どもの成長に伴う身体的特徴、病気や事故の予防のための手立てや対策、罹りやすい病気や症状に対するケア方法について講義する。 (56 南口 陽子/7回) 思春期から老年期までの女性に特有な健康課題、および健康を増進し、疾病を予防するためのセルフケアについて講義する。	オムニバス方式
			消費者生活論	学生が充実した消費生活を営むために、確かな目で商品・サービスを選択し、安全・安心な豊かな生活を手にすることができるようになることを主な目的としている。また、自身の消費行動が国内だけでなく世界の経済や環境に影響することについて学び、SDGsを達成するために消費者市民としての行動について考察することにより、卒業後の社会生活に活かせることを目的とする。前半は消費生活における問題やしくみ、対処法について解説する。消費生活に関連した資格取得も視野に入れ、消費者政策や法律を学び、消費者トラブルにあわないための正しい知識を習得できる内容とする。後半は、日常生活に関わりの深いテーマを取り上げ、消費者市民として、一人ひとりが社会でどのように行動するのが望ましいか、具体的に学ぶことができる内容とする。	
			英語で学ぶやさしい経済学	経済学の基礎知識を日本語と英語で学び、将来のキャリアに活かせる教養を身につけることを目的とする。テキストから経済学の基礎知識を学び、それを発展させて日常生活・時事ニュース・世界の動向に関連付け、グループでリサーチ、ディスカッション、分析を行い、その結果をクラスでシェアする。従来の英語読解の授業ではなく、英語を使って、経済学のコンセプトを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	基礎教養科目群	社会科学科目	英語で学ぶお金の知識	大学生生活や将来のライフイベント、(就職、結婚、育児、老後)などに備えて、必要なお金の知識を日本語と英語で学び、自分の生き方にあったお金の活用方法を身につけ、合理的なライフプランを設計できる、ファイナンシャル・リテラシーを身につけることを目的とする。日本語教材からパーソナルファイナンスの基礎知識を学び、その知識を英語教材を使って発展させる。日常生活・時事ニュース・世界の動向に関連付け、グループでリサーチ、ディスカッション、分析を行い、その結果をクラスでシェアする。従来の英語読解の授業ではなく、英語を使って、パーソナルファイナンスのコンセプトを学ぶ。	
			我々のくらしと日本の産業	産業とは何かを経済との関係でとらえた上で、日本の産業の移り変わりについて学ぶ。また、産業に対して政策が果たした役割について考え、日本の産業が抱える問題や課題を浮き彫りにする。さらに日本の第二次産業および第三次産業のなかから特徴的な業種をとりあげ、その歴史、特徴、課題等を学ぶとともに、今後の産業の姿を展望する。まず産業の定義や分類について明確にするとともに、日本において現在に至るまでの産業発展を達成した経緯を歴史的に概観する。次に、日本の主要な産業を取り上げ、各産業特有の現状と課題について解説する。また、産業情報の入手、分析方法についても示し、課題において各受講生が自ら興味ある産業を調査できるようにする。	
			メディア技術と文字デザイン	メディアテクノロジーと文字(書体/タイプデザイン)の歴史を紐解きつつ、メディアテクノロジーの進化が、人々の知覚にどのように関与してきたか考察する。それらを通して、人々の「みる」行為を意識するとともに、自身の情報発信のあり方(デザイン)を見直し、よりよい発信のための思考を身につけることが、本科目の目的である。下記1~4の内容を具体的な事例とともに解説をしていく。 1. 視覚メディアを中心としたメディアテクノロジー史(写真、印刷、映像)、2. グラフィックデザインの基礎(主にタイポグラフィ)、3. 20世紀の表現技術(テクノロジーアート、メディアアートを中心とした現代美術)、4. 21世紀の表現技術(デジタルテクノロジーと表現)	
			まちづくりと地方自治の役割	地方自治制度の概要と住民の暮らしやまちづくりのための取り組みを知り、行政施策の課題と解決策を考察する。地方自治に関する制度の概要について、地方自治法や身近な行政サービスをまじえて解説する。 住民の暮らしやまちづくりのために、地方自治体が果たしている役割や取り組みについて、地方自治体のホームページや公表資料も参考にして理解を深める。地方自治体の仕事が、自らの暮らしと密接なかかわりがあることを実感するとともに、行政施策の問題点や課題を見つけて、その解決策を自己の考えでまとめる。また、地方公務員に求められる地方自治に関する基礎知識を学ぶ。	
	自然科学科目	文化を創造する数学	文化を創造してきた数学の世界を知的探究することを通して、社会人としての基礎的教養を伸長することを目的とする。具体的には江戸時代の日本の数学「和算」から今日的な数学の話題まで、数学のよさを見出したり、解法を説明したりする数学的活動を通して、大学入学までに学習してきた数学の意味や意義を考察する。前半は、日本が世界に誇り貢献してきた数学の内容(『塵劫記』など)と現代の数学との関連について考察する。後半は、今日的な世界や数学との関連のある話題について考察する。いずれも実際の問題を解決しながら、これまで学んできた数学の意味や意義を問い直す内容である。		
		生命科学入門	「生物」「いきもの」に関わるテーマについて、自分の身の回りの事柄を科学的に考察し、知っている事実からその現象を連想し理解することで、「生物学」「生命科学」に対する探求心を養うことを目的とする。「生命」とは何か? どのようにできてきたのか? 自然とどのようにつながっているのか? など、自分が毎日「生きている」ことをあらためて考えてみるテーマを用意する。ニュースなどで「生命」に関する報道を聞いた時に、考えたり調べたりする初めの一歩になると同時に、専門講義に不安のある学生にとって「生物学」「生命科学」への第一歩となるように講義する。		
		生活の中の物理学	身の回りで見られる題材から、日常生活の素養となる物理学を習得する。論理的/数理的な考え方で自然を眺めたり、応用する力を養う。物理に限らず、科学的なリテラシー能力を得られるような広い話題から講義を進める。虹はどうしてできるのか、飛行機はなぜ飛べるのか、電子レンジのしくみは、など素朴な疑問を大切にしながら、日常生活の基礎に潜んでいる物理法則や理論を、トピックごとに掘り下げて解説する。また、自然現象に対する純粋な興味・疑問を持ち続けることの大切さも伝えたい。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	基礎教養科目群	自然科学科目	最先端物理学が描く宇宙	
			微生物がつくる発酵食品の不思議	
			薬の歴史と未来	オムニバス方式
			薬とからだ	オムニバス方式

物理学の歴史的な進展も交え、我々が現在までに得ている「宇宙」の観測的描像と理論的描像を紹介する。論争によって発展をつづけた科学的世界観や、宇宙物理学の諸問題を理解する。現代物理学の2つの柱である相対性理論・量子論を紹介し、宇宙が膨張していること・ブラックホールが存在していることはどうやってわかったのか、素粒子の確率解釈が必要となった理由は何かなど、物理学の根源的な問題を（数式ではなく）論理的な展開を軸に解説する。宇宙の階層構造を説明したのち、歴史的な話に入る。近代科学の発端、そして相対性理論と量子力学が描く現代物理学の内容を紹介し、最先端の宇宙像を紹介する。話題となる科学ニュースの解説も適宜行う。

私たちの生活の中で当たり前になっている食品が、どのようにして作られているのかについては、あまり知られていない。そこで、“食品がどのように作られているのか？”、“発酵食品とは何か？”、“微生物がどのように食品に関与しているのか？”など不思議な謎を解く講義を通して、食品をより理解することを科目目的とする。「微生物学」「化学」「生物学」「食品学」「食品加工学」の要素を合体させ、“発酵食品がどのように作られるのか？”また、“微生物の発酵作用によってどのような変化が生じているのか？”“そもそも微生物とは？”“私たちの生活に微生物はどのようにかかわっているのか？”などの疑問を明らかにする。さらに、発酵食品以外の身近な加工食品についても学習する。

（概要）近代から現代にわたる薬学の歴史を通じて、生命現象と薬のかかわり、社会と薬の関わりを理解し、医療における薬の在り方について考える。薬に関する歴史的事項、現在の医療における薬、今後の医療で期待される薬に関するトピックを取りあげ、個人での調査を基にグループワークで内容を掘り下げ、今後の薬のあるべき姿を考える。

（オムニバス方式／全15回）

（30 萩森 政頼／3回）
薬の歴史に関する導入講義を行なったのち、薬についての調査研究のグループワーク・発表の演習を行う。

（31 矢野 義明／12回）
現在使用されている薬に関する導入講義を行なったのち、薬についての調査研究のグループワーク・発表の演習を行う。第10回～第15回は、まだこの世には存在しないが未来の医療での使用が期待される薬に関し、研究調査プラス想像力も働かせて、仮想の新薬開発企画の立案を目標にグループワーク・発表の演習を行う。

（概要）薬は生きていく上で、多くの人が使用するため、本講義では薬や身体に関する正しい知識を身につけ、医薬品を適切に使用することを目的とする。まず医薬品の概要を示し、各疾患で使われる治療薬やその作用メカニズム、それぞれの疾患に合った薬の形、服用方法を説明する。

（オムニバス方式／全15回）

（32 吉田 都／8回）
医薬品とは何かについて説明し、神経系に作用する薬、抗炎症薬、骨・カルシウム代謝や免疫・アレルギーに作用する薬の概要を示し、その作用メカニズム、それぞれの疾患に合った薬の形、服用方法を説明する。

（59 小島 穂菜美／7回）
循環器系、血液・造血器系、泌尿器系・生殖器系、呼吸器系、消化器系、代謝系、内分泌系、感覚器系、皮膚のそれぞれに作用する薬の概要を示し、その作用メカニズム、それぞれの疾患に合った薬の形、服用方法を説明する。

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	基礎 教養 科目 群	自然科学 科目	<p>(概要)身近な疾患や治療薬、薬の飲み合わせについて、Q&Aを交えながら概説するとともに、安全かつ効果的にセルフメディケーションを実践するために必要な情報、要指導医薬品・一般用医薬品等について説明する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(34 柴原 晶子／5回) 身近な疾患、治療薬、相互作用、薬の飲み合わせ、患者から多く寄せられる質問に基づく薬の使い方について解説する。</p> <p>(33 田内 義彦／10回) セルフメディケーション、要指導医薬品・一般用医薬品等について解説する。</p>	オムニバス方式
		国際 理解 科目	<p>韓国文化の理解</p> <p>韓国の文化と社会について基礎的な知識をはじめ、多様な韓国文化に対する理解を含めることを目標とする。韓国・朝鮮半島における歴史の基礎知識を含め、「文化」というフレーム・ワークに注意を払いながら、韓国におけるサブ・カルチャーというものをテーマ別に分けて取り上げる。特に、現代の韓国文化だけではなく、その源泉ともなる伝統文化にも注目し、「韓国文化」全般に対する理解を深める。</p>	
		<p>中国文化論</p> <p>豊かな奥深い中国文化の基礎知識を概説することを目的とする。第一部分「風土と民族」(第1～3回)は、多様な環境から生み出された文化、移動と融合によって形成されてきた「中華民族」の変遷を説明する。第二部分「伝承と沈殿」(第4～6回)は、中国文化を伝承する最も重要な媒体である漢字について解説する。第三部分「家族と統合」(第7～9回)は、中国人の家族・宗族制度とこれを基礎とした社会のあり方を解説する。第四部分「教養と娯楽」(第10～12回)は、教養として文学と絵画、人々の心を引きつける演劇の魅力が映像によって感じてもらう。第五部分「心と体」(第13～15回)は、中国人の多様な宗教信仰、パワーの源である中華料理の魅力を伝える。</p>		
		<p>国際協力入門</p> <p>国際協力が何故必要なのか、また国際協力はどのように行われているかについての基本的な知識を提供することを目的としている。前半部に、国際協力が何故必要なのか、その目的は何なのかを検討する。その後、基本的な国際協力の歴史や仕組みを説明していく。後半は、具体的な事象を例として、前半部で修得した国際協力の仕組みが実際にどのように機能しているか、また問題点は何なのかなどを考察する。また、多くの学生が関心を持っている事項があれば、後半の内容を変更して議論することも検討し、学生の関心に応えるようにする。</p>		
		<p>世界の中の日本人</p> <p>普段あまり意識することのない文化が自己形成や心のしぐみにどのような影響を与えているのか、また文化の中で生きる人間の生き方が、どのように文化や社会を維持・変革しているのかを分析・考察できるようになることを目的とする。まず、自己イメージや自己形成に文化がどのような影響を与えているのか、また差別や偏見に文化がどのように関わっているのかについて概説する。その後、結婚や育児などの身近な事柄が、文化によってどのように異なるのか、また、日本や日本人は、他国と比較して、どのような特徴があるのかについて考察する。</p>		
	現代 トピ ック 科目	<p>モラルジレンマから考える私</p> <p>日常生活には様々なモラルジレンマがあり、これらは正解がはっきりしないことも多い。社会の中で生活するためには、自分の意見を明確にするとともに、他者との議論を通じて、自分の意見を見つめ直すことも必要となる。本授業ではこのジレンマ過程を実際に経験しながら、自分と異なる意見にも耳を傾ける態度を養い、自分自身について見つめ直すことを目的としている。提示したジレンマ課題について、ランダムに賛成か反対かのどちらかに割り振られる。その立場のデータや資料を集め、レポートを作成する。ディベート判定会では、各自のレポートを公開し、互いに読みあい、クラス全体としてのディベート判定を行う。</p>		
		<p>女性のためのマーケティング</p> <p>身近な事例にもとづいてマーケティングの基本を習得し、マーケティングへの理解と興味を深めて、将来的にマーケティングに関わる業務で活用できることを目的としている。前半はマーケティングの定義と成り立ち、マーケティングの基本概念(S T P、マーケティングミックス4 P等)について、後半はマーケティングの応用理論としてマーケティングマネジメント(サブライチエーション・営業・リレーションシップ・ブランド・ソーシャル・サービス等)について学ぶ。講義内容を深く理解する為に、身近な商品・サービス事例を取り上げ、概念・理論と関連付けて説明する。</p>		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	基礎教養科目群	現代トピック科目 Current Affairs in Japan I	日本の様々な時事問題に関連するトピックを、日本人学生と海外からの学生が共同で学び、考え、議論する機会を提供する。メディアや学術論文を読み、日本が直面している様々な社会的・文化的問題や課題について考察する。「日本の学校教育」や「女性の仕事観や管理職の格差」「日米の医療制度」など様々なテーマを用意し、学生同士の議論を通じて日本と海外の共通点や相違点を検討する。	
		Current Affairs in Japan II	日本の様々な時事問題に関連するトピックを、日本人学生と海外からの学生が共同で学び、考え、議論する機会を提供する。メディアや学術論文を読み、日本が直面している様々な社会的・文化的問題や課題について考察する。テーマは日本のアイドルや教育制度、領土問題など様々ある中から学生の興味関心に応じて設定し、学生同士の議論を通じて日本と海外の共通点や相違点を検討する。	
	ジェンダー科目群	セクシュアリティ入門	この科目の目的は、セクシュアリティという概念への着目を通して、性の多様性に関する知識と意識を高め、自分も含めた一人ひとりの違いを尊重できる感覚を培うことである。セクシュアリティに関する基本的用語を説明し、身体的、心理的、社会的などさまざまな側面からセクシュアリティを概観する。また、人権にまつわる歴史的な出来事を示し、多様な性のあり方について考察する。基本的には講義形式で進めるが、リアクションペーパーやレポートの共有を通して、他の人の意見や感想を聞く機会を設け、できる限り対話のある授業とする。	
女性の身体とセクシュアリティ		ジェンダーの理論やセクシュアリティに関する事柄を理解し、自分の身体や性について考察できるようになることを目的とする。ジェンダーに関する理論や日本社会における女性が抱える問題について概説する。また、セクシュアリティに関する概念や若者の性行動や性意識について考察し、LGBTsについての理解を深める。最後に、女性が罹りやすい障害についての情報を共有し、それらへの対処法について考察する。		
メディアに見るジェンダー		メディアの中にある具体的な事例を通して、ジェンダーの理論や問題を分析することにより、自分自身の中のジェンダー意識を再考できるようになることを目的とする。女性が被害に合うことが多いドメスティック・バイオレンスや女性に多い依存症、また母娘問題などの身近な問題を、漫画やエッセイを通して学習する。また、固定観念やイメージがいかにジェンダー意識に影響を与えているのかを、メディアを通して検討する。尚、この授業は双方向型・参加型の手法を用いる。		
女性が輝く社会づくり		働く女性を守る法と権利の現状を理解したうえで、その生き方に自信と誇りを持って活躍できる社会への変化の意義と課題を学ぶ。女性活躍推進法の内容を説明し、働く女性の権利を学ぶ。女性が活躍できる社会への変化がなぜ必要なのか、その意義、および、法による権利で十分なのかなどについて考察する。以上を踏まえたうえで、女性にとって働きやすい職場の条件を探り、進路選択に活かすことができるように、アクティブ・ラーニングによって、知識をどう応用していくのかを考える。		
キャリアデザイン科目群	女性のためのライフプランニング	自らの夢を実現するために、何を学び、いかに自らの能力を伸ばすのかを考える。また、キャリアについてどう戦略的に考え行動するか、女性としてどう生きるかを重要なポイントととらえ、有意義なライフプランを考える。まずライフプランニングの大切さを知り、学生の間にすべきこと、社会人として求められる力を理解して、自分が到達、習得できているかを知る。その後、女性を取り巻く社会環境を学習して、自らの理想のライフプランを確立する。また、円滑なコミュニケーションのためアサーティブコミュニケーションや正しい日本語も学習する。その後、世界の動きを知るため時事問題を学ぶ。		
	自己アピールトレーニング	自分自身を最大にプレゼンテーションすることを目標とするために必要な知識や技能を身につけることを目標とする。まず社会や企業が求める人材を知る。次に自分の長所を明確に出せるプレゼンテーションが面接でできるよう、発声、立ち居振る舞い、ウォーキング、敬語、スピーチトレーニングを行う。実技や実践に重きを置き、ビデオ撮影、フィードバックをすることにより、より確実にスキルを身につける。		
	キャリアビジョンと人物評価	雇用情勢は、有効求人倍率や失業率といったマクロ統計と密接に関連し、日本経済の動向を知るための大きな手がかりの一つである。この授業では、日本の雇用情勢や経済動向を俯瞰し、将来に向けたキャリアビジョンを描くとともに、ビジネスにおける意思決定手法の一つであるSWOT分析を適用した人物評価の技法を理解し、構造化面接法を用いて相互理解のあり方を実践的に学ぶ。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	英語コミュニケーションⅠ	英語で話すことに慣れていない学生が、英語を用いて、積極的にコミュニケーションを図る態度を身につけ、身近な話題について会話する基礎的な力を培うことを目的とする。授業はすべて英語で行う。講師やクラスメートとのペアワークやアクティビティ等を通じて、基本的な会話を練習する。また、会話を円滑に進めるコツを学び、できるだけスムーズに話す練習をする。	
			英語コミュニケーションⅡ	英会話学習に関心があり、基礎的な英語力がある学生が、日常の身近な話題や、物事について、よりスムーズに会話の「キャッチボール」を楽しむ力を身につけることを目的とする。また、会話に必要な文法事項の復習や、語彙力の強化も同時に行う。授業はすべて英語で行う。授業では、できるだけ長く会話を続けたり、主体的に話したりすることを意識して、講師やクラスメートと英語でのやりとりを練習する。また、基本的なプレゼンテーションの方法やコツを学び、練習をする。	
			英語コミュニケーションⅢ	コミュニケーションスキルを高めることはスピーキングとリスニングの自然な一部である。この科目では旅行、気候、健康、文化、社会に関連するテーマについて知識を深める。批判的思考を通じて様々な集団の人々の持つ視点を見つけることを学ぶ上でコミュニケーションに対する認識が重要視される。興味深い考えが多く含まれるテーマが取り上げられ、受講生は考え、議論することを求められる。	
			英語コミュニケーションⅣ	授業は受講生のレベル、関心、目標に対応した内容で行う。アジア地域の諸問題、特に東アジアに関する問題を取り上げる。テーマは旅行、家族観、環境、都市生活、ビジネス、食文化、娯楽などを扱う。テーマは基本的に授業担当者が選択するが、受講生はテーマの選択と研究、発表をする場合には好きなテーマを選び、「ディスカッションリーダー」として授業内で共有する。	
			英語リーディングⅠ	初級レベルの学生がパラグラフの構造や読み方のコツを知り、効率的、かつ確実に英文の内容を理解できるようになることを目的とする。様々な英文を読み、文のパターンを理解し、英文の論理的な読み方を学ぶ。文法事項や表現を復習するとともに、語彙力も培う。学習したリーディングストラテジーを使用し、多岐にわたるトピックに関する英文を読み、英文読解能力、語彙、文法力を高める。またトピックに関するライティング活動を通してアウトプットも行う。	
			英語リーディングⅡ	様々な話題・形式の英文を読み、長文を理解するトレーニングを行う。パラグラフの要点を読み取る方法(スキミング)を学び、必要な情報を収集する力(スキヤニング)を身につける。専門分野の英語文献を理解するための素地を培うことを目的とする。精読と多読アプローチを組み合わせ、スキミングやスキヤニングなどのリーディングスキルに加えて、短い意味のまとまり毎にスラッシュを入れて前から順に理解するフレーズリーディング(速読)の技術を学ぶ。また、リーディング課題のシャドーイングや音読も行う。	
			英語ライティングⅠ	メールやLINEメッセージなどの日常的なライティングをはじめ、ネット利用の際に発生する「書く」やりとりにも活用できる語彙やフレーズを、「英作文」の練習を繰り返すことで習得し、短いセンテンスを用い、自分の意見を伝えることができるライティングの基礎力を身につけることを目的とする。英語でメールを書く際に様々な状況で役に立つ表現を学ぶ。特に、相手を気遣ったり、相手との人間関係に配慮する「コミュニケーション」を重視し、さらに、英語文化の発想にも留意しライティングに必要な総合的な事柄を学ぶ。	
			英語ライティングⅡ	エッセイやニュース記事など多種多様なジャンルの英文を読みながら、使用語彙・表現・パラグラフの成り立ちなどを学び、自分の意見・提案・説明など様々な状況に応じ、論理的な英文を書くために必要な文章構成力を身につける。	
TOEIC演習Ⅰ	TOEIC未受験者を含め、初級レベルの学生が、各設問形式に慣れることを目的とする。授業では演習問題を通じて、各パートの設問形式を理解するとともに、TOEICに頻出する単語や表現と基礎的な文法事項を学ぶ。また、リピート練習や音読練習を行い、既習表現を定着させる。毎回単語テストと演習テストを行う。				

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	TOEIC演習Ⅱ	基礎的な英語力があり、TOEICの試験形式にある程度慣れている学生が、多くの模擬問題にふれることで、さらなるスコアアップを目指すことを目的とする。授業では、タイムマネジメントを意識しながら演習問題に取り組み、各パートを解く上での解法スキルをマスターする。また、正答の根拠を明らかにすることで、正答率アップと応用力を身につける。リピート練習や音読練習も行い、既習表現を定着させる。毎回単語テストと演習テストを行う。	
			TOEIC演習Ⅲ	上級レベルを目指す学生が、難易度が高い問題に数多く取り組むことにより、一層のスコアアップを図ることを目的とする。授業では、高度な情報処理能力が問われるPart3、4、7を中心に大量の問題演習を行い、英語の処理スピードを上げることでスコアアップにつなげる。また、不正解の選択肢の間違っている理由を明確化することで正答率アップと応用力を身につける。リピート練習や音読練習も行い、既習表現を定着させる。毎回単語テストと演習テストを行う。	
			TOEFL演習	大学・大学院留学を目指している、あるいは、よりアカデミックな内容の英語を学びたい学生が、TOEFLの問題形式に慣れ、目標点数取得に必要な語彙力・リスニング力・リーディング力を獲得することを目的とする。Section1対策としてリスニングのPartA、B、C、Section 2で問われる文法知識問題、Section 3対策となる300～400wordsの長文読解等を始めとするTOEFL ITP形式の問題に取り組みながら、テストの形式に慣れる。毎回小テストを行う。	
			TOEIC(初級)	TOEIC試験の形式に慣れ、英語力の向上と共に効率よくスコアアップをはかることを目的とする。TOEICの問題形式に慣れるために、よく用いられるテーマや語彙、又どのような状況で使われるのかといった背景知識も併せて学ぶ。スコア500点を取得するために正答しなければならない問題と、現時点では解く必要がないハイスコアを目指すための問題とを瞬時に判断し、限られた試験時間を無駄にしないためのタイムマネジメント力を身につける。	
			Basics for Presentation I	本科目は演習形式で授業を進める。バランスのとれた高い英語力(話す・聞く・書く・読む)＋社会人基礎力を身につけることを目標に3年間に渡り学習を継続するチャレンジコースにおいて、プレゼンテーション能力は必須である。コース初年度にそのベースを築くために必要な項目をテーマ毎に学びながら、実際のスピーチを繰り返し行い「人前で話す」ことに慣れる訓練を行うことを目的とする。TOEIC 550-600点程度の英語力の習得と、腹式呼吸を身につけて適切な音量で話すことができ、英語で簡単な内容のスピーチを行えることを目標とする。「発信するスピーチ」の練習と講演会などの司会進行の方法を学ぶ。	
			Basics for Presentation II	本科目は演習形式で授業を進める。バランスのとれた高い英語力(話す・聞く・書く・読む)＋社会人基礎力を身につけることを目標に3年間に渡り学習を継続するチャレンジコースにおいて、プレゼンテーション能力は必須である。コース初年度にそのベースを築くために必要な項目をテーマ毎に学びながら、実際のスピーチを繰り返し行い「人前で話す」ことに慣れる訓練を行うことを目的とする。TOEIC 600-650点程度の英語力習得と、英語で即興スピーチを行いながら聴衆の反応をコントロールすることを目標とする。前期に引き続き、短いスピーチを繰り返し行うとともに講演会などの司会進行の方法を学ぶ。	
			Grammar for Communication	英語の読解力、作文力、コミュニケーション能力向上に必要な不可欠な文法・構文の知識を修得する。文法演習により文の構造への理解を深め、情報の意味や意図を正しく把握することができる。また、TOEICの文法・語法問題のスコアアップを目指す。各文法事項の練習問題を解き、理解が不十分な箇所を重点的に学ぶ。また、それらの文法事項に関連したTOEICの文法・語法問題にも取り組む。	
			Reading & Writing	さまざまなトピックやスタイルのリーディング課題を通して、興味や背景知識の幅を広げ、情報量の多い英文を速く、正確に読むことができ、また、英文パラグラフ・ライティングの構成法を学習し、自分の考えを英語で表現することができることを目標とする。英文を短い意味の固まりごとにスラッシュを入れて区切り、前から順に理解するフレーズリーディングのスキルを習得する。また、パラグラフの典型的な文章構成や表現方法を学び、reader-centeredを意識した読みやすい英文を書く練習を行う。授業外では、図書館で自分のレベルに合った多読教材を選び、直読直解を基本にできるだけたくさん読む。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	Speaking & Listening I	対話を成功させるための様々なコミュニケーション方法を学び、聞きとれるが話せない表現を話せるようにすることを目的とする。学んだ表現をすぐに会話の中で繰り返すことによってスピーキングとリスニングのスキルを向上させる。様々なシチュエーションでのコミュニケーション能力を短期間で身につける。	
			Speaking & Listening II	「Speaking & Listening I」で学んだスキルを使い、コミュニケーションスキルのさらなる向上を目的とする。スピーキング力を高め、複雑なシチュエーションでスムーズな会話ができるようになり、またリスニング力を高め、実際に話されているような英会話を聞き取れるようにすることを目的とする。このようなスキルを磨くことで、効果的かつ自信を持ってコミュニケーションがとれることを目標とする。	
			Speaking & Listening III	「Speaking & Listening I・II」で学んだコミュニケーションスキルのさらなる向上を目的とする。英語で自身の経験やアイデアを用いながら、意見を発する自信をつけていくことを目標とする。学生はスピーキング力の達成状況を記録するツールを使い、学習を進める。授業内だけでなく授業外でも英語を使う機会を増やす。	
			Presentation	プレゼンテーションは、創造的なアイデアや個人的な意見、興味深い情報を人々に伝えるためのものである。この授業ではメディアと科学技術、社会と人間との関係、健康と環境、旅行と文化、教育などのトピックを取り上げ、効果的なプレゼンテーションスキルを身につける。	
			Writing I	この授業では、英語のライティング能力を向上させ、質の高い文章が書けるようになることを目指す。効果的な文章構成スキルを学び、語彙や表現、文法などライティング能力を身に着ける。様々なジャンルやスタイルの英語文章を紹介した上で、学生の興味、関心に応じてトピックを設定し、多くの文章を書く。また、学生どうしのディスカッションを通して英語のスピーキングとリスニングも向上させる機会も設ける。	
			Writing II	「Writing I」で学んだライティング能力をさらに発展させ、質の高いエッセイを書く能力を身につける。序文、本文、結論といった英作文の構成に加えて、テーマの立て方や、自らの考えを効果的に表現する方法などを学ぶ。また、実際に英語の文章を作成し、語彙や表現、文法を効果的に使用する方法を学ぶ。様々なトピックについてのエッセイを書くことに加えて、TOEFLなどの資格対策も行う。また、学生どうしのディスカッションを通して英語のスピーキングとリスニングも向上させる機会も設ける。	
			English for Careers	英語を使うのは、英語を母国語とする人々だけではない。外国人と接する機会のあるキャリアでは、英語を母国語としない人々の間でもコミュニケーション言語として英語が使われている。本授業では、日本のさまざまな「仕事の現場」で、英語を使ってコミュニケーションを図っている人々を事例に取り上げる。キャリアで英語を使うにあたって不可欠な単語や言い回しを学習すると同時に、英語がどのような役割を担っているかを理解する。電話・メール対応といった、直接キャリアで英語を使うことを想定した練習も行う予定である。	
			Reading & Discussion	現代社会が抱える様々な問題についてテキストおよび参考資料を読んだ上で、意見を述べたりディスカッションできるようになることを目標とする。現代の社会問題に関する幅広い知識を「読み」を通して得ると同時に、他の意見を尊重しつつ自分の意見を発信し考えを深める。エネルギー問題、移民問題、女性の社会進出、能力給など現代の社会問題に関するテキストを読み、物事を批判的に考えるスキルを学びつつ、英語で自分の意見をまとめたり、それを基にディスカッションする。	
			Global Communication I	授業は受講生のレベル、関心、目標に対応した内容で行う。世界各地の社会問題をテーマとする。それらのテーマについてディスカッションすることでテーマに対する理解を深めるだけでなく、グローバルなレベルで必要なコミュニケーションのための素養を養うことを目的とする。授業で学ぶべき重要なテーマは講師が選択するが、受講生も自分でテーマを選び、研究して授業で発表することができる。授業で取り上げるリーディング教材は信頼性のある英語のニュース報道を使用する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	Global Communication II	授業は受講生のレベル、関心、目標に対応した内容で行う。Global Communication I のディスカッションのテーマを発展させ、さらに広範囲な世界各地の社会問題をテーマとする。それらのテーマについてディスカッションすることでテーマに対する理解を深めるだけでなく、グローバルなレベルで必要なコミュニケーション力を培うことを目的とする。授業で学ぶべき重要なテーマは講師が選択するが、受講生も自分でテーマを選び、研究して授業で発表することができる。授業で扱うリーディング教材は信頼性のある英語のニュース報道を使用する。	
			Current Events I	時事問題は新聞やネットニュース、ラジオ、テレビなどであらゆる角度から報道されている。受講生が自身の意見の説得力を高めるために情報収集をする際、様々な情報源を活用する力が大事である。この科目では、流行や多数派の意見がどのように自分の考えに影響を及ぼしているか見極めることが主要な学習の一つである。	
			Current Events II	この授業では教育、雇用、健康、文化、宗教に関する時事問題の肯定的な面と否定的な面について知識を深める。受講生はテーマの内容とそのテーマが誰に関係するかについて発表するが、その際にはコミュニケーションに対する認識が重要視される。受講生は、時事問題に影響を受ける少数派の人々、難民、子ども、高齢者などの特定集団それぞれの視点を理解する。	
			Reading & Critical Thinking	クリティカル・シンキングを踏まえたリーディングトレーニングを行い、より深く「読む」力を身につける。Critical Thinking (CT) とは、「何事も鵜呑みにせず、自分の頭で考えること」である。本授業では、英語リーディングにCTを応用し、科学的・客観的に物事を捉える力を身につけることを目的とする。クリティカル・シンキングをベースにしたリーディングのための語彙を学び、ディクテーションにより、細部まで音の確認をしたのち、リーディング作業に入る。またクリティカル・シンキングとは何かを考え、リーディングやディスカッションを行う。	
			Career Workshop	大学入学後から現在までの自身を振り返り、卒業後の進路についてどのように思いが変化したか（あるいは一貫していたか）について自身の言葉で語り、グループで討論しながら、自らの考えを明確にするとともに仲間の意見を通じて新たな考え方や新領域について学ぶ。自己表現と相互理解のためのコミュニケーション力の総仕上げを行うことを目的とする。	
			ドイツ語 I	学生がドイツ語の骨組みを理解できるようになることを目的とする。テキストをもとに、「聞く・話す・読む・書く」の技能全体をバランスよく学習する。また対話練習によってコミュニケーション能力を身につける。学生が、ドイツ語圏の文化的背景を具体的に理解できるよう視聴覚教材を使用する。ドイツ語をはじめて学ぶ人々に、発音・文法の説明・練習を通じてドイツ語の読解力・コミュニケーション能力を養成する。また、レーゼテキストを活用した会話練習も行う。それと同時に、学生がドイツ語の学習によって、ドイツという国自体、その文化や価値観に興味を持てるように、コラムやビデオ教材を使い様々な情報を積極的に紹介する。	
			ドイツ語 II	ドイツ語コミュニケーション能力を養成し、ドイツ語検定試験4級の合格レベルの実力を養う。教員が各課の文法を説明し、受講者の理解度を確認する。新たに学ぶ文法については練習問題を通じ定着を図る。そののち、受講者はテーマに沿った対話を作成し、発表する。数課ごとに、小テストを実施し、内容を理解できているかを確認する。また、視聴覚教材を使ってリスニングを鍛錬し、簡単な読み物で語彙力や表現力のバリエーションを習得する。	
			フランス語 I	初めてフランス語に触れる学生が、フランス語の基本的な構造を理解することを目的とする。テキストをもとに、「読む・書く・聞く・話す」の4つの技能全般をバランスよく学習する。また、テキストとは別にフランスのさまざまな風俗、習慣、文化等の最新情報を映像で紹介していく。この授業を通して学生がさまざまな表情を持ったフランスを発見し、フランスへの関心がさらに増すことを期待している。授業では「暗記」よりも学生の「理解」を前提とし、授業の指針としたい。文法については必要に応じてプリントを配布し、練習問題を通じて各文法事項が確実に身につくよう指導していく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	フランス語Ⅱ	フランス語Ⅰで修得したフランス語の基本の発展を目的とする。文法知識を補うとともに、単語面でも充実をはかることを目的とする。テキストをもとに、「読む・書く・聞く・話す」の4つの技能全般をバランスよく学習する。また、テキストとは別にフランスのさまざまな風俗、習慣、文化等の最新情報を映像で紹介していく。この授業を通して学生がさまざまな表情を持ったフランスを発見し、フランスへの関心がさらに増すことを期待している。	
			フランス語ⅠA	初級文法及び日常生活に必要な様々な表現を学びながら、「聞く」「読む」「話す」力を培い、簡単なフランス語でのコミュニケーションを可能にすることを目的とする。またフランス語という言葉の学ぶ事を通して、フランスの文化や風土への理解・関心を深める。授業では、まずはフランス語の音と文字に慣れる為に、発音上の主な規則を学ぶ。大体3週で1課のペースで進めるが、適宜履修事項の反復練習を取り入れる事でさらに理解を深めるように努める。またテキストで学んだ事項の応用能力を高める為に、学生同士のペア会話練習・発表やフランス語による質疑応答等も随時行う。	
			フランス語ⅠB	初級文法及び日常生活に必要な様々な表現を学びながら、「聞く」「読む」「話す」力を培い、簡単なフランス語でのコミュニケーションを可能にすることを目的とする。またフランス語という言葉の学ぶ事を通して、フランスの文化や風土への理解・関心を深める。授業では、まずはフランス語の音と文字に慣れる為に、発音上の主な規則を学ぶ。大体3週で1課のペースで進めるが、適宜履修事項の反復練習を取り入れる事でさらに理解を深めるように努める。またテキストで学んだ事項の応用能力を高める為に、学生同士のペア会話練習・発表やフランス語による質疑応答等も随時行う。	
			中国語Ⅰ	初級レベルの中国語を習得する。発音、基礎文型を学び、「読む・聞く・書く・話す」の総合的な中国語力を身につけ、実際に中国語を使って基礎的な会話ができることを目的とする。前半は、主に発音方法を学び、音読練習を重ねながら、中国語の正しい発音ができるよう練習する。中盤、後半は、中国語の基本語彙、基本文型・表現を学ぶ。これらの総合的な習得により中国語の活用能力を高める。	
			中国語Ⅱ	準中級レベルの中国語を習得する。基礎的な中国語力のある学生が、日常より多くの場面で中国語を使って会話できる力を身につけることを目的とする。会話に必要な語彙およびより高度な表現を学習する。前半は、主に「中国語Ⅰ」で学習した発音、会話に必要な文法事項の復習、その内容を使っての会話を行う。中盤、後半は、より高度な表現、語彙を学ぶ。中国語の背景にある中国文化、風俗習慣、現代中国事情にも触れ、中国語及び中国への理解を深める。	
			イタリア語ⅠA	イタリア語の骨組を修得することを目標とし、テキストをもとに、「聞く・話す・読む・書く」の技能全般の初歩をマスターする。また、イタリアの生活文化に触れることでグローバルな視点で活躍するためのリテラシーと基礎知識を修得する。授業はイタリア語の初歩を、文化的背景を交えつつ、旅行先などでの状況設定を使い、楽しく会話方式で学ぶ。具体的にはカンツォーネやイタリア映画、イタリア語の絵本や新聞記事、Webサイトなどを紹介しながら学ぶ。	
			イタリア語ⅠB	「聞く・話す・読む・書く」の技能全般の初歩をバランスよく学習し、簡単な日常会話、自己紹介、旅行会話ができるようになるレベルの実力を養うことを目的とする。授業ではロールプレイを設定したコミュニケーションの表現を通して、主体的にイタリア語での会話ができるように導く反復練習を行う。またイタリアの文化に触れ、理解を深め、将来の留学・研修にも役立つ実践的基礎力を培う。	
			スペイン語Ⅰ	スペイン語を初めて学習する者を対象に、スペイン語文法の基礎を身につけ、これを用いて平易な文章を理解し、さらにスペイン語による日常会話の習得を目的とする。授業では、スペイン語圏の国々の歴史や文化的背景といったトピックなども適宜取り上げ、学生が語学の外へも興味を広げていくことを目指す。各回で取り上げられるモデル文、および語彙や文法事項を習得し、多くの問題やアクティビティをこなすことによってこれらを定着させる。また、モデル会話を繰り返し聞き、リピートすることで、スペイン語の音に慣れることを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目		
		ハングル I	韓国語の基礎を学び、コミュニケーション能力を身につけ、社会的文化的背景を理解する。初めにハングル文字の読み書きを身につけ、ハムニダ体・ヘヨ体の名詞文とその否定、ハムニダ体の用言文、疑問詞の使い方、基本的な助詞、数字を含む表現などを学ぶ。過去形、尊敬形、命令形など、文末の文体や時制の変換、補助語幹の着脱が素早くできるように練習する。発音を重視しながら、身近な会話表現を習得する。	
		ハングル II	韓国語での意思疎通に必要な中級の語尾や語彙を習得するとともに韓国語での情報発信能力と聴解能力をつける。合わせて韓国や日本の文化的な内容も学ぶ。 文法は連体形や変則活用の用言を学んだ後に、テキストに沿ってさまざまな語尾や表現を学ぶ。コンピュータやスマホ上でのハングルの入力の仕方も習得する。韓国語の作文（レポート）を書き、添削を通じて正しい韓国語の書き方を学ぶ。	
		特別英語演習 I	学生が英語を母語とする社会において英語によるコミュニケーション力をつけることを目的とする。アメリカ分校またはオーストラリアで3週間、集中的に英語および異文化の研修をする。午前中は英語を中心に学び、午後は文化理解のための授業や文化活動に参加する。英語学習や異文化経験を通して欧米の文化・歴史・習慣を調べ、同時に自国の文化と比較する。	集中
		特別英語演習 II	学生が英語を母語とする社会において英語によるコミュニケーション力をつけることを目的とする。アメリカ分校またはオーストラリアで3週間、集中的に英語および異文化の研修をする。午前中は英語を中心に学び、午後は文化理解のための授業や文化活動に参加する。英語学習や異文化経験を通して欧米の文化・歴史・習慣を調べ、同時に自国の文化と比較する。	集中
		特別中国語演習 I	中国語を母語とする社会において中国語によるコミュニケーション力をつけることを目的とする。中国（台湾）の協定大学で2週間、集中的に中国語および異文化の研修をする。午前中は中国語を中心に学び、午後は文化理解のための授業や文化活動に参加したり、現地学生と交流する。言語習得を通して、中国（台湾）の文化、歴史、生活を知り、同時に自国の文化等と比較することができる能力を養う。	集中
		特別中国語演習 II	中国語を母語とする社会において中国語によるコミュニケーション力をつけることを目的とする。中国（台湾）の協定大学で2週間、集中的に中国語および異文化の研修をする。午前中は中国語を中心に学び、午後は文化理解のための授業や文化活動に参加したり、現地学生と交流する。言語習得を通して、中国（台湾）の文化、歴史、生活を知り、同時に自国の文化等と比較することができる能力を養う。	集中
		特別ハングル演習 I	韓国社会において生きた韓国語を学び、文化体験を通してその言語や文化を理解できるようになることを目的とする。韓国の協定大学で韓国語および韓国文化の研修を3週間行う。授業は韓国語の会話、聴き取り、読解、作文の4技能を集中的に学習する。午前中は韓国語授業を受講し、午後には韓国の伝統文化を実体験する。韓国人々の考え方・感じ方について考察し、東アジアにおける日本文化の位置づけを再認識する。	集中
	特別ハングル演習 II	韓国社会において生きた韓国語を学び、文化体験を通してその言語や文化を理解できるようになることを目的とする。韓国の協定大学で韓国語および韓国文化の研修を3週間行う。授業は韓国語の会話、聴き取り、読解、作文の4技能を集中的に学習する。午前中は韓国語授業を受講し、午後には韓国の伝統文化を実体験する。韓国人々の考え方・感じ方について考察し、東アジアにおける日本文化の位置づけを再認識する。	集中	
情報科目群	Accessデータベース基礎	データベースソフト、Microsoft Accessの操作方法と活用方法およびタッチタイプを修得する。データベースの設計から基本的なデータベースの作成、データベースの活用までを、実習を交えて学ぶ。毎回10分程度タッチタイプの練習を行い、キーボードを見なくてもタイプできるよう練習する。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	言語・情報科目群	情報リテラシー科目		
		情報社会を生きる技術	パソコンやスマートフォンでインターネットを利用する上での情報セキュリティについて学習する。情報セキュリティやインターネットで使用されている技術など、授業で提示されるテーマについて自ら調べ、講義でまとめる。その時々に応じてトレンドな項目について取り上げ、問題点を考え、対処方法を調べる。授業中に数回小テストを実施する。	
		Webデザイン基礎	この科目では、ホームページの作成に利用されるHTML言語の基礎を学び、ホームページの仕組みを理解することが目的である。さらに、HTML言語を用いて、オリジナルのホームページが作成できるようになることが、この科目の目的となる。毎回の授業では、Webページを作成する際に利用するHTML言語の基本を段階を追って学習する。具体的には、Webページ作成に用いるHTML言語の命令であるタグを基礎的なものから応用的なものまで学習する。多数の例題演習を通じて段階的に学習し、その成果物としてオリジナルのWebページを制作する。	
		Webデザイン応用	Web制作の基礎知識を土台にして、CSSを利用した実践的なWebサイトの制作技術を学ぶ。Webサイト制作の実習を行い、サイトコンセプトに応じたWebページを効率よく構築する技法を学習する。これにより今日のWebサイトの仕組みを理解し、仕様に応じたWebサイトを構築する手法を習得する。前半はWebサイト制作例題にそって、Webサイトの制作手法と、CSSによる効率的なデザイン手法を中心に学ぶ。後半はWebサイト掲載用の写真編集、JavaScriptなどインタラクティブ要素の導入、CSSレイアウト機能とレスポンシブデザインについて実習する。	
		Scratchによるプログラミング	プログラミングを学習することにより論理的思考ができるようになり、問題解決能力を高めることを目標とする。授業で使用するプログラミング学習環境は、米国MITで開発されたScratchとよばれるものである。簡単なスカッシュゲームなどを作成しながら論理的な考え方の学習を行う。	
		グラフィックデザイン基礎	DTPなどグラフィックデザイン分野で、必要不可欠な技術となったコンピュータによるデザイン描画について、その基礎技法を習得する。DTP業界でデファクトスタンダードであるAdobe Systems社のIllustratorを用いた作品制作を実習し、その基礎制作手法を習得する。Illustratorでの描画操作の実習から、オリジナル作品の制作を行う。初期は図形描画技法を実習し、オリジナルマークを制作、中期は文字・段落の表現技法を実習し、オリジナルCDラベルを制作する。後期は立体表現やグラフ描画など発展的な制作手法を学び、オリジナルのカタログを制作する。	
		フォトタッチ基礎	写真表現において、必要不可欠な技術となったコンピュータによるフォトタッチについて、その基礎技法を習得する。写真業界でデファクトスタンダードであるAdobe Systems社のPhotoshopを用いた作品制作を実習し、その基礎制作手法を習得する。Photoshopでの写真加工実習から、オリジナル作品の制作を行う。初期は描画機能と文字機能を実習し、オリジナルバナーを制作、中期は写真の合成手法を実習し、オリジナルのファンタジー写真を制作する。後期は汚れの除去や色調の補正手法を実習し、オリジナルの合成写真を制作する。	
データサイエンスの基礎とExcel	データサイエンスの基礎として、人文科学、社会科学、自然科学、いずれの分野においても重要となる統計学の基本的な考え方と統計解析の手法を演習形式で習得することを目的とする。前半の授業では、設定されたテーマについて内容を配信動画で説明する。また、テーマに関するExcelの演習問題に取り組み提出する。授業の後半では、実際に行われたアンケート調査データを分析し、データの可視化から現状を分析したり、課題の解決策を提案するなど、課題演習に取り組む。また、それらの内容からレポート（Word）およびプレゼンテーション資料（PowerPoint）を作成し、第三者にわかりやすく説明する表現内容について学習する。			

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	言語・情報科目群	情報リテラシー科目 データサイエンスの応用とExcel	「データサイエンスの基礎とExcel」の発展科目として、推測統計学と多変量解析の基礎について学習する。また、ビッグデータ時代の到来により、大量なデータを活用する能力が必要とされているが、本講義ではデータによる問題の発見、調査の計画、データの収集と分析、結論の導出など、一連の過程を体験し、データに基づいて課題を解決する能力を身に付けることを目的とする。前半の授業では、配付資料をもとに説明を行い、Excelを用いた統計解析を実施する。後半の授業では、地域企業と連携し、企業から提供されたデータセットを小グループで分析する課題演習を行う。また、その分析結果をパワーポイントにまとめ、最後にグループ全員でプレゼンテーション発表を実施する。課題演習を行うにあたり、必要に応じて現地調査を行う場合もある。	
		データリテラシー・AIの基礎	AI・データサイエンスに関して興味・関心を持ち、AI時代に身に付けておくべき素養を習得し、日常や仕事の場で使いこなせるようになる。本授業は、eラーニングシステムを利用し、自身で広い様々な視点からデータサイエンス・AIに関しての基礎的な知識を学習する。社会で起きている変化について学び、データ・AIの活用領域や技術、利活用の最新動向について学んだあと、実際にデータを扱う。また、データを守る上での留意事項を学ぶ。	メディア
健康・スポーツ科目群	健康・スポーツ科学科目	スポーツと栄養	スポーツ選手における体力の維持、競技成績向上のために、トレーニングとともに適切な食事が重要である。そのために必要な基礎的栄養学知識を身につけ、競技スポーツ、健康の維持・増進のためのスポーツにおける食事に関しても理解を深める。知識の習得と共に、指導の場での応用方法や必要となるスキルを会得する。栄養学の基礎から学び、運動時に利用される栄養素について理解を深める。目的に合わせた食事計画について、スポーツ指導者として理解すべき科学的根拠から学習する。アスリートに多い栄養障害、ジュニア期の栄養教育などを踏まえた実践方法を習得する。	
		生涯スポーツ論	この授業の第一の目的はスポーツに関するさまざまな視点からの知識を学び獲得すること。さらに、今後のライフステージにおける豊かな社会生活にそれらの知識を活かすことである。スポーツに関する知識の伝達が授業の中心となる。基本的な事柄から、今まで考えることがなかったようなスポーツに関するトピックスを提供していく。毎回提示された資料を「熟読」し、自己の理解に基づく小レポートを期限内に提出する。担当者とのやりとりやディスカッション、アクティブラーニングとして各自の資料検索を通してさらに理解を深めていく。	
		スポーツと現代社会	スポーツの歴史や文化現象を通して、スポーツの文化的特質や社会的役割を理解する。スポーツの成り立ちや文化的特性等の基礎的内容の確認後、学校体育との相違や運動部活動の諸問題など身近なスポーツ活動の問題からオリンピックやドーピングなどのスポーツの社会的問題に関わる事象を取り上げ、その文化現象の課題を批判的に考える。スポーツに関わる文化的な諸問題を取り上げるが、それら諸問題を通して日本社会のあり方を問う。	
	スポーツ実技科目	スポーツ実技（テニス）	授業では基本技術の習得、ゲームのルールやテニスのマナーを学び応用技術を実習しゲームができるように学習する。グランドストローク（フォアハンド・バックハンド）、ボレー（フォアハンド・バックハンド）、スマッシュ、サーブの技術を習得する。各ショットに適したグリップの説明やシングルス及びダブルスのルールの理解、シングルス、ダブルスのゲームの行い方、テニスのマナーの理解、審判の仕方について学ぶ。	
		スポーツ実技（ゴルフ）	担当講師考案の『ゴルフスイング体操』によって、ゴルフスイングにおける安全で効率的な身体の動かし方を学ぶ。自身の身体を正しく動かすために必要となる機能解剖の基礎を学ぶ。ゴルフスイングの練習の仕方を覚えてボールを打つ技術を向上させる。ゴルフゲームをおこなってスコアのつけ方やゴルフ用語を学ぶ。プレー中のエチケットやマナーなどを知り、ゴルフを自立的に楽しめるようになるための基礎を構築する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	健康・スポーツ科目群	スポーツ実技（バレーボール）	基本技術の習得やルールおよび審判方法など種目の特性を知ることができる。また、仲間と楽しみながらゲーム体験をし、生涯において健康的な生活を送るための健康づくりや生涯スポーツへきっかけとなる運動体験ができる。本授業では、授業前半において主に基礎的なボールコントロール（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・ボール遊び）や、サーブ・スパイクなどの個人的技能の習得を目的とし展開する。授業後半では、ゲームを中心とした集団機能およびルール・審判方法などを学習し、実践的にバレーボールに親しめるよう授業を展開する。	
		スポーツ実技（バドミントン）	生涯スポーツとして、年齢男女問わず、レクリエーションにも競技的にも楽しむことのできるバドミントンの特性を、するスポーツ、観るスポーツ、支えるスポーツとして等、様々な角度から理解し、楽しさを多角的に学ぶことを目的とする。前半は、バドミントンの歴史の追体験、ヒッティングの基本的な技術の習得、後半は試合に関するルールの理解、試合をする・観る・支えるということが多角的な学び、レベル別ダブルスの試合を通して仲間との協力から課題発見・解決・向上を目指していく。	
		スポーツ実技（ジャズダンス）	ジャズダンスの中でも、王道のミュージカルダンス、観客に感動を与えるテーマパークダンス、そして現代のアイドルブームによりジャンル化されてきたアイドルダンスの3スタイル（ミュージカルダンス・アイドルダンス・テーマパークダンス）を学ぶ。まず、有名なミュージカルナンバーを使用し、ジャズダンスの基礎的な立ち振る舞い、ステップを学ぶ。次に韓国アイドル/日本アイドルのナンバーを使用し、その特徴を実践で学ぶ。最後にテーマパークで上演されるショーナンバーを使用し、状況設定も踏まえながら「観客に感動を与える踊り方」（ホスピタリティ）を学ぶ。踊りの中には、近年のテーマパークショーでも頻出するようになったストリートダンスも盛り込む。	
		スポーツ実技（エアロビクス）	音楽に合わせて、リズミカルに楽しく身体を動かし、健康・体力づくりができるのがエアロビックダンスである。本授業では、健康・体力づくりに役立つ知識を学び、エアロビックダンスで身体を動かし、生涯に渡って楽しくフィットネスライフを継続できるようになることが目的である。日常生活に取り入れられる運動や知識を紹介し、健康・体力づくりに役立つレクチャーを並行して行う。	
		スポーツ実技（スリムエアロ）	健康・体力づくりを目的としたエアロビックダンスについて、その特徴や運動内容を理解し、正しい身体の使い方や振付を学ぶ。本授業では、体力向上、シェイプアップを中心に楽しくエアロビックダンスを行い、学生生活から生涯において運動がライフスタイルに根付くことを目指す。エアロビクスダンスエクササイズに必要な知識と実技内容を理解し、安全で効果的、楽しさを兼ね備えた実技構成を身につけ、実践する。	
		スポーツ実技（ダンスエアロ）	健康・体力づくりを目的としたエアロビックダンスについて、その特徴や運動内容を理解し、正しい身体の使い方や振付を学ぶ。本授業では、様々なリズムの音楽を使ったダンス要素の動きを取り入れたエアロビックダンスを中心に学び、ダンス初心者でも取り組むことができる内容とする。学生生活から生涯において運動がライフスタイルに根付くことを目指す。エアロビクスダンスエクササイズに必要な知識と実技内容を理解し、安全で効果的、楽しさを兼ね備えた実技構成を身につけ、実践する。	
		スポーツ実技（水泳）	水泳の基本的技術と水泳に関する知識を理解し、自己の水泳能力を高める。この授業を通じて得られた水泳の知識・技能を生涯にわたる健康的なスポーツライフに活かせることが目的である。水泳の特性・技術を理解し、それを再現することが求められる。そのためには、水泳動作として指先から頭の位置、体幹、脚、足先までも意識化することが重要となる。毎回の授業時に他者へのアドバイスを積極的に行うことで自己の泳ぎへの視点も明確になる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	健康・スポーツ科目群	スポーツ実技科目		
		スポーツ実技（軽スポーツ）	トランポリン運動により空中で自分の体を動かし、新たな身体能力を発見することを目指す。各自のレベルに合わせて、全身運動により美しいプロポーション作り、脳の活性化・持久力・瞬発力・バランス感覚を養う。まず、器具の特性を知ったうえで基本動作を身につけ、日本トランポリン協会バッチテスト（5級・4級）に挑戦する。	
		スポーツ実技（ヨガ）	ヨガの知恵を現代社会に取り入れやすいかたちで、実技を中心に体験学習する。学生生活また卒業後も心身のバランスを保つセルフコンディショニングワークとして身に付けることを目的とする。授業では、様々な分野に活用されているヨガの知恵をセルフコンディショニングワークとして取り入れやすいかたちで学ぶ。実技は、体の構造的なことを踏まえ段階的に、全身バランス良く効果的に動かす為、気持ち良くマイペースで取り組め爽快感と達成感が得られる。フレキシブルな実技進行から楽しく学びながらクリエイティブな発想に繋がる。実技理論においては、ヨガ概論以外にも体の構造的なことやアーユルベータ、東洋医学などの伝統医学から心身のコンディショニングアップに繋がる要点を学ぶ。	
		スポーツ実技（サッカー）	サッカーのルールや特性を学び、個人技術を向上させチームスポーツとしてゲームを楽しめるようにする。本授業ではサッカーの技術、ルール、ゲームの進め方を学びながら個人だけではなくグループ・チームでの活動や取り組みの中でコミュニケーションを積極的に取りながら、ゲームを自立的に楽しめるようにする。毎回取得する技術のテーマを設定する。簡単なボール扱いから、ドリブル、パス、シュートと段階を踏んで技術を取得する。雨天時等でグラウンドでの実技が開催できない場合は、サッカーの知識や観戦する際の観る視点等について学ぶ。	
		からだと気づきと姿勢法	ネヘミア・コーヘン氏によってカナダで開発された姿勢調整法であるミツヴァ・テクニックを中心に、その基本的概念と実践の方法を学ぶ。授業では基本エクササイズを体得すること、またその過程において自己のからだの在り方に目を向け、耳を傾けることで、からだへの気づきを促すことを目的とする。ミツヴァ・テクニックの基本である座る・立つ・歩く・触れあうことを、一つ一つ丁寧にからだに向き合いながら練習する。床でのエクササイズでは日常生活の中で生じる無駄な緊張からからだを解放する。椅子を使ったエクササイズでは背骨の動きと頭の位置をバランスの良い状態に調整する。これらをくり返し練習することで、本来生まれ持った自然の防衛・調整機能を取りもどすよう「からだ」を再教育していく。	
スポーツ実技（スタイルジャズ）	スタイルジャズを学ぶことにより今日の理解を深め、身体表現の幅を豊かにすることを目的とする。本授業で、洋楽・邦楽(J-Pop)の歌詞に合わせたスタイルジャズの表現のしかた、アップテンポ・スローテンポの身体の使い方の違いを学ぶ。ジャズダンスの中でも、スタイルジャズは流行や話題になった曲で表現することにより、表現の幅が無限にある。さらに、2012年より義務教育で「現代的なリズムのダンス」が必修となり、新学習指導要領への対応として HIP HOP の基礎的な動きも取り入れる。			

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	初期演習Ⅰ	<p>本学で修得すべきことは何かを理解し、自主的に学び新たな発見を導きだせる力を身につけることを目的とする。このため、本学の「立学の精神」「教育目標」を知り、本学学生としての誇りと自覚を持つ。さらに、主体性・論理性・実行力を培い、女性として有為な社会人となるために、それぞれの学部学科の専門性に基づく知識と社会人基礎力の修得の必要性を理解し、各自のキャリアパスを自ら構築する。①所属学科の3つのポリシーと卒業生の進路に基づき、キャリアパスについてグループディスカッション等を通じて考え、自らの4年間の学習行動計画を立てる。②自己分析をもとに自分の適性や進路について考え、学習計画との関連性についてグループディスカッションを通じて、自らのキャリアパスを確立する。③学生生活上起こりうるトラブルとその解決方法を学び、グループディスカッション等を通じて、良識ある行動をとるための自己規範を構築する。</p>	
	初期演習Ⅱ（スポーツマネジメント）	<p>「初期演習Ⅱ（スポーツマネジメント）」の目的は、初年次学生が、健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科の学生としての誇りと自覚を持ち、本学科生にふさわしい主体性・論理性・実行力を培い、学部・学科の教育目標を達成するように導くことである。スポーツマネジメント学科の専門教育への円滑な導入を目的に、多様なスポーツマネジメント領域の現状をめぐるエビデンスをもとに今後の課題についてディスカッションを行い、卒業まで、さらには卒業後のキャリアを熟考する。</p>	
	健康・スポーツ科学論	<p>健康・スポーツに関する科学的アプローチは、研究方法によって細分化され多岐にわたる。スポーツ科学分野では、主として自然科学領域に焦点をあて、スポーツの科学的理解を中心に進める。一方、健康科学分野では、健康に関連する諸問題について、歴史的な背景を理解し、今後の健康の維持・増進に対する展望について考えさせることをねらいとする。健康科学分野では、現代の健康に関連する諸問題を取り上げるとともに、それぞれの歴史的な背景について理解する。そして、体育・スポーツの指導者が、今後の健康の維持・増進のために取り組むべき課題について考えさせる。スポーツ科学分野では、スポーツパフォーマンスに寄与する運動生理学、バイオメカニクス、トレーニング科学あるいはスポーツ栄養学を中心に学修し、スポーツ科学修得への基礎づくりを行う。</p>	
	スポーツの文化・歴史	<p>本科目は「①スポーツの起源、発展・変容を学ぶ」「②スポーツと文化の意味を理解する」「③スポーツの文化的構造について考察する」という3点を通じて「スポーツのこれまでとこれからを考える」ことを目的とする。あわせて、本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。</p> <p>今日、われわれが「スポーツ」といって普通に思い浮かべるスポーツのほとんどが、19世紀以降に主にイギリスにおいて形を整えられ、グローバル化したものである。一方、世界各地にはオリンピックや国際大会とは無縁のスポーツもある。そもそも、スポーツの語源は「気晴らし・遊ぶ」であり、人類の豊かな発想によって、遊び行動を展開してきた。スポーツはこれを取りまく社会・文化との関係を抜きにしては存在しえず、スポーツを文化として理解することの重要性は、スポーツをめぐるさまざまな現象のなかに社会と文化が投影されていることを読み解いていくことにある。スポーツに凝縮・刻印されている文化を人文科学的アプローチによって、異文化理解と自文化理解の展望のもとに講義を展開する。</p>	
	情報リテラシー	<p>大学教育に適応し、安全で適切な情報活用ができるための基礎的な情報リテラシーを身につける。コンピュータやネットワークの知識、情報モラルの知識と実践力を育成するとともにオフィスソフトの活用をもとにしたレポート作成の基礎的な技能を確実に習得する。本授業は、広い視点から情報活用の力を育成する。そのために、教科書を中心とした講義や実習などを繰り返し学習する。</p>	
	基礎英語Ⅰ	<p>リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングを総合的に学習しながら、実践的な英語力を獲得し、語学留学や海外旅行する際のコミュニケーションに役立つ力を養うことを目的とする。音声教材を中心に資料を活用しながら授業をすすめ、英語でコミュニケーションをとる際に必要な基本英会話を習得する。必要句、リスニング、基本フレーズを学び、さらに、それぞれの設定場面で理解しなければならない各種書類、パンフレット、広告、掲示、メニューなどを使用したクイズで、読解力の向上を得る。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎教育科目	基礎英語Ⅱ	「基礎英語Ⅰ」で身につけた、基礎的な英語力を応用し、さまざまな状況で、英語によるコミュニケーションができるようになることを目標とする。音声教材を中心に資料を活用しながら授業をすすめる、英語でコミュニケーションをとる際に必要な基本英会話を習得する。必要語句、リスニング、基本フレーズを学び、さらに、それぞれの設定場面で理解しなければならない各種書類、パンフレット、広告、掲示、メニューなどを使用したクイズで、読解力の向上を得る。		
	Oral Communication I	「英文法はある程度わかっている、いざとなると英語が話せない」という人は多い。本授業では、英語でコミュニケーションを図る際のフォーマットを確認し、実際に「使う」ことを経験しながら、コミュニケーション能力を養う。英語の基礎文法などを復習しながら、インタラクティブな授業を通して基本的な会話ができるようになることを目標とする。コミュニケーションにとって必要なターゲットをユニット毎に設定し、目標達成のための演習を行う。毎授業、小テストまたはユニットテストを実施する。ペアワークを多用したトレーニング形式の会話演習が中心で、授業は全て英語で行う。		
	Oral Communication II	「英文法はある程度わかっている、いざとなると英語が話せない」という人は多い。本授業では、英語でコミュニケーションを図る際のフォーマットを確認し、実際に「使う」ことを経験しながら、コミュニケーション能力を養う。前期に開講した「Oral Communication I」で学習した内容を踏まえ、英語の基礎文法や語彙などを復習しながら、様々な場面での基本的な会話ができるようになることを目標とする。コミュニケーションにとって必要なターゲットをユニット毎に設定し、目標達成のための演習を行う。毎授業、小テストまたはユニットテストを実施する。ペアワークを多用したトレーニング形式の会話演習が中心で、授業は全て英語で行う。		
専門教育科目	学科専門教育科目	スポーツビジネス最前線	スポーツビジネスは日々進化し、既存のスポーツビジネスの内部、あるいは異なる業種との連携の中で新しいスポーツビジネスが生まれている。本科目は、さまざまな健康・スポーツ関連企業からゲストを招き、各企業の最新情報やロールモデルについて学ぶことを目的とする。スポーツメーカーやプロスポーツチーム、広告代理店やスポーツメディア等のスポーツビジネスの最前線で活躍する実践者に触れ、ディスカッションをする中で、スポーツをビジネスにすること、そして社会を変革・進化させるビジネスという人間の営みとは何かについて理解し、本学科での今後の学びの方向性や、キャリア形成について展望する。	
		スポーツ産業と政策	スポーツビジネスで活躍するために必要なスポーツ産業とスポーツ政策の知識を身につけることを目的とする。そのため本講義では、スポーツ産業に含まれる市場領域の種類および各市場の特性や動向について学習する。また、「スポーツ基本法」や「スポーツ基本計画」など、スポーツの振興に関わる法律や計画あるいは施策・事業の成立背景や歴史の変遷、体系、諸外国の動向について学ぶ。	
		スポーツビジネス論	健康・スポーツビジネスでは、健康・スポーツ関連および女性をターゲットにしたビジネスについて理解し、「女性の起業」についての基礎的知識を得ることを目的とする。一般社会におけるビジネスおよびマーケティングの基礎を理解し、健康・スポーツ関連のビジネスや女性に関連深いビジネスについて考える力を養う。	
		スポーツマネジメント論	スポーツマネジメントでは、現代社会に生きる女性をキーワードにスポーツマネジメント学科の学生が専門資格に関連する「女性の職業展開」と「ライフコース」について考え、応用・実践できる力を身につけさせることを目的とする。マネジメントに関する基本知識をおさえながら、スポーツ組織のマネジメントやガバナンス問題について、具体的な事例を交えながら講義する。	
		スポーツマーケティング論	マーケティングとは、個人と組織の目的を満たすような交換を生み出すために、アイデアや財やサービスの考案から、価格設定、プロモーション、そして流通に至るまでを計画し、実行するプロセスである。現代におけるスポーツ産業の様々な成功事例からその裏側にあるマーケティング戦略を考察していく。マーケティング論は、個人と組織の目的を満たすような交換を生み出すために、アイデアや財やサービスの考案から、価格設定、プロモーション、そして流通に至るまでを計画し、実行するプロセスである。現代における様々な成功事例からその裏側にあるマーケティング戦略を考察する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 学科専門教育科目	スポーツガバナンス論	スポーツ組織の効果的なガバナンスを構築するために必要な知識と技能を習得することを目指す。そのため講義では、スポーツ組織にガバナンスが要請される社会的背景および、ガバナンス機能を発揮するボード（理事会）の役割（受託的機能、戦略的機能、創発的機能）と効果的なボードの要件について学ぶ。さらに、具体的な組織クライシスに関する詳細な事例分析を通して、経営組織における危機管理の技法を身につける。	
	スポーツ情報・メディア論	ICTの進展する現在、コンピュータを活用した「eスポーツ」など新たなジャンルのスポーツが登場している。そのような状況の中、さまざまな競技が知名度の獲得、競技人口の拡大のためのマーケティング活動を行っている。スマートフォンの普及やソーシャルネットワークの拡大などにより人々のメディア接触行動や情報獲得プロセスが大きく変化している中、スポーツそのものや選手、チームを「メディア」として活用するなどコミュニケーションも複雑化・高度化してきている。本授業ではメディアを中心としたスポーツのマーケティングコミュニケーションの現状を学び、課題を検討する。	
	スポーツイノベーション論	スポーツは、跳ぶ、走る、投げる等の特定行為をデフォルメ化した身体活動であり、目的志向性がきわめて高いという性質を有する。したがって、ある目的を達成するための技術体系としてのテクノロジーを活用したイノベーションと親和的である。本講義では、テクノロジーを主要な要素とするスポーツイノベーションの歴史を参照しつつ、「みる」「する」「ささえる」の視点からスポーツイノベーションの現状と展望について講義する。	
	ホスピタリティマネジメント論	ホスピタリティとは何か、考え方、要素、顧客対応、接客・接遇技法などについてサービス提供者の視点と享受者の視点から学ぶ。対象者の属性（性別、年齢、参加・来場目的等）に応じたホスピタリティのあり方に関して具体例を踏まえて探求する。スポーツ活動・スポーツイベント・スポーツツーリズム・スポーツ施設などスポーツ場面に特化したホスピタリティマネジメントの企画運営を学生自身がシミュレーションし、発表を経験する。日常生活および希望する職業に必要なホスピタリティマインドをベースとしたコミュニケーションスキル（言語・非言語）の習得を試みる。	
	地域スポーツマネジメント論	我が国における地域スポーツ推進の歴史を概観し、共生社会の実現に向けて“Sport for All”の理念や“コミュニティスポーツ論”の重要な社会的役割を理解する。特に、政策として推進されている総合型地域スポーツクラブ育成を題材にしながら、公共スポーツ施設の整備と経営の考え方、指導者養成をめぐる制度的課題、スポーツボランティア論、スポーツと市民社会論などについて講義する。	
	スポーツイベントの企画・運営	スポーツイベントとは、スポーツを使って何らかの目的を達成するための行・催事である。本講義では、スポーツイベントの歴史的背景とイベントの基礎知識をベースとし、スポーツイベントの企画・運営に関わるプロジェクトマネジメント・リスクマネジメント・マーケティング等の諸側面について具体例を交えた講義を進める。スポーツイベントと親和性の高いメディアビジネス、ツーリズム、地域活性化、ボランティア等との関連を学ぶとともに、学生自身がプロジェクトマネジメントを活用してスポーツイベントの企画・運営をシミュレーションし、発表する。なお、本講義は（一社）日本イベント産業振興協会の検定講座であり、検定試験に合格すると「スポーツイベント検定合格登録〇〇番」として呼称が使用できる。	
	スポーツ施設マネジメント論	公共及び民間のスポーツ施設運営にかかわる諸側面を取り扱い、屋内スポーツ施設、屋外スポーツ施設において行われるイベントや教室、レギュラープログラムの具体的なマネジメントについて理解を深める。商業スポーツ施設（民間フィットネスクラブ等）の運営管理、公共スポーツ施設の安全対策、公共スポーツ施設のイベント運営、地域スポーツ施設のマーケティング、学校体育施設の運営等に焦点を当て、実践的な事例を交えながら、解説する。なお、本講義は（公財）日本スポーツ施設協会の資格認定講座であり、認定試験に合格し登録すると「スポーツ施設管理士」資格が付与される。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 学科専門教育科目	トップスポーツ経営論	プロスポーツ・ビジネスに代表される、トップアスリート/チームを活用したビジネスに求められる知識と技能を養うことを目的とする。具体的にはこの講義では、国内外におけるプロスポーツの歴史的發展を事例として、スポーツ観戦サービスの歴史性について理解を深める。そして、多様なステークホルダーとの関係で成立する現代的なスポーツ観戦サービスの生産システム、ならびにスポーツファンの行動特性について理解する。さらに、スポーツ情報の物語化という一つのファンマネジメント技法を学習する。	
	スポーツ・ヘルストゥリズム論	オリンピック・パラリンピック大会、サッカーやラグビーのワールドカップに代表されるように、メガスポーツイベントは世界中から観戦者や観光客を呼び寄せる効果を有する。また現在、日本各地でマラソン大会や自転車ロードレースなどが開催され、移動や宿泊を伴うスポーツ参加者を集めている。このようなスポーツ参加・観戦・応援などを主目的とした旅行、スポーツ資源とトゥリズム資源を結び付けたスポーツトゥリズムが注目されている。本講義ではスポーツトゥリズムの国内外の事例を通じて、その概念や現状を理解すること、また近接領域である健康をテーマとしたヘルストゥリズムも加え、ヘルス・スポーツトゥリズムの役割や課題について学ぶ。	
	ヘルスケアマネジメント論	国民の多くが健康に関わる何らかの問題を抱えており、主要な関心事に健康づくりがあげられ、より健康な社会を目指すことが課題となっている。ヘルスケアマネジメント論では、ヘルスケアの理論・概念を学び、ヘルスケアの知識だけではなく、対象者の健康情報に基づいたヘルスケアサービスを促すマネジメントを学び、修得する。さらに、超高齢社会を迎える我が国における医療保険・介護保険の公的保険サービス、保険外サービスについても学び、今後のヘルスケアサービスを展望する能力を修得する。	
	アカウンティングⅠ	スポーツ組織の維持・発展のためには簿記・会計に関する知識が不可欠である。この講義では、基本的な簿記・会計の知識を身に付けることを目的とする。まずはプロスポーツ組織の多くにみられる株式会社を取り上げ、株式会社の貸借対照表や損益計算書等の会計情報の作成や開示の方法を理解する。ついで、作成した会計情報を加工して、定量的な経営データの初歩的な分析手法について講義する。	
	アカウンティングⅡ	アカウンティングⅠで学んだ内容を展開し、貸借対照表や損益計算書に加え、キャッシュフロー計算書の作成や活用方法について学ぶ。貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書のいわゆる財務三表を用いて、より進んだ定量的な経営データの分析手法を身に付けることが目的である。また、公益法人会計を取り上げ、株式会社以外の形態をとるスポーツ組織の会計の仕組みについても講義する。	
	実務技能対策論	実務において必要なスキルを学び、ビジネス系検定の取得を目指す講義である。数あるビジネス系の検定の中でも、ホスピタリティやサービスマインドなどに関するサービス接遇検定の2級、準1級取得を目指す。前半は主に「サービス接遇検定」を取得することを目標とし、サービス業務に対する心構え、対人心理の理解、応対の技術、話の仕方、態度・振舞いを学ぶ。後半は主に前半で習得した知識を形にする「実習」を行い、おもてなしの心とかたちを習得する。いずれも「サービスマインドの育成」を図る内容である。	
	経営組織論	経営組織論では、現代社会に生きる女性をキーワードに健康・スポーツ科学の学生が経営組織論の概念をもとに個人、集団、組織全体についての考察を進め、現代社会における「組織」の諸側面を深く理解すると同時に、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていくことをめざす。	
	ファイナンシャルマネジメント	組織の維持・発展には、経営資源としての資金の調達と運用に関する知識が不可欠である。本講義では、金融市場に関する基礎知識やファイナンスの基礎理論をふまえながら、資金の調達と運用に関するマネジメントの手法を学ぶことが目的である。あわせて、実際のスポーツ組織の事例に抛りながら、資金の調達と運用面における組織的課題や対応について解説する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 学科専門教育科目	消費者行動論	現代における消費者の多様性を理解し、その消費行動を分析していく。そこには、経営学の戦略的アプローチだけではなく、心理学的なアプローチから様々なケーススタディを学んでいく。広告や販売に心理学を実務的に応用して、大きな成果をあげることを実学的に学ぶ。消費者行動論は、消費者の行動をよく理解し、マーケティングに直接かかわってくる重要な学問である。人々がどのような刺激によって購買意欲が高まるのか、そのメカニズムを学ぶ。	
	販売管理論	販売士検定の取得を根幹に置いた講義である。商業、流通、マーケティングなど、取得に必要な知識とテクニックを学び、販売士3級の取得を目指す。リテールマーケティング（販売士）検定3級試験の学習を通して、①接客に関する基礎知識、②流通に関する基礎知識、③取扱商品に関する専門知識、④売り場や店舗を管理する能力、⑤経済の動き全体から見た店舗経営などを身に付ける。「商品が売れる仕組み」を理解し、様々な業界への就職に活かす。	
	マーチャンダイジング	マーチャンダイジングに関する基礎的な理解を深め、商品開発や、在庫管理、初歩的な販売業務を遂行できる能力を修得できるよう商学におけるマーケティングを中心に、商品を顧客の手元にきちんと届けるための戦略を学んでいく。商品政策、商品化計画の基礎力をつける。	
	ヒューマンリソースマネジメント	スポーツビジネスの経営管理者として人的資源（運動指導者や選手のほか組織指導者、スタッフ等）を効果的に管理するための知識・技能を学ぶ。この分野は人的資源管理（Human Resource Management）あるいは人材マネジメントと呼ばれ、組織における採用・異動、教育訓練、評価・考課、昇進・昇格、賃金・福利厚生・退職金などの管理に関わる知見が蓄積されている。この授業では、これら人的資源管理実践の基本的な考え方をスポーツ組織の事例とともに学習していく。特に、採用および評価の仕組みづくりはスポーツビジネスにおける重要課題であるため、実践的な学習課題に取り組む。	
	スポーツマネジメント学内演習	スポーツマネジメント学内演習では、「女性の起業」に必要な知識、特許取得のプロセスなどを学び、さらに接遇など実社会に必要な知識と実践力を身につけることを目的とし、起業および特許取得のプロセスを理解する。スポーツ経営学の専門演習であるため、学内の様々な部署とコラボレーションし、経営学の基礎とスポーツ産業における実践を学ぶ。外部企業や団体、NPO法人との連携も行う。	
	スポーツマネジメント学外実習	スポーツマネジメント学外実習は、スポーツ経営学における実践経営の専門演習である。課題解決を目的としたプロジェクト型の実習である。この実習を通して経営の基礎とスポーツ産業における実用を学ぶ。外部企業や団体と組み、実践的な経営学や、企業システムにおけるオペレーションを学んでいく。学外の企業とコラボレーションしたプロジェクトを通して、学びや訓練を受け、さらにサービス接遇など実社会に必要なスキルを身につけることを目的とする。	集中・共同
	専門英語A	この授業では、国際的なスポーツマネジメント実務および学術研究に必要な基礎的な英語のリーディングならびにスピーキング技術を身につけることを目的とする。そのため授業の前半には、スポーツビジネスに関する情報誌“Sports Business Journal”の読解および表現課題に取り組む。授業の後半には、英語論文の構造や重要頻出表現を学び、“Journal of Sport Management”など、海外の主要なスポーツマネジメント研究ジャーナルに掲載された論文の内容理解課題に取り組む。	
	専門英語B	英語圏のスポーツニュースやスポーツ選手の英語インタビューを教材に取り上げ、ことわざや言い回しなどスポーツビジネスの場や英語圏で使用する実用的英語表現を学ぶ。授業内容は、教材を学生自身が選び、原則として英語で概要を説明するとともに最も興味深いフレーズを用いたskit（寸劇）を紹介する。また、授業で紹介したフレーズを日常生活で使用することを課題とし、次回授業時に使用事例を紹介するなど、理解と定着を図る。	
	海外のスポーツビジネス研究	スポーツビジネスはグローバルな広がりを見せており、国際的な知識や感覚を身につけることが必要である。この研修では、ワシントン州スポケーン市に位置する本学海外分校を拠点として、現地の大学や地域の協力を得ながら、グローバルなスポーツビジネスの中心に位置する米国のスポーツビジネスについて学ぶ。具体的には、語学研修、スポーツビジネス集中講義、スポーツ施設の見学や体験レッスン、現地の大学や地域住民とのスポーツ交流等を通じて、スポーツビジネスに関する国際的な知識や感覚を身につける。	集中・共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 学部共通専門教育科目	スポーツ心理学	スポーツと心、スポーツにおける動機づけ、コーチングの心理、メンタルマネジメント（メンタルトレーニング、プレッシャー、あがり、スランプの対処法）、指導者のメンタルマネジメント等の心理面における基礎理論を理解する。本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。スポーツ心理学の初学者向けの授業である。スポーツ選手、中高保健体育教諭、スポーツ指導者、スポーツ関連産業従事者として必要なスポーツ心理学の基礎知識や実践応用を学ぶ。スポーツ心理学における主な研究分野である「メンタルトレーニング」「運動の制御と学習」「健康心理」「社会心理」のなかから様々なテーマを取り上げて授業を展開する。適時、健康運動科学研究所で実践している研究内容の紹介も行う。	
	スポーツ栄養学	アスリートとして体力の維持・競技成績の向上のために、さらに将来の健康づくりの指導者として生活習慣病の予防・改善を指導するために、スポーツに特化した専門的栄養学を習得する。始めに、各栄養素の生理作用と食品についての理解を深める。そして、アスリートに必要なエネルギー摂取量や栄養量を学ぶ。最終的に、それらを充足する総合的栄養管理の方法を会得する。	
	運動生理学	先進国社会では自動化、省力化、電気化による身体活動量の低下が、人間の健康に大きな影響をおよぼし社会問題となっている。そこで本講では運動やスポーツのもたらす身体活動が身体諸機能にどのような生理的変化をもたらすか学習する。本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。また、スポーツ指導者として、健康の維持・増進を目的としたインストラクターとしての専門的知識および技能等を修得することを目的とする。運動生理学では、運動時の諸反応として筋・神経系、呼吸・循環器系反応、内分泌器官とホルモンの働き、生体防御の仕組みとして働く免疫機能、高温・低温などの環境における体温調節機能などについて学習する。さらにこれらの身体の仕組みを理解した上で、健常者のみならず障がい者の体力トレーニングあるいは健康づくりについて理解を深める。	
	スポーツ医学	（概要）健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠なスポーツ医学分野についての知識を内科的分野と外科的分野の両面から身につけることを目的とする。 （オムニバス方式／全15回） （20 山添 光芳／7回） スポーツ医学の一般的テーマを中心に内科的領域について学ぶ。スポーツ選手の健康管理、トレーニングによる生理的適応現象、トレーニングによる病的現象、スポーツによる内科的障害とその対策について学ぶ。 （15 鳥塚 之嘉／8回） スポーツ医学の一般的テーマを中心に外科的領域について学ぶ。ヒトの体の精密な構造・機能を理解した上で、スポーツ外傷、障害について学ぶ。	オムニバス方式
	スポーツ運動学	スポーツ指導現場に必要な運動の見方・考え方を学ばせることにより、運動に関する理解を深めさせ、スキルの獲得とその獲得過程に関する質的評価ができるようにする。また、練習計画の立案ができるようにさせる。本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。運動を指導する際、その運動のバイオメカニクスの説明や生理学的な説明をしても役に立たないことが多く、むしろ主観的な運動感覚に基づくアドバイスにより「コツ」をつかみ、できる様になる。運動学は指導現場から経験的に獲得された事実から実際の指導にすぐに役立つ知識を提供する。スキルの獲得とその獲得過程における知識を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 学部共通 専門教育科目	体育原理	<p>本科目は「体育・スポーツとは何か」「なぜ体育・スポーツなのか」「体育・スポーツで何ができるのか」を考えることを目的とする。「体育」と「スポーツ」との相違点を明確にし、その意味と価値を学ぶことにより、現代社会における存在理由および意義について哲学的に探求する。加えて、「体育」「スポーツ」をとりまく現代的な問題を取り上げ、根本的な問いの設定と哲学・倫理学的方法により、それらの問題について読み解いてゆく。あわせて、本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。</p> <p>体育とスポーツの概念（意味・価値）の整理から、第一に「考える」ことの必要性を理解することから始める。次いで、体育・スポーツをめぐる現代的事象をテーマに取り上げ、根本的な問題設定と哲学・倫理学的方法から、その本質を読み解いてゆく。具体的には、受講生が予習にて読み込んだ文献、事前に収集した情報・知識に基づき自らの「問い」を設定することからスタートし、教員によるプレゼンからディスカッションへと発展的に展開する。</p>	
	運動器の解剖と機能	<p>体を構成する運動器の機能と役割を知ることにより、スポーツパフォーマンスの向上や、健康の保持増進に役立つ知識を得ることを目的とする。体を構成する骨、筋肉、靭帯、神経系の基本名称とそれら組織の機能的役割について学ぶ。ここでは組織のイラストを多く描くことで視覚的な組織構造の理解を深める。また、体表解剖を通じて自身の体の構造について関心を高める。</p>	
	スポーツトレーニングの科学	<p>トレーニング科学の基礎理解として、人間の身体の適応能力についての基礎知識を養うとともに、目的とする身体機能を高めるための具体的な方法を学び、科学的な身体トレーニングについての知識を深める。一つは、スポーツパフォーマンスを高めるための科学的研究成果と高度な実戦経験に基づく種々のトレーニング理論を理解することを通し、各種トレーニングや競技特性に関する理解を深めることである。一方で、健康・体力づくりのための適切な運動プログラムを構成する知識を深めることと共に、身体運動を生活に取り入れる能力を養い、健康を保持・増進していくための適切なトレーニング方法を身につける。これらの各種トレーニングに対する考え方や方法を学び、基本的なトレーニング計画の立案ができることを目指す。トレーニングの原理や一般原則を理解し、アスリートのスポーツパフォーマンスを高めることを狙いとした各種トレーニングの方法論や、健康、体力の増進を狙いとした方法論を概説する。スポーツトレーニングは人間の体の適応性を利用しスポーツ能力の強化・発達・維持をはかる課程である。本講では人間の適応能力の開発を科学的に探求する。</p>	
	救急処置演習	<p>日常生活に比べてスポーツ活動時に傷病発生リスクは高くなる。緊急時に必要な救助や処置ができるように救急処置の知識と技術を身につける。本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。運動開始前・運動中・後の自覚、他覚徴候を理解し、運動中止を含むリスクマネジメントをする。内科的急性、慢性障害の概念および予防法について理解する。四肢、体幹の外傷、慢性期における整形外科的障害の症状および予防法を理解する。心肺蘇生法、外科的救急処置を実践的に学ぶ。</p>	
	バイオメカニクス	<p>バイオメカニクス（生体力学）の学修によって、身体運動の運動成果（パフォーマンス）がおおよそ物理学、解剖学および生理学が示す原理に従っていることを理解することを目的とする。身体運動の仕組みについて力学的理解を中心に学修していく。バイオメカニクスの学修には、解剖生理学・機能解剖学・運動生理学の知識が欠かせないため、その内容も織り交ぜながら授業を進める。</p>	
	学校保健	<p>本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。学校における保健教育・保健管理を充実させるとともに、併せて体育実技を通して子ども達に健康の保持増進並びに学校安全に関連する実践力を身につけさせるために必要な専門的知識および技能を修得することを目的とする。本科目では学校保健の意義と目的を理解し、学校における保健教育・保健管理、さらに組織活動に十分に対応できる知識と諸問題について学ぶ。また、学校安全の観点から事故・災害の実態と防止、さらに応急手当について学び、現代社会で生きる上で必要な幅広い安全教育について考える。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 学部共通専門教育科目	公衆衛生学	公衆衛生学は「人間集団を種々の疾病から守り、健康の維持・増進を図り、その精神的肉体的能力を十分に発揮できるような環境にすること」を目的とした学問である。公衆衛生に関する広範囲に亘る事項について解説し、集団の健康を維持するための基本的知識や考え方を修得することを目的とする。また、本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。授業内容は、①保健統計と我が国の健康レベル、②感染症の疫学と予防対策、③ライフスタイル（食生活、運動、ストレス）と健康との関係、④人が健康を維持するための環境（生活環境・地球環境）の諸問題とその保全方法、⑤国・地方公共団体によって進められる保健行政サービス等となる。	
	発育発達・老化論	科目の目的は、乳幼児期から高齢期に至るからだの発育発達と老化の過程を理解し、体育・スポーツの指導者として個々の状態に相応しい運動プログラムが提供できる能力を身につけさせることである。子どもの成長に伴うからだの発育と機能の発達過程を理解することは、学校教育に関わる教員のみならず、スポーツ指導者にとって必要なことである。また、成長期を経て高齢期に至る過程をどのように過ごすかについて考えることは、高齢化社会に突入した現代社会での生き方を模索するうえで意義がある。以上のように、この授業ではライフステージに沿って学習する。	
	スポーツ指導論	近年日本では多くのスポーツ種目が老若男女問わず盛んに行われるようになった。見るスポーツから実践し楽しむスポーツに形態が変化し、スポーツの役割は社会的にも又、個人の健康の維持・増進に欠かせない。そのスポーツ指導について正しい知識と効果的な指導法を理解することを主な目的とする。スポーツの持つ本質を学び、人々がスポーツを実施する意義を理解させる。学校や社会体育において、また地方行政においてもスポーツの振興は重要な課題であり、それに伴ったスポーツ指導者の育成と環境整備が盛んに行われている。この授業では、スポーツ指導の目的、方法、計画、安全対策等について学習する。	
	スポーツ社会学	現代社会におけるスポーツの役割・機能、社会的価値、あるいはスポーツの問題点などの分析を通して、スポーツ・体育の指導者として求められる深い知識を得、その知識をもとに、自分で問題を設定し、分析・解釈し、考え抜く技術を得ることを目的とする。また本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。 本講義では、固定観念や価値観にとらわれずに、最広義に理解されるスポーツ（気晴らし、遊びを含む）について、歴史的・社会的な背景を織り交ぜながら考えることによって、スポーツについての視野を広げて行く。テーマは身体文化、民族、儀礼・宗教、教育、国家・権力、伝統と近代、植民地主義をはじめ、今日的な事象としてのメディア、コミュニケーション、性・ジェンダー、エスニティ、観光、など幅広く取り扱う。基本的な進め方としては毎回、テーマを設定し、映像・画像資料を糸口にして複眼的視点から考察を進める。	
	スポーツ行政・法規	わが国のスポーツに関する行政組織については、スポーツ基本法によりスポーツ振興の基本的方針が示されており、この目的を実現するために種々様々なスポーツ政策が具体的に実施されている。そこで、スポーツ行政の概念および現状等について理解を深めるとともに、体育・スポーツの実施に際し起こりうるであろう、体育・スポーツ事故に関わる法的責任および安全管理について理解を深めることをねらいとする。現代体育・スポーツ政策と行政等および体育・スポーツ事故と安全管理について解説し、理解を深めていくとともに、小レポート提出により、理解度・到達度を確認する。また、グループワークやレポート発表等も行う。	
	スポーツ経営管理学	現代のスポーツにおける環境は、地域のスポーツをはじめとし非常に多様化された組織の集まりとなっている。将来、スポーツ指導者という立場でその多様化されたスポーツ現場に対応しうる能力の一つとして、経営学的なものの考え方をもてるようにすることがねらいである。また、本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。スポーツ産業の経営と戦略について、経営戦略論、経営組織論、マーケティング論など、複合的に経営学の観点から理解を深めていくとともに、毎回の課題提出と2回小レポート提出、そして最終試験により、理解度・到達度を確認する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 学部共通専門教育科目	体力の測定評価演習	体力の構造や各体力要素の測定方法の基本について理解し、実際に測定ができる能力を涵養する。また、得られた測定結果を適切に評価し、それに基づいた運動処方やスポーツ指導ができる能力を身につける。スポーツ指導で合理的に競技力を向上させたり健康づくりのための体力向上を効果的に実現させるためには、指導対象者の体力や運動能力を十分に理解した上で運動プログラムの作成や指導方針を考える必要がある。本科目では体力の構成要素や体力測定の意義について理解し、学校教育現場をはじめ多くの体力測定で活用されている新体力テストの正しい測定方法並びに人体計測や身体組成の測定要領と測定方法も身につける。さらに、得られた測定結果を正しく分析・評価し、体育・スポーツ指導での活用の仕方について考える。	
	コーチング論	競技者を育成する高度な知識と効果的、計画的な指導法を学習する。また、継続的にスポーツを行う上で、勝利を目指すこと、今以上の技能の水準や記録に挑戦させることは当然ではあるが、大会で勝つことのみを重視し過重な練習を強いることがないようにすることと、競技者としての健全な心と身体を培い、人間性を育むためのバランスのとれたマネジメントと指導ができるようにする。スポーツコーチングの基本理念を理解した上で、プレイヤーの自立と自律を支援し良好な関係を築くためのコミュニケーションスキル、ミーティングの方法、トップアスリート育成のための視点、チームマネジメント、情報の活用法を学ぶ。	
	健康・スポーツカウンセリング	人間の家庭・学校、社会的側面から、多様な性格、行動パターンについて理解させ、豊かな人格をつくり上げていく過程を系統的に学習する。心の健康や心の発達についての基礎的知識を学習することで、その阻害要因を考え対処法としてのストレスマネジメントを実践できる能力を身につけさせる。更に、カウンセリングの基礎的な知識や心理学などを学習することで自律訓練法や内観法を通してカウンセリングマインドを体験する。応用として、スポーツにおけるカウンセリング技法も考える。	
	生活習慣病論	病気、健康、体力の概念から健康づくりにおける運動の役割を理解する。生活習慣病の予防や、高齢化社会における健康管理など健康と運動を結びつけその効果を理解する。さらに安全に運動を行うためのメディカルチェックも学ぶ。健康について病気、健康、体力の各面から概説し、健康を成立させる因子、阻害する因子を探求する。生活習慣病を具体的に学ぶ。さらに、健康の維持・増進に必要な方法について健康と運動の関係を中心に具体的に学ぶ。運動前および運動している時のメディカルチェックについて学ぶ。	
	運動処方	現代生活の利便性により身体活動量の低下が健康問題に大きな影響を与えるようになった。そこで年齢や性差を理解した上で、多くの対象者の健康の保持・増進、体力向上のための運動処方プログラムが立案できる知識を学習する。運動処方に関連した基礎知識も含め、運動負荷試験を含む運動処方に則った運動プログラムに対する理解を深めた上でプログラム作成法を学ぶ。さらに、エネルギー代謝、加齢、保有疾病などの運動処方において考慮しなければならない諸問題に関する知識に対しても併せて理解を深める。	
	フィットネス指導法	個々人の心身の状態に応じた、安全で効果的な運動について理解し、自ら見本を示せる実技能力と個人および集団に対する運動指導能力を身につける。また、運動の継続を支援するコミュニケーション能力の獲得を目指す。本授業では人の健康と運動・身体活動との関係について学ぶとともに、フィットネス現場で実施されている各種プログラムの特性、運動強度、効果などを修得しながら、安全で効果的な運動プログラムを作成する能力の基礎を身につける。	
	介護法・介護予防演習	日本では現在少子高齢化が進み、介護の必要性はますます高まっている。介護の知識は将来役立つ知識であり、家族の為にもなる。介護予防の考え方、介護方法、障害を持っている人の機能回復を考慮した介護について理解を深める。介護の対象者は高齢者、脳血管障害、下肢の骨折とし、リハビリテーション、体力測定、評価、運動、介護の実際について理解する。介護の対象者は高齢者、脳血管障害、下肢の骨折とし、リハビリテーション、体力測定、評価、運動、介護の実際について系統的、実践的に学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 学部共通専門教育科目	運動療法演習	<p>(概要) メディカルチェック、健康診断結果、生活習慣病患者を学び、運動プログラムの作成と管理を学ぶ。運動負荷方法を学ぶ。パーキンソン病、高齢者、糖尿病患者の運動療法を学び、メディカルチェックを理解する。さらに運動負荷試験の意義と目的を学び、実際の運動負荷試験を通じて心電図などの生理的な反応について理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(38 武岡 健次/13回) パーキンソン病、高齢者、糖尿病患者の運動療法を学び、そのメディカルチェックを理解する。</p> <p>(20 山添 光芳/2回) 運動負荷試験の意義と目的を学び、実際の運動負荷試験を通じて心電図などの生理的な反応について理解する。</p>	オムニバス方式
	健康行動科学・演習	健康を行動の側面から理解し、人の健康に関する行動の変容と維持について、筋道を通して考える知識を身につける。また、望ましい健康行動を支援するコミュニケーション能力の獲得を目指す。健康行動の変容と維持に関する行動科学の理論・モデルについて、理論・モデルの背景から、理論・モデルの健康行動への応用まで、グループワークおよびロールプレイを実践しながら学ぶ。	
	健康・スポーツ実践実習	指導現場における健康・体力づくりやスポーツの指導は単に技術指導だけでなく、諸問題が伴うものである。学内では解決できない実践的な学習課題を社会に出て実習し、指導現場の実情を把握すること、問題解決の実践力を養うことを目的とする。実習先は公共スポーツ施設、商業スポーツ施設、障害者のスポーツ施設、職場の運動・スポーツ現場、地域の運動・スポーツ現場などである。将来運動指導者となるために必要な知識・技能・態度の実践応用力を身につける。	集中
	レクリエーション論	指導者を志すわれわれにとって必要なレクリエーションに関連する原理、心理、運動論、指導論、組織論、企画論、グループワーク論等の基礎理論を学習する。ゲームや歌、集団遊び、スポーツといったアクティビティを効果的に活用し、「集団をリードする」「コミュニケーションを促進する」「楽しい空間をつくる」といった、対象者や目的に合わせてレクリエーション活動を企画・展開できる「レクリエーション・インストラクター」、スポーツを活用したレクリエーション活動を通じて、運動に親しんでいない人たちを含め、だれもがスポーツ・レクリエーションを継続的に楽しめる場を創出する「スポーツ・レクリエーション指導者」を目指す科目であることから、レクリエーションの理論を現代に則した一般的な形で解釈し、その考え方、推進の方法、教材や指導法、事業計画の立て方、指導者の役割等にまとめて学習する。	
	レクリエーション指導法演習	参加者が気持ちよく参加できるよう支援者としての対応の仕方や表現力を身につけるため、コミュニケーション・ワークの技法を学ぶ。ゲームや歌、集団遊び、スポーツといったアクティビティを効果的に活用し、「集団をリードする」「コミュニケーションを促進する」「楽しい空間をつくる」といった、対象者や目的に合わせてレクリエーション活動を企画・展開できるレクリエーション・インストラクター、スポーツを活用したレクリエーション活動を通じて、運動に親しんでいない人たちを含め、だれもがスポーツ・レクリエーションを継続的に楽しめる場を創出するスポーツ・レクリエーション指導者をめざす科目であることから、中心課題は、ホスピタリティ・トレーニングとアイスブレイキングの技法となり、具体的な活動・種目・指導技術を学ぶ。	
レクリエーション指導法実習	多様なレクリエーション活動・種目があることを理解し、他人に指導できるよう学習する。ゲームや歌、集団遊び、スポーツといったアクティビティを効果的に活用し、「集団をリードする」「コミュニケーションを促進する」「楽しい空間をつくる」といった、対象者や目的に合わせてレクリエーション活動を企画・展開できるレクリエーション・インストラクター、スポーツを活用したレクリエーション活動を通じて、運動に親しんでいない人たちを含め、だれもがスポーツ・レクリエーションを継続的に楽しめる場を創出するスポーツ・レクリエーション指導者をめざす科目であることから、近年いろんな場所で親しまれているニュースポーツを多く取り上げて体験学習を通して指導力を上げていく。また、演習で行なったことからも実習として実施し、より高い指導力の獲得を目指す。したがって、この科目でも、指導案の作成、相互指導が頻繁に実施される。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 学部共通専門教育科目	障がい者スポーツ論Ⅰ	障がい者にスポーツを指導する場合には、障害についての基礎知識を持ち、なおかつスポーツ指導についての知識と技能を身につける必要がある。この授業では障がい者のスポーツ振興に必要な基本的内容を理解し、身近な障がい者のスポーツ活動を支援できる能力を身につけることを目的とする。一般的にスポーツ振興を支える柱として、組織の充実、施設の整備、指導者の育成、事業の活性化、情報の提供、財源の確保などが挙げられるが、障がい者にとってのスポーツ振興もこれと同様である。この授業では、障がい者のスポーツ振興の現状について映像等を利用してわかりやすく紹介し、またボランティアとして参加できる障がい者のスポーツ活動の情報も提供する。	
	障がい者スポーツ論Ⅱ	障がい者にスポーツを指導する場合には、障がいについての基礎知識を持ち、なおかつスポーツ指導についての知識と技能を身につける必要がある。この授業では各種障がいを理解すること、また、障がい者へのスポーツの指導法を理解することを目的とする。障がい者スポーツ論Ⅰでは、障がい者のスポーツ振興の基本的内容を学習したが、この授業では「障がいとは何か」ということに着目し、障がいの種類や障がいを受けていることによる不便さ、その不便さを補う補装具などをわかりやすく紹介し、その上で障がい者に対するスポーツの指導法について学習する。	
	障がい者スポーツ指導法	障がい者にスポーツを指導する場合には、障害についての基礎知識を持ち、なおかつスポーツ指導についての知識と技能を身につける必要がある。この授業では障がい者が日頃親しんでいるスポーツ・レクリエーションを実践し、その指導の要点を理解することを目的とする。主に全国障害者スポーツ大会で実施されている競技・種目を実践し、「決して特別なスポーツではない」ということを理解した上で指導方法を学習する。また、グループワークを通じて、障がい者も親しめるスポーツ・レクリエーションの考案を試み、「工夫すること」の重要性も学ぶ。	
	スイミング	スイミングでは、基礎の泳法を修得することで、記録の向上や競争の楽しさを味わい効率的な泳ぎを身につけられるようにする。さらに授業実践を通じて安全管理についても学習することを目的とする。本科目は、中高教科保健体育におけるスイミング分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。水泳や水中運動の実際として、クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライなどの種目を中心に授業を展開する。具体的には、水中を進むための身体姿勢の確認と維持、息つぎを楽に行うためのプル・キック・コンビネーションの指導をする。また、初歩的な飛び込み・スタート・ターン浮き身・潜水といった総合的な運動へと展開していく。	
	トラックアンドフィールド	受講生が、記録測定の正しい方法と実技中の安全対策を学修するとともに、技能向上に積極的に取り組み、記録挑戦や競争への楽しさや喜びを体感することを期待する。本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。陸上競技では走・跳・投という人の基本的な動きを競技としているが、距離や方向、扱う物の特性の異なる種目が多くある。その中で、中学校体育授業で取り扱われることの多いトラック種目（短距離走、長距離走、ハードル走）とフィールド種目（走幅跳、走高跳、砲丸投）を授業で行う。各種目の特性や運動構造、練習方法やルールを学習し、記録測定会の運営方法を学ぶ。	
	体操	体操は徒手体操をはじめ体づくりや動きづくりの基本を通して自己の健康・体力を維持増進しようとする運動である。また、学習指導要領の体ほぐしの運動と体の動きを高める運動では、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めることなど、種々のスポーツにおいて欠かすことができない動きの習得を目指し、授業では身体的基本的操作と創作能力や実践能力を養う。本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。体操は健康を目的に実施されることが多く、徒手および手具を用いた基本的な体の動かし方を認識し実践する。体づくり運動としては、体ほぐしの運動や体の動きを高める運動などは運動指導の基礎であること、また、心や体の関係や仲間との対話を通して、自己や他者に対する気付きを高めながら手軽な運動や律動的な運動を認識し実践する。 指導上の留意点として、自己の身体を再認識する（体のゆがみやくせを把握する）ことにより、効率的なパフォーマンス向上の図り方を理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 学部共通専門教育科目	器械運動	<p>学校体育で取り扱われる器械運動領域について理解し、学習指導要領で取り上げられている技を習得するとともに、運動観察力を高め、生徒の運動を評価できる能力を身につけることを目的とする。また、本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。</p> <p>器械運動は非日常的な運動形態をもつために、難しい、怖いなど敬遠されやすい教材の一つとなっている。これらの問題を解決する為に、段階的練習法の必要性を説き、実技での運動技能の習得にとどまらず、受講者の主観的容易さ（できそうな気持ち）を重視しながら、簡単な運動から難しい運動へと発展させる中で基礎的な学習理論についても学ぶ。</p>	
	バレーボール	<p>6人制バレーボール、9人制バレーボール、ソフトバレーボール、ビーチバレーボールとして多くの国民に親しまれているバレーボール。将来指導者としての基本技能習得とゲームづくりについて学ぶ。本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。指導者として必要最低限の技術構造の理解と技能習得、そしてゲームを通してのチーム作り、さらに審判技術を含めた運営を学習する。単純で動きの小さいプレイから、徐々にダイナミックなプレイへと、そしてその結合あるいは組み合わせによるコンビネーションプレイへと発展させる。</p>	
	バスケットボール	<p>本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。バスケットボールは、現在我が国で最も盛んなスポーツの一つであり、中学校および高等学校の保健体育科の中にゴール型球技として含まれる代表的なスポーツ種目である。この科目は、バスケットボールの基本的な技術・戦術の習得はもちろん、初心者に対する指導法、ゲームの審判法および運営法などを習得することを主な目的としている。ミニゲーム（3対3や4対4）を使って基本技術や基本戦術を習得すると同時に、M-T-M methodを用いたゲームの質を高める球技スポーツの指導法を学習する。審判法も習得し、ゲームの運営方法を学習する。クラスを6チームに分け、各チームのキャプテンを中心としたグループ学習を展開する。「知る（頭でわかる）」→「できる（身体でわかる）」→「伝えられる（本当にわかる）」の段階を経験する授業を目指す。</p>	
	ハンドボール	<p>ハンドボールにおける指導法や審判法を習得することを目的とする。また、本科目は、中高教科保健体育におけるハンドボール分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。1. ハンドボールにおける基礎的な技術・戦術の習得とその指導法の学習、2. 身体接触を含むプレーの中で、味方に協力する態度やルールを守り審判の判定を聞く態度の養成と指導法の習得を目指すとともに、教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。</p>	
	柔道	<p>本科目は、中高教科保健体育における柔道分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。柔道の起源と変遷および柔道の特性を理解し、柔道の基本動作そして対人的技能を習得させる。また柔道の理念である「精力善用」「自他共栄」の精神にもとづき、礼儀や相手を尊重する心などの社会的態度や行動を身につける。</p>	
	剣道	<p>本科目は、中高教科保健体育における剣道分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。剣道の起源と変遷および剣道の特性を理解し、剣道の基本動作である構え、足さばき、打突の仕方・受け方、そして対人技能であるしかけ技、応じ技、試合における有効打突の基準・審判の仕方について学習し、剣道技術習得のための基礎を固める。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 学部共通専門教育科目	ダンスⅠ	学習過程では個性の育成や仲間との活動を通して仲間とのコミュニケーション能力を高め、伝承されてきた踊りやリズムにのって全身で踊る楽しさを通し自己表現法の技能の獲得を目指す。また、本科目は、中高教科保健体育におけるダンス分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。中学校・高等学校体育科の領域「ダンス」について、特に「現代的なリズムのダンス」及び「フォークダンス」を中心に扱う。授業前半では、舞踊表現に不可欠な身体技法や考え方について実践し理解を深める。「現代的なリズムのダンス」では、①ダンス授業の導入としての体ほぐし・心ほぐしの技法②リズムダンスに係る基本的な技術・知識③体育科授業で取り扱う「現代的なリズム」の知識理解の習得について、実践を通して学ぶ。「フォークダンス」においては、学習指導要領で取り上げられているフォークダンスを中心に、踊り方などを理解し、仲間と交流して踊る面白さや楽しさを学ぶとともに、人の根源的な踊りへの欲求を理解する。授業後半では、小グループによるダンス作品の創作及び発表、鑑賞の実施を行い、相互評価を学ぶ。	
	ダンスⅡ	ダンスは身体的、情緒的、知的に自己表現ができる身体によるボディランゲージである。そのため個の創造的な能力や仲間とのパーソナリティ開発を深めその教育的価値についても理解する。 また、本科目は、中高教科保健体育におけるダンス分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。ダンス教育における「フォークダンス」「現代的なリズムのダンス」「創作ダンス」の3分野の特性や教育的意義を理解した上で、本科目は「創作ダンス」にしぼり学習する。内容は、①身体の開放②即興による動きのデッサン③モティーフづくり④作品化への技法⑤グループによる作品化⑥作品の鑑賞と相互評価などを学習する内容である。	
	ダンスⅢ	コンテンポラリーダンスは多様な音楽を使い、独創性の高いジャンルである。個人技能の獲得と身体でのコミュニケーション能力を高める。本科目は、中高教科保健体育におけるダンス分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。フロア/センターエクササイズを中心に、コンテンポラリーダンスで多くみられるフロアを使った動き・パートナーリング・ジャンプなどのダンス技術を身につける。レパトリーワークでは動きのボキャブラリーの探索と発見、作品創作の基礎的知識を学びながら、振付やダンスに必要とされる表現力を磨いていく。	
	卓球	生涯スポーツのひとつとして国民に広く親しまれている卓球の特性と魅力にふれ、生涯にわたって、地域や職域等において家族や友人などととも卓球を楽しむことのできる基礎的な技能や初歩的なゲームのできる能力の習得をねらいとする。本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。卓球の基礎的技術を習得し、楽しく試合ができることを目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	
	バドミントン	基本的な練習を通して、個人の技能を高め、仲間と協力して授業を形づくっていくことで、自ら主体的に行動し、そして協調性豊かな学生と成長していくことを期待したい。本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。バドミントンの基礎技能を磨くこと目的に、毎回の授業の前半に礎技術に関する練習をおこない、授業後半にシングルスやダブルスのゲーム実践を行う。中高教員さらにはスポーツ指導者として必要な資質や授業運営力も習得するため、前半の練習を受講生でローテーションして担当し、ウォーミングアップも含めて練習メニューを組み、そのメニューに沿って授業を主体的に運営する形式をとる。	
	保健体育科指導法Ⅰ	保健体育の領域の構成・内容と指導法の基礎的知識と理解を目指す。学習指導要領の保健体育科の目標・内容について解説し、保健体育科に求められている課題を認識する。また、指導法に関する教育用語や教授学の原理についての基礎的な知識・概念を解説する。さらに授業づくりと指導の実際を先行実践から読み拓く。教育の方法および技術（情報聞きおよび教材の活用を含む）を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 学部共通専門教育科目	保健体育科指導法Ⅱ	「保健体育」の授業を具体的に構想し実施するための方法論（授業づくりの基本的視点から、具体的な教材づくり、指導方法に及ぶ）を、受講生各自が獲得する。「保健体育」の授業の方法論上の諸問題を、できるだけ授業に近い形で実践的に学ぶ。ここでは、なるべく子どもの実態をふまえつつ、「なにを、どのようにして」納得してわからせるかを、具体的な教材づくりと教材による学習の実体験により考察する。同時に、テーマに即して教育の方法および技術（情報機器および教材の活用を含む）を習得する。	
	保健体育科指導法Ⅲ	様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、当該教科の授業を構築する力を身につけるとともに、当該教科を教授する際に必要となる教材活用の理論と方法について学ぶことを目的とする。保健学習の内容および教育方法を習得し、学習指導案の作成および模擬授業を通して実践力を身に付ける。また、互いに授業分析および授業観察を行って学びあうことで、より効果的な授業展開を検討することができる。また、中学校と高等学校の内容を合わせて理解することで、生徒の実態をふまえた系統的な学習内容を設定する能力を身に付ける。学校保健や公衆衛生学等の関連科目で得た知識をふまえ、中高生向けの授業内容を構成する力を身に付ける。	
	保健体育科指導法Ⅳ	保健体育の授業づくりを目的に、1. 学習指導要領（保健体育）の目標及び運動領域ごとの内容並びに全体構造が説明できる、2. 各運動領域の学習内容について指導上の留意点を理解している、3. 保健体育と背景となる運動文化との関係を理解し、教材研究に生かすことができるようになることを目標とする。授業で取り上げる教育素材について吟味し、その中から教えようとする内容を定めるとともに、学習者の実態をふまえてわかりやすく、意欲をもって学習できるための教材づくりを学んでいく。また、その際の教師の指導上の留意点や効果的な指導方法を身につけていく。	
	保健体育科指導法 （体づくり運動・器械運動）	（概要）保健体育実技における領域（体づくり運動・器械運動）を指導する資質能力を修得する。 （オムニバス方式／全15回） （8 五藤 佳奈／8回） 保健体育実技における体づくり運動の領域を指導する資質能力を修得する。体力を高める運動と体ほぐしの運動について指導すべき内容と方法を身につける。 （19 三井 正也／7回） 保健体育実技における器械運動の領域を指導する資質能力を修得する。学習指導要領で取り上げられている技を修得させ、運動観察力を高め、生徒の運動を評価できる能力を身につけさせる。	オムニバス方式
	保健体育科指導法 （陸上競技・水泳）	（概要）保健体育実技における領域（陸上競技・水泳）を指導する資質能力を修得する。 （オムニバス方式／全15回） （11 伊東 太郎／8回） 学校体育で取り扱われる「陸上競技」領域について理解する。陸上競技の走・跳・投の技能を習熟し、技能の特性に基づいた練習法を理解する。陸上競技の観察眼を養い、生徒の発達段階に応じた効果的指導法を修得する。 （13 田嶋 恭江／7回） 中高教員として必要なスイミング教科指導の資質・能力を修得することを目的とする。スイミング授業の実習形式で実践指導を行うことで、学習指導段階での運動課題の設定や方法、また学習課程における指導方法を自ら学習することにより、実践的な能力や態度を身につける。	オムニバス方式
	保健体育科指導法 （球技）	保健体育実技における領域（球技）を指導する資質能力を修得することを目的とする。球技に関する指導実践（模擬授業）を通じ、指導力を養成する。教職課程履修学生は、中高教科内容との関連性およびその活用方法等（教材化）につき主体的に探求する力を修得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 学部共通専門教育科目	保健体育科指導法 (武道・ダンス)	<p>(概要) 保健体育実技における領域(武道・ダンス)を指導する資質能力を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(37 岡崎 祐史/8回) 保健体育実技における武道分野を教授する専門的知識および技能を修得することを目的とする。教職実践力を構成する教科指導力・授業実践力を高め、武道の授業展開が可能となる能力を身につけることを目標とする。</p> <p>(10 豊永 洵子/7回) 中高教員として必要なダンス教科指導の資質能力を修得する。ダンス授業の指導計画の立案および指導実践応用能力を身につける。ダンスの表現構造への理解を深めることにより表現力を高め、指導力を養う。</p>	オムニバス方式
	エアロビックダンス	健康・体力づくりを目的としたエアロビック運動(エアロビックダンス)について、その特徴や運動内容、実施上の環境や注意点を理解する。また、基本動作、正しい身体の使い方や振り付け方法を習得した上で、目的に応じたプログラムの作成能力と実践力、および指導力を養う。エアロビックダンスの基礎的な知識を習得する。正しいアライメントによる安全かつ効果的な動作の技術能力を習得する。健康運動実践指導者資格の実技試験に対応出来るよう、課題の理解とプログラムの構成や指導法をグループワークにより習得する。授業で体得した動きをモチーフにグループで作品を制作する。	
	アクアエクササイズ	健康・体力づくりを目的としたアクアエクササイズについて、その特徴や運動内容、実施上の環境や注意点を理解する。また、基本動作、正しい身体の使い方や振り付け方法を習得した上で、目的に応じたプログラムの作成能力と実践力、および指導力を養う。アクアエクササイズは、健康の維持増進を図ることにより、QOL(クオリティオブライフ)の向上を目的として実施されるものであり、その内容は安全性、効果、継続する楽しさを兼ね備えていなければならない。この基本構成を身につけ、実践していく。	
	マリンスポーツ実習	アウトドアスポーツのひとつとして、マリンスポーツ実習は自然とのかかわりの中で自然に対する知識や実習の計画方法、事故防止策について学び、指導者として必要な身体活動・安全管理の基礎的な知識や技術を学習する。マリンスポーツとして、シーカヤック、ウインドサーフィン、ダイビングの3種目の技術習得を目指すとともに、マリンスポーツの安全対策や危機管理を学習する。更に、実習を通して団体行動をすることで団体生活の在り方を研修する。	集中
	キャンプ実習	キャンプの幅広い教育効果を理解するよう体験学習し、指導的立場からの企画立案を実習する。本実習の目的は、大自然の中での共同生活を通して、野外での諸活動を修得することである。(1)自然の中で集団的、自律的生活をすることによって自己を見つめ、真の協力・共同の生活を体験する。(2)キャンプ生活の技術を学びつつ、諸活動(アクティビティ)を通して自分の体力や精神力を鍛える。(3)将来、キャンプを指導する立場に置かれたとき、計画立案することができ、運営指導ができるようになることを目指す。	集中
	スノースポーツ実習	スポーツ指導者として必要なスキーの運動特性、技術、指導法を修得し、生涯スポーツとしてのスポーツの在り方を学習するとともに、自然に対する知識や事故の防止策等について学びながら、指導者として必要な企画立案・運営指導の能力を身につけることを目的とする。また、団体生活・団体行動を通じて、規律ある態度および行動規範を修得する。科目目的・到達目標を達成するために、ゲレンデでの実技講習、実技検定、実践滑降、宿舎での講義および班別ミーティングを行う。	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 学部共通専門教育科目	健康・スポーツ科学の統計学演習	<p>(概要) 健康・スポーツ科学ならびにスポーツマネジメント学に関する卒業研究のために、実験や調査で得られるデータを正しく分析・解釈できる実践的な能力を身につける。また、データが語りかけているものを感じとる能力の洗練を目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3 松尾 善美/8回) エクセルの基本操作、エクセル統計の基本、統計解析の基本、記述統計、相関分析、散布図、回帰分析、クロス集計</p> <p>(39 田中 美吏/7回) 独立した2群の差の検定、関連した2群の差の検定、独立した多群の差の検定、多重比較検定、関連のある多群の差の検定</p>	オムニバス方式
	卒業研究 I	<p>本学部に関わる諸科学の研究領域と研究方法について、体系的な認識を持ち、そのことを通した問題を設定し、その解決のための方法論を身につけることを目的とする。自分の所属するゼミの領域において、問題発見、問題提起、問題解決の方法を学び、4年次に行われる卒業研究 II への導入を目標とする。また、4年次においては、研究論文、実践研究、教材研究発表という形式で、その研究成果を発表するため、具体的なテーマ、研究方法等について絞り込むことを目標とする。</p>	
	卒業研究 II	<p>3年次に学んだ専門領域にふさわしい手法を使って、卒業論文、実践研究、教材研究から、それぞれの完成形である論文発表、研究発表に導く能力を身につけることを目的とする。自分が専門とする研究分野におけるテーマを設定し、そのテーマに基づく研究を進め、成果物の提出を行い、発表会にて研究発表することを目標とする。</p>	
<p>1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。</p> <p>2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。</p> <p>3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。</p>			

学校法人武庫川学院 設置認可等に関わる組織の移行表

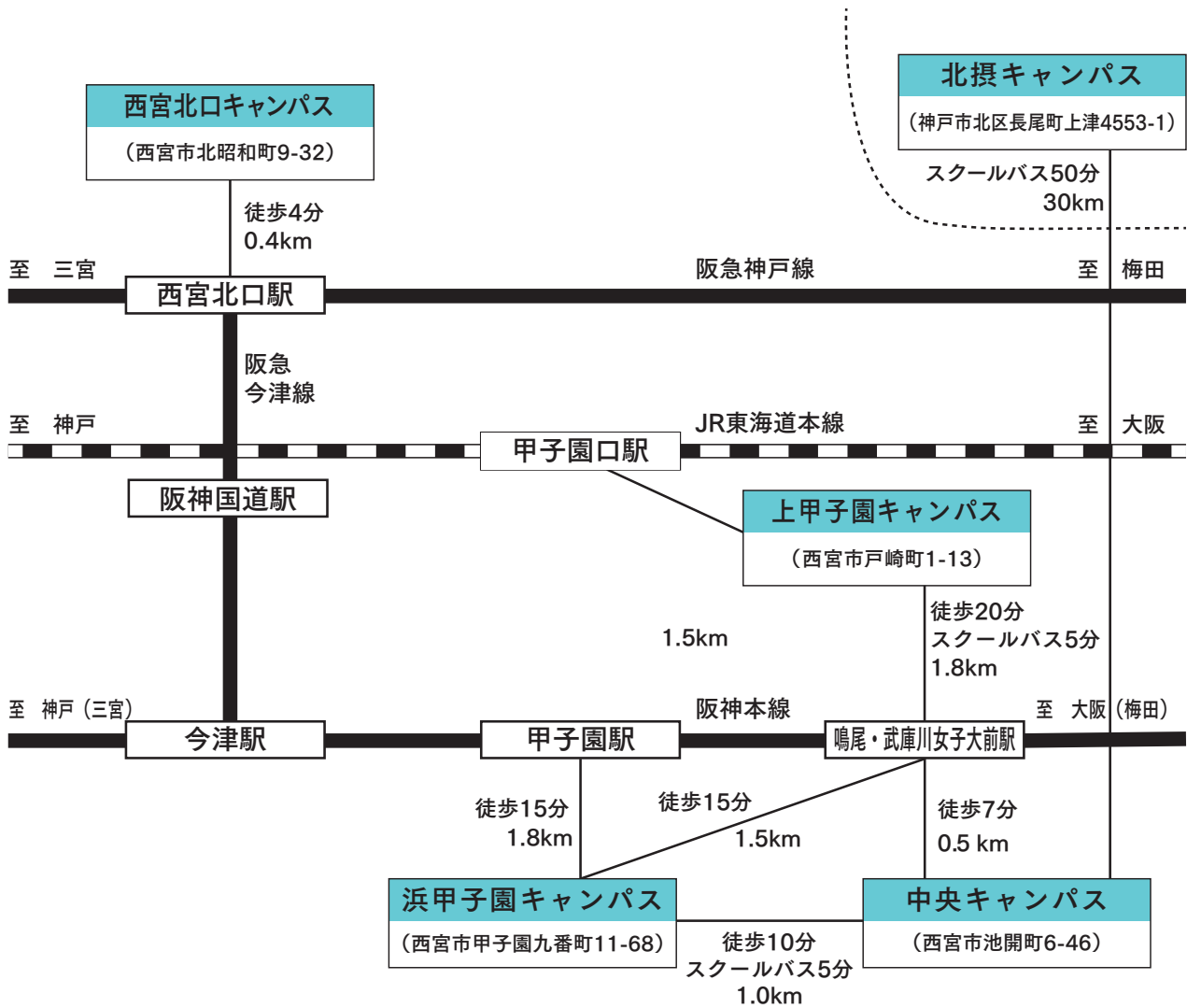
令和4年度				令和5年度				変更の事由
入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由		
武庫川女子大学				武庫川女子大学				名称変更(予定) 令和5年4月学生募集停止 3年次編入学定員は令和7年4月学生募集停止 学部の設置(届出) 学部の設置(届出) 令和5年4月学生募集停止 学部の設置(届出)
文学部				文学部				
日本語日本文学科	150	3年次 25	650	日本語日本文学科	150	3年次 25	650	
英語文化学科	200	3年次 25	850	<u>英語グローバル学科</u>	200	3年次 25	850	
心理・社会福祉学科	160	3年次 17	674	0	—	0		
教育学部				教育学部				
教育学科	240	3年次 25	1,010	教育学科	240	3年次 25	1,010	
心理・社会福祉学部				心理・社会福祉学部				
				<u>心理学科</u>	150	—	600	
				<u>社会福祉学科</u>	70	—	280	
健康・スポーツ科学部				健康・スポーツ科学部				
健康・スポーツ科学科	180	3年次 20	760	健康・スポーツ科学科	180	3年次 20	760	
				<u>スポーツマネジメント学科</u>	100	—	400	
生活環境学部				生活環境学部				
生活環境学科	165	3年次 20	700	生活環境学科	165	3年次 20	700	
情報メディア学科	150	—	600	0	—	0		
社会情報学部				社会情報学部				
				<u>社会情報学科</u>	180	—	720	
食物栄養科学部				食物栄養科学部				
食物栄養学科	200	3年次 10	820	食物栄養学科	200	3年次 10	820	
食創造科学科	80	3年次 5	330	食創造科学科	80	3年次 5	330	
建築学部				建築学部				
建築学科	45	—	180	建築学科	45	—	180	
景観建築学科	40	—	160	景観建築学科	40	—	160	
音楽学部				音楽学部				
演奏学科	30	—	120	演奏学科	30	—	120	
応用音楽学科	20	—	80	応用音楽学科	20	—	80	
薬学部				薬学部				
薬学科(6年制)	210	—	1,260	薬学科(6年制)	210	—	1,260	
健康生命薬科学科	40	—	160	健康生命薬科学科	40	—	160	
看護学部				看護学部				
看護学科	80	—	320	看護学科	80	—	320	
経営学部				経営学部				
経営学科	200	—	800	経営学科	200	—	800	
計	2,190	147	9,474	計	<u>2,380</u>	<u>3年次 130</u>	<u>10,200</u>	
武庫川女子大学大学院				武庫川女子大学大学院				
文学研究科				文学研究科				
日本語日本文学専攻(M)	12	—	24	日本語日本文学専攻(M)	12	—	24	
日本語日本文学専攻(D)	3	—	9	日本語日本文学専攻(D)	3	—	9	
英語英米文学専攻(M)	12	—	24	英語英米文学専攻(M)	12	—	24	
英語英米文学専攻(D)	3	—	9	英語英米文学専攻(D)	3	—	9	
教育学専攻(M)	6	—	12	教育学専攻(M)	6	—	12	
臨床心理学専攻(M)	20	—	40	臨床心理学専攻(M)	20	—	40	
臨床教育学研究科				臨床教育学研究科				
臨床教育学専攻(M)	16	—	32	臨床教育学専攻(M)	16	—	32	
臨床教育学専攻(D)	6	—	18	臨床教育学専攻(D)	6	—	18	
健康・スポーツ科学研究科				健康・スポーツ科学研究科				
健康・スポーツ科学専攻(M)	20	—	40	健康・スポーツ科学専攻(M)	20	—	40	
生活環境学研究科				生活環境学研究科				
生活環境学専攻(M)	6	—	12	生活環境学専攻(M)	6	—	12	
生活環境学専攻(D)	2	—	6	生活環境学専攻(D)	2	—	6	
食物栄養科学研究科				食物栄養科学研究科				
食物栄養学専攻(M)	8	—	16	食物栄養学専攻(M)	8	—	16	
食物栄養学専攻(D)	2	—	6	食物栄養学専攻(D)	2	—	6	
食創造科学専攻(M)	4	—	8	食創造科学専攻(M)	4	—	8	
食創造科学専攻(D)	2	—	6	食創造科学専攻(D)	2	—	6	
建築学研究科				建築学研究科				
建築学専攻(M)	22	—	44	建築学専攻(M)	22	—	44	
建築学専攻(D)	2	—	6	建築学専攻(D)	2	—	6	
景観建築学専攻(M)	6	—	12	景観建築学専攻(M)	6	—	12	
景観建築学専攻(D)	1	—	3	景観建築学専攻(D)	1	—	3	
薬学研究科				薬学研究科				
薬学専攻(4年制D)	2	—	8	薬学専攻(4年制D)	2	—	8	
薬科学専攻(M)	30	—	60	薬科学専攻(M)	30	—	60	
薬科学専攻(D)	2	—	6	薬科学専攻(D)	2	—	6	
看護学研究科				看護学研究科				
看護学専攻(M)	15	—	30	看護学専攻(M)	15	—	30	
看護学専攻(D)	5	—	15	看護学専攻(D)	5	—	15	
計	207	—	446	計	207	—	446	
武庫川女子大学短期大学部				武庫川女子大学短期大学部				
日本語文化学科	100	—	200	日本語文化学科	100	—	200	
英語キャリア・コミュニケーション学科	100	—	200	英語キャリア・コミュニケーション学科	100	—	200	
幼児教育学科	150	—	300	幼児教育学科	150	—	300	
心理・人間関係学科	100	—	200	0	—	0		
健康・スポーツ学科	80	—	160	0	—	0		
食生活学科	80	—	160	食生活学科	80	—	160	
生活造形学科	90	—	180	生活造形学科	90	—	180	
計	700	—	1,400	計	<u>520</u>	—	<u>1,040</u>	

(1) 都道府県（兵庫県）内における位置関係の図面



(2) 最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面 武庫川女子大学キャンパス関係図

(注：本図は、校地面積不算入施設用地を除く。)



(3) 校舎、運動場等の配置図

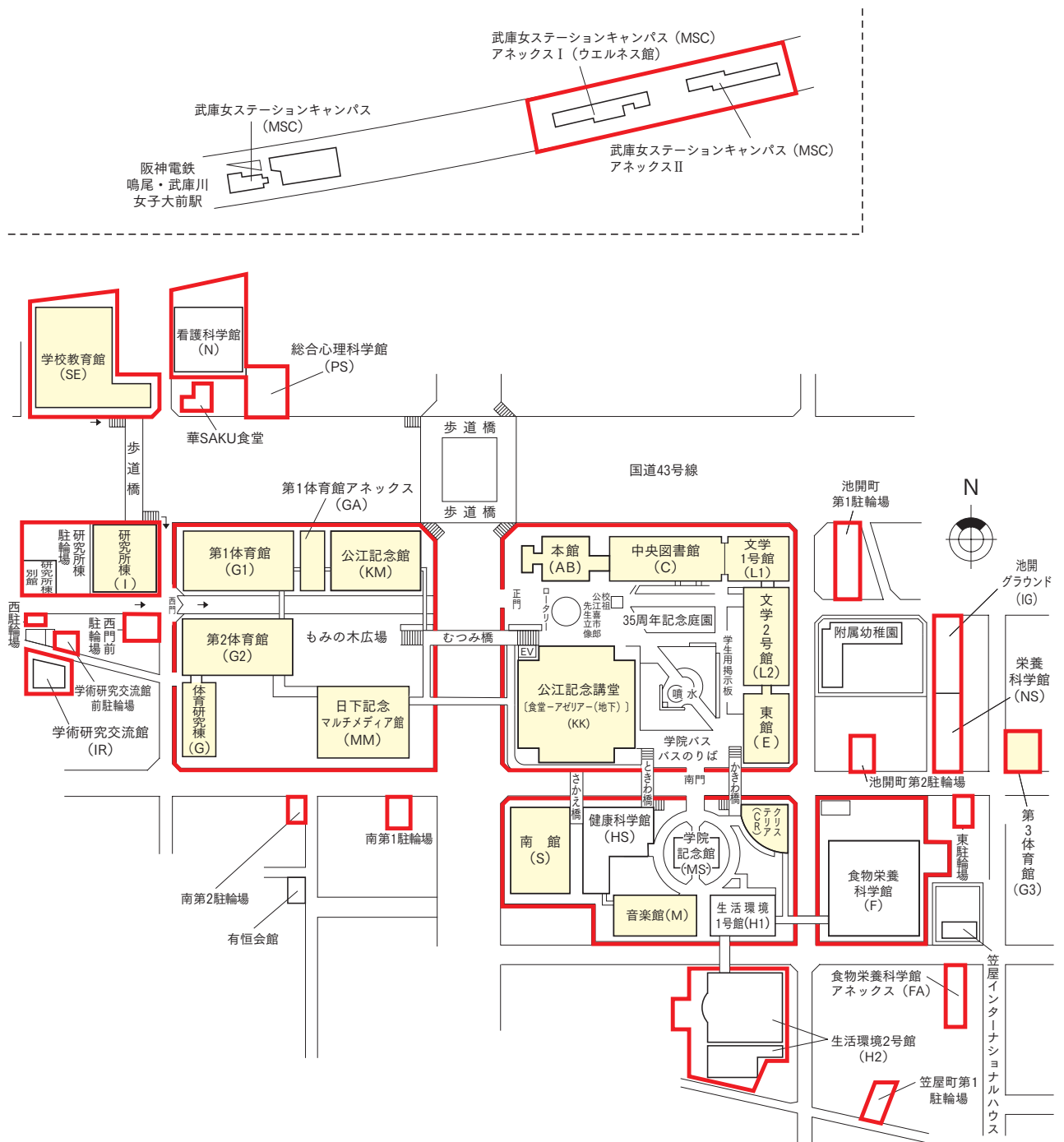
中央キャンパス

(西宮市池開町他)

	校地面積	校舎面積
専用	2,316.11m ²	20,490.22m ²
共用*	113,987.05m ²	109,280.38m ²
	(うち借用1,129.19m ²)	
合計	116,303.16m ²	129,770.60m ²

※武庫川女子大学短期大学部との共用



- 校地面積算入部分
- スポーツマネジメント学科が使用する校舎

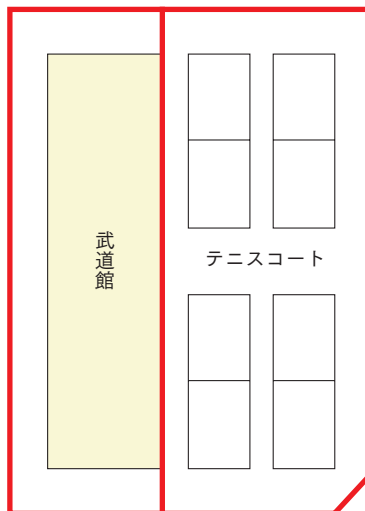


(中央キャンパス) 上田テニスコート

(西宮市上田西町)

大学・短大共用

-  校地面積算入部分
-  スポーツマネジメント学科が使用する校舎

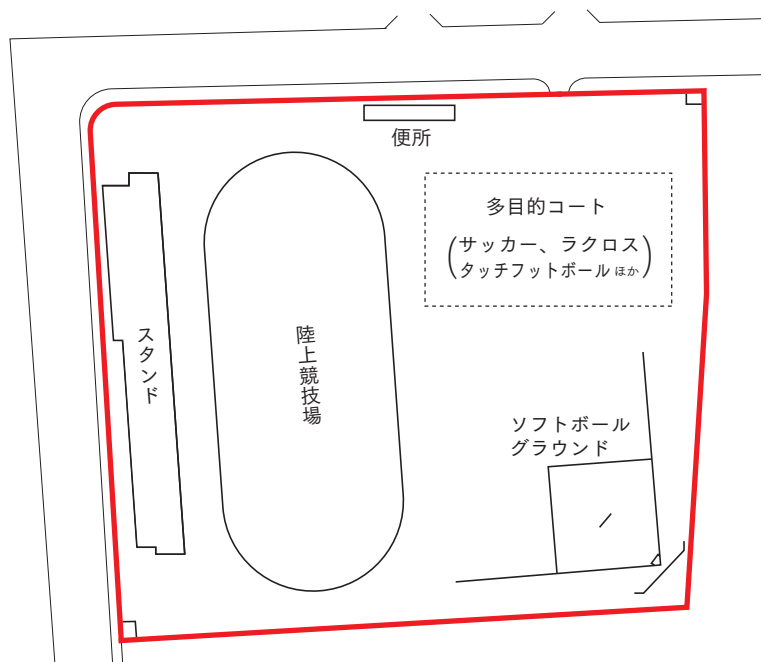


〈中央キャンパスから徒歩5分〉

(中央キャンパス) 総合スタジアム

(西宮市鳴尾浜)

大学・短大共用



〈中央キャンパスからスクールバス10分〉

浜甲子園キャンパス

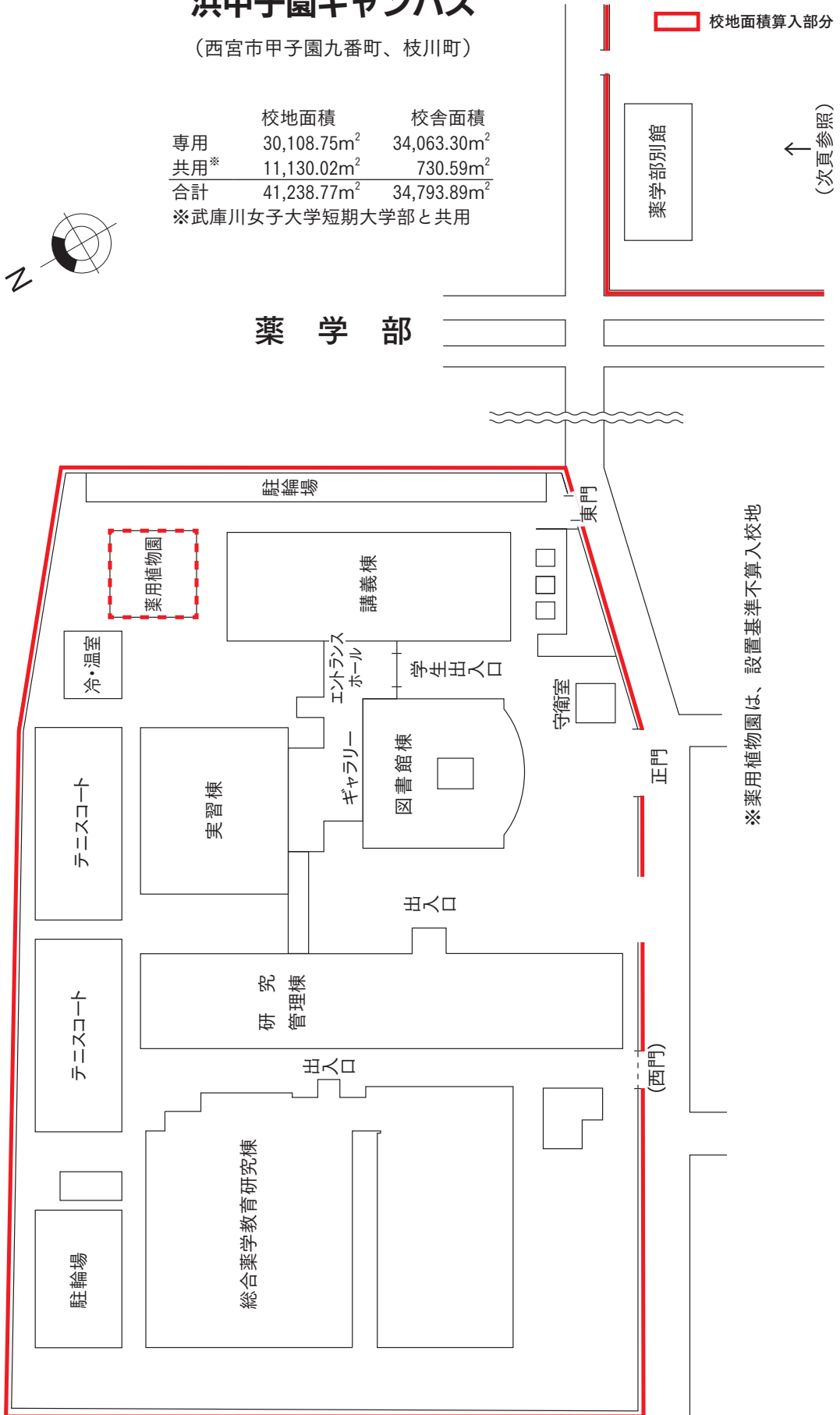
(西宮市甲子園九番町、枝川町)

	校地面積	校舎面積
専用	30,108.75m ²	34,063.30m ²
共用 [※]	11,130.02m ²	730.59m ²
合計	41,238.77m ²	34,793.89m ²

※武庫川女子大学短期大学部と共用

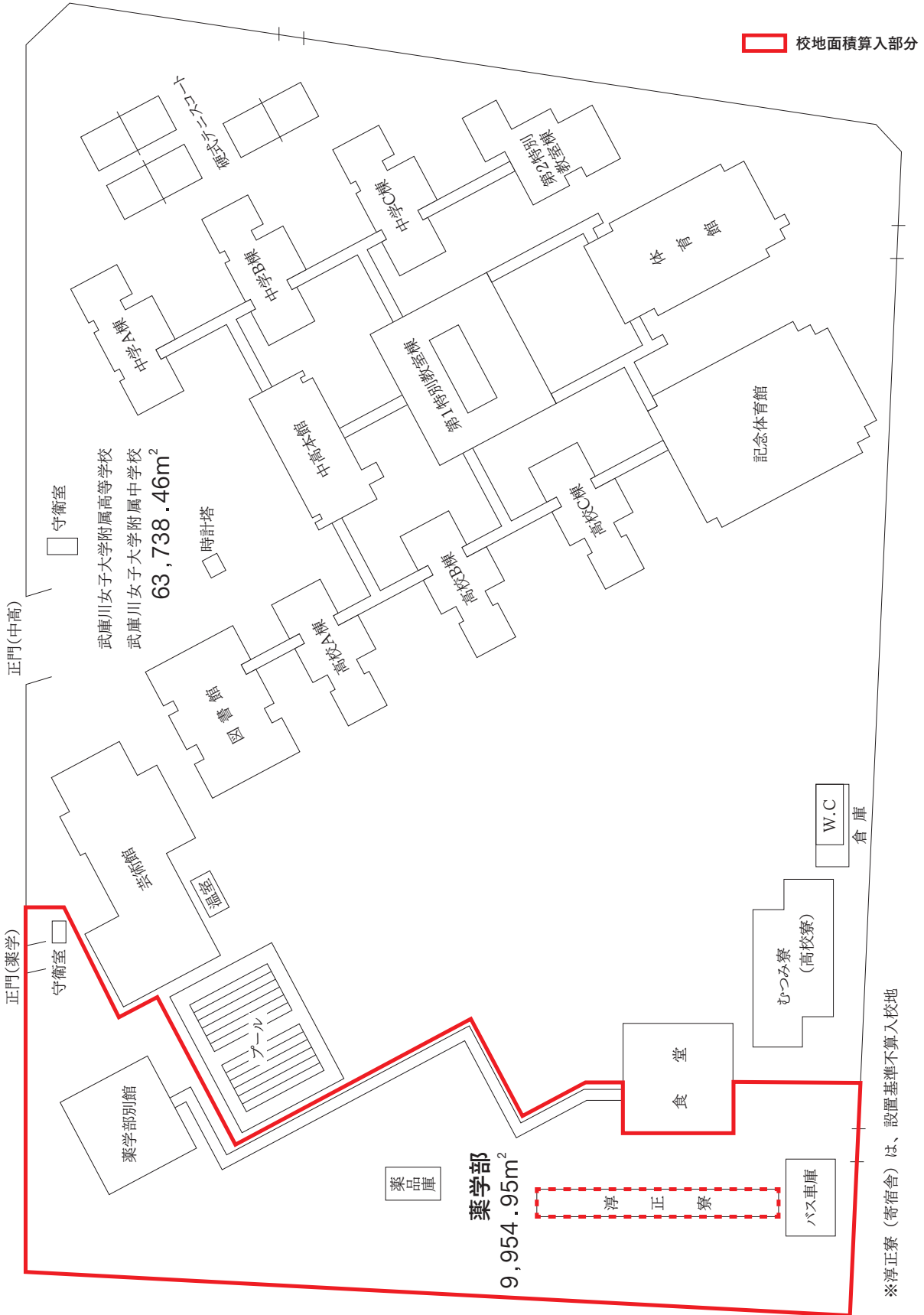


薬学部



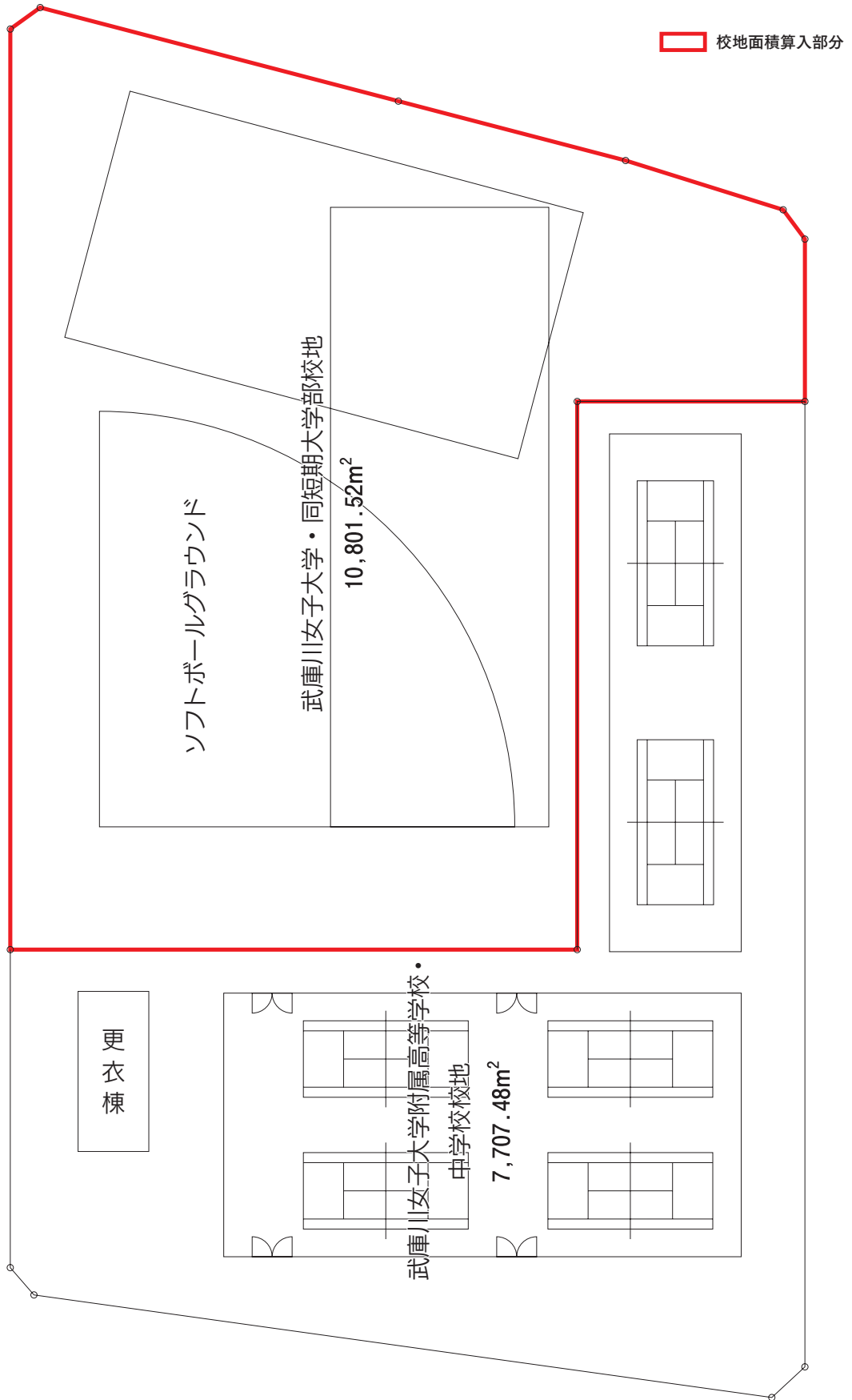
(浜甲子園キャンパス)

(西宮市枝川町)



(浜甲子園キャンパス) 浜甲子園グラウンド

(西宮市枝川町)



校地面積算入部分

上甲子園キャンパス

(西宮市戸崎町)



校地面積 校舎面積
専用 35,614.74m² 17,388.59m²

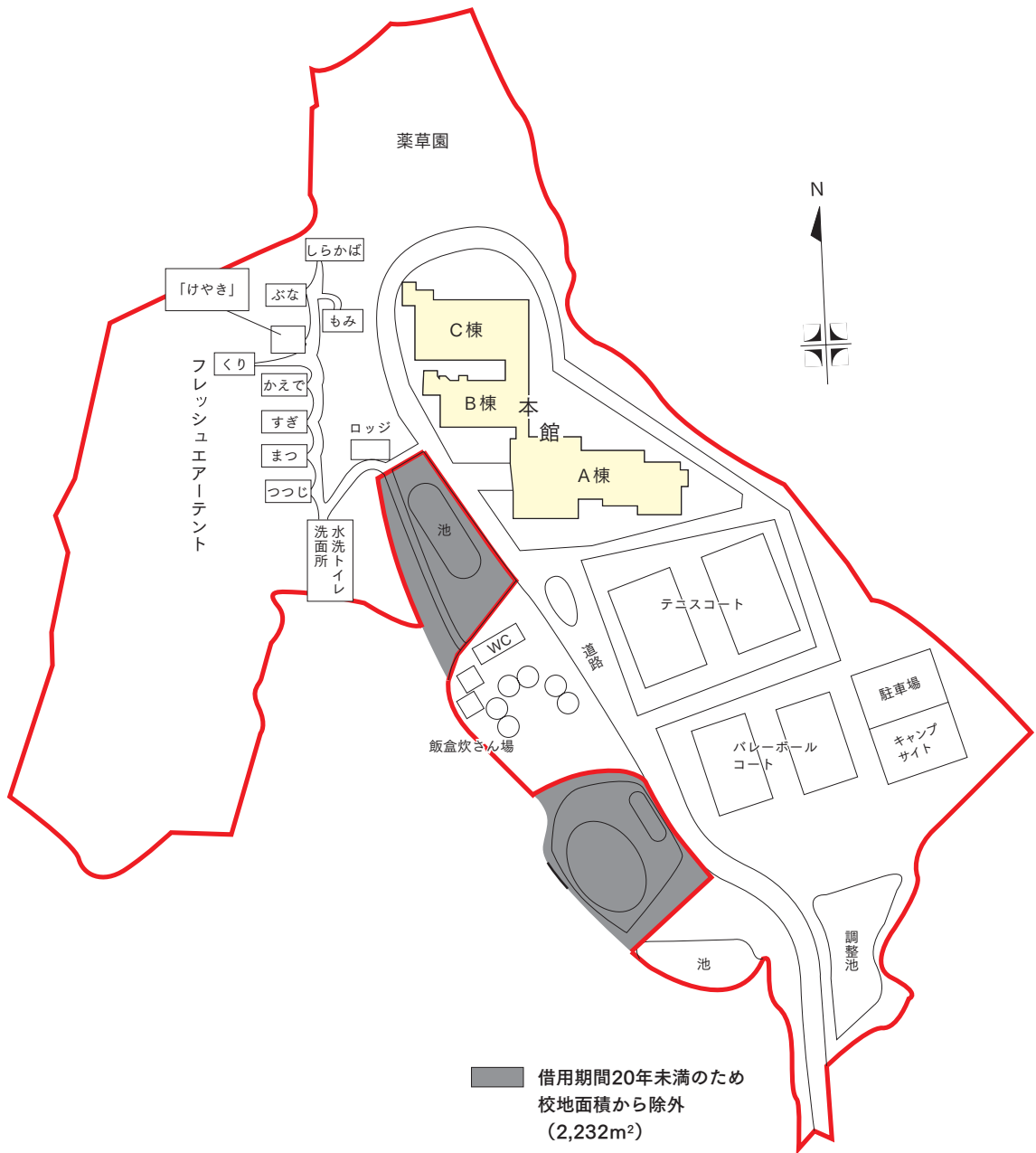


北摂キャンパス

(神戸市北区長尾町)

校地面積 校舎面積
共用* 40,220.00m² 4,313.18m²
※武庫川女子大学短期大学部と共用

-  校地面積算入部分
-  スポーツマネジメント学科が使用する校舎

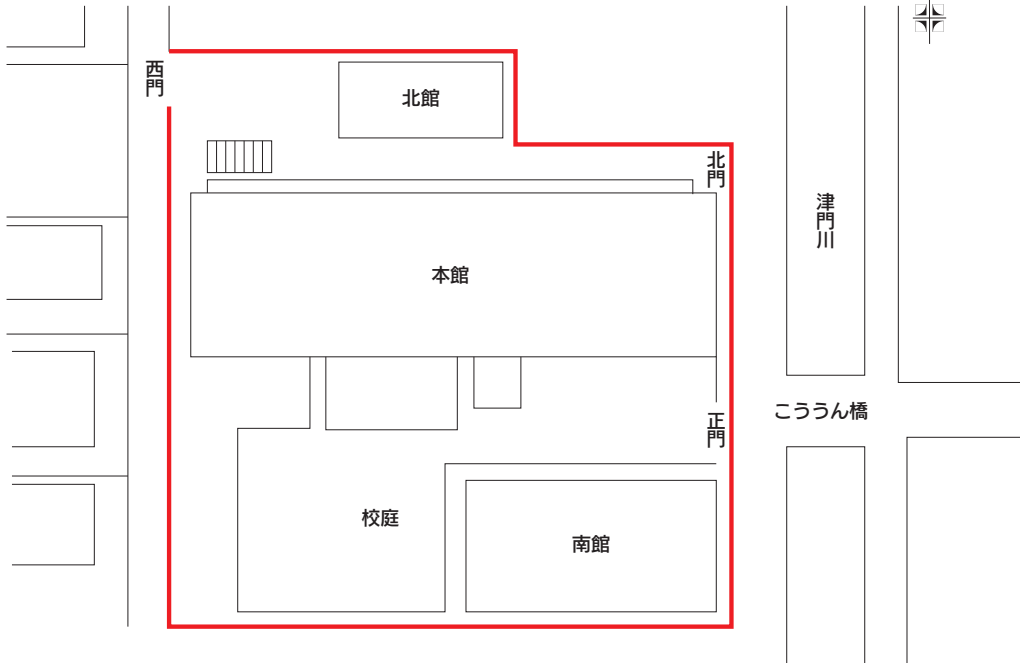


 校地面積算入部分

西宮北口キャンパス

(西宮市北昭和町)

校地面積 校舎面積
共用* 3,655.77m² 5,340.25m²
*武庫川女子大学短期大学部と共用



(4) 校舎平面図

記載省略

令和5年4月1日 改正

学 則 (案)

武庫川女子大学

第1章 総則

(目的)

第1条 本学は、武庫川学院立学の精神に基づき、女子に広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、高い知性と善美な情操と高雅な徳性を兼ね具えた有為な日本女性を育成して、平和的世界文化の向上に貢献することを目的とする。

(名称)

第2条 本学は、武庫川女子大学と称する。

(所在地)

第3条 本学は、兵庫県西宮市池開町6番46号に設置する。

(自己点検及び評価)

第4条 本学は、その教育研究水準の向上を図り、第1条の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、教育研究の改善に努める。

2 前項の点検及び評価の実施に関して必要な事項は、別に定める。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第4条の2 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るため、本学における研修及び研究を組織的に実施するものとする。

2 前項の教育内容等の改善のための組織的な研修等の実施に関して必要な事項は、別に定める。

第2章 学部・学科・収容定員・目的及び修業年限

(学部・学科及び収容定員)

第5条 本学に置く学部・学科及び収容定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	編入学定員	収容定員
文 学 部	日 本 語 日 本 文 学 科	150	3年次 25	650
	英 語 文 化 学 科	200	3年次 25	850
教 育 学 部	教 育 学 科	240	3年次 25	1,010
心 理 ・ 社会福祉学部	心 理 学 科	150	—	600
	社 会 福 祉 学 科	70	—	280
健康・スポーツ 科 学 部	健 康 ・ ス ポ ー ツ 科 学 科	180	3年次 20	760
	ス ポ ー ツ マ ネ ジ メ ン ト 学 科	100	—	400
生活環境学部	生 活 環 境 学 科	165	3年次 20	700
社会情報学部	社 会 情 報 学 科	180	—	720
食物栄養科学部	食 物 栄 養 学 科	200	3年次 10	820
	食 創 造 科 学 科	80	3年次 5	330
建 築 学 部	建 築 学 科	45	—	180
	景 観 建 築 学 科	40	—	160
音 楽 学 部	演 奏 学 科	30	—	120
	応 用 音 楽 学 科	20	—	80
薬 学 部	薬 学 科	210	—	1,260
	健 康 生 命 薬 科 学 科	40	—	160
看 護 学 部	看 護 学 科	80	—	320
経 営 学 部	経 営 学 科	200	—	800

(目的)

第5条の2 各学部・学科の目的は次のとおりとする。

2 文学部は、人間の本質と文化的所産を人文諸科学の観点と方法により探究し、探究の過程と成果に基づき、時代と社会の要請に応じうる有為な女性を育成することを目的とする。

(1) 日本語日本文学科は、日本語日本文学の教育研究を通じて、健全な社会の構築と発展に寄与することのできる、有為な女性を養成することを目的とする。

(2) 英語文化学科は、英語英米文化文学の教育研究を通して、言語や文化、文学を深く理解し、自文化のみならず異文化の優れた理解者として、実践的に英語を使って国際社会で活躍できる有為な女性を養成することを目的とする。

3 教育学部教育学科は、立学の精神と教育推進宣言に則り、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養と豊かな人間性を備えるとともに、時代と社会の要請に応えつつ高度化していく教育・保育を担える有為な女性の育成を目的とする。

この目的を実現するために、教育学・保育学の優れた知見を広く学び、その応用と研究により学びを深めることを通じて、国内・国外の様々な教育・保育の場において必要とされる優れた実践的指導力、高い意欲及び創造性を養う。

4 心理・社会福祉学部は、幅広い教養と豊かな人間性を備えるとともに、来るべき人間中心社会の担い手として、「誰一人取り残さない (leave no one behind) 世界」の実現に向けて、社会が抱えるさまざまな課題の解決や新たな価値創造のために、心理学や社会福祉学の知識とスキルを積極的に活用して「持続可能な社会」の実現に向けて、自ら考え行動する力、他者と共に生きる社会の共同的な価値を創造する力、社会の多様性や異質性を理解し社会的な課題に立ち向かうことができる力を備えた人材の育成を目的とする。

(1) 心理学科は、自身の理想を探求・追求し、社会の一員としての自覚を持ち、人びとの幸福に貢献することを目指して、心理学の諸領域における専門的知識と方法論を習得するとともに、個人・社会的問題および学術的課題を主体的に発見し、その解決過程を他者と協働しながら実践的に学ぶことによって、課題発見力と実践力を身につけ、多様な課題に想像力と柔軟性をもって取り組むことができる人材を養成することを目的とする。

(2) 社会福祉学科は、一人ひとりの個性とその人らしく生きる権利を尊重し、支援を必要としている人たちと共に自らも、さらには地域や社会もエンパワメントしていけるよう、グローバルな社会の一員としてさまざまな領域で活躍することを目指し、人間中心社会の理念を理解し、持続可能な包摂的社会の実現に向け地域市民として、また福祉専門職として、他者と共に生きる社会における共同的な価値の創造を希求し、社会の多様性、異質性に謙虚に向き合い、社会的な課題の解決に向けて実践することができる人材を養成することを目的とする。

5 健康・スポーツ科学部は、幅広い専門知識並びに豊かな人間性と倫理観を養い、学校や企業、地域社会で活躍できる優れた健康・スポーツの実践者・指導者・管理者となる有為な女性を育成することを目的とする。

(1) 健康・スポーツ科学科は、科学的知識に裏づけられた体育・スポーツの研究とその実践を通

して、心身の健康並びに体力の保持増進について指導者的役割を担う、幅広い分野の健康・スポーツに関わる指導者、保健体育に関わる教育者を養成することを目的とする。

(2) スポーツマネジメント学科は、健康スポーツ科学の優れた知見と実践を広く学び、多角的な視点からスポーツマネジメントやビジネスに対する理解を深め、多様な社会的課題の解決やダイバーシティの推進に資するマネジメント力と創造性を有する女性を育成することを目的とする。

6 生活環境学部生活環境学科は、衣服、インテリア、住居、建築から、街・都市空間、地球環境までを連続した生活環境としてとらえ、さらにこれに関わる歴史や生活文化的視点も取り入れながら、理系と文系の考え方を融合させた幅広い視野に立って、新しい時代に対応できる人間性豊かな、専門性と創造的能力を持った有為な女性を育成することを目的とする。

7 社会情報学部社会情報学科は、情報化社会を超えるデータ駆動の新しい世界に向けて、社会科学と情報科学を両翼とし、これをデータサイエンスで結合する実践的教育研究体系によって、コンピュータネットワークがもたらす仮想空間においても、人間性をいかに発揮できる知恵と技術をそなえた人材を育成することを目的とする。

8 食物栄養科学部は、栄養士・管理栄養士の基礎資格の基礎から応用までの科目を修得させ、実践力と応用力を有する人材育成を実施する。さらに食物栄養学科では、あらゆる人々に対して食による予防・医療栄養を遂行できる指導力のある人材、また食創造科学科では国内外の食産業界で第六次産業をグローバルな発想力で企画運営できる人材の育成を目的とする。

(1) 食物栄養学科は、食物栄養の分野にとどまらず、公衆衛生学、臨床医学、栄養学、栄養教育、臨床栄養学、公衆栄養学分野等の専門的な知識と技術を広く学び、その応用と研究により学びを深めることを通じて、管理栄養士として必要とされる実践的指導力、高い意欲と創造性を身につけることを目的とする。

(2) 食創造科学科は、初年次よりキャリア意識を育みながら、栄養士関連科目を修得して専門性を高め3年次後期には全員に食産業企業へのインターンシップ参加を義務づける。在学中の就業体験を通じて、実践的な知識を深め、人間形成・キャリア形成を図り、次世代の食産業を牽引する女性人材の輩出を目的とする。

9 建築学部は、「真」「善」「美」の修得と同時に、価値基準が異なる「真」「善」「美」を互いに総合する能力を養い、安全で、使い易く、美しい、真に人間的な住環境を創生する基礎的能力を培うことを目的とする。

(1) 建築学科は、「真」「善」「美」の修得と同時に、価値基準が異なる「真」「善」「美」を互いに総合する能力を養い、安全で、使い易く、美しい、真に人間的な住環境を創生する基礎的能力を、UNESCO-UIA 建築教育憲章に対応した世界基準の学びを通して培うことを目的とする。

(2) 景観建築学科は、「真」「善」「美」の修得と同時に、価値基準が異なる「真」「善」「美」を互いに総合する能力を養い、安全で、使い易く、美しい、真に人間的な住環境を創生する基礎的能力を、自然との共生や景観映像情報技術の幅広い学びを通して培うことを目的とする。

10 音楽学部は、理論と実践を通じて、音楽知識・技術及び東西文化の普遍的な美的価値観を追求

するとともに、音楽応用を探究し、文化・社会の発展に寄与する音楽家をはじめ、音楽の指導者、音楽応用の専門家を育成することを目的とする。

(1) 演奏学科は、音楽演奏を通して、豊かな人間性と幅広い教養、高い専門知識・技術を養い、演奏家、指導者として文化・社会の発展に寄与する有為な女性を養成することを目的とする。

(2) 応用音楽学科は、豊かな人間性と幅広い教養、音楽専門知識・技術に基づく音楽の応用によって、地域・社会の活性化及び人間の心身の健康の維持・安定に貢献できる有為な女性を養成することを目的とする。

11 薬学部は、幅広い教養と人間性豊かな専門知識を基盤として、医療と薬並びに健康に関する多様な分野で、医療人としての薬剤師をはじめ、薬の創製・管理、衛生薬学、薬事行政などの諸活動を通して、薬学に課せられた社会的使命を遂行し得る有為な女性を養成することを目的とする。

(1) 薬学科は、薬剤師として高度な臨床能力と実践力を有し、医療人としての使命感を持ち、病院・薬局などの医療機関をはじめ、薬の専門家としてあらゆる場面で活躍できる有為な女性を養成することを目的とする。

(2) 健康生命薬科学科は、健康科学、生命科学を重視した薬科学教育によって、研究機関、医薬品関連業界、環境衛生行政など、薬と健康に関連した多彩な分野で社会に貢献できる有為な女性を養成することを目的とする。

12 看護学部看護学科は、豊かな人間性に裏づけられた感性を生かし、様々な健康レベルの人々（患者）を生活者としてとらえ、豊かな人間性と高い倫理観、科学的根拠に裏づけられた行動力をもって、心身両面にわたってトータルケアのできる未来志向の看護実践者を育成することを目的とする。

13 経営学部経営学科は、本学院が掲げる立学の精神、教育目標、教育推進宣言に則り、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養とグローバル化する社会への理解を有し、地域社会で生きる人々を尊重し、相互に助け合うことができる豊かな人間性を備えるとともに、経営全般に関する専門的知識と実践力を有し、どのような時代にあっても、世界のどこにいても、何歳であっても、たとえ逆境にいたとしても、自らの暮らしをその環境にあわせて構築し、そのために必要となる知識や技能を獲得し、協力してくれる人との良好な関係を築ける能力と意欲を持ち続け、国内外のビジネス社会で活躍できる人材を養成することで、“しなやかな女性キャリア”の実現に貢献することを目的とする。

(大学院及び専攻科)

第6条 本学に大学院及び専攻科を置く。

2 大学院の学則並びに専攻科に関する必要な事項は、別に定める。

(修業年限及び在学年限)

第7条 本学の修業年限は4年とする。ただし、薬学部薬学科については6年とする。

2 第16条の規定により編入学した者、再入学及び転入学した者の修業年限の取扱いについては、別に定める。

3 在学年限は、修業年限の2倍を超えることができない。

4 本条第3項のほか、薬学部薬学科においては、同一学年に在学することができる年数は2年を限度とする。

第3章 学年・学期及び休業日

(学年)

第8条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第9条 学年を次の3学期に分ける。

前学期 4月1日より8月31日まで

後学期 9月1日より1月31日まで

特別学期 2月1日より3月31日まで

(休業日)

第10条 休業日は次のとおりとする。

- (1) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- (2) 創立記念日 2月25日
- (3) 日曜日
- (4) 夏季休業 8月5日より9月14日まで
- (5) 冬季休業 12月25日より翌年1月7日まで
- (6) 春季休業 3月20日より4月2日まで

2 学長は、必要がある場合、前項の休業日を臨時に変更することができる。

3 学長は、第1項に規定するもののほか、臨時の休業日を定めることができる。

第4章 入学・編入学・再入学・留学・転学部・転学科・退学・休学・復学及び除籍

(入学の時期)

第11条 入学期日は学年の始めとする。ただし、後学期の始めに入学させることができる。

(入学資格)

第12条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 大学入学資格検定規程により、文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者
- (5) 高等学校卒業程度認定試験規則により、文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- (6) 文部科学大臣が高等学校若しくは中等教育学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(7) 文部科学大臣の指定した者

(8) 大学において、相当の年齢に達し高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(入学の出願)

第13条 本学に入学を志願する者は、本学所定の書類に入学検定料を添えて提出しなければならない。提出の時期、方法、提出すべき書類等については別に定める。

(入学者の選抜)

第14条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより選抜を行う。

(入学手続き及び入学許可)

第15条 前条の選抜の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、所定の入学金を納付しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

3 入学を許可された者は、所定の期日までに、入学誓書兼同意書・保証書・その他本学所定の書類を提出しなければならない。

4 前項の保証書の保証人は、独立の生計を営む満25歳以上の者で、確実に保証人の責務を履行し得るものでなければならない。若し、本学において不相当と認められたときは、保証人の変更を命ずることがある。

5 保証人が死亡又はその他の理由で、その責をつくし得ないときは、新たに保証人を選定して、直ちに届け出なければならない。

6 保証人が転居した場合は、直ちにその旨を届け出なければならない。

(編入学)

第16条 本学に、編入学を志願する者があるときは、編入学定員を定める学科等のほかは、欠員のある場合に限り、選抜の上、入学を許可することがある。

2 編入学の入学資格は、次の各号の一に該当するものとする。

(1) 短期大学を卒業した者

(2) 大学に2年以上在学し、本学が定める所定の単位を修得した者

(3) 高等専門学校を卒業した者

(4) 学校教育法第132条の規定により、大学に編入学することができる者

3 第1項の規定により、入学を許可された者の既に修得した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、教授会の意見を聴いて、学長が決定する。

4 編入学について必要な事項は、別に定める。

(再入学)

第16条の2 本学に、再入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、相当年次に入学を許可することがある。

2 前項の規定により、入学を許可された者の既に修得した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、教授会の意見を聴いて、学長が決定する。

3 再入学について必要な事項は、別に定める。

(留学)

第16条の3 本学と交換留学協定又は派遣留学に関する協定を締結している外国の大学に留学を志願する者があるときは、選考の上、留学を許可する。

2 前項により留学した期間は、第7条に規定する修業年限及び在学年限に算入する。

3 留学に関する規定は、別に定める。

(転学部・転学科)

第17条 本学学生が、同一学部属する他の学科へ転学科を志願したときは、欠員のある場合に限り、選考の上、これを許可することがある。

2 本学学生が、他学部属する学科へ転学部を志願したときは、欠員のある場合に限り、選考の上、これを許可することがある。

3 転学部又は転学科した者の在学年数には、転学部又は転学科前の在学年数の全部又は一部を通算することができる。

(他大学等からの転学)

第18条 他大学等の学生が、正当な理由により、本学に転学を志願したときは、欠員のある場合に限り、選考の上、これを許可することがある。

2 前項の転学生については、第16条第3項の規定を準用する。

(他大学等への転学)

第19条 他大学等に転学を志望する者があるときは、やむを得ない事情のある場合にのみ許可することがある。

(退学)

第20条 退学しようとする者は、所定の用紙にその理由を記入し、保証人連署の上、願い出て、許可を受けなければならない。

2 第7条第4項の規定に基づき、在学することができない者は退学とする。

(休学)

第21条 疾病その他やむを得ない事情により、2か月以上修学することのできない者は、所定の用紙にその理由を記入し、保証人連署の上、願い出て、許可を受けなければならない。ただし、疾病の場合は、医師の診断書を添えなければならない。

2 疾病のため、修学することが適当でないと認められる者については、休学を命ずることがある。

(休学の期間)

第22条 休学の期間は、1年を超えることができない。ただし、特別の理由がある場合は、引き続き更に1年まで延長することができる。

2 休学の期間は、通算して2年を超えることができない。

3 休学の期間は、第7条第3項及び第4項の在学年限に算入しない。

(復学)

第23条 休学期間中に、その理由が消滅した場合は、所定の用紙にその理由を記入し、保証人連署

の上、願い出て、復学することができる。ただし、疾病の場合は、医師の診断書を添えなければならない。

(除籍)

第24条 次の各号の一に該当する者は除籍する。

- (1) 第7条第3項に規定する在学年限を超えた者
- (2) 第22条第2項に規定する休学の期間を超えて、なお修学できない者
- (3) 休学期間満了後正当な理由なくして、復学、休学の継続、退学のいずれかの願い出がない者
- (4) 学費の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- (5) 長期間にわたり所在不明の者
- (6) 法に定める在留資格が得られない者
- (7) 死亡した者

第25条 入学・編入学・再入学・留学・転学部・転学科・退学・休学・復学及び除籍する者は、教授会の意見を聴いて、学長が定める。

第5章 教育課程及び履修方法等

(授業科目)

第26条 授業科目を分けて、共通教育科目、基礎教育科目及び専門教育科目とする。

- 2 前項の授業科目のほか、本学独自の教育目標を達成するため、特別教育科目を置く。特別教育科目は、原則として特別学期に開講する。
- 3 共通教育科目の授業科目並びにその単位数は、別表第1のとおりとする。
- 4 基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数は、別表第2のとおりとする。
- 5 特別教育科目の授業科目並びにその授業時間数は、別表第3のとおりとする。

第27条 前条に規定するもののほか、教職、司書、司書教諭及び学芸員に関する専門教育科目を置く。

- 2 前項の各授業科目並びにその単位数は、別表第4から第7のとおりとする。

(教育職員免許状)

第27条の2 教育職員免許状授与の所要資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、教育職員免許法及び同法施行規則に定める所定の単位を、別表第1、第2及び履修方法(別表第1、第2の備考)、並びに別表第4に従い修得しなければならない。

- 2 本学で開設する教育職員免許法施行規則第66条の6に定める「日本国憲法」、「教育の基礎的理解に関する科目等」、「各教科の指導法」、「大学が独自に設定する科目」の授業科目並びにその単位数は、別表第4のとおりとする。ただし、教育学部教育学科においては別表第2のとおりとする。健康・スポーツ科学部健康・スポーツ科学科における教育職員免許法施行規則第66条の6に定める「日本国憲法」は別表第4のとおり、「教育の基礎的理解に関する科目等」、「各教科の指導法」、「大学が独自に設定する科目」は別表第2のとおりとする。
- 3 食物栄養科学部食物栄養学科の学生で栄養教諭一種免許状授与の所要資格を得ようとする者は、

第1項によるほか、栄養士法、同法施行規則及び管理栄養士学校指定規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

4 本学において当該所要資格を取得できる学部学科、教員免許状の種類及び免許教科又は領域を次のとおりとする。

学 部	学 科	免許状の種類	免許教科又は領域
文 学 部	日 本 語 日 本 文 学 科	中学校教諭一種免許状	国 語
		高等学校教諭一種免許状	国語・書道
	英 語 文 化 学 科	中学校教諭一種免許状	英 語
		高等学校教諭一種免許状	英 語
教 育 学 部	教 育 学 科	幼稚園教諭一種免許状	—
		小学校教諭一種免許状	—
		中学校教諭一種免許状	国語・英語
		特別支援学校教諭一種免許状	知的障害者 肢体不自由者 病弱者
健康・スポーツ 科 学 部	健康・スポーツ科学科	中学校教諭一種免許状	保 健 体 育
		高等学校教諭一種免許状	保 健 体 育
	スポーツマネジメント学科	中学校教諭一種免許状	保 健 体 育
		高等学校教諭一種免許状	保 健 体 育
生活環境学部	生 活 環 境 学 科	中学校教諭一種免許状	家 庭
		高等学校教諭一種免許状	家 庭
社会情報学部	社 会 情 報 学 科	高等学校教諭一種免許状	情 報
食物栄養科学部	食 物 栄 養 学 科	栄養教諭一種免許状	—
音 楽 学 部	演 奏 学 科	中学校教諭一種免許状	音 楽
	応 用 音 楽 学 科	高等学校教諭一種免許状	音 楽
薬 学 部	健 康 生 命 薬 科 学 科	中学校教諭一種免許状	理 科
		高等学校教諭一種免許状	理 科

(図書館司書、学校図書館司書教諭)

第27条の3 図書館司書課程履修可能な学科において図書館司書の資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、図書館法及び同法施行規則に定める単位を別表第5に従い修得しなければならない。

2 学校図書館司書教諭講習修了証書授与の資格要件取得可能な学科において学校図書館司書教諭講習修了証書授与の資格要件を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、教育職員免許法及び同法施行規則に定める小学校、中学校又は高等学校の教育職員免許状授与の所要資格を得るために必要な単位を修得するとともに、学校図書館司書教諭講習規程に定める単位を別表第6に従い修得しなければならない。

(博物館学芸員)

第27条の4 博物館学芸員課程履修可能な学科において博物館学芸員の資格を得ようとする者は、

第35条の規定によるほか、博物館法及び同法施行規則に定める単位を別表第7に従い修得しなければならない。

(保育士)

第27条の5 教育学部教育学科の学生で保育士証交付の資格要件を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、児童福祉法及び同法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

- 2 教育学部教育学科の指定養成施設としての定員は100名である。
- 3 履修方法は別に定める。

(栄養士、管理栄養士)

第27条の6 食物栄養科学部食物栄養学科及び食創造科学科の学生で栄養士免許証交付の資格要件を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、栄養士法及び同法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

- 2 食物栄養科学部食物栄養学科の学生で管理栄養士国家試験受験資格を得ようとする者は、前項の規定により栄養士免許証交付の資格要件を得るとともに、管理栄養士学校指定規則に定める所定の単位を修得しなければならない。
- 3 履修方法は別に定める。

(建築士)

第27条の7 生活環境学部生活環境学科及び建築学科、建築学部建築学科及び景観建築学科の学生で本学を卒業後2年以上の実務の経験を経て一級建築士国家試験受験資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、建築士法第14条第1号に基づき、国土交通大臣の指定する建築に関する科目の単位を修得しなければならない。

- 2 履修方法は別に定める。

(社会福祉士、精神保健福祉士)

第27条の8 心理・社会福祉学部社会福祉学科の学生で、社会福祉士国家試験受験資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、社会福祉士及び介護福祉士法並びに同法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

- 2 心理・社会福祉学部社会福祉学科の学生で、精神保健福祉士国家試験受験資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、精神保健福祉士法に定める所定の単位を修得しなければならない。
- 3 心理・社会福祉学部社会福祉学科の定員は70名である。
- 4 心理・社会福祉学部社会福祉学科の、社会福祉士の指定養成施設としての定員は70名である。
- 5 心理・社会福祉学部社会福祉学科の、精神保健福祉士の指定養成施設としての定員は40名である。
- 6 履修方法は別に定める。

(看護師)

第27条の9 看護学部看護学科の学生で、看護師国家試験受験資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める所定の単位を修得しなければ

ならない。

2 履修方法は別に定める。

(単位の計算方法)

第28条 第26条第1項並びに第27条第1項に規定する各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。ただし、必要がある場合には、授業科目の内容に応じ、教育効果を考慮して、20時間又は30時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (2) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、必要がある場合には、授業科目の内容に応じ、授業時間外に必要な学修等を考慮して、15時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (3) 実験、実習及び実技については、45時間の授業をもって1単位とする。ただし、必要がある場合には、授業科目の内容及び授業の方法に応じ、教育効果を考慮して、30時間の授業をもって1単位とすることができる。音楽の個人指導による実技の授業については、特に授業時間外に必要な学修を考慮して、5時間又は10時間の授業をもって1単位とすることができる。なお、社会福祉士国家試験受験資格に係る「ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習Ⅱ」、精神保健福祉士国家試験受験資格に係る「ソーシャルワーク実習Ⅲ、ソーシャルワーク実習Ⅳ」、保育士資格に係る「保育実習、保育実習Ⅱ、保育実習Ⅲ」、及び公認心理師国家試験受験資格に係る「心理実習」として開設の授業科目のうち実習施設における授業時間数については、厚生労働省がそれぞれの指定基準に定める実習時間数に基づき、40時間又は45時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 1の授業科目について、講義、演習、実験又は実習のうち2以上の方法により行なう場合については、その組み合わせに応じ、前3号に規定する基準により算定した時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

3 特別教育科目のうち、ボランティア活動及びインターンシップ活動による単位認定は30時間の活動をもって1単位とする。対象となる活動については、別に定める。

(多様なメディアを高度に利用した学修)

第28条の2 文部科学大臣が別に定めるところにより、前条に規定する講義、演習、実験、実習及び実技による授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

(1年間の授業期間)

第29条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

(単位の授与)

第30条 特別教育科目を除く授業科目にあつては、その授業科目を履修し、その試験に合格した者には所定の単位を与える。ただし、第28条第2項の授業科目については、適切な方法により学修の成果を評価して所定の単位を与えることができる。

2 第28条第3項の基準に従って認定された者には所定の特別単位を与える。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第31条 本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学の協定した他の大学又は短期大学の授業科目を履修し修得した単位を、60単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、学生が第16条の3の規定により外国の大学又は短期大学に留学する場合、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第32条 本学が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、前条第1項及び第2項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

3 第1項に規定する学修に対する単位の認定等について必要な事項は、別に定める。

(入学前の既修得単位の認定)

第33条 本学の第1年次に入学した学生が、入学する前に大学又は短期大学(外国の大学又は短期大学を含む。)において履修した授業科目について、修得した単位(科目等履修生により修得した単位を含む。)を、本学が教育上有益と認めるときは、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 本学の第1年次に入学した学生が、入学する前に行った前条第1項に規定する学修を本学が教育上有益と認めるときは、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第31条第1項及び第2項並びに前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(成績の評価)

第34条 試験等成績の評価は、S、A、B、C、不合格、E、F、認をもって表わし、S、A、B、

C、認を合格とする。

2 この学則に定めるもののほか、成績の評価に関する必要な事項は、別に定める。

第6章 卒業及び学位の授与

(卒業の要件)

第35条 本学の卒業要件は、第7条に規定する修業年限以上在学し、別表第1、第2に掲げる授業科目の中から、同表に定める履修方法に従い、124単位以上を修得しなければならない。ただし、生活環境学部建築学科及び建築学部の学生は128単位以上を、薬学部薬学科の学生は190単位以上を、看護学部看護学科の学生は127単位以上を修得しなければならない。

2 前項に規定するもののほか、別表第4から第7に掲げる授業科目を履修し、単位を修得した場合、20単位を超えない範囲で、卒業に必要な単位数に含めることができる。

(卒業)

第36条 本学に第7条に規定する修業年限以上在学し、前条に規定する所定の単位数を修得した者については、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定する。

(学位の授与)

第37条 学長は、卒業を認定した者に対して、武庫川女子大学学位規程の定めるところにより、学士の学位を授与する。

第38条 削除

第7章 入学検定料・入学金・学費

(入学検定料等の金額)

第39条 本学の入学検定料・入学金及び学費は、別表第8のとおりとする。

(学費の納入期)

第40条 学費は次の2回に分けて納入しなければならない。

第1回 4月20日まで

第2回 10月11日まで

2 学長は、必要に応じて前項の期日を臨時に変更することができる。

(納入した入学検定料等)

第41条 納入した入学検定料及び入学金は、事情の如何にかかわらず返還しない。

2 納入した授業料・教育充実費及び学生研修費等の取扱いについては、別に定める。

(退学・停学・休学・復学の場合の学費)

第42条 退学・停学・休学・復学の場合の学費の納入方法については、別に定める。

2 休学中は、学費の納入は免除する。ただし、休学中は、休学在籍料を納入しなければならない。

休学在籍料に関する必要な事項は、別に定める。

(留年・卒業延期の場合の学費)

第42条の2 留年・卒業延期の場合の学費に関する必要な事項は、別に定める。

第8章 教職員組織

(教職員組織)

第43条 本学に学長、副学長、教授、准教授、講師、助教、助手、副手、事務職員、技術職員、その他必要な職員を置く。

(学長)

第44条 学長は本学の学務を掌理し、所属職員を統督する。

(副学長)

第45条 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

2 学長に事故あるときは、その職務を代行する。

(学部長)

第46条 本学に学部長を置く。

2 学部長は、当該学部の学務を掌理し、所属職員を統督する。

(共通教育部長)

第46条の2 本学に共通教育部長を置く。

2 共通教育部長は、共通教育部の学務を掌理し、所属職員を統督する。

(学科長)

第47条 本学に学科長を置く。

2 学科長は、当該学科の学務を掌理し、所属職員を統督する。

(共通教育科長)

第47条の2 本学に共通教育科長を置く。

2 共通教育科長は、共通教育の学務を掌理し、所属職員を統督する。

(幹事教授)

第48条 本学に幹事教授を置く。

2 幹事教授は、学科長を補佐する。

第9章 学部教授会、共通教育部教授会及び評議会

(学部教授会)

第49条 本学に学部教授会（以下「教授会」という。）を置く。

(共通教育部教授会)

第49条の2 本学に共通教育部教授会を置く。

(教授会の構成)

第50条 教授会は、当該学部の専任教授をもって構成する。ただし、学部長が必要と認めたときは、当該学部の専任の准教授、講師及び助教を加えることができる。

2 教授会は、学部長が招集し、その議長となる。

(共通教育部教授会の構成)

第50条の2 共通教育部教授会は、当該部の専任教授をもって構成する。ただし、共通教育部長が

必要と認めるときは、当該部の専任の准教授、講師及び助教を加えることができる。

2 共通教育部教授会は、共通教育部長が招集し、その議長となる。

(教授会の審議事項)

第51条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
- (2) 学位の授与に関する事項
- (3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(共通教育部教授会の審議事項)

第51条の2 共通教育部教授会は、学長が、共通教育に係る教育研究に関する重要な事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

2 共通教育部教授会は、学長及び共通教育部長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる共通教育に係る教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(評議会)

第52条 本学に大学評議会（以下「評議会」という。）を置き、全学部を横断する事項について審議する。

(評議会の構成)

第53条 評議会は、開設する学部・学科を代表する者を含む学長の申請に基づき理事長が任命した次に掲げる評議員をもって構成する。

- (1) 学 長
- (2) 副 学 長
- (3) 各学部長
- (4) 共通教育部長
- (5) 各学科長
- (6) 教育研究所長
- (7) 附属図書館長
- (8) その他、学長が必要と認めたる者

2 評議会は、学長が招集し、その議長となる。

(評議会の審議事項)

第54条 評議会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学則に基づく規程の制定改廃に関する事項
- (2) 学務に関する全般的事項

- (3) 学生の入学及び卒業の基準に関する事項
 - (4) 教育課程の編成に関する全学的な方針の策定、検証、評価等に関する事項
 - (5) 教育、研究に関する全般的事項
 - (6) その他学長が評議会の意見を聴くことが必要と定める事項
- (その他)

第55条 本章に定めるもののほか、教授会、共通教育部教授会及び評議会に関し必要な事項は、別に定める。

第10章 科目等履修生・特別聴講生・研究生・研修員及び外国人留学生

(科目等履修生・特別聴講生)

第56条 本学において、特定の授業科目の履修を志望する者があるときは、本学の教育に支障がない限り、選考の上、科目等履修生として在籍を許可することがある。科目等履修生が受講した授業科目について試験を受け、これに合格した場合は、所定の単位を与える。

2 他の大学又は短期大学（外国の大学・短期大学を含む。）との協議に基づき、当該他の大学又は短期大学の学生が、本学の授業科目について履修を願い出たときは、選考の上、これを特別聴講生として履修を許可することができる。特別聴講生が受講した授業科目について試験を受け、これに合格した場合は、所定の単位を与える。

3 科目等履修生の履修料等は、別表第9のとおりとし、特別聴講生の聴講料等は、別に定める。

(研究生)

第57条 本学において、特に研究を志望する者があるときは、その願い出により、研究生として許可することがある。

2 研究生の研究料は、別表第10のとおりとする。

(研修員)

第58条 本学以外の機関に所属する者で、その所属機関の長の委託により、大学において特定事項について研修しようとするときは、願い出により、研修員として許可することがある。

2 研修員の研修料は、別に定める。

(外国人留学生)

第59条 外国人で、本学に入学を志願する者があるときは、選抜の上、外国人留学生として入学を許可することがある。

(その他)

第60条 科目等履修生・特別聴講生・研究生・研修員及び外国人留学生の許可については、教授会の意見を聴いて、学長が決定する。

2 科目等履修生・特別聴講生・研究生及び外国人留学生の本学則の適用については、修学上必要な事項のほか第62条並びに第63条の規定を準用する。

3 この学則に定めるもののほか、科目等履修生・特別聴講生・研究生・研修員及び外国人留学生に関する必要な事項は、別に定める。

第61条 削除

第11章 賞罰

(表彰)

第62条 学生として全学生の模範となる善行のあった者は、教授会の意見を聴いて、学長が表彰する。

(懲戒)

第63条 本学の規則、命令に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした学生は、教授会の意見を聴いて、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、退学・停学及び訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する学生に対して行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当な理由がなくて出席常でない者

(4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

4 前2項により停学となった期間は、第7条に規定する修業年限に含めることはできない。

5 この学則に定めるもののほか、懲戒に関する必要な事項は、別に定める。

第12章 附属図書館

(附属図書館)

第64条 本学に附属図書館を置く。

2 附属図書館に関する規定は、別に定める。

第13章 スポーツセンター

(スポーツセンター)

第65条 本学にスポーツセンターを置く。

2 スポーツセンターに関する規定は、別に定める。

第14章 研究所

(研究所)

第66条 本学に教育研究所、発達臨床心理学研究所、言語文化研究所、生活美学研究所、情報教育研究センター、バイオサイエンス研究所、国際健康開発研究所、トルコ文化研究センター、健康運動科学研究所、栄養科学研究所、学校教育センター、女性活躍総合研究所及び附属総合ミュージアムを置く。

2 研究所に関する規定は、別に定める。

第15章 公開講座

(オープン・カレッジ)

第67条 本学にオープン・カレッジを置く。

2 オープン・カレッジに関する規定は、別に定める。

第16章 学寮

(学寮)

第68条 本学に学寮を置く。

2 学寮に関する規定は、別に定める。

第17章 改廃

(改廃)

第69条 本学則の改廃は、評議会の意見を聴いて、理事会において決定する。

附 則

この学則は、昭和24年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和27年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和33年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和34年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和37年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和38年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和39年8月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和40年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和41年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和43年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和44年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和47年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和48年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和49年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和50年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和51年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和52年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和53年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和54年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和55年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和56年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和58年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和59年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和62年1月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和62年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成元年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成3年9月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成3年10月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成11年10月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成14年7月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成17年10月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成18年1月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 第26条第4項の規定にかかわらず、平成23年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお従前のおりとする。
- 3 第27条の4の規定にかかわらず、平成23年度以前の入学生の博物館学芸員の資格を得ることができる学科については、なお従前のおりとする。
- 4 第27条の8の規定にかかわらず、平成23年度以前の入学生の社会福祉士国家試験受験資格及び精神保健福祉士国家試験受験資格の指定養成施設としての定員については、なお従前のおりとする。
- 5 第35条の規定にかかわらず、平成23年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のおりとする。
- 6 第42条第2項の規定にかかわらず、平成23年度以前の入学生の休学中の学費の納入については、なお従前のおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 第26条第4項の規定にかかわらず、平成24年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目

の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお従前のおりとする。

- 3 第35条の規定にかかわらず、平成24年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 第26条第4項の規定にかかわらず、平成25年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお従前のおりとする。
- 3 第35条の規定にかかわらず、平成25年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のおりとする。

附 則

この学則は、平成26年9月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 第7条第4項、第20条第2項及び第22条第3項の規定にかかわらず、平成26年度以前の入学生の在学年限、退学及び休学の期間については、なお従前のおりとする。
- 3 第26条第4項の規定にかかわらず、平成26年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお従前のおりとする。
- 4 第27条の2第2項の規定にかかわらず、平成26年度以前の入学生の「教職に関する科目」及び「教科又は教職に関する科目」の授業科目並びにその単位数（別表第4）については、なお従前のおりとする。
- 5 第35条の規定にかかわらず、平成26年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 第26条第4項の規定にかかわらず、平成27年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお従前のおりとする。

附 則

この学則は、平成28年11月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 第26条第4項の規定にかかわらず、平成28年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお従前のおりとする。
- 3 第27条の3第1項及び第2項の規定にかかわらず、平成28年度以前の入学生については、なお従前のおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成30年4月1日から施行する。

- 2 第26条第4項の規定にかかわらず、平成29年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお従前のおりとする。
- 3 第27条の2の規定にかかわらず、平成29年度以前の入学生の中学校・高等学校教諭「教職に関する科目」の授業科目及びその単位数（別表第4）、並びに教育職員免許状授与の所要資格を取得できる学部学科、教員免許状の種類及び免許教科又は領域については、なお従前のおりとする。
- 4 第28条第1項第3号の規定にかかわらず、平成29年度以前の入学生については、なお従前のおりとする。
- 5 第35条の規定にかかわらず、平成29年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 文学部教育学科は、平成31年3月31日に当該学科に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 第26条第4項の規定にかかわらず、平成30年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお従前のおりとする。
- 4 第27条の2、第27条の5及び第27条の8の規定にかかわらず、平成30年度以前の入学生については、なお従前のおりとする。

附 則

- 1 この学則は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 第5条に規定する食物栄養科学部食物栄養学科及び食創造科学科の収容定員は、令和2年度から令和4年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
		収容定員	収容定員	収容定員
食物栄養科学部 食物栄養学科		200	400	610
食物栄養科学部 食創造科学科		80	160	245

- 3 生活環境学部食物栄養学科は、令和2年3月31日に当該学科に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 4 第5条に規定する建築学部建築学科及び景観建築学科の収容定員は、令和2年度から令和4年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
		収容定員	収容定員	収容定員
建築学部 建築学科		45	90	135
建築学部 景観建築学科		40	80	120

- 5 生活環境学部建築学科は、令和2年3月31日に当該学科に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 6 第5条に規定する経営学部経営学科の収容定員は、令和2年度から令和4年度までの間、次の

とおりとする。

学部・学科	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
		収容定員	収容定員	収容定員
経営学部 経営学科		200	400	600

- 7 第5条の2第6項、第7項及び第11項の規定にかかわらず、平成31年度以前の入学生については、なお従前のおとりとする。
- 8 第26条第4項の規定にかかわらず、平成31年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお、従前のおとりとする。
- 9 第27条の2第3項及び第4項の規定にかかわらず、平成31年度以前の入学生については、なお従前のおとりとする。
- 10 第27条の6の規定にかかわらず、平成31年度以前の入学生については、なお従前のおとりとする。

附 則

- 1 この学則は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 第26条第4項の規定にかかわらず、令和2年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお従前のおとりとする。
- 3 第27条の2（別表第4）の規定にかかわらず、令和2年度以前の入学生については、なお従前のおとりとする。
- 4 第35条の規定にかかわらず、令和2年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のおとりとする。

附 則

- 1 この学則は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 第26条第4項の規定にかかわらず、令和3年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお従前のおとりとする。
- 3 第27条の2の規定にかかわらず、令和3年度以前の入学生の各教科の指導法及び教育の基礎的理解に関する科目等、大学が独自に設定する科目の授業科目並びにその単位数（別表第4）については、なお従前のおとりとする。
- 4 第35条の規定にかかわらず、令和3年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のおとりとする。

附 則

- 1 この学則は、令和5年4月1日から施行する。
- 2 第5条に規定する心理・社会福祉学部心理学科及び社会福祉学科の収容定員は令和5年度から令和7年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科	年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
		収容定員	収容定員	収容定員
心理・社会福祉学部心理学科		150	300	450

心理・社会福祉学部社会福祉学科	70	140	210
-----------------	----	-----	-----

3 文学部心理・社会福祉学科は、令和5年3月31日に当該学科に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

4 第5条に規定する健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科の収容定員は令和5年度から令和7年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科	年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
		収容定員	収容定員	収容定員
健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科		100	200	300

5 第5条に規定する社会情報学部社会情報学科の収容定員は令和5年度から令和7年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科	年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
		収容定員	収容定員	収容定員
社会情報学部 社会情報学科		180	360	540

6 生活環境学部情報メディア学科は、令和5年3月31日に当該学科に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする

7 第5条の2第4項、第5項及び第7項の規定にかかわらず、令和4年度以前の入学生については、なお従前のとおりとする。

8 第26条第4項の規定にかかわらず、令和4年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお、従前のとおりとする。

9 第27条の2第4項の規定にかかわらず、令和4年度以前の入学生については、なお従前のとおりとする。

10 第27条の8の規定にかかわらず、令和4年度以前の入学生については、なお従前のとおりとする。

11 第35条の規定にかかわらず、令和4年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のとおりとする。

別表第1

共通教育科目

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教養科目群 人文科学科目				現代社会と憲法		2	
神話・伝説の世界から		2		教養としての法律		2	
平安朝文学の世界		2		暮らしと法律		2	
鎌倉時代の文学への誘い		2		女性と子どものヘルスケア		2	
平安時代の文学への誘い		2		消費者生活論		2	
日常生活からの哲学入門		2		英語で学ぶやさしい経済学		2	
現代フランスの音楽事情		2		英語で学ぶお金の知識		2	
ミュージカル歌唱法		1		我々の暮らしと日本の産業		2	
音楽の科学		2		メディア技術と文字デザイン		2	
フランスの音楽と芸術文化		2		まちづくりと地方自治の役割		2	
先端芸術表現		1		基礎教養科目群 自然科学科目			
自己発見アート		1		文化を創造する数学		2	
未来造形		1		生命科学入門		2	
歌舞伎鑑賞入門		2		生活の中の物理学		2	
日本の文化 I		2		最先端物理学が描く宇宙		2	
日本の文化 II		2		微生物がつくる発酵食品の不思議		2	
遊びの人類学		2		薬の歴史と未来		2	
SNSから日本語を見る		2		薬とからだ		2	
基礎教養科目群 社会科学科目				医薬品概論		2	
現代世界の教育		2		基礎教養科目群 国際理解科目			
差別と暴力のない世界をめざして		2		韓国文化の理解		2	
メディアに映る女性		2		中国文化論		2	
生涯福祉論		2		国際協力入門		2	
社会福祉とボランティア		2		世界の中の日本人		2	
福祉レクリエーションの実際		2		基礎教養科目群 現代トピック科目			
子育てと家族関係		2		モラルジレンマから考える私		2	
子育てと母性の気づき		2		女性のためのマーケティング		2	
環境心理学入門		2		Current Affairs in Japan I		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
Current Affairs in Japan II		2		Speaking & Listening III		1	
ジェンダー科目群				P r e s e n t a t i o n		1	
セクシュアリティ入門		2		W r i t i n g I		1	
女性の身体とセクシュアリティ		2		W r i t i n g II		1	
メディアに見るジェンダー		2		English for Careers		1	
女性が輝く社会づくり		2		Reading & Discussion		1	
キャリアデザイン科目群				Global Communication I		1	
女性のためのライフプランニング		2		Global Communication II		1	
自己アピールトレーニング		2		Current Events I		1	
キャリアビジョンと人物評価		2		Current Events II		1	
言語・情報科目群 言語リテラシー科目				Reading & Critical Thinking		1	
英語コミュニケーションI		2		Career Workshop		1	
英語コミュニケーションII		2		ド イ ツ 語 I		2	
英語コミュニケーションIII		1		ド イ ツ 語 II		2	
英語コミュニケーションIV		1		フ ラ ン ス 語 I		2	
英語リーディングI		1		フ ラ ン ス 語 II		2	
英語リーディングII		1		フ ラ ン ス 語 I A		1	
英語ライティングI		1		フ ラ ン ス 語 I B		1	
英語ライティングII		1		中 国 語 I		2	
T O E I C 演 習 I		1		中 国 語 II		2	
T O E I C 演 習 II		1		イ タ リ ア 語 I A		1	
T O E I C 演 習 III		1		イ タ リ ア 語 I B		1	
T O E F L 演 習		1		ス ペ イ ン 語 I		2	
T O E I C (初級)		1		ハ ン グ ル I		2	
Basics for Presentation I		1		ハ ン グ ル II		2	
Basics for Presentation II		1		特 別 英 語 演 習 I		4	
Grammar for Communication		1		特 別 英 語 演 習 II		4	
Reading & Writing		1		特 別 中 国 語 演 習 I		2	
Speaking & Listening I		1		特 別 中 国 語 演 習 II		2	
Speaking & Listening II		1		特 別 ハ ン グ ル 演 習 I		4	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
特別ハンゲル演習Ⅱ		4		スポーツ実技（ゴルフ）		1	
日 本 語 初 級 A		3		スポーツ実技（バレーボール）		1	
日 本 語 初 級 B		3		スポーツ実技（バドミントン）		1	
日 本 語 初 級 C		3		スポーツ実技（ジャズダンス）		1	
日 本 語 初 級 D		3		スポーツ実技（エアロビクス）		1	
日 本 語 中 級 A		3		スポーツ実技（スリムエアロ）		1	
日 本 語 中 級 B		3		スポーツ実技（ダンスエアロ）		1	
日 本 語 中 級 C		3		ス ポ ー ツ 実 技（水泳）		1	
日 本 語 中 級 D		3		スポーツ実技（軽スポーツ）		1	
日 本 語・ 上 級 I		2		ス ポ ー ツ 実 技（ヨガ）		1	
日 本 語・ 上 級 II		2		スポーツ実技（サッカー）		1	
日 本 語・ 上 級 III		2		からだと気づきと姿勢法		1	
日 本 語・ 上 級 IV		2		スポーツ実技（スタイルジャズ）		1	
言語・情報科目群 情報リテラシー科目							
Access データベース基礎		2					
情報社会を生きる技術		2					
Web デ ザ イ ン 基 礎		2					
Web デ ザ イ ン 応 用		2					
Scratch によるプログラミング		2					
グラフィックデザイン基礎		2					
フォトレタッチ基礎		2					
データサイエンスの基礎と Excel		2					
データサイエンスの応用と Excel		2					
データリテラシー・AIの基礎	2						
健康・スポーツ科目群 健康・スポーツ科学科目							
ス ポ ー ツ と 栄 養		2					
生 涯 ス ポ ー ツ 論		2					
ス ポ ー ツ と 現 代 社 会		2					
健康・スポーツ科目群 スポーツ実技科目							
ス ポ ー ツ 実 技（テニス）		1					

別表第2

基礎教育科目及び専門教育科目

文学部 日本語日本文学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				日 本 語 学 特 講 I		2	
初 期 演 習 I	1			日 本 語 学 特 講 II		2	
初期演習Ⅱ(日本語日本文学)	1			社 会 言 語 学		2	
古 文 入 門	2			言 語 学 I		2	
漢 文 入 門	2			言 語 学 II		2	
日 本 語 表 現 入 門		2		日 本 語 教 育 学 入 門		2	
日 本 語 表 現 演 習 I	1			日 本 語 教 授 法		2	
日 本 語 表 現 演 習 II	1			日 本 語 教 材 研 究 I		2	
情報リテラシー I	2			日 本 語 教 材 研 究 II		2	
情報リテラシー II	2			日 本 語 教 授 法 実 習		1	
Oral Communication		2		日 本 語 教 育 史		2	
TOEIC 認定英語 I		2		日 本 語 教 育 特 講		2	
TOEIC 認定英語 II		2		言 語 発 達 論		2	
TOEIC 認定英語 III		2		言 語 と 心 理		2	
TOEIC 認定英語 IV		2		異文化間コミュニケーション		2	
専門教育科目				多 文 化 共 生 論		2	
日 本 語 学 概 論 I	2			日 本 語 教 育 イン タ ー ナ ー シ ッ プ		2	
日 本 語 学 概 論 II	2			日 本 古 典 文 学 概 論	2		
音 声 ・ 音 韻 論		2		日 本 近 代 文 学 概 論	2		
語 彙 ・ 意 味 論		2		日 本 古 典 文 学 史		2	
文 法 ・ 文 体 論		2		日 本 近 代 文 学 史		2	
文 字 ・ 表 記 論		2		上 代 文 学 講 読 I		2	
談 話 研 究		2		上 代 文 学 講 読 II		2	
日 本 語 学 文 献 講 読 I		2		中 古 文 学 講 読 I		2	
日 本 語 学 文 献 講 読 II		2		中 古 文 学 講 読 II		2	
日 本 語 史 I		2		中 世 文 学 講 読 I		2	
日 本 語 史 II		2		中 世 文 学 講 読 II		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
近世文学講読Ⅰ		2		日本の芸能		2	
近世文学講読Ⅱ		2		日本の伝統文化		2	
近代文学講読Ⅰ		2		日本の現代文化		2	
近代文学講読Ⅱ		2		知的財産論		2	
上代文学研究Ⅰ		2		書道Ⅰ		2	
上代文学研究Ⅱ		2		書道Ⅱ		2	
中古文学研究Ⅰ		2		書道Ⅲ		2	
中古文学研究Ⅱ		2		書道Ⅳ		2	
中世文学研究Ⅰ		2		書道史Ⅰ		2	
中世文学研究Ⅱ		2		書道史Ⅱ		2	
近世文学研究Ⅰ		2		書論・鑑賞学		2	
近世文学研究Ⅱ		2		身体表現法		2	
近代文学研究Ⅰ		2		プレゼンテーション技法		2	
近代文学研究Ⅱ		2		情報デザイン		2	
児童文学論		2		文芸創作		2	
現代文学論Ⅰ		2		コンピュータ概論		2	
現代文学論Ⅱ		2		言語データ処理		1	
日本文学特講Ⅰ		2		情報検索法		2	
日本文学特講Ⅱ		2		情報処理特論Ⅰ		2	
漢文学講読Ⅰ		2		情報処理特論Ⅱ		2	
漢文学講読Ⅱ		2		言語情報・文献管理特論Ⅰ		2	
東アジア思想文学Ⅰ		2		言語情報・文献管理特論Ⅱ		2	
東アジア思想文学Ⅱ		2		中国語概説		2	
国語教育実践研究Ⅰ		2		韓国語概説		2	
国語教育実践研究Ⅱ		2		英語で読む日本Ⅰ		2	
国語教育実践研究Ⅲ		2		英語で読む日本Ⅱ		2	
国語教育実践研究Ⅳ		2		海外文化体験演習		4	
阪神間の文化		2		演習Ⅰ	2		
文化交流史		2		演習Ⅱ	2		
美術史		2		卒業論文(卒業制作)	4		

文学部 英語文化学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				Basic Preparation for English Proficiency Tests FF (資格英語演習 FF)		1	
初 期 演 習 I	1			リーディング・ライティング IA	1		
初期演習Ⅱ (海外留学に向けて)	1			リーディング・ライティング IB	1		
情報リテラシー I	2			リーディング・ライティングⅡA	1		
情報リテラシーⅡ		2		リーディング・ライティングⅡB	1		
リスニング I A	1			オーラルコミュニケーション IA	1		
リスニング I B	1			オーラルコミュニケーション IB	1		
リスニングⅡ	1			オーラルコミュニケーションⅡA		1	
スピーキング I A	1			オーラルコミュニケーションⅡB		1	
スピーキング I B	1			専門教育科目			
スピーキングⅢ	1			英語の発音 A	1		
リーディング I A	1			英語の発音 B	1		
リーディング I B	1			活用文法 A	2		
リーディングⅢ	1			活用文法 B	2		
ライティング I A	1			英米文学入門		2	
ライティング I B	1			American Culture (アメリカの文化)		4	
ライティングⅢ	1			American Society (アメリカの社会)		4	
TOEIC/TOEFL 演習 I	1			American Literature (アメリカの文学)		4	
TOEIC/TOEFL 演習Ⅱ	1			Business English Writing (ビジネス・イングリッシュ)		2	
TOEIC/TOEFL 演習Ⅲ		1		The Culture of the American Southwest (アメリカ南西部の文化)		4	
検定英語演習		1		Academic Writing (英文論文の書き方)		1	
資格認定英語 I		2		Public Speaking (パブリック・スピーキング)		2	
資格認定英語Ⅱ		2		University Preparation (ユニバーシティ・プレパレーション)		2	
資格認定英語Ⅲ		2		英米文学鑑賞		2	
資格認定英語Ⅳ		2		英語学入門		2	
SpeakingⅡF (スピーキングⅡF)		3		ビジネスコミュニケーション入門		2	
ReadingⅡF (リーディングⅡF)		3		Business English FF (ビジネス・イングリッシュFF)		2	
WritingⅡF (ライティングⅡF)		3		American Culture FF (アメリカ文化FF)		4	
Reading and Writing FF (リーディング・ライティングFF)		2		Academic Writing FF (英語論文作成法FF)		1	
Oral Communication FF (オーラルコミュニケーションFF)		2		Public Speaking FF (パブリック・スピーキングFF)		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
University Preparation FF (ユニバーシティ・プレパレーションFF)		2		児 童 英 語 教 育 B		2	
English and American Literature FF (英 米 文 学 FF)		2		卒 業 研 究 I A	2		
Introduction to English Linguistics FF (英 語 学 FF)		2		卒 業 研 究 I B	2		
Business Communication FF (ビジネスコミュニケーションFF)		2		卒 業 研 究 II	4		
G e r m a n F F (ド イ ツ 語 FF)		2		翻 訳 ワークショップ A		1	
F r e n c h F F (フ ラ ン ス 語 FF)		2		文 学 作 品 演 習 I A		1	
ド イ ツ 語 I		2	} ※必修6	文 学 作 品 演 習 II A		1	
ド イ ツ 語 II		2		イギリス文化と文学の流れA		2	
ド イ ツ 語 III		2		翻 訳 ワークショップ B		1	
ド イ ツ 語 IV A		1		文 学 作 品 演 習 I B		1	
ド イ ツ 語 IV B		1		文 学 作 品 演 習 II B		1	
ドイツ文化と文学 A		2		イギリス文化と文学の流れB		2	
ドイツ文化と文学 B		2		文 学 作 品 演 習 III A		1	
フ ラ ン ス 語 I		2	} ※必修6	アメリカ文化と文学の流れA		2	
フ ラ ン ス 語 II		2		英 語 児 童 文 学 A		2	
フ ラ ン ス 語 III		2		文 学 作 品 演 習 III B		1	
フ ラ ン ス 語 IV A		1		アメリカ文化と文学の流れB		2	
フ ラ ン ス 語 IV B		1		英 語 児 童 文 学 B		2	
フランス文化と文学 A		2		現代コミュニケーション英語IA		1	
フランス文化と文学 B		2	現代コミュニケーション英語IIA		1		
国際社会と英語情報		2	※「ドイツ語I・II・III」または「フランス語I・II・III」のいずれか6単位を必修	英 語 の 構 造 A		2	
ビジネス・ライティングA		2		英 語 の 歴 史 A		2	
ビジネス・ライティングB		2		現代コミュニケーション英語IB		1	
英語データベース活用法		1		現代コミュニケーション英語IIB		1	
インタラクティブ・ウェブ		1		英 語 の 構 造 B		2	
メディア英語 A		2		英 語 の 歴 史 B		2	
メディア英語 B		2		英 語 の 談 話 分 析 A		1	
最新の企業実務 A		2		現代コミュニケーション英語IIIA		1	
最新の企業実務 B		2		英 語 の 文 化 的 背 景 A		2	
児 童 英 語 教 育 A		2		英 語 の 談 話 分 析 B		1	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
現代コミュニケーション英語ⅢB		1					
英語の文化的背景 B		2					
ビジネス・イングリッシュⅠA		1					
ビジネスコミュニケーション演習		1					
ビジネス通訳基礎 A		1					
国際関係論 A		2					
ビジネス・イングリッシュⅠB		1					
ホスピタリティ英語		1					
ビジネス通訳基礎 B		1					
国際関係論 B		2					
ビジネス翻訳 A		1					
ビジネス・イングリッシュⅡA		1					
ツーリズム概論		2					
ビジネス翻訳 B		1					
ビジネス・イングリッシュⅡB		1					
グローバルビジネス論		2					
英米文化・文学演習 A		1					
英語学演習 A		1					
グローバル化と日本 A		1					
英米文化・文学演習 B		1					
英語学演習 B		1					
グローバル化と日本 B		1					
会議通訳 A		1					
国際関係論講義		2					
会議通訳 B		1					
グローバルビジネス研究		2					

教育学部 教育学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				発 達 心 理 学		2	
初 期 演 習 I	1			教 育 行 政 学	2		
初 期 演 習 II	1			特 別 支 援 教 育 総 論	2		
日 本 国 憲 法		2		国 際 教 育 論		2	
英 語 I	2			教 育 学 へ の 招 待	2		
英 語 II	2			器 楽 基 礎	1		
教 育 と I C T	2			子 ども 家 庭 福 祉	2		
体 育 I		1		理 科 内 容 論	1		
体 育 II		1		音 楽 科 内 容 論	1		
T O E I C 認 定 英 語 I		2		体 育 科 内 容 論	1		
T O E I C 認 定 英 語 II		2		外 国 語 科 内 容 論	1		
T O E I C 認 定 英 語 III		2		国 語 科 教 育 法	2		
T O E I C 認 定 英 語 IV		2		算 数 科 教 育 法	2		
外 国 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I		1		社 会 科 教 育 法	2		
外 国 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン II		1		理 科 教 育 法	2		
専門教育科目				生 活 科 教 育 法	2		
2 年 次 演 習	1			音 楽 科 教 育 法	2		
教 育 演 習	2			図 画 工 作 科 教 育 法	2		
卒 業 研 究	2			家 庭 科 教 育 法	2		
国 語 科 内 容 論		1		体 育 科 教 育 法	2		
算 数 科 内 容 論		1		外 国 語 科 教 育 法	2		
社 会 科 内 容 論		1		教 育 課 程 論	2		
生 活 科 内 容 論		1		道 徳 教 育 の 理 論 と 実 践	2		
家 庭 科 内 容 論		1		教 育 方 法 の 理 論 と 実 践	2		
図 画 工 作 科 内 容 論		1		生 徒 指 導 ・ 進 路 指 導 の 理 論 と 実 践	2		
保 育 内 容 総 論		2		教 育 相 談 の 理 論 と 実 践	2		
教 職 入 門		2	} 必修 2	特 別 活 動 の 指 導 法	2		
保 育 者 論		2		総 合 的 な 学 習 の 時 間 の 指 導 法	2		
教 育 原 理	2			学 校 教 育 参 加 実 習	1		
教 育 心 理 学 総 論	2			教 育 実 習 事 前 事 後 指 導 I (小 幼)	1		

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
教育実習Ⅰ（小幼）		4		教室で使う英語表現		1	
教 職 実 践 演 習		2		教育プログラミング		2	
教 育 社 会 学		2		学 級 担 任 論		2	
教 育 史		2		教 科 指 導 演 習		1	
教 育 哲 学		2		教 職 総 合 実 践		1	
人権教育と福祉		2		教育実習事前事後指導Ⅱ(小)		1	
子ども理解と教育		2		教 育 実 習 Ⅱ（小）		2	
社会調査法Ⅰ		1		知的障害者の心理・生理・病理		2	
学校教材としての文学		1		肢体不自由者の心理・生理・病理		2	
児 童 文 学 論		2		病弱者の心理・生理・病理		2	
日本現代文学の探究		2		L D 等 教 育 総 論		2	
言 語 学 概 論		2		教育課程・保育計画論		2	
英 語 文 法 論 Ⅰ		2		子 ど も と 健 康		1	
異文化理解とコミュニケーション		2		子 ど も と 人 間 関 係		1	
英 語 文 学 入 門		2		子 ど も と 環 境		1	
英 語 児 童 文 学		2		子 ど も と 言 葉		1	
時事問題と英語表現		2		保 育 内 容 ・ 健 康		2	
国際教育フィールドワークⅠ		1		保 育 内 容 ・ 環 境		2	
国際教育フィールドワークⅡ		1		保 育 内 容 ・ 人 間 関 係		2	
海外教育参加実習指導		1		保 育 内 容 ・ 言 葉		2	
海外教育参加実習		1		保 育 内 容 ・ 表 現 Ⅰ		1	
世界の子どもたち		1		保 育 内 容 ・ 表 現 Ⅱ		1	
子 ど も と 数 学		1		子 ど も 理 解 と 幼 児 教 育		2	
理 科 教 育 実 践		1		教育実習事前事後指導Ⅱ(幼)		1	
音 楽 科 教 育 実 践		1		教 育 実 習 Ⅱ（幼）		2	
子 ど も と 音 楽 表 現		1		特 別 支 援 教 職 論		2	
子 ど も と 造 形 表 現		1		知 的 障 害 教 育		2	
調理と裁縫の生活スキル		1		障 害 児 指 導 法		2	
子 ど も と 身 体 表 現		1		肢 体 不 自 由 教 育		2	
体育・スポーツ演習		1		病 弱 教 育		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
知的障害教育総論		2		ライティング I A		1	
肢体不自由教育総論		2		ライティング I B		1	
病弱教育総論		2		中等英語科教育法 I		2	
視覚障害教育総論		2		中等英語科教育法 II		2	
聴覚障害教育総論		2		中等英語科教育法 III		2	
重複障害等教育総論		2		中等英語科教育法 IV		2	
特別支援学校教育実習事前事後指導		1		教育実習事前事後指導(中)		1	
特別支援学校教育実習		2		教育実習(中)		4	
日本語表現 I		2		日本古典文学の探究 I		2	
日本語表現 II		2		日本古典文学の探究 II		2	
日本語学概論 I		2		日本近代文学の探究		2	
日本語学概論 II		2		英語文法論 II		2	
日本語文法		2		英語文学の探究		2	
日本語の歴史		2		外国語コミュニケーション V		1	
日本古典文学概論		2		教育実習事前事後指導 I (幼小)		1	
日本近代文学概論		2		教育実習 I (幼小)		4	
日本古典文学史		2		保育・教職実践演習(幼)		2	
日本近代文学史		2		教職総合実践(幼)		1	
漢文入門		2		学級担任論(幼)		2	
漢文学		2		幼児教育実践演習		1	
中等国語科教育法 I		2		運動遊び演習		1	
中等国語科教育法 II		2		アンサンブルと弾き歌い		1	
中等国語科教育法 III		2		保育原理		2	
中等国語科教育法 IV		2		社会福祉		2	
英語学		2		子ども家庭支援論		2	
英語文学と日本		2		子ども家庭支援の心理学		2	
英語文学と世界		2		社会的養護 I		2	
異文化間教育 I		2		子どもの保健		2	
外国語コミュニケーション III		1		子どもの食と栄養		2	
外国語コミュニケーション IV		1		乳児保育 I		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
乳 児 保 育 Ⅱ		1		その他の卒業非算入科目			各授業科目は、小学校・幼稚園等でのボランティア活動30時間に対して1単位を認定する。この科目は、自由科目として扱い、修得した単位は、卒業要件の単位に含めない。
子どもの健康と安全		1		書 道 I		2	
障害児保育		2		書 道 II		2	
社会的養護Ⅱ		1		リーディングⅠA		1	
子育て支援		1		リーディングⅠB		1	
教育実習事前事後指導Ⅱ(小)		1		教育ボランティア活動2022A			
教育実習Ⅱ(小)		2		教育ボランティア活動2022B			
地域福祉論		2		教育ボランティア活動2023A			
施設経営論		2		教育ボランティア活動2023B			
家庭支援論演習		1		教育ボランティア活動2024A			
保育実習指導ⅠA		1		教育ボランティア活動2024B			
保育実習指導ⅠB		1		教育ボランティア活動2025A			
保育実習Ⅰ(保育所)		2		教育ボランティア活動2025B			
保育実習Ⅰ(施設)		2					
保育実習指導Ⅱ		1					
保育実習Ⅱ		2					
保育実習指導Ⅲ		1					
保育実習Ⅲ		2					
国際教育フィールドワークⅢ		1					
国際教育フィールドワークⅣ		1					
国際教育フィールドワークⅤ		1					
社会調査法Ⅱ		1					
共生社会論		2					
シティズンシップ教育		2					
グローバル社会論		2					
メディアリテラシーと教育		2					
異文化間教育Ⅱ		2					
環境教育論		2					
地域問題研究		2					
データリテラシーと教育		2					

心理・社会福祉学部 心理学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				福 祉 心 理 学		2	
人間と社会 (HEARTプログラムコア)	2			教育・学校心理学		2	
初 期 演 習 I	1			健康・医療心理学		2	
初期演習Ⅱ (心理学実験演習)	1			産業・組織心理学		2	
英 語 I	2			司法・犯罪心理学		2	
英 語 II	2			心理的アセスメント(概論)		2	
Oral Communication I		1		心理的アセスメント(実習)		2	
Oral Communication II		1		公認心理師の職責		2	
T O E I C 認定英語 I		2		関 係 行 政 論		2	
T O E I C 認定英語 II		2		心 理 演 習		2	
T O E I C 認定英語 III		2		心 理 実 習		1	
T O E I C 認定英語 IV		2		心 理 実 習 指 導		1	
専門教育科目				リ ス ク 心 理 学		2	
心 理 学 史		2		コミュニケーション論		2	
心 理 学 概 論	2			グループダイナミクス		2	
臨 床 心 理 学 概 論	2			プロジェクトマネジメントの実践		2	
知 覚 ・ 認 知 心 理 学		2		行 動 変 容 ・ ナ ッ ジ		2	
学 習 ・ 言 語 心 理 学		2		消 費 者 心 理 学		2	
感 情 ・ 人 格 心 理 学		2		社 会 実 践 実 習 I		1	
神 経 ・ 生 理 心 理 学		2		社 会 実 践 実 習 II		1	
社 会 ・ 集 団 ・ 家 族 心 理 学		2		マ ー ケ テ ィ ン グ 論		2	
発 達 心 理 学 I		2		認 知 心 理 学		2	
発 達 心 理 学 II		2		言 語 心 理 学		2	
人 体 の 構 造 と 機 能 及 び 疾 病		2		感 性 心 理 学		2	
精 神 疾 患 と そ の 治 療		2		臨 床 社 会 心 理 学		2	
障 害 者 ・ 障 害 児 心 理 学		2		コ ミ ュ ニ テ ィ 心 理 学		2	
臨 床 人 格 心 理 学		2		経 済 心 理 学		2	
神 経 心 理 学		2		環 境 心 理 学		2	
心 理 学 的 支 援 法 I		2		メ デ ィ ア リ テ ラ シ ー		2	
心 理 学 的 支 援 法 II		2		心 理 学 研 究 法		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
臨床心理学研究法		2					
社会調査概論		2					
心理学日本語文献講読		2					
心理学英語文献講読		2					
心理学統計法		2					
応用心理学統計法		2					
心理学実験		2					
社会調査実習		2					
データ処理論Ⅰ		2					
データ処理論Ⅱ		2					
データ解析法		2					
質的データ解析法		2					
専門演習ⅠA	1						
専門演習ⅠB	1						
専門演習ⅡA	1						
専門演習ⅡB	1						
卒業研究	6						
多文化社会概論		2					
社会貢献とボランティア		2					
虐待とソーシャルワーク		2					
スーパービジョン論		2					
スクールソーシャルワーク		2					
多文化社会のコミュニケーション		2					
NGO・NPO 概 論		2					
ソーシャルビジネス概論		2					
フェアトレード概論		2					
共生の社会心理		2					
ジェンダーと開発		2					

心理・社会福祉学部 社会福祉学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				福祉サービスの組織と経営		2	
人間と社会 (HEART プログラムコア)	2			更生保護制度		2	
初期演習 I	1			社会保障論 A		2	
初期演習 II (社会福祉)	1			社会保障論 B		2	
心理学概論	2			保健医療サービス		2	
ソーシャルワーク概論 A	2			ソーシャルワーク論 I A		2	
ソーシャルワーク概論 B	2			ソーシャルワーク論 I B		2	
人体の構造と機能及び疾病		2		ソーシャルワーク論 II A		2	
社会学		2		ソーシャルワーク論 II B		2	
多文化社会概論	2			ソーシャルワーク演習 I A		2	
社会貢献とボランティア		2		ソーシャルワーク演習 I B		2	
英語 I	2			ソーシャルワーク演習 II A		2	
英語 II	2			ソーシャルワーク演習 II B		2	
Oral Communication I		1		ソーシャルワーク演習 III		2	
Oral Communication II		1		ソーシャルワーク実習指導 I		1	
TOEIC 認定英語 I		2		ソーシャルワーク実習指導 II		1	
TOEIC 認定英語 II		2		ソーシャルワーク実習 I		1	
TOEIC 認定英語 III		2		ソーシャルワーク実習 II		5	
TOEIC 認定英語 IV		2		医療ソーシャルワーク		2	
専門教育科目				虐待とソーシャルワーク		2	
権利擁護と成年後見制度		2		スーパービジョン論		2	
児童・家庭福祉論		2		スクールソーシャルワーク		2	
障害者福祉論		2		社会福祉事業史		2	
高齢者福祉論		2		社会福祉特講		2	
地域福祉論 A		2		専門演習 I A	1		
地域福祉論 B		2		専門演習 I B	1		
社会調査法		2		専門演習 II A	1		
現代社会と福祉 A		2		専門演習 II B	1		
現代社会と福祉 B		2		卒業論文	6		
公的扶助論		2		精神保健 A		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
精 神 保 健 B		2		フイールド調査の基礎	2		
精神保健福祉の原理 A		2		フイールドワーク演習 I	1		
精神保健福祉の原理 B		2		フイールドワーク演習 II	1		
精神障害リハビリテーション論		2		フイールドワーク実習指導 I		1	
精神保健福祉制度論		2		フイールドワーク実習指導 II		1	
精神疾患とその治療 A		2		フイールドワーク実習指導 III		1	
精神疾患とその治療 B		2		フイールドワーク実習		1	
ソーシャルワークの理論と方法 (専門) A		2		知覚・認知心理学		2	
ソーシャルワークの理論と方法 (専門) B		2		学習・言語心理学		2	
ソーシャルワーク演習 (専門) A		2		感情・人格心理学		2	
ソーシャルワーク演習 (専門) B		2		神経・生理心理学		2	
ソーシャルワーク演習 (専門) C		2		社会・集団・家族心理学		2	
ソーシャルワーク実習指導 III		1		発達心理学 I		2	
ソーシャルワーク実習指導 IV		1		障害者・障害児心理学		2	
ソーシャルワーク実習 III		3		心理学的支援法 I		2	
ソーシャルワーク実習 IV		2		リスク心理学		2	
多文化社会実践論		2		コミュニケーション論		2	
多文化社会のコミュニケーション		2		グループダイナミクス		2	
多文化社会のソーシャルワーク I		2		消費者心理学		2	
多文化社会のソーシャルワーク II		2		マーケティング論		2	
NGO・NPO 概 論	2						
NGO・NPO マネジメント演習		1					
ソーシャルビジネス概論	2						
ソーシャルビジネス・マネジメント		2					
ソーシャルビジネス計画演習		1					
フェアトレード概論		2					
共生の社会心理		2					
コミュニティメディア論		2					
コミュニティ防災論		2					
ジェンダーと開発		2					

健康・スポーツ科学部 健康・スポーツ科学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				バイオメカニクス		2	
初 期 演 習 I	1			学 校 保 健		2	
初期演習II (健康・スポーツ)	1			公 衆 衛 生 学		2	
健康・スポーツ科学論	2			発 育 発 達 ・ 老 化 論		2	
スポーツの文化・歴史	2			ス ポ ー ツ 指 導 論		2	
スポーツビジネス論	2			ス ポ ー ツ 社 会 学		2	
情報リテラシー	2			スポーツ行政・法規		2	
基礎英語 I	1			スポーツ経営管理学		2	
基礎英語 II	1			体力の測定評価演習		2	
Oral Communication I	1			スポーツ心理学実験		1	
Oral Communication II	1			運 動 生 理 学 実 験		1	
TOEIC認定英語 I		2		バイオメカニクス実験		1	
TOEIC認定英語 II		2		専 門 英 語 A		1	} 必修2
TOEIC認定英語 III		2		専 門 英 語 B		1	
TOEIC認定英語 IV		2		専 門 英 語 C		1	
健康科学 I		2		専 門 英 語 D		1	
専門教育科目				コ ー チ ン グ 論		2	
ス ポ ー ツ 心 理 学		2		健康・スポーツカウンセリング		2	
ス ポ ー ツ 栄 養 学		2		生 活 習 慣 病 論		2	
運 動 生 理 学		2		運 動 処 方		2	
ス ポ ー ツ 医 学		2		フ ィ ッ ト ネ ス 指 導 法		2	
ス ポ ー ツ 運 動 学		2		介 護 法 ・ 介 護 予 防 演 習		2	
体 育 原 理		2		運 動 療 法 演 習		2	
運動器の解剖と機能 I		2		健康行動科学・演習		2	
運動器の解剖と機能 II		2		健康・スポーツ実践実習		1	
スポーツ傷害の基礎知識 I		2		レクリエーション論		2	
スポーツトレーニングの科学 I		2		レクリエーション指導法演習		1	
アスレティックトレーニング論		2		レクリエーション指導法実習		1	
コンディショニング論		2		障がい者スポーツ論 I		2	
救 急 処 置 演 習	1			障がい者スポーツ論 II		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
障がい者スポーツ指導法		2		海外の健康・スポーツの研究		2	
スポーツマネジメント論		2		マリンスポーツ実習		1	} 必修1
スポーツビジネス最前線		2		キャンプ実習		1	
スイミング		1	} 必修1	スノースポーツ実習		1	
トラックアンドフィールド		1		健康・スポーツ科学の統計学演習		1	
体 操		1	} 必修1	2 年 次 演 習	1		
器 械 運 動		1		健康・スポーツ科学演習	2		
バレーボール		1	} 必修1	卒 業 研 究	4		
バスケットボール		1		教 職 入 門	2		
ハンドボール		1		教 育 原 理	2		
柔 道		1	} 必修1	教 育 史	2		
剣 道		1		教 育 心 理 学	2		
ダンス I	1			発 達 心 理 学	2		
ダンス II		1		教 育 行 政 学	2		
ダンス III		1		教 育 課 程 総 論	2		
卓 球		1		教育方法の理論と実践	1		
バドミントン		1		ICT活用の理論と実践	1		
保健体育科指導法 I		2		道 徳 教 育 指 導 論	2		
保健体育科指導法 II		2		生徒指導・進路指導	2		
保健体育科指導法 III		2		教育相談の理論と方法	2		
保健体育科指導法 IV		2		教育実習事前事後指導(中高)	1		
保健体育科指導法(水泳)		1		教育実習 I (中高)	2		
保健体育科指導法(球技)		1		教育実習 II (中高)	2		
保健体育科指導法(ダンス)		1		教職実践演習(中高)	2		
保健体育科指導法(武道)		1		特 別 支 援 教 育 論	2		
保健体育科指導法(体づくり運動)		1		総合的な学習の時間と特別活動	2		
保健体育科指導法(器械運動)		1		教育実習事前指導(中高)	1		
保健体育科指導法(陸上競技)		1		健 康 科 学 II	2		
エアロビックダンス		1		スポーツ傷害の基礎知識II	2		
アクアエクササイズ		1		コンディショニング指導論	2		
				コンディショニング指導演習 I	2		

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
コンディショニング指導演習Ⅱ		2					
検査・測定評価実習Ⅰ		1					
保健の授業研究		2					
保健体育科教材演習Ⅰ		1					
保健体育科教材演習Ⅱ		1					
教科外体育論		2					
パフォーマンス向上論		2					
パフォーマンス向上演習		1					
ジュニアスポーツ指導論		2					
ジュニアスポーツ指導演習		1					
健康管理とスポーツ医学		2					
A T 実 践 実 習		2					
スポーツトレーニングの科学Ⅱ		2					
検査・測定評価実習Ⅱ		1					
アスレティックトレーニングⅠ		2					
アスレティックトレーニングⅡ		2					
アスレティックトレーニングⅢ		2					
スポーツの心理と栄養		2					
簿 記		2					
スポーツマーケティング論		2					
消費者行動論		2					
スポーツイベントの企画運営		2					
販 売 管 理 論		2					
実務技能対策論		2					
ファシリティマネジメント		2					
スポーツビジネス学内演習		1					
スポーツビジネス学外実習		1					
プレプロフェッショナル教育		2					

健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				アカウンティングⅠ		2	
初 期 演 習 Ⅰ	1			アカウンティングⅡ		2	
初期演習Ⅱ(スポーツマネジメント)	1			実務技能対策論		2	
健康・スポーツ科学論	2			経 営 組 織 論		2	
スポーツの文化・歴史	2			ファイナンシャルマネジメント		2	
情報リテラシー	2			消 費 者 行 動 論		2	
基 礎 英 語 Ⅰ	1			販 売 管 理 論		2	
基 礎 英 語 Ⅱ	1			マーチャンダイジング		2	
Oral Communication Ⅰ	1			ヒューマンリソースマネジメント		2	
Oral Communication Ⅱ	1			スポーツマネジメント学内演習	2		
TOEIC 認定英語Ⅰ		2		スポーツマネジメント学外実習		1	
TOEIC 認定英語Ⅱ		2		専 門 英 語 A		1	
TOEIC 認定英語Ⅲ		2		専 門 英 語 B		1	
TOEIC 認定英語Ⅳ		2		海外のスポーツビジネス研究		2	
専門教育科目				ス ポ ー ツ 心 理 学		2	
スポーツビジネス最前線	2			ス ポ ー ツ 栄 養 学		2	
スポーツ産業と政策		2		運 動 生 理 学		2	
スポーツビジネス論	2			ス ポ ー ツ 医 学		2	
スポーツマネジメント論	2			ス ポ ー ツ 運 動 学		2	
スポーツマーケティング論	2			体 育 原 理		2	
スポーツガバナンス論		2		運動器の解剖と機能		2	
スポーツ情報・メディア論		2		スポーツトレーニングの科学		2	
スポーツイノベーション論		2		救 急 処 置 演 習	1		
ホスピタリティマネジメント論		2		バ イ オ メ カ ニ ク ス		2	
地域スポーツマネジメント論		2		学 校 保 健		2	
スポーツイベントの企画・運営		2		公 衆 衛 生 学		2	
スポーツ施設マネジメント論		2		発 育 発 達 ・ 老 化 論		2	
トップスポーツ経営論		2		ス ポ ー ツ 指 導 論		2	
スポーツ・ヘルスツーリズム論		2		ス ポ ー ツ 社 会 学		2	
ヘルスケアマネジメント論		2		ス ポ ー ツ 行 政 ・ 法 規		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
スポーツ経営管理学		2		バドミントン		1	
体力の測定評価演習		2		保健体育科指導法Ⅰ		2	
コーチング論		2		保健体育科指導法Ⅱ		2	
健康・スポーツカウンセリング		2		保健体育科指導法Ⅲ		2	
生活習慣病論		2		保健体育科指導法Ⅳ		2	
運動処方		2		保健体育科指導法(体づくり運動・器械運動)		1	
フィットネス指導法		2		保健体育科指導法(陸上競技・水泳)		1	
介護法・介護予防演習		2		保健体育科指導法(球技)		1	
運動療法演習		2		保健体育科指導法(武道・ダンス)		1	
健康行動科学・演習		2		エアロビックダンス		1	
健康・スポーツ実践実習		1		アクアエクササイズ		1	
レクリエーション論		2		マリンスポーツ実習		1	
レクリエーション指導法演習		1		キャンプ実習		1	
レクリエーション指導法実習		1		スノースポーツ実習		1	
障がい者スポーツ論Ⅰ		2		健康・スポーツ科学の統計学演習		1	
障がい者スポーツ論Ⅱ		2		卒業研究Ⅰ	2		
障がい者スポーツ指導法		2		卒業研究Ⅱ	4		
スイミング		1					
トラックアンドフィールド		1					
体操		1					
器械運動		1					
バレーボール		1					
バスケットボール		1					
ハンドボール		1					
柔道		1					
剣道		1					
ダンスⅠ	1						
ダンスⅡ		1					
ダンスⅢ		1					
卓球		1					

生活環境学部 生活環境学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				統 計 調 査 演 習		2	
初 期 演 習 I	1			阪 神 間 文 化 論		2	
初期演習Ⅱ（生活環境）	1			生 活 美 学		2	
情 報 リ テ ラ シ ー	2			生 活 文 化 演 習 I		2	
Oral Communication		2		生 活 文 化 演 習 II		2	
生 活 環 境 英 語		2		生 活 文 化 演 習 III		2	
T O E I C 認 定 英 語 I		2		界 面 科 学		2	
T O E I C 認 定 英 語 II		2		界 面 科 学 実 験		2	
T O E I C 認 定 英 語 III		2		織 維 学		2	
T O E I C 認 定 英 語 IV		2		織 維 科 学 実 験		2	
専門教育科目				織 維 製 品 材 料 学		2	
生 活 環 境 論		2		織 維 製 品 材 料 学 実 験		2	
基 礎 造 形 実 習		2		工 芸 染 色 実 習		2	
生 活 科 学		2		被 服 学 総 合 演 習 I		2	
ファッションビジネス論		2		被 服 学 総 合 演 習 II		2	
ア パ レ ル 構 成 学		2		衣 環 境 学		2	
住 居 学		2		衣 環 境 実 験		2	
建 築 概 論		2		染 色 加 工 学		2	
基 礎 ・ 設 計 製 図 演 習		2		染 色 加 工 学 実 験		2	
生 活 科 学 演 習		2		衣 料 分 析 法		2	
服 飾 デ ザ イン 論		2		衣 料 分 析 実 験		2	
アパレル構成学実習Ⅰ		2		品 質 管 理		2	
インテリアデザイン論		2		消 費 科 学		2	
グラフィックデザイン基礎実習		2		消 費 生 活 論		2	
環 境 共 生 概 論		2		アパレル設計生産論		2	
環 境 デ ザ イン 演 習		2		アパレル生産実習A		2	
建 築 設 計 基 礎 実 習		2		アパレル生産実習B		2	
ま ち づ くり 基 礎 演 習		2		アパレル構成学実習Ⅱ		1	
色 彩 学		2		アパレル企画論		2	
統 計 学		2		ス タ イ ル 画 実 習		1	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
テキスタイルデザイン実習Ⅰ		2		福祉住環境実習		2	
テキスタイルデザイン実習Ⅱ		2		建築設備		2	
ドラフティングCAD実習Ⅰ		1		建築材料学		2	
ドラフティングCAD実習Ⅱ		1		建築材料学実験		2	
ドレーピング実習		2		建築施工		2	
ファッションコンピュータ実習		2		建築計画学Ⅰ		2	
V M D 演 習		2		建築計画学Ⅱ		2	
服 飾 史		2		住宅設計		2	
現代ファッション論		2		建築CAD実習		2	
ファッションデザイン演習		2		建築・インテリア設計Ⅰ		4	
生活デザイン論		2		建築・インテリア設計Ⅱ		3	
生活デザイン実習Ⅰ		2		都市・建築設計		3	
生活デザイン実習Ⅱ		2		世界建築史		2	
生活デザイン実習Ⅲ		2		日本建築史		2	
生活デザイン実習Ⅳ		2		近代建築論		2	
デザイン技法Ⅰ		2		現代建築論		2	
デザイン技法Ⅱ		2		建築一般構造Ⅰ		2	
デザインリサーチ実習		2		建築一般構造Ⅱ		2	
視 覚 文 化 論		2		構造力学Ⅰ		2	
インテリアテキスタイル概論		2		構造力学Ⅰ演習		1	
人 間 工 学		2		構造力学Ⅱ		2	
人間工学実験Ⅰ		2		構造力学Ⅱ演習		1	
人間工学実験Ⅱ		2		建築法規		2	
環境計画Ⅰ		2		測量実習		2	
環境計画実習Ⅰ		2		景 観 論		2	
環境計画Ⅱ		2		まちづくり論Ⅰ		2	
環境計画実習Ⅱ		2		まちづくり論Ⅱ		2	
環境計画Ⅲ		2		フィールドデザイン演習Ⅰ		2	
環境計画実習Ⅲ		2		フィールドデザイン演習Ⅱ		2	
環境リスク学		2		フィールドデザイン演習Ⅲ		3	
福祉生活環境概論		2		フィールドデザイン特別演習		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
フィールド・サーヴェイ実習		1					
プレゼンテーション演習		2					
造園学・同演習		2					
家庭生活論		2					
保 育 学		2					
調理学実習		2					
家庭工学		2					
食 物 学		2					
テキスタイルアドバイザー実習		1					
海外語学研修		3					
海外の生活環境研修Ⅰ		1					
海外の生活環境研修Ⅱ		2					
卒業基礎演習	2						
卒業研究		6					

社会情報学部 社会情報学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				経 営 情 報 演 習		2	
初 期 演 習 I	1			組 織 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論		2	
初期演習Ⅱ (社会情報入門)	1			広 告 メ デ ィ ア 論		2	
データ・情報リテラシー	2			広 告 メ デ ィ ア 演 習		2	
Oral Communication I		1		地 域 産 業 論		2	
Oral Communication II		1		I T 活 用 と ビ ジ ネ ス		2	
T O E I C 認 定 英 語 I		2		コ ミ ュ ニ テ ィ ビ ジ ネ ス 論		2	
T O E I C 認 定 英 語 II		2		消 費 者 経 済 学		2	
T O E I C 認 定 英 語 III		2		衣 生 活 情 報 論		2	
T O E I C 認 定 英 語 IV		2		情 報 科 学 入 門	2		
専門教育科目				プ ロ グ ラ ミ ン グ 入 門		2	
メ デ ィ ア 論		2		プ ロ グ ラ ミ ン グ 演 習 I		2	
コンセプトデザイン論		2		プ ロ グ ラ ミ ン グ 演 習 II		2	
科学技術と社会		2		ユ ー ザ イン タ フ ェ ー ス 論		2	
メディアと生活文化		2		ア ル ゴ リ ズ ム 論		2	
メディア産業論		2		ソ フ ト ウ ェ ア 工 学		2	
メディアカルチャー論		2		ソ フ ト ウ ェ ア 工 学 演 習		2	
情報とコミュニケーション		2		シ ス テ ム 設 計		2	
ネットワーク社会論		2		シ ス テ ム 設 計 演 習		2	
SNSリテラシー演習		2		情 報 基 礎 数 学		2	
映像文化史		2		情 報 数 学		2	
文化社会学		2		デ ー タ ベ ー ス 入 門		2	
文化社会学演習		2		コ ン ピ ュ ー タ ネ ッ ト ワ ー ク 入 門		2	
マーケティング論		2		コ ン ピ ュ ー タ ネ ッ ト ワ ー ク 演 習		2	
グローバルビジネス論		2		コ ン ピ ュ ー タ ネ ッ ト ワ ー ク 論		2	
マーケティング戦略論		2		ウ ェ ブ 入 門		2	
コンテンツプランニング演習		2		ウ ェ ブ プ ロ グ ラ ミ ン グ		2	
企業経営論		2		ウ ェ ブ ア プ リ ケ ー シ ョ ン 設 計		2	
マーケットデザイン演習		2		ウ ェ ブ ア プ リ ケ ー シ ョ ン 開 発 演 習		2	
経営情報論		2		ウ ェ ブ エ ン ジ ニ ア リ ン グ		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
ウェブコンピューティング論		2		社会情報学概論	2		
プラットフォーム概論		2		プロジェクト演習入門		2	
システムセキュリティ入門		2		プロジェクト演習Ⅰ		2	
情報セキュリティ論		2		プロジェクト演習Ⅱ		2	
統計学Ⅰ	2			プロジェクト演習Ⅲ		2	
統計学Ⅱ		2		ハッカソン		2	
AⅠ入門		2		卒業基礎研究	4		
AⅠ概論		2		卒業研究	4		
AⅠ演習		2		卒業基礎演習Ⅰ	2		
データサイエンス基礎演習		2		卒業基礎演習Ⅱ	2		
データサイエンス演習<A>		2		キャリアプランニング		1	
データサイエンス演習		2		生涯学習論		2	
データサイエンス演習<C>		2					
データサイエンス演習<D>		2					
データサイエンス論<A>		2					
データサイエンス論		2					
社会調査入門		2					
社会調査Ⅰ		2					
社会調査Ⅱ		2					
社会調査演習		2					
デジタル表現入門		2					
デジタル表現		2					
ウェブデザイン演習		2					
ICT社会のビジネス	2						
オフィスツールの活用		2					
色彩情報論		2					
色彩情報演習		2					
情報英語Ⅰ		2					
情報英語Ⅱ		2					
情報倫理		2					

食物栄養科学部 食物栄養学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				生 化 学 II		2	
初 期 演 習 I	1			生 化 学 実 験	1		
初期演習Ⅱ(食物栄養学入門)	1			臨床病原微生物学		2	
食物栄養科学概論	1			臨床医学Ⅰ	2		
管理栄養士論	1			臨床医学Ⅱ		2	
基礎化学	2			臨床学実習		1	
基礎化学実験	1			食 品 学	2		
栄養学の基礎	2			食品学実験	1		
食品素材学	2			食品加工学実験		1	
微生物学	2			食品機能学		2	
食文化論	2			食品機能学実験		1	
TOEIC Preparation I		1		食品衛生学	2		
TOEIC Preparation II		1		食品衛生学実験	1		
栄養学英語Ⅰ	2			調 理 学	2		
栄養学英語Ⅱ	2			調理学実習Ⅰ		1	
予防医学概論	1			調理学実習Ⅱ		1	
栄養統計学	2			基礎栄養学	2		
疫 学	1			基礎栄養学実験	1		
食事調査法演習	1			応用栄養学Ⅰ	2		
食事摂取基準論	1			応用栄養学Ⅱ		2	
健康科学Ⅰ		2		応用栄養学Ⅲ		2	
専門教育科目				応用栄養学実習	1		
公衆衛生学	2			栄養教育論Ⅰ	2		
公衆衛生学実習		1		栄養教育論Ⅱ	2		
環境科学		2		栄養教育論Ⅲ		2	
社会福祉概論	2			栄養教育論実習Ⅰ	1		
解剖生理学Ⅰ	2			栄養教育論実習Ⅱ	1		
解剖生理学Ⅱ	2			臨床栄養学Ⅰ	2		
解剖生理学実習	1			臨床栄養学Ⅱ	2		
生 化 学 I	2			臨床栄養学Ⅲ		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
臨 床 栄 養 学 IV		2					
臨 床 栄 養 学 実 習 I	1						
臨 床 栄 養 学 実 習 II	1						
公 衆 栄 養 学 I	2						
公 衆 栄 養 学 II		2					
公 衆 栄 養 学 実 習	1						
給 食 経 営 管 理 論 I	2						
給 食 経 営 管 理 論 II	2						
給 食 経 営 管 理 学 実 習	1						
管 理 栄 養 総 合 演 習 I		1					
管 理 栄 養 総 合 演 習 II		1					
臨 地 実 習 I	1						
臨 地 実 習 II		2					
臨 地 実 習 III	1						
分 子 栄 養 学		2					
在 宅 栄 養 ケ ア 支 援 論		2					
リハビリテーション栄養学		1					
健 康 ス ポ ー ツ 栄 養 学		2					
国 際 栄 養 学 演 習		4					
食 糧 経 済 学		2					
卒 業 英 語 演 習 I	1						
卒 業 英 語 演 習 II	1						
卒 業 研 究 方 法 論	1						
卒 業 論 文		6	} 必修6				
卒 業 演 習		6					
学 校 栄 養 教 育 ・ 指 導 論 I		2					
学 校 栄 養 教 育 ・ 指 導 論 II		2					
健 康 科 学 II		2					
プレプロフェッショナル教育		2					

食物栄養科学部 食創造科学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				臨床栄養学概論	2		
初期演習Ⅰ	1			臨床栄養学実習	1		
初期演習Ⅱ(食創造の可能性)	1			栄養教育論Ⅰ	2		
基礎化学	2			栄養教育論Ⅱ	2		
食品化学	2			栄養教育論実習Ⅰ	1		
食品化学実験	1			栄養教育論実習Ⅱ	1		
食物栄養科学概論	1			公衆栄養学	2		
統計学	2			調理学	2		
実践TOEIC演習Ⅰ	1			調理学実習Ⅰ	1		
実践TOEIC演習Ⅱ	1			調理学実習Ⅱ	1		
専門教育科目				給食管理論	2		
社会福祉概論	2			給食管理学実習	2		
公衆衛生学	2			校外実習	1		
解剖生理学	2			食品産業論実習Ⅰ	1		
解剖生理学実習	1			食品産業論実習Ⅱ	1		
臨床医学	2			食品製造学Ⅰ	2		
生化学Ⅰ	2			食品製造学Ⅱ	2		
生化学Ⅱ	2			食品産業論	2		
生化学実験	1			異文化コミュニケーション論	2		
食品学	2			フードサイエンス英語Ⅰ	2		
食品学実験	1			フードサイエンス英語Ⅱ	2		
食品加工学	2			食品開発論	2		
食品加工学実習	1			栄養資源開発論		2	
食品衛生学	2			調理科学	2		
食品衛生学実験	1			調理科学実験	1		
基礎栄養学	2			バイオテクノロジー概論		2	
基礎栄養学実験	1			食品機能学	2		
応用栄養学Ⅰ	2			官能評価・鑑別論		2	
応用栄養学Ⅱ	2			食品安全学Ⅰ	2		
応用栄養学実習	1			食品安全学Ⅱ		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考	
	必修	選択			必修	選択		
食 品 安 全 学 実 験	1			実 践 英 会 話 I		2	※選必	
グローバルレギュラトリーサイエンス		2		実 践 英 会 話 II		2		
H A C C P 管 理 実 践 論		2		実 践 英 会 話 III		2		
マ ー ケ ッ ト リ サ ー チ 法	1			実 践 英 会 話 IV		2		
フ ー ド ビ ジ ネ ス 論 I	2			実 践 英 会 話 V		2		
フ ー ド ビ ジ ネ ス 論 II	2			卒業演習 (国際インターンシップ含む)		6	※※選必	
補 完 代 替 医 学		2						
比 較 食 文 化 論		2						
卒 業 英 語 演 習 I		1	※選必					
卒 業 英 語 演 習 II		1	※選必					
卒 業 論 文		6	※※選必					
卒 業 演 習		6	※※選必					
食 経 営 学		2						
フ ー ド デ ザ イン 演 習		1	※「卒業英語演習 I」、「卒業英語演習 II」、「実践英会話 I」のうち2単位必修。					
メ ニ ュ ー 企 画 ・ 開 発 論		2						
メ ニ ュ ー 企 画 ・ 開 発 実 習		1						
食 マ ー ケ テ ィ ン グ 演 習 I		1						
食 マ ー ケ テ ィ ン グ 演 習 II		1						
イ ン タ ー シ ッ プ (フ ー ド マ ネ ジ メ ン ト)		2						
食 品 機 器 分 析 学		2		※※「卒業論文」、「卒業演習」、「卒業演習 (国際インターンシップ含む)」のうち6単位必修。				
食 品 機 器 分 析 学 実 験 I		1						
食 品 機 器 分 析 学 実 験 II		1						
実 験 計 画 法 演 習		1						
イ ン タ ー シ ッ プ (フ ー ド イ ノ ベ ー シ ョ ン)		2						
グ ロ ー バ ル フ ー ド 研 修 事 前 演 習		1						
食 の 国 際 理 解		2						
グ ロ ー バ ル フ ー ド 学		2						
国 際 食 流 通 論		2						
国 際 食 科 学		2						
国 際 食 科 学 演 習		1						

建築学部 建築学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				建築環境工学Ⅰ	2		
初期演習Ⅰ	1			建築環境工学Ⅱ	2		
初期演習Ⅱ（建築入門）	1			建築環境工学実験	2		
建築英語Ⅰ	2			建築環境工学Ⅲ		2	※選必
建築英語Ⅱ	2			建築設備Ⅰ	2		
建築英語Ⅲ	2			建築設備Ⅱ		2	※選必
建築英語Ⅳ	2			建築構造力学Ⅰ	2		
建築数学	2			建築構造力学Ⅱ	2		
建築物理	2			地盤・振動論		2	※選必
専門教育科目				建築一般構造Ⅰ	2		
空間表現演習Ⅰ	5			建築一般構造Ⅱ	2		
空間表現演習Ⅱ	5			建築各種構造		2	※選必
建築設計演習Ⅰ	5			建築材料	2		
建築設計演習Ⅱ	5			建築構造材料実験	2		
建築設計演習Ⅲ	6			建築生産	2		
建築設計演習Ⅳ	6			建築施工	2		
建築設計演習Ⅴ	6			建築法規Ⅰ	2		
図学・情報基礎演習Ⅰ	2			建築法規Ⅱ	2		
図学・情報基礎演習Ⅱ	2			都市計画・デザイン論	2		
CAD・CG応用演習Ⅰ	2			造園学		2	※選必
CAD・CG応用演習Ⅱ	2			測量実習	2		
卒業研究	6			建築フィールドワークⅠA		1	
現代建築論	2			建築フィールドワークⅠB		1	
建築設計計画Ⅰ	2			建築フィールドワークⅡA		1	
建築設計計画Ⅱ	2			建築フィールドワークⅡB		1	※選必から8単位を必修
建築設計計画Ⅲ	2			建築フィールドワークⅢA		1	
建築設計計画Ⅳ	2			建築フィールドワークⅢB		1	
日本建築史	2			建築フィールドワークⅣ		1	
世界建築史	2			海外研修		2	
近代建築史	2						

建築学部 景観建築学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				構 造 力 学 I	2		
初 期 演 習 I	1			構 造 力 学 II	2		
初期演習II (景観建築入門)	1			建 築 一 般 構 造 I	2		
景 観 建 築 英 語 I	2			建 築 一 般 構 造 II	2		
景 観 建 築 英 語 II	2			建 設 材 料	2		
景 観 建 築 英 語 III	2			建 築 生 産	2		
景 観 建 築 英 語 IV	2			建 築 施 工		2	※選必
景 観 建 築 数 学	2			建 築 法 規 I	2		
景 観 建 築 物 理	2			建 築 法 規 II		2	※選必
生 態 学	2			測 量 学	2		
専門教育科目				都 市 計 画	2		
表 現 基 礎 演 習	4			環 境 職 業 倫 理	2		
設 計 基 礎 演 習	4			土 質 力 学		2	※選必
景観建築設計演習I	4			水 理 学		2	※選必
景観建築設計演習II	4			自 然 環 境 保 全 学	2		
景観建築設計演習III	6			文 化 遺 産 保 全 学		2	※選必
景観建築設計演習IV	6			流 域 保 全 学		2	※選必
景観建築設計演習V	6			日 本 庭 園 史	2		
景観映像情報基礎	2			世 界 庭 園 史	2		
測 量 学 実 習	2			景 観 建 築 原 論	2		
景観映像情報演習I	2			景 観 緑 地 計 画 論	2		
景観映像情報演習II	2			景 観 設 計 施 工 技 術		2	※選必
卒 業 研 究	6			景 観 建 築 植 物 学	2		
日 本 建 築 史	2			景 観 建 築 植 物 実 習 I		1	※選必
世 界 建 築 史	2			景 観 建 築 植 物 実 習 II		1	※選必
近 代 建 築 史	2			建 築 都 市 緑 化 実 習 I		1	※選必
建 築 計 画	2			建 築 都 市 緑 化 実 習 II		1	※選必
建 築 環 境 工 学 I	2			建 築 都 市 緑 化 実 習 III		1	※選必
建 築 環 境 工 学 II		2	※選必	建 築 都 市 緑 化 実 習 IV		1	※選必
建 築 設 備	2			景 観 建 築 特 別 実 習 I		1	※選必

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
景観建築特別実習Ⅱ		1	※選必				
景観建築フィールドワークⅠA		1					
景観建築フィールドワークⅠB		1	※選必から14単位を必修				
景観建築フィールドワークⅡA		1					
景観建築フィールドワークⅡB		1					
景観建築フィールドワークⅢA		1					
景観建築フィールドワークⅢB		1					
景観建築フィールドワークⅣ		1					

音楽学部 演奏学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				副専声楽実技ⅢA		1	
初 期 演 習 I	1			副専声楽実技ⅢB		1	
初期演習Ⅱ(音楽探求への誘い)	1			副専ピアノ実技ⅢA		1	
2 年 次 演 習	1			副専ピアノ実技ⅢB		1	
英 語 A	1			副専ピアノ実技ⅣA		1	
英 語 B	1			副専ピアノ実技ⅣB		1	
Oral Communication		2		ソルフェージュⅠA	2		
情報リテラシーⅠ	2			ソルフェージュⅠB	2		
情報リテラシーⅡ		2		ソルフェージュⅡ		4	
TOEIC認定英語Ⅰ		2		和 声 法 A	2		
TOEIC認定英語Ⅱ		2		和 声 法 B	2		
TOEIC認定英語Ⅲ		2		指 揮 法 I		1	
TOEIC認定英語Ⅳ		2		指 揮 法 II		1	
専門教育科目				作家作品研究Ⅰ		2	
主 専 実 技 I A	2			作家作品研究Ⅱ		2	
主 専 実 技 I B	2			即 興 演 奏 A		2	
主 専 実 技 II A	2			即 興 演 奏 B		2	
主 専 実 技 II B	2			作 ・ 編 曲 法 A	2		
主 専 実 技 III A	2			作 ・ 編 曲 法 B	2		
主 専 実 技 III B	2			旋 律 と 和 声 A		2	
主 専 実 技 IV	2			旋 律 と 和 声 B		2	
卒 業 演 奏	3			教 育 伴 奏 法		2	
副専声楽実技ⅠA		1		楽 曲 研 究 A		2	
副専声楽実技ⅠB		1		楽 曲 研 究 B		2	
副専ピアノ実技ⅠA		1		電 子 楽 器		2	
副専ピアノ実技ⅠB		1		音 楽 史 I	4		
副専声楽実技ⅡA		1		音 楽 史 II	4		
副専声楽実技ⅡB		1		合 唱 I	2		
副専ピアノ実技ⅡA		1		合 唱 II	2		
副専ピアノ実技ⅡB		1		合 唱 III		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
学 内 演 奏 I	1						
学 内 演 奏 II	1						
学 内 演 奏 III	1						
器 楽 合 奏		1					
邦 楽		2					
副 科 器 楽 A		1					
副 科 器 楽 B		1					
イタリア語表現演習		2					
声 楽 演 奏 研 究 I A		1					
声 楽 演 奏 研 究 I B		1					
声 楽 演 奏 研 究 II A		1					
声 楽 演 奏 研 究 II B		1					
声 楽 演 奏 研 究 III A		1					
声 楽 演 奏 研 究 III B		1					
演 技 演 習		2					
オ ペ ラ		2					
合 唱 指 導 法		2					
協 奏 曲 I		2					
協 奏 曲 II		2					
伴 奏 法		2					
ピアノアンサンブル		2					
ピ ア ノ 指 導 法		2					
チ ェ ン バ ロ		2					
重 奏 演 習		2					
合 奏 指 導 法		2					
合 奏 I		2					
合 奏 II		2					
合 奏 III		2					
合 奏 IV		2					

音楽学部 応用音楽学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				ソルフェージュⅠA	2		
初 期 演 習 Ⅰ	1			ソルフェージュⅠB	2		
初期演習Ⅱ(音楽探求への誘い)	1			ソルフェージュⅡ		4	
2 年 次 演 習	1			和 声 法 A	2		
英 語 A	1			和 声 法 B	2		
英 語 B	1			指 揮 法 Ⅰ		1	
応 用 英 語 Ⅰ A		1		指 揮 法 Ⅱ		1	
応 用 英 語 Ⅰ B		1		即 興 演 奏 A		2	
応 用 英 語 Ⅱ A		1		即 興 演 奏 B		2	
応 用 英 語 Ⅱ B		1		作 ・ 編 曲 法 A		2	
Oral Communication		2		作 ・ 編 曲 法 B		2	
情報リテラシーⅠ	2			旋 律 と 和 声 A		2	
情報リテラシーⅡ	2			旋 律 と 和 声 B		2	
TOEIC認定英語Ⅰ		2		教 育 伴 奏 法		2	
TOEIC認定英語Ⅱ		2		実 用 楽 器 入 門		2	
TOEIC認定英語Ⅲ		2		音 楽 史 Ⅰ	4		
TOEIC認定英語Ⅳ		2		音 楽 史 Ⅱ	4		
専門教育科目				合 唱 Ⅰ	2		
ピアノ実技ⅠA	2			合 唱 Ⅱ	2		
ピアノ実技ⅠB	2			合 唱 Ⅲ		2	
ピアノ実技ⅡA	2			学 内 演 奏 Ⅰ	1		
ピアノ実技ⅡB	2			学 内 演 奏 Ⅱ		1	
ピアノ実技ⅢA		2		学 内 演 奏 Ⅲ		1	
ピアノ実技ⅢB		2		イタリ語表現演習		2	
ピアノ実技ⅣA		2		楽 器 ・ 合 奏 指 導 法		2	
ピアノ実技ⅣB		2		歌 唱 ・ 合 唱 指 導 法		2	
声 楽 実 技 Ⅰ A	2			器 楽 合 奏		1	
声 楽 実 技 Ⅰ B	2			邦 楽		2	
声 楽 実 技 Ⅱ A		2		演 習	2		
声 楽 実 技 Ⅱ B		2		卒 業 論 文	4		

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
音 楽 療 法 論 I	2			表 現 技 術 演 習		4	
音 楽 療 法 論 II		2		音 楽 文 化 創 造 学		4	
発 達 心 理 学		2		音 楽 文 化 事 業 企 画 演 習		2	
音 楽 心 理 学		2		音 楽 活 用 実 習		2	
臨 床 心 理 学 I		4		プレプロフェッショナル教育		2	
臨 床 心 理 学 II		2					
社 会 福 祉 論		2					
障 害 児 教 育		2					
介 護 論		2					
レパートリーラーニング		2					
ダ ン ス と 動 き		2					
医 学 概 論		2					
音 楽 療 法 各 論 I		2					
音 楽 療 法 各 論 II		2					
音 楽 療 法 各 論 III		2					
臨 床 医 学 各 論 I		2					
臨 床 医 学 各 論 II		2					
音 楽 療 法 演 習		4					
音 楽 療 法 実 習 I	1						
音 楽 療 法 実 習 II		2					
音 楽 療 法 実 習 III		2					
音 楽 療 法 実 習 IV		2					
音 楽 療 法 研 究 法		4					
音 楽 療 法 総 論		1					
音 楽 社 会 学 概 論	4						
音 楽 教 育 学 研 究		4					
環 境 と 音 楽		4					
生 涯 学 習 関 係 論 I		2					
生 涯 学 習 関 係 論 II		2					
音 楽 と マ ル チ メ デ ィ ア		2					

薬学部 薬学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				物 理 化 学 I	2		
初 期 演 習 I	1			物 理 化 学 II	2		
初期演習II (薬の世界へ)	1			物 理 化 学 III	2		
Oral Communication I		1		分 析 化 学 I	2		
Oral Communication II		1		分 析 化 学 II	2		
基 礎 英 語	1			分 析 化 学 III	2		
英 語 I	1			医 薬 品 試 験 法		1	
英 語 II	1			放 射 化 学	2		
英 語 III	1			有 機 化 学 I	2		
発 展 英 語 I	1			有 機 化 学 II	2		
基 礎 化 学	2			有 機 化 学 III	2		
基 礎 生 物	2			スペクトル構造解析学	2		
基礎数学・物理	2			医 薬 品 化 学	2		
情報リテラシー I	2			発 展 有 機 化 学		1	
情報リテラシー II		2		発 展 医 薬 品 化 学		1	
TOEIC 認定 英語		2		薬 用 植 物 ・ 生 薬 学	2		
専門教育科目				天 然 物 化 学	2		
薬 学 へ の 招 待	2			生 化 学	2		
早期体験学習 I	0.5			代 謝 生 化 学	2		
早期体験学習 II	0.5			分 子 生 物 学	2		
ヒューマニズム論 I	2			免 疫 学	2		
ヒューマニズム論 II	2			細 胞 生 物 学	2		
薬剤師のための生涯教育		1		病 原 微 生 物 学	2		
医療コミュニケーション		1		解 剖 学	2		
感染制御とがん医療		1		生 理 学	2		
医薬品開発論	2			生体恒常性のメカニズム		1	
医療保険と地域医療	2			薬 学 基 礎 演 習 I		1	
薬事関係法規	2			薬 学 基 礎 演 習 II		1	
薬剤師のリスクマネジメント		1		薬 学 基 礎 演 習 III		1	
地域医療における薬剤師		1		薬 学 基 礎 演 習 IV		1	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
公 衆 衛 生 学	2			実 践 治 療 学		1	
栄 養 ・ 食 品 衛 生 学	2			薬 学 臨 床 実 習 概 論	2		
環 境 衛 生 学	2			処 方 解 析 学 演 習	1		
臨 床 栄 養 学		1		医 薬 品 の 適 正 使 用 I		1	
国 民 衛 生 の 最 新 動 向		1		医 薬 品 の 適 正 使 用 II		1	
基 礎 薬 理 学 I	2			一 般 用 医 薬 品 総 論		1	
基 礎 薬 理 学 II		1		薬 剤 師 の 職 能 と 業 務		1	
臨 床 薬 理 学 I	2			臨 床 薬 学 基 本 実 習 I	1		
臨 床 薬 理 学 II	2			臨 床 薬 学 基 本 実 習 II	1		
臨 床 薬 理 学 III	2			臨 床 薬 学 基 本 実 習 III	1		
臨 床 薬 理 学 IV		1		薬 学 臨 床 実 習	20		
疾 患 から み た 薬 理 学		1		薬 学 臨 床 演 習		1	
薬 物 動 態 学 I	2			有 機 化 合 物 を つ く る	1		
薬 物 動 態 学 II	2			医 薬 品 を つ く る	1		
臨 床 統 計 学 I	2			生 薬 ・ 天 然 物 医 薬 品 を 取 扱 う	1		
臨 床 統 計 学 II		1		物 質 の 特 性 を 調 べ る	1		
物 理 薬 剤 学	2			物 質 を 解 析 す る	1		
製 剤 学	2			生 体 成 分 と 免 疫 を 調 べ る	1		
薬 物 代 謝 論		1		体 の 成 り 立 ち と 働 き を 調 べ る	1		
薬 物 送 達 シ ス テ ム 学		1		薬 の 働 き を 調 べ る	1		
臨 床 薬 物 動 態 学		1		薬 物 を 製 剤 化 し 体 内 動 態 を 調 べ る	1		
病 態 ・ 薬 物 治 療 学 I	2			人 と 環 境 へ の 影 響 と 細 菌 を 調 べ る	1		
病 態 ・ 薬 物 治 療 学 II	2			発 展 英 語 II	1		
病 態 ・ 薬 物 治 療 学 III	2			基 礎 薬 学 英 語 演 習		2	
病 態 ・ 薬 物 治 療 学 IV	2			薬 学 英 語 演 習		4	
病 態 ・ 薬 物 治 療 学 V	2			卒 業 研 究 I	2		
症 例 解 析 学	2			卒 業 研 究 II	2		
医 薬 品 情 報 学	2			総 合 演 習 I	2		
漢 方 治 療 学		1		総 合 演 習 II	2		
化 粧 品 学 概 論		1					

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
卒 業 研 究 Ⅲ		1	} 必修1				
総 合 演 習 Ⅲ		1					
プレプロフェッショナル教育		2					

薬学部 健康生命薬科学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				バイオメディカル分析化学		2	
初 期 演 習 I	1			基 礎 有 機 化 学	2		
初期演習Ⅱ (薬科学への第一歩)	1			応 用 有 機 化 学 I		2	
健康生命薬科学概論	2			応 用 有 機 化 学 II		2	
実 験 基 礎	1			薬 品 合 成 化 学		2	
生 命 倫 理 学	2			反 応 開 発 論		2	
Oral Communication I		1		薬 用 植 物 学		2	
Oral Communication II		1		天 然 物 化 学		2	
基 礎 薬 学 英 語 I	1			基 礎 生 化 学	2		
基 礎 薬 学 英 語 II	1			応 用 生 化 学 I		2	
基 礎 数 学	2			応 用 生 化 学 II		2	
基 礎 生 物 学	2			分 子 生 物 学	2		
情報リテラシー I	2			微 生 物 学		2	
情報リテラシー II		2		遺 伝 学		2	
健 康 科 学 I		2		細胞の情報伝達と疾患		2	
T O E I C 認 定 英 語		2		遺伝子情報リテラシー		2	
専門教育科目				免 疫 学 総 論		2	
薬 学 英 語 I	1			基 礎 解 剖 生 理 学	2		
薬 学 英 語 II	1			機 能 生 理 学		2	
薬 学 英 語 III	1			基 礎 薬 理 学		2	
キ ャ リ ア 英 語	1			応 用 薬 理 学		2	
実 践 薬 学 英 語	2			病 態 疾 病 学		2	
物 理 学		2		薬 物 動 態 学		2	
地 学		2		基 礎 統 計 学	2		
薬 学 化 学 I	2			物 理 薬 剤 学 ・ 製 剤 学 I		2	
基 礎 物 理 化 学	2			物 理 薬 剤 学 ・ 製 剤 学 II		2	
応 用 物 理 化 学		2		衛 生 薬 学 I		2	
基 礎 分 析 化 学	2			衛 生 薬 学 II		2	
応 用 分 析 化 学		2		実 践 薬 物 治 療 学		2	
機 器 分 析 学		2		皮 膚 科 学		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
化粧品学総論		2		薬剤学実験		1	
化粧品製造学		2		基礎薬学英語演習		2	
実践化粧品学		2		卒業研究Ⅰ	2		
東洋美容学基礎		2		卒業研究Ⅱ	8		
臨床化粧品学		2		健康科学Ⅱ		2	
応用化粧品学		2		プレプロフェッショナル教育		2	
臨床検査総論		2					
臨床免疫学		2					
脳神経科学		2					
腫瘍生物学		2					
医薬品開発論		2					
化粧品開発論		2					
保健食品機能学		2					
健康サポート論		2					
統合医療概論		2					
薬事関係法規		2					
医薬品情報学		2					
物理学実験		1					
地学実験		1					
臨地体験学習	0.5						
早期体験学習	0.5						
創薬体験学習Ⅰ	1						
創薬体験学習Ⅱ	1						
基礎有機化学実験		1					
生化学実験Ⅰ		1					
化粧品学実験		1					
分析化学実験		1					
解剖生理学実験		1					
衛生薬学実験		1					
薬理学実験		1					

看護学部 看護学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				地 域 看 護 学	2		
初 期 演 習 I	1			地域・在宅看護学実習	2		
初期演習Ⅱ（生活と看護）	1			成人看護学概論	1		
医 学 英 語	2			成人看護学ⅠA	2		
看護英語基礎	1			成人看護学ⅠB	2		
情報活用の基礎	2			成人看護学Ⅱ（慢性期）	1		
看護応用統計学	2			成人看護学Ⅱ（急性期）	1		
解剖生理学Ⅰ	2			サポーターケア	1		
解剖生理学Ⅱ	2			成人看護学実習（慢性期）	3		
栄養代謝学	2			成人看護学実習（急性期）	3		
臨床病態栄養学	2			老年看護学概論	1		
微生物学と感染防御	2			老年看護学Ⅰ	2		
看護薬理学	2			老年看護学Ⅱ	1		
疾病治療概論	2			アクティブエイジング	1		
リハビリテーション学	2			老年看護学実習	3		
保健医療福祉制度	2			小児看護学概論	1		
チーム医療論	2			小児看護学Ⅰ	2		
疫 学	2			小児看護学Ⅱ	1		
専門教育科目				チャイルドデイベロップメンタルアプローチ	1		
看護学概論	2			小児看護学実習	2		
看護援助論	2			母性看護学概論	1		
基礎看護技術演習Ⅰ	2			母性看護学Ⅰ	2		
基礎看護技術演習Ⅱ	2			母性看護学Ⅱ	1		
基礎看護技術演習Ⅲ	2			ウイメンズヘルスケア	1		
看護アセスメント演習	1			母性看護学実習	2		
基礎看護学実習Ⅰ	1			精神看護学概論	1		
基礎看護学実習Ⅱ	2			精神看護学Ⅰ	2		
在宅看護学概論	1			精神看護学Ⅱ	1		
在宅看護学Ⅰ	2			グループアプローチ	1		
在宅看護学Ⅱ	1			精神看護学実習	2		

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
統 合 看 護 学 実 習	3						
看 護 マ ネ ジ メ ン ト	1						
家 族 看 護 学	1						
看 護 研 究 方 法	2						
卒 業 演 習	2						
災 害 ・ 国 際 看 護 論	1						

経営学部 経営学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				ネットビジネス入門		2	
初 期 演 習 I	1			ク ラ ウ ド 入 門		2	
初期演習Ⅱ（経営）	1			企業情報システムⅠ		2	
経営課題演習Ⅰ	2			経 済 学 入 門		2	
経営課題演習Ⅱ	2			ヴィジュアルマーチャンダイジング		2	
Oral Communication	2			パブリックマネジメント入門	2		
Business English I	2			法 律 入 門 I		2	
Business English II		2		法 律 入 門 II		2	
情報リテラシーⅠ	2			民 法 入 門 I		2	
情報リテラシーⅡ	2			民 法 入 門 II		2	
経 営 学 入 門	2			地 域 振 興 論		2	
経 営 組 織 論		2		中小企業イノベーション論		2	
ビジネスプラン構築論		2		企業 の 社 会 連 携 論		2	
経営戦略論入門		2		公共総合基礎演習Ⅰ		2	
経 営 環 境 論		2		公共総合基礎演習Ⅱ		2	
労使コミュニケーション論		2		C S R		2	
協働プロジェクト論		2		ビジネスシンキング	2		
組 織 行 動 論		2		論 理 と 数 理 入 門		2	
会 計 入 門	2			消 費 者 行 動 論		2	
商 業 簿 記 I		2		デ ザ イン 思 考		2	
商 業 簿 記 II		2		ロジカルシンキング		2	
原 価 計 算 I		2		社 会 心 理 学		2	
原 価 計 算 II		2		キャリアデザイン特講Ⅰ	2		
企 業 財 務 論		2		キャリアデザイン特講Ⅱ		2	
マーケティング入門	2			実践へのいざない	2		
マーケティングリサーチ		2		インターンシップⅠ		1	※選必
デジタルマーケティング		2		インターンシップⅡ		1	※選必
消費者思考の製品開発		2		インターンシップⅢ		1	※選必
統 計 入 門		2		サービ斯拉ーニングⅠ		1	※選必
統 計 解 析		2		サービ斯拉ーニングⅡ		1	※選必

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
サービ斯拉ーニングⅢ		1	※選必	W r i t i n g		3	※※※選必
フィールドワークⅠ		1	※選必	R e a d i n g		3	※※※選必
フィールドワークⅡ		1	※選必	C o n v e r s a t i o n		3	※※※選必
フィールドワークⅢ		1	※選必	M i c r o e c o n o m i c s		2	※※※選必
専門教育科目				Financial Accounting		2	※※※選必
経 営 管 理 論		2	※※選必	C o r p o r a t e F i n a n c e		2	※※※選必
流 通 小 売 論		2	※※選必	ビジネスライティング		2	※※※選必
財 務 会 計 論 Ⅰ		2	※※選必	スピーチプレゼンテーション		2	※※※選必
管 理 会 計 論 Ⅰ		2	※※選必	経験価値マネジメント		2	※※※選必
経 営 戦 略 論 Ⅰ		2	※※選必	グ ローバル 経 営 論		2	※※※選必
マーケティング戦略論		2	※※選必	グ ローバル 製 品 開 発 論		2	※※※選必
A I 戦 略 論		2	※※選必	ブ ラ ン ド 戦 略 論		2	※※※選必
商 品 企 画 論		2	※※選必	企業 の 投 資 意 思 決 定		2	※※※選必
ビジネスモデル論		2	※※選必	M & A と 企 業 価 値 評 価		2	※※※選必
中 小 企 業 論		2	※※選必	新 興 国 企 業 論		2	※※※選必
財 務 会 計 論 Ⅱ		2	※※選必	パブリックマネジメント		2	※※※選必
人的資源管理論		2	※※選必	産 学 教 育 連 携 論		2	※※※選必
対 人 関 係 論		2	※※選必	環 境 マーケティング		2	※※※選必
労 働 経 済 論		2	※※選必	公 共 政 策 論		2	※※※選必
ベンチャービジネス論		2	※※選必	地 域 産 業 論		2	※※※選必
企業情報システムⅡ		2	※※選必	地 方 財 政 論		2	※※※選必
管 理 会 計 論 Ⅱ		2	※※選必	市 民 協 働 参 画 論		2	※※※選必
経 営 戦 略 論 Ⅱ		2	※※選必	行 政 法		2	※※※選必
デ ジ タ ル 戦 略 論		2	※※選必	福 祉 経 営 論		2	※※※選必
パブリックリレーションズ		2	※※選必	地 域 政 策 論		2	※※※選必
広告・セールスプロモーション		2	※※選必	情 報 政 策 論		2	※※※選必
サプライチェーンマネジメント		2	※※選必	地 域 ブ ラ ン ド 論		2	※※※選必
上 級 財 務 会 計 論		2	※※選必	地 域 防 災 ・ 復 興 論		2	※※※選必
イノベーションプロセス論		2	※※選必				

※選必から4単位を必修 ※※選必から12単位を必修 ※※※選必から6単位を必修
 ※※※選必から6単位を必修

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
美 容 業 界 論		2	※※※※選必				
健康ヘルスケア産業論		2	※※※※選必				
流 通 産 業 論		2	※※※※選必				
ファッション・アパレル業態論		2	※※※※選必				
情 報 通 信 産 業 論		2	※※※※選必				
ホテル・ホスピタリティ産業論		2	※※※※選必				
フードサービス産業論		2	※※※※選必				
レジャー・エンターテインメント産業論		2	※※※※選必				
専 門 演 習 I	2						
専 門 演 習 II	2						
専 門 演 習 III	2						
専 門 演 習 IV	2						
卒 業 研 究	4						

※※※※選必から4単位を必修

履 修 方 法 （別表第1、第2の備考）

1. 卒業までに修得すべき最低単位数

学生は、共通教育科目、基礎教育科目及び専門教育科目の中から124単位（建築学科・景観建築学科は128単位、薬学科は190単位及び看護学科は127単位）以上を修得しなければならない。ただし、下記の学部、学科においては、それぞれに規定する単位を含めて修得しなければならない。なお、編入学生の履修方法については、別に定める。

文学部 日本語日本文学科

- 1 共通教育科目の中から16単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「社会科学科目」、「自然科学科目」及び『ジェンダー科目群』から合計4単位以上、『基礎教養科目群』の中の「国際理解科目」、「現代トピック科目」及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計2単位以上、『言語・情報科目群』の中の「言語リテラシー科目」から合計2単位以上、「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（2単位・必修）
- 3 基礎教育科目及び専門教育科目の中から64単位以上
- 4 学科指定外国語科目の中から8単位以上

文学部 英語文化学科

- 1 共通教育科目の中から14単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「社会科学科目」、「自然科学科目」及び『ジェンダー科目群』から合計4単位以上、『基礎教養科目群』の中の「国際理解科目」、「現代トピック科目」及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計4単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（2単位・必修）
- 3 基礎教育科目の中から30単位以上
- 4 専門教育科目の中から60単位以上

教育学部 教育学科

- 1 共通教育科目の中から12単位以上
（ただし、次の2の共通教育科目で修得した外国語の単位を含めることができる）
- 2 共通教育科目、基礎教育科目及び専門教育科目の中から、外国語科目8単位以上（英語Ⅰ・英語Ⅱの4単位を含む）
- 3 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「自然科学科目」から2単位以上を含み、『基礎教養科目群』から合計8単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（2単位・必修）
- 4 基礎教育科目及び専門教育科目から81単位以上

心理・社会福祉学部 心理学科

- 1 共通教育科目の中から6単位以上
- 2 共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目の中から8単位以上
- 4 専門教育科目の中から54単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

心理・社会福祉学部 社会福祉学科

- 1 共通教育科目の中から10単位以上
- 2 共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目の中から16単位以上
- 4 専門教育科目の中から46単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

健康・スポーツ科学部 健康・スポーツ科学科

- 1 共通教育科目の中から8単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』、『ジェンダー科目群』、『学び発見ゼミ』から合計6単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目の中から12単位以上
- 4 専門教育科目の中から62単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科

- 1 共通教育科目の中から8単位以上
- 2 共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目の中から12単位以上
- 4 専門教育科目の中から62単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

生活環境学部 生活環境学科

- 1 共通教育科目の中から14単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「人文科学科目」、「社会科学科目」、『ジェンダー科目群』及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計4単位以上、『基礎教養科目群』の中の「国際理解科目」、「現代トピック科目」から合計2単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目の中から4単位以上

- 4 専門教育科目の中から80単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

社会情報学部 社会情報学科

- 1 共通教育科目の中から16単位以上
- 2 共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目の中から4単位以上
- 4 専門教育科目の中から80単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

食物栄養科学部 食物栄養学科

- 1 共通教育科目の中から6単位以上
- 2 共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目の中から25単位以上
- 4 専門教育科目の中から90単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

食物栄養科学部 食創造科学科

- 1 共通教育科目の中から6単位以上
- 2 共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目12単位
- 4 専門教育科目の中から90単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

建築学部 建築学科

- 1 共通教育科目6単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「人文科学科目」及び「社会科学科目」からそれぞれ2単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目の中から14単位
- 4 専門教育科目の中から108単位以上

建築学部 景観建築学科

- 1 共通教育科目6単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「人文科学科目」及び「社会科学科目」からそれぞれ2単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目の中から16単位
- 4 専門教育科目の中から106単位以上

音楽学部 演奏学科

- 1 共通教育科目の中から14単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「社会科学科目」、「自然科学科目」、「ジェンダー科目群」及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計2単位以上、『基礎教養科目群』の中の「国際理解科目」、「現代トピック科目」から合計2単位以上、『言語・情報科目群』の中の「言語リテラシー科目」（ドイツ語又はフランス語）から合計4単位以上及び「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（2単位・必修）
- 3 基礎教育科目の中から7単位以上
- 4 専門教育科目の中から80単位以上
- 5 上記2のドイツ語又はフランス語の4単位以上を含む学科指定外国語科目の中から8単位以上

音楽学部 応用音楽学科

- 1 共通教育科目の中から8単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「社会科学科目」、「自然科学科目」、「ジェンダー科目群」及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計2単位以上、『基礎教養科目群』の中の「国際理解科目」、「現代トピック科目」から合計2単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（2単位・必修）
- 3 基礎教育科目の中から9単位以上
- 4 専門教育科目の中から80単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

薬学部 薬学科

- 1 共通教育科目の中から14単位以上
- 2 共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（2単位・必修）
- 3 基礎・専門教育科目の中から174単位以上
- 4 学科指定外国語科目の中から8単位以上

薬学部 健康生命薬科学科

- 1 共通教育科目の中から8単位以上
- 2 共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（2単位・必修）
- 3 基礎・専門教育科目の中から116単位以上
- 4 学科指定外国語科目の中から8単位以上

看護学部 看護学科

- 1 共通教育科目の中から21単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「人文科学科目」、「社会科学科目」か

ら合計4単位以上、『基礎教養科目群』の中の「自然科学科目」、「国際理解科目」、「現代トピック科目」、「ジェンダー科目群」、「キャリアデザイン科目群」及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計6単位以上、『言語・情報科目群』の中の「言語リテラシー科目」から合計5単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎（2単位・必修）」、『健康・スポーツ科目群』から合計1単位以上

- 3 基礎教育科目31単位
- 4 専門教育科目の中から75単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

経営学部 経営学科

- 1 共通教育科目の中から16単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「人文科学科目」、「社会科学科目」から合計2単位以上、『基礎教養科目群』の中の「自然科学科目」、「国際理解科目」、「現代トピック科目」から合計2単位以上、『ジェンダー科目群』、『キャリアデザイン科目群』から合計2単位以上、『言語・情報科目群』の中の「言語リテラシー科目」から合計4単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」、『健康・スポーツ科目群』、『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計2単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（2単位・必修）
- 3 基礎教育科目の中から40単位以上
- 4 専門教育科目の中から50単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

2 教育職員免許状取得に必要な単位数

教育職員免許状を取得するためには、第27条の2に定められた要件を充足する必要がある。また、各学科において定められた履修要項に従って、必要単位を修得しなければならない。

別表第 3

特別教育科目

1 全学プログラム

区分	授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考	区分	授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考
教 養 講 座 (講義、実習)	日 本 酒 入 門	2	選 択	キ ャ リ ア 教 育 講 座	教員・保育士等採用試験音楽実技対策講座	12	選 択
	高齢化社会と相続について	2	選 択		教員・保育士等採用試験音楽実技対策講座	10	選 択
	SDGs2「飢餓ゼロ」を目指して	2	選 択		教員・保育士等採用試験音楽実技対策講座	2	選 択
	日 本 酒 の 魅 力 と は	2	選 択				
	就活で役立つ企業の見方	2	選 択				
	内定が取れる就職活動講座	2	選 択				
	税務署の仕事と納税者サービス	2	選 択				
	国税庁の使命と税務署の仕事	2	選 択				
	若手行員による就活体験談	2	選 択				
資 格 対 策 講 座	「日本語検定」2級に挑戦	2	選 択				
	保育士試験対策特別講座(子どもの保健)	2	選 択				
	保育士試験対策特別講座(子ども家庭福祉)	2	選 択				
	保育士試験対策特別講座(保育原理)	2	選 択				
	保育士試験対策特別講座(社会福祉)	2	選 択				
	保育士試験対策特別講座(子どもの食と栄養)	2	選 択				
	保育士試験対策特別講座(教育原理)	2	選 択				
	保育士試験対策特別講座(社会的養護)	2	選 択				
	保育士試験対策特別講座(保育実習理論)	2	選 択				
	保育士試験対策特別講座(保育の心理学)	2	選 択				
キ ャ リ ア 教 育 講 座	教員採用試験対策をはじめよう	2	選 択				
	教員採用選考試験対策(英語面接指導)	12	選 択				
	教員採用選考試験対策(実技)	44	選 択				
	教員採用選考試験対策(個人面接)	96	選 択				
	教員採用選考試験対策(集団討論)	32	選 択				
	教員採用選考試験対策(模擬授業)	16	選 択				
	教員採用選考試験対策(模擬授業、個人面接)	120	選 択				
	教員採用選考試験対策(個人面接他)	60	選 択				

2 学科プログラム

授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考	授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考
(日本語日本文学科)			国家試験対策冬合宿	20	選 択
予 備 演 習 I	4	選 択	国家試験対策夏合宿	20	選 択
予 備 演 習 II	4	選 択	国家試験対策(模試講評)	6	選 択
卒 業 演 習	6	選 択	特別ガイダンス	2	選 択
研 究 へ の い ざ な い	4	選 択	福祉実習オリエンテーション	2	選 択
入 学 前 教 育	8	選 択	進路ガイダンス	2	選 択
			心理学研究法演習	2	選 択
(英語文化学科)			入 学 前 教 育	8	選 択
英語科教員採用試験対策講座 I	18	選 択			
英語科教員採用試験対策講座 II	18	選 択	(健康・スポーツ科学科)		
入 学 前 教 育	8	選 択	健康・スポーツ科学予備演習 II	4	選 択
			健康・スポーツ科学予備演習 1	2	選 択
(教育学科)			健康・スポーツ科学予備演習 2	2	選 択
小学校教員採用試験対策講座	2	選 択	健康・スポーツ科学予備演習 3	2	選 択
幼・保採用試験対策講座	4	選 択	健康・スポーツ科学予備演習 4	2	選 択
幼稚園教員採用試験対策講座	4	選 択	健康・スポーツ科学予備演習 5	2	選 択
入 学 前 教 育	8	選 択	健康・スポーツ科学予備演習 6	2	選 択
			健康・スポーツ科学予備演習 7	2	選 択
(心理・社会福祉学科)			健康・スポーツ科学予備演習 8	2	選 択
「心理実習」事前指導	2	選 択	健康・スポーツ科学予備演習 9	2	選 択
「心理演習」履修ガイダンス	2	選 択	健康・スポーツ科学予備演習10	2	選 択
ゼミ配属説明会(心理コース)	2	選 択	健康・スポーツ科学予備演習11	2	選 択
ゼミ配属説明会(福祉コース)	2	選 択	健康・スポーツ科学予備演習12	2	選 択
公 務 員 対 策 講 座	20	選 択	健康・スポーツ科学予備演習13	2	選 択
卒 業 論 文	6	選 択	健康・スポーツ科学予備演習14	2	選 択
卒業論文中間報告会	6	選 択	健康・スポーツ科学予備演習15	2	選 択
卒業論文予備演習	6	選 択	健康・スポーツ科学予備演習16	2	選 択
卒業論文最終審査会	6	選 択	健康・スポーツ科学予備演習17	2	選 択
国家試験ガイダンス	4	選 択	健康・スポーツ科学予備演習18	2	選 択

授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考	授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考
健康・スポーツ科学予備演習19	2	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンB	4	選 択
健康・スポーツ科学予備演習20	2	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンC	4	選 択
健康・スポーツ科学予備演習21	2	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンD	4	選 択
健康・スポーツ科学予備演習22	2	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンE	4	選 択
健康・スポーツ科学予備演習23	2	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンF	4	選 択
健康・スポーツ科学予備演習24	2	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンG	4	選 択
健康・スポーツ科学予備演習25	2	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンH	4	選 択
健康・スポーツ科学予備演習26	2	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンI	4	選 択
健康・スポーツ科学予備演習27	2	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンJ	4	選 択
健康・スポーツ科学予備演習28	2	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンK	4	選 択
健康・スポーツ科学演習	8	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンL	4	選 択
健康運動実践指導者試験対策ⅠA	2	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンM	4	選 択
健康運動実践指導者試験対策ⅠC	4	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンN	4	選 択
健康運動実践指導者試験対策ⅡA	4	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンO	4	選 択
健康運動実践指導者試験対策ⅡB	4	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンP	4	選 択
健康運動実践指導者試験対策ⅡC	4	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンQ	4	選 択
健康運動実践指導者試験対策ⅡD	4	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンR	4	選 択
健康運動実践指導者試験対策ⅡE	4	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンS	4	選 択
健康運動実践指導者試験対策ⅡF	4	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンT	4	選 択
健康運動実践指導者試験対策ⅡG	4	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンU	4	選 択
健康運動実践指導者試験対策ⅡH	4	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンV	4	選 択
健康運動指導士試験対策A	2	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンW	4	選 択
健康運動指導士試験対策B	2	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンX	4	選 択
健康運動指導士試験対策C	2	選 択	教員採用試験対策講座(水泳実技編)	4	選 択
健康運動指導士試験対策D	2	選 択	教員採用試験対策講座(武道実技編)	16	選 択
健康運動指導士試験対策E	2	選 択	教員採用試験対策講座(器械運動編)	24	選 択
健康運動指導士試験対策F	2	選 択	教員採用試験対策講座(バスケットボール編)	32	選 択
健康運動指導士試験対策G	2	選 択	教員採用試験対策講座(ハードル編)	32	選 択
健康運動指導士試験対策H	2	選 択	教員採用試験専門教養対策講座B	32	選 択
卒業論文・研究発表のプレゼンA	4	選 択	日ス協公認AT資格対策講座A	6	選 択

授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考	授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考
入 学 前 教 育	8	選 択	卒業研究論文演習 NCM 分野5	12	選 択
(生活環境学科)			卒業研究論文演習 NCM 分野6	12	選 択
キッズドリームウエア	12	選 択	卒業研究論文演習 NCM 分野7	12	選 択
卒業研究特別演習	18	選 択	卒業研究論文演習 NCM 分野8	12	選 択
生活環境特別演習	12	選 択	卒業研究論文演習 NCM 分野9	12	選 択
生活環境特別演習	18	選 択	卒業研究論文演習 NCM 分野10	12	選 択
入 学 前 教 育	8	選 択	卒業研究論文演習 NS 分野1	12	選 択
(食物栄養学科)			卒業研究論文演習 NS 分野2	12	選 択
卒業演習基礎演習Ⅰ	2	選 択	卒業研究論文演習 NS 分野3	12	選 択
卒業演習基礎演習Ⅱ	4	選 択	卒業研究論文演習 NS 分野4	12	選 択
国家試験対策ガイダンスⅠ	2	選 択	卒業研究論文演習 NS 分野5	12	選 択
国家試験対策ガイダンスⅡ	2	選 択	卒業研究論文演習 NS 分野6	12	選 択
国家試験対策ガイダンスⅢ	2	選 択	卒業研究論文演習 NS 分野7	12	選 択
基礎学力向上演習Ⅰ	2	選 択	卒業研究論文演習 NS 分野8	12	選 択
基礎学力向上演習Ⅱ	4	選 択	卒業研究論文演習 NS 分野9	12	選 択
卒業研究論文演習 FS 分野1	12	選 択	卒業研究論文演習 NS 分野10	12	選 択
卒業研究論文演習 FS 分野2	12	選 択	卒業研究論文演習 PN 分野1	12	選 択
卒業研究論文演習 FS 分野3	12	選 択	卒業研究論文演習 PN 分野2	12	選 択
卒業研究論文演習 FS 分野4	12	選 択	卒業研究論文演習 PN 分野3	12	選 択
卒業研究論文演習 FS 分野5	12	選 択	卒業研究論文演習 PN 分野4	12	選 択
卒業研究論文演習 FS 分野6	12	選 択	卒業研究論文演習 PN 分野5	12	選 択
卒業研究論文演習 FS 分野7	12	選 択	卒業研究論文演習 PN 分野6	12	選 択
卒業研究論文演習 FS 分野8	12	選 択	卒業研究論文演習 PN 分野7	12	選 択
卒業研究論文演習 FS 分野9	12	選 択	卒業研究論文演習 PN 分野8	12	選 択
卒業研究論文演習 NCM 分野1	12	選 択	卒業研究論文演習 PN 分野9	12	選 択
卒業研究論文演習 NCM 分野2	12	選 択	国家試験受験ガイダンスⅠ	2	選 択
卒業研究論文演習 NCM 分野3	12	選 択	国家試験受験ガイダンスⅡ	2	選 択
卒業研究論文演習 NCM 分野4	12	選 択	国家試験受験ガイダンスⅢ	2	選 択
			国試対策・公衆栄養学Ⅰ	2	選 択
			国試対策・公衆衛生学Ⅰ	2	選 択

授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考	授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考
国試対策・公衆衛生学 2	2	選 択	国 試 対 策 (夏 季)	2	選 択
国試対策・基礎栄養学 1	2	選 択	国試対策 (直前対策模試Ⅰ)	2	選 択
国試対策・基礎栄養学 2	2	選 択	栄養士免許申請ガイダンス	2	選 択
国試対策・応用栄養学 1	2	選 択	栄養士実習事前ガイダンス	4	選 択
国試対策・応用栄養学 2	2	選 択	管栄国家試験申請ガイダンス	2	選 択
国試対策・栄養教育論 1	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅰ	2	選 択
国試対策・栄養教育論 2	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-1	4	選 択
国試対策・栄養教育論 3	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-2	4	選 択
国 試 対 策 ・ 生 化 学 1	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-3	4	選 択
国 試 対 策 ・ 生 化 学 2	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-4	4	選 択
国試対策・病原微生物学 1	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-5	4	選 択
国試対策・給食経営管理学 1	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-6	4	選 択
国試対策・給食経営管理学 2	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-7	4	選 択
国 試 対 策 ・ 臨 床 医 学 1	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-8	4	選 択
国 試 対 策 ・ 臨 床 医 学 2	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-9	4	選 択
国 試 対 策 ・ 臨 床 医 学 3	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-10	4	選 択
国 試 対 策 ・ 臨 床 栄 養 学 1	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-11	4	選 択
国 試 対 策 ・ 臨 床 栄 養 学 2	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-12	4	選 択
国 試 対 策 ・ 解 剖 生 理 学 1	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-13	4	選 択
国 試 対 策 ・ 解 剖 生 理 学 2	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-14	4	選 択
国 試 対 策 ・ 調 理 科 学 1	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-15	4	選 択
国 試 対 策 ・ 調 理 科 学 2	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-16	4	選 択
国 試 対 策 ・ 調 理 科 学 3	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-17	4	選 択
国 試 対 策 ・ 食 品 加 工 学 1	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅲ	4	選 択
国 試 対 策 ・ 食 品 加 工 学 2	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅳ-1	4	選 択
国 試 対 策 ・ 食 品 学 1	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅳ-2	4	選 択
国 試 対 策 ・ 食 品 学 2	2	選 択	入 学 前 教 育	8	選 択
国 試 対 策 ・ 食 品 学 3	2	選 択			
国 試 対 策 ・ 食 品 衛 生 学 1	2	選 択	(食創造科学科)		
国 試 対 策 ・ 食 品 衛 生 学 2	2	選 択	栄養士実習事前ガイダンス	4	選 択

授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考	授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考
入 学 前 教 育	8	選 択	卒 業 研 究 発 表 会 1	4	選 択
(情報メディア学科)			卒 業 研 究 発 表 会 2	4	選 択
			卒 業 研 究 発 表 会 3	4	選 択
入 学 前 教 育	8	選 択	卒 業 研 究 発 表 会 4	4	選 択
(建築学科)			数 学 演 習	16	選 択
「 建 築 材 料 」 補 習	4	選 択	物 理 ゼ ミ	16	選 択
「 建 築 材 料 実 験 」 補 習	2	選 択	物 理 演 習	16	選 択
「 建 築 法 規 Ⅱ 」 補 習	4	選 択	特 別 学 期 ガ イ ダ ン ス	2	選 択
「 建 築 生 産 」 補 習	2	選 択	入 学 前 教 育	8	選 択
「 建 築 設 計 演 習 Ⅲ 」 補 習	6	選 択	(景観建築学科)		
「 建 築 設 計 演 習 Ⅳ 」 補 習	6	選 択	「 世 界 庭 園 史 」 補 習	2	選 択
「 建 築 設 計 演 習 Ⅴ 」 補 習	6	選 択	「 建 築 計 画 」 補 習	4	選 択
「 建 築 構 造 力 学 Ⅰ 」 補 習	4	選 択	「 景 観 建 築 原 論 」 補 習	4	選 択
「 建 築 構 造 力 学 Ⅱ 」 補 習	4	選 択	「 景 観 建 築 英 語 Ⅲ 」 補 習	2	選 択
「 建 築 法 規 Ⅰ 」 補 習	4	選 択	「 景 観 建 築 設 計 演 習 Ⅰ 」 補 習	6	選 択
「 建 築 環 境 工 学 Ⅰ 」 補 習	2	選 択	「 景 観 建 築 設 計 演 習 Ⅱ 」 補 習	6	選 択
「 建 築 環 境 工 学 Ⅱ 」 補 習	2	選 択	「 景 観 映 像 情 報 演 習 Ⅰ 」 補 習	6	選 択
「 建 築 環 境 工 学 実 験 」 補 習	2	選 択	「 景 観 映 像 情 報 演 習 Ⅱ 」 補 習	6	選 択
「 建 築 英 語 Ⅲ 」 補 習	2	選 択	「 構 造 力 学 Ⅱ 」 補 習	2	選 択
「 建 築 設 計 演 習 Ⅰ 」 補 習	10	選 択	「 自 然 環 境 保 全 学 」 補 習	4	選 択
「 建 築 設 計 演 習 Ⅱ 」 補 習	6	選 択	「 近 代 建 築 史 」 補 習	2	選 択
「 建 築 設 計 計 画 Ⅱ 」 補 習	4	選 択	修 士 設 計 ・ 修 士 論 文 発 表 会 1	4	選 択
「 都 市 計 画 ・ デ ザ イ ン 論 」 補 習	2	選 択	修 士 設 計 ・ 修 士 論 文 発 表 会 2	4	選 択
「 CAD ・ CG 応 用 演 習 Ⅰ 」 補 習	6	選 択	修 士 設 計 ・ 修 士 論 文 発 表 会 3	4	選 択
「 CAD ・ CG 応 用 演 習 Ⅱ 」 補 習	6	選 択	修 士 設 計 ・ 修 士 論 文 発 表 会 4	4	選 択
修 士 設 計 ・ 修 士 論 文 発 表 会 1	4	選 択	特 別 学 期 ガ イ ダ ン ス	2	選 択
修 士 設 計 ・ 修 士 論 文 発 表 会 2	4	選 択	入 学 前 教 育	8	選 択
修 士 設 計 ・ 修 士 論 文 発 表 会 3	4	選 択			
修 士 設 計 ・ 修 士 論 文 発 表 会 4	4	選 択			

授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考	授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考
(演奏学科、応用音楽学科)			(経営学科)		
応 用 音 楽 へ の 誘 い I	2	選 択	入 学 前 教 育	8	選 択
応 用 音 楽 へ の 誘 い II	2	選 択			
音 楽 療 法 士 試 験 対 策	4	選 択			
音 楽 療 法 士 (補) 試 験 に 向 け て	4	選 択			
音 楽 科 模 擬 授 業 演 習	6	選 択			
入 学 前 教 育	8	選 択			
(薬学科、健康生命薬科学科)					
卒 論 発 表 会 へ の 参 加	8	選 択			
基 礎 薬 学 入 門	32	選 択			
研 究 の 手 引 き	24	選 択			
薬 学 化 学 入 門	30	選 択			
薬 学 生 物 入 門	30	選 択			
薬 学 科 1 年 次 の ま と め	14	選 択			
薬 学 科 2 年 次 の ま と め	14	選 択			
薬 学 科 3 年 次 の ま と め	28	選 択			
入 学 前 教 育	8	選 択			
(看護学科)					
国 際 看 護 学	2	選 択			
災 害 看 護 学	2	選 択			
第 1 回 国 試 オ リ エ ン テ ー シ ョ ン	2	選 択			
第 2 回 国 試 オ リ エ ン テ ー シ ョ ン	2	選 択			
第 3 回 国 試 オ リ エ ン テ ー シ ョ ン	4	選 択			
第 4 回 国 試 オ リ エ ン テ ー シ ョ ン	4	選 択			
第 5 回 国 試 オ リ エ ン テ ー シ ョ ン	2	選 択			
入 学 前 教 育	8	選 択			

3 ボランティア活動

ボランティア活動	(注)	選 択			
----------	-----	-----	--	--	--

(注) ボランティア活動30時間に対して1単位を認定する。修得した単位は卒業要件の単位に含めない。

4 インターンシップ活動

インターンシップ活動	(注)	選 択			
------------	-----	-----	--	--	--

(注) インターンシップ活動30時間に対して1単位を認定する。修得した単位は卒業要件の単位に含めない。

別表第 4

教育職員免許状

(中学校・高等学校教諭、栄養教諭 教育職員免許法施行規則第66条の6「日本国憲法」)

免許法施行規則に定める科目	修得単位 法定最低	本学の開設授業科目	単位数	必修単位 中一種免	必修単位 高一種免	備考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	2	2	

【履修方法】

- (1) その他の教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（本学では「教職基礎科目」と称する。）については、別表第1・別表第2より履修すること。

(中学校・高等学校教諭「各教科の指導法」)

免許法施行規則に定める科目		修得単位 法定最低	本学の開設授業科目	単位数	必修単位 中一種免	必修単位 高一種免	備考
第二欄	左の科目に含めることが 必要な事項						
教科及び教科の指導法に関する科目	・各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中 8 ・ 高 4	国語科指導法Ⅰ	2	2	2	各自が取得する免許状の教科に応じて修得すること
			国語科指導法Ⅱ	2	2	2	
			国語科指導法Ⅲ	2	2	2	
			国語科指導法Ⅳ	2	2	2	
			書道科指導法Ⅰ	2	—	2	
			書道科指導法Ⅱ	2	—	2	
			英語科指導法Ⅰ	2	2	2	
			英語科指導法Ⅱ	2	2	2	
			英語科指導法Ⅲ	2	2	2	
			英語科指導法Ⅳ	2	2	2	
			家庭科指導法Ⅰ	2	2	2	
			家庭科指導法Ⅱ	2	2	2	
			家庭科指導法Ⅲ	2	2	2	
			家庭科指導法Ⅳ	2	2	2	
			情報科指導法Ⅰ	2	—	2	
			情報科指導法Ⅱ	2	—	2	
			音楽科指導法Ⅰ	2	2	2	
			音楽科指導法Ⅱ	2	2	2	
			音楽科指導法Ⅲ	2	2	2	
			音楽科指導法Ⅳ	2	2	2	
理科指導法Ⅰ	2	2	2				
理科指導法Ⅱ	2	2	2				
理科指導法Ⅲ	2	2	2				
理科指導法Ⅳ	2	2	2				
合計		中 8 ・ 高 4	計		8	8	

【履修方法】

- (1) 「各教科の指導法」の科目を履修するために必要な手続きの詳細は別に定める。
 (2) 上表の科目のうち、各自が取得する免許状の教科に応じて8単位（書道科指導法・情報科指導法は4単位）を修得すること。

(中学校・高等学校教諭「教育の基礎的理解に関する科目等」)

免許法施行規則に定める科目		左の科目に含めることが 必要な事項	修得 法定 単位 最低	本学の開設授業科目	単 位 数	必 修 単 位 中 一 種 免	必 修 単 位 高 一 種 免	備考
第三欄	教育の基礎 的理解に関 する科目							
第三欄	教育の基礎 的理解に関 する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史 及び思想	10	教育原理	2	2	2	
				教育史	2			
		・教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門	2	2	2	
		・教育に関する社会的、制度的又は経 営的事項(学校と地域との連携及び 学校安全への対応を含む。)		教育行政学	2	2	2	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及 び学習の過程		教育心理学 発達心理学	2	2	2	
		・特別の支援を必要とする幼児、児童 及び生徒に対する理解		特別支援教育論	2	2	2	
		・教育課程の意義及び編成の方法(カ リキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程総論	2	2	2	
第四欄	道徳、総合 的な学習の 時間等の指 導法及び生 徒指導、教 育相談等に 関する科目	・道徳の理論及び指導法	中 10 ・ 高 8	道徳教育指導論	2	2	—	
		・総合的な学習の時間の指導法 ・特別活動の指導法		総合的な学習の時間と特別活動	2	2	2	
		・教育の方法及び技術		教育方法の理論と実践	1	1	1	
		・情報通信技術を活用した教育の理論 及び方法		ICT活用の理論と実践	1	1	1	
		・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及 び方法		生徒指導・進路指導	2	2	2	
		・教育相談(カウンセリングに関する 基礎的な知識を含む。)の理論及び 方法		教育相談の理論と方法	2	2	2	
第五欄	教育実践に 関する科目	・教育実習	中 5 ・ 高 3	教育実習事前指導(中高)	1	1	1	事前事後指導
				教育実習事前事後指導(中高)	1	1	1	
				教育実習Ⅰ(中高)	2	2		
				教育実習Ⅱ(中高)	2	2	2	
		・教職実践演習	2	教職実践演習(中高)	2	2	2	
合計			中 27 ・ 高 23	計	34	30	26	

【履修方法】

- (1)「教育の基礎的理解に関する科目等」の科目を履修するために必要な手続きの詳細は別に定める。
- (2) 上表の「免許法施行規則に定める科目区分」ごとに指定されている必修単位数を含んで中学校教諭30単位以上、高等学校教諭26単位以上。
- (3)「教育実習事前事後指導(中高)」「教育実習Ⅰ(中高)」「教育実習Ⅱ(中高)」「教職実践演習(中高)」については、その履修要件を充足すること。当該履修要件についての詳細は別に定める。
- (4)「道徳教育指導論」は、高等学校教諭においては「大学が独自に設定する科目」として開設する。
- (5)「教育の基礎的理解に関する科目等」として修得した単位数のうち中学校教諭27単位、高等学校教諭23単位を超えて修得した単位数を「大学が独自に設定する科目」の修得単位数に含めることができる。

(中学校・高等学校教諭「大学が独自に設定する科目」)

免許法施行規則に定める科目	修得単位 法定最低	算入可能な科目 及び 本学の開設授業科目	単位数	中一種免		高一種免		備考
				必修	選択	必修	選択	
大学が独自に設定する科目	中4 ・ 高12	① 中学校教諭：28単位を超えて修得した「教科及び教科の指導法に関する科目」・27単位を超えて修得した「教育の基礎的理解に関する科目等」						いずれかの単位で、中学校教諭4単位以上、高等学校教諭12単位以上修得すること
		① 高等学校教諭：24単位を超えて修得した「教科及び教科の指導法に関する科目」・23単位を超えて修得した「教育の基礎的理解に関する科目等」						
	② 道徳教育指導論	2	—		2			

【履修方法】

- (1) 「大学が独自に設定する科目」②の科目を履修するために必要な手続きの詳細は別に定める。
- (2) 上表の①②いずれかの単位で、中学校教諭4単位以上、高等学校教諭12単位以上。
- (3) 「道徳教育指導論」は、中学校教諭においては「教育の基礎的理解に関する科目等」として開設する。

(栄養教諭「教育の基礎的理解に関する科目等」)

	免許法施行規則に定める科目		修得単位 法定最低	本学の開設授業科目	単位数	栄教一種免 必修単位	備考
	教育の基礎的理解に関する科目	左の科目に含めることが必要な事項					
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	8	教育原理*	2	2	
		・教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門*	2	2	
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育行政学*	2	2	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学*	2	2	
		・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育論*	2	2	
		・教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程総論*	2	2	
第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	6	道徳教育指導論*	2	2	
		・教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		総合的な学習の時間と特別活動*	2	2	
		・生徒指導の理論及び方法		教育方法の理論と実践*	1	1	
		・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		ICT活用の理論と実践*	1	1	
				生徒指導の理論と方法	2	2	
第五欄	教育実践に関する科目	・栄養教育実習	2	栄養教育実習事前事後指導	1	1	事前事後指導
		・教職実践演習		2	2		
		合計	18	計	26	26	

【履修方法】

- (1) 「教育の基礎的理解に関する科目等」の科目を履修するために必要な手続きの詳細は別に定める。
- (2) 上表の「免許法施行規則に定める科目区分」ごとに指定されている必修単位数を含んで26単位以上。
- (3) 「栄養教育実習(学校現場)」「教職実践演習(栄教)」については、その履修要件を充足すること。当該履修要件についての詳細は別に定める。
- (4) *の科目は、中学校・高等学校教職課程と共通開設。

別表第 5

図書館司書専門教育科目

図書館法施行規則に規定する科目	必要単位数	左記に相当する本学の開講科目	単位数	必修単位	
生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	2	
図書館概論	2	図書館概論	2	2	
図書館制度・経営論	2	図書館制度・経営論	2	2	
図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	2	2	
図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	2	2	
情報サービス論	2	情報サービス論	2	2	
児童サービス論	2	児童サービス論	2	2	
情報サービス演習	2	情報サービス演習Ⅰ	1	1	
		情報サービス演習Ⅱ	1	1	
図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2	2	
情報資源組織論	2	情報資源組織論	2	2	
情報資源組織演習	2	情報資源組織演習Ⅰ	1	1	
		情報資源組織演習Ⅱ	1	1	
図書館基礎特論	2	図書館基礎特論	2	4	
図書館サービス特論		図書館サービス特論	2		
図書館情報資源特論		図書館情報資源特論	2		
図書・図書館史		図書・図書館史	2		
図書館実習		図書館実習	1		
図書館施設論		—			
図書館総合演習		—			
	24	計	31	26	

【履修方法】

- (1) 図書館司書専門教育科目を履修するために必要な手続きの詳細は別に定める。
- (2) 上表の「図書館法施行規則に規定する科目」ごとに指定されている必修単位数を含んで26単位以上。

別表第 6

学校図書館司書教諭専門教育科目

学校図書館司書教諭講習規程に定める科目	必要単位数	左記に相当する本学の開講科目	単位数	司書教諭必修
学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2	2
学校図書館メディアの構成	2	学校図書館メディアの構成	2	2
学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2	2
読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2	2
情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	2	2
	10	計	10	10

【履修方法】

- (1) 学校図書館司書教諭専門教育科目を履修するために必要な手続きの詳細は別に定める。
- (2) 上表の「学校図書館司書教諭講習規程に定める科目」ごとに指定されている必修単位数を含んで10単位以上。

別表第 7

博物館学芸員専門教育科目

博物館法施行規則 に規定する科目	必 要 単位数	左記に相当する 本学の開講科目	単位数	必 修 単 位
生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	2
博物館概論	2	博物館概論	2	2
博物館経営論	2	博物館経営論	2	2
博物館資料論	2	博物館資料論	2	2
博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	2
博物館展示論	2	博物館展示論	2	2
博物館教育論	2	博物館教育論	2	2
博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	2
博物館実習	3	博物館実習 A	2	2
		博物館実習 B	1	1
	19	計	19	19

【履修方法】

- (1) 博物館学芸員専門教育科目を履修するために必要な手続きは別に定める。
- (2) 上表の「博物館法施行規則に規定する科目」ごとに指定されている必修単位数を19単位取得。

別表第8（第39条関係）

令和5年度の入学生

学部・学科		費目	※1 入学検定料	入学金	学 費（年 額）			
					授 業 料	教育充実費	実験実習費	実務実習費
文学部	日本語日本文学科	1年次	35,000	200,000	895,000	200,000	—	—
		2～4年次	—	—	935,000	200,000	—	—
	英語文化学科	1年次	35,000	200,000	895,000	200,000	—	—
		2～4年次	—	—	975,000	200,000	—	—
学部教育	教育学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	240,000	—	—
社会心理・福祉学部	心理学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	230,000	—	—
	社会福祉学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	230,000	—	—
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	※2 26,000	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	270,000	※2 26,000	—
	スポーツマネジメント学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	※2 26,000	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	270,000	※2 26,000	—
生活環境学部	生活環境学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	250,000	—	—
社会情報学部	社会情報学科	1年次	35,000	200,000	990,000	180,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,060,000	250,000	—	—
食物栄養科学部	食物栄養学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	50,000	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	350,000	50,000	—
	食創造科学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	50,000	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	350,000	50,000	—
建築学部	建築学科	1年次	35,000	200,000	1,120,000	300,000	80,000	—
		2～4年次	—	—	1,160,000	400,000	80,000	—
	景観建築学科	1年次	35,000	200,000	1,120,000	300,000	80,000	—
		2～4年次	—	—	1,160,000	400,000	80,000	—
音楽学部	演奏学科	1年次	35,000	200,000	1,370,000	330,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,440,000	330,000	—	—
	応用音楽学科	1年次	35,000	200,000	1,370,000	330,000	—	20,000
		2～4年次	—	—	1,440,000	330,000	—	0
薬学部	薬学科	1年次	35,000	200,000	1,502,000	362,000	0	—
		2～6年次	—	—	1,532,000	394,000	96,000	—
	健康生命薬科学科	1年次	35,000	200,000	1,130,000	370,000	0	—
		2～4年次	—	—	1,170,000	370,000	160,000	—
看護学部	看護学科	1年次	35,000	200,000	1,347,000	328,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,367,000	328,000	—	—
経営学部	経営学科	1年次	35,000	200,000	800,000	200,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,000,000	200,000	—	—

※1 出願方法、出願回数に応じた割引金額とする。

※2 野外実習費 1・2年次のみ

令和4年度の入学生

学部・学科		費目	※1 入学検定料	入学金	学 費 (年 額)			
					授 業 料	教育充実費	実験実習費	実務実習費
文学部	日本語日本文学科	1年次	35,000 ^円	200,000 ^円	895,000 ^円	200,000 ^円	— ^円	— ^円
		2～4年次	—	—	935,000	200,000	—	—
	英語文化学科	1年次	35,000	200,000	895,000	200,000	—	—
		2～4年次	—	—	975,000	200,000	—	—
	心理・社会福祉学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	230,000	—	—
学部教育	教育学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	240,000	—	—
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	※2 26,000	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	270,000	※3 26,000	—
生活環境学部	生活環境学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	250,000	—	—
	情報メディア学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	250,000	—	—
食物栄養科学部	食物栄養学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	50,000	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	350,000	50,000	—
	食創造科学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	50,000	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	350,000	50,000	—
建築学部	建築学科	1年次	35,000	200,000	1,120,000	300,000	80,000	—
		2～4年次	—	—	1,160,000	400,000	80,000	—
	景観建築学科	1年次	35,000	200,000	1,120,000	300,000	80,000	—
		2～4年次	—	—	1,160,000	400,000	80,000	—
音楽学部	演奏学科	1年次	35,000	200,000	1,370,000	330,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,440,000	330,000	—	—
	応用音楽学科	1年次	35,000	200,000	1,370,000	330,000	—	20,000
		2～4年次	—	—	1,440,000	330,000	—	—
薬学部	薬学科	1年次	35,000	200,000	1,502,000	362,000	0	—
		2～6年次	—	—	1,532,000	394,000	96,000	—
	健康生命薬科学科	1年次	35,000	200,000	1,130,000	370,000	0	—
		2～4年次	—	—	1,170,000	370,000	160,000	—
学部看護	看護学科	1年次	35,000	200,000	1,347,000	328,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,367,000	328,000	—	—
学部経営	経営学科	1年次	35,000	200,000	800,000	200,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,000,000	200,000	—	—

※1 出願方法、出願回数に応じた割引金額とする。

※2 野外実習費

※3 野外実習費 2年次のみ

令和2～3年度の入学生

学部・学科		費目	学 費 (年 額)			
			授 業 料	教育充実費	実験実習費	実務実習費
文学部	日本語日本文学科	1年次	895,000 ^円	200,000 ^円	— ^円	— ^円
		2～4年次	935,000	200,000	—	—
	英語文化学科	1年次	895,000	200,000	—	—
		2～4年次	975,000	200,000	—	—
	心理・社会福祉学科	1年次	995,000	230,000	—	—
		2～4年次	1,035,000	230,000	—	—
学部教育	教 育 学 科	1年次	995,000	230,000	—	—
		2～4年次	1,035,000	240,000	—	—
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	1年次	995,000	230,000	※1 20,000	—
		2～4年次	1,035,000	270,000	※2 20,000	—
生活環境学部	生活環境学科	1年次	995,000	250,000	—	—
		2～4年次	1,035,000	250,000	—	—
	情報メディア学科	1年次	995,000	250,000	—	—
		2～4年次	1,035,000	250,000	—	—
食物栄養科学部	食物栄養学科	1年次	995,000	250,000	50,000	—
		2～4年次	1,035,000	350,000	50,000	—
	食創造科学科	1年次	995,000	250,000	50,000	—
		2～4年次	1,035,000	350,000	50,000	—
建築学部	建 築 学 科	1年次	1,100,000	300,000	60,000	—
		2～4年次	1,140,000	340,000	60,000	—
	景観建築学科	1年次	1,100,000	300,000	60,000	—
		2～4年次	1,140,000	340,000	60,000	—
音楽学部	演 奏 学 科	1年次	1,370,000	330,000	—	—
		2～4年次	1,440,000	330,000	—	—
	応用音楽学科	1年次	1,370,000	330,000	—	20,000
		2～4年次	1,440,000	330,000	—	—
薬学部	薬 学 科	1年次	1,502,000	362,000	0	—
		2～6年次	1,532,000	394,000	96,000	—
	健康生命薬科学科	1年次	1,130,000	370,000	0	—
		2～4年次	1,170,000	370,000	160,000	—
学部看護	看 護 学 科	1年次	1,347,000	328,000	—	—
		2～4年次	1,367,000	328,000	—	—
学部経営	経 営 学 科	1年次	800,000	200,000	—	—
		2～4年次	1,000,000	200,000	—	—

※1 野外実習費

※2 野外実習費 2年次のみ

令和元年度の入学生

学部・学科		費目	学 費 (年 額)			
			授 業 料	教育充実費	実験実習費	実務実習費
文学部	日本語日本文学科	1年次	895,000 ^円	200,000 ^円	— ^円	— ^円
		2～4年次	935,000	200,000	—	—
	英語文化学科	1年次	895,000	200,000	—	—
		2～4年次	975,000	200,000	—	—
	心理・社会福祉学科	1年次	995,000	230,000	—	—
		2～4年次	1,035,000	230,000	—	—
学部教育	教育学科	1年次	995,000	230,000	—	—
		2～4年次	1,035,000	240,000	—	—
スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	1年次	995,000	230,000	※1 20,000	—
		2～4年次	1,035,000	270,000	※2 20,000	—
生活環境学部	生活環境学科	1年次	995,000	250,000	—	—
		2～4年次	1,035,000	250,000	—	—
	食物栄養学科	1年次	995,000	250,000	50,000	—
		2～4年次	1,035,000	350,000	50,000	—
	情報メディア学科	1年次	995,000	250,000	—	—
		2～4年次	1,035,000	250,000	—	—
建築学科	1年次	1,100,000	300,000	60,000	—	
	2～4年次	1,140,000	340,000	60,000	—	
音楽学部	演奏学科	1年次	1,370,000	330,000	—	—
		2～4年次	1,440,000	330,000	—	—
	応用音楽学科	1年次	1,370,000	330,000	—	20,000
		2～4年次	1,440,000	330,000	—	—
薬学部	薬学科	1年次	1,502,000	362,000	0	—
		2～6年次	1,532,000	362,000	96,000	—
	健康生命薬科学科	1年次	1,130,000	370,000	0	—
		2～4年次	1,170,000	370,000	160,000	—
学部看護	看護学科	1年次	1,347,000	328,000	—	—
		2～4年次	1,367,000	328,000	—	—

※1 野外実習費

※2 野外実習費 2年次のみ

平成30年度の入学生

学部・学科		学 費 (年 額)					
		授 業 料	教育充実費	学生研修費	実験実習費	実務実習費	
文学部	日本語日本文学科	895,000 ^円	200,000 ^円	— ^円	— ^円	— ^円	
	英語文化学科	895,000	200,000	—	—	—	
	教 育 学 科	995,000	230,000	—	—	—	
	心理・社会福祉学科	995,000	230,000	—	—	—	
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	995,000	230,000	—	*1 20,000	—	
生活環境学部	生活環境学科	995,000	250,000	—	—	—	
	食物栄養学科	995,000	250,000	—	46,000	—	
	情報メディア学科	995,000	250,000	—	—	—	
	建 築 学 科	1,100,000	300,000	—	60,000	—	
音楽学部	演 奏 学 科	1,370,000	330,000	—	—	—	
	応用音楽学科	1,370,000	330,000	—	—	*2 20,000	
薬学部	薬 学 科	1年次	1,502,000	362,000	—	0	—
		2~6年次	1,502,000	362,000	—	96,000	—
	健康生命薬科学科	1年次	1,130,000	370,000	—	0	—
		2~4年次	1,130,000	370,000	—	160,000	—
看護学部	看 護 学 科	1,347,000	300,000	3,000	—	—	

※1 野外実習費。1年次、2年次のみ

※2 1年次のみ

平成26～29年度の入学生

学部・学科		学 費 (年 額)					
		授 業 料	教育充実費	学生研修費	実験実習費	実務実習費	
文学部	日本語日本文学科	895,000 ^円	175,000 ^円	3,000 ^円	— ^円	— ^円	
	英語文化学科	895,000	175,000	3,000	—	—	
	教育学科	995,000	205,000	3,000	—	—	
	心理・社会福祉学科	995,000	205,000	3,000	—	—	
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	995,000	205,000	3,000	*1 20,000	—	
生活環境学部	生活環境学科	995,000	225,000	3,000	—	—	
	食物栄養学科	995,000	225,000	3,000	46,000	—	
	情報メディア学科	995,000	225,000	3,000	—	—	
	建築学科	1,100,000	275,000	3,000	60,000	—	
音楽学部	演奏学科	1,370,000	305,000	3,000	—	—	
	応用音楽学科	1,370,000	305,000	3,000	—	*2 20,000	
薬学部	薬学科	1年次	1,502,000	337,000	3,000	0	—
		2～6年次	1,502,000	337,000	3,000	96,000	—
	健康生命薬科学科	1年次	1,130,000	345,000	3,000	0	—
		2～4年次	1,130,000	345,000	3,000	160,000	—
看護学部	看護学科	1,347,000	300,000	3,000	—	—	

※1 野外実習費。1年次、2年次のみ

※2 1年次のみ

・看護学部看護学科は平成27年度開設

平成25年度以前の入学生

学部・学科		学 費 (年 額)					
		授 業 料	教育充実費	学生研修費	実験実習費	実務実習費	
文 学 部	日本語日本文学科	895,000 ^円	150,000 ^円	3,000 ^円	— ^円	— ^円	
	英語文化学科	895,000	150,000	3,000	—	—	
	教 育 学 科	995,000	180,000	3,000	—	—	
	心理・社会福祉学科	995,000	180,000	3,000	—	—	
健康・ スポーツ 科学部	健康・スポーツ科学科	995,000	180,000	3,000	*1 20,000	—	
生 活 環 境 学 部	生活環境学科	995,000	200,000	3,000	—	—	
	食物栄養学科	995,000	200,000	3,000	46,000	—	
	情報メディア学科	995,000	200,000	3,000	—	—	
	建 築 学 科	1,100,000	250,000	3,000	60,000	—	
音 楽 学 部	演 奏 学 科	1,370,000	280,000	3,000	—	—	
	応用音楽学科	1,370,000	280,000	3,000	—	*2 20,000	
薬 学 部	薬 学 科 (平成23年度以前の入学生)	1,502,000	320,000	3,000	—	80,000	
	薬 学 科 (平成24・25年度の入学生)	1年次	1,502,000	320,000	3,000	0	—
		2～6年次	1,502,000	320,000	3,000	96,000	—
	健康生命薬科学科 (平成23年度以前の入学生)	1,250,000	320,000	3,000	—	—	
	健康生命薬科学科 (平成24・25年度の入学生)	1年次	1,130,000	320,000	3,000	0	—
		2～4年次	1,130,000	320,000	3,000	160,000	—

※1 野外実習費。1年次、2年次のみ

※2 1年次のみ

別表第9（第56条関係）

区 分		金 額	備 考
科目等履修生	選 考 料	10,000円	本学卒業生は免除
	登 録 料	15,000円	本学卒業生は半額
	履 修 料	1単位 30,000円 ただし、薬学部基礎・専門教育科目のうち講義科目 1単位 60,000円 「臨床薬学基本実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の履修料は 1単位 60,000円 「薬学臨床実習」の履修料は750,000円 〔健康生命薬科学科卒業生の薬剤師国家試験 受験資格取得に関する経過措置対応のため〕	単位不要の場合は半額

別表第10（第57条関係）

区 分		金 額	備 考
研 究 生	研 究 料	日本語日本文、英語文化 月額 25,000円	
		教育学部、健康・スポーツ科学部、 心理・社会福祉 月額 29,000円	
		生活環境学部、食物栄養科学部 月額 29,000円	
		建築学部 月額 32,000円	
		音楽学部 月額 39,000円	
		薬学 月額 43,000円	
		健康生命薬科 月額 32,000円	
		経営学部 月額 23,000円	

変更事項を記載した書類

1. 変更の事由

令和5年4月、心理・社会福祉学部、社会情報学部及び健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科を設置する。また同時に文学部心理・社会福祉学科及び生活環境学部情報メディア学科の学生募集を停止する。以上に伴い、学則の一部を変更する。

(1) 新設する学部・学科

心理・社会福祉学部	心理学科	入学定員 150 人	収容定員 600 人
心理・社会福祉学部	社会福祉学科	入学定員 70 人	収容定員 280 人
社会情報学部	社会情報学科	入学定員 180 人	収容定員 720 人
健康・スポーツ科学部	スポーツマネジメント学科	入学定員 100 人	収容定員 400 人

(2) 学生募集を停止する学部・学科

文学部	心理・社会福祉学科	入学定員 160 人	3 年次編入学定員 17 人
		収容定員 674 人	
生活環境学部	情報メディア学科	入学定員 150 人	収容定員 600 人

2. 変更点

- (1) 第5条（学部・学科及び収容定員）、第5条の2（目的）、第27条の2（教育職員免許状）、第27条の8（社会福祉士、精神保健福祉士）において、新設する学部・学科の記載を加える。また、募集停止する学部・学科の記載を削る。
- (2) 附則において施行日を明確にし、完成年度までの移行措置を追加する。
- (3) 別表第1（共通教育科目の授業科目及びその単位数）、別表第2（基礎教育科目及び専門教育科目）、履修方法において、新設する学部・学科の記載を加える。また、募集停止する学部・学科の記載を削る。
- (4) 別表第8（入学検定料・入学金及び学費）において、新設する学部・学科の記載を加える。また、募集停止する学部・学科の記載を削る。

3. 変更の時期

令和5年4月1日

武庫川女子大学学則 変更部分の新旧対照表

新(変更案)					旧(現行)				
第5条 本学に置く学部・学科及び収容定員は、次のとおりとする					第5条 本学に置く学部・学科及び収容定員は、次のとおりとする				
学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員	学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員
文学部	日本語日本文学科	150	3年次25	650	文学部	日本語日本文学科	150	3年次25	650
	英語文化学科 (削除)	200	3年次25	850		英語文化学科	200	3年次25	850
教育学部	教育学科	240	3年次25	1,010	教育学部	教育学科	240	3年次25	1,010
心理・社会福祉学部	心理学科	150	—	600	(新設)				
	社会福祉学科	70	—	280	健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科 (新設)	180	3年次20	760
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	180	3年次20	760	生活環境学部	生活環境学科	165	3年次20	700
	スポーツマネジメント学科	100	—	400		情報メディア学科	150	—	600
生活環境学部	生活環境学科 (削除)	165	3年次20	700	(新設)				
社会情報学部	社会情報学科	180	—	720	食物栄養科学部	食物栄養学科	200	3年次10	820
食物栄養科学部	食物栄養学科	200	3年次10	820	建築学部	建築学科	45	—	180
	食創造科学科	80	3年次5	330		景観建築学科	40	—	160
建築学部	建築学科	45	—	180	音楽学部	演奏学科	30	—	120
	景観建築学科	40	—	160		応用音楽学科	20	—	80
音楽学部	演奏学科	30	—	120	薬学部	薬学科	210	—	1,260
	応用音楽学科	20	—	80		健康生命薬科学科	40	—	160
看護学部	看護学科	80	—	320	看護学部	看護学科	80	—	320
経営学部	経営学科	200	—	800	経営学部	経営学科	200	—	800
<p>第5条の2 各学部・学科の目的は次のとおりとする。</p> <p>2 文学部は、人間の本质と文化的所産を人文諸科学の観点と方法により探究し、探究の過程と成果に基づき、時代と社会の要請に応じうる有為な女性を育成することを目的とする。</p> <p>(略)</p> <p>(削除)</p> <p>(略)</p> <p>4 心理・社会福祉学部は、幅広い教養と豊かな人間性を備えるとともに、来るべき人間中心社会の担い手として、「誰一人取り残さない (leave no one behind) 世界」の実現に向けて、社会が抱えるさまざまな課題の解決や新たな価値創造のために、心理学や社会福祉学の知識とスキルを積極的に活用して「持続可能な社会」の実現に向けて、自ら考え行動する力、他者と共に生きる社会の共同的な価値を創造する力、社会の多様性や異質性を理解し社会的な課題に立ち向かうことができる力を備えた人材の育成を目的とする。</p> <p>(1) 心理学科は、自身の理想を探究・追求し、社会の一員としての自覚を持ち、人びとの幸福に貢献することを目指して、心理学の諸領域における専門的知識と方法論を習得するとともに、個人・社会的問題および学術的課題を主体的に見出し、その解決過程を他者と協働しながら実践的に学ぶことによって、課題発見力と実践力を身につけ、多様な課題に想像力と柔軟性をもって取り組むことができる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 社会福祉学科は、一人ひとりの個性とその人らしく生きる権利を尊重し、支援を必要としている人々と共に自らも、さらには地域や社会もエンパワメントしていけるよう、グローバルな社会の一員としてさまざまな領域で活躍することを目指し、人間中心社会の理念を理解し、持続可能な包摂的社会の実現に向け地域市民として、また福祉専門職として、他者と共に生きる社会における共同的な価値の創造を希求し、社会の多様性、異質性に謙虚に向き合い、社会的な課題の解決に向けて実践することができる人材を養成することを目的とする。</p> <p>5 健康・スポーツ科学部は、幅広い専門知識並びに豊かな人間性と倫理観を養い、学校や企業、地域社会で活躍できる優れた健康・スポーツの実践者・指導者・管理者となる有為な女性を育成することを目的とする。</p> <p>(1) 健康・スポーツ科学科は、科学的知識に裏づけられた体育・スポーツの研究とその実践を通して、心身の健康並びに体力の保持増進について指導者的役割を担う、幅広い分野の健康・スポーツに関わる指導者、保健体育に関わる教育者を養成することを目的とする。</p> <p>(2) スポーツマネジメント学科は、健康スポーツ科学の優れた知見と実践を広く学び、多角的な視点からスポーツマネジメントやビジネスに対する理解を深め、多様な社会的課題の解決やダイバーシティの推進に資するマネジメント力と創造性を有する女性を育成することを目的とする。</p>					<p>第5条の2 各学部・学科の目的は次のとおりとする。</p> <p>2 文学部は、人間の本质と文化的所産を人文諸科学の観点と方法により探究し、探究の過程と成果に基づき、時代と社会の要請に応じうる有為な女性を育成することを目的とする。</p> <p>(略)</p> <p>(3) 心理・社会福祉学科は、実力あるところの専門家、福祉のスペシャリストを養成することにより、共に生きる人びとに共感できるやさしさと強さをあわせもち、人・社会の幸福の実現に寄与することのできる実力のある女性の育成を目的とする。</p> <p>(略)</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p> <p>4 健康・スポーツ科学部健康・スポーツ科学科は、科学的知識に裏づけられた体育・スポーツの研究とその実践を通して、心身の健康並びに体力の保持増進について指導的役割を担う、幅広い分野の健康・スポーツに関わる指導者、保健体育に関わる教育者を養成することを目的とする。</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p>				

新(変更案)

6 生活環境学部生活環境学科は、衣服、インテリア、住居、建築から、街・都市空間、地球環境までを連続した生活環境としてとらえ、さらにこれに関わる歴史や生活文化的視点も取り入れながら、理系と文系の考え方を融合させた幅広い視野に立って、新しい時代に対応できる人間性豊かな、専門性と創造的的能力を持った有為な女性を育成することを目的とする。

(削除)

(削除)

7 社会情報学部社会情報学科は、情報化社会を超えるデータ駆動の新しい世界に向けて、社会科学と情報科学を両翼とし、これをデータサイエンスで結ぶ実践的教育研究体系によって、コンピュータネットワークがもたらす仮想空間においても、人間性をいかに発揮できる知恵と技術をそなえた人材を育成することを目的とする。

8～13(略)

第27条の2 教育職員免許状授与の所要資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、教育職員免許法及び同法施行規則に定める所定の単位を、別表第1、第2及び履修方法(別表第1、第2の備考)、並びに別表第4に従い修得しなければならない。

2～3(略)

4 本学において当該所要資格を取得できる学部学科、教員免許状の種類及び免許教科又は領域を次のとおりとする。

学部	学科	免許状の種類	免許教科又は領域
(略)			
健康・スポーツ学部	健康・スポーツ科学科	中学校教諭一種免許状	保健体育
		高等学校教諭一種免許状	保健体育
	スポーツマネジメント学科	中学校教諭一種免許状	保健体育
		高等学校教諭一種免許状	保健体育
生活環境学部	生活環境学科	中学校教諭一種免許状	家庭
		高等学校教諭一種免許状	家庭
	(削除)		
社会情報学部	社会情報学科	高等学校教諭一種免許状	情報
(略)			

第27条の8 心理・社会福祉学部社会福祉学科の学生で、社会福祉士国家試験受験資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、社会福祉士及び介護福祉士法並びに同法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

2 心理・社会福祉学部社会福祉学科の学生で、精神保健福祉士国家試験受験資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、精神保健福祉士法に定める所定の単位を修得しなければならない。

3 心理・社会福祉学部社会福祉学科の定員は70名である。

4 心理・社会福祉学部社会福祉学科の、社会福祉士の指定養成施設としての定員は70名である。

5 心理・社会福祉学部社会福祉学科の、精神保健福祉士の指定養成施設としての定員は40名である。

附 則

1 この学則は、令和5年4月1日から施行する。

2 第5条に規定する心理・社会福祉学部心理学科及び社会福祉学科の収容定員は令和5年度から令和7年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科	年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	収容定員	収容定員	収容定員	収容定員
心理・社会福祉学部 心理学科		150	300	450
心理・社会福祉学部 社会福祉学科		70	140	210

3 文学部心理・社会福祉学科は、令和5年3月31日に当該学科に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

旧(現行)

5 生活環境学部は、人間が生活空間において生き、情報を利用して多様な生活を選び、さらに快適で美的な生活環境を築く知識と知恵を生み出すことのできる有為な女性を育成することを目的とする。

(1) 生活環境学科は、衣服、インテリア、住居、建築から、街・都市空間、地球環境までを連続した生活環境としてとらえ、さらにこれに関わる歴史や生活文化的視点も取り入れながら、理系と文系の考え方を融合させた幅広い視野に立って、新しい時代に対応できる人間性豊かな、専門性と創造的的能力を持った有為な女性を育成することを目的とする。

(2) 情報メディア学科は、個人の生活に及ぼす情報の力が増大する高度情報化社会において、さまざまな情報を利用・活用して最も適切な生活行動を設計し、他人と協働しながら社会的な営みに積極的に・主体的に参画し、個性を活かしつつ、自立して人生を切り開くために、知識と技術と感性と行動力を身に付けた有為な女性を育成することを目的とする。

(新設)

6～11(略)

第27条の2 教育職員免許状授与の所要資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、教育職員免許法及び同法施行規則に定める所定の単位を、別表第1、第2及び履修方法(別表第1、第2の備考)、並びに別表第4に従い修得しなければならない。

2～3(略)

4 本学において当該所要資格を取得できる学部学科、教員免許状の種類及び免許教科又は領域を次のとおりとする。

学部	学科	免許状の種類	免許教科又は領域
(略)			
健康・スポーツ学部	健康・スポーツ科学科	中学校教諭一種免許状	保健体育
		高等学校教諭一種免許状	保健体育
	〔新設〕		
生活環境学部	生活環境学科	中学校教諭一種免許状	家庭
		高等学校教諭一種免許状	家庭
	情報メディア学科	高等学校教諭一種免許状	情報
(新設)			
(略)			

第27条の8 文学部心理・社会福祉学科社会福祉コースの学生で、社会福祉士国家試験受験資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、社会福祉士及び介護福祉士法並びに同法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

2 文学部心理・社会福祉学科社会福祉コースの学生で、精神保健福祉士国家試験受験資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、精神保健福祉士法に定める所定の単位を修得しなければならない。

3 文学部心理・社会福祉学科社会福祉コースの定員は70名である。

4 文学部心理・社会福祉学科社会福祉コースの、社会福祉士の指定養成施設としての定員は70名である。

5 文学部心理・社会福祉学科社会福祉コースの、精神保健福祉士の指定養成施設としての定員は30名である。

(略)

(新設)

新(変更案)

旧(現行)

4 第5条に規定する健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科の収容定員は令和5年度から令和7年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科	年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
		収容定員	収容定員	収容定員
健康・スポーツ科学部		100	200	300
スポーツマネジメント学科				

5 第5条に規定する社会情報学部社会情報学科の収容定員は令和5年度から令和7年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科	年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
		収容定員	収容定員	収容定員
社会情報学部		180	360	540
社会情報学科				

6 生活環境学部情報メディア学科は、令和5年3月31日に当該学科に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

7 第5条の2第4項、第5項及び第7項の規定にかかわらず、令和4年度以前の入学生については、なお従前のとおりとする。

8 第26条第4項の規定にかかわらず、令和4年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数(別表第2)については、なお、従前のとおりとする。

9 第27条の2第4項の規定にかかわらず、令和4年度以前の入学生については、なお従前のとおりとする。

10 第27条の8の規定にかかわらず、令和4年度以前の入学生については、なお従前のとおりとする。

11 第35条の規定にかかわらず、令和4年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のとおりとする。

別表第1

共通教育科目

授業科目	単位数		備考
	必修	選択	
基礎教養科目群 人文科学科目			
(削除)			
(削除)			
(削除)			
(削除)			
(削除)			
(削除)			
日本の文化Ⅰ		2	
日本の文化Ⅱ		2	
神話・伝説の世界から		2	
平安朝文学の世界		2	
鎌倉時代の文学への語り		2	
平安時代の文学への語り		2	
(削除)			
(削除)			
(削除)			
(削除)			
現代フランスの音楽事情		2	
先端芸術表現		1	
ミュージカル歌唱法		1	
(削除)			
自己発見アート		1	
未来造形		1	
日常生活からの哲学入門		2	
(削除)			
歌舞伎鑑賞入門		2	
遊びの人類学		2	
(削除)			
(削除)			
(削除)			
(削除)			
SNSから日本語を見る		2	
音楽の科学		2	
(削除)			
(削除)			
フランスの音楽と芸術文化		2	

別表第1

共通教育科目

授業科目	単位数		備考
	必修	選択	
基礎教養科目群 人文科学科目			
日本語の世界		2	
英語圏の文学・文化		2	
建築と歴史		2	
生活の中の心理学		2	
ヨーロッパの名歌歌唱法		1	
英語を学問するー理論と実践		2	
日本の文化Ⅰ		2	
日本の文化Ⅱ		2	
神話・伝説の世界から		2	
平安朝文学の世界		2	
(新設)			
(新設)			
芭蕉をめぐる人々		2	
雨月物語に込められた情念		2	
芭蕉と旅		2	
「心中天網島」の女房「おさん」		2	
現代フランスの音楽事情		2	
先端芸術表現		1	
ミュージカル歌唱法		1	
日本舞踊に学ぶ着付けと作法		1	
自己発見アート		1	
未来造形		1	
日常生活からの哲学入門		2	
音楽の科学		2	
歌舞伎鑑賞入門		2	
遊びの人類学		2	
心理学入門		2	
人間関係の心理学		2	
日本近代文学の魅力Ⅰ		2	
日本近代文学の魅力Ⅱ		2	
SNSから日本語を見る		2	
(新設)			
日本語と英語の比較		2	
建築文化論		2	
フランスの音楽と芸術文化		2	

新(変更案)				旧(現行)			
基礎教養科目群 社会科学科目				基礎教養科目群 社会科学科目			
(削除)				現代の教育・保育事情			2
(削除)				建築と社会			2
(削除)				聴覚障害者の理解と手話言語			2
(削除)				カウンセリングの実際			2
(削除)				実践カウンセリング			2
現代世界の教育		2		(新設)			
子育てと家族関係		2		子育てと家族関係			2
子育てと母性の気づき		2		子育てと母性の気づき			2
福祉レクリエーションの実際		2		福祉レクリエーションの実際			2
差別と暴力のない世界をめざして		2		差別と暴力のない世界をめざして			2
生涯福祉論		2		生涯福祉論			2
社会福祉とボランティア		2		社会福祉とボランティア			2
(削除)				「ふつう」を考える社会学			2
(削除)				現代世界の教育			2
消費者生活論		2		消費者生活論			2
メディアに映る女性		2		(新設)			
(削除)				日本経済のしくみ			2
(削除)				外国から見た日本社会のしくみ			2
女性と子どものヘルスケア		2		女性と子どものヘルスケア			2
英語で学ぶやさしい経済学		2		英語で学ぶやさしい経済学			2
英語で学ぶお金の知識		2		英語で学ぶお金の知識			2
(削除)				情報化と教育			2
現代社会と憲法		2		現代社会と憲法			2
我々のくらしと日本の産業		2		我々のくらしと日本の産業			2
環境心理学入門		2		環境心理学入門			2
教養としての法律		2		教養としての法律			2
暮らしと法律		2		暮らしと法律			2
メディア技術と文字デザイン		2		メディア技術と文字デザイン			2
まちづくりと地方自治の役割		2		まちづくりと地方自治の役割			2
基礎教養科目群 自然科学科目				基礎教養科目群 自然科学科目			
(削除)				はたらく細胞とくすり			2
(削除)				身近にある科学			2
(削除)				発達障害の理解とリエンソ支援			2
文化を創造する数学		2		(新設)			
生命科学入門		2		(新設)			
(削除)				エコロジーと私たちのくらし			2
(削除)				健康を支える仕組み			2
(削除)				環境問題の歴史			2
(削除)				科学技術の歩み			2
(削除)				生命科学の基礎			2
(削除)				色彩情報			2
(削除)				生命科学入門			2
生活の中の物理学		2		生活の中の物理学			2
最先端物理学が描く宇宙		2		最先端物理学が描く宇宙			2
微生物がつくる発酵食品の不思議		2		(新設)			
(削除)				科学から考える衣服と生活			2
(削除)				数や図形の科学			2
(削除)				科学への入門			2
(削除)				生活習慣と脳と心と身体の科学			2
薬とからだ		2		薬とからだ			2
(削除)				健康生活とライフステージ			2
医薬品概論		2		医薬品概論			2
薬の歴史と未来		2		薬の歴史と未来			2
基礎教養科目群 国際理解科目				基礎教養科目群 国際理解科目			
(削除)				音楽から見る人と世界			2
韓国文化の理解		2		韓国文化の理解			2
(削除)				韓流ブーム			2
世界の中の日本人		2		世界の中の日本人			2
(削除)				World English I			2
(削除)				World English II			2
中国文化論		2		中国文化論			2
国際協力入門		2		国際協力入門			2

新(変更案)				旧(現行)			
基礎教養科目群 現代トピック科目				基礎教養科目群 現代トピック科目			
(削除)				現代社会と保健医療			2
(削除)				心理学トピックス			2
(削除)				社会福祉の学び			2
(削除)				スポーツツーリズムと地域創生			2
(削除)				大学生生活入門			2
モラルジレンマから考える私		2		モラルジレンマから考える私			2
女性のためのマーケティング		2		女性のためのマーケティング			2
(削除)				テレビ映像と現代社会			2
Current Affairs in Japan I		2		Current Affairs in Japan I			2
Current Affairs in Japan II		2		Current Affairs in Japan II			2
ジェンダー科目群				ジェンダー科目群			
セクシュアリティ入門				セクシュアリティ入門 I			
(削除)			2	(新設)			
(削除)				セクシュアリティ入門 II			2
(削除)				女性と教育			2
(削除)				ジェンダーとアイデンティティ			2
(削除)				ジェンダーと社会			2
女性の身体とセクシュアリティ		2		女性の身体とセクシュアリティ			2
メディアに見るジェンダー		2		メディアに見るジェンダー			2
女性が輝く社会づくり		2		女性が輝く社会づくり			2
キャリアデザイン科目群				キャリアデザイン科目群			
(削除)				教員から見た社会人基礎力			2
(削除)				ベンチャービジネス概論			2
(削除)				ビジネスプラン構築概論			2
(削除)				SOAR 人生100年をきり拓く力			2
(削除)				ヒューマンスキル入門			2
女性のためのライフプランニング		2		女性のためのライフプランニング			2
自己アビリティトレーニング		2		自己アビリティトレーニング			2
(削除)				パーソナルコミュニケーション			2
(削除)				キャリアと学び			2
(削除)				仕事力を考える			2
(削除)				企業の見方			2
(削除)				卒業生が語る仕事と人生			2
(削除)				企業での女性活躍と働き方改革			2
(削除)				企業で役に立つ情報収集と企画力			2
(削除)				グローバル化と企業の海外展開			2
(削除)				文章表現の基礎			2
(削除)				プレゼンテーションの基礎			2
(削除)				チームで学ぶ課題解決			2
キャリアビジョンと人物評価		2		キャリアビジョンと人物評価			2
(削除)				公務員の魅力			2
言語・情報科目群 言語リテラシー科目				言語・情報科目群 言語リテラシー科目			
(削除)				海外演習 I (韓国)			1
(削除)				海外演習 I (台湾)			1
(削除)				海外演習 I (タイ)			1
(削除)				海外演習 I (豪州)			1
(削除)				海外演習 II (韓国)			2
(削除)				海外演習 II (台湾)			2
(削除)				海外演習 II (タイ)			2
(削除)				海外演習 II (豪州)			2
特別英語演習 I		4		特別英語演習 I			4
特別英語演習 II		4		特別英語演習 II			4
(削除)				特別英語演習Ⅶ			2
特別ハンブル演習 I		4		特別ハンブル演習 I			4
特別ハンブル演習 II		4		特別ハンブル演習 II			4
(削除)				ハンブル検定演習			1
特別中国語演習 I		2		特別中国語演習 I			2
特別中国語演習 II		2		特別中国語演習 II			2
(削除)				Reading & Structure I			1
(削除)				Reading & Structure II			1
Current Events I		1		(新設)			
Current Events II		1		(新設)			
(削除)				Current Events			1
(削除)				Leadership Development			1
(削除)				Global Issues I			1
(削除)				Global Issues II			1
Grammar for Communication		1		(新設)			
Reading & Writing		1		(新設)			
Reading & Critical Thinking		1		Reading & Critical Thinking			1

新(変更案)				旧(現行)			
English for Careers		1		English for Careers		1	
Reading & Discussion		1		Reading & Discussion		1	
Career Workshop		1		Career Workshop		1	
Speaking & Listening I		1		Speaking & Listening I		1	
Speaking & Listening II		1		Speaking & Listening II		1	
Basics for Presentation I		1		Basics for Presentation I		1	
Basics for Presentation II		1		Basics for Presentation II		1	
Speaking & Listening III		1		Speaking & Listening III		1	
Writing I		1		Writing I		1	
Writing II		1		Writing II		1	
Global Communication I		1		(新設)			
Global Communication II		1		(新設)			
Presentation		1		Presentation		1	
ドイツ語 I		2		ドイツ語 I		2	
ドイツ語 II		2		ドイツ語 II		2	
フランス語 I		2		フランス語 I		2	
フランス語 II		2		フランス語 II		2	
中国語 I		2		中国語 I		2	
中国語 II		2		中国語 II		2	
スペイン語 I		2		スペイン語 I		2	
ハンブル I		2		ハンブル I		2	
ハンブル II		2		ハンブル II		2	
フランス語 I A		1		フランス語 I A		1	
フランス語 I B		1		フランス語 I B		1	
英語コミュニケーション I		2		英語コミュニケーション I		2	
英語コミュニケーション II		2		英語コミュニケーション II		2	
英語コミュニケーション III		1		英語コミュニケーション III		1	
英語コミュニケーション IV		1		英語コミュニケーション IV		1	
英語リーディング I		1		英語リーディング I		1	
英語リーディング II		1		英語リーディング II		1	
英語ライティング I		1		英語ライティング I		1	
英語ライティング II		1		英語ライティング II		1	
TOEIC演習 I		1		TOEIC演習 I		1	
TOEIC演習 II		1		TOEIC演習 II		1	
TOEIC演習 III		1		TOEIC演習 III		1	
TOEFL演習		1		TOEFL演習		1	
TOEIC(初級)		1		TOEIC(初級)		1	
イタリア語 I A		1		イタリア語 I A		1	
イタリア語 I B		1		イタリア語 I B		1	
日本語初級A		3		日本語初級A		3	
日本語初級B		3		日本語初級B		3	
日本語初級C		3		日本語初級C		3	
日本語初級D		3		日本語初級D		3	
日本語中級A		3		日本語中級A		3	
日本語中級B		3		日本語中級B		3	
日本語中級C		3		日本語中級C		3	
日本語中級D		3		日本語中級D		3	
日本語・上級 I		2		日本語・上級 I		2	
日本語・上級 II		2		日本語・上級 II		2	
日本語・上級 III		2		日本語・上級 III		2	
日本語・上級 IV		2		日本語・上級 IV		2	
言語・情報科目群 情報リテラシー科目				言語・情報科目群 情報リテラシー科目			
データリテラシー・AIの基礎 (削除)	2			データリテラシー・AIの基礎 データリテラシー・AI入門	2	2	
Accessデータベース基礎		2		Accessデータベース基礎		2	
情報社会を生きる技術		2		情報社会を生きる技術		2	
Webデザイン基礎		2		Webデザイン基礎		2	
Webデザイン応用		2		Webデザイン応用		2	
Scratchによるプログラミング		2		Scratchによるプログラミング		2	
グラフィックデザイン基礎		2		グラフィックデザイン基礎		2	
フォトタッチ基礎		2		フォトタッチ基礎		2	
データサイエンスの基礎とExcel		2		データサイエンスの基礎とExcel		2	
データサイエンスの応用とExcel		2		(新設)			
健康・スポーツ科目群 健康・スポーツ科学科目				健康・スポーツ科目群 健康・スポーツ科学科目			
生涯スポーツ論		2		生涯スポーツ論		2	
スポーツと栄養		2		スポーツと栄養		2	
スポーツと現代社会 (削除)		2		スポーツと現代社会 知っておきたい応急処置		2	2

新(変更案)				旧(現行)			
健康・スポーツ科目群 スポーツ実技科目				健康・スポーツ科目群 スポーツ実技科目			
(削除)				スポーツ実技(フットサル)			1
スポーツ実技(テニス)			1	スポーツ実技(テニス)			1
スポーツ実技(ゴルフ)			1	スポーツ実技(ゴルフ)			1
スポーツ実技(バレーボール)			1	スポーツ実技(バレーボール)			1
スポーツ実技(バドミントン)			1	スポーツ実技(バドミントン)			1
スポーツ実技(ジャズダンス)			1	(新設)			
スポーツ実技(エアロビクス)			1	スポーツ実技(エアロビクス)			1
スポーツ実技(軽スポーツ)			1	スポーツ実技(軽スポーツ)			1
スポーツ実技(ヨガ)			1	スポーツ実技(ヨガ)			1
からだど気づきと姿勢法			1	からだど気づきと姿勢法			1
スポーツ実技(水泳)			1	(新設)			
スポーツ実技(スリムエアロ)			1	スポーツ実技(スリムエアロ)			1
スポーツ実技(ダンスエアロ)			1	スポーツ実技(ダンスエアロ)			1
スポーツ実技(サッカー)			1	(新設)			
(削除)				スポーツ実技(バンジーエクササイズ)			1
(削除)				スポーツ実技(エアリアルワーク)			1
スポーツ実技(スタイルジャズ)			1	スポーツ実技(スタイルジャズ)			1
(削除)				大学学び発見ゼミ			2
単位互換協定科目				単位互換協定科目			
(削除)				近代建築の歴史を辿る			2
(削除)				グローバル食糧生産の裏側を探る			2
(削除)				音楽ア・ラ・カルト			2
(削除)				ムーヴメントとダンスの探究			2
履修方法(別表第1、第2の備考) (略)				履修方法(別表第1、第2の備考) (略)			
(削除)				文学部 心理・社会福祉学科 1 共通教育科目の中から10単位以上 2 共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎Ⅰ(2単位・必修)」 3 基礎教育科目の中から16単位以上 4 専門教育科目の中から46単位以上 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上			
心理・社会福祉学部 心理学科 1 共通教育科目の中から6単位以上 2 共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎Ⅰ(2単位・必修)」 3 基礎教育科目の中から8単位以上 4 専門教育科目の中から54単位以上 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上				(新設)			
心理・社会福祉学部 社会福祉学科 1 共通教育科目の中から10単位以上 2 共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎Ⅰ(2単位・必修)」 3 基礎教育科目の中から16単位以上 4 専門教育科目の中から46単位以上 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上				(新設)			
健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科 1 共通教育科目の中から8単位以上 2 共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎Ⅰ(2単位・必修)」 3 基礎教育科目の中から12単位以上 4 専門教育科目の中から62単位以上 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上				(新設)			

新(変更案)

旧(現行)

(削除)

生活環境学部 情報メディア学科

社会情報学部 社会情報学科

- 1 共通教育科目の中から14単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』中の「人文科学科目」、「社会科学科目」、「ジェンダー科目群」及び『大学・初年次ゼミ』中の「学び発見ゼミ」から合計4単位以上、『基礎教養科目群』中の「国際理解科目」、「現代トピック科目」から合計2単位以上、『言語・情報科目群』中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目の中から4単位以上
- 4 専門教育科目の中から80単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

1 共通教育科目の中から16単位以上

(新設)

2 共通教育科目『言語・情報科目群』中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)

3 基礎教育科目の中から4単位以上

4 専門教育科目の中から80単位以上

5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

別表第8(第39条関係)

別表第8(第39条関係)

令和5年度の入学生

(新設)

別表第8(第39条関係)
令和5年度の入学生

学部/学科	課程/科目	単位数	入学生		卒業生			
			2023年度	2024年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
生活環境学部	情報メディア学科	1年次	22,608	200,000	887,000	206,000	-----	-----
		2年次	-----	-----	925,000	206,000	-----	-----
		3年次	22,608	200,000	887,000	206,000	-----	-----
社会情報学部	社会情報学科	1年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
		2年次	-----	-----	1,087,000	206,000	-----	-----
		3年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
経済学部	経済学	1年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
		2年次	-----	-----	1,087,000	206,000	-----	-----
		3年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
経済学部	経済学(国際)	1年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
		2年次	-----	-----	1,087,000	206,000	-----	-----
		3年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
経済学部	経済学(地域)	1年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
		2年次	-----	-----	1,087,000	206,000	-----	-----
		3年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
経済学部	経済学(国際地域)	1年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
		2年次	-----	-----	1,087,000	206,000	-----	-----
		3年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
経済学部	経済学(国際)	1年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
		2年次	-----	-----	1,087,000	206,000	-----	-----
		3年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
経済学部	経済学(地域)	1年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
		2年次	-----	-----	1,087,000	206,000	-----	-----
		3年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
経済学部	経済学(国際地域)	1年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
		2年次	-----	-----	1,087,000	206,000	-----	-----
		3年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
経済学部	経済学(国際)	1年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
		2年次	-----	-----	1,087,000	206,000	-----	-----
		3年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
経済学部	経済学(地域)	1年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
		2年次	-----	-----	1,087,000	206,000	-----	-----
		3年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
経済学部	経済学(国際地域)	1年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
		2年次	-----	-----	1,087,000	206,000	-----	-----
		3年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
経済学部	経済学(国際)	1年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
		2年次	-----	-----	1,087,000	206,000	-----	-----
		3年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
経済学部	経済学(地域)	1年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
		2年次	-----	-----	1,087,000	206,000	-----	-----
		3年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
経済学部	経済学(国際地域)	1年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
		2年次	-----	-----	1,087,000	206,000	-----	-----
		3年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
経済学部	経済学(国際)	1年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
		2年次	-----	-----	1,087,000	206,000	-----	-----
		3年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
経済学部	経済学(地域)	1年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
		2年次	-----	-----	1,087,000	206,000	-----	-----
		3年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
経済学部	経済学(国際地域)	1年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
		2年次	-----	-----	1,087,000	206,000	-----	-----
		3年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
経済学部	経済学(国際)	1年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
		2年次	-----	-----	1,087,000	206,000	-----	-----
		3年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
経済学部	経済学(地域)	1年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
		2年次	-----	-----	1,087,000	206,000	-----	-----
		3年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
経済学部	経済学(国際地域)	1年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----
		2年次	-----	-----	1,087,000	206,000	-----	-----
		3年次	22,608	200,000	925,000	206,000	-----	-----

注1: 3年次生は、2024年度に卒業した学生数として、
注2: 兼修卒業生もカウントした。

○武庫川女子大学学部教授会規程

平成2年3月26日

規程第2号

改正 平成3年4月1日

平成4年4月1日

平成5年4月1日

平成7年4月1日

平成10年4月1日

平成18年4月1日

平成19年4月1日

平成27年4月1日

令和3年4月1日

(目的)

第1条 この規程は、武庫川女子大学学則第55条の規定に基づき、武庫川女子大学学部教授会（以下「教授会」という。）の運営に関し、必要な事項を定める。

(構成)

第2条 教授会は、当該学部の教授をもって構成する。ただし、学部長が必要と認めたときは、准教授、講師及び助教を加えることができる。

(審議事項)

第3条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
- (2) 学位の授与に関する事項
- (3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(招集)

第4条 教授会は、学部長が招集し、その議長となる。学部長に事故あるとき、又は学部長が欠けたときは、学部長があらかじめ指名した者が、その職務を代理し、又はその職務を

行う。

(定足数及び議決)

第5条 教授会の定足数は、委任状の提出者を含め構成員の3分の2以上とし、議事は、出席者の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

2 休職中の者その他長期にわたって出席できない者は、前項の定足数から除く。

3 議長は、教授会構成員に直接の利害関係のある事項について審議するときは、当該構成員を議決に加えないことができる。

(非構成員の出席)

第6条 議長は、必要があるときは、構成員以外の者を出席させて意見を求めることができる。

(守秘義務)

第7条 人事に関する事項及び学生の個人情報に関する事項の審議内容については、秘密を漏らしてはならない。

(議事録)

第8条 議事録は、中央キャンパス大学事務室又は学部事務室職員が作成し、学長の確認を得なければならない。ただし、前条に定める事項の議事録は公開しない。

(庶務)

第9条 教授会の庶務は、中央キャンパス大学事務室又は学部事務室が担当する。

(改廃)

第10条 この規程の改廃は、評議会の意見を聴いて、学長が決定する。

(その他)

第11条 学部長は、この規程に定めるもののほか、必要な事項を定めることができる。

附 則

1 この規程は、平成2年4月1日から施行する。

2 武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学部教授会規程（昭和45年4月1日）は、これを廃止する。

附 則

この規程は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

○武庫川女子大学評議会規程

平成2年3月26日

規程第4号

改正 平成10年4月1日

平成21年4月1日

平成27年4月1日

平成31年4月1日

(目的)

第1条 この規程は、武庫川女子大学学則第55条の規定に基づき、武庫川女子大学評議会（以下「評議会」という。）の運営に関し、必要な事項を定める。

(構成)

第2条 評議会は、開設する学部・学科を代表する者を含む次に掲げる評議員をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 各学部長
- (4) 共通教育部長
- (5) 各学科長
- (6) 教育研究所長
- (7) 附属図書館長
- (8) その他、学長が必要と認めた者

(任命)

第3条 評議員は、学長の申請に基づき理事長が任命する。

(審議事項)

第4条 評議会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学則に基づく規程の制定改廃に関する事項
- (2) 学務に関する全般的事項
- (3) 学生の入学及び卒業の基準に関する事項
- (4) 教育課程の編成に関する全学的な方針の策定、検証、評価等に関する事項
- (5) 教育、研究に関する全般的事項
- (6) その他学長が評議会の意見を聴くことが必要と定める事項

(招集)

第5条 評議会は、学長が招集し、その議長となる。学長に事故あるとき、又は学長が欠けたときは、学長があらかじめ指名した者が、その職務を代理し、又はその職務を行う。

(定足数及び議決)

第6条 評議会の定足数は、構成員の3分の2以上とし、議事は、出席者の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

2 休職中の者その他長期にわたって出席できない者は、前項の定足数から除く。

3 議長は、評議会構成員に直接の利害関係のある事項について審議するときは、当該構成員を議決に加えないことができる。

(非構成員の出席)

第7条 議長は、必要があるときは、構成員以外の者を出席させて意見を求めることができる。

(議事録)

第8条 議事録は、教務部教務課長が作成し、学長の確認を得なければならない。

2 議事録は、評議会の上を承を得ないで外部に漏らしてはならない。

(庶務)

第9条 評議会の庶務は、教務部教務課が担当する。

(改廃)

第10条 この規程の改廃は、評議会の意見を聴いて、学長が決定する。

(その他)

第11条 学長は、この規程に定めるもののほか、必要な事項を定めることができる。

附 則

この規程は、平成2年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

武庫川女子大学大学健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科

設置の趣旨等を記載した書類

目 次

1. 設置の趣旨及び必要性	……………p.2
2. 学部・学科等の特色	……………p.6
3. 学部・学科等の名称及び学位の名称	……………p.8
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	……………p.8
5. 教育方法, 履修指導方法及び卒業要件	……………p.13
6. 多様なメディアを高度に利用して, 授業を教室以外の場所で履修 させる場合の具体的計画	……………p.15
7. 実習の具体的計画	……………p.16
8. 企業実習や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画	……………p.18
9. 取得可能な資格	……………p.19
10. 入学者選抜の概要	……………p.20
11. 教員組織の編制の考え方及び特色	……………p.23
12. 施設, 設備等の整備計画	……………p.25
13. 管理運営	……………p.28
14. 自己点検・評価	……………p.30
15. 情報の公表	……………p.31
16. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	……………p.33
17. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	……………p.34

1. 設置の趣旨及び必要性

武庫川女子大学は、昭和 14 年に公江喜市郎によって創設された武庫川学院を母体とし、戦後間もない昭和 24 年に武庫川学院女子大学（昭和 33 年に現名称に改称）として開学した。「武庫川学院立学の精神に基づき、女子に広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、高い知性と善美な情操と高雅な徳性を兼ね具えた有為な日本女性を育成して、平和的世界文化の向上に貢献する。」（学則第 1 条）ことを目的とし、創立以来、社会に有為な女性を育成してきた。

開学当初は学芸学部のみであったが、常に時代や社会の要請に応え得る進取の精神と学問探究の姿勢を堅持しつつ、教育研究体制の整備と充実に邁進してきた結果、令和 4 年度現在で大学には文学部、教育学部、健康・スポーツ科学部、生活環境学部、食物栄養科学部、建築学部、音楽学部、薬学部、看護学部および経営学部の 10 学部 17 学科、大学院には文学研究科、臨床教育学研究科、健康・スポーツ科学研究科、生活環境学研究科、食物栄養科学研究科、建築学研究科、薬学研究科及び看護学研究科の 8 研究科 14 専攻を有する全国最大規模の女子総合大学へと発展を遂げている。

【資料 1：武庫川女子大学教学組織図】

健康・スポーツ科学部は、昭和 38 年に文学部教育学科内に設けられた「体育専攻」を源流とする。平成 13 年には文学部健康・スポーツ科学科として学科に昇格、平成 23 年からは健康・スポーツ科学部へと発展改組し、現在まで 1 学部 1 学科で教育研究活動を行い、科学的知識に裏づけられた体育・スポーツの研究とその実践を通して、心身の健康並びに体力の保持増進について指導的役割を担う、幅広い分野の健康・スポーツに関わる指導者、保健体育に関わる教育者を養成している。

この度、高度化、多様化するスポーツマネジメント領域において、リーダーシップを発揮できる女性を育成するため、学部内に「スポーツマネジメント学科」（入学定員 100 人）を令和 5 年 4 月に設置する。

（1）設置の理由及び必要性について

現代社会におけるスポーツの価値は、学校体育や競技スポーツ、そして生涯スポーツの枠組みに留まることなく、その期待や可能性は大きく広がっている。とりわけ平成 23 年スポーツ基本法制定以降、日本のスポーツの様相は大きく変化した。スポーツ基本法はその前文で文化としてのスポーツ及びスポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利であるとスポーツ権を明文化した。さらに人材養成という視点からは、地域スポーツクラブへの支援や地域スポーツと競技スポーツの好循環の重要性の規定、障害者への配慮や障害者スポーツ大会が規定されていること、また、プロ・アマチュアの区別ない支援やスポーツ産業の事業者との連携も含めスポーツ界全体に通じた構成になっていることに特徴がある。スポーツ基本法の施行を受け、翌平成 24 年にはスポーツ基本計画（第 1 期）

が公表され、平成 26 年、2020 オリンピック・パラリンピック東京大会招致が決まるとスポーツ政策は大きく変化する。2020 東京大会開催決定を受け、政府一丸となった準備が必要であり、国際公約としてのスポーツによる国際貢献、国民全体へのオリンピズムの普及、開催国としての我が国の競技力の向上、健常者・障害者のスポーツの一体的な推進のため平成 26 年スポーツ庁が発足する。スポーツ庁は、従来の体育・スポーツ政策を進める文部科学省を中心に、厚生労働省、外務省、国土交通省、農林水産業省、環境省、そして経済産業省と連携して、教育的価値以外の多様な価値の実現を目指す政策が展開されることとなった。さらに平成 28 年閣議決定「日本再興戦略 2016—第 4 次産業革命に向けて—」では「スポーツの成長産業化」が謳われ、スポーツ施設の魅力・収益性の向上、スポーツ経営人材の育成・活用プラットフォームの構築、スポーツと IT・健康・観光・ファッション・文化芸術等の融合・拡大が急務とされた。また同年同時期、スポーツ庁・経済産業省も、「スポーツ未来開拓会議中間報告～スポーツ産業ビジョンの策定に向けて～」を公表する。そして、平成 29 年の第 2 期スポーツ基本計画においては、「する」「みる」「ささえる」スポーツ参画人口の拡大、スポーツを通じた活力があり絆の強い社会の実現、国際競技力の向上、クリーンでフェアなスポーツの推進という方針に加え、スポーツの市場規模やスポーツツーリズムの消費額の拡大など成長産業としてのスポーツビジネスへの期待が寄せられている。さらに、令和 3 年 12 月に策定された第 3 期スポーツ基本計画においても、スポーツの成長産業化やスポーツツーリズム等による地方創生やまちづくりは基本計画の重要な柱として引き継がれている。

スポーツ基本法の制定以降のスポーツの成長産業化の実現は「日本再興戦略 2016」が指摘する「スポーツ経営人材の育成」が鍵を握っている。また「スポーツ未来開拓会議中間報告」においても、スポーツ産業振興の観点では、スポーツ団体等の経営人材が必要であるが、我が国においては、スポーツ経営に係る人材を育成する仕組みが社会的に未発達であり、スポーツが潜在的に有するコンテンツ力を様々な形で活用する等、スポーツの持つ価値を十分活かせていないと指摘している。そして、スポーツビジネスを推進する上でのマーケティング活動はもとより、ガバナンスの向上、スタジアム等の施設運営、興業等で必要となる様々な専門性を有した即戦力となるスポーツマネジメント人材の必要性が強調されている。

このように、体育・スポーツの推進をめぐるっては、学校体育や競技スポーツにとどまることなく、地域社会やビジネス等のマネジメントの現場において、スポーツに内在している価値を引き出すことができるスポーツマネジメント人材の養成に期待が寄せられているところである。また、第 2 期および第 3 期スポーツ基本計画で指摘されている「スポーツを通じた女性の活躍促進」は基本計画の目標であるスポーツを通じた共生社会の実現を目指したダイバーシティの実践を意味するものであり、スポーツ団体やスポーツ企業で活躍する女性のスポーツマネジメント人材育成は喫緊の課題といえよう。

さらに、平成 27 年の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」(SDGs) の達成に向け、課題に取り組む潜在的能力を備えた重要かつ強力なツールとして、スポーツがそ

の役割を果たすことが期待されている。持続可能な社会の実現に向けて、スポーツに内在している価値を引き出し、ツールとして活用できる人材の養成が必要である。SDGs で掲げられた 17 のゴールには、女性ならではの関わりが期待される目標も多く、女子大学が育成するスポーツ人材、スポーツマネジメント人材への社会的期待は多大なものがあると考えられる。したがって、本学において新たにスポーツマネジメント学科を設置することは、これからのスポーツを通じた様々な分野の発展および持続可能な共生社会の実現を牽引していく女性人材の養成に大きな貢献を果たすことができると考える。

また、本学が在る西宮市には阪神甲子園球場やトップスケーターの練習拠点であるひょうご西宮アイスアリーナなどのスポーツ施設や、Vリーグの JT マーヴェラス、Bリーグの西宮ストークス、3x3 プロチーム EPIC.EXE 等のトップチームが存在するなど、豊富なスポーツ資源を有する都市である。西宮市のスポーツ資源を活用した関西圏でのスポーツビジネスの展開やスポーツマネジメント人材養成のフィールドとして期待ができる。

これまでの健康・スポーツ科学部は、1 学部 1 学科（健康・スポーツ科学科）から成り、スポーツ教育コース、スポーツ科学コース、スポーツマネジメントコースを設置し、スポーツに関わる領域・分野について広く修学できる体制を整備してきている。しかしながら、先述のとおり、実現されるべきスポーツの価値が多岐にわたり、従前の枠組みの中だけでは、スポーツの価値を実現できる人材育成に十分対応できていたとは言い難い。従前のスポーツの実践領域を高度化させるとともに多様な研究領域を組み込み、多角的な学びを実践するために、既存のスポーツマネジメントコースを独立させ、新たにスポーツマネジメント学科を設置する必要がある。新学科では、既存の健康・スポーツ科学科と連携するとともに、西宮市のスポーツ資源を活用することにより、他大学・他学部にはない、独自性・多様性にあふれた女子大学ならではの教育を実践することができる。

以上の背景から、より専門性が高く、様々な観点からスポーツの価値を理解し、それを地域社会やスポーツビジネス等のマネジメントの現場において実現できる人材を養成するために、本学においてスポーツマネジメント学科を新設することは至極当然である。

（２）養成する人材像

武庫川女子大学健康・スポーツ科学部では、科学的知識に裏づけられた体育・スポーツの研究とその実践を通し、心身の健康並びに体力の保持増進について、学校や企業、地域社会等、幅広い分野で活躍できる優れた健康・スポーツの実践者・指導者・管理者の育成を目的としている。

新設するスポーツマネジメント学科では、健康・スポーツ科学部において養成する人材像に基づいて、幅広い教養と豊かな人間性を備えるとともに、時代と社会の要請とともに高度化、多様化するスポーツマネジメント領域において、リーダーシップを発揮できる女性を育成する。加えて、健康・スポーツ科学の優れた知見を広く学び、多角的な視点からスポーツマネジメントやビジネスに対する理解を深め、多様な社会的課題の解決やダイバ

ーシティの推進に資するマネジメント力と創造性を有する女性を育成することを目的とする。

上記人材の養成を目的に、健康・スポーツ科学部およびスポーツマネジメント学科ではディプロマ・ポリシーを以下のように定めている。

(3) 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

本学の立学の精神には「高い知性と善美な情操と高雅な徳性」を兼ね具えた有為な女性の育成が謳われている。健康・スポーツ科学部およびスポーツマネジメント学科では、この立学の精神に基づいて、ディプロマ・ポリシーを以下の通り定めている。

[健康・スポーツ科学部のディプロマ・ポリシー]

本学部は、健康・スポーツを科学的・専門的に学ぶ意欲を持ち、本学の「立学の精神」と「教育目標」に賛同し、「健康・スポーツ科学科」あるいは「スポーツマネジメント学科」の教育課程を修めた者に各学科が定めた学位を授与する。

[スポーツマネジメント学科のディプロマ・ポリシー]

本学科は、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って124単位以上を修得し、国際的な広い視野と高い倫理観を持ち、なおかつ次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定する。卒業が認定された者には、学士(スポーツマネジメント学)の学位を授与する。

1.知識・理解

1-1.スポーツマネジメントおよび健康・スポーツに関する基礎的知識から専門的知識を幅広く体系的に修得している。

1-2.スポーツマネジメントおよび健康・スポーツの実践・指導・管理のための適切で正しい方法を理解している。

2.技能・表現

2-1.スポーツマネジメントおよび健康・スポーツを実践・指導・管理するための基本的・専門的スキルを修得している。

2-2.スポーツマネジメントおよび健康・スポーツを実践・指導・管理するためのコミュニケーション能力(外国語を含む)を修得している。

3.思考・判断

3-1.スポーツマネジメントおよび健康・スポーツの実践・指導・管理現場において、達成すべき成果を明確に設定した上で、問題を解決できる論理的思考力を有している。

3-2.スポーツマネジメントおよび健康・スポーツの実践・指導・管理現場において、安全・安心を最優先し、状況に応じた臨機応変で柔軟な判断ができる能力を有している。

4.態度・志向性

4-1.学際的な視点から専門分野を捉え、現場から実践的に学ぶ態度を有している。

4-2 高い倫理観に基づいて行動するスポーツマネジメントおよび健康・スポーツの実践的リーダーを目指す強い意欲と意志を有している。

(4) 研究対象とする中心的な学問分野

武庫川女子大学健康・スポーツ科学部は、開設当初から中学・高等学校保健体育科教員養成を目的とした教育課程を編成してきた。また、現在「スポーツ教育領域」「スポーツ科学領域」「健康スポーツ領域」「スポーツマネジメント領域」の4領域科目から教育課程が構成されているものの、4領域の基礎となる学問分野は、体育学、健康・スポーツ科学である。

新設するスポーツマネジメント学科も、体育学、健康・スポーツ科学を基礎とするが、中心的な学問分野は「スポーツマネジメント学」という新しい研究領域である。例えばスポーツマネジメント論やスポーツマーケティング論は、近年、欧米で盛んに研究されてきた領域であるし、スポーツビジネス論あるいはスポーツ産業論もスポーツと経済との結びつきが強くなるにつれ関心をもたれるようになった研究領域である。一方、スポーツマネジメントは、スポーツの実践とその経営現象を研究対象とする領域であり、その経営現象の多くは組織的営みを前提としている。そして、より合理的なマネジメントの検討やスポーツの価値を向上と創造のためには、経営学、マーケティング論、会計学・財務論、さらには情報・メディア論等の専門領域と関連させながら教育・研究を推進しなければならない。新設するスポーツマネジメント学科の教育課程には、アカウンティング、経営組織論、ファイナンシャルマネジメント、マーチャンダイシング等の専門科目が設定されている。このような教育課程は他大学のスポーツマネジメント学部・学科には見られない特徴であり、本学の新学科の強みである。

2. 学部・学科等の特色

中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像（答申）」における提言「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえれば、スポーツマネジメント学科は同答申にある大学の主要な7つの機能（1. 世界的研究・教育拠点、2. 高度専門職業人養成、3. 幅広い職業人養成、4. 総合的教養教育、5. 特定の専門分野の教育・研究、6. 地域の生涯学習機会の拠点、7. 社会貢献機能）の中でも、特に「3. 幅広い職業人養成」「5. 特定の専門分野の教育・研究」の機能を担うものである。すなわちスポーツに多様な価値や機能が期待されるようになるにつれ、体育・スポーツ系の高等教育機関はその役割を保健体育科教員養成や社会体育指導者養成に置くだけではその社会的機能が果たせなくなっている。とりわけ、スポーツによる地域活性化や経済の活性化に対する期待が高まるにつれ、スポーツのビジネスやマネジメントに関わる幅広い人材養成や特定分野の教育が必要となっている。またスポーツマネジメントやスポーツビジネス分野に関わる人材養成は、人々の文化的生活の豊かさや健康寿命の延伸、共生社会の実現等に貢献する人材であり、大きな「7.社会貢献

機能」が期待される。

かかる高等教育をめぐる人材養成という観点からみると、本学におけるスポーツマネジメント学科は、スポーツをさまざまな領域・分野から捉え、スポーツをマネジメントしていく知識・理論を学べる点に特色がある。例えば、経営的視点からスポーツをマネジメントすることは、プロスポーツチームのマネジャーやフロントスタッフ、スポーツイベントの企画スタッフ、スポーツ関連企業の企画・開発者、民間スポーツクラブや総合型地域スポーツクラブ等で活躍できる人材育成につながる。また、情報・メディア的視点からスポーツをマネジメントすることは、メディア系企業での企画・運営者、スポーツデータアナリストやスポーツジャーナリストとして活躍する人材を育成することに繋がる。広く異分野と協働・連携することで、学生一人一人の可能性を最大限に引き出し、地域社会やスポーツビジネス等の場面でリーダーシップを発揮できる教育を実践していく。

これを実現するために、講義だけでなく演習や実習形式の授業科目を積極的に取り入れていく。例えば、2年次の「スポーツマネジメント学内演習」では、スポーツビジネスのケーススタディを通じてディスカッションとプレゼンテーション中心の授業を行う。3年次の「スポーツマネジメント学外実習」では、スポーツに関連した団体や企業と連携して、課題解決型の学外実習を行う。これらの演習・実習を通じて、スポーツマネジメントについて、実践的かつ実用的な知識・技能の向上を図ることができる。

また、既設学科である健康・スポーツ科学科と連携・協力し、学部共通専門教育科目として多数のスポーツ実技・実習科目を取り入れている。近年、スポーツ実践を通じて涵養されることが期待される能力・資質として、「目標から逆算していく能力」、「組織人としての役割使命の遂行力」「課題や困難から逃げずにこれと向き合い解決していく力」等が企業の人事担当者から注目されている。スポーツマネジメント学科では、スポーツ実技・実習を効果的に取り込むことで、地域社会やスポーツビジネスの場面等における多様な課題解決に必要な資質を備えた人材の養成が期待できる。さらに、スポーツと学業との両立やデュアルキャリア等が社会的課題になっているところであるが、オンデマンド学修環境の構築等の学修支援体制づくりを通して、国際レベルで活躍できるアスリートやスポーツマネジメント人材の輩出を目指す。

総合大学としての本学の強みを生かして、健康・スポーツ科学部健康・スポーツ科学科では、これまで食物栄養科学部や薬学部との連携・協力による教育・研究を行ってきた。スポーツマネジメント学科においては、体育・スポーツ系教員のみならず、経営学及び情報・メディア系教員を配置し、他大学にはない多様性・創造性に富んだ教育を実践することを可能にしている。また、米国ワシントン州スポーケン市に位置するアメリカ分校を活用した海外研修科目「海外のスポーツビジネス研究」等を履修することで、グローバル人材の養成も可能である。

3. 学部・学科等の名称及び学位の名称

(1) 学部・学科の名称

学科名称は、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「スポーツマネジメント学」分野とすることから「スポーツマネジメント学科」とする。

また学科の英語名称については、“Department of Sport Management”とする。この英語名称については、米国の名門ライス大学や、日本で同分野の学科を設置している日本体育大学や中京大学でもこの名称を使用しており、国際的な通用性に考慮している。

【学部名称】健康・スポーツ科学部 School of Health and Sports Sciences

【学科名称】スポーツマネジメント学科 Department of Sport Management

(2) 学位に付記する専攻分野の名称

学位の名称は、組織として研究対象とする学問分野をより具体的に反映させるために、本学では学科の名称と連動させている。従って学位の名称は、「スポーツマネジメント学科」では「学士（スポーツマネジメント学）」、英語名称は“Bachelor of Sport Management”とする。

【学位名称】学士（スポーツマネジメント学） Bachelor of Sport Management

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 教育課程編成の基本方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーに定めた資質・能力（学修成果）を学生が身につけるうえで必要な教育課程（カリキュラム）を各学部・学科において以下のように編成する。

【健康・スポーツ科学部のカリキュラム・ポリシー】

本学部は、ディプロマ・ポリシーを達成するために「健康・スポーツ科学科」ならびに「スポーツマネジメント学科」に相応しい教育課程を編成する。

【スポーツマネジメント学科のカリキュラム・ポリシー】

本学科は、ディプロマ・ポリシーを達成するために、次の方針で教育課程を編成する。

本学科は、スポーツ関連企業や団体、地域社会や学校等のスポーツマネジメント領域で活躍する優れた経営管理者、スポーツ実務者、スポーツ指導者に求められる最新のスポーツマネジメント理論やスポーツマーケティング理論等を体系的に学修するとともに、科学的なスポーツ指導論や医科学理論も踏まえた、現代的なスポーツマネジメントの実践やスポーツ指導法を学ぶことができる。

多様化・複雑化するスポーツマネジメントに関わる経営管理者、スポーツ実務者、スポーツ指導者に必要な基礎理論と実践的知識を講義・演習科目で学び、それらに基づく技能

を学内実習科目で身につけ、最終的に学外のスポーツマネジメント実践との連携により高度化するという、段階的・形成的な学修がきるよう教育課程を編成している。また、スポーツマネジメントに関する知識と技能を専門的に学修するために学科開講科目には「学科専門教育科目」を設け、またスポーツ科学を体系的に学ぶために「学部共通専門教育科目」を設定している。

【資料2：カリキュラムマップ】

「学科専門教育科目」では、スポーツマネジメント基礎論に関連した科目群、スポーツマネジメントの実践や経営学の基礎理論に関連した科目群を設け、多様なスポーツマネジメント領域での活躍を目指す学生に必要な基礎的理論の理解や応用実践力の獲得、経営・企画・販売等の専門的理論と技能の習得を目指している。

スポーツマネジメントの基礎論に関連した科目群には、スポーツビジネス最前線、スポーツビジネス論、スポーツ産業と政策、地域スポーツ経営論、スポーツガバナンス論等の基礎となる科目を設置する。スポーツマネジメントの実践論や経営学の基礎理論に関連した科目群は、「マネジメント領域」「マーケティング領域」「実務領域」「生活・健康領域」「先端ビジネス領域」という5つの専門領域に分類し、学年進行に応じて段階的に学修が進められるよう体系的に整備する。

5つの専門領域のうち「マネジメント領域」では、「組織／管理／会計／財務」に関する科目を学び、スポーツ組織のマネジメントや財務・会計に関する理論と技法を身につける。これらの学びを通じて、クラブチーム、スポーツ施設の運営、地域スポーツ推進のマネジメントで活躍できる資質を養う。

「マーケティング領域」では、「企画／開発／マーケティング」に関する科目を学び、スポーツ組織の経営戦略、製品・サービスの企画・開発、マーケティングに関する理論と技法を身につける。顧客目線に立った企画・開発力を発揮し、地域社会やビジネス等の発展に貢献できる資質を養成する。

「実務領域」では、「実務／マナー／接客・接遇」に関する科目を学び、スポーツマネジメントやスポーツビジネス実務の基礎と対人コミュニケーションの技法を身につける。知性・情操・徳性を涵養し、洗練されたコミュニケーション能力を育成する。

「生活・健康領域」では、「ヘルスケア／ホスピタリティ／ツーリズム」に関する科目を学ぶことで、ヘルスケア産業や地域スポーツ推進の場でホスピタリティマインドを発揮し、生活の豊かさや健康水準の向上に貢献できる資質を養成する。

「先端ビジネス領域」では、「イノベーション／メディア／トップスポーツ」に関する科目を学ぶことで、日々進化するスポーツマネジメントやスポーツビジネスに対する高い感度と情報リテラシーを有し、スポーツ産業の発展に貢献できる人材の養成を目指す。

「学部共通専門教育科目」では、スポーツマネジメントの土台となるスポーツに関する基礎的な知識の修得のために、健康・スポーツ科学論、スポーツの文化・歴史、情報リテラシー、基礎英語等の「基礎教育科目」を設置している。また、健康・スポーツ科学を学

ぶ者に共通して必要となる、基礎的・専門的知識および技能を身につけることができ、中学・高等学校保健体育科教員やジュニアスポーツ指導員、健康運動指導士・健康運動実践指導者などの資格取得が可能となる。

本学科では、以上の教育課程全般において積極的にアクティブラーニングを取り入れて能動的に学修する態度を養い、各科目における「知識・理解」「技能・表現」「思考・判断」「態度・志向性」の枠組みで示した能力・資質についての評価および卒業研究によってディプロマ・ポリシー達成の評価を総括的に行う。

(2) 科目区分の設定及びその理由、各科目区分の科目構成とその理由

① 共通教育科目

「共通教育科目」は、全ての学部・学科の学生が自由に選択できる。歴史的に蓄積された思想や学問について広く基礎を学び、変化が激しい現代社会において的確に判断できる知性及び知識、技能の習得、真摯な学習と実践を通じ、思いやりと心の豊かな感性をもつ自律的な個人の確立をめざしている。以下に示された5つの教育目標(MW 教養コア)の理念のもと、「基礎教養科目群」「ジェンダー科目群」「キャリアデザイン科目群」「言語・情報科目群」「健康・スポーツ科目群」などの科目群で構成される。

共通教育理念「MW 教養コア」

1. 人文、社会、自然の各分野における人間理解に関する広い知識と学ぶ態度の修得
2. 心身の健康のための運動習慣の形成と生命の尊さや倫理に関する知識・態度の向上
3. ジェンダーの視点の理解と主体的な判断力・行動力の獲得
4. 自らの生涯にわたるライフデザインに資するキャリア形成能力の育成
5. 異文化を理解し、グローバルな視点で活躍するためのリテラシーと基礎知識の習得

さらに「基礎教養科目群」「言語・情報科目群」「健康・スポーツ科目群」は下表の通り細分化されている。

①基礎教養科目群	人文科学科目
	社会科学科目
	自然科学科目
	国際理解科目
	現代トピック科目
②ジェンダー科目群	
③キャリアデザイン科目群	
④言語・情報科目群	言語リテラシー科目
	情報リテラシー科目
⑤健康・スポーツ科目群	健康・スポーツ科学科目
	スポーツ実技科目

なお、共通教育科目については基本的にすべて選択科目であり、本学科では共通教育科目

を 8 単位以上修得することを卒業要件としているが、情報リテラシー科目のうち「データリテラシー・AI の基礎」は全学科で 1 年次後期に必修としている。

②基礎教育科目

基礎教育科目は、健康・スポーツ科学を学ぶ者に共通して必要となる、健康・スポーツ科学に関する基礎的な知識や情報リテラシー等を学ぶことを目的とした科目群である。

入学初年度には、スポーツマネジメント学科の専門的教育への導入を目的に「初期演習Ⅰ」「初期演習Ⅱ（スポーツマネジメント）」を開講する。また、健康・スポーツをめぐる科学的な理解促進を目的に、主にスポーツ科学分野と健康科学分野を中心とした理論の理解を促す「健康・スポーツ科学論」や、スポーツ文化を通じた異文化理解や自文化理解を促す「スポーツの文化・歴史」が開講される。

さらに、大学教育に適応し、専門的な学習を深めるために、コンピュータやネットワークの知識を学習する「情報リテラシー」や、実践的な英語力を獲得するために「基礎英語Ⅰ」「基礎英語Ⅱ」「Oral CommunicationⅠ」「Oral CommunicationⅡ」を設置する。加えて、TOEIC のスコアに応じた単位（2～8 単位）を基礎教育科目の単位として認定する。

③スポーツマネジメント学科専門教育科目

スポーツマネジメントを学ぶ上で、基礎となる科目と実務領域に特化した応用科目を体系的に履修できるよう設定した。

◆基礎となる科目

スポーツマネジメントを学ぶ上で、基礎的な理論や知識を習得する科目が必要である。そのため、スポーツマネジメントの考え方やスポーツビジネスの現状とその役割等を学ぶ基礎となる科目を設定した。

「スポーツビジネス論」「スポーツ産業と政策」「地域スポーツマネジメント論」は、スポーツマネジメントの背景となるスポーツ産業政策、スポーツビジネスの基礎や地域活性化にスポーツが果たす役割等を学ぶ講義科目である。「スポーツビジネス最前線」は、スポーツビジネスに携わる企業人を講師として招き、オムニバス形式でスポーツビジネスの現場を伝えるとともにロールモデルを提供する講義科目である。また、「スポーツガバナンス論」は、わが国のスポーツ団体にとって喫緊の課題であるガバナンス問題について早い段階で学ぶことを目的として設置した科目である。

スポーツマネジメント学科の専門的な教育課程としては、スポーツマネジメントを学ぶ上で基礎となる「ビジネス／政策／ガバナンス」に関わる科目を学ぶことができる。

◆領域に特化した応用科目

スポーツマネジメントに関わる個別的・応用的・発展的な科目群を、「マネジメント領域」、「マーケティング領域」、「実務領域」、「生活・健康領域」、「先端ビジネス領域」の 5 つの専門領域に分け、多様な側面を有するスポーツマネジメントについて、学生の必要・

興味・関心に応じた学びを進められるようにしている。

マネジメント領域には、プロスポーツチーム、スポーツ施設の運営、地域スポーツのマネジメントの場面で活躍できる人材の養成を主眼に置いた科目を設置している。マーケティング領域には、マーケティング的センスを有し、企画・開発力を発揮し、地域社会やスポーツビジネス等の発展に貢献できる人材の養成を目的とした科目を設置している。実務領域には、ビジネス実務の基礎と対人コミュニケーションの技法を身につけた人材の養成を目的とした科目を設置している。生活・健康領域には、ホスピタリティ精神を有し、地域社会やスポーツビジネス等の場で健康水準や生活実感の向上に貢献できる人材の養成を目的とした科目を設置している。先端ビジネス領域には、日々進化するスポーツマネジメントやスポーツビジネスに対する高い感度と情報リテラシーを有し、スポーツ産業の発展に貢献できる人材の養成を目的とする科目を設置している。

また、スポーツマネジメント学科専門教育科目のうち必修科目については、「スポーツビジネス最前線」「スポーツビジネス論」「スポーツマネジメント論」「スポーツマーケティング論」「スポーツマネジメント学内演習」にとどめている。あえて必修科目の数を減らしたのは、スポーツマネジメントやビジネスに関する基礎知識を修得した上で、学生の興味・関心に応じて多彩な科目を履修できるよう配慮しているからである。

◆演習・実習科目

スポーツマネジメント学科専門科目の講義で学んだ知識を、さらに実践知として磨きをかけるためにスポーツマネジメントにかかわる課題発見および解決力を養うよう演習・実習科目を設置している。

「スポーツマネジメント学内演習」では、多様なスポーツマネジメント領域の実践や女性の起業の事例を取り上げ、その特徴や課題に関する議論をとおして、実務領域で活躍できる資質を身につける。さらに、学内の様々な部署とコラボレーションし、スポーツマネジメントの基礎とスポーツビジネスにおける実践を学ぶ。また、「スポーツマネジメント学外実習」では、外部企業や団体と協働し、課題解決型の実習をとおして、スポーツマネジメントの基礎とスポーツビジネスにおける実務や、実践的な企業システムにおけるオペレーションを学ぶ。さらに「女性の起業」についても必要な知識と実践力を身につける。

◆専門英語

スポーツビジネスの海外事情やスポーツビジネス関連英語を履修することで、グローバル化するスポーツビジネスに対応するための基礎的な知識や語学力を習得できるように科目を配置している。

グローバル化するスポーツマネジメント分野において活躍するための高度な語学（英語）力を身につけることが期待される。「専門英語 A」では、スポーツビジネス・スポーツガバナンス・トップスポーツマネジメントを題材に取り上げ、「専門英語 B」では、スポーツファシリティマネジメント・スポーツツーリズム・スポーツイベントを題材にする。

また、「海外のスポーツビジネス研究」は、グローバル化するスポーツビジネスについ

て国際的な理解と感覚を身につける実習であり、米国ワシントン州スポーケン市に位置する本学海外分校を拠点とし、現地の企業や大学および地域の協力を得ながら、英語学習と米国のスポーツビジネスについて学ぶ。

④学部共通専門教育科目

健康・スポーツ科学部はスポーツマネジメント学科の他に、既存学科である健康・スポーツ科学科を有しており、健康・スポーツ科学科と連携・協力し、学部専門教育科目として多数の講義科目やスポーツ実技・実習科目を履修可能である。

健康・スポーツ科学に関わる多様な講義・演習・実技科目群を履修することで、健康・スポーツに関わる実践者・指導者・管理者に必要な基礎理論と技術を習得することができる。

また、資格に関しては、教職課程の他、関連科目の履修を通じて、日本スポーツ協会公認指導者、健康運動指導士、健康運動実践指導者、障がい者スポーツ指導員、スポーツ・レクリエーション指導者等のスポーツ関連資格が取得可能である。

さらに、このような通常学期のカリキュラム以外に、特別学期における学科プログラムにあっては、卒業研究につながる予備的演習、教職や各種資格の試験対策講座を開講する。

5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1) 授業内容に応じた授業の方法、学生数、配当年次の設定について

◆授業の方法

開講する科目は、講義科目、実技科目、演習科目、実習科目に分かれるが、講義科目は入学定員 100 人の中規模開講を基本とし、実技科目は約 40 人、演習科目は約 20 人、実習科目は 10 人程度とし、教育効果を重視した定員規模で運営する。

◆授業への出席確認の励行と定期試験の受験資格確認の実施

本学では開学以来、効果的な学修を達成するための方策として、履修規程で「講義・演習・実験実習及び実技においては、毎回出席、欠席、遅刻、早退の調査を受けなければならない。」と規定し、学生の授業への出席を義務付け、全ての授業において出席確認を励行している。なお学生が、公的理由により授業を欠席する場合は、学生本人からの届出と担任の承認による「公欠制度」によって、該当する授業については出席扱いとする。

また前期・後期の定期試験を受けるための受験資格についても、履修規程で「週 1 回各期開講科目では、その欠席回数が 4 回以下の者のみ受験資格を与える。」と規定しており、受講（履修）科目で 4 回を超える欠席があった者は、当該科目の試験は自動的に受けられなくなるなど、日々の勉学の重要性を徹底させる。

◆履修指導方法

入学時には、学科の専任教員からなる教務委員らが中心となって、オリエンテーションを

実施し、履修指導を行う。また学年毎のガイダンス（4月と9月）を実施するほか、1・2年次にはクラス担任を、3・4年次には学年担任ならびにゼミ担当者を配置し、日々の個別指導や助言を行うとともに、事務局関連部局とも密接な連携を図って、無理なく卒業できるように配慮する。

特に、基礎教育科目の初期演習Ⅰ・Ⅱ（1年時前・後期開講 必修2単位）はクラス担任が受け持ち、履修指導・生活指導とあわせて、専門教育科目への導入のための基礎段階の演習を行う。

学生には、5つの専門領域を中心に構成した学科専門教育科目を、「スポーツマネジメント分野科目」「スポーツビジネス分野科目」「スポーツマーケティング分野科目」「分野共通科目」に整理・明示し、履修方法を具体化した履修モデル①「スポーツビジネス関連企業で活躍する人材育成モデル」、②「スポーツプロモーションに携わる人材育成モデル」、③「人々のヘルスプロモーションに携わる人材育成モデル」、④「スポーツの指導・教育に携わる人材育成モデル」を紹介することで、その後の専門教育科目の履修へ容易に移行できるようにしている。

また、学部共通専門教育科目を選択履修することによって、健康・スポーツ科学の基礎を学ぶ上で重要となる科目を数多く含む健康・スポーツ系指導者資格の取得も可能であることを履修モデルにより周知させる。

【資料3：履修モデル】

共通教育科目については、幅広い教養を身につけるため、1年次だけに限らず4年次に至るまで履修するよう促す。そのため、共通教育科目が開講される月曜日の1～4限目及び水曜日の4限目には、基礎教育科目及び専門教育科目を配当しないように配慮する。

（2）卒業要件

卒業の要件は、共通教育科目、基礎教育科目及び専門教育科目から、それぞれ所要の単数を修得し、その合計が124単位以上でなければならない。

共通教育科目	8単位以上	（選択科目から8単位以上）
基礎教育科目	12単位以上	（必修科目12単位）
専門教育科目	62単位以上	（必修科目18単位、選択必修科目5単位以上、 選択科目39単位以上）

卒業必要単位数 124単位以上

（3）履修科目の年間登録上限

学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修し、予習復習の時間等を十分とるために妥当な単位として、本学科各学年の履修登録上限単位数は、全学的なルールに従い、年間50単位未満（前期25単位以下、後期25単位以下）とする。

なお教育実習を履修する学生に対しては、実習までに履修すべき科目及び単位に履修要

件を別途設定し、現場実習へ参加する学生の質を確保するための措置をとる。

6. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修

させる場合の具体的計画

(1) 学則における規定

学則第28条の2では「文部科学大臣が別に定めるところにより、前項に規定する講義、演習、実験、実習及び実技による授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。」と規定されており、昨今のコロナ禍にあって対面授業とメディアを利用した遠隔授業を併用して教育効果を高めている。社会情報学部的基础教育科目及び専門教育科目における指導は、本学設備を使用する研究や教育目的に基づく直接的な指導を重視する立場から、対面を原則としている。その上で、共通教育科目ではウィズコロナの時代に対応した授業運営方法として、一部科目では多様なメディアを高度に利用した授業を実施する。

(2) 実施方法

本学ではコロナ禍以前から遠隔授業を可能とする体制や設備の整備を進めている。学内教室、研究室でのWi-Fi環境の充実により、授業の配信と学生の受講環境に問題はない。ソフト面では、平成28年からGoogle社の提供するクラウド型アプリケーション「Google Apps for Education」を全学に導入しており、同アプリ内のClassroom機能を用いた授業課題提供、動画を配信、学生からの質問対応など、双方向コミュニケーションが可能となっている。本学部では、共通教育科目「データリテラシー・AIの基礎」をe-Learning教材を活用したオンデマンド授業として開講する。オンライン上で学習し、Classroomなど電子的手段によりフィードバックする。担当教員のほか、データサイエンス学習支援ルームがサポートにあたる。

その他、ZoomやGoogle Meetといったテレビ会議システムを用いた遠隔指導やディスカッションを導入しており遠隔であっても対面授業と同程度の教育効果を得られる環境を整備している。当該システムの利用は文部科学省告示の要件を満たす「同時かつ双方向」の遠隔授業を実現し、また柔軟で密度の濃い指導が実行できることから、対面授業と同等の質の高い指導ができることが見込まれる。

7. 実習の具体的計画

中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育科）を取得するための教育実習を以下のよう

に計画している。

ア 実習の目的

実習校において生徒との接触を通じ、教員たるに必要な基盤—知識・技術・意欲・態度を修得することにある。

イ 実習先の確保の状況

本学部の教育実習では、地元の西宮市教育委員会及び近隣自治体（芦屋市教育委員会、兵庫県教育委員会）の公立学校、本学の附属中学校及び高等学校の協力を得て実習を行う。

実習先の配当については、学校園の規模や学生の通勤時間等を配慮し、学校教育センターが実習先・人数等を決定する。

【資料4：教育実習受入承諾書】

ウ 実習先との契約内容

教育委員会や学校長会（場合によっては、直接実習学校）を通じ、実習生の受入人数、実習期間を明記した依頼状及び必要な検査等に関する調査票を送付する。実習学校が承諾書を返送した時点で実習受入の契約が成立する。なお実習依頼時に実習学校からの要望に応じて、個人情報保護、サービス規程の遵守等契約の遵守等に関する取り決め（学生と実習施設）を規定した契約書を取り交わす。

エ 実習水準の確保の方策

教育実習科目の履修条件として、①事前指導の科目及び必修の保健体育科指導法6単位を修得済みであること、②①を含めて3年次末までに修得総単位が75単位以上であること、③事前ガイダンスに出席していることの3点が大前提になるほか、各コースでの履修要件を満たした者に対して、「学校教育センター」で組織する常任委員会及び同委員会が科目履修の可否の判定を行い、その結果を通知する。

なお教育実習の実習期間・総時間数は、中学校又は高等学校で3週間・120時間である。

オ 実習先との連携体制

学科長をはじめ、本学部の専任教員や学校教育センター常任委員会が中心となって都道府県・市町村教育委員会等との連絡調整機能を果たし、教育実習のあり方や実習施設の状況について共有できるようにしている。

【資料5：教育実習ハンドブック（中学校・高等学校実習用）】

カ 実習前の準備の状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

学校保健安全施行規則に規定する学校伝染病の予防対策に努めている。

本学では、入学時に麻疹・風疹の罹患歴及び予防接種状況について調査しており、罹患歴又は要望摂取を受けていない学生に対しては、ワクチン接種を受けておくよう指導し、実習先の求めに応じて、大学から特定の感染症の抗体検査及びワクチン接種等も指示している。

さらに、各学年の初めに本学にて実施する「定期健康診断」において、胸部エックス線撮影、内科健診、身体測定、視力検査、尿検査を行う。異常がある場合は、再検査等を勧めている。教育実習前には、各学校の指示に従って検便（検査項目はサルモネラ、O-157等）を行う。

また、本学学生（実習生）は、大学として団体に賠償責任保険（対人対物）に加入している。学生本人が事故により、負傷した場合は、本学の「学生障害見舞金制度」による見舞金が支払われる場合がある。

キ 事前・事後における指導計画

事前指導は3年次の後期に16時間、事前事後指導は4年次の前・後期に16時間実施する。

実習の事前指導の内容は、教育実習の目的と意義を理解し、実習で行う上で必要となる基礎的・予備的な知識や技能の習得をめざすとともに、発表やグループディスカッション、模擬授業、ロールプレイなど具体的な活動を通して実践的指導力の基礎を養う。事後については、実習の振り返りを行いつつ、教職への認識を確かなものとする指導を行う。

ク 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

科目担当教員が指導にあたることとし、実習学校ごとに巡回指導教員を配置し、必要に応じて実習期間中に実習施設に派遣する。その際、授業参観と学生への面談を通しての指導、実習指導者との情報共有を図る。また実習期間中、学生からの質問や相談に対しても随時受け付け、科目担当教員や「学校教育センター」のメンバーが指導助言する。

ケ 実習施設における指導者の配置計画

実習学校での教育実習指導者については、指導力に長けた教員の配置を教育委員会や学校長に依頼する。

コ 成績評価体制及び単位認定方法

成績は、実習先の学校長と指導教員から提出される評価50点（10項目5段階）と実習記録をもとに科目担当教員が評価する50点の合計100満点で構成され、これらを科目担当教員が総合的に評価する。単位は、100点満点の60点以上をもって認定する。

【資料6：教育実習成績通知票】

8. 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

●スポーツマネジメント学外実習

この実習は、課題解決型のインターンシップを通して、スポーツマネジメントの最前線を体験するとともに、対人コミュニケーションなど実社会に必要なスキルと行動力を身につけることを目的して3年次後期に開講される。ここでいう課題解決型のインターンシップとは、インターン先の経営課題の解決策の企画・提案に重点を置いたインターンシップであって、就業体験型のインターンシップとは異なる特徴がある。

具体的には、プロスポーツチームやダンス教室を運営する民間企業等から経営課題を提示してもらい、学生グループが現場視察や経営者インタビュー、市場調査等を経て課題の解決策について企画プレゼンを行い、プロスポーツチームや企業から評価を受ける。こうした課題解決型インターンシップを通して、マーケティングやプロジェクトマネジメント等、スポーツマネジメントに必要なスキルを習得することが期待される。

ア. 実習先確保の状況

4つの実習先のべ80人の実習受け入れ先を確保している。

【資料7：スポーツマネジメント学外実習施設一覧】

イ. 実習先との連携体制

事前指導から実習終了まで、本学専任教員と実習先担当者間で、随時連絡・協議を行う。

ウ. 成績評価体制及び単位認定方法

学生の活動報告書と実習先の評価報告書にもとづいて成績評価及び単位認定を行う。評価方法については、企画プレゼンの内容のみならず、経営課題解決に向けた能動性等の評価項目を設け、インターン先と担当教員が連携して行う。

エ. その他特記事項

特になし。

●海外のスポーツビジネス研究

グローバル化するスポーツビジネスについて国際的な理解と感覚を身につける実習であり、米国ワシントン州スポーケン市に位置する本学海外分校を拠点とし、現地の大学や地域の協力を得ながら、英語学習およびグローバルな米国のスポーツビジネスについて学ぶ。具体的には以下の通りである。

・本学海外分校において語学研修を行い、スポーツビジネス先進国である米国の歴史と現状について学ぶ。

・海外分校を拠点としたスポーツイベントの企画と運営を通じて近隣の大学や地域社会と交流を深める。

・カリフォルニア研修を行い、メジャーリーグのスタジアム見学や球団広報担当者との質疑応答・意見交換を行う。

・カリフォルニア研修ではさらに、スポーツトレーニング施設や大学の教授から、最先端のスポーツマネジメントの講義を受ける。

以上の研修を通じて、スポーツマネジメントに関わるグローバル人材としての知識とセンスを身につけることが期待される。

ア. 実習先確保の状況

実習施設名：武庫川女子大学アメリカ分校

(4000 W.Randolph Rd. Spokane, WA 99224-5279 U.S.A.)

受入れ人数：15名程度

受入れ期間：夏季休暇期間（予定）

イ. 実習先との連携体制

米国研修には担当教員が帯同し、実習先と協議しながら生活指導や授業支援等を行う。

ウ. 成績評価体制及び単位認定方法

米国研修には担当教員が帯同し、授業評価を行う。渡米前には事前指導を行い、帰国後は振り返りのプレゼン授業を実施する。一連の研修を経て単位認定を行う。

エ. その他特記事項

特になし。

9. 取得可能な資格

本学科において取得可能な資格等は、次の通りである。

資格名	種別 所管	資格取得・ 受験資格の別	卒業要件と のかかわり	追加科目履 修の必要性
中学校教諭一種免許状 (保健体育科)	国家資格 文部科学省	資格取得	なし	あり
高等学校教諭一種免許状 (保健体育科)	国家資格 文部科学省	資格取得	なし	あり
障がい者スポーツ指導員 (初級・中級)	民間資格 (公財)日本障がい 者スポーツ協会	資格取得	なし	なし
レクリエーション・イン ストラクター	民間資格 (公財)日本レクリ エーション協会	資格取得	なし	なし
スポーツ・レクリエーシ ョン指導者			なし	なし
健康運動実践指導者	民間資格 (公財)健康・体力 づくり事業財団	受験資格取得	なし	なし
健康運動指導士			なし	なし

日本スポーツ協会公認 スポーツ指導者 共通科目Ⅰ・Ⅱ	民間資格 (公財)日本スポーツ協会	資格取得	なし	なし
日本スポーツ協会公認 コーチングアシスタント			なし	なし
日本スポーツ協会公認 アシスタントマネジャー			なし	なし
スポーツ施設管理士	民間資格 (公財)日本スポーツ施設協会	受験資格取得	なし	なし
スポーツイベント検定	民間検定 (一社)日本イベント産業振興協会	受験資格取得	なし	なし

10. 入学者選抜の概要

(1) 学生受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、教育目標の実現に向けて、各学部・学科ごとに、入学者に求める能力、入学者の受け入れ方法を以下のとおりとする。

【健康・スポーツ科学部のアドミッション・ポリシー】

本学部は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ各学科の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な知識や技能、意欲を備えた女性を求める。

【スポーツマネジメント学科のアドミッション・ポリシー】

本学科は、「Sports for All の時代をリードできる人」を養成するという教育目的を持っている。したがって、健康・スポーツを科学的・専門的に学ぼうとする強い意欲を持ち、次のような現場において活躍・貢献しようとする学生の入学を求める。

- ①スポーツ関連の企業や団体、スポーツイベントの企画・運営などのスポーツマネジメント分野で活躍しようとする者
- ②地方自治体や企業・民間のスポーツ施設における施設・プログラム管理現場、医療・福祉施設・幼児施設等における運動・フィットネス指導現場において、スポーツ・運動・身体活動を通じた健康支援に貢献しようとする者
- ③教育および生涯学習における運動指導現場において、健康・スポーツ教育の充実に貢献しようとする者

④競技スポーツにおけるジュニア期以降のスポーツ指導・サポート現場において、優れたコーチングとトレーニング指導によって競技力向上に貢献しようとする者
〈入学時まで身に付けてほしい学力・能力〉

本学科は、健康で豊かな社会の構築に関わる幅広い経営管理者・指導者養成のため、スポーツマネジメントを科学的・専門的に探求する多様な学修を展開している。そこで主体的な勉学の習慣に加えて、大学入学時まで、次のような学力や能力、スポーツの実践力を研ぎ、入学後の学修に臨むことを求める。

1) 知識・技能および思考力・判断力・表現力

①国語や英語などで学ぶ読解力・構成力・論理的表現力と、そこから得られるコミュニケーション力

②地理歴史や公民などで学ぶ基礎的な知識と、そこから得られる社会を読み解く力

③数学や理科などで学ぶ基礎的な知識と、そこから得られる論理的・科学的な思考力

2) 主体性を持って多様な人々と協働する力

①集団活動における主体性、コミュニケーション力、リーダーシップ、高い倫理観

3) 体育やスポーツ分野における実践力

①各種スポーツの技術・技能、スポーツの実践力とそれに係る体力、スポーツ実践の経験知

(2) 選抜方法

入学者選抜は、文部科学省通知「大学入学者選抜実施要項」に基づき、本学が定める入学者選抜試験により実施する。健康・スポーツ科学部においては、受験生の多様な資質やニーズに答えるため、附属高校から受け入れるほか、スポーツ推薦入試、指定校推薦入試、公募制推薦入試（前期及び後期）、一般選抜A～D及び社会人特別選抜入試にわたる幅広い入試制度を用意し、志願者には複数回の受験機会を設けている。

スポーツマネジメント学科においても上記入試方法を変更することなく、有能な人材を積極的に確保していく。

出願方法は、インターネットによる出願方式を採用し、複数回の受験機会をまとめて出願する場合は入学検定料の併願割引制度などの利便性を図るとともに、一般選抜D（大学入学共通テスト利用型）において、入学試験成績優秀者には奨学金（年間授業料の半額～最大50万円）を給付する。

第1期生（令和5年度）受入れのための実施案は以下のとおりである。

1. 附属高校内部進学

選考方法：学校長の推薦（生徒の平常成績等を総合的に判断して推薦）、書類審査
募集人数：5人、試験実施：1月中旬、合格発表：2月上旬

2. スポーツ推薦入試

試験科目：学校長の推薦、書類審査、口頭試問

募集人数：10人、試験実施：10月下旬、合格発表：11月下旬

3. 指定校推薦入試

試験科目：学校長の推薦、書類審査、口頭試問

募集人数：8人、試験実施：11月下旬、合格発表：12月上旬

4. 公募制推薦入試（前期）

・スタンダード型

試験科目：【必須】基礎運動能力テスト 【選択】国語(1)・英語・[数学(1)または数学(2)]・化学・生物から1科目

募集人数：18人、試験実施：11月上旬、合格発表：11月下旬

・高得点科目重視型

試験科目：【必須】基礎運動能力テスト 【選択】国語(1)・英語・[数学(1)または数学(2)]・化学・生物から1科目

募集人数：12人、試験実施：11月上旬、合格発表：11月下旬

5. 公募制推薦入試（後期）

・スタンダード型

試験科目：【選択】国語(1)・英語・[数学(1)または数学(2)]・化学・生物から2科目

募集人数：6人、試験実施：11月下旬、合格発表：12月上旬

・高得点重視型

試験科目：【選択】国語(1)・英語・[数学(1)または数学(2)]・化学・生物から2科目

募集人数：4人、試験実施：11月下旬、合格発表：12月上旬

6. 一般選抜A（前期）

・3科目型（同一配点方式）

試験科目：【必須】英語 【選択】[国語(1)または国語(2)]・[数学(1)または数学(2)]・世界史・日本史・化学・生物から2科目

募集人数：10人、試験実施：1月下旬、合格発表：2月上旬

・3科目型（傾斜配点方式）

試験科目：【必須】英語 【選択】[国語(1)または国語(2)]・[数学(1)または数学(2)]・世界史・日本史・化学・生物から2科目

募集人数：8人、試験実施：1月下旬、合格発表：2月上旬

・2科目型

試験科目：【選択】[国語(1)または国語(2)]・英語・[数学(1)または数学(2)]・世界史・日本史・化学・生物から2科目

募集人数：5人、試験実施：1月下旬、合格発表：2月上旬

7. 一般選抜B（中期）

- ・スタンダード型

試験科目：【選択】[国語(1)または国語(2)]・英語・[数学(1)または数学(2)]・
世界史・日本史・化学・生物から2科目

募集人数：5人、試験実施：2月上旬、合格発表：2月下旬

- ・高得点重視型

試験科目：【選択】[国語(1)または国語(2)]・英語・[数学(1)または数学(2)]・
世界史・日本史・化学・生物から2科目

募集人数：3人、試験実施：2月上旬、合格発表：2月下旬

8. 一般選抜C（後期）

- ・2科目型

試験科目：【選択】国語(1)・英語・数学(2)・[化学または生物]から2科目

募集人数：3人、試験実施：3月上旬、合格発表：3月中旬

9. 一般選抜D（大学入学共通テスト利用型）

- ・3教科型

試験科目：【選択】大学入学共通テストの得点上位3科目

募集人数：3人、試験実施：1月中旬、合格発表：2月中旬

10. 社会人特別選抜入試

試験科目：小論文、口頭試問、書類審査、【選択】国語・英語・数学から1科目

募集人数：若干名、試験実施：11月上旬、合格発表：11月下旬

（3）合格者決定手続き

合格者の決定は、「入学者選抜規程」に基づき、各入学者選抜試験終了後に開催するアドミッション協議会（判定会議）を実施し、学部教授会を経て学長が行う。

11. 教員組織の編制の考え方及び特色

（1）教員配置の考え方

教員組織については、設置の趣旨、教育課程の教育内容・方法を円滑かつ効果的に実施するために相応しい数と質の教員を配置する。スポーツマネジメント学科の専任教員は、教授6人・准教授2人・講師2人、計10人である。その内、博士号取得者は経営学で2人、保健学で1人、スポーツ健康科学で1人、体育学で1人、人間科学で1人であり、修士号取得者は体育学で3人、教育学で1人である。なお、教員組織を更に発展させ、大学研究機関としての機能をより強固にしていくため、学科開設後の教員の研究活動及び学位取得についても積極的な支援を行っていく方針である。

教員の配置については、学科の中核であるマネジメント学科専門科目のほぼ全ての授業科目に専任の教授もしくは准教授を配置している。また、既存学科である健康・スポーツ科学科と連携・協力して、スポーツに関わる多数の講義科目や実習・演習科目を学部共通専門教育科目として設置しているが、ほぼ全ての授業科目において専任教員を配置している。

(2) 中心となる研究分野、研究体制

多様化、複雑化するスポーツマネジメントは、学校運動部活動や地域におけるスポーツ推進をめぐる非営利領域のマネジメント問題から、スポーツ産業などのビジネス領域のマネジメント問題まで幅広い領域に関わる課題解決を志向した営みとしてその重要性が認識されてきた。そして、スポーツマネジメント研究においては、学校体育や生涯スポーツ、競技スポーツの推進と高度化をめぐるマネジメント領域は引き続き重要な研究分野として位置づけられるとともに、近年ではスポーツと経済との結びつきをめぐる関心が高まりを背景にプロスポーツやリーグマネジメント、スポーツ用品産業や情報産業などのスポーツ関連産業におけるマネジメント問題も研究分野として注目されている。

このような幅広いマネジメント領域の研究では、体育学・スポーツ科学の中でも「スポーツ経営学」からの接近が試みられてきた。さらに、日本や欧米で設立されたスポーツマネジメント関連学会の学術誌では、「スポーツマネジメント論」「スポーツマーケティング論」「スポーツビジネス論」などを研究方法の基礎とした論文が多くみられるようになってきている。スポーツマネジメントは多様な分野を研究対象とするため、極めて学際的な性格を持つ研究領域である。とりわけ近年増加してきたスポーツ関連産業をめぐるマネジメント研究では、スポーツ科学からのアプローチだけでなく一般経営学や社会心理学など隣接科学の知見の援用が求められている。新設されるスポーツマネジメント学科には、スポーツマネジメント学を専門とする教員のみならず、マネジメント学を学ぶにおいて欠かせない経営学を専門とする教員も適切に配置され、学際的かつ専門的な研究体制を整備している。また、既存の健康・スポーツ科学科との連携も維持されるため、体育学・スポーツ科学内での学際性も担保される研究体制となっている。

(3) 年齢構成

スポーツマネジメント学科における学科専門教育科目は、マネジメントの土台となる基礎知識の修得を目的とした学科基礎教育に加え、マネジメント領域、マーケティング領域、実務領域、生活・健康領域、先端ビジネス領域の5つの専門領域に大別され、高度化、多様化したスポーツマネジメント領域に精通した専門家を配置している。このように幅広い分野に亘って専任教員を配置し、学生一人一人の興味・関心を十分に引き出せる体制を整えている点は本学における教員組織の特色の一つと言える。また、既存学科である健康・スポーツ科学科と連携・協力して、スポーツに関わる多数の講義科目や実習・演習科目を学部専門教育科目として設置しているが、ここにも健康・スポーツ科学やスポーツ実技指導に精通し

た専任教員を多く配置しており、スポーツをマネジメントしていく上で不可欠で関連の深い分野の学びが可能になっている点も特色である。

専任教員の年齢構成は、完成年度末時点で30歳代が2人、40歳代が2人、50歳代が2人、60歳代が3人、70歳代が1人である。充実した教育を行うには実績と経験の豊富な教員が必要不可欠であり、長期に亘って研究成果を蓄積し教育へと還元していくには、若く優秀な教員も必要である。更にその両方をバランスよく兼ね備えた中間層の教員が支柱となっていくことで、高等教育・研究機関としての役割が十分に発揮される。したがって、本学科における専任教員の年齢構成は、教育研究の水準維持向上及び活性化が促進されるものである。なお、教員の定年については武庫川学院職員就業規則第17第1項第1号において満66歳に達した年度末をもって定年退職となることが定められており、完成年度には本学科専任教員10人中2人が定年年齢を超える。ただし、同第4項において必要があると認めるときは定年を延長することが可能とされており、該当する2人については、この規定を適用して完成年度末までの定年延長・雇用継続することが令和4年2月の理事会において承認されている。定年を迎える2人については、定年後も引続き、教育・研究面に加え「学科長」「幹事教授」として学科運営の責任者となることが決定していることから完成年度まで本教員組織は維持され、教育・研究等に支障が生じることはない。

【資料8：定年に関する規定】

また、完成年度後の教員人事計画に関しては、定年規程を適切に運用するとともに、スポーツマネジメント学科における教育・研究の水準を維持するため、当該教員が担当する科目で欠員が生じた場合には、相応しい教育・研究能力を有する人材を以下のように補充する。

①学科内の既存の教員が職位昇進の場合は、その教員を後継者にあてるとともに、新たに若手教員を採用し将来の後継者候補とする。また、学科内の既存の教員が将来の後継者となるよう研究業績の蓄積を支援する。

②学科内に既存の教員に該当者がいない場合は、その後継者となる若手教員を採用し、その補充を行う。

上述のような人事計画のもとで、十分な教育・研究体制を常時維持できるよう計画している。

12. 施設、設備等の整備計画

本学では開学以来、教育研究環境の整備・充実には不断の努力を傾けており、学内には全学部学科の学生が使用する中央図書館や講堂、体育館、マルチメディア館など最新の設備を備えた大型施設があり、様々な分野の学びに対応した環境が整っている。近年においては、アクティブ・ラーニングに対応した図書館や各教室のリニューアル、スマートキャンパスを目指した学内Wi-Fi環境整備、学生の安全安心のための各建物の耐震工事、学生満足度向上のためのキャリアセンター移転・機能拡充、食堂改装など大規模な施設・設備改修を行っ

ている。

本学の教育研究環境の整備に関する方針を以下のとおり定め、ホームページで公表し、周知している

1. 施設・設備の整備

学生及び教職員等、全ての大学施設利用者が快適かつ安全で安心して教育研究等に取り組める環境の構築に配慮した施設・設備の整備を図る。

2. 教員の教育・研究等環境の整備

教員が教育・研究を行うのに適した研究室の整備や、研究時間及び研究費の確保に努めるとともに、各種競争的研究資金獲得支援、研究助成・奨励金制度の拡充に努める。

3. 情報環境の整備

ネットワーク環境や情報通信技術(ICT)機器を十分に整備・管理し、その活用の促進を図る。教育・研究のために、信頼性の高い安全で快適な学内ネットワークの整備を推進する。

4. 図書館、学術情報サービスの整備

教育・研究に必要な専門書、学術雑誌等の図書資料を広範囲に取りそろえるとともに、十分な座席数と開館時間を確保する。

(1)校地、運動場の整備計画

令和5年度の学部等設置により、設置基準上必要となる校地・校舎面積（本学及びキャンパスを共用している併設の武庫川女子大学短期大学部の合計）は、校地 112,400 m²に増加することになるが、開設時の面積は校地 237,032.44 m²と、設置基準の2倍を上回る十分な面積を有している。近年は、令和元年10月には中央キャンパス最寄りの阪神電車「鳴尾・武庫川女子大前」駅の高架下空間に「武庫女ステーションキャンパス」を開設、さらに令和4年4月には西宮市内に「西宮北口キャンパス」を開設するなど、大学の定員規模拡大にあわせて校地拡充にも力を入れている。

本申請に係る学部学科を置く「中央キャンパス」（兵庫県西宮市池開町）は、校地約 116,303.16 m²、校舎 129,770.60 m²と、大学と併設短期大学部あわせて約1万人の学生が学ぶ大学のメインキャンパスに相応しい規模である。中央キャンパスには、大学設置基準第34条に定められる「学生が休息その他に利用するのに適当な空地」として、噴水、35周年記念庭園、もみの木広場が整備されている。また、その周辺には各種のオブジェ、植樹、休憩用ベンチ等も配置され、学生の憩いの場となっている。大学設置基準第35条に定められる運動場についても、中央キャンパス隣接のグラウンド、テニスコート、浜甲子園キャンパス隣接の浜甲子園グラウンド、中央キャンパスからスクールバスで南に約10分の場所にある総合スタジアムがあり、運動場の面積は合計9万m²を超える十分な面積を有している。

(2)校舎等施設の整備計画

スポーツマネジメント学科（収容定員 400 人）を新設することにより、健康・スポーツ科学部全体の収容定員が増加するが、併設する武庫川女子大学短期大学の健康・スポーツ学科（収容定員 160 人）も同時に学生募集を停止し、施設等はすべて健康・スポーツ科学部に移管するため不足が生じることはない。講義・演習科目は、中央図書館、文学 1 号館、南館及び日下記念マルチメディア館において実施し、体育実技・実習科目は第 1～3 体育館において実施する。第 1 体育館には、アリーナ（バスケットボール、バレーボールの各コート）、ダンス室、体育室、コンディショニングルーム、情報処理室、運動生理学実験室、更衣室、シャワールーム、温水プール（25m×6 コース）等が、第 1 体育館アネックスには、心理学実験室、バイオメカニクス実験室、セミナー室、教員研究室等が、第 2 体育館には、ランニングコート、アリーナ、体育室、トレーニング室等が、第 3 体育館には、ハンドボールコートが完備しており、体育系学部として充実した教育環境を整えていることから、健康・スポーツ科学科をはじめとする他学部等に与える影響も少ない。

【資料 9：時間割】

(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

① 図書館の概要及び整備計画

本学附属図書館は、中央キャンパスの「中央図書館」、上甲子園キャンパスの「甲子園会館分室」、浜甲子園キャンパスの「薬学分館」から構成されており、中央図書館が管理・運営の中心となって連携し、図書館システムを活用して図書資料の相互貸借業務を行っており、各キャンパスの図書資料を利用できる。中央キャンパスの中央図書館は平成 25 年に大幅にリニューアルした。授業開講期は毎日 8 時 30 分から 21 時 30 分まで開館しており、館内にはアクティブ・ラーニングや実習・演習に役立つラーニング・コモンズの設置、インターネット Wi-Fi 環境、マルチスクリーン、音響設備、貸出用ノートパソコン、TV 会議システム等、多彩なメディアが利用できる環境を整備し、学生の学習活動のサポート及び教員の教育・研究活動の支援を行っている。

新たにスポーツマネジメント学科において整備すべき図書、学術雑誌、電子媒体資料は、学科に配分される図書予算により、学科図書委員を通じて学科教授会の審議を経たうえで、専門性を考慮しつつ適宜収集していく計画である。なかでも学術雑誌については、スポーツマネジメント、スポーツビジネス関係の和雑誌 35 種、洋雑誌 24 種を基礎から応用に向けて、学科完成年度までに段階的に所蔵していく予定である。主なタイトルとしては、基礎編では「みんなのスポーツ」「Sport Japan」「Fitness Business」「DAIAMOND ハーバードビジネスレビュー（日本版）」「MIT テクノロジーレビュー」など、応用編では、「体育・スポーツ経営学研究」「スポーツマネジメント研究」「スポーツ産業学研究」「Journal of Sport Management」「一橋ビジネスレビュー」「HARVARD BUSINESS REVIEW」「Journal of Marketing」「Journal of Consumer Research」などが挙げられる。

【資料 10：図書整備計画】

②データベース、電子ジャーナル等の整備

データベースは、国立情報学研究所等が作成する文献検索データベースのほか、「JDream III」「医中誌 Web」「化学書資料館」「Academic Search Premier」「Web of Science」といった専門データベースを完備している。新聞についても「聞蔵II ビジュアル」「日経テレコン」「毎索」「ヨミダス歴史館」「Global Newsstream」等、国内外の各紙電子版を購入し、文献検索ツールのリンクリゾルバ「SFX」も導入している。これらの各種有料データベース・電子ジャーナルは VPN 接続での環境を構築し、学外からでも利用できるようにしている。

③閲覧室等について

大学全体で図書館の閲覧座席数は 1,716 席ある。本学で所蔵していない資料については、24 時間いつでもウェブ上で文献複写と貸借の申込みができる。ほかにも「E-CatsLibrary」の「マイライブラリ」機能では、直接利用者が貸出・予約状況の確認と延長処理ができ、自身の研究・学習分野に関係のあるインターネット・サイトを集めたオリジナルリンク集の作成や、研究分野に応じた電子ジャーナルリンク集の作成、SDI (Selective Dissemination Information) サービスの登録・確認、複数のデータベースを利用した横断検索ができるようになっている。仮に開館時間内に来館することが難しい状況であっても、ウェブ・ベースの利点を活かして通常と変わらぬ学習環境を提供している。

④他大学の図書館等との協力について

国公私立の大学図書館協会、兵庫県下の大学図書館協議会はもとより、国立国会図書館、各公共図書館等あらゆる関係諸機関との連携強化を図り、相互利用サービスを推進している。これらは国立情報学研究所の ILL システムに参加することによって料金の支払いが簡便になり、図書の貸借、文献複写の相互協力業務の効率化を図っている。

13. 管理運営

(1) 教授会

本学では、学部ごとに「学部教授会」(以下、教授会という)を置いており、スポーツマネジメント学科における学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項、学位の授与に関する事項、その他の教育研究に関する重要な事項は、教授会において審議し、決定者である学長に意見を述べるものとする。

学則及び武庫川女子大学学部教授会規程に定める審議事項、構成員、役割は以下のとおり。なお、学部教授会の議事概要については大学ホームページに掲載し、情報公表にも配慮している。

(役割)

平成 27 年 4 月 1 日改正の学校教育法第 93 条で、教授会の役割について明確されたことを受け、本学においても学則、学部教授会規程を改正し、「学長が教育研究に関する重要な事項について決定を行うに当たり意見を述べる」「学長及び学部長等がつかさ

どる教育研究に関する事項について審議し、及び学長及び学部長等の求めに応じ、意見を述べることができる」機関であることを明確にしており、適切に運用している。

(構成員)

当該学部の専任教授をもって構成する。ただし、学部長が必要と認めたときは、専任の准教授、講師及び助教を加えることができる。

(開催頻度)

月1回程度の頻度で開催し、学部長が議長にあたる。

(審議事項)

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
 - (2) 学位の授与に関する事項
 - (3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
- 2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べるができる。

(2) 関連する委員会等

○大学評議会

学部教授会や共通教育部教授会の上位機関として、大学全体の重要事項を審議する「大学評議会」を設置している。学則 52、53、54 条及び武庫川女子大学評議会規程を根拠とし、学長、副学長、各学部長、共通教育部長、各学科長、教育研究所長、附属図書館長、その他学長が必要と認めた者によって構成され、毎月1回 学長が議長となって、以下の事項を審議している。本学部設置後は、本学部より学部長、学科長が大学評議会評議員として出席する。

評議会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当り意見を述べるものとする。

- (1) 学則に基づく規程の制定改廃に関する事項
- (2) 学務に関する事項
- (3) 学生の入学及び卒業の基準に関する事項
- (4) 教育、研究に関する全般的事項
- (5) その他学長が評議会の意見を聴くことが必要と定める事項

○人事委員会

教員人事に関しては、理事会の諮問に応じるため、武庫川女子大学人事委員会規程を根拠に、学院長、学長、副学長及び全学部の専任教授によって構成される「人事委員会」を置き、教授・准教授・講師・助教及び助手の任用並びに昇格等に関する事項を審議している。

○教学局各種委員会

教学上の各種ニーズに対応する組織として「教学局」を設けている。教学局には、教務部、入試センター、学生部、学生相談センター、キャリアセンター、学校教育センター、国際センター、外国語教育推進室、研究開発支援室及び教育研究社会連携推進室で組織される。各部署には、専任教員の中から学長によって任命される部長職、次長職及び常任委員と事務職の管理職で構成される常任委員会を設置している。常任委員会では、議案の事前協議、自部署の運営方針の企画立案及び業務計画に関すること等を審議。常任委員会で検討された事項が、それぞれの委員会に提案されるシステムとなっている。これらの委員会には、各学部・学科から推薦された専任教員が委員として参加し、それぞれ当該部署の課題について、各学部・学科の意見を参考にしながら、全学的な視点で審議している。審議結果は、委員がそれぞれの所属学科に持ち帰り、学科会議に提案・報告され、所属の全専任教員に周知して、全学的な調整を図っている。

この教学局には、教学局長を置き、定例で毎月1回、教学局全体の問題や教学局各部署の業務と各部署の連携を密にするために、教学局会議を開催している。

14. 自己点検・評価

(1) 実施方法

本学では、学則第4条において、その教育研究水準の向上を図り、大学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、教育研究の改善に努めると規定している。

実施の方法としては、公益財団法人大学基準協会が示す10の大学基準の項目①理念・目的、②内部質保証、③教育研究組織、④教育課程・学習成果、⑤学生の受け入れ、⑥教員・教員組織、⑦学生支援、⑧教育研究等環境、⑨社会連携・社会貢献、⑩大学運営・財務に沿って各部署で点検・評価活動を実施している。その一環として全卒業生を対象とした卒業時アンケートを全学で実施しており、「教育活動に対する満足度」「在学中の学びを通じた知識・能力の修得状況」「立学の精神や3つのポリシーの浸透度」「学位授与方針等の達成状況」を調査している。アンケート結果は、教育の改善や質向上の推進、及び、学修成果の測定のための参考資料として活用しており、経年比較により本学の長所やさらなる向上が必要だと考えられる項目を明らかにしている。

(2) 実施体制

学長を委員長とする自己評価委員会を置き、自己点検・評価の基本方針、実施組織及び体制、自己点検・評価報告書の作成、自己点検・評価結果に基づく改善・改革の取り組みに関する事項、自己点検・評価結果の公表に関する事項などについて審議している。また、各学部に自己点検・評価を実施するために「学部自己評価委員会」を置き、各自己評価委員会は、毎年度末に、活動状況等を取りまとめて自己評価委員会に報告することとしている。本学部

設置後は、学部長を委員長とする「社会情報学部自己評価委員会」において組織的な自己点検・評価を行っていく。

(3) 結果の活用・公表及び評価項目等

各学部自己評価委員会での点検・評価結果や卒業時アンケート結果及び認証評価において指摘のあった事項については、自己評価委員会において検討がなされ、各部局に改善・改革の取り組みに役立てられる。なお、これまでの点検・評価報告書、認証評価機関からの評価結果、評価における助言等に対する改善・改革の取り組み、改善報告書をはじめ、本学独自で実施した「卒業生アンケート」「卒業時アンケート」や「在学生満足度アンケート」についての調査結果や改善方策については、ホームページで公開し、積極的に情報公表を行っている。

【資料 11：武庫川女子大学自己評価委員会規則】

【資料 12：武庫川女子大学学部自己評価委員会規程】

15. 情報の公表

本学は、学校法人としての公共性に鑑み、社会に対する社会的説明責任を果たすために、主としてインターネットホームページを通して広く社会に教育研究活動等の情報を公表している。本学ホームページ内の「大学情報の公表」を中心に、学校教育法施行規則に定められる 9 項目をはじめ各種情報を積極的に公表している。

「大学情報の公表」 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kouhyou.html>
(武庫川女子大学 ホームページトップ>大学情報の公表)

ア 大学の教育研究上の目的に関すること

教育目的 https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html

イ 教育研究上の基本組織に関すること

教学組織図 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/kouhyou/kyogakusoshiki.pdf>

ウ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

教員情報 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/gyoseki/gyoseki.html>

エ 入学に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

入学者受入れ方針 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/index.html>

収容定員 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/teiin.html>

進路 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/~syusyoku/data/gyousyu.htm>

オ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

- 大学院カリキュラム https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/in_curriculum.html
- シラバス https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/syllabus/2020/syl_2020.htm
- カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
- 履修便覧 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/syllabus/binran/binran-frame.htm>
- 成績評価 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/kouhyou/seiseki01.pdf>
- 大学院学位授与状況 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/kouhyou/gakui.pdf>
- キ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
- 校地・校舎等の面積 https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kohoj/files/pdf/site_building/site_building.pdf
- 校舎耐震化率 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/sisetu/taishinkaritu.pdf>
- キャンパスマップ <https://www.mukogawa-u.ac.jp/campus/index.html>
- 交通アクセス <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/campus/access.html>
- ク 授業料，入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
- 大学院学費 https://www.mukogawa-u.ac.jp/~nyushi/g_school/pdf/g_school_nyugaku.pdf#page=2
- ケ 大学が行う学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
- 学生支援部署一覧 https://www.mukogawa-u.ac.jp/mukojolife/student_support.html
- 進路支援 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/career/carrier.html>
- コ その他
- 学則 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/mukojolife/gakusoku.html>
- 設置認可申請書，設置届出書，設置計画履行状況等報告書
<https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kohoj/application.html>
- 自己点検・評価報告書 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/evaluation/saiten.html>
- 認証評価の結果 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/evaluation/hyouka.html>
- そのほか、法人情報として寄附行為、中期事業計画「MUKOJO Principles 2019→2039」、ガバナンスコード、役員名簿役員報酬規程、計算書類、監査報告書、事業報告書なども学校法人武庫川学院の Web サイトに掲載している。

16. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

(1) 授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修の計画

本学の教育理念及び学部等の教育目標の実現をめざし、社会に役立つ有為な人材を育成するために、教員の主体的・恒常的に行う授業の内容及び方法の改善・向上（FD）に努めている。

平成 20 年 1 月には各学部及び事務部門から選出された委員で構成される「武庫川女子大学 F D 推進委員会」を設置し、“学生の主体性・論理性・実行力を培う教育”を推進するために、授業内容及び方法の改善と向上に資する全学的な取り組みを行っている。大学・大学院

全体のFD活動はこのFD推進委員会が中心となり、進められている。委員会では、各学科のFD状況を把握するとともに全学的なFD活動計画を立案している。

①教育改革講演会の実施

令和3年度は「大学の授業運営における著作権の考え方について」をテーマに開催。コロナ禍においてオンライン授業が急速に普及する中、教材データ作成にあたっての留意点について外部の専門機関から講師を招いて実施した。

②授業公開制度

他の教員の授業参考に、自身の授業運営や授業方法の改善・向上を図ることを目的に授業公開制度を設けている。全ての授業について本学教職員、附属中高教職員を対象に公開することとしており、「他の教員の授業を参考に、自身の授業運営や授業方法の改善・向上を図る」「他学科における教育活動の理解を促進し、学科間での連携、総合大学としての一体感を高める」ことを目的に、授業公開・参観を促進している。

③授業改善奨励制度

大学としての教育の質向上を図る観点から、「より良い授業のための工夫と実践」に対する奨励制度を設けている。令和3年度は「with コロナ、after コロナを見据えた新たな授業方法の工夫」をテーマに取組みの募集を行い、表彰された科目担当者は学長より表彰を受けた。

④FDニュース発行

FDに関する様々な情報を掲載した冊子を定期的に発行している。全教職員に配付することでFDの重要性についての啓蒙に努めている。

以上の活動のほか、就任1年目教員を対象に「新任教員研修プログラム」を実施しており、本学就任初年度の4～7月の毎週水曜日の2時限目を「新任教員研修プログラム」の時間とし、本学に関する知識の定着、授業設計、教育方法、教育評価、授業運営、提案資料作成等のテーマについて、合計15回の集合研修を実施している。

【資料13：武庫川女子大学FD推進委員会規程】

【資料14：新任教員研修プログラム内容】

その他、健康・スポーツ科学部独自のFD活動として、教育内容の改善を図るための組織「教育内容検討委員会」を設け、実技実習や遠隔授業の方法等、学部の教育内容や方法について随時検討しており、必要に応じて研修も行っている。

(2) 大学職員に必要な知識・技能の習得及び向上の取組み

本学では、「SD推進委員会」を設置し、大学等の運営に必要な知識・技能を身に付け、能力・資質を向上させることを目指している。SDの対象となる「職員」には事務職員のほか、教員等も含まれることから、FD推進委員会とSD推進委員会が連携した活動を行い、教育職員・事務職員がともに必要な知識・技能の習得及び向上の取組み、「教職協働」を実現している。具体的には、全教職員に共通する今日的テーマ（ハラスメント、大学の授業運営に

おける著作権の考え方) や本学のブランディング化推進への取組みに関する調査結果等についての研修を行っている。

【資料 15：職員研修体系図】

事務職員に対しては教職協働を実現させる職員育成のため、体系的な研修体系を構築しており、具体的には、キャリアに応じて新任職員、中堅職員、管理職、監督職を対象に「階層別研修」を実施し、その内容はビジネスマナーやパソコン知識、データリテラシー、ロジカルシンキングといった汎用的なものから大学職員として必要な知識である教育関係の法令や諸規則といった専門的スキルの修得まで多岐に及ぶ。なお、通信教育、在職研修等の修了者、学位取得者に対しては受講料の一部を補助する等のインセンティブを制度として設け受講を喚起している。

令和元年度からは、新任職員向けの 3 年間の体系的な研修プログラム「新任職員育成制度 Rising3」を実施しており、大学職員としての基礎知識習得はもちろんのこと、教職協働で授業運営に参画したり幅広い視野・専門性を高めたりする機会を設けている。

その他、教育職員、事務職員が日本私立大学協会など外部団体主催の就職支援や厚生補導等の分野別の研修会

へ参加するなどして、大学運営に必要な基礎力、応用力及びマネジメント力の向上を目指している。

【資料 16：SD 推進委員会規程】

17. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

(1) 教育課程内の取組について

共通教育科目においては、キャリアデザイン科目群を設け「女性のためのライフプランニング」「自己アピールトレーニング」「キャリアビジョンと人物評価」といった科目を開講し、自らの生涯にわたるライフデザインに資するキャリア形成能力を育成している。また言語・情報リテラシー科目群の言語リテラシー科目(50 科目)や情報リテラシー科目(10 科目)によって、外国語運用能力や情報処理能力向上を期している。

本学科の基礎教育科目及び専門教育科目では、第 1 学年次に、必修科目として「スポーツビジネス論」「スポーツビジネス最前線」を置く。「スポーツビジネス論」は、多様化するスポーツ産業の全体像を俯瞰し、その特徴を理解することで、早い段階から卒業後の進路の可能性を認識させることを目的としている。また、「スポーツビジネス最前線」では、スポーツビジネスの第一線で活躍している外部講師を招聘し、その領域の現状や特徴、キャリア形成に必要な事柄等を解説してもらい、希望するキャリアをより具体化する。これらキャリア教育関連科目と並行して 1 年次後期では、「初期演習Ⅱ(スポーツマネジメント)」にて卒業後の進路を想定し、4 年間の履修計画及び学内・学外での活動計画を立てる。

4 年間のカリキュラムでは、4 つの履修モデル①「スポーツビジネス関連企業で活躍する

人材育成モデル」、②「スポーツプロモーションに携わる人材育成モデル」、③「人々のヘルスプロモーションに携わる人材育成モデル」、④「スポーツの指導・教育に携わる人材育成モデル」を提示し、各モデルは互換的ではあるが、目標を明確にした履修を可能なものに行っている。

(2) 教育課程外の取組について

本学部においては、学生に健康・スポーツに関する最新の情報やモチベーションの保持・喚起を促すため、各競技種目で活躍するトップアスリートや監督・コーチ、大学関係者等を招き、定期的に講演会等を開催してきている。健康・スポーツを深く広く理解するために、スポーツマネジメント学科においてもこれらの行事の開催・参加を継続的に推進していくこととしている。加えて、スポーツマネジメント・ビジネス分野に特化した企業、団体、ロールモデル等の代表的な方々を頻繁に招き、講演会・シンポジウム・研究会・勉強会等の形で、変化の激しいスポーツマネジメント・ビジネス界への理解と対応を促していく計画である。その他、全学部共通の取組みとして、キャリアセンターが以下のキャリア支援・就職支援の取組みを行っている。

<1・2年次>

“自分探し、未来探し”の期間とし、キャリアサポートオリエンテーション、キャリアガイドブック・キャリアサポートハンドブックの配付、適性検査の実施とその結果に基づくキャリアガイダンス、スキルアップセミナー、キャリアワークショップ、企業見学ツアー、インターンシップなどの「キャリア支援プログラム」を提供。

<3年次>

“進路選択”の期間とし、企業見学ツアーやインターンシップなどの「キャリア支援プログラム」に加え、JOB GUIDE BOOK の配付、就職ガイダンス、就職対策講座、人気・優良企業対策実力養成講座、就活特訓講座、学内企業説明会、模擬面接、個別就職相談、Uターン就職相談、公務員就職相談、公務員試験ガイダンス、SPI対策講座などの「就職支援プログラム」を提供。

<4年次>

“自分磨き”の期間とし、本学独自の教育支援情報システム（MUSE S）で、最新の企業・求人・セミナー情報の参照、各種相談の予約、適性検査結果の参照、履歴書の自動作成支援機能、先輩の自己紹介書の参照機能などの情報が収集でき、キャリア形成を支援している。

(3) 適切な体制の整備について

学生のキャリア支援の部署として「キャリアセンター」（中央キャンパス、日下記念マルチメディア館2階）を置き、入学直後から継続的に進路選択に関し、専門のキャリアカウ

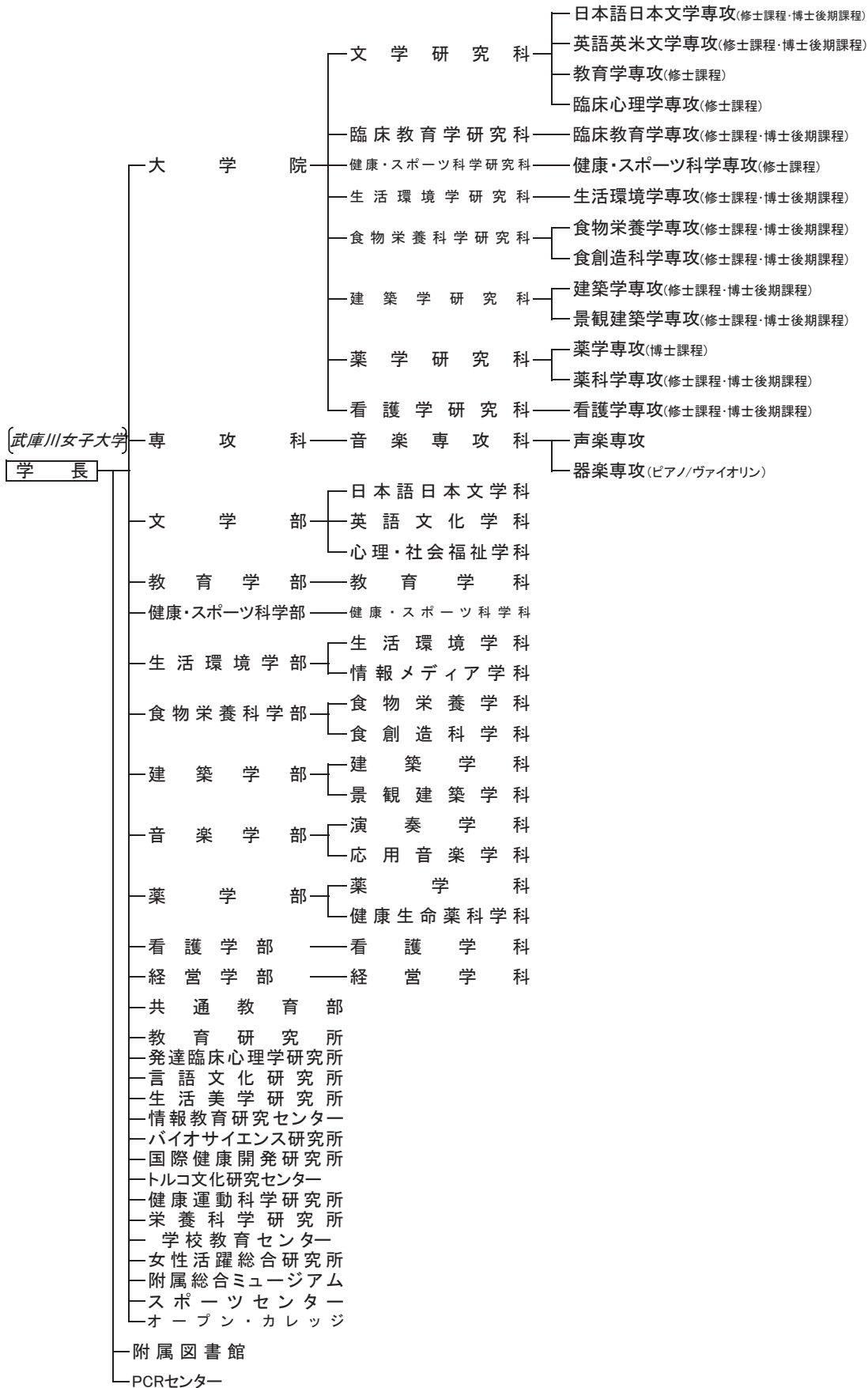
セラーを配置し、進路・就職全般への就職、インターンシップを担当)をサポートしている。全学部・学科には1人ずつ「キャリア対策委員」の教員を置き、学生のキャリア支援を行う体制が整備されている。全学部・学科のキャリア対策委員による「キャリア対策委員会」を組織し、全学横断的に学生のキャリア支援を行っている。上甲子園キャンパスをメインキャンパスとする建築学部の学生に対しても、求人情報の掲出、キャリアカウンセラーの派遣を行うなど、教職員が連携してサポートする体制を整備している。

その他、JR東京駅前に「武庫川女子大学東京センター」を開設して専門スタッフを常駐させ、企業の本社機能が集中する首都圏における学生の就職先企業の開拓や、就職活動のために上京した学生のサポートを行う体制を整備している。

設置の趣旨等を記載した書類

資料目次

- 資料 1 : 武庫川女子大学教学組織図
- 資料 2 : カリキュラムマップ
- 資料 3 : 履修モデル
- 資料 4 : 教育実習受入承諾書
- 資料 5 : 教育実習ハンドブック (中学校・高等学校実習用)
- 資料 6 : 教育実習成績通知票
- 資料 7 : スポーツマネジメント学外実習施設一覧
- 資料 8 : 定年に関する規定
- 資料 9 : 時間割
- 資料 10 : 図書整備計画
- 資料 11 : 武庫川女子大学自己評価委員会規則
- 資料 12 : 武庫川女子大学学部自己評価委員会規程
- 資料 13 : 武庫川女子大学FD推進委員会規程
- 資料 14 : 新任教員研修プログラム内容
- 資料 15 : 職員研修体系図
- 資料 16 : SD 推進委員会規程



スポーツマネジメント学科 カリキュラムマップ

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号								
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性		
1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2						
1	初期演習 I	1	本学で修得すべきことは何かを理解し、自主的に学び新たな発見を導きだせる力を身につけることを目的とする。このため、本学の「立学の精神」「教育目標」を知り、本学学生としての誇りと自覚を持つ。さらに、主体性・論理性・実行力を培い、女性として有為な社会人となるために、それぞれの学部学科の専門性に基づく知識と社会人基礎力の修得の必要性を理解し、各自のキャリアパスを自ら構築する。	大学の修学の基礎となる単位制を理解し、適切な履修計画に沿って修学する主体性、考える力を身につけ、所属学科の3つのポリシーに基づく専門教育の概要を把握し、自らのキャリアパスを組み立てる力を身につける。また、良識ある社会人となるための社会人基礎力の必要性を理解し、その基礎となる十分なコミュニケーション能力を培い、基本的な社会人ルールを理解し、本学学生としての誇りと自覚を身につける。さらに、学習・研究を進める上での倫理の基礎となる情報の取り扱いに関する知識を身につける。	○				○	○	◎	○	
2	初期演習 II (スポーツマネジメント)	1	「初期演習 II (スポーツマネジメント)」の目的は、初年度学生が、健康・スポーツ学部スポーツマネジメント学科の学生としての誇りと自覚を持ち、本学科生にふさわしい主体性・論理性・実行力を培い、学部・学科の教育目標を達成するように導くことである。	スポーツマネジメント学科の専門教育への円滑な導入を目的に、多様なスポーツマネジメント領域の現状をめぐるエビデンスをもとに諸領域の現状を理解し、今後の課題についてディスカッションを行い、卒業後のキャリアを熟考する。	○	○		○	○	○	◎	○	
3	健康・スポーツ科学論	1	健康・スポーツに関する科学的アプローチは、研究方法によって細分化され多岐にわたる。スポーツ科学分野では、主として自然科学領域に焦点を当て、スポーツの科学的理解を中心に進める。一方、健康科学分野では、健康に関連する諸問題について、歴史的な背景を理解し、今後の健康の維持・増進に対する展望について考えさせることをねらいとする。	スポーツ科学分野では、スポーツパフォーマンス発現のために様々な身体機能や種々の要因が関与しており、それぞれの関わりをエビデンスに基づき学習するとともに、実際のスポーツ場面に活用していくための基礎的知識を理解することを目標とする。 健康科学分野では、健康の概念を理解するとともに自身の健康観をもつてもらいたい。そのうえで、わが国の「国民健康づくり対策」の課題解決に何が必要なのかを考え、そのために健康・スポーツ系の知識がどのような場面で活かせるのかを理解する。	◎			○	○			○	
4	スポーツの文化・歴史	1	本科目の構成の3点によって、受講生自らが「スポーツのこころまでとこれからを考える」ことを目的とする。 ①スポーツの起源、発展・変容を学ぶ。 ②スポーツと文化の意味を理解する。 ③スポーツの文化的構造について考察する。 あわせて、本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。	本科目の構成によって、スポーツ文化を総合的に理解し、問題解決に取り組むことのできる能力をそなえた「考えるスポーツ人」になることを目指す。そのためには、スポーツに関わる基礎的知識を基にして、自ら学ぶという姿勢のもとに習得された幅広い知識および分析視点によってスポーツにかかわるものごと全般に対し、批判的な思考を働かせて分析できるようならねばならない。これは、「たゞ肯定(肯定)する」のではなく、「本当にそうなのだろうか」と疑問を投げかけ、適切に取捨選択した知識や情報を根拠として、自らで判断することである。 よって、本科目における到達目標を「スポーツに関わる基礎的知識の習得」および「スポーツについて、固定観念や固有の価値観にとらわれないこと」なく、多様な視点から多面的に考えることができるようになる」ことに置く。 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎	○							○
5	情報リテラシー	1	大学教育に適切に、安全で適切な情報活用ができるための基礎的な情報リテラシーを身につける。コンピュータネットワークの知識と実践力を育成するとともにオフィスソフトの活用をもとにしたレポート作成の基礎的な技能を確実に習得する。	本学のシステムやオンラインサービスを知り、使いこなすことができる。基礎的なコンピュータやネットワークに関する知識、情報モラルに関する知識をもち、場面に応じて安全にコンピュータやネットワークを活用することができる。 レポートを作成するために必要なソフトの活用技能を習得し、課題に応じた簡単なレポート作成ができる。	○	○		◎					
6	基礎英語 I	1	①リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングを総合的に学習しながら、実践的な英語力を獲得する。 ②語学留学や海外旅行する際のコミュニケーションに役立つ力を養う。	学生がコミュニケーションに関する基本的な英語力を向上させる。	○	○		◎					
7	基礎英語 II	1	①リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングを総合的に学習しながら、実践的な英語力を獲得する。 ②語学留学や海外旅行する際のコミュニケーションに役立つ力を養う。	前期に開講した「基礎英語 I」で身につけた、基礎的な英語力を応用し、さまざまな状況で、英語によるコミュニケーションができるようになることを目標とする。	○	○		◎					
8	Oral Communication I	2	「英文法はある程度わかっている、いざとなると英語が話せない」という人は多い。本授業では、英語コミュニケーションを円滑にする際のウォーマップを確認し、実際に「使う」ことを経験しながら、コミュニケーション能力を養う。	英語の基礎文法などを復習しながら、インタラクティブな授業を通して基本的な会話ができるようになることを目標とする。	○	○		◎					
9	Oral Communication II	2	「英文法はある程度わかっている、いざとなると英語が話せない」という人は多い。本授業では、英語コミュニケーションを円滑にする際のウォーマップを確認し、実際に「使う」ことを経験しながら、コミュニケーション能力を養う。	前期に開講した「Oral Communication I」で学習した内容を踏まえ、英語の基礎文法や語彙などを復習しながら、様々な場面で基本的な会話ができるようになることを目標とする。	○	○		◎					
10	スポーツビジネス最前線	1	スポーツビジネスは日々進化している。既存のスポーツビジネス業界、あるいは異なる業種との連携の中で新しいスポーツビジネスが生まれている。本科目は、さまざまな健康・スポーツ関連企業からゲストを招き、オアシス形式の講義を通して、各企業の最新情報やロールモデルについて学ぶことを目的とする。	スポーツビジネスの最前線で活躍する実践者の講義とともに、ディスカッションをする中で、スポーツをビジネスにするとはどういうことなのかを理解する。さらに、社会を愛護・進化させるビジネスという人間の営みについて、自分なりに思いを具体的にイメージし、説明できるようになること、および大学時代の今後の学びの方向性や、キャリア形成について展望を描けるようになることが目標である。	○	○		○	○		◎	○	
11	スポーツ産業と政策	1	この講義では、スポーツビジネスで活躍するために必要なスポーツ産業とスポーツ政策の知識を身につけることを目指す。より具体的には、スポーツ産業を構成する市場領域の種類(スポーツ用品産業、スポーツ施設・空間産業など)および各市場の特性や動向について学習する。また、スポーツ基本法やスポーツ基本計画など、スポーツの振興や産業化に関わる重要な法律や政策計画・事業の背景や歴史の変遷、体系、諸外国の動向について学ぶ。	この講義では、①スポーツ産業の構造を説明できるようになる。②スポーツ振興や産業化に関わる重要な法律・政策の性格を説明できるようになる。③個別のスポーツ産業領域への関心を高め、その領域の特性や最新動向・課題を説明できるようになることを到達目標とする。	○	◎		○	○	○	○	○	
12	スポーツビジネス論	1	健康・スポーツビジネスでは、健康・スポーツ関連および女性をターゲットにしたビジネスについて理解し、「女性の起業」についての基礎的知識を得ることを目的とする。	一般社会におけるビジネスおよびマーケティングの基礎を理解し、健康・スポーツ関連のビジネスや女性に関連深いビジネスについて考える力を養う。	○	○		○	◎		○	○	
13	スポーツマネジメント論	1	スポーツに内在する多様な価値に実現への期待が高まっている。スポーツマネジメントは、スポーツの教育的価値や経済的価値等、スポーツの持つ多様な価値の実現を志向する組織的営みであり、その合理的な方法論の在り方を検討課題としている。本講義では、生涯スポーツやスポーツビジネスが展開される具体的なスポーツマネジメント領域における経営課題を理解するとともに、人々の生活の豊かさに貢献するスポーツの推進の考え方や合理的なスポーツマネジメントの方法論について検討する。	スポーツマネジメントは、スポーツビジネスに関連した経済的便益を追求する活動だけを追求する営みではない。本講義では、文化としてのスポーツに内在する多様な価値や、人のスポーツ権を保障するスポーツ政策の現状と課題の把握を前提とする。そしてスポーツマネジメントの目的の公共性や社会的責任の重要性、スポーツの価値を実現するための方法論としてのスポーツ事業と経営過程について構造的に理解ができる。さらに地域スポーツプロモーションや公共・民間スポーツ施設マネジメント、スポーツイベント・トップスポーツクラブ経営等の具体的なスポーツマネジメント領域の課題を理解し、その解決方法について考える資質を身につけることを目標とする。	○				◎				
14	スポーツマーケティング論	2	マーケティングとは、個人・市場と組織の目的を満たすための交換関係を生み出すために、アイデアや財やサービスの考案から、価格設定、プロモーション、そして流通に至るまでを計画し、実行するプロセスである。現代におけるスポーツ産業の様々な成功事例からその裏側にあるマーケティング戦略を考察する。	マーケティング戦略とは何かを理解し、スポーツ産業における企業のマーケティング行動が理解できるようになることを目指す。そして、マーケティングの基本用語や戦略を理解し、顧客の立場から、商品、サービスの企画開発や宣伝、流通、そして価格設定などを考えることができる人材育成を目指す。	○	◎		○	○	○	○	○	○
15	スポーツガバナンス論	2	この講義の目的は、スポーツ組織の効果的なガバナンスを構築するために必要な知識と技能を習得することである。スポーツ組織にガバナンスが要請される社会的背景および、ガバナンス機能を発揮する理事会などの役割と効果的な組織の要件について学ぶ。さらに、具体的なスポーツ組織に関する詳細な事例分析をおとじて、経営組織におけるリスクマネジメントの技法を身につける。	この講義では、①スポーツ組織におけるガバナンスの主体と機能を説明できるようになる。②リスクマネジメントのプロセスを説明できるようになる。③企業やスポーツ組織の事故事例を分析し、事故の発生原因と有効な対策を論じられるようになることを到達目標とする。	○				○	○	○		◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性			
					1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2		
16	スポーツ情報・メディア論	3	eスポーツなど新たなスポーツの登場に加え、デジタルデバイスやプラットフォームの登場により伝統的なマス媒体だけでは新たなメディアを活用したマーケティングコミュニケーションが行われている。また、スポーツ自体をメディアとして活用する動きも活発になっている。そのようなデジタル時代のスポーツ界における「情報」と「メディア」の基礎をマーケティングコミュニケーションから学ぶ。	情報・メディアに関する基本的な用語を理解する。マーケティングにおけるメディアの位置づけを理解する。スポーツにおけるメディアの歴史や現状、役割について理解する。スポーツ情報におけるメディアの活用や戦略に関する基礎的な知識を身につける。	○	○	○	○	○	○	○	○		
17	スポーツイノベーション論	4	スポーツは、跳ぶ、走る、投げる等の特定行為をパフォーマンス化した身体活動であり、目的志向性がきわめて高いという性質を有する。したがって、ある目的を達成するための技術体系としてのテクノロジーを活用したイノベーションと親和的である。本講義では、テクノロジーを主要な要素とするスポーツイノベーションの歴史を参照しつつ、「みる」「する」「ささえる」の視点からスポーツイノベーションの現状と展望について講義する。	スポーツにおけるテクノロジーの応用、ブレイクスルー、およびスポーツで進化したテクノロジーの転用といった、スポーツとテクノロジーとの多様な関わりを歴史的、社会的、身体的観点で理解することを目指す。最新のテクノロジーを含む、種々のイノベーションのタイプに関する知識を身につけて、スポーツビジネスにおける多様なイノベーション現象に対する知識と理解を深めることを目指す。	◎	○	○	○	○	○	○	○		
18	ホスピタリティマネジメント論	1	ホスピタリティとは何か、考え方、要素、顧客対応、接客・接客技法などについてサービス提供者の視点と享受者の視点から学ぶ。対象者の属性（性別、年齢、参加・来場目的等）や、さまざまなスポーツの場面に応じてホスピタリティがどのように具現化されているのか、実践例を踏まえて探求する。日常生活や希望する職業に必要な、ホスピタリティマインドを英語と日本語（言語・非言語）についての理解を深める。	スポーツの場面におけるホスピタリティのあり方について、対象者の属性やスポーツ活動、スポーツ施設などの特徴を捉えながら多角的に探り、ホスピタリティマネジメントの企画運営をシミュレーションする。	○	○	○	◎	○	○	○	○		
19	地域スポーツマネジメント論	2	地域におけるスポーツ推進は、広く人々の生活の豊かさの現実に貢献してきた。本講義では、社会性、コミュニティスポーツ、生涯スポーツと変遷してきた地域におけるスポーツ振興の経緯とその背景となる考え方や思想を理解するとともに、地域スポーツの振興をめぐる諸施策やマネジメントの現状と課題について理解することを目的とする。さらに近年のスポーツの成長産業化の潮流の中で期待されているスポーツによる地域社会や地域経済の活性化をめぐる施策について、その功罪を批判的に検討する。	戦後の地域スポーツ振興をめぐるスポーツ政策を確認するとともに、その背景にある経済成長とコミュニティ崩壊問題、スポーツをめぐる諸課題などを理解できる。そして地域スポーツマネジメントに必要な経営資源や各種スポーツ事業について理解を深める。とりわけ現代的な課題となっている総合型地域スポーツクラブ育成政策を題材にしたから、クラブ育成が持つ機能ポテンシャルや新たな社会経済システム論から考えるとともに、スポーツによる地域開発やスポーツツーリズム等のコミュニティビジネスの在り方について批判的に考えることができることを目標とする。	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	
20	スポーツイベントの企画・運営	2	本講義では、学校から自治体、国、国際的に位置づけられる多様なスポーツイベント全般について、その歴史、基礎的な知識、実務を学ぶ。イベントの歴史や成り立ち、現代的なイベントの現状などを学び、「ト・モ・ノ・カネ・情報」という経営資源の側面からイベントをマネジメントする知識やスキルを理解する。さらに、スポーツイベントを企画・運営する際に必要な業務内容を身につける。	イベントやスポーツイベントの歴史を理解し、現代的なイベントの分類、イベントが数多く開催される理由、社会における役割を説明できる。スポーツイベント、およびその企画運営の基礎的な用語や考え方、理論を理解し、スポーツイベントを企画、運営する際の基礎的な知識を身につける。JACE（社団法人日本イベント産業振興協会）が認定する「スポーツイベント検定」資格取得に結び付く知識を身につけることを目指す。	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	
21	スポーツ施設マネジメント論	3	公共及び民間のスポーツ施設の管理運営、屋内外のスポーツ施設において行われるイベントや教室等の具体的なマネジメントについて理解を深める。また、商業スポーツ施設（民間フィットネスクラブ等）の管理運営、公共スポーツ施設の安全対策、公共スポーツ施設のイベント運営、地域スポーツ施設のマーケティング、学校体育施設の運営等の実践的な事例にふれながらスポーツ施設のマネジメントについて学修する。	スポーツ施設の管理運営について基本的な知識や実務を学び、実際のスポーツ施設利用時や運営に携わる際に必要となる知識やスキルを習得する。また、スポーツ活動およびスポーツ施設の運営管理における安全管理に関する法律、規則を学び、理解を深め、公益財団法人日本スポーツ施設協会が認定する「スポーツ施設管理士」資格取得に結び付く知識を身につけることを目指す。	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	
22	トップスポーツ経営論	3	この講義では、プロスポーツ・ビジネスに代表されるトップスリムやチームを活用したビジネスに求められる知識と技能を養う。国内外的なプロスポーツの歴史や事例として、スポーツ観戦サービスの歴史やその多様性について理解を深める。そして、多様なステークホルダーとの関係で成立する現代的なスポーツ観戦サービスの生産システム、ならびにスポーツファンの行動特性について学び、スポーツ記事の作成・公表課題を通して、スポーツ情報の発信というファンマネジメント技法の一つを身につける。	この講義では、①スポーツ観戦に興味がない人に対して、5つの異なるスポーツ観戦の方法を提案できるようにする。②スポーツ観戦サービスへの生産に関わる主体を網羅的に説明できるようにする。③スポーツに取材を行い、スポーツ記事を作成し公表できるようにすることを到達目標とする。	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○
23	スポーツ・ヘルズツーリズム論	3	スポーツツーリズムの歴史や概念、現状、事例などを学び、現代社会で展開されているスポーツツーリズムの意義や役割を理解し、説明できる基礎的な知識を身につける。また、スポーツツーリズムの国内外の事例を通じて、その現状や課題を理解すること、さらに近接領域である健康をテーマとしたヘルズツーリズムの役割や課題について学修する。	新しいビジネス領域であるスポーツツーリズム、ヘルズツーリズムについて理解を深め、現代社会において注目される背景や理由、推進する上での課題などを理解する。また国内外のヘルズ・スポーツツーリズムに取り組む事例を収集、学修することで、スポーツツーリストやヘルズツーリストと呼ばれる参加者（消費者）の行動や動機、嗜好に対する理解を深めることを目指す。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
24	ヘルスケアマネジメント論	4	ヘルスケアの概念・理論を学ぶとともにヘルスケアの基本的知識を修得する。加えて、対象者の健康情報に基づいたヘルスケアサービスを促すマネジメントについて学習する。また、公的保険、保険外サービスを理解し、ヘルケアビジネスを展開する能力を身につける。	ヘルスケアの概念・理論を理解した上で、対象となる小児から高齢者までの個人の健康情報に基づいたヘルケアマネジメントを実践するための基礎力を養うことを目標とする。	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	
25	アカウンティングⅠ	1	スポーツ組織の維持・発展のためには簿記・会計に関する知識が不可欠である。この講義では、基本的な簿記・会計の知識を身につけることを目的とする。まずはプロスポーツ組織の多くにみられる株式会社を取り上げ、株式会社の貸借対照表や損益計算書等の会計情報の作成や開示の方法を理解する。ついで、作成した会計情報を加工して、定量的な経営データの初歩的な分析手法について講義する。	プロスポーツ組織に見られる株式会社会計に関する基本的な知識、すなわち、複式簿記の原理から始まり、貸借対照表と損益計算書の構造や開示方法に関する基本的な知識を身につける。さらに、貸借対照表や損益計算書を加工して、成長性・安定性・収益性に関わる定量的な経営データの初歩的な分析手法を身につける。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
26	アカウンティングⅡ	1	アカウンティングⅠで学んだ内容を展開し、貸借対照表や損益計算書に加え、キャッシュフロー計算書の作成や活用方法について学ぶ。貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書のいわゆる財務三表を用いて、より進んだ定量的な経営データの分析手法を身につけることが目的である。また、公益法人会計を取り上げ、株式会社以外の形態をとるスポーツ組織の会計の仕組みについても講義する。	貸借対照表と損益計算書に関するより高度な知識、およびキャッシュフロー計算書の作成方法と見方についての知識と技法を身につける。また、損益分岐点分析のようにより進んだ経営分析の手法を身につける。さらに、株式会社以外の組織形態をとるスポーツ組織の会計（公益法人会計等）に関する知識を身につける。以上より、開示されたデータを用いて、種々のスポーツ組織の定量的な分析の手法を身につける。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
27	実務技能対策論	2	実務において必要なスキルを学び、ビジネス系検定の取得を目指した講義である。数あるビジネス系の検定の中でも、ホスピタリティやサービスマインドなどに関するサービス接客検定の3級取得を目指す。	全講義終了後、検定を受けに行き、目標の級数取得する。学生時代にサービス検定3級を取得し、就職活動への準備とアドバンテージとする。	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	
28	経営組織論	2	現代には多様な組織が存在し、人々は企業のような非営利組織のみならず、NPO法人等も代表される非営利組織との取引の中で生活を営んでいる。本講義では、「組織の成り立ち」「組織の構造」「組織の運営」「組織と人」といった側面から、基礎的な組織論を理解するとともに、スポーツ産業を構成する諸組織の事例とその運営を学ぶ。	組織と人材に関する基礎的な概念および用語や理論の習得を通じて、組織論の多様性とその内容を理解することが、本講義の目的である。① 組織内での人的要素の複雑性を理解する上で必要となる組織論の基礎知識を身につけることができる。② 経営組織論の基礎的な用語や理論を説明することができる。③ 人的資源管理に関する諸概念と理論を理解することができる。④ 組織に関わる心理学をもとに労働施策について改善提案を行うことができる。⑤ 組織における協働の重要性を理解することができる。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○
29	ファイナンシャルマネジメント	2	組織の維持・発展には、経営資源としての資金の調達と運用に関する知識が不可欠である。本講義では、金融市場に関する基礎知識やファイナンスの基礎理論を学ばせながら、資金の調達と運用に関するマネジメントの手法を学ぶことが目的である。あわせて、実際のスポーツ組織の事例に拠りながら、資金の調達と運用面における組織的課題や対応について解説する。	金融市場や企業金融、およびファイナンス理論に関する基礎的な知識を身につける。また、それらを踏まえて、資金の調達と運用に関する基礎的なマネジメント手法を身につける。あわせて、過去および現在の、内外のスポーツ組織におけるファイナンスの事例を説き解き、資金の調達・運用に関わる組織的課題を発見し、対応する能力を身につける。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○
30	消費者行動論	3	現代における消費者の多様性を理解し、その消費者行動を分析して、より実践的な分析のため、心理学やマーケティングの戦略的アプローチなどではなく、心理学的なアプローチから様々なケーススタディを学ぶ。特に、広告や販売に関わる心理学的側面を理解し、実務的に応用できる力を身につける。	消費者行動の分析に関する理論や心理学的アプローチについて、自分の言葉で説明できる。また、学習した理論を使用し、消費者心理を多面的に分析できるようにする。消費者の認知・態度・心理について分析し、戦略的な思考や考察ができる。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目											
					○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性					
1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2									
31	販売管理論	3	販売士検定の取得を根幹に置いた講義である。商業、流通、マーケティングなど、取得に必要な知識とテクニックを学び、販売士3級の取得を目指す。	全講義終了後、検定を受けに行き、目標の級数を取得する。学生時代に販売士を取得し、就職活動への準備とアドバンテージとする。	◎											
32	マーチャンダイジング	3	マーチャンダイジングとは、商品計画・商品化計画の意味である。消費者に商品を購入させるために、商品の企画・開発や調達、商品構成の決定、販売方法やサービスの立案、価格設定などを、戦略的に行う活動のことである。本講義では、消費者の視点から消費者行動の理解を進めていく。実際に消費者が小売店舗内でどのように行動しているのか、また、より多くの売り上げのために小売店がどのような戦略を用いているのかを学ぶ。	マーチャンダイジングでは、①適正な商品、②適正な時期、③適正な場所、④適正な数量、⑤適正な価格の5点が売上向上につながることを理解する。さらに、1)小売店内での消費者の購買行動と、それを導くための店舗側の方策を理解する。2)商品知識、プロダクトサイクル等を理解する。3)戦略的商品計画、POSシステム等を理解する。	○	◎										
33	ヒューマンリソースマネジメント	4	スポーツビジネスの経営管理者としての人的資源を効果的に管理するための知識、技能を学ぶ。この分野は人的資源管理、あるいは人材マネジメントと呼ばれる。経営組織における採用・異動、教育訓練、評価・考課、昇進・昇格、賃金・福利厚生・退職金などの管理に関わる事項が検討されている。これら人的資源管理の実践的な考え方をスポーツ組織の事例を参考にしながら学習する。特に、スポーツビジネスにおける重要課題である採用および評価の仕組みづくりについて、実践的に学ぶ。	この講義では、①人的資源管理論の基礎概念(欲求階層説、採用・異動、評価・考課など)を説明できるようにする。②採用面接を行い人材を選抜できるようにする。③人事考課シートを作成できるようにする。到達目標とする。	○	○			○	◎						
34	スポーツマネジメント学内演習	2	多様なスポーツマネジメント領域の実践や女性の起業の事例を取り上げ、その特徴や課題に関する議論をとおして、実務領域で活躍できる資質を身につける。さらに、学内の様々な部署とコラボレーションし、スポーツマネジメントの基礎とスポーツビジネスにおける実践を学ぶ。	多様化するスポーツマネジメントの領域特性と経営課題を理解する。具体的な実践事例をめぐる経営課題について議論し、構造的に整理し発表する能力を養成する。学内関連部署と連携し、スポーツマネジメントの実践能力を身につける。	○	○									◎	
35	スポーツマネジメント学外実習	3	外部企業や団体と協働し、課題解決型の実習をとおして、スポーツマネジメントの基礎とスポーツビジネスにおける実務や、実践的な企業システムにおけるオペレーションを学ぶ。さらに「女性の起業」についても必要な知識と実践力を身につける。	外部企業や団体と協働した実習をとおして、実社会の成り立ちや、スポーツビジネスの最前線を理解する。課題解決能力を身につけるとともに卒業後に向けたキャリア形成を促す。	○	○									◎	
36	専門英語A	3	グローバル化するスポーツマネジメント分野において活躍するための語学(英語)力を身につけることを目的とする。	スポーツマネジメントに関する実用的英語表現を学び、リスニング・スピーキング・リーディング・ライティングの技能を磨く。特に英語圏における、スポーツビジネス・スポーツガバナンス・トップスポーツマネジメントを題材に取り上げる。	○									◎		
37	専門英語B	3	グローバル化するスポーツマネジメント分野において活躍するための語学(英語)力を身につけることを目的とする。	スポーツマネジメントに関する実用的英語表現を学び、リスニング・スピーキング・リーディング・ライティングの技能を磨く。特に英語圏における、スポーツファシリティマネジメント・スポーツツーリズム・スポーツイベントを題材に取り上げる。	○									◎		
38	海外のスポーツビジネス研究	1	グローバル化するスポーツビジネスについて国際的な理解と感覚を身につける実習であり、米国ワシントン州スポーケン市に位置する本学海外分校を拠点とし、現地の企業や大学および地域の協力を得ながら、英語学習と米国のスポーツビジネスについて学ぶ。	語学力(英語)を醸成し、スポーツビジネス先進国である米国の歴史と現状について理解を深めるとともに、現地の企業や大学および地域社会と連携し、スポーツビジネスに関わるグローバル人材としての知識と感性を身につける。	○										◎	
39	スポーツ心理学	1	スポーツと心、スポーツにおける動機づけ、コーチングの心理、メンタルマネジメント(メンタルトレーニング、ブレッシャー、あがり、スランプの対処法)、指導者のメンタルマネジメント等の心理面における基礎理論を理解する。本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。	獲得した知識・技能・指導法を総合的に活用しながら、将来のスポーツ指導にそれらを適用し、実践現場における問題解決能力を身につけること、また、心理的スキル向上を図るためには、必須である「動機づけの方法」「性格特性や個人差などに応じた指導法」「メンタルマネジメント」を理解し、スポーツ現場で応用できる資質を養うことを目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎											
40	スポーツ栄養学	2	アスリートとして体力の維持・競技成績の向上のために、さらに将来の健康づくりの指導者として生活習慣病の予防・改善を指導するために、スポーツに特化した専門的栄養学を習得する。	栄養・食事に関する基本的知識を身につけ、さらに、選手において特に注意すべき栄養学上のポイントについて理解する。	◎											
41	運動生理学	1	先進国社会では自動化、省力化、電気化による身体活動量の低下が、人間の健康に大きな影響をおよぼし社会問題となっている。そこで本講義では運動やスポーツのよもたらす身体活動が身体諸機能にどのような生理的変化をもたらすかを学習する。本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。また、スポーツ指導者として、健康の維持・増進を目的としたインストラクターとしての専門的知識および技能等を修得することを目的とする。	運動生理学の基礎的な理論を理解し身体活動やトレーニングによる身体諸機能の変化について学ぶ。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。保健体育教員、あるいはスポーツ指導者として、健康の維持・増進を目的としたインストラクターとしての指導実践において、対象者の個々の体力の違い、年齢別、性差等の諸問題を主体的に考え、取り組むことができる専門的知識を修得することを目標とする。	◎											
42	スポーツ医学	2	内科的分野では、運動開始前および運動中の自覚症状、他覚徴候から運動中止を判定する方法に関し理解する。スポーツと内科的障害、疾患を理解する。特殊環境下の運動、熱中症、高山病、低体温症、凍傷、潜水による障害、日光障害など実習に役立つことを学ぶ。学校、各種スポーツ活動時、教育者、指導者として必要なスポーツ医学の知識を体得することを目的とする。外科的分野では、健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医学的分野(特に外科的分野)についての知識を身につける。	内科的分野では、運動中に起こりやすい、呼吸・循環器、熱中症、さらに生活習慣病などを理解し、子どもから大人まで運動指導が可能になる。スキー実習(低体温症など)、キャンプ実習(高山病など)、マリン実習(潜水病など)で事故の発生を予防する。また貧血、オーバートレーニングを理解し選手、指導者として活躍できるようにする。外科的分野では、スポーツ外傷、障害を理解し医師を含めてパラメディカルスタッフ、コーチ、トレーナーと共通の認識、共通の言語をもってコミュニケーションができることを目標とする。	◎											
43	スポーツ運動学	1	スポーツ指導現場に必要な運動の見方・考え方を学ばせることにより、運動に関する理解を深めさせ、スキルの獲得とその獲得過程に関する質的評価ができるようにする。また、練習計画の立案ができるようにさせる。本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。	スポーツを観察する方法を理解し、指導時に活用できるようにする。また、運動の質に関する理解が深まり、その良否に関しても適切な判断ができるようになる。運動が上手になる過程について理解し、適切な指導ができるようになる。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎											
44	体育原理	1	本科目の目的は「体育・スポーツとは何か」「なぜ体育・スポーツなのか」「体育・スポーツで何が得意なのか」を考えることにある。「体育」について、同義語のように混同してとらえられる傾向にある「スポーツ」との相違点を明確にし、その意味と価値を学ぶことにより、「体育」と「スポーツ」の現代社会における存在理由および意義について哲学的に探求する。加えて、「体育」「スポーツ」をとりまく現代的な問題を取り上げ、根本的な問いの設定と哲学・倫理的方法により、それらの問題について読み解いてゆく。あわせて、本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。	「体育」と「スポーツ」についての課題を発見し、多面的な思考のアプローチによって自らの考えを導き、それを論理立てて説明できるようにすることを目標とする。具体的には次のようなスキル獲得を目標とする。保健体育科教員、スポーツコーチとして求められる基礎的な知識や考え方の獲得 社会の変化に対応できる柔軟な発想、行動のとれる能力の獲得 自己の考えや判断を要領よくまとめ、それを言語化して説明できるスキルの養成 「学ぶ習慣」と「社会の出来事に関心をもちつ姿勢」の涵養 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○			○	◎						
45	運動器の解剖と機能	1	体を構成する運動器の機能と役割を知ることにより、スポーツパフォーマンスの向上や、健康の保持増進に役立つ知識を得ることを目的とする。	体の構造に関する基本名称を学ぶことで、コーチ、トレーナーおよび医師が共通の言語でコミュニケーションをとることのできる環境構築を目標とする。	◎											

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号							
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目							
					○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性	
1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2					
46	スポーツトレーニングの科学	2	トレーニング科学の基礎理解として、人間の身体への適応能力についての基礎知識を養うとともに、目的とする身体機能を高めるための具体的な方法を学び、科学的な身体トレーニングについての知識を深める。一つは、スポーツパフォーマンスを高めるための科学的研究成果と高度な実践経験に基づく種々のトレーニング理論を理解することを通し、各種トレーニングや競技特性に関する理解を深めることである。一方で、健康・体力づくりのための適切な運動プログラムを構成する知識を深めることと共に、身体運動を生活に取り入れる能力を養い、健康を保持・増進していくための適切なトレーニング方法を身につける。これらの各種トレーニングに対する考え方や方法を学び、基本的なトレーニング計画の立案ができることを目指す。	トレーニングによる人間の身体への適応能力についての理解を深める。特に、競技者としての活動に役立たせることができるまで、また、健康・体力の維持増進に役立たせることができるまでの理解を深めることを目指す。さらに、指導者の立場でトレーニングの現場での合理的かつ総合的なトレーニング計画の立案、トレーニングの実態を分析・評価する能力を身につけ、課題を見出し、多種多様な課題に対しての創意工夫を試みることができるための資質の向上を目指す。								
47	救急処置演習	1	日常生活に比べてスポーツ活動時に発病発生のリスクは高くなる。緊急時に必要な救助や処置ができるように救急処置の知識と技術を身につける。本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	救急処置、応急処置に必要な知識の習得をする。レポートにて知識の整理を行う。実習にて心肺蘇生法、止血、固定を行う。実習試験にて知識の習得を確認を行う。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。			◎					
48	バイオメカニクス	2	バイオメカニクス（生体力学）の学修によって、身体運動の運動成果（パフォーマンス）がおよそ物理学、解剖学および生理学が示す原理に従っていることを理解することを目的とする。	スポーツにおけるパフォーマンスを向上させるために、力学的にどのような要因を改善することが必要なか、思考できることを目標とする。受講生の運動・スポーツの「動きをみる目」が変わり、スポーツ指導の現場で活かしていけることを期待する。	◎							
49	学校保健	2	本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。学校における保健教育・保健管理を充実させるとともに、併せて、学校保健を通して子ども達に健康の保持増進並びに学校安全に関連する実践力を養わせるために必要な専門的知識および技能等を修得することを目的とする。	学生は教員立場で現代の子どもたちを取り巻く健康問題に目を向け、学校における保健活動、すなわち「保健教育」と「保健管理」の内容を理解しなければならない。また、「保健教育」では、効果的な保健学習や保健指導法についての知識や考え方を身につける。さらに、学校が家庭や地域社会とどのような連携を保ちながら子どもたちの安全を確保すべきかも理解しなければならない。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎							
50	公衆衛生学	3	公衆衛生学は「人間集団を種々の疾病から守り、健康の維持・増進を図り、その精神的肉体的能力を十分に発揮できるように環境にすること」を目的とした学問である。公衆衛生に関する広範囲に亘る事項について解説し、集団の健康を維持するための基本的知識や考え方を修得することを目的とする。また、本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	保健衛生や環境問題について幅広く知識を身につけて、国民の健康維持・増進のために適切な判断力のもとに指導できる基本的な力を養うこと。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎							
51	発育発達・老化論	3	科目目的は、乳幼児期から高齢期に至るまでの発育発達と老化の過程を理解し、体育・スポーツの指導者として個々の状態に応じた運動プログラムが提供できる能力を身につけることである。	学生には、この授業を通じて子どもが誕生し、老いていくまでの発育発達と老化についての理解を深めてもらいたい。そして発育期の運動・スポーツの関わりが、子どもたちの健康・体力にどのように影響するかについて、科学的な根拠をもつて説明できる能力を身につける。			◎					
52	スポーツ指導論	2	近年日本では多くのスポーツ種目が若者男女問わず実践しあうようになり、見るスポーツから実践しあうスポーツに形態が変化し、スポーツの役割は社会的にも、個人の健康の維持・増進に欠かせない。そのスポーツ指導について正しい知識と効果的な指導法を理解することを主目的とする。	スポーツ指導者に求められる役割を理解する。<知識・理解>スポーツ指導における世代間伝達<スポーツ指導者の役割><技能>コミュニケーションスキルモチベーションコントロール<態度・志向性>Players First<スポーツ指導者の倫理自己研鑽><総合的な学習経験と創造的思考力>学習した一般的な内容を、自分の専門とするスポーツ種目の指導実践に応用する能力				◎				
53	スポーツ社会学	2	本講義は次の目的のために開講する。現代社会におけるスポーツの役割・機能、社会的価値、あるいはスポーツの問題点などの分析を通して、スポーツ・体育の指導者として求められる深い知識を得る。知識をもとに、自分で問題を設定し、分析・解釈し、考え抜くという技術を得る。本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	さまざまな時代や社会におけるスポーツの状況および歴史の変遷の過程、変化の理由などについての基本的な知識を習得する。その学習をとおして、社会の変化とスポーツの変化とを相関的に見る視点を養い、同時に、現代のスポーツに関わる諸問題について、歴史的な視点から考察することができるようにする。そして、現代のスポーツにおける課題や問題点、さらには今後のスポーツのあるべき姿についての自らの考えを育てるようになる。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求すること。					◎			
54	スポーツ行政・法規	2	わが国のスポーツに関する行政組織については、スポーツ基本法によりスポーツ振興の基本的方針が示されており、この目的を実現するために種々様々なスポーツ政策が具体的に実施されている。そこで、スポーツ行政の概念および現状について理解を深めるとともに、体育・スポーツの実施に際し起こりうるであろう、体育・スポーツ事故に関わる法的責任および安全管理について理解を深めることをねらいとする。	科目習得時には、「日本のスポーツ行政組織」「スポーツ事故に関わる法的責任および安全管理」などについて、論理的説明が可能となることを目標とする。				◎				
55	スポーツ経営管理学	2	現代のスポーツにおける環境は、地域のスポーツをはじめとし非常に多様化された組織の集まりとなっている。結果、スポーツ指導者という立場での多様化されたスポーツ現場に対応しうる能力の一つとして、経営学的なものの考え方をもちこてるようになることがねらいである。また、本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	科目習得時には、スポーツ経営について論理的説明が可能となるよう、スポーツ経営の基礎を身につけることを目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。						◎		
56	体力の測定評価演習	2	体力の構造や各体力要素の測定方法の基本について理解し、実際に測定ができる能力を養育する。また、得られた測定結果を適切に評価し、それに基づいた運動処方やスポーツ指導ができる能力を身につける。	①形態測定の原理や方法を理解し、実際の測定ができる。②有酸素性および無酸素性能力の指標と測定方法を理解し、実践できる。③身体フィットネスと体力要素との関わりを理解し、実際に測定や評価ができる。④基礎統計を理解してデータを評価し、それに基づいた運動指導を行うことができる。						◎		
57	コーチング論	3	競技者を育成する高度な知識と効果的、計画的な指導法を学習する。また、継続的にスポーツを行う上で、勝利を目指すこと、今以上の技能の水準や記録に挑戦させることは当然ではあるが、大会で勝つことのみを重視し過重練習を強いることがないようにならざることを、競技者としての健全な心と身体を培い、人間性を育むためのバランスのとれたマネジメントと指導ができるようになる。	適切な指導体系、コミュニケーション能力の獲得などにより、競技者の意欲や自主的、自発的な活動を促すとともに、心理面についての科学的知見、言葉の効果と影響を十分に理解し、現場におけるコーチとしてスポーツ場面での問題解決能力と指導法を身につけることを目標とする。							◎	
58	健康・スポーツカウンセリング	3	人間の家庭・学校・社会的側面から、多様な性格、行動パターンについて理解させ、豊かな人格をつくり上げていく過程を系統的に学習する。	心の健康について理解し自己コントロール能力を修得する。	◎							
59	生活習慣病論	3	病気、健康、体力の概念から健康づくりにおける運動の意義を理解する。生活習慣病の予防や、高齢化社会における健康管理など健康と運動を結びつけその効果を理解する。さらに安全に運動を行うためのメディカルチェックも学ぶ。	病気、健康、体力の概念から健康づくりにおける運動の意義を理解する。生活習慣病の予防や、高齢化社会における健康管理など健康と運動を結びつけその効果を理解する。また指導者として、安全に運動を行うためのメディカルチェックも学ぶ。健康について病気、健康、体力の各面から、健康を成立させる因子、阻害する因子を理解する。メタボリック症候群などの生活習慣病を具体的に学ぶ。さらに、健康の維持・増進に必要な方法について健康と運動の関係を中心に具体的に学ぶ。	◎							
60	運動処方	2	現代生活の利便性により身体活動量の低下が健康問題に大きな影響を与えるようになった。そこで年齢や身体を考慮し、多々の対象者の健康の保持・増進、体力向上のための運動処方プログラムが立案できる知識を学習する。	スポーツマンの体力向上や健康の維持・増進のために実践するトレーニングや身体活動は、年齢、性差、運動経験、体力レベルの違いにより、その処方の内容を考慮しなければならない。そこで各種トレーニングや身体活動を理解し適切な運動処方がプログラムできる知識と能力を習得することを目標とする。		◎						

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性					
					1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2				
61	フィットネス指導法	3	個々人の心身の状態に応じた、安全で効果的な運動について理解し、自ら見本を示せる実技能力と個人および集団に対する運動指導能力を身につける。また、運動の継続を支援するコミュニケーション能力の獲得を目指す。	運動指導に必要な解剖学的知識、健康づくりを目的とした運動指導に関する方法論、運動指導に必要とされるコミュニケーションスキル、および運動継続を支援する動機づけスキルの修得を目標とする。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○		
62	介護法・介護予防演習	3	日本では現在少子高齢化が進み、介護の必要性はますます高まっている。介護の知識は将来役立つ知識であり、家族のためにもなる。介護予防の考え方、介護方法、障害を持っている人の機能回復を考慮した介護について理解を深める。介護の対象者は高齢者、脳血管障害、下肢の骨折とし、リハビリテーション、体力測定、評価、運動、介護の実践について理解する。	介護の対象者は高齢者、脳血管障害、下肢の骨折とし、リハビリテーション、体力測定、評価、運動、介護の実践について理解する。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○		
63	運動療法演習	4	メディカルチェック、健康診断結果、生活習慣病患者を学び、運動プログラムの作成と管理を学ぶ。運動負荷方法を学ぶ。	メディカルチェック、健康診断結果、生活習慣病患者を学びメタボ健診などができるように。運動プログラムの作成と管理を学び、運動負荷方法を学んで運動指導のための基礎知識を得る。心電図の記録法、血圧、脈拍の測定、方法、意義を理解し、運動指導の意義を理解する。メディカルチェックや健康診断結果の解釈。疾患患者の運動プログラム作成上の注意点を理解する。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○		
64	健康行動科学・演習	4	健康を行動の側面から理解し、人の健康に関する行動の変容と維持について、筋道を通して考える知識を身につける。また、望ましい健康行動を支援するコミュニケーション能力の獲得を目指す。	健康行動の変容と維持に関する行動科学の理論・モデルを理解し、その理論・モデルを応用した健康行動変容プログラムの作成方法の修得を目標とする。	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○		
65	健康・スポーツ実践実習	4	指導現場における健康・体力づくりやスポーツの指導は単に技術指導だけでなく、諸問題が伴うものである。学内では解決できない実践的な学習課題を社会に出て実習し、指導現場の実情を把握すること、問題解決の実践力を養うことを目的とする。	少子・超高齢社会を健康で活力あるものとしていくためには、単に病気の早期発見や治療にとどまらず、健康を増進し、発病を予防する「一次予防」を重視すること、生活の質を高めることにより、実り豊かで満足できる生涯づくりを目指す人々を多くすることが重要である。適切な運動プログラマーを構成する能力と自ら見本を示せる実演能力を併せ持った健康運動指導者をひとりでも多く輩出する。	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○		
66	レクリエーション論	2	指導者を志すわれわれにとって必要なレクリエーションに関連する原理、心理、運動論、指導論、組織論、企画論、グループワーク論等の基礎理論を学習する。	コミュニケーション・ワークの援助を中心としたレクリエーション指導ができるよう、科目的に記載したレクリエーションに関する理論の基礎を理解する。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○		
67	レクリエーション指導法演習	3	参加者が気持ちよく参加できるよう支援者としての対応の仕方や表現力を身につけるため、コミュニケーション・ワークの技法を学ぶ。	参加者の意欲を引き出し、「できる」「続けたい」「楽しい」という気持ちを引き出す方法を学ぶ。また、活動の内容を理解し、楽しく技術提供（指導）ができるよう学習する。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○		
68	レクリエーション指導法実習	3	多様なレクリエーション活動・種目があることを理解し、他人に指導できるよう学習する。	活動のねらい・ルールを理解し、技術を身につける。それと同時に、活動・種目の内容を理解し、提供する（指導する）ことができるよう学習する。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○		
69	障がい者スポーツ論Ⅰ	3	障がい者にスポーツを指導する場合には、障害についての基礎知識を持ち、なおかつスポーツ指導についての知識と技能を身につける必要がある。この授業では障がい者のスポーツ振興に必要な基本的知識を理解し、身近な障がい者のスポーツ活動を支援できる能力を身につけることを目的とする。	障害についての基本的な知識を身につけることができる。障がい者のスポーツの捉え方、歴史、組織、競技・種目、ルール等を理解することができる。障がい者の生活、障がい者のスポーツ活動を通して、社会のあり方について考えることができる。障がい者に対してスポーツやレクリエーションの指導を行うための基本的な知識を身につけることができる。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○		
70	障がい者スポーツ論Ⅱ	4	障がい者にスポーツを指導する場合には、障害についての基礎知識を持ち、なおかつスポーツ指導についての知識と技能を身につける必要がある。この授業では各種障害を理解すること、また、障がい者へのスポーツの指導法を理解することを目的とする。	各種障害についての知識を身につけることができる。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○		
71	障がい者スポーツ指導法	4	障がい者にスポーツを指導する場合には、障害についての基礎知識を持ち、なおかつスポーツ指導についての知識と技能を身につける必要がある。この授業では障がい者が目頃視しているスポーツ・レクリエーションを実践し、その指導の要点を理解することを目的とする。	車椅子バスケットボールなど、障がい者の親しんでいるスポーツのルールや指導の留意点を理解することができる。障がい者に対してスポーツやレクリエーションの指導を行うための基本的な知識を身につけることができる。スポーツ指導における「工夫すること」の重要性を考慮することができる。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○		
72	スイミング	1	スイミングでは、基礎泳法を修得することで、記録の向上や競争の楽しさを味わい効率的な泳ぎを身につけられるようになる。さらに授業実践を通じて安全管理についても学習することを目的とする。本科目は、中高教科保健体育におけるスイミング分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。	スイミングでは、クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの4泳法の基礎技術と各泳法のスタート、ターンを修得し、100m個人メドレーを完泳することを目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	
73	トラックアンドフィールド	1	受講生が、記録測定の正しい方法と実技中の安全対策を学修するとともに、技能向上に積極的に取り組み、記録挑戦や競争への楽しさや喜びを体感することを期待する。本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。	本授業の到達目標は以下の3点とする。①受講生自身が教習現場で見本をみられるよう、各種目の基本および効率の良い動きを身につけることができるようにする。②陸上競技のルールやマナーを理解し記録測定を正確に実施できるようにする。③陸上競技各種目の技術の名称や特有の動きのポイント、体力の高め方、運動観察の方法を理解するとともに、安全性に配慮できるようにする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	
74	体操	1	体操は徒手体操をはじめ体づくりや動きづくりの基本を通して自己の健康・体力を維持増進しようとする運動である。また、学習指導要領の体ほぐしの運動と体の動きを高める運動では、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを継続する能力を高めることなど、種々のスポーツにおいて欠かすことができない動きの習得を目指し、授業では身体の基本的動作や創作能力や実践能力を養う。本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。	指導者として師範できるストレッチ、ラジオ体操第一および第二、異操作等を習得する。また、体づくり運動で実施される種々の動きを実践し習得する。獲得した知識・技能・態度を、指導者として生徒の健康・維持増進に貢献できる資質に身につけることが目標である。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○
75	器械運動	2	1. 学校体育で取り扱われる器械運動領域について理解させる。 2. 学習指導要領で取り上げられている技を習得させる。 3. 運動観察力を高め、生徒の運動を評価できる能力を身につけさせる。 本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。	教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。また、学習指導要領に示されている「技」を取り上げ、その演習ができるようになる。また、段階指導法を学ぶことで、器械運動の練習方法の原則についても理解し、基本的な器械運動の「技」の指導が行えるようになる。授業内で成功体験をし、達成感を味わうことでスポーツの楽しさや価値を体感する。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性			
					1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2		
76	バレーボール	1	6人制バレーボール、9人制バレーボール、ソフトバレーボール、ビーチバレーボールとして多くの国民に親しまれているバレーボール。将来指導者としての基礎的知識習得とゲームづくりについて学ぶ。 本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	まず、個人的な基本的技能については、自ら、指導者として見本が見せることのできる能力を最低限として習得する。また、ゲームを構成させるための組み立てや応用技術の習得、審判を含め競技会の運営能力を習得する。さらに、教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
77	バスケットボール	1	本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 バスケットボールは、現在我が国で最も盛んなスポーツの一つであり、中学校および高等学校の保健体育科の中にゴール型球技として含まれる代表的なスポーツ種目である。この科目は、バスケットボールの基本的な技術・戦術の習得はもちろん、初心者に対する指導法、ゲームの審判法および運営法などを習得することを主な目的としている。	教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 <知識・理解> バスケットボールの基礎知識 ルールと審判法の理解 初心者指導における留意点の理解 ゴール型球技における攻撃の原則の理解 <技能> バスケットボールの基本技術・基本戦術 審判法への運営法 初心者への指導法 <態度・志向性> チームワーク 積極的な「コツ」の受け渡し <総合的な学習経験と創造的思考力> グループの技術的課題や戦術的課題を、熟練者がリーダーとなりチームで解決する能力	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	
78	ハンドボール	2	ハンドボールにおける指導法や審判法を習得することを目的とする。 また、本科目は、中高教科保健体育におけるハンドボール分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	「技術・戦術理論」 ボールを使ったコーディネーションスキル 様々なパス・シュートの技術（主にジャンプシュート） 1対1の攻防スキル 攻撃におけるグループ戦術およびチーム戦術 防衛におけるグループ戦術およびチーム戦術 「指導理論」 ボールゲームにおけるウォーミングアップの方法論 ゲームを中心とした、減算式指導法の考え方 ハンドボールの技術指導の考え方、コツ 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	◎	○	○	○	○	○		
79	柔道	3	本科目は、中高教科保健体育における柔道分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	科目修得時には、受身、投技（手技・腰技・足技）、固め技（胸方・逃げ方）が身につくことを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	
80	剣道	2	本科目は、中高教科保健体育における剣道分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	日本独自の伝統文化である剣道を正しく伝え、相手の人格を尊重し、心豊かな人間の育成のために礼法を重んじ、基本動作を習得させ、対人的技能の向上を図ると共に、互いが信頼できる人間関係を築かせるとともに、剣道を通して明朗で心豊かな人間の育成を目標とする。 また、教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	
81	ダンスⅠ	1	学習過程では個性の育成や仲間との活動を通して仲間とのコミュニケーション能力を高め、伝承されてきた踊りやリズムによって全身で楽しむことを通じ自己表現の技能の獲得を目指す。 また、本科目は、中高教科保健体育におけるダンス分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	各自が「現代的リズムのダンス」を自分の言葉で説明できるようにする。 「踊る喜び」を自分のからだだけで他人に伝えることができるようにする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	
82	ダンスⅡ	1	ダンスは身体的、情緒的、知的に自己表現ができる身体によるボディランゲージである。そのため個々の創造的な能力や仲間とのパーソナリティ開発を深めるその教育的価値についても理解する。 また、本科目は、中高教科保健体育におけるダンス分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	テーマ（課題）からイメージする動きを身体で表現する能力（スキルや表現力）等を個人レベルで獲得することを目標とする。グループワークでは、作品を作り上げていく活動の中で、自己能力の思考開示や他者への理解を深め、互いの能力を認め合い、問題解決まで協調・協力し努力していく態度を養う。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	
83	ダンスⅢ	2	コンテンポラリーダンスは多様な音楽を使い、独創性の高いジャンルである。個人技能の獲得と身体のコミュニケーション能力を高める。 本科目は、中高教科保健体育におけるダンス分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	ダンス技術の向上と作品創作のための基礎的知識を学ぶ。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	
84	卓球	4	生涯スポーツのひとつとして国民に広く親しまれている卓球の特性と魅力にふれ、生涯にわたって、地域や職場等において家族や友人などとともに卓球を楽しむことのできる基礎的知識や初歩的なゲームのできる能力の習得をねらいとする。 本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	卓球の基礎的技術を習得し、楽しく試合ができることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	
85	バドミントン	4	基本的な練習を通して、個人の技能を高め、仲間と協力して授業を形づくっていくことで、自ら主体的に行動し、そして協調性豊かな学生と成長していくことを期待したい。 本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	バドミントンの基礎的技術を習得すると共に、楽しくゲームができることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	
86	保健体育科指導法Ⅰ	1	保健体育の領域の構成・内容と指導法の基礎的知識と理解。	①保健体育における教育の歴史を学び、自身の指導に取り入れることができる。②子どもの体に生じている問題を知り、その解決の仕方を説明することができる。③保健体育における実践研究の動向を知り、先行実践の成果と教訓に学ぶ。	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	
87	保健体育科指導法Ⅱ	2	「保健体育」の授業を具体的に構想し実施するための方法論（授業づくりの基本的視点から、具体的な教材づくり、指導方法に及ぶ）、受講生各自が獲得する。	学生は、下記目標に到達することにより、教職実践力を構成する授業力および指導力を高める。 ①実際の体育の授業場面を想定して、ねらいや対象に応じた教材づくりができる。②さらに、授業展開ができる。	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	
88	保健体育科指導法Ⅲ	2	1. 様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、当該教科の授業を構築する力を身につける。 2. 当該教科を教授する際に必要となる教材活用の理論と方法について学ぶ。	①生徒の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。②当該教科の特性に応じた教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。③学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
89	保健体育科指導法Ⅳ	3	保健体育の授業づくり。	①学習指導要領（保健体育）の目標及び運動領域ごとの内容並びに全体構成が説明できる。②各運動領域の学習内容について指導上の留意点を理解している。③保健体育と背景となる運動文化との関係を理解し、教材研究に生かすことができる。	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	
90	保健体育科指導法（体づくり運動・器械運動）	2	保健体育授業において「体づくり運動・器械運動」領域を指導するための資質・能力を修得することを目的とする。	①「体づくり運動・器械運動」領域の特徴に応じた単元計画・指導案の作成方法を理解し、立案することができる。②模擬授業を通して「体づくり運動・器械運動」領域特有の実践的指導力（課題の提示・示範・助言・段階的指導・教えあいの指導など）を高める。③「体づくり運動・器械運動」領域における安全対策に関する理解を深め、適切な授業環境を作り出すことができる。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目									
					○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性			
1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2							
91	保健体育科指導法（陸上競技・水泳）	2	保健体育授業において「陸上競技・水泳」領域を指導するための資質・能力を修得することを目的とする。	①「陸上競技・水泳」領域の特徴に応じた単元計画・指導案の作成方法を理解し、立案することができる。②模擬授業を通して「陸上競技・水泳」領域特有の実践的指導力（課題の提示・示範・助言・段階的指導・教えあいの指導など）を高める。③「陸上競技・水泳」領域における安全対策に関する理解を深め、適切な授業環境を作り出すことができる。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	
92	保健体育科指導法（球技）	2	保健体育授業において「球技」領域を指導するための資質・能力を修得することを目的とする。	①「球技」領域の特徴に応じた単元計画・指導案の作成方法を理解し、立案することができる。②模擬授業を通して「球技」領域特有の実践的指導力（課題の提示・示範・助言・段階的指導・教えあいの指導など）を高める。③「陸上競技・水泳」領域における安全対策に関する理解を深め、適切な授業環境を作り出すことができる。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	
93	保健体育科指導法（武道・ダンス）	3	保健体育授業において「武道・ダンス」領域を指導するための資質・能力を修得することを目的とする。	①「武道・ダンス」領域の特徴に応じた単元計画・指導案の作成方法を理解し、立案することができる。②模擬授業を通して「武道・ダンス」領域特有の実践的指導力（課題の提示・示範・助言・段階的指導・教えあいの指導など）を高める。③「武道・ダンス」領域における安全対策に関する理解を深め、適切な授業環境を作り出すことができる。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	
94	エアロビクダンス	1	健康・体力づくりを目的としたエアロビク運動（エアロビクダンス）について、その特徴や運動内容、実施上の環境や注意点を理解する。また、基本動作、正しい身体の使い方や振り付け方法を習得した上で、目的に応じたプログラムの作成能力と実践力、および指導力を養う。	エアロビクダンスにおける基礎的な知識を理解した上で、正しいアライメントによる安全かつ効果的な動作の技術能力を獲得する。また対象者や目的に応じたプログラムの構成や指導法をグループワークにより習得する。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	
95	アクアエクササイズ	3	健康・体力づくりを目的としたアクアエクササイズについて、その特徴や運動内容、実施上の環境や注意点を理解する。また、基本動作、正しい身体の使い方や振り付け方法を習得した上で、目的に応じたプログラムの作成能力と実践力、および指導力を養う。	アクアエクササイズにおける基礎的な知識を理解した上で、正しいアライメントによる安全かつ効果的な動作の技術能力を獲得する。また対象者や目的に応じたプログラムの構成や指導法をグループワークにより習得する。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	
96	マリンスポーツ実習	1	アウトドアスポーツのひとつとして、マリンスポーツ実習は自然とのかかわりの中で自然に対する知識や実習の計画方法、事故防止策について学び、指導者として必要な身体活動・安全管理の基礎的な知識や技術を学習する。	自然の中で行われる実習の計画方法や健康管理を理解し、安全に実習することができる。	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	
97	キャンプ実習	2	キャンプの幅広い教育効果を理解するよう体験学習し、指導的立場からの企画立案を実習する。本実習の目的は、大自然の中で共同生活を通して、野外での諸活動を修得することである。	①自然の中で集団的、自律的・自主的・自発的に生活することによって自己を見つめ、真の協力・共同の生活を体験する。②キャンプ生活の技術を学びつつ、諸活動（ブレイクタイム）を通して自分の体力や精神力を鍛える。③将来、キャンプを指導する立場に置かれたとき、企画立案することができ、運営指導ができる。	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	
98	スノースポーツ実習	2	1. スポーツ指導者として必要なスキーの運動特性、技術、指導法を修得し、生涯スポーツとしてのスポーツの在り方を学習する。 2. 自然に対する知識や事故の防止策等について学びながら、指導者として必要な計画立案・運営指導の能力を身につける。 3. 団体生活・団体行動を通じて、その態度を養う。	①スポーツ指導者として必要なスキーの運動特性、技術、指導法の修得。②生涯スポーツとしてのスキーに関する知識の修得。③自然に対する知識やスキー・スノーボード事故の防止策の修得。④スキー実習の実施に必要な計画立案・運営指導能力の修得。⑤団体生活・団体行動を通じて、規律ある態度および行動規範の修得。	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○
99	健康・スポーツ科学の統計学演習	3	健康・スポーツ科学に関する卒業論文の作成のために、実験や調査で得られるデータを正しく分析・解釈できる実践的な能力を身につける。また、データが語りかけているものを感じるとる能力の洗練を目指す。	統計学的基礎知識および健康・スポーツ分野における統計学の活用方法の理解、Excel統計の基本操作およびアンケート調査のデータ処理方法の習得を目標とする。	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	
100	卒業研究Ⅰ	3	健康・スポーツ科学に関わる諸科学の研究領域と研究方法について、体系的な認識を持ち、そのことを通した問題を設定し、その解決のための方法論を身につけることを目的とする。	自分の所属するゼミにおいて、健康・スポーツ科学に関わる問題発見、問題提起、問題解決の方法を学び、卒業研究Ⅱへの導入を目標とする。具体的なテーマ、研究方法等について絞り込むことができる。	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	
101	卒業研究Ⅱ	4	3年次に学んだ健康・スポーツ科学の専門領域にふさわしい手法を使って、卒業論文、実践研究、教材研究を行い、それぞれの完成形である論文発表、研究発表に導く能力を身につけることを目的とする。	テーマに基づく研究を進め、研究論文、実践研究、教材研究という形式で成果物の提出を行い、研究発表会にて発表することができる。	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	

履修モデル① 【スポーツビジネス関連企業で活躍する人材育成モデル】

	1 年次				2 年次				3 年次				4 年次				単位			
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期		小計	必要数	卒業算入	
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位				
共通教育科目	基礎教養科目群 ジェンダー科目群 キャリアデザイン科目群 言語・情報科目群 健康・スポーツ科目群																8	8	8	
基礎教育科目	初期演習Ⅰ	1	初期演習Ⅱ（スポーツマネジメント）	1													2	8	12	
	健康・スポーツ科学論	2															2			
	スポーツの文化・歴史	2															2			
	情報リテラシー	2															2			
	基礎英語Ⅰ	1	基礎英語Ⅱ	1	oral communicationⅠ	1	oral communicationⅡ	1									4			
学科専門教育科目	外国語科目 ※ 履修方法・要件に従い共通教育科目・基礎教育科目と合わせて必要単位数以上を修得								専門英語A	1	専門英語B	1					2	8	61	
	海外のスポーツビジネス研究																2			2
	分野共通科目	スポーツビジネス論	2	スポーツマネジメント論	2	スポーツマーケティング論	2			卒業研究Ⅰ		2	卒業研究Ⅱ		4	6				
		スポーツ産業と政策	2	スポーツビジネス最前線	2			スポーツマネジメント学内演習	2			スポーツマネジメント学外実習	1			スポーツインノベーション論	2			10
	スポーツマネジメント分野科目					スポーツガバナンス論	2	経営組織論	2			トップスポーツ経営論	2	ヘルスケアマネジメント論	2		8			
						地域スポーツマネジメント論	2							ヒューマンリソースマネジメント	2		4			
	スポーツビジネス分野科目	アカウントティングⅠ	2	アカウントティングⅡ	2	ファイナンシャルマネジメント	2										6			
						ホスピタリティマネジメント論	2			実務技能対策論	2	スポーツ施設マネジメント論	2				6			
	スポーツマーケティング分野科目								スポーツイベントの企画・運営	2	消費者行動論	2	スポーツ・ヘルスツーリズム論	2			6			
											販売管理論	2	マーチャンダイジング	2			4			
学際共通専門教育科目	健康・スポーツ基礎実技科目 ※ 履修方法・要件に従い必要単位数以上を修得	スイミング	1	トラックアンドフィールド	1			剣道	1			柔道	1	卓球	1	バドミントン	1	6	6	
		体操	1	器械運動	1													2		
				バレーボール	1	ハンドボール	1											2		
				バスケットボール	1													1		
				ダンスⅠ	1	ダンスⅡ	1	ダンスⅢ	1									3		
			マリンスポーツ実習	1			キャンプ実習	1	スノースポーツ実習	1								3		
	健康・スポーツ科学基礎科目	運動器の解剖と機能	2	体育原理	2	スポーツ経営管理学	2	スポーツ行政・法規	2									8		
		運動生理学	2	スポーツ運動学	2	スポーツ医学	2	スポーツ指導論	2									8		
		救急処置演習	1				スポーツ栄養学	2	スポーツトレーニングの科学	2	コーチング論	2						7		
		スポーツ心理学	2				バイオメカニクス	2	スポーツ社会学	2								6		
							体力の測定評価演習	2									2			
						エアロビックダンス	1			アクアエクササイズ	1						2			
								レクリエーション論	2	レクリエーション指導法実習	1	レクリエーション指導法実習	1				4			
												障がい者スポーツ論Ⅰ	2	障がい者スポーツ論Ⅱ	2	障がい者スポーツ指導法	2	6		
												健康・スポーツ科学の統計学演習	1				1			
小計		25		20		22		21		13		15		7		11	142	125	125	
単位	修得可能単位数		16~25	10~25	9~25	9~25	9~25	9~25	9~25	9~25	10~25	10~25	4~25	4~25	6~25					

履修モデル② 【スポーツプロモーションに携わる人材育成モデル】

	1 年次		2 年次				3 年次				4 年次				単位				
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期		小計	必要数	卒業算入
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位			
共通教育科目 基礎教養科目群 ジェンダー科目群 キャリアデザイン科目群 言語・情報科目群 健康・スポーツ科目群	※ 履修方法・要件に従い必要単位数以上を修得																8	8	8
基礎教育科目	初期演習Ⅰ	1	初期演習Ⅱ（スポーツマネジメント）	1													2	8	12
	健康・スポーツ科学論	2															2		
	スポーツの文化・歴史	2															2		
	情報リテラシー	2															2		
	基礎英語Ⅰ	1	基礎英語Ⅱ	1	oral communicationⅠ	1	oral communicationⅡ	1									4		
学科専門教育科目 外国語科目 ※ 履修方法・要件に従い共通教育科目・基礎教育科目と合わせて必要単位数以上を修得	海外のスポーツビジネス研究																2	2	8
											卒業研究Ⅰ		2	卒業研究Ⅱ		4	6		
	分野共通科目	スポーツビジネス論	2	スポーツマネジメント論	2	スポーツマーケティング論	2			スポーツ情報・メディア論	2			スポーツイノベーション論		2	10	45	
		スポーツ産業と政策	2	スポーツビジネス最前線	2			スポーツマネジメント学内演習	2			スポーツマネジメント学外演習	1			7			
	スポーツビジネス分野科目	アカウンティングⅠ	2	アカウンティングⅡ	2	ファイナンシャルマネジメント	2								6				
				ホスピタリティマネジメント論	2			実務技能対策論	2	スポーツ施設マネジメント論	2			6					
	スポーツマーケティング分野科目							スポーツイベントの企画・運営	2	消費者行動論	2	スポーツ・ヘルストウリズム論	2			6			
									販売管理論	2	マーチャンダイジング	2			4				
	学部共通専門教育科目 健康・スポーツ基礎実技科目 ※ 履修方法・要件に従い必要単位数以上を修得	スイミング	1	トラックアンドフィールド	1		剣道	1			柔道	1	卓球	1	バドミントン	1	6		6
		体操	1	器械運動	1												2		
			バレーボール	1	ハンドボール	1										2			
			バスケットボール	1												1			
			ダンスⅠ	1	ダンスⅡ	1	ダンスⅢ	1								3			
			マリンスポーツ実習	1		キャンプ実習	1	スノースポーツ実習	1							3			
健康・スポーツ科学基礎科目 (スポーツプロモーション関連)	運動器の解剖と機能	2	体育原理	2	スポーツ経営管理学	2	スポーツ行政・法規	2	コーチング論	2					10	50			
	運動生理学	2	スポーツ運動学	2	スポーツ医学	2	スポーツ指導論	2	発達発達・老化論	2					10				
	救急処置演習	1			スポーツ栄養学	2	スポーツトレーニングの科学	2	健康・スポーツカウンセリング	2					7				
	スポーツ心理学	2			体力の測定評価演習	2	運動処方	2	生活習慣病論	2					8				
							スポーツ社会学	2							2				
			エアロビクダンス	1				アクアエクササイズ	1					2					
							レクリエーション論	2	レクリエーション指導法演習	1	レクリエーション指導法実習	1			4				
									障がい者スポーツ論Ⅰ	2	障がい者スポーツ論Ⅱ	2	障がい者スポーツ指導法	2	6				
									健康・スポーツ科学の統計学演習	1					1				
小計	25	20	16	21	19	13	3	11	136	125	125								
単位 修得可能単位数	12~25	10~25	5~25	7~25	9~25	8~25	4~25	8~25											

履修モデル③ 【人々のヘルスプロモーションに携わる人材育成モデル】

	1 年次				2 年次				3 年次				4 年次				単位				
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期		小計	必要数	卒業算入		
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位					
共通教育科目	基礎教養科目群 ジェンダー科目群 キャリアデザイン科目群 言語・情報科目群 健康・スポーツ科目群																8	8	8		
基礎教育科目	初期演習Ⅰ	1	初期演習Ⅱ（スポーツマネジメント）	1													2	8	12		
	健康・スポーツ科学論	2															2				
	スポーツの文化・歴史	2															2				
	情報リテラシー	2															2				
	基礎英語Ⅰ	1	基礎英語Ⅱ	1	oral communicationⅠ	1	oral communicationⅡ	1									4				
学科専門教育科目	外国語科目 ※ 履修方法・要件に従い共通教育科目・基礎教育科目と合わせて必要単位数以上を修得																		49		
	海外のスポーツビジネス研究																2	2			
	卒業研究Ⅰ																2	卒業研究Ⅱ		4	6
	分野共通科目	スポーツビジネス論	2	スポーツマネジメント論	2	スポーツマーケティング論	2			スポーツ情報・メディア論	2				スポーツイノベーション論	2		10			
		スポーツ産業と政策	2	スポーツビジネス最新動向	2			スポーツマネジメント学内演習	2			スポーツマネジメント学外実習	1					7			
	スポーツマネジメント分野科目					スポーツガバナンス論	2	経営組織論	2			トップスポーツ経営論	2	ヘルスケアマネジメント論	2		8				
						地域スポーツマネジメント論	2							ヒューマンリソースマネジメント	2		4				
	スポーツマーケティング分野科目							スポーツイベントの企画・運営	2	消費者行動論	2	スポーツ・ヘルスツーリズム論	2					6			
										販売管理論	2	マーチャンダイジング	2					4			
	学部共通専門教育科目	健康・スポーツ基礎実技科目 ※ 履修方法・要件に従い必要単位数以上を修得																			6
スイミング		1	トラックアンドフィールド	1			剣道	1			柔道	1	卓球	1	バドミントン	1	6				
体操		1	器械運動	1													2				
			バレーボール	1	ハンドボール	1											2				
			バスケットボール	1													1				
			ダンスⅠ	1	ダンスⅡ	1	ダンスⅢ	1									3				
			マリンスポーツ実習	1			キャンプ実習	1	スノースポーツ実習	1							3				
スポーツ科学基礎科目 (ヘルスプロモーション関連)		運動器の解剖と機能	2	体育原理	2	スポーツ医学	2	スポーツトレーニングの科学	2	発育発達・老化論	2	フィットネス指導法	2	運動療法実習	2		14				
		運動生理学	2		スポーツ栄養学	2	運動処方	2	健康・スポーツカウンセリング	2	介護法・介護予防演習	2	健康行動科学・演習	2		12					
		救急処置演習	1		バイオメカニクス	2	スポーツ社会学	2	生活習慣病論	2			健康・スポーツ実践実習	1		8					
	スポーツ心理学	2			体力の測定評価演習	2									4						
			エアロビックダンス	1					アクアエクササイズ	1					2						
							レクリエーション論	2	レクリエーション指導法実習	1	レクリエーション指導法実習	1			4						
											障がい者スポーツⅠ	2	障がい者スポーツⅡ	2	障がい者スポーツ指導法	2	6				
											健康・スポーツ科学の統計学演習	1			1						
小計	23	14	18	17	15	19	12	11	137	126	126										
修得可能単位数	14~25	6~25	7~25	7~25	7~25	10~25	4~25	8~25													

実習受入承諾書

令和4年1月17日

武庫川女子大学

学長 瀬口 和義 様

武庫川女子大学附属中学校高等学校

校長 藤森 陽子

教員免許状授与の所要資格を得させるための課程認定の上は、本校において教育実習を受け入れることは差し支えありません。

実習校の現況

以下について、令和3年5月1日現在でご記入ください。

記入日 令和 4 年 1 月 17 日

学校名 武庫川女子大学附属中学校高等学校

所在地住所 兵庫県西宮市枝川町4番16号

電話番号 0798-47-6436

(学級数・生徒数・教員数の内訳・実習受入可能人数)

・中学校学級数 15 学級

生徒数 493 人

教員数 39 人

教員数内訳 (教諭27人)、(助教諭6人)、(講師5人)、
(養護教諭0人)、(養護助教諭1人)、(栄養教諭0人)

実習受入可能人数 9 人

・高等学校学級数 21 学級

生徒数 769 人

教員数 62 人

教員数内訳 (教諭45人)、(助教諭7人)、(講師9人)、
(養護教諭1人)、(養護助教諭0人)、(栄養教諭0人)

実習受入可能人数 6 人

以上

教 育 実 習

ハ ン ド ブ ッ ク

(中 学 校 実 習 用)
(高 等 学 校)

武 庫 川 女 子 大 学
武庫川女子大学短期大学部

目 次

〔はじめに〕	1
I 教育実習の意義と目的	2
1 教職の理念	2
2 教育実習の意義	2
3 教育実習の目的	3
4 教育実習の内容	3
II 教育実習生の心得	5
1 実習生の心構えと態度	5
2 実習上の留意点	5
3 実習生の勤務	7
III 教育実習の方法	8
1 実習のはじまり	8
2 学習指導の実際	8
3 生徒指導の実際	12
4 実習のおわりに	15
IV 教育実習の記録	15
1 実習記録作成上の留意点	15
2 教育実習記録の書き方	16
3 実習記録の提出と成績評価	19
4 「教職課程履修カルテ」の入力について	20
〔おわりに〕	21

[は じ め に]

----- 本学における教員養成の理念 (学校教育センターHP「教員養成の状況について」より) -----

- (1) 学院立学の精神に立脚した教職実践力を体し、グローバル化する社会の新しい要請に応えるとともに日本国憲法・教育基本法・学校教育法等に規定されている教育理念とそのシステムを実践的に支え、次代を担う子ども達にその自立へ向けて“自他ともに学びあい・生かしあう力”を育むことのできる「幼稚園・保育所(園)・認定こども園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員(保育士・保育教諭・栄養教諭を含む)」の養成を社会的使命として遂行し、人・家庭・社会に貢献できる人材を育成する。
- (2) 学院立学の精神に立脚した教職実践力とは、“高い知性”と“善美な情操”と“高雅な徳性”とを兼ね備え、これらの資質・能力を幼児・児童・生徒等に対して、それぞれの学校教育段階において創造的に育むことのできる教員としての実践力である。
- (3) 上記(1)(2)に示す本学教員養成の理念の具現化へ向けて、学院立学の精神はじめ教育綱領・教育目標・教育推進宣言について理解を深めるとともに、自立した教員を送り出すべく、女子総合学院の特質を生かし、“未来を担う子ども達の主体性・論理性・実行力を培う”教員の養成を「一貫して」推進する。その実質的具現化のため、これらの養成に携わる全教職員は、一致団結して改革・改善に取り組む。

- 1 このハンドブックは、教育実習のための手引きであり、教育実習の全般にわたって、最小限度、実習生が心得ていなければならないと思われる事項について解説するものである。
- 2 教育実習は、教員免許状を取得するための必修の教職科目であり、大学の教職課程の一環として位置づけられるものである。教育実習を受けてくださる実習校教員のご指導のもと、実習校の生徒らの協力によって、はじめて実施可能となる。実習生は、この貴重な機会に最大限の努力を傾注しなければならない。
- 3 教育実習は各実習校(教育委員会)に対して大学が依頼し、その承諾によって成り立つ。実習生は、必ず指定された実習校・実習期日で実習を行い、実習においては各実習校の指導方針に従わなければならない。実習に不熱心であったり、実習生としてふさわしくない行為があったときには、実習期間中であっても実習当該校長からその実習許可の取り消しを命ぜられることがある。
- 4 実習生は各自、本学所定の「教育実習の記録」(別冊)を使用し、実習校で実習した内容等の全般にわたって記録を作成し、実習校に提出して点検・評価を受けた後、定められた日に学校教育センターに提出して本学教員の点検を受けなければならない。
- 5 教育実習では、終始、武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学部の学生であるという自覚をもって、責任ある言動をとらなければならない。一人ひとりの行動や言動が、すべて本学教育の反映として評価されることを忘れてはならない。

実習中は、謙虚さをもって誠心誠意努力することが重要である。そのような学びの姿勢が、実習校の校長先生、教頭先生、諸先生方はもちろん、生徒からも多くのことを学ぶことにつながる。

教育実習を通して生涯のすばらしい糧を得ることを心から期待している。

I 教育実習の意義と目的

短い期間の実習であっても**実習生が行う指導の適・不適は、直接、生徒の人格形成に甚大な影響を及ぼす**ことになる。したがって、実習生は教育実習に当たって、まずその意義と目的をしっかりと心に銘記しておかなければならない。

1 教職の理念

教育とは本来、知識や経験の伝達を媒介として、被教育者の内から発展するものを助け育てつつ、それを生活と学習の両面において、より望ましい方向に教え導く作用を意味している。学校教育において、この重要な役割を担っているのは教員である。教員の仕事は、多様な個性をもつ生徒に直接働きかけて、全人格の発達を図るとともに、激変する社会に適応し新しい生き方を創っていく実践的能力を育成するという、きわめて責任の重い仕事である。教員の良し悪しが教育の成果を左右することを思えば、その仕事の遂行に必須の資質を豊かに備えていることが求められる。教員に要請される必須の資質として、次の3点を概略するので実習生と読み替えて参考にしてほしい。

まず第1に、教員は教育者としての使命感、深い教育愛と人間愛に支えられていなければならない。教員が豊かな人間味と人間に対する純粋な愛をもって教育に当たることによって、はじめて生徒を正しく指導できる。生徒を愛し、信頼して、生徒に打ち込む情熱と、意欲と、広やかな人間性の持ち主であってこそすぐれた教員と言い得るのではなからうか。

第2は、教育者としてしっかりした教育観をもち、教える内容に関する専門的な学識と指導技術をもつことである。教員に求められるのは、これらの専門的学識や技術を、生徒のそれぞれの発達段階の学習にいかに関節させ、人格的統合をはかっていくか、ということである。そのために、生徒の成長発達や思考・行動の特質、興味や能力の違い、現実の生活経験や地域社会の要求等について、深い理解をもつことが必要である。教員の指導技術の力量は、教員が生徒をどのようにとらえ、教育をどのように考えているかという教育観に支えられているものである。生徒を見つめ、その一人ひとりについて理解しようとする熱意と、生徒に向かって開かれた寛大な心がなければならない。教員には、深い洞察力、的確な判断力および豊かな創意工夫の能力を磨くことが求められる。ILO・ユネスコの「教員の地位に関する勧告」は、「厳しい継続的な研究を経て獲得され、維持される専門的知識と及び特別な技術」*を要求し、教育公務員特例法も、「その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない」(第21条)と規定している。

第3に、教員は公共性の高い職務に携わる公務員であり、全体の奉仕者であるという自覚をもっていなければならない。子どもは教育を受けることによって、はじめて人間らしく生き発展するための諸権利を得ていくことができる。したがって、子どもの教育を受ける権利を中心におき、これを保護者、教員、国、社会が守り育てていくことが教育の根幹であるといえよう。教員はその中心的存在であり、国民全体に対し直接責任を負って、その職責の遂行に努めなければならない。

*文部科学省HP「教育に関する主な国際条約・宣言・勧告等」ユネスコ「教員の地位に関する勧告(1965)(抄)」

2 教育実習の意義

教育実習は、将来、教員になろうとするものが、一定の期間、実習校において、教員として必要な多くの事柄を、実地に学びとろうとするものである。すなわち、高度の学識技能を修得するに止まらず、生徒を指導しその資質能力を開発するための技術の修習が必要である。また、生徒を愛し、生徒のために奉仕しようとする教育愛をもつことも欠くことはできない。資質能力が異なり、生活経験や環境を異にする生徒を指導することは、学問研究の上に生徒に直接触れる経験を積み重ねなければで

きることはない。ここに、教員養成における教育実習の重要性がある。

教育実習を履修するに当たり、実習生はあらかじめ次の諸点について十分に認識しておくことが必要である。

- (1) 実習生は少くとも次の5つの要件を備えて実習に臨むようにしなければならない。
 - ア 将来教職に就くという強い意志をもっていること。
 - イ 原則として、教員採用選考試験を受験すること。
 - ウ 常に人格を磨き、誠意と情熱をもち、実習に取り組むこと。
 - エ 大学は「教育実習Ⅰ（中高）・Ⅱ（中高）」、短大は「教育実習Ⅰ（中）・Ⅱ（中）」の履修要件を満たすこと。
 - オ 「教育実習事前ガイダンス」に出席すること。
- (2) 実習生は、本ハンドブックで述べられている事項を基礎として実習校の方針に従い、綿密な計画と十分な準備の下に実習を行わなければならない。教材研究の不足や、実習意欲の不十分さのために、指導内容を誤ったり、不適切な言動をとることなどがないように十分注意しなければならない。
- (3) 実習指導教員は、多忙な中、実習生の教材研究や学習指導案の点検・指導をはじめ、指導授業、指導講話、実習授業後の研究会等きわめてご苦労が多い。また、実習授業等における過誤や不手際を補足修正することも必要となる。実習生はそのことを十分認識し、感謝の念をもち、格段の努力を払うことが必要である。

3 教育実習の目的

教育実習の目的は、「実習校において生徒との接触を通じ、教員たるに必要な基盤－知識・技術・意欲・態度を修得する」ことにある。

次に教育実習の具体的目標をあげる。

- (1) 教育と教員の教育活動の本質や重要性を正しく理解すること。
- (2) 教員の仕事の領域全体にわたって実際の体験を通して学びとること。
- (3) 生徒の要求、興味、関心、生活、人権等に対する鋭敏な感受性を養い、豊かな人間尊重の精神を培うこと。
- (4) 専門領域の学識、教育学的素養を広め、深めること。
- (5) 学校教育活動の仕組み、および教育の社会における役割について理解を深めること。
- (6) 生徒に学ぶ心を育てること。

4 教育実習の内容

教育実習において学ばなければならない事項は、学習指導の技術だけではない。教員としてのあり方を学ぶのであって、その内容は以下にあげるように学校教育活動の幅広い分野にわたっている。実習生はこれらの分野にわたって、できるだけ多くのことを観察したり参加したりして、実地に知ることが大切である。

領 域	実 習 内 容
1 学 校 経 営	学校教育目標と経営方針、校務分掌、施設、設備、学校行事の運営、地域社会との関連、学校事務等
2 教員としての 資質向上	教員としての心構え、態度、理想的な教員などの研究と研修等
3 教 材 研 究	各教科の内容と教育課程についての研究

4 学 習 指 導	学習指導の原理および指導の計画、学習指導案、学習指導の過程・方法・技術、評価のあり方等
5 道徳教育および特別活動	道徳教育、特別活動の意義、目標と内容、指導原理と方針、学級指導、生徒会活動、学級会活動、部活動、学校行事等
6 生 徒 指 導	生徒指導の意義と目標、指導計画と方針、ホームルームの活動・学級経営、事例・場面指導等
7 学校保健と学校安全	健康管理に伴う事務、学校保健の意義・目標・内容、学校保健の計画、保健教育、学校安全の目的と安全管理、安全教育の指導の実際等
8 学校図書と視聴覚教育	学校図書教育の目標と内容、学校図書館の利用指導（各教科および総合的な学習の時間等での活用方法を含む）、視聴覚教育の意義と目標、教育機器の種類とその活用、パソコンの活用等
9 人 権 教 育	<p>教育の原点としての人権教育のあり方を学び、将来これに取り組む心構えを養う。その際の主な課題は、以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 人権感覚を身につけ人権問題を解決する実践的行動力を養うということが、学校経営や全教科・全領域における指導方針の中にどのように位置づけられているか。 (2) 支えあう学級集団の基礎学力保障と進路保障にどのように取り組まれているか。 (3) 集団生活を大切にし、人権感覚の育成がどのように行われているか。 (4) 生徒を現象面だけでとらえないで、その内面をとらえなおしてみる態度がつかぬか。 (5) 人権についての正しい理解と認識を得るための系統的・科学的学習の指導がどのように行われているか。
10 特別支援教育	<p>学校がノーマライゼーション、インクルージョン、バリアフリーなどの教育理念を踏まえて、障がい者と健常者がともに生きる教育の場であるとの認識のもとに、以下の事項について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒一人ひとりの生命の尊厳と身体的・精神的能力や個性に応じた教育を大切にする態度を養う。 (2) 障がいのある生徒が障害に伴う困難を克服し、人間として成長していくために、これを支援する教員の心構えを養う。 (3) 学習指導や生徒指導など教育活動の個々の領域においてなされている障がいのある生徒に対する教育の内容・方法上の配慮について理解を深める。 (4) 障がいの種類と個々の実態および指導の実際について、基礎的知識を習得し理解を深める。 (5) 障がいのある個々の生徒についての実態を十分に理解し、障がいの事実在即して適切な支援の工夫をする。 (6) 特別支援学級の指導に参加できる場合にはこれを通して、教育の原点として特別支援教育の重要性とあり方を学ぶ。

Ⅱ 教育実習生の心得

1 実習生の心構えと態度

(1) 教員になろうとする意欲をもつこと

教育実習の単位を修得することは、教員免許状取得のためのひとつの条件である。しかし、免許状を取得するためだけであるといった安易な気持ちでは、本人の実習が不成功に終わるだけでなく、実習校の指導教員の期待も裏切り、生徒にも迷惑を及ぼすことになる。教員になろうとする強い意欲をもって、教育実習に専念すること。

実習生が自分のもっている能力を精一杯発揮して、誠意をもって努力すれば生徒たちも必ずこれに反応してくれる。新鮮な張りつめた実習生の心を、純真な生徒たちはすばやく感じとってくれるものである。

(2) 服装・容儀を整えること

実習生は、実習期間中には下記事項に留意して、実習生としてふさわしい清潔な服装・容儀を整えること。

- 制服、白ブラウスを着用し、学章と名札をつける。実習校において、別に指示された服装がある場合には、それを優先する。
- 髪型は流行を追った極端な異型・異色のものは慎む。長い髪は束ねて、活動に支障のないようにする。爪も清潔に短く整えておく。
- 所持品などについても学生としての品位を保つものであること。勤務中(休み時間も勤務中)は、携帯電話・スマートフォンの電源は切り、しまっておくこと。
- 実習校では、それぞれの場に合った運動靴や上靴、下靴にはきかえる。

(3) 教員としての品位を保つこと

実習生は社会的には「学生」であるが、生徒にとっては「先生」である。教員は生徒の模範になるようにとの社会的な要請がある。礼儀作法、言葉づかい、服装・容儀においては、ふさわしい品位を保たなければならない。

なお、出勤の途中で実習校の教職員・生徒に会えば、会釈とあいさつを行うこと。

実習前に、実習生としてふさわしくないSNS上のデータは削除しておくこと。実習中の出来事はSNS上にはアップしないこと(実習中はもちろん実習終了後も)。

(4) 体調管理をすること

麻疹やインフルエンザ等の感染症を予防するため、日ごろから体調管理に注意すること。実習期間中はもとより、実習前後も「体調管理記録」表を利用し、毎日検温して体調を管理する。

とりわけ、実習前はむやみに人ごみの中には行かず、やむを得ない外出の際は必ずマスクを着用し、帰宅後の手洗い・うがいを励行すること。実習中は、慣れない環境への対応や緊張から、疲れが出やすいので、体調を維持するため、睡眠不足や偏食を避けること。体調に異変を感じたら、直ちに病院で診察してもらうこと。随時、大学の担当教員と連絡をとれるようにしておき、何かあればすぐに大学の担当教員に連絡すること。

2 実習上の留意点

(1) 素直に指導教員の指導を受ける

指導教員との密接な連絡なしには実習は不可能である。実習生のひとりよがりだけでは実習はできない。実習の全期間を通じて教材研究のこと、指導案のことなどあらゆることにわたって指導教員の教えを受けねばならない。実習生として学生として、常に尊敬の気持ちを忘れず、礼節

をわきまえ、言葉づかいなどにも注意して指導教員に接するようにすること。

(2) 丁寧に細かくメモをとる

実習期間中には多くの新しいことを見たり聞いたりする。実習期間中にはいつも丁寧に細かくメモをとるよう心がけること。校長先生からお話を伺うとき、実習指導教員から批評を聞くとき、実地指導について討議するときなどには、メモを忘れないようにする。メモの整理段階で、新しい発想も浮びあがってくる。メモは記録の材料を提供するとともに、創造の芽にもなる。

(3) 積極的に生徒に接する

充実した学習指導が行われるためには、実習生と生徒との間で信頼関係が保たれていなければならない。実習期間中に積極的に生徒に接すること。生徒たちに話かけ、話し合うことで生徒たちの気持ちを理解していくことも教育実習の大切な課題である。

とくに担当の学級の生徒の顔と名前をなるべく早く覚えることが大切である。しかし、「えこひいき」の感を生徒に与えてはならない。すべての生徒に公平な態度で接しなければならない。

(4) 安全管理に細心の注意を払う

生徒の生命と安全を確保することは、あらゆる教育活動の前提条件である。安全管理についての配慮がなされると同時に、生徒に対する事故防止のための指導が行われなければならない。

安全管理の領域には、①学校環境の安全管理、②学校生活の安全管理、③学校における事故防止などがあるが、とくに不審者対策は今日的課題でもある。実習生は、まず、実習校での安全教育の目標と指導計画、安全管理の実際などについて十分認識を深めておかななければならない。

理科の実験・薬品の取り扱い、家庭科の授業、保健体育科の授業、廊下や階段の通行、運動場での遊び、遠足や登下校時など生徒の身近なところで、危険はいつでもどこでも起こり得る。実習生は常に、生徒に事故が起こらないよう安全のために細心の注意を払う責任がある。もし、実習期間中に実習生にかかわる事故が発生した場合は、直ちに適切な処置をとり、すみやかに指導教員を通じて校長に報告し、同時に大学の担当教員・学校教育センターにも報告することを忘れてはならない。

(5) 実習生としての重責を自覚する

教育者には、生徒をそれぞれの保護者からあずかって教育するという、きわめて重い責任がかかっている。実習生も一方では教育者として、この重責を負担しなければならないことを自覚する。

ア 校外指導の禁止

実習生の中には、生徒と親しくなって、実習期間中にあるいは期間後において校外に連れていきたくなくなることがあるかもしれないが、このような行動は厳に慎まねばならない。また、自宅において実習校の生徒をとくに個人的に指導することも避けなければならない。

イ 個人的な助言は控え目に

生徒から個人的な相談をもちかけられることもあるかもしれない。しかし、実習生としては、できるだけ聞くことに努め、指示や助言はできるだけ控え目にしなければならない。自他ともに過信が思いがけない重大な結果を引き起こすことになる。なお、このような場合には、指導教員に連絡・相談をすることが必要である。

ウ さらに実習生は、次の事項について自分勝手に行動することは許されない

- 生徒の家庭へ、連絡や依頼などを出すこと。
- 生徒を随伴、残留、撮影すること。
- 生徒の賞罰を行うこと。
- 生徒に感想文、記念品などを求めること。
- 生徒や保護者とメールやSNSで交流すること（連絡先の交換、SNSやメールのIDやアド

レスの交換もしてはいけない)。

(6) 守秘義務

「職務上知り得た秘密を漏らしてはならない」(地方公務員法第34条)に基づき、個人情報の適正な取り扱いに留意し、実習中に知り得た個人情報について第三者に漏らしたり、不当な目的に利用したりするようなことがあってはならない。

3 実習生の勤務

(1) 実習校の規則を守ること

実習校には、「生徒心得」(校則)がある。実習生も実習期間中はこれを守らなければならない。例えば、通学路が示されているような場合には、教職員と同じように実習生も生徒の模範となるように、率先してこれを守らねばならない。

(2) 通勤

通勤は、公共交通機関を利用すること。自動車・バイクは禁止とする。実習校の許可があれば、自転車は利用してもよい。

(3) 勤務時間

実習校での勤務時間の詳細については、事前打ち合わせ時に指示されるが、通常は実習校の教職員と同じである。始業時間に遅れないように、常に早い目に出勤しておくことが必要である。

毎日の勤務終了時刻は、指導教員の指示によること。翌日の学習指導等の準備のため、遅くなるような場合には必ず指導教員の許可を受ける。また、単独で遅くまで残留しないように注意すること。指導教員も残留してくださる場合は、職員室で指導を受けるようにする。

(4) 出勤簿

登校すれば、直ちに所定の場所に置かれている実習生の出勤簿に押印し、出勤を明らかにしておかなければならない。

(5) 欠勤・遅刻・早退

欠勤・遅刻・早退はしないことが原則である。明確な理由がないのに、欠勤・遅刻・早退をすることは許されない。やむを得ず欠勤・遅刻・早退をする場合は、すみやかに実習校に連絡するとともに、大学の担当教員にも連絡しなければならない。無断で欠勤・遅刻・早退したり、理由にならないような理由で欠勤・遅刻・早退したりすることは絶対にあってはならない(教育実習においては、肉親の不幸の場合以外は公欠は認められない)。

なお、実質の実習日が15日間に満たない場合には、大学の担当教員・学校教育センターに連絡すること。欠勤・休校等によって、実習の期間に変更が生じた際は、「実習期間変更届」に必要事項を記入して実習校の証明印をいただき、実習終了後1週間以内に学校教育センターに提出すること。

(6) 昼食

昼食については、実習校の指示に従うこと。実習中は、学校給食の場合もある(給食費は実習生が負担)が、校外において昼食をとらなくてよいように弁当を持参する。

(7) 控室の管理

実習校では、実習生用の控室が設けられることがある。複数の実習生がいる場合は、当番を決めて毎日その控室を清掃整理しておかなければならない。なお、不要な貴重品を持参しないこと。控室での紛失は、実習校にも他の実習生にも迷惑をかけることになる。

(8) 突発的な休校

警報発令等の理由で実習校が臨時休校になった場合は、実習校の指示に従い、出勤または欠勤すること。教職員の方々の休校への対応を学ばせていただくことも、教育実習の一環である。

Ⅲ 教育実習の方法

すでに「教育実習の意義と目的」でも述べたように、教育実習はきわめて広い領域にわたって教員としてのすべてを学びとろうとする機会であり、本来、観察・参加・授業実習・評価反省の全過程を通じて行われるべきものである。

したがって、教育実習では、授業の実習だけではなく各種の観察や参加などあらゆる機会を通じて、一人ひとりの生徒がおかれている生活実態をみつめ、それに学びながら教育を考えることが重要である。そのような学びの姿勢こそが教員への道の出発点であることを、よく認識しよう。

1 実習のはじまり

教育実習を円滑に、かつ効果的に実施するためには、十分に準備を整えてかかる必要がある。その概要を述べる。

(1) 大学における事前ガイダンス

ア 実習生は教育実習事前事後指導の科目受講はもとより、実習の前に大学の引率指導・連絡担当教員のところまでお伺いし、実習に関する指導を受ける。(この際、実習中の連絡のための連絡先を確認すること)

イ 実習前の「教育実習事前ガイダンス」には、必ず出席しなければならない。このときに実習に行くための注意事項(各実習校への引率指導・連絡を担当される大学教員名も)などをあらかじめ確認し、実習への準備をしっかりと整える。もし「欠席許可理由」で欠席する場合には、学校教育センターまで事前に必ず所定の届をすることが必要である。

(2) 実習校における事前指導

実習校のご都合を伺い、必ず指定された日時に訪問する。校長、教頭または実習担当教員にお目にかかってあいさつし、日程、配属学年や組、指導教員、教科書の準備、登下校の時刻や通学路など、実習全般についての指示を受ける。また、実習生は『実習の記録』の中から「教育実習生プロフィール」「出勤簿」「教育実習成績通知票」に必要な事項を記入して、実習校に提出しなければならない。

(3) 実習第一日

ア 指示された出勤時刻よりも20分以上は早く登校し、指示のあった場所に集合する。

イ 職員朝礼や生徒朝礼で、実習生の紹介をしていただく際の実習生あいさつは簡単に、しかし実習をさせていただきに対する謝意を込めたものでなければならない。

ウ 朝礼のあとは、予定された計画に従って校長以下各教員の指導講話やオリエンテーションが行われ実習が始まる。

2 学習指導の実際

(1) 周到な準備と学習指導案の作成

教科については、中学校・高校では高度で広範囲な内容を含むため深い教材研究を必要とする。大学教職課程で学んでいる各専門分野の深い知識(中高「教科に関する科目」「教科に関する専門的事項」および中高各「教科指導法」を中心として)が役立つことになる。教材を考える場合、どのような角度からこれらを取り扱ったらよいか、既習教材との関連性をも考慮し、教材の中でどの部分が生徒に重要であるかについても検討する。生徒に質問を受けたときの答を想定できる程度にまで、教材を深く研究しておく必要がある。

実習生にはそれぞれに指導教員がきめられ、担当する学習指導の授業担当時間割などが作成さ

れる。『中学校学習指導要領』または『高等学校学習指導要領』に指導上の一般的方針や指導計画の作成と内容の取り扱いが述べられているので、作成のとき参考にとるとよいが、指導教員から十分な指導内容の教示を受け、それによって学習指導案を作成しなければならない。学習指導案は指導の先生の校閲を受けたのち、学習指導（授業実習）に当たる。

また教科のみならず、指導教員の受け持たれる学級の指導（中学校実習では道徳も）についても指導助言をいただくことになる。

指導案の形式は各校ごとに担当する教科によってきめられる場合があるので、指導の先生方のご教示を受けて作成しなければならない。次に参考までに、ひとつの形式を例示して指導案作成の要領、また、必要な項目について簡単に解説しておく。

ア 単元（主題・題目・題材）設定の理由

なぜこの単元が取り扱われるかの理由を述べるのであるが、教材観、指導観（方法観）、生徒観に分けて述べる場合もある。

教材観ではその教材が取り扱われている意味づけ（設定された理由）、その教材の重要性の軽重を述べるものであり、他の教材、学年との関連性についても述べることもある。学習指導要領、指導書等が参考となる。

生徒観では、生徒の発達段階、学級の現状、指導者の認識、既習事項等を述べるのであるが、個々の生徒の能力については指導教員に助言を受けるのもよい。

指導観（方法観）では、上の実態に即してどのような指導法を考えればどんな効果が期待されるか、どんな困難があるかを考えてみる。

イ 指導目標

指導者が何を目標として授業を進めていくかを述べるのであって、学習指導要領に示されている目標と関連させて明確にする。さらに本時の目標では、主題の中心的な目標を記入する。

ウ 学習指導計画

主題をどのように区分し、どういう順序で、どれだけの時間をかけて指導するのかの概要を記す。本時についての位置も書き添える。学習指導要領の「学習指導計画の作成と内容の取り扱い」を参照することも必要である。

エ 学習指導の過程

導入：生徒全員の学習への興味を起こさせ、生徒一人ひとりが、何を学習するかをしっかりと把握するように導く段階である。学習に対する興味の喚起→学習目的の確認→問題意識の自覚→問題の共通化・焦点化へと進めていく。

展開：本時の指導目標を区分された指導内容に沿って、計画的にすすめていく段階である。教科によって、いろいろな教材、教具、指導方法や形態を工夫し、生徒の活発な学習活動を育てながら、全員を問題解決と理解に導いていく。

まとめ（整理）：本時の学習の成果をまとめ、生徒一人ひとりに理解を確かめ自分のものにさせる重要な段階である。学習事項の整理、報告、発表、話し合い、質疑、ドリルなど多様な方法が考えられる。また、次時の予告なども行う。

生徒の学習活動は、学習内容の指導を進めていく過程で、生徒の主体的意識がどのような活動をするによって高まり、深まり、認識にまで形成されていくかという観点に立って、生徒の反応をも予想して展開を考えておくのが望ましい。そして具体的に学習活動の欄には、主題に基づいて分節されたいくつかの指導項目に対応する生徒の学習活動として、読む・聞く・書く・考える・調べる・話し合う・発表するなどを予定して記入する。

指導内容・留意点の欄には、この生徒の学習活動ごとに、教員が実際に指導するための手だて、すなわち、説明する・発問する・指名する・板書する・実験する・機器を使用する・考え

させる・調べさせる・助言する・実物や資料を提示する、などについて、できるだけ具体化して記入する。またそれぞれの活動に予定される所要時間（分）も配当しておく。

準備物等の欄には、本時の指導に当たって使用する必要な資料など準備すべきものを記入する。教科書、参考書、視聴覚教材、教育機器、見学すべき場所や事物、観察や実験・実習に必要な準備すべき備品、教具等を周到に予定しておく。

いうまでもなく、学習指導過程は教科によって同一ではない。同じ教科でも扱う教材によって変わる。教材の特性が学習指導過程を決定する一つの要因となっているので留意しなければならない。

オ 実習授業の評価と反省および助言

実地指導後に反省会がもたれるので、指導の実際の状況について記録し、また実際の指導が果たして効果的であったか、改善すべき問題点はなかったかなどを反省し、具体的に感想を書きとめておく。学習指導案と実際の授業との適合度を検討し、次の授業をさらに効果的にできるようフィードバックしていく。指導教員から受けた総評と指導助言の欄は、指導者の立場からみて、目標は達成されたか、時間配分は適切であったか、教具や資料の準備は適切であったか、能力差の配慮は適切であったか等について、また生徒の立場からみて、学習意欲・興味・関心はどうであったか、知識・技能・態度は身についたか等について指導教員から受けた批評・助言などを記入する。

カ 研究授業について

研究授業は実習生が行う公開の授業。実習校の教員方、他の実習生の参観のもとに実施され、授業の後、研究会（反省・批評会）が催される。研究会では授業批評が主であり、非難の人間批評や感情的印象批評にならないよう心がける。

これによって、自分の教育方法を高める資料のひとつとなるので、実習生はメモをとり、自分の指導と比較対照して考えることが大切である。

(2) 実地指導

指導案がいくらよくできていても実際に授業をするには、特別な指導技法が必要である。

機会があれば積極的に、指導教員以外の教員の授業も参観させていただき、具体的な指導を受けることによって、はじめて指導技術の一端が得られるものである、ここでは、実地指導の一般的な要点を指摘しておく。

ア 姿勢

「森をみて木をみる。木をみて森をみる」ということばがある。教卓上の書物や黒板の方ばかりに視線がとまっていると、生徒の集中力がだんだんと拡散してしまう。生徒の中に入りこんでいこうとする気持ちが必要である。とくに、一人ひとりを最大限に生かし、落ちこぼしの生徒をつくらないという基本態度をつらぬくこと。

イ 発声

教室のすみずみまで声が達することが必要である。このためには、意識して普通よりも少し大きい声を出す方がよい。原則として方言を使わず共通語でわかりやすくゆっくり、ときには繰り返して話すこと。声の調子はやわらかく話しかけるようにする。早口や語尾が消えてしまうのはいけない。「…しなさい」「…してください」ではなく、「…しましょう」の表現法が好ましい。こうした声の出し方、話し方ひとつでも、生徒の学習意欲をかきたてたり、そこねたりするのであるから、各自十分に研究してもらいたい。

ウ 発問

学習指導というものは、生徒に教え、生徒自身に考えさせていくのであるから、いつ何を教え、どういう状態で何を考えさせるかという見通しをまずつける。そして、発問のタイミング

を考え、どのような内容の発問をどのような形で、また、どのような順序で誰にするかという計画を立てておく。生徒がどのような答えをするかも予想して、あらかじめ発問の仕方などを工夫しておくことも必要である。

- (ア) すぐれた発問の条件：(a)質問の意味が明瞭で、理解が容易なものであること。(b)精選された発問、つまり指導目標を達成するために不可欠で、しかも有効な発問をすること。(c)思考のステップを踏んだ発問であること。(d)発問と指名との間（ま）を適切にとること。
- (イ) 発問の種類：(a)すでに学習した内容について、記憶していることを確かめるための発問、(b)学習意欲を高めるための発問、(c)新しい教材に対する生徒たちの興味や関心、あるいは理解の程度をさくための発問、(d)新しい問題に取り組む意欲を起こさせるための発問、(e)問題点を分析する手がかりを与えるための発問、(f)各人の違った考えをまとめるための発問、などが考えられる。

なお、問題解決のための発問のときは、生徒たちの考えぬく過程を重視し、指導者は性急に答を言わせたり、正解を与えたりしない方がよい。また、ひとつの発問だけでは、ただちに解決できないことも多いので、あらかじめ、助言的な二段三段の発問を用意しておくことも必要である。

- (ウ) 発問時の配慮：指導者は、生徒の答えのうちでもとくに「つまずき」の答えを重視し、**正しさへの思考の発展に生かす**ことが大切である。生徒の発言を大事にして、それに依拠する授業の発展を考えることが、一人ひとりを生かす指導の要点である。「まちがった答」を言ってみんなに笑われるような教室の中では、学習の原動力である「やる気」は育たない。

とくに全員参加の学習を実現し、どの生徒にも学ぶことによる喜びをもたせ「生きがい」を感じさせるためには、一人ひとりの生徒をみつめて、「この生徒には」また「あの生徒には」どう質問するかという、きめ細かな配慮と用意が重要である。生徒のつぶやきやささやきの中にすばらしい発見をすることがある。

エ 板書

学習指導のために黒板に字を書くこと（板書）は、重要な問題点を順次浮かびあがらせ、それらの間に関係を与えていく。生徒の注意をひきつけるとともに、平板な授業にアクセントをつけ、さらに、主題についての分析的な思考をうながすのに役立つものである。板書は発問と連係して行われることが多い。発問の場合と同じように、いつ、どこに、何を書くかということ、あらかじめ計画（板書メモの作成）しておくことが必要である（**板書メモを作っておくのがよい**）。

※ 板書についての注意事項：

- a 適当な量で急所をおさえた板書の工夫が大切である。
- b 文字は、少し大きすぎると感じる程度の大きさで書くよう十分に気を配る。
- c 文字は正確に記すること。濃い目に書くよう心がける。実習期間中には小さな辞書などを携帯しておくことが望ましい。
- d 板書の完成時を予想して、書き始める位置に注意する。
- e 色チョークを適当に使って、内容の区分を明確にするなどの工夫をする。
- f 必要な表や図、フラッシュカードなどを作成し、黒板や展示板に掲げるなど工夫を凝らす。
- g 大事な事項を最後まで残し、確認を強める。

オ 教具

教具を自分で工夫して作ることも大切である。教具として、地図、模型のようなものから、いろいろの器具や器械に至るまで使用することがある。これらの教具を使うときには、あらか

じめ指導教員の指示を受けて、許可を得ておかなければならない。

教具を使うときには、それぞれの内容をよく知っておいて、指導計画の中に、どのように組み入れるかを検討しておく。それとともに、取り扱い方をよく調べて、熟練しておくことが必要である。あらかじめ借用しておいて、教室で前もって練習しておくのがよい。借用した教具は、使用後は必ず整備して、すみやかに所定の場所に返却しておかなければならない。

なお、最近では、プロジェクターや書画カメラ、電子黒板、タブレット端末など、いろいろなICT機器が使われている。教育実習中に機会があればなるべく指導を仰ぐことが望ましい。

カ 授業参観

授業の実地指導をするには、指導教員の授業や他の実習生の授業を努めて参観しておかなければならない。発問の仕方、指名の仕方、板書の仕方など、ときには指導者の立場に立ち、ときには生徒の立場に立ち、自分であればどうするかと自問してみよう。また、指導者と生徒の間でどのように相互の反応が進行していくか、そして、それによって教室内の空気がどのように活気をおびてくるか、様々な状況の変化に対応して指導者はどのように調和していくかなどを注視し観察の眼を休ませてはならない。

さらに、生徒同士が支え、助け、教え、励まし合う学級こそ学級活動の基盤であり、人間尊重の生き方を育てる場であることを観察していこう。

キ 授業の反省と相互討議

実地指導および授業参観を行ったのちには、必ず、指導教員の批評や指導助言を受けねばならない。そして、それらを詳細に記録しておき、教育実習記録の中に記入し、今後の教育実践に生かすことを忘れてはならない。

また、教員の指導のもとに、実習事項に関して実習生相互の間で討議することも大切である。討議を通じて創造的な意見が形成されてくるように、積極的に考えを出しあっていこう。

会心の授業は多年の経験を積んだ教員でもなかなかできないものであり、教育は限りなき道である。したがって、できないことに悩むのではなく、誠実に生徒に接し、授業に生きることに教育の真実があることを学んでほしい。

ク 他の教育活動への参加

教員の教育活動は、各教科の指導だけではない。道徳教育や特別活動などいろいろな教育活動がある。これらは、それぞれ独自の意義と価値をもつものであり、生徒の全面的な発達と深く結びついている。実習生もこれらに参加することによって、教育活動の全領域を経験するとともに、教員のきわめて幅広い職務を学んでおかなければならない。

3 生徒指導の実際

生徒指導は、学校全体として取り組む重要な教育活動のひとつであり、明確な指導目標を定めて計画的・組織的に進めていくことが必要となっている。生徒指導はそれぞれの学校とこれを取りまく社会および生活環境の実態に即し、さらに、生徒一人ひとりの個性や特性ならびに発達の要求に即して行うべき極めて具体的で実際的な指導と援助の過程である。

教育実習においては実習生はそれぞれの実習校での生徒指導の目標や具体的な取り組みの実際について、校長や生徒指導担当教員から指導講話を受けるなどによって、基本的に理解し認識を深めよう。また、学級担任あるいはホームルーム担任からも直接に生徒指導の具体的なお話を伺い、指導上の留意点、工夫、方法・技術、関連事務などについて積極的に教えを受けよう。

以下では、生徒指導の意義、目的、内容、方法等について基本的な要点のみを述べておく。

(1) 生徒指導の意義と目的

生徒指導の本質は、「人間の尊厳という考え方にに基づき、それぞれの内在的価値をもった個人

の自己実現を助ける過程であり、人間性の最上の発達を目的とする」。

生徒指導が、学習指導と並んで学校本来の教育目標を達成するための重要な機能であることはいうまでもない。教員が個々の生徒の人間としての主体的な生き方に直接働きかけ、彼らの個性ある人格の形成を援助するのが生徒指導である。

現代社会の急激な発展・変動が進む過程で、様々に深刻な反社会的問題状況や教育病理現象が生まれ、青年期にある生徒の中に不安や悩み、あるいは不適応をもつ者も多い。それゆえ今日の学校は、このような状況に積極的に対応し、生徒の個人的・社会的な生活適応を指導し、人間性豊かな心身ともに健全な発達を助成するための継続的な指導計画を進めていくことがますます重要となっている。

したがって、学校における生徒指導の意義は、不適応や暴力行為・いじめなど問題行動をとる生徒に対する対策といった消極的な面にあるのではなく、生徒の理解に基づき積極的にすべての生徒のそれぞれの人格のより良い発達を目指すとともに、生徒一人ひとりにとって学校生活全般にわたって有意義で充実したものとなるように、生徒が主体的に日常生活の場で最も適切な行動がとれ自ら判断して行動できるような自己理解、自己指導の能力や態度を育てることである。

(2) 生徒指導の内容

生徒指導は、教育課程の特定領域を指すものでなく、全教職員が学校教育のすべての分野において計画的・組織的に展開する教育機能である。したがって、以下のように生徒の登校から下校に至る学校生活全般に関連する諸活動に及んでいる。

- 学習指導
- 学級集団指導
- 道徳性・社会性指導
- 人権教育
- 個人的適応と問題行動の指導
- 進路指導（キャリア教育）
- 保健指導
- 安全指導
- 食に関する指導
- レクリエーション指導
- 校外生活の指導

これらの指導に関しては、それぞれの指導の場で適切に行うべきものであることはいうまでもない。

ア 教科と生徒指導

教科指導は、各教科の知識や技術の内容を目標に沿って計画的・組織的に提供し、生徒の知的能力や、技術の習熟態度の育成を図るものである。この領域での生徒指導は、学習上の不適応に対する指導と、意欲的な楽しい学習指導をすすめる条件をつくり出すことを目的とする。

- (ア) 各教科の学習を直接に援助する指導：基本的な学習態度や学習習慣を形成する。学習の難易度を考慮し、生徒の個性や能力に応じた個別指導を工夫する。学習意欲や興味を高める。
- (イ) 学習集団をつくり、学級の生活条件を改善する指導：学習集団内の人間関係の改善をして楽しい学級の雰囲気をつくり、グループ編成によって助け合い学習ができるようにしたり、あるいは座席配置の工夫をすることによって学習意欲を促進する。
- (ウ) 学習活動の条件を整えることに関する指導：生徒の学習のための計画の立て方、図書館、資料室、器具や用具の利用法、学習教材の選び方と使い方などの指導。

イ 道徳と生徒指導

道徳教育は、人間尊重の精神を育成することを究極の目標とし、中学校生徒を対象に人間としての正しい行動規範と生き方を教え、これを内面化させて、日常の社会生活において具体的に実践していける心情や自律的態度を育てるものである。したがって、道徳的な価値観が正しく生徒の身についていけば、それはやがて生徒の現実の行動を確かなものにするのに役立つ。また、生徒の日常生活における指導が徹底すれば、生徒は正しい生活態度を身につけることから道徳的価値観の形成につながる。

このように道徳教育と生徒指導とは相互の関係にあるものであるが、価値観をおしつけるものでなく生徒の日常生活の現状に沿って具体的な指導が展開されることが望ましい。

ウ 特別活動と生徒の指導

『学習指導要領』によると、「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す」ことを目標としている。このような目的は、生徒指導の理念や意義と基本的に通じるものであり、特別活動が生徒の集団活動を土台にしていることからもとくに集団指導の場として、重要な役割をもつものである。

特別活動は、中学校では、学級活動、生徒会活動、学校行事から成り、高等学校ではホームルーム活動、生徒会活動、学校行事から成る。

したがって、部活動も含め、指導教員の指導のもとに積極的に活動に参加することが望まれる。

(3) 生徒指導の方法

生徒指導の具体的な方法としては、一般に個別指導と集団指導とがある。集団指導の場と方法は、特別活動や学級経営とも深く関連している。ここでは、主として学級経営との関係で、生徒指導の方法について述べておく。

ア 生徒の理解

生徒指導は個人が自己の成長発達の過程で主体的に問題を選択し、取り組み、解決するのを援助する過程である。したがってまず、生徒の個人的特性や生活環境条件の実態を正しく理解することが指導の基本的要件である。その場合、一人ひとりの生徒を、かけがえのない人間として尊重し、その個性的存在をあるがままに理解していく構えがなくてはならない。

また、できるだけ客観的で豊富な資料を整備しておく必要がある。それによって指導に際し、適切な情報を提供できるし、問題を早期に発見して予防処置もとることができる。一般的に必要な資料としては、次のものがある。

- (ア) 学力、出席状況、学習態度、学校生活への適応状況
- (イ) 性格、適性、行動、趣味、特技、将来の希望や進路
- (ウ) 健康状態
- (エ) 家族構成、教育的関心、地域環境
- (オ) 友人関係
- (カ) 生育歴

これらの資料を得る方法としては、(a)観察による方法、(b)検査や調査による方法、(c)作品物などによる方法、(d)面接による方法などがあるが、実習生としては日常的な生徒の観察が大切である。

観察による方法は生徒の言動を、偏見を加えずありのままに見極め考察する実証的方法であって、あらゆる生徒理解の基本となる方法である。観察して得た事柄を、学習指導、生徒指導、学級経営の資料として活用する。観察は、生徒の心や行動の変化を継続的にとらえられるよう、計

画的に進めていくことが大切であり、実習生は時間の許す限り、生徒の中に入ってコミュニケーションをとることに心がけるべきである。

イ 教育相談

教育相談は、生徒のもつ悩みや困難を共有し、考え、生活に適應させることなどを通じて、人格形成の援助を図ることを目的とする。教育相談の実際についての知識や方法を身につけることが生徒指導上大切であるが、実習生としては、まず、生徒の声、心を「聴く」という姿勢が大切である。

- ◎ いずれにしても、実習上で知り得た生徒に関する事柄は指導教員などに伝える以外は、「**守秘義務**」があることを自覚しておこう。

4 実習のおわりに

実習最終日には、最初と同様、実習生は全員職員室における職員朝礼に加わる。そこで校長はじめ全教職員に対し無事教育実習が終了したことに深く感謝し、十分誠意を尽くしてお礼のあいさつをする。次に全校朝礼に出席して、生徒たちにお礼とお別れのあいさつをする。これらのあいさつも、やはり、その場になってまごつかないようにあらかじめ用意しておく必要がある。事務室、管理員室の方々にもお礼のごあいさつを忘れないようにしよう。

教育実習終了後1週間以内に、大学の担当教員に実習終了の報告とお礼のごあいさつをする。そのときに「教育実習終了報告書」を提出し、事後のご指導・検印をいただく。この報告書は、担当教員の検印を受けた後、「実習記録」に綴じ込んで学校教育センターに提出すること。

IV 教育実習の記録

教育実習生は教育実習記録を作成し、実習校に提出しなければならない。それぞれのねらいを、どの程度達成できたかを常に反省し評価できるように、具体的にできるだけ詳しく記録する必要がある。

本学所定の「**教育実習の記録**」(別冊)を実習生に配布する。教育実習記録のとり方、まとめ方を、記録用紙の種類に応じて説明する。

1 実習記録作成上の留意点

実習記録の内容を今後にも有用な具体的なものにするためには、まずノートなどを使用し、あとで整理しやすいよう日付や時間ごとに観察参加や実習した内容を詳細にメモにとっておき、このメモを活用するようにする。

次に、内容に応じてそれぞれ実習記録用紙に要領よくまとめる。その場合、記録の主題となるものを明確に設定し、具体的内容の要点をおさえてまとめ、そこからどんなことを理解し習得したかについても記録する。記録はすべてペンまたはボールペンを使用することを原則とするが、鉛筆の使用なども含め実際には実習校の指示に従うこと。

これらの記録は、学習や行動の記録であるとともに研究の記録である。努めて具体的に書くようにし、また、教育研究的な態度のうかがえる客観的・論理的な所感を書くよう心がける。実習記録の最後には、この実習をふり返り実習全般についてまとめとなる所感を書く。

なお、実習校から配布される印刷物などで記録と関係の深い資料や、他の実習生の指導案などもこの記録に貼付しておくことが望ましい。

実習記録は提出後に指導教員に読んでいただくことになる。実習生の実習に対する意欲や研究成果などを読みとっていただくものである。したがって、そのつもりで実習記録を作成するよう心がけたい。

2 教育実習記録の書き方

別冊の「教育実習の記録」に含まれている記録用紙に基づき、書き方について説明する。

- (1) 「表紙」：実習校名、所在地、実習期間、実習生氏名を所定の欄に正確に記入する。実習校名は、例えば、〇〇市立〇〇中学校のように書く。学校所在地については、郵便番号、電話番号を忘れないこと。
- (2) 「教育実習生プロフィール」：所定の欄に実習生各自の該当事項をもれなく正確に記入する。氏名のあとに押印を忘れないこと。なお、所定の顔写真（制服を原則とする）を貼付する。
- (3) 「実習生出勤簿」：実習校名・期間・所属・氏名等を記入する。
- (4) 「教育実習成績通知票」：実習校名、実習生欄（学籍番号・所属・氏名・教科、わかっている場合は配当学年学級）を記入する。
※(2)(3)(4)は、事前打合わせ時または実習初日に実習校に提出すること。
- (5) 「体調管理記録」：自身の体調管理を徹底するため、実習開始の1～2週間前から実習終了まで、毎日検温し、体調を記録すること。実習先からの指示に従い、この記録をもとに報告すること。
- (6) 「実習期間変更届」：実習開始後、実習期間が変更になった場合にのみ、必要事項を記入して実習校の証明印を受け、実習後1週間以内に学校教育センターに提出すること。
- (7) 「中・高教育実習事前報告書」：必要事項を記入し、実習に行くまでに大学の担当教員にあいさつに伺う際に提出すること。
- (8) 「中・高教育実習終了報告書」：必要事項を記入し、**実習終了後1週間以内に大学の担当教員に提出し、押印いただいた後**、実習記録に綴じ込んで大学が指定する提出期日に学校教育センターに提出すること。
- (9) 「実習校の現況」：実習の第1日には、校長・教頭・実習担当教員から学校経営の概要について講話を受けるのが普通である。また同時に『学校要覧』『教育指導の計画』などの印刷物の配布を受け、それに基づいて説明をされることもある。
実習生は、これらの講話や実習校のHPなどで、各教員のお名前や学校の規模、教育環境、教育目標と努力（指導）目標、経営方針、勤務時間等一日の流れその他について、まとめておくことが大切である。記入に当たって、自分の印象や感想を加えておくことが望ましい。
- (10) 「教育実習の予定・実施内容」：実習校で配布された実習実施日程表や行事予定表を参考にして実習期間中の実習校における行事予定と教育実習指導計画の日程などを記入し、実習生が各自の具体的な学習計画を自主的にすすめていくようにする。
「実習・行事予定」は、観察、参加、授業実習の予定を記入し、行事は学校行事および学級や学年の行事を記入する。（次ページ〈例〉(10)を参照）
- (11) 「実習配属学級の現況」：学年・学級名、生徒数、学級担任氏名を記入するほか、その学級の目標や、経営方針、学級の特色や生徒の様子、特徴などを記入する。これらについては、学級担任から指導講話を受けるとともに、自分の眼でよく学級ならびに生徒を観察し、理解した内容をまとめて記録する。とくに自分の感じ取った印象や、感想、気づいたことなどを加えておくことが望ましい。なお、クラスの生徒名や一人ひとりの特徴、座席表、教室経営

〈例〉

(10)

教育実習の予定・実施内容
(観察・参加、授業実習)

月	日	曜	時限	実習予定・学校や学級の行事予定	実施の概要 (数量や行事の要約)
6/1	金	1		校長講話	〇〇についての講話
		2		授業参観	〇年生「」の授業参観
		3		教育課程講話	テーマ「〇〇〇〇」
		4		授業参観	「」の授業
		5-6		生徒総会	内容〇〇〇〇
6/4	月	1-2		トライヤミ手紙	
		3		生徒指導講話	〇〇〇〇について
		4		特別支援講話	〇〇〇〇
		5-6		授業参観	「」の授業
6/5	火	1-6	授業参観	〇年生～〇年生の授業	
6/6	水	1-2		授業参観	〇
		3		不登校講話	テーマ「〇〇〇〇」
		4		自主学習	
		5		自主学習	
6/7	木	1		入校講話	テーマ「〇〇〇〇」
		2-4		授業参観	「」の授業、「」の授業
		5		自主学習	
6/8	金	1-2		授業参観	〇年生「」の授業
		3		自己申告処理	
		4		道徳講話	「〇〇〇〇」「〇〇〇〇」
5		カンパニイグ講話	「〇〇〇〇」「〇〇〇〇」		

(11)

実習配属学級の現況

〇学年 〇組	男子 〇名 女子 〇名	計 〇名	学級担任 〇〇 〇〇	数論
学級経営 (学級の目標、きまりなど)				
学級の目標: ONE FOR ALL ALL FOR ONE 毎日、「今日のEBC」と「管」の取り組み、先生が指示				
生徒達の自主的な判断と行動を促すために、毎日、先生が指示、指導を続けている。感じている。				
学級及び生徒の状況				
授業中の取り組みは授業を促す生徒が多く、比較的静かである。休憩時間や昼休みの友達同士話したり、一緒に遊んだり、仲良く交流している。				
他、担任が係や委員会の役割を兼ね、学級のテーマに沿って環境問題の学習として、7年生、8年生、9年生の「リサイクル」をテーマに、管で協力する態度が見られる。				

(第〇学年 〇組)							(第〇学年 組)						
月	火	水	木	金	土		月	火	水	木	金	土	
1	理	英	作	国	道		1						
2	数	数	社	15/社	総合		2						
3	国	英	理	社			3						
4	美	英	理	音	体		4						
5	学	体	数	道	国		5						
6		社	道	英			6						
清掃・ST													

の様子など詳しい内容は、「(13)『指導講話、授業・行事等の参加記録』」に記入する。

(12) 「実習日誌」: 実習期間中の毎日の記録をとる。実習生各自が始業前から放課後に至るまでの出来事や行事の具体的な記録と、その日の反省、問題点、研究すべき事柄、学校からの指示や指導教員から指摘されたことなどを記録しておく。

「実習日誌」は、毎日指導教員に提出し点検を受けるのが原則であるが、指導教員の指示に従うのがよい。

(12)

実習日誌

平成 〇年 〇月 〇日 曜日	実習第 〇日	天候	晴れ
時限	教科等	場所	内容
朝学活	朝学活	読書	提出物の確認、連絡事項
1	数研	視聴覚	授業の準備、教材研究
2	国語	2年教員	授業参観「おとこは英語」、方言の分布
3	英語	3年教員	(授業参観) リスニング Let's be、アソート
4	国語	1年教員	(授業参観) 「読むこと」の授業参観、ワークシート
昼食時	給食	図書室	全校生徒、職員で給食(準備、片付け含む)
5	道徳	2年教員	(授業参観) 社会科(朝や夕)
6	数研	視聴覚	授業の準備、教材研究
休憩時	清掃	黒板、モップ、17分間(生徒と一緒に)	
放課後	終活	小テスト(総合)、係割りの連絡、テイクアウト(参観)	
放課後～20:00 研修授業のための教材研究			
(学校や指導教員からの指示・連絡事項)			
明日、以前から言われていた授業を、2年と3年生で2つの班で指導がある。			
一日を振り返って(感想・反省)			
今日は、2年生の7/22の授業の様子、方言と英語の単元の授業参観で、生徒と大団圓と やがてと地味に感じました。導入で、展開期、高学年、意図を伝えておいたが、 どんな授業か、音声が聞こえなかった。最初は「おとこは英語」途中から少しづつ 理解していき、9年生が通訳して使った。4年生も2年生の時、時間面ではまだATで、 10/22、初めは授業は見ることができた。2年生と高学年(朝や夕)は、1年生と一緒に、 本の中での10/22の授業の様子を参観して、道徳(読書)の授業の様子を参観して、 編入の授業の様子を参観して、朝や夕の様子を参観して、道徳(読書)の授業の様子を 参観して、			
(指導助言) 各ご指摘のことがあればお書きください。			
指導教員			指導教員
指導教員 〇〇 〇〇			

(13) 「指導講話、授業・行事等の参加記録」

ア 実習生として、校長はじめ各教員の指導講話や学校経営・学級経営・研究資料なども大切な記録である。

講話については、主題・要旨・要点、自分の感想・意見も添えて記録を整理すること。

イ 指導教員の模範（指導）授業、学校の研修計画による研究授業に参加する場合は、観点をもって注意深く観察し、その記録をとること。

時間の流れにそって、①生徒の学習活動 ②教員の指導活動がどのように展開されているか ③指導上の留意点は何か ④どのような教材・教具・資料が準備され、工夫されているか ⑤発問・板書・指名の方法や工夫などの記録を整理すること。

また、自分が気づいた点をメモしておくことも大切である。これをもとに、授業の反省・批評会で自分の意見を積極的に述べるように努めること。

ウ 教育実習においては授業だけでなく、すべての学校教育の場にも積極的に参加し体験を通して観察することが重要である。

授業以外の教育諸活動および生徒の記録の場面として、具体的には次のようなものがある。

- (ア) 登下校時・朝の会や終わりの会・休憩時・給食時・清掃時・放課後など。
- (イ) 遠足・社会見学・集団宿泊、野外活動など、学校を離れて行われる教育活動。
- (ウ) 担任および各教員の指導による教材研究・指導案作成・生徒（生活）指導に関する助言など。
- (エ) 授業準備や教材製作・生徒成績物の点検評価など。
- (オ) 保健的行事・教材や教育機器の取り扱いなど。
- (カ) 運動会（体育会）・音楽会や作品展・文化祭・写生会・参観日など。
- (キ) 教室廊下等の掲示物やその活用状態、施設（教育環境）配置状況など。
- (ク) 生徒の行動事例にかかわる教員の場面指導。

各々の場面における生徒や教員の表情・動き・言葉づかいなどを注意深く観察し、記憶し、メモをとっておくことが実習の一つであり、今後の参考となる。

なお、この記録は教育上（教員は職務上）知り得た秘密に属することも含まれる場合が考えられるので、取り扱いには万全の配慮をする必要がある。生徒のみならず教員や保護者や学校経営上のことで知り得た秘密に属すると考えられることは、他に洩らさない（守秘義務）。

(14) 「学習指導案」：実習記録に収録している指導案の様式はひとつのひな形（サンプルなので、そのままコピーして使わない）であり、これにこだわることはない。学校では各々の様式があるので指導教員に確認して、とくに指示のない場合は独自の形式によればよい。修正作成のことも考えて、パソコン等で作成するのが有効である。なお、指導案は終了後に「授業の記録」に

〈例〉

(13)

指導講話、授業・行事等の参加記録										No.	天候	晴	
日時	平成	○	年	△	月	□	日	○	曜	△	場	所	○○○
・講話の主題 ・指導科目名 ・行事・諸活動名	〈国語〉・テスト解説 ・小論文読解力											指導者名	○○○先生
記録内容	・講話内容 ・授業内容 ・生徒の学習活動等の状況											気づいたこと 留意点	
14:20～	出席の点検											・先生が指導から降りて	
14:25	忘れ物チェック 机の上（赤ペンとテスト問題のみ） テスト配付 （模範授業）											・机の上には赤ペンと 問題のみ、指導者の手 がかりで机の上には 模範授業の資料	
	〈テスト解説〉 テストの仕組み 「いい子は読むぞ」 大人は読むが、これは全く読まない。 読めなくても、これは全く読まない。 外からの評価、基準は厳格だが、自分の力で書ける。 （自分の力で書く）、「いい子」は読める。読めることが、 読書で徹底して使っている。読書習慣 （読書は「読む」だけでなく「書く」も大切） ・書きの型（科の表現） ・キーマット											・自分の指導から降りて 机の上には赤ペンと 問題のみ、指導者の手 がかりで机の上には 模範授業の資料	
～15:00	「いろいろの教員」 小論文 読解力から読解力 ①どうして読むのかから読解力 ・読解力 ・心構（読者の心） ②どうして読むのか（～と読 行動											・自分の指導から降りて 机の上には赤ペンと 問題のみ、指導者の手 がかりで机の上には 模範授業の資料	
[行事や諸活動参加で指導活動を受けた事例]													
授業参観・態度や姿勢の意向を熱心とし、お礼を言ってもらった。													

貼付しておくこと。

- (15) **「授業の記録」**：実習生が実地授業や研究授業を行うに当たって、事前に十分検討し、まとめた教材研究と学習指導の展開計画を学習指導案として作成する。実習生は学習指導案を作成後、指導教員の校閲を受けて必要な修正を行う。

実地授業をした後は必ず反省、評価し、次の指導を改善できるように、自己の反省、生徒の感想、意見、指導教諭からの批評などを記録しておく。記録内容は、自分が行った実地授業について、これを「教材研究と学習指導案」および「指導の実際」の2点に分け、それぞれについて、指導教員や参観し出席された各教員からいただいたご講評やご指導ご助言ならびに自分自身の反省を整理し、具体的項目をあげて記入するようにする。余白のページは授業の形態・教材教具の位置など図解する場合に活用したり、資料等の貼付に活用する。

- (16) **「教育実習のまとめ」**：この記録は、教育実習のしめくくりとして、実習校での勤務、学習指導、生徒指導、生徒とのふれあい、その他、実習全般を通して習得したこと、反省や感想、その他について、項目をあげて記入する。とくに、これから教員を目指す者として教職の重要性や責任の重さについて、どのようなことを学び取ったか、どのような自覚が得られたか、今後この実習で得たものをどのように生かしていくか、課題は何かなどについても所見を述べておくことが望ましい。

最後に、実習でいろいろご指導いただいた校長をはじめ担当していただいた各教員に対する感謝のことは忘れてはならない。

- (17) **「実習生への指導助言」**：実習の終わりに、ご指導くださった先生にメッセージをいただく。署名・捺印（個人印）は校長・指導教員とも願います。

3 実習記録の提出と成績評価

(1) 実習記録の提出

① 実習校への提出

実習記録はよく点検整理してまとめ、実習後の指定された期日までに各実習校の指導教員に提出しなければならない。実習終了後に実習記録を書き始めたのでは間に合わない。毎日、きわめて多忙であるにせよ、その日の記録はその日のうちに書き上げて指導教員に提出して検印をいただっておき、実習最終日には、最終日分と「教育実習のまとめ」を記入してすぐ提出できるのが理想。

② 学校教育センターへの提出

実習校へ提出した後、指定のあった日に受け取りに伺うこと。実習校が遠方などの理由で、受け取りに伺えない場合は、事情をお話ししてレターパックライト（郵便局で370円）にあて名（実習生の住所・氏名）を記入し、実習最終日に実習校の担当の先生に渡しておくこと。学校教育センターへの提出は、大学が指定した期日に遅れないよう注意すること。

(2) 教育実習の成績評価

実習記録は、実習校において校閲・指導を受けることになる。実習校では、実習記録の内容だけでなく、校長はじめ実習を指導された教員全員によって、出勤状況、勤務態度、実習態度、指導能力、人物その他について、実習生一人ひとりの総合的評価が行われる。（50点）

しかし、教育実習の単位の評価は、最終的には、大学が責任をもって履修単位を認定することになる。本学では、実習校から送付された「教育実習生成績通知票」を十分に尊重し、教育実習記録と併せて、総合的、客観的に評価を行う（50点）。なお、実習記録は、学校教育センターにおいて受理し、それぞれの学科の担当教員の点検を受けた後に、実習生に返却する。

なお、実習記録を実習校に提出すること、および受け取りに行くことに関して、公欠とはなら

ないので、留意すること。

4 「教職課程履修カルテ」の入力について

教職課程を履修する場合、卒業学年次に「教職実践演習」（2単位）が必修とされている。併せて、その履修履歴を確認し、教員としての資質・能力の修得状況を検証するため、「教職課程履修カルテ」を作成し活用することが、義務付けられている。

- (1) 「教職課程履修カルテ」のうち、学生本人が入力する「課題事項Ⅱ・Ⅲ」については、Ⅱは実習前に「教育実習に臨む決意や課題等」を、Ⅲは実習後に「教育実習の反省点や今後の抱負や課題等」を400字以内で速やかに入力すること。
- (2) 「教職課程履修カルテ」については、卒業学年次後期開講の「教職実習演習」初回授業日に、授業担当者に提出しなければならないので、カルテ作成に努めること。提出されたカルテについては、教職実践演習の成績評価に10点分配点されている。

The screenshot shows the MUSES system interface. At the top, there is a navigation bar with icons for HOME, info@MUSES, Personal File, 履修 (Registration), 時間割参照, 休講・補講等 (Attendance), 出欠・公欠 (Survey), 授業アンケート, 試験, 成績(Grade), 見込みチェック, 諸資格, 履修カルテ (highlighted), チャリア支援, and 学友会. Below the navigation bar, there is a main content area with a header '自己評価シート入力<自己評価>' and a sub-header '自己評価シート入力<課題事項入力>'. The left pane contains a table with columns '大項目', '中項目', and '確認指標'. The right pane contains text input fields for lesson items, with arrows pointing to specific sections. A dashed box highlights the 'Lesson items to be self-evaluated' section in the left pane, and another dashed box highlights the 'Lesson item input' section in the right pane.

【注】「教職課程履修カルテ」の詳細な作成方法については、すでに配布している『教職課程履修カルテ説明資料』を参照のこと。

おわりに

実習生の皆さんは、短い実習期間の間にも「先生」と呼ばれ、不安と期待と喜びが入り交じり、一日一日を夢中で実習校へ通ったことでしょう。はじめて体験することによって学ぶことの意義をしみじみと感じたことと思います。教育実習を通して教員の責任の重大さ、すばらしさ、難しさ、楽しさを学び取ったことでしょう。

板書を間違えたり、途中で言うことを忘れてたりして生徒たちの前で立ち往生し、二度とない一日を、失敗の連続で終わるようなこともあったかもしれません。また一方では、教員の仕事のやりがいや喜びも味わったことでしょう。生徒たちへの愛情も一段と深まり、生徒一人ひとりの顔かたちが浮かんでくることでしょう。

しかし、短い実習期間を通して、教育について、果たしてどれだけの理解が得られたでしょうか。それに引き替え、この期間中、親しくご指導していただいた先生方は、教育の現場に身をおいて長い年月を苦勞されてきた方々ばかりです。豊かな識見、積み重ねて来られた多くの経験に対して、心からの敬意を忘れないでください。そしていつもと変わらない多忙な仕事の上に、さらに、実習指導という特別なご苦勞をおかけした先生方に対して、いつまでも感謝の気持ちを忘れてはなりません。先生方は実習生の皆さんが、立派な教員となり、いつの日にか同じ道を歩むようになることを強く願って、期待して指導されているのです。実習生はこの期待に応えるべく、先生方に続く一人の中学校・高等学校教員としての自覚と抱負をもって一層努力し、この教育実習で得た成果を実りのあるものにしてください。

実習が終わったらすぐに、懇切丁寧な指導をしてくださった担当の先生はもとより、校長先生、教頭先生、他の先生や職員の方々、励まし協力してくれた学級の生徒たちに礼状を書きましょう。

教員採用選考試験に挑戦し、その結果については、必ず教育学習でお世話になった先生方にお知らせしましょう。そして卒業後に、どの都道府県のどの地区であろうと実際に教壇に立ったとき、まず実習校の校長先生はじめ先生方に、その喜びをお伝えすることを忘れないでください。

令和3年4月1日 改訂

武庫川女子大学・同短期大学部
学校教育センター

〒663-8558 西宮市池開町6-46
Tel 0798-31-0243

教育実習 前後にやるべきこと チェック表

実習前

	やるべきこと	✓
1	実習校と事前打合わせ【日時： 】 連絡がない場合は自分から電話	
	事前打ち合わせで確認する事項	
	実習期間、就業時間の確認（自転車通勤の許可が出るか、その場合駐輪場の場所なども）	
	実習中の服装・持ち物、教科書等の準備、配当学年クラス、担当の単元などの確認	
2	事前打合せ日に授業がある場合→公欠手続＝「事前打合せ証明書」準備→学校教育センターへ	
3	「教育実習生プロフィール」「実習生出勤簿」「教育実習成績通知票」準備 (必要事項は記入して実習校へ提出)	
4	実習校HPなどで、校則・きまり事、担当クラスの現状・生徒の状況等調べておく(事前打合せでも確認)	
5	通学定期（1か月以上前）の準備（学生部へ）	
6	大学「教育実習Ⅰ（中高）」「教育実習Ⅱ（中高）」(他学科聴講・高校のみ履修者は「教育実習Ⅱ（中高）」)、 短大「教育実習Ⅰ（中）」「教育実習Ⅱ（中）」が履修登録されているか確認	
7	「教職課程履修カルテ」の課題事項Ⅱ「教育実習を前にして」入力	
8	大学の担当教員へあいさつ（「中・高教育実習 事前報告書」を記入の上、持参）	

実習後

	やるべきこと	✓
1	実習校からの借用物（名札・教科書・ロッカーの鍵など）があれば返却	
2	実習校に実習記録提出（「中・高教育実習 終了報告書」は抜いておく）【日時： 】	
3	実習開始後に実習期間に変更があった場合→「実習期間変更届」の準備→学校教育センターへ	
4	大学の担当教員へあいさつ（「中・高教育実習 終了報告書」を記入の上、持参して検印を受ける）	
5	実習校へ実習記録受け取り【日時： 】	
7	実習校（校長・指導教員・生徒など）にお礼状送付	
8	「教職課程履修カルテ」の課題事項Ⅲ「教育実習を終えて」入力	
9	大学へ実習記録提出（「中・高教育実習 終了報告書」を綴じ込む）【日時： 】	
10	実習記録採点者より実習記録受け取り（他学科聴講・学部聴講・科目等履修は学校教育センターより）	
11	大学「教育実習Ⅰ（中高）」「教育実習Ⅱ（中高）」(他学科聴講・高校のみ履修者は「教育実習Ⅱ（中高）」)、 短大「教育実習Ⅰ（中）」「教育実習Ⅱ（中）」の成績確認（前期実習の成績発表は10月～11月）	





教育実習成績通知票

中学・高校用

(武庫川女子大学)
(武庫川女子大学短期大学部)

実習校名		学校長氏名		Ⓔ	指導教員氏名		Ⓔ		
実習生 学籍番号	実習生 所属		実習生 氏名		実習教科	学年学級			
	学科								
	年 組 番								
右欄に総合評価点(50点満点)をご記入ください。評価目安は下記のとおりです 50～45点：よく努力し、実習の実をあげることができた 44～35点：努力し、実習の成果はあった 34～30点：いまま少しの努力と実習の成果が望まれる 29点～：努力に欠け、実習の成果は認められなかった							総合評価		
							/50点		
	評価項目	評価の着眼点			観点別評価				
学 習 指 導	教材研究	<input type="checkbox"/> 教科書や教材を十分に検討して、指導内容を正確に把握しているか。 <input type="checkbox"/> 教材と指導目標との関連、及び生徒の生活現実や発達段階との関連がよく研究されているか。			5	4	3	2	1
	学習指導の計画と準備	<input type="checkbox"/> 学習指導案は綿密で、よく整理して立案されているか。 <input type="checkbox"/> 指導のねらいは明確で、しっかり把握されているか。 <input type="checkbox"/> 必要な教材・教具・資料を準備し、活用しようとしているか。			5	4	3	2	1
	学習指導の展開	<input type="checkbox"/> 導入や展開のすすめ方は、活気があり、効果的であるか。 <input type="checkbox"/> 指導の方法や形態、板書に工夫がみられるか。 <input type="checkbox"/> 言語・音声・指導態度は好ましく、適切であるか。			5	4	3	2	1
	生徒の理解と配慮	<input type="checkbox"/> 生徒を個人的にも、集団的にもしっかりとらえ、よく理解して指導しようとしているか。 <input type="checkbox"/> また、生徒の心理状態や反応に即して、学習をすすめようとしているか。			5	4	3	2	1
学 級 経 営	教科外活動の指導	<input type="checkbox"/> 学級(ホームルーム)の諸行事・諸活動に積極的に参加しているか。 <input type="checkbox"/> 生徒をよく理解・把握し、適切に指導しているか。			5	4	3	2	1
	教室環境の整備	<input type="checkbox"/> 教室内の整理や美化によく気を配っているか。 <input type="checkbox"/> 衛生面や安全面によく配慮しているか。 <input type="checkbox"/> 帳簿や記録物の保管・事務処理の能力があるか。			5	4	3	2	1
実 習 態 度	勤務態度	<input type="checkbox"/> 教育に対する熱意と課題意識をもち、常に工夫、改善しようとする研究的な姿勢がみられるか。			5	4	3	2	1
	実習意欲	<input type="checkbox"/> 学校の規則や指導教員の指示をよく守っているか。 <input type="checkbox"/> 自らすすんで、指導教員の指導を求め、礼儀正しく協調的であるか。 <input type="checkbox"/> 教職に対する自覚を深め、積極的意欲的に責任感をもって、誠実に実行しているか。			5	4	3	2	1
	教育への意欲	<input type="checkbox"/> ものごとを謙虚に受けとめ、勤務態度は誠実、実直であるか。			5	4	3	2	1
	実習の記録と反省	<input type="checkbox"/> 几帳面に実習記録をとり、よくまとめているか。 <input type="checkbox"/> 課題意識をもち、研究的姿勢がみられるか。 <input type="checkbox"/> 指導の評価・反省は適正で、常に謙虚に見つめているか。			5	4	3	2	1
出 席 状 況	出席すべき日数	欠席日数		遅刻	人物所見(性格・態度についての特記事項)				
	日	病欠	日	回					
	出席した日数	その他		早退					
	日	計	日	回					

実習終了後3週間以内に、同封の返信用封筒でご返送くださいますようお願いいたします。

スポーツマネジメント学外実習先一覧

実習名称	実習概要	実習先	実習可能人数	実習期間
スポーツビジネスコンテスト	大阪市による地域活性化事業のうち、人材育成事業の一環として行われる、大学生による「舞洲スポーツビジネスコンテスト」に参加し、舞洲(大阪港の人口島)に拠点を置くプロスポーツチームから提示される経営課題の解決策を企画し、現地で実施する、課題解決型インターンシップ。	舞洲スポーツビジネスコンテスト運営事務局 大阪港の人工島(舞洲)を拠点に活動するプロスポーツチーム(大阪エヴェッサ、オリックス・バファローズ、セレッソ大阪) 〒561-0812大阪府豊中市北条町2-15-1	20人 (10人×2チーム)	10月～2月 (随時)
キャンプ場のマネジメント	丹波市にある会員制のキャンプ場で、トレイルランニング大会におけるイベント運営や、経営マネジメントを学ぶ実習。	丹波ダイナソーベース 〒669-822兵庫県丹波市青垣町大名草1095-1	20人	夏季休暇期間
ダンススタジオのマネジメント	関西最大級のダンススタジオにおいて、経営者インタビュー、施設見学、企画提案等を通じて、ダンススタジオのマネジメントを学ぶ。当該施設の経営者は本学OGであり、起業のロールモデルとして期待できる実習。	株式会社AX(スタジオAX) 〒542-0086大阪府中央区西心斎橋1-12-8 大美建築ビル3F	20人	10月～2月 (随時)
スポーツチームのマネジメント	神戸に拠点を置く女子フットサルチームである「アルコ神戸」における、イベントの企画・運営やグッズ開発等のマネジメント実習。	アルコ神戸(日本女子フットサルリーグ所属) 〒654-0163 神戸市須磨区緑台神戸総合運動公園内グリーンアリーナ神戸	20人	10月～2月 (随時)

定 年 に 関 す る 規 定

○ 武庫川学院職員就業規則（抜粋）

（定義）

第2条 この規則における職員とは、第2章に定める手続により学院に採用された専任の教育職員、事務職員及び技能労務職員をいう。

2 前項職員の資格は別表1に定めるとおりとし、任用、判定基準その他については別に定める。

（任命権者）

第4条 職員の任命その他人事に関する権限は、任命権者がこれを行う。

2 前項の任命権者は、理事長とする。

（定年）

第17条 職員は、次の年齢に達した年度の3月末日をもって定年退職となる。

(1) 教育職員(本条第2号の職員を除く)、事務職員及び技能労務職員 満66歳

(2) 附属幼稚園の教育職員 満60歳

2 附属幼稚園の教育職員については定年到達者が引き続き勤務を希望した場合、臨時職員、嘱託職員等の身分にて、原則として65歳に達した年度の3月末日まで継続雇用する。なお、当該雇用期間の身分については、職員個別に定める。

3 前項の定めにかかわらず、次のいずれかに該当した場合は継続雇用しない。

(1) 心身の故障のため業務に堪えられないと認められた場合

(2) 勤務状況が著しく不良で、引き続き職責を果たし得ないと認められた場合

(3) その他、就業規則に定める解雇事由又は退職事由(年齢に係るものを除く)に該当する場合

4 業務の都合により、特に任命権者が必要があると認めた者については、第1項の規定にかかわらず定年を延長することがある。

大学 健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科 1年 前期 標準時間割

曜日	時限	開講科目名	必選	教室	授業詳細	開講クラス名	A	B	
月	1	日本国憲法			資格	AB	○		
	5	教職入門			資格	AB	○	○	
火	1	スイミング	選必	G1-11		A	○		
		体操		G2-B1		B		○	
	2	基礎英語 I-a	必	L2-34		A	○		
		スイミング	選必	G1-11		B		○	
	3	スポーツ心理学		MM-505		AB	○	○	
	4	ダンス I	必	G1-35		A	○		
		基礎英語 I-a	必	MM-507		B		○	
基礎英語 I-b		必	L2-34		B		○		
水	1	アカウンティング I		MM-723		AB	○	○	
	2	スポーツビジネス論	必	MM-505		AB	○	○	
	3	運動器の解剖と機能		MM-723		AB	○	○	
木	1	スポーツの文化・歴史	必	MM-505		AB	○	○	
	2	運動生理学		MM-723		AB	○	○	
	3	情報リテラシー	必	MM-304		A	○		
		情報リテラシー	必	MM-303		B		○	
4	救急処置演習		MM-502 G2-41-2		A	○			
金	1	基礎英語 I-b	必	MM-507		A	○		
		ダンス I	必	G1-35		B		○	
	2	健康・スポーツ科学論	必	MM-505		AB	○	○	
		体操		G2-B1		A	○		
	3	救急処置演習		MM-502 G2-41-2		B		○	
		4	初期演習 I	必	S-37		A	○	
			初期演習 I	必	S-21		B		○
土	1	スポーツ産業と政策		MM-505		AB	○	○	

大学 健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科 1年 後期 標準時間割

曜日	時限	開講科目名	必選	教室	授業詳細	開講クラス名	A	B
月	4	教育原理			資格	新健1AB	○	○
火	1	ホスピタリティマネジメント論		MM-505		新健1AB	○	○
	2	基礎英語Ⅱ	必	L2-34		新健1A	○	
		ダンスⅡ		G1-35		新健1B		○
	3	トラックアンドフィールド	選必	B-303 KG-1		新健1A	○	
		基礎英語Ⅱ	必	L2-34		新健1B		○
	4	基礎英語Ⅱ	必	MM-507		新健1B		○
水	1	器械運動		G2-B1		新健1A	○	
		バレーボール		G1-42		新健1B		○
	2	体育原理		MM-503		新健1AB	○	○
	3	初期演習Ⅱ(健康・スポーツ)	必	S-37		新健1A	○	
		初期演習Ⅱ(健康・スポーツ)	必	S-21		新健1B		○
	4	アカウンティングⅡ		MM-723		新健1AB	○	○
木	1	スポーツ運動学		MM-505		新健1AB	○	○
	2	バレーボール		G1-42		新健1A	○	
		器械運動		G2-B1		新健1B		○
	3	バスケットボール		G1-42		新健1A	○	
		エアロビックダンス		G1-25		新健1B		○
	4	エアロビックダンス		G1-25		新健1A	○	
バスケットボール		G1-42		新健1B		○		
金	1	基礎英語Ⅱ	必	MM-507		新健1A	○	
	2	保健体育科指導法Ⅰ		S-35		新健1AB	○	○
	3	スポーツビジネス最前線		MM-101		新健1AB	○	○
	4	ダンスⅡ		G1-35		新健1A	○	
トラックアンドフィールド		選必	B-303 KG-1		新健1B		○	
土	1	スポーツマネジメント論	必	S-35		新健1AB	○	○
	3	ICT活用の理論と実践			資格	新健1AB	○	○
	4	教育心理学			資格	新健1AB	○	○

大学 健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科 2年 前期 標準時間割

曜日	時限	開講科目名	必選	教室	授業詳細	開講クラス名	A	B
月	4	教育課程総論			資格	AB	○	○
火	1	保健体育科指導法Ⅱ		G2-51 MM-502		A	○	
		ハンドボール	選必	G3-11		B		○
	2	ハンドボール	選必	G3-11		A	○	
		保健体育科指導法Ⅱ		G2-51 MM-502		B		○
	3	地域スポーツマネジメント論		MM-505		AB	○	○
4	バイオメカニクス		MM-723		AB	○	○	
水	1	ダンスⅢ		G1-35		AB	○	○
	2	Oral Communication I	必	L1-503		AB	○	○
				L1-603 L1-701 L1-703 L1-803 MM-501 MM-507 S-44				
3	学校保健		MM-505		AB	○	○	
木	1	体力の測定評価演習		G2-22 G2-23		AB	○	○
	2	スポーツ医学		MM-505		AB	○	○
	3	ファイナンシャルマネジメント		MM-723		AB	○	○
	4	スポーツ栄養学		MM-505		AB	○	○
金	1	スポーツ経営管理学		MM-505		AB	○	○
	2	スポーツマーケティング論		MM-723		AB	○	○
	3	スポーツガバナンス論		MM-505		AB	○	○
土	3	教育史			資格	AB	○	○

大学 健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科 2年 後期 標準時間割

曜日	時限	開講科目名	必選	教室	授業詳細	開講クラス名	A	B
月	4	道徳教育指導論			資格	AB	○	○
火	1	スポーツイベントの企画・運営		MM-505		AB	○	○
	2	実務技能対策論		MM-723		AB	○	○
	3	経営組織論		MM-505		AB	○	○
	4	剣道	選必	B-301		AB	○	○
水	1	スポーツ行政・法規		MM-505		AB	○	○
	2	Oral Communication II	必	L1-201 L1-503 L1-603 L1-703 L1-803 L2-33 L2-34 L2-35		AB	○	○
	3	スポーツマネジメント学内演習		MM-501		AB	○	○
		スポーツマネジメント学内演習		MM-502		AB	○	○
		スポーツマネジメント学内演習		MM-503		AB	○	○
		スポーツマネジメント学内演習		MM-504		AB	○	○
		スポーツマネジメント学内演習		MM-505		AB	○	○
		スポーツマネジメント学内演習		MM-506		AB	○	○
木	1	スポーツ指導論		MM-723		AB	○	○
	2	スポーツ社会学		MM-505		AB	○	○
	3	運動処方		MM-723		AB	○	○
	4	レクリエーション論		MM-505		AB	○	○
金	1	スポーツトレーニングの科学		MM-505		AB	○	○
	2	保健体育科指導法(体づくり運動・器械運		G2-B1		A	○	
		保健体育科指導法(陸上競技・水泳)		KG-1 G1-11		B		○
	3	保健体育科指導法(球技)		G2-51		AB	○	○
	4	保健体育科指導法(体づくり運動・器械運		G2-B1		B		○
保健体育科指導法(陸上競技・水泳)			KG-1 G1-11		A	○		
土	3	生徒指導・進路指導			資格	AB	○	○
	3	発達心理学			資格	AB	○	○

大学 健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科 3年 前期 標準時間割

曜日	時限	開講科目名	必選	教室	授業詳細	開講クラス名	A	B
月	4	特別支援教育論			資格	AB	○	○
火	1	スポーツ情報・メディア論		MM-505		AB	○	○
	2	コーチング論		MM-723		AB	○	○
	3	卒業研究 I	必	GA-303	通年	AB	○	○
		卒業研究 I	必	GA-704	通年	AB	○	○
		卒業研究 I	必	GA-605	通年	AB	○	○
		卒業研究 I	必	MM-504	通年	AB	○	○
4	スポーツ施設マネジメント論		MM-505		AB	○	○	
水	1	消費者行動論		MM-505		AB	○	○
	2	販売管理論		MM-723		AB	○	○
	3	卒業研究 I	必	G-202	通年	AB	○	○
		卒業研究 I	必	G-402	通年	AB	○	○
		卒業研究 I	必	GA-601	通年	AB	○	○
		卒業研究 I	必	G1-25	通年	AB	○	○
		卒業研究 I	必	GA-504				
卒業研究 I	必	MM-507	通年	AB	○	○		
卒業研究 I	必	MM-502	通年	AB	○	○		
木	1	発育発達・老化論		MM-505		AB	○	○
	2	保健体育科指導法Ⅳ		G1-25		A	○	
				MM-506				
	3	生活習慣病論		MM-723		AB	○	○
4	レクリエーション指導法演習		MM-505		AB	○	○	
金	1	アクアエクササイズ		G1-11		AB	○	○
	2	保健体育科指導法Ⅳ		G1-25		B		○
				MM-506				
3	健康・スポーツカウンセリング		MM-723		AB	○	○	
土	1	専門英語A	選必	MM-502		A	○	
	2	専門英語A	選必	MM-502		B		○

大学 健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科 3年 後期 標準時間割

曜日	時限	開講科目名	必選	教室	授業詳細	開講クラス名	A	B
月	4	総合的な学習の時間と特別活動			資格	AB	○	○
火	1	保健体育科指導法(武道・ダンス)		G1-35		AB	○	○
	2	トップスポーツ経営論		MM-505		AB	○	○
	3	障がい者スポーツ論 I		S-23		AB	○	○
	4	柔道		B-102		A	○	
水	1	保健体育科指導法Ⅲ		MM-506		AB	○	○
	2	卒業研究 I	必	MM-306	通年	AB	○	○
		卒業研究 I	必	GA-303	通年	AB	○	○
		卒業研究 I	必	GA-605	通年	AB	○	○
		卒業研究 I	必	G-402	通年	AB	○	○
		卒業研究 I	必	GA-601	通年	AB	○	○
		卒業研究 I	必	MM-507	通年	AB	○	○
		卒業研究 I	必	MM-504	通年	AB	○	○
3	スポーツ・ヘルスツーリズム論		MM-505		AB	○	○	
木	1	マーチャンダイジング		MM-723		AB	○	○
	2	柔道		B-102		B		○
	3	介護法・介護予防演習		G1-36		AB	○	○
				MM-504				
4	フィットネス指導法		G2-22		AB	○	○	
金	1	卒業研究 I	必	GA-704	通年	AB	○	○
		卒業研究 I	必	G1-35	通年	AB	○	○
		卒業研究 I	必	GA-504				
	2	レクリエーション指導法実習		MM-501	通年	AB	○	○
				G2-51		AB	○	
3	公衆衛生学		MM-505		AB	○	○	
4	健康・スポーツ科学の統計学演習		MM-401 MM-402		AB	○	○	
土	1	専門英語B		MM-502		A	○	
	2	専門英語B		MM-502		B		○
	4	教育実習事前指導(中高)			資格	A	○	
	4	教育実習事前指導(中高)			資格	B		○
	5	教育行政学			資格	AB	○	○

大学 健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科 4年 前期 標準時間割

曜日	時限	開講科目名	必選	教室	授業詳細	開講クラス名	A	B
月	3	教育方法の理論と実践			資格	AB	○	○
	6	教育実習事前事後指導(中高)			資格、通年/ 隔週	AB	○	○
火	1	ヘルスケアマネジメント論		MM-505		AB		
	2	卓球		G1-25		AB	○	○
	3	障がい者スポーツ論Ⅱ		MM-723		AB	○	○
水	1	健康行動科学・演習		MM-505		AB	○	○
	2	卒業研究Ⅱ	必	G-202	通年	AB	○	○
		卒業研究Ⅱ	必	GA-704	通年	AB	○	○
		卒業研究Ⅱ	必	GA-601	通年	AB	○	○
		卒業研究Ⅱ	必	G1-35 GA-504	通年	AB	○	○
3	ヒューマンリソースマネジメント		MM-723		AB	○	○	
木	1	運動療法演習		G1-36 MM-501		AB	○	○
	2	卒業研究Ⅱ	必	GA-605	通年	AB	○	○
		卒業研究Ⅱ	必	MM-306	通年	AB	○	○
		卒業研究Ⅱ	必	GA-303	通年	AB	○	○
		卒業研究Ⅱ	必	MM-504	通年	AB	○	○
		卒業研究Ⅱ	必	MM-507	通年	AB	○	○
卒業研究Ⅱ	必	MM-502	通年	AB	○	○		
土	3	教育相談の理論と方法			資格	AB	○	○

大学 健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科 4年 後期 標準時間割

曜日	時限	開講科目名	必選	教室	授業詳細	開講クラス名	A	B
月	5	教職実践演習(中高)			資格	B		○
	5	教職実践演習(中高)			資格	A	○	
火	1	卒業研究Ⅱ	必	MM-306	通年	AB	○	○
		卒業研究Ⅱ	必	GA-601	通年	AB	○	○
	2	障がい者スポーツ指導法		G1-42		AB	○	○
	3	卒業研究Ⅱ	必	MM-507	通年	AB	○	○
卒業研究Ⅱ		必	MM-504	通年	AB	○	○	
水	3	卒業研究Ⅱ	必	G-202	通年	AB	○	○
		卒業研究Ⅱ	必	GA-704	通年	AB	○	○
		卒業研究Ⅱ	必	GA-605	通年	AB	○	○
		卒業研究Ⅱ	必	GA-303	通年	AB	○	○
		卒業研究Ⅱ	必	G1-25	通年	AB	○	○
		卒業研究Ⅱ	必	GA-504	通年	AB	○	○
木	1	バドミントン		G2-51		AB	○	○
	2	スポーツイノベーション論		MM-505		AB	○	○

スポーツマネジメント学科 整備予定図書(雑誌)

	書名	出版社	
基礎編 (22編)	1	DAIMONDハーバードビジネスレビュー(日本版)	ダイヤモンド社
	2	Fitness Business	株式会社ビジネスジャパン
	3	MITテクノロジーレビュー	MITテクノロジーレビュー編集部
	4	Sport Japan	財団法人日本スポーツ協会
	5	TIME	Time Magazine Hong Kong Limited
	6	Wedge	Wedge編集部
	7	エコノミスト	週刊エコノミスト編集部
	8	経済	新日本出版社
	9	月刊スポーツ用品ジャーナル	株式会社スポーツジャーナル社
	10	月刊 NEXT	株式会社ビジネスジャパン
	11	週刊エコノミスト	毎日新聞出版社
	12	週刊金曜日	金曜日
	13	週刊ダイヤモンド	ダイヤモンド社
	14	週刊東洋経済	東洋経済新報社
	15	宣伝会議	宣伝会議
	16	ダイヤモンドZAI	ダイヤモンド社
	17	東洋経済	週刊東洋経済編集部
	18	ナンバー	文芸春秋
	19	日経ビジネス	日経BP
	20	日経マネー	日経BP
	21	プレジデント	プレジデント社
	22	みんなのスポーツ	株式会社日本体育社
応用編 (37編)	1	Academy of Management Journal (AMJ)	Academy of Management Journal (AMJ)
	2	Academy of Management Review (AMR)	UNIV OF OKLAHOMA
	3	European Sport Management Quarterly	European Association for Sport Management
	4	FORTUNE	Fortune Media IP Limited
	5	Harvard Business Review	Harvard Business School Publishing
	6	HARVARD BUSINESS REVIEW(米国版)	HBS
	7	International Entrepreneurship and Management Journal	Springer
	8	International Journal of Sports Policy and Politics	Taylor
	9	Journal of Consumer Research	JSTOR
	10	Journal of Economic History	Cambridge
	11	Journal of Management	SAGE
	12	Journal of Management Studies	WILEY
	13	Journal of Marketing	American Marketing Association
	14	Journal of Marketing Research	JSTOR
	15	Journal of Sport Management	North American Society for Sport Management.
	16	Newton	株式会社ニュートンプレス
	17	Sport Management Review	Sport Management Association of Australia & New Zealand
	18	Sport Management Review	ブックハウス・エイテディ
	19	Sport Marketing Quarterly	FiT Publishing
	20	Sports Business Journal(デジタル+プリントアウト)	Sports Business Journal
	21	Strategic Management Journal	Strategic Management Society
	22	Strategic Organization	SAGE
	23	The Journal of Business	UCP
	24	企業会計	中央経済社
	25	企業診断	同友館
	26	経済界	経済界
	27	四季報	東洋経済新報社
	28	実践経営	実践経営学会
	29	スポーツ社会学研究	日本スポーツ社会学会
	30	スポーツマネジメント研究	日本スポーツマネジメント学会
	31	スポーツ産業学研究	日本スポーツ産業学会
	32	体育・スポーツ経営学研究	日本体育・スポーツ経営学会
	33	体育・スポーツ政策研究	日本体育・スポーツ政策学会
	34	特定サービス産業実態調査報告書	経済産業省大臣官房調査統計グループ/編
	35	日本経営学会誌	日本経営学会
	36	日本スポーツ法学会年報	日本スポーツ法学会
	37	一橋ビジネスレビュー	東洋経済新報社

○武庫川女子大学自己評価委員会規則

平成 3 年 11 月 1 日

規則第 1 号

改正 平成 6 年 10 月 1 日

平成 7 年 4 月 1 日

平成 19 年 4 月 1 日

平成 26 年 4 月 1 日

平成 29 年 4 月 1 日

令和 2 年 5 月 1 日

令和 3 年 4 月 1 日

(設置)

第 1 条 武庫川女子大学学則第 4 条の規定に基づき、武庫川女子大学に自己評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目的)

第 2 条 委員会は、教育研究水準の向上に資するため、武庫川女子大学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について、全学的な自己点検及び自己評価（以下「自己点検・評価」という。）を行い、その結果を公表することを目的とする。

(委員会の組織)

第 3 条 委員会は、次にかかげる委員をもって組織し、委員は学長が委嘱する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 各学部長
- (4) 共通教育部長
- (5) 理事のうちから選任されたもの
- (6) 事務局長
- (7) 教学局長
- (8) 教学局次長
- (9) 教務部長
- (10) 入試センター長
- (11) 学生部長
- (12) キャリアセンター長

- (13) 教育研究所長
- (14) 大学事務室統括部長
- (15) その他学長が必要と認めたもの
(会議)

第4条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

- 2 委員会は、委員長が招集し、議長は副学長のうちから学長が指名する。
- 3 委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。
- 4 委員長が委員会に出席できない事情があるときは、委員長があらかじめ指名した委員が、その職務を代行する。

(審議事項)

第5条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 自己点検・評価の基本方針の策定に関する事項
- (2) 自己点検・評価の実施、組織及び体制に関する事項
- (3) 自己点検・評価報告書の作成に関する事項
- (4) 自己点検・評価結果に基づき改善・改革の取り組みに関する事項
- (5) 自己点検・評価結果の公表に関する事項
- (6) 認証評価及びその他の第三者評価に関する事項
- (7) その他委員長が必要と認めた事項

(学部自己評価委員会)

第6条 各学部自己点検・評価を実施するために学部自己評価委員会を委員会の下に置く。

- 2 学部自己評価委員会に関する必要な事項は、別に定める。

(共通教育部自己評価委員会)

第7条 共通教育部自己点検・評価を実施するために共通教育部自己評価委員会を委員会の下に置く。

- 2 共通教育部自己評価委員会に関する必要な事項は、別に定める。

(自己点検・評価の実施方法)

第8条 第6条及び第7条に規定する各自己評価委員会は、毎年度末に、活動状況等を取りまとめて委員会に報告するものとする。

(委員の任期)

第9条 各委員会の委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 委員に欠員が生じた場合は、これを補充しなければならない。補充によって委員となっ

た者の任期は、前任者の残任期間とする。

(規則の改廃)

第10条 この規則の改廃は、委員会の議を経て、学長がこれを行う。

(その他)

第11条 この規則に定めるもののほか、委員会について必要な事項は別に定める。

附 則

この規則は、平成3年11月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成6年10月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和2年5月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和3年4月1日から施行する。

○武庫川女子大学学部自己評価委員会規程

平成29年4月1日

規程第3号

(目的)

第1条 この規程は、武庫川女子大学自己評価委員会規則第6条の規定に基づき、各学部の自己点検及び自己評価（以下「自己点検・評価」という。）を実施する学部自己評価委員会（以下「委員会」という。）の運営に関し、必要な事項を定める。

(構成)

第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織し、学長が委嘱する。

- (1) 学部長
- (2) 学科長
- (3) 幹事教授
- (4) 事務長
- (5) その他委員長が必要と認めたもの

(会議)

第3条 委員会に委員長を置き、学部長をもって充てる。

- 2 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。
- 3 委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。
- 4 委員長が委員会に出席できない事情があるときは、委員長があらかじめ指名した委員が、その職務を代行する。

(自己点検・評価項目)

第4条 委員会は、次に掲げる項目について自己点検・評価を実施する。

- (1) 理念・目的に関する事項
- (2) 教育課程・学習成果に関する事項
- (3) 学生の受け入れに関する事項
- (4) 教員・教員組織に関する事項
- (5) その他自己点検・評価に必要な事項

(学科自己評価委員会)

第5条 複数の学科を有する学部の委員会に、学科単位の自己評価委員会を置くことができる。

- 2 学科自己評価委員会は、学部長の委嘱する委員若干名をもって組織し、会議は学科長が

招集して、その議長となる。

(任期)

第6条 委員会の委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(報告)

第7条 委員会は、毎年度末に、活動状況等を取りまとめて武庫川女子大学自己評価委員会に報告する。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、学部事務室がこれを担当する。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、武庫川女子大学自己評価委員会の議を経て、学長が行う。

(その他)

第10条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

○武庫川女子大学FD推進委員会規程

平成20年1月1日

規程第1号

改正 平成23年4月1日

平成24年4月1日

平成26年4月1日

平成27年4月1日

平成29年4月1日

平成31年4月1日

令和2年4月1日

(目的)

第1条 武庫川女子大学の教育理念及び学部等の教育目標の実現を目指し、社会に役立つ有為な人材を育成するために、教員の資質向上や、主体的・恒常的に行う授業の内容及び方法の改善に資することを主たる目的とし、大学全体で組織的に教育水準の質的向上を推進するため、学長の下に、武庫川女子大学FD推進委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(構成)

第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 文学部各学科から推薦された委員 各1名 計3名
- (2) 教育学部から推薦された委員 1名
- (3) 健康・スポーツ科学部から推薦された委員 1名
- (4) 生活環境学部各学科から推薦された委員 各1名 計2名
- (5) 食物栄養科学部から推薦された委員 1名
- (6) 建築学部から推薦された委員 1名
- (7) 音楽学部から推薦された委員 1名
- (8) 薬学部から推薦された委員 1名
- (9) 看護学部から推薦された委員 1名
- (10) 経営学部から推薦された委員 1名
- (11) 共通教育部から推薦された委員 1名
- (12) 教務部長
- (13) 学長が委嘱する委員 若干名

- 2 委員長及び副委員長をおく。委員長及び副委員長は、学長が指名する。
- 3 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。欠員を生じた場合は、これを補充しなければならない。補充によって委員となった者の任期は、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第3条 委員会は、第1条の目的を達成するため、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 授業改善のための基本方針の策定に関する事項
- (2) 教員の研修会及び講習会の開催に関する事項
- (3) 教員の教授法及び教授活動の相互研鑽に関する事項
- (4) FD活動に関する情報の収集と提供に関する事項
- (5) 各学科の教員へのFD活動の啓発に関する事項
- (6) 教員の教授活動の支援に関する事項
- (7) その他、学長の諮問する事項及び委員会が必要と認めた事項

(会議)

第4条 委員会は、原則として毎月1回会議を開く。

- 2 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を行う。
- 4 委員長は、必要と認めた場合、委員以外の者を出席させることができる。

(庶務)

第5条 委員会の庶務は、教育開発推進室教育開発・IR推進課が担当する。

(改廃)

第6条 この規程の改廃は、FD推進委員会の意見を聴いて、学長が決定する。

(その他)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関する必要な事項は、委員会の議を経て委員長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成20年1月1日から施行する。
- 2 第2条第3項の規定にかかわらず、委員会設置当初の任期は平成20年1月1日から平成21年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

2022年度 新任教員研修プログラム

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、プログラム内容が変わる可能性があります。

研修目的	本学院は、2039年までのビジョンとして「一生を描ききる女性力を。」を掲げ、「立学の精神」にうたわれる“高い知性、善美な情操、高雅な徳性”を兼ね備えた有為な女性の育成を具現化することを宣言しました。本学の教職員は、これらを受けて、幅広い教養と豊かな人間性をはぐくむ全人教育を実践し、人・家庭・社会に貢献できる女性の育成に寄与することを目指しています。 MUKUJO Principles 2019→2039においては、女性一人ひとりのライフデザインを支える総合大学の教育として、教育の面では8つの目標を掲げ、さまざまな先駆的な取組みを進めようとしています。 さらに内部質保証を重視した認証評価受審が本学においても2022年度に実施されることとなり、大学全体として教育の質を高めることがより一層求められています。 本研修では、本学に新規採用された教員に対して、本学でこれまで取り組まれてきた大学教育を展開するための知識と技能を共有するとともに、MUKUJO Principles 2019→2039を共有し、お互いが持っている技能や大学教育に対する想いを紡ぎ合わせるにより、教員自身の考えによって教育をさらに良くしていく力の形成を目的としています。これにより、新しい武庫川の姿を考える力、教員の専門領域を超えた新しい教育が創発されることを目指しています。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 本学の教員として教育活動を行うために、これまで本学において取り組まれてきた教育改革・改善の基礎知識や手法、教育インフラを理解しそれらを自身の教育に活用できる。 2 授業の創意工夫を行うための基礎となる考え方や評価方法、集団におけるコミュニケーション能力を修得し、学生の能力を引き出すことができる。 3 教育の質向上のために教員同士が切磋琢磨できる関係を築きあげ、学院全体の教育力の向上に繋げることができる。 4 さらなる改善に向けての、具体的な形での改革・提案を示すことができる。

15回のプログラムで構成されています。対象者を1班5名程度のグループに編成し、研修を展開します。(注1) 対面実施が難しい状況となった場合は、オンラインでの研修実施とする。

チーフコーディネータ：副学長・教育開発推進室長 河合 優年

教室：文学部2号館3階アクティブ・ラーニング教室 L2-31教室

実施日 (水曜2時限) 10:55~12:25		授業方法 (注1)	ユニット	テーマ	内容	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	GW	研修担当者(案)	アドバイザー	
初 回 レ ク ル ス	4月13日	対面	本学に関する 知識の定着	本学で共に働くにあたって 本学の実情を知る (1)	学長・事務局長メッセージ、現在の本学の状況について	○					学長 瀬口 和義 事務局長 瀧居 豊	教育開発推進室	
					本研修の目的とゴール・アイスブレイク			◎					副学長・教育開発推進室長 河合 優年
2回目	4月20日	online	本学で共に働くにあたって 本学の実情を知る (2)	新たな時代の大学に求められるものと本学の課題 (1) (本学の教育の現状と成果、自己点検評価結果(認証評価)ととりまとめの結果から)	◎	○					副学長・教学局長 山崎 彰 法人課 課長補佐 星山 一剛		
3回目	4月27日	対面		新たな時代の大学に求められるものと本学の課題 (2) (グループ内での問題意識の共有)	◎	○	○		○		副学長・教育開発推進室長 河合 優年 教育開発・IR推進課 課長 田中 邦子	未定	
4回目	5月11日	online	資源のアーカイブ*1 授業設計・教育方法 ・教育評価	3つのポリシーと教育課程 (1)	3つのポリシー・カリキュラムツリー・ナンバリング等、体系的教育の理解	◎				○	愛媛大学教育学生支援機構教育企画室 講師 竹中 喜一	—	
5回目	5月18日	対面		3つのポリシーと教育課程 (2)	所属する組織の教育目標の理解とグループ内での問題意識の共有	○		◎		○	副学長・教育開発推進室長 河合 優年	未定	
6回目	5月25日	online	資源のアーカイブ*2 授業運営	授業デザイン	授業デザインとは(授業デザインとシラバス作成)	○	◎			○	愛媛大学教育学生支援機構教育企画室 講師 竹中 喜一	—	
7回目	6月1日	online		概念理解の形成を助ける工夫	さまざまな授業方法(遠隔・対面、ICTの活用、能動的学修の方法など)	○	◎			○*	共通教育部 准教授 寺井 朋子	未定	
8回目	6月8日	online	7-カイブ*の活用	授業における評価	さまざまな評価方法 (形成的評価・量的評価・質的評価・ポートフォリオ・ルーブリック)	○	◎			○	愛媛大学教育学生支援機構教育企画室 講師 竹中 喜一	—	
9回目	6月15日	対面		授業設計・教育方法・教育評価の振り返り	第6回~8回目の振り返りワーク (グループ内での問題意識の共有)	○	○	◎		○*	副学長・教育開発推進室長 河合 優年	過去の修了生	
10回目	6月22日	online	7-カイブ*の活用	実際の授業見学	実際に行われている授業への参観	○	◎	◎				参観する授業の科目担当者	—
11回目	6月29日	online		授業見学の振り返り	授業見学を踏まえての振り返り	◎	○	◎		○*	副学長・教育開発推進室長 河合 優年	未定	
12回目	7月6日	対面/online	7-カイブ*の活用	提案資料の検討	本学の教育改革・授業改善に繋がる提案に向けての検討	○	○	◎	◎	○	副学長・教育開発推進室長 河合 優年 事務局長 瀧居 豊	—	
13回目	7月13日	対面		提案発表	本学の教育改革・授業改善に繋がる提案内容の発表	○	○	◎	◎	○	学 長 瀬口 和義 副学長・教学局長 山崎 彰 副学長・教育開発推進室長 河合 優年 事務局長 瀧居 豊	教育開発推進室	
14回目	7月20日	対面	提案発表	本学の教育改革・授業改善に繋がる提案内容の発表	○	○	◎	◎	○	学 長 瀬口 和義 副学長・教学局長 山崎 彰 副学長・教育開発推進室長 河合 優年 事務局長 瀧居 豊			
15回目	7月27日	対面	振り返り	研修のまとめ・意見交換会	研修内容の振り返り、学長、副学長、事務局長を交えた意見交換会、修了証授与	○	○	◎		○	学 長 瀬口 和義 副学長・教学局長 山崎 彰 副学長・教育開発推進室長 河合 優年 事務局長 瀧居 豊		

★ 学外紹介資料については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、キャンパスマップおよび施設紹介の動画資料をClassroomに格納

GW：グループワーク
(グループワーク時には研修担当者または学科長・修了生がアドバイザーとして参加します)

○*の回はグループ構成を変更して実施

SD推進委員会規程

(目的)

第1条 学校法人武庫川学院の立学の精神のもと、社会に役立つ有為な人材を育成するために、事務職員（以下「職員」という。）の教育・研究に対する提案力と支援業務の対応能力の向上、および、法人・組織の管理運営に対する企画力と管理運営業務の対応能力の向上を推進するため、事務局長の下に、武庫川学院SD推進委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(構成)

第2条 委員会は、事務局長、教学局長、人事部長から推薦された委員10名程度で構成する。

2 委員長及び副委員長をおく。委員長及び副委員長は、事務局長が指名する。

3 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。欠員を生じた場合は、これを補充しなければならない。補充によって委員となった者の任期は、前任者の残任期間とする。

(協議事項)

第3条 委員会は、第1条の目的を達成するため、次に掲げる事項を協議する。

- (1) 本規程に掲げる目的達成に必要な人事諸施策の改革・改善に関する事項
- (2) 職員の研修会及び講習会の開催に関する事項
- (3) 職員の業務対応能力の相互研鑽に関する事項
- (4) SD活動に関する情報の収集と提供に関する事項
- (5) 事務局各部署の職員へのSD活動の啓発に関する事項
- (6) FD活動との連携・調整に関する事項
- (7) その他、事務局長の諮問する事項及び委員会が必要と認めた事項

(会議)

第4条 委員会は、原則として毎月1回以上会議を開く。

2 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を行う。

4 委員長は、必要と認めた場合、委員以外の者を出席させることができる。

(庶務)

第5条 委員会の庶務は、人事部が担当する。

(その他)

第6条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関する必要な事項は、委員会の議を経て委員長が定める。

附 則

1 この規程は、平成27年7月1日から施行する。

2 第2条第3項の規定にかかわらず、委員会設置当初の任期は平成27年7月1日から平成29年3月31日までとする。

武庫川女子大学健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科
学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	
① 学生の確保の見通し	・ ・ ・ ・ p. 2
ア 定員充足の見込み	・ ・ ・ ・ p. 2
1 入学定員設定の考え方及び定員充足の見込み	・ ・ ・ ・ p. 2
2 定員超過率が0.7倍未満の学科について	・ ・ ・ ・ p. 2
イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	・ ・ ・ ・ p. 3
1 18歳人口推移	・ ・ ・ ・ p. 3
2 女子の進学動向	・ ・ ・ ・ p. 4
3 分野別志願動向	・ ・ ・ ・ p. 4
4 同分野を有する近隣競合校の志願状況	・ ・ ・ ・ p. 5
5 既存学部学科の状況	・ ・ ・ ・ p. 6
6 受験対象者への進学需要調査	・ ・ ・ ・ p. 7
ウ 学生納付金の設定の考え方	・ ・ ・ ・ p. 8
② 学生確保に向けた具体的な取組状況	・ ・ ・ ・ p. 9
1 学生確保の取り組み	・ ・ ・ ・ p. 9
2 定員超過率が0.7倍未満の学科について	・ ・ ・ ・ p. 11
(2) 人材需要の動向等社会の要請	
① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)	・ ・ ・ ・ p. 12
② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたもの であることの客観的な根拠	・ ・ ・ ・ p. 12
1 社会的な人材需要	・ ・ ・ ・ p. 12
2 企業及び事業所への人材需要に関する採用意向調査	・ ・ ・ ・ p. 13
3 既存学部学科の就職状況・求人状況	・ ・ ・ ・ p. 14

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

①学生確保の見通し

ア 定員充足の見込み

1 入学定員設定の考え方及び定員充足の見込み

武庫川女子大学健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科(以下、本学科という。)の入学定員については、「健康・スポーツ科学の優れた知見を広く学び、多角的な視点からスポーツマネジメントやビジネスに対する理解を深めるとともに、スポーツの学びと実践を通して、多様な社会的課題の解決やダイバーシティの推進に資するマネジメント力、高い共感性と創造性を身につける」という設置目的を実現するため、養成する人材に係る社会的・地域的な需要を踏まえるとともに、教育研究活動の実施方法に留意しつつ、私立大学として安定的な財務基盤を築くことを前提に設定した。

18歳人口の推移、女子の大学進学等の状況、他大学健康・スポーツ系学部の大学進学の入学者志願状況、本学既存学科の学生募集の状況、その他様々な状況とデータを比較分析して想定した。そのうえで、本学への求人実績や卒業生の採用実績がある教育機関等を対象とした人材需要調査の結果などを総合的に勘案したうえで、十分な定員充足を見込むことができる入学定員として **100人に設定**した。

2 定員超過率が0.7倍未満の学科について

令和4年度の入試結果を受けて、音楽学部演奏学科の4年間の平均入学定員超過率が0.7倍未満(0.60倍)となった。定員未充足の原因は、伝統的なクラシック音楽を学ぶ音楽大学・音楽学部への進学率の低下及び新型コロナウイルス感染拡大による影響と分析している。また、全国的にミュージカルやデジタル機器を駆使したオリジナル音楽を志向する傾向にあり、中学および高校のクラブ活動で音楽を続けた生徒はクラシック音楽を専門とする進学には直接的には結びつかず、進学者減少に拍車をかけている。コロナ禍の中、経済状況に好転の兆しがなく学校教育とは別の場での音楽教育が衰退し、演奏家を取り巻く環境改善の見通しが困難な中では、就職が難航すると予想される音楽学部を敬遠する傾向にあるものと分析している。

また併設の武庫川女子大学短期大学部に設置している7学科のうち、日本語文化学科(平均入学定員超過率0.51倍)英語キャリア・コミュニケーション学科(同0.32倍)、幼児教育学科(同0.51倍)、心理・人間関係学科(同0.49倍)、健康・スポーツ学科(同0.52倍)及び食生活学科(同0.61倍)の6学科において2年間の平均入学定員超過率が0.7倍未満となった。

令和3年度学校基本調査によると大学進学率は54.9%であるのに対して短期大学への進学率は過去最低の4.0%を記録した。また、文部科学省が令和3年2月にとりまとめた「私

立学校の経営状況について（概要）」によると、令和2年度における入学定員未充足の短期大学の割合は73.9%であり、また、入学定員の80%以上に満たない短期大学の割合は全体の約35%と、全国的な短大離れの傾向は止まらない。武庫川女子大学短期大学部においても、平成27年度以降毎年定員未充足の状況が続いていたが、令和3年度入試からその傾向がさらに顕著となり、短期大学部全体の入学定員700人に対して入学者は365人（入学定員超過率0.52倍）という厳しい結果となった。現在、短期大学部の収容定員は7学科1,400人と、わが国における短期大学の中でも有数の規模であるが、この定員規模を維持することは難しいと分析しており、大学の学部学科の充実とあわせて短大定員設定の在り方を見直し、教育・研究に係る人的・物的資源を大学に集中させる構想を進めている。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

1 18歳人口の推移

文部科学省が「学校基本調査」や国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」を元に作成した資料「18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移」によると、平成21～令和2年頃までほぼ横ばいで推移してきた18歳人口は、令和3年頃から再び減少局面に突入し、令和22年には約88万人まで減少することが予測されている。

また、中央教育審議会大学分科会将来構想部会で配付された「高等教育に関する基礎データ」によると、本学の所在する兵庫県の18歳人口は、平成29年の54,774人から令和22年には39,050人まで減少すると推計されている。隣接する大阪府についても85,687人から58,280人まで減少すると予測されており、20年間で18歳人口は約3割減少する。

株式会社リクルートの調査研究機関「リクルート進学総研」が、文部科学省「学校基本調査」のデータを基に分析した「18歳人口推移、大学・短大・専門学校進学率、地元残留率の動向」（令和3年4月発表）によると、令和2年の近畿エリア2府4県の18歳人口は195,001人で、その中でも本学の設置圏域である大阪府は81,797人、兵庫県は52,305人と近畿全体の7割近くを占めている。今後の18歳人口の推移をみると、令和5年から4年間は、近畿エリア全体で181,639人⇒175,501人⇒179,248人⇒179,159人とほぼ横ばいもしくは微減となると予測されている。また、令和2年の近畿エリア全体の女子18歳人口は95,085人、その中でも大阪府は39,667人、兵庫県は25,631人であるが、令和4年から4年間は近畿エリア全体で90,742人⇒88,985人⇒85,362人⇒87,843人とほぼ横ばい傾向で推移し、その後、令和10年には85,448人、令和14年には81,153人へと減少することが予測されている。

以上のことから、長期的には18歳人口は減少するが、本学が立地する近畿エリアにおいては中期的な傾向として大学受験対象者数は横ばいであり、長期的にも大きく減少することはないものと見込まれる。

【資料1 リクルート進学総研マーケットリポート2021年4月号】

2 女子の進学動向

前述したように18歳人口は減少するが、一方で、女子の大学進学率は増加が続いている。近畿エリアの女子の大学進学率は平成23年で49.1%であったが、令和2年には55.2%と、6.1ポイントも上昇している。先の「リクルート進学総研」の調査によると、進学者数も平成23年の41,889人から令和5年には47,717人へと5,828人増加し、女子については大学進学者数が増加傾向にあることが分かる。

また、令和3年度学校基本調査によると、全国の大学学部の女子学生数は、約119万7千人と、前年度より約3千人増加し、過去最多を記録した。また、学部学生全体に占める女子の割合は45.6%（前年度より0.1ポイント上昇）で過去最高となった。以上のことから、18歳人口は日本全体で漸減傾向にあるものの、大学入学対象者が激減することはなく、特に女子の大学進学意欲は旺盛であり、女子を募集対象とする女子大学である本学は、中長期的に安定した志願者・入学者の確保を目指せるものと見込んでいる。

3 分野別志願動向

日本私立学校振興・共済事業団では、全国の私立大学を対象に実施している「学校法人基礎調査」から各大学の入学者数等の状況を集計し、『私立大学・短期大学等入学志願動向』として報告書を発行している。その令和3年9月に発行された同報告書の最新版によると私立大学の健康・スポーツ系学部の志願者数等は以下のとおりである。

令和3年度時点で、私立大学には「体育学部」は11学部、「スポーツ健康科学部」は7学部、「スポーツ健康学部」は4学部あり、以上22学部の入学定員総合計7,416人となっている。令和3年度はコロナ禍の影響もあり、志願者数が前年比2割減となったが、7,416人の入学定員に対し、志願者数は25,977人と3.50倍の高い志願倍率を有している。入学定員充足率についても5か年平均で体育学部は105.28%、スポーツ健康科学部で104.02%、スポーツ健康学部で105.90%と、当該分野では安定した志願者数の確保と定員充足を達成していることが分かる。

年度	体育学部				
	学部数	入学定員(人)	志願者数(人)	入学者数(人)	入学定員充足率(%)
平成29年度	10	4,942	16,720	5,348	108.22
平成30年度	11	5,043	16,172	5,368	106.44
平成31年度	11	5,040	14,590	5,311	105.38
令和2年度	11	5,040	15,462	5,295	105.06
令和3年度	11	5,040	12,680	5,106	101.31
平均	11	5,021	15,125	5,286	105.28

年度	スポーツ健康科学部				
	学部数	入学定員(人)	志願者数(人)	入学者数(人)	入学定員充足率(%)
平成29年度	7	1,540	11,199	1,635	106.17
平成30年度	7	1,576	11,832	1,658	105.20
平成31年度	7	1,576	12,125	1,684	106.85
令和2年度	7	1,576	11,436	1,611	102.22
令和3年度	7	1,766	9,015	1,760	99.66
平均	7	1,607	11,121	1,670	104.02

年度	スポーツ健康学部				
	学部数	入学定員(人)	志願者数(人)	入学者数(人)	入学定員充足率(%)
平成29年度	4	585	5,190	640	109.40
平成30年度	4	585	5,190	620	105.98
平成31年度	4	585	5,226	634	108.38
令和2年度	4	585	5,420	634	108.38
令和3年度	4	610	4,282	594	97.38
平均	4	590	5,062	624	105.90

『私立大学・短期大学等入学志願動向』によると、令和3年度の私立大学全体に占める未充足校の割合は、前年度から15.4ポイント上昇して46.4%となったが、そのような状況下においても新設学部と同分野の学部では安定した志願者数の確保と定員充足を達成していることが分かる。

4 同分野を有する近隣競合校の志願状況

令和3年度に本学に在籍する学生の出身高校の所在地を確認したところ、79.4%が兵庫県、大阪府であった。次いで奈良県、京都府の高校出身者が多く、これら2府2県の占める割合は85.8%と、在籍者の大半を占めており、本学が学生確保の基盤としているのは、兵庫県、大阪府、奈良県、京都府であることが確認できた。受験生の併願先としてもこれら府県に所在する大学の同系統学部が選ばれると判断し、これまでの受験生の併願動向等も踏まえ、立地や教育内容から健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科の競合と想定する学科をピックアップした。当該競合校の令和元年度から3年度の一般入試募集状況は以下のとおりである。なお、志願者数のデータは、旺文社の「螢雪時代 全国大学受験年鑑 11月臨時増刊」の各年版から引用した。

関西圏他大学体育系学部における一般入試募集状況（過去3年間）

大学名	学部名	年度	募集人数	志願者数	受験者数	合格者数	競争率
立命館大学	スポーツ健康科学部	令和3	155	1,796	1,766	695	2.5
		令和2	155	2,578	2,521	550	4.6
		令和元	155	2,712	2,663	529	5.0
関西大学	人間健康学部	令和3	165	3,566	3,514	732	4.8
		令和2	162	4,190	4,108	470	8.7
		令和元	162	4,050	-	566	7.2
大阪経済大学	人間科学部	令和3	93	1,406	1,395	243	5.7
		令和2	93	1,911	1,886	337	5.6
		令和元	93	1,955	1,921	292	6.6
大阪体育大学	体育学部	令和3	75	372	-	187	2.0
	健康・スポーツマネ	令和2	75	713	588	334	1.8
	ジメント学科	令和元	75	254	252	126	2.0

競争率（受験者数／合格者数）の過去3年間の平均は、立命館大学スポーツ健康科学部が4.0倍、関西大学人間健康学部は24.2倍、大阪経済大学人間科学部が6.0倍、大阪体育大学体育学部健康・スポーツマネジメント学科が1.9倍であった。志願倍率（志願者数／募集人数）の過去3年間の平均は、立命館大学スポーツ健康科学部が15.2倍、関西大学人間健康学部は24.2倍、大阪経済大学人間科学部が18.9倍、大阪体育大学体育学部健康・スポーツマネジメント学科が6.0倍と安定した志願者を集めている。関西圏の受験生の同系統学部に対する関心度は十分高いものと考えられる。

5 既存学部学科の状況

本学部は、既存の健康・スポーツ科学科の教員組織・教育課程を基礎とし、学科内のスポーツマネジメントコースを発展させる形で設置する。健康・スポーツ科学科の直近5年の学生募集、定員充足の状況は下表のとおりである。

[健康・スポーツ科学部健康・スポーツ科学科入学志願状況]

年 度	入学定員 ①	志願者 ②	志願倍率 (②/①)	入学者 ③	定員超過率 (③/①)
平成30年度	150	1,379	9.2	149	0.99
平成31年度	180	1,504	8.4	193	1.07
令和2年度	180	1,459	8.1	189	1.05
令和3年度	180	1,152	6.4	160	0.88
令和4年度	180	1,173	6.5	220	1.22
平 均	—	1,333	7.7	182	1.04

以上のとおり志願倍率は平均して8倍近くあり、また5年間の定員超過率の平均は1.04倍と、極めて適正な定員管理を行っている。

健康・スポーツ科学科では平成31年度（令和元年度）入学生から教育課程を変更し、保健体育科教員を養成する「スポーツ教育コース」（2クラス）、健康・スポーツに関わる指導者を育成する「スポーツ科学コース」（1クラス）、そしてスポーツビジネス分野に進出する女性を育成する「スポーツマネジメントコース」（1クラス）の3コースを置いている。学生は2年次への進級時に3つのコースのうちからいずれか1つを選択する。同学科の入学定員は180人であることから、1クラスあたり45人程度となることが理想であるが、スポーツマネジメントコースを希望する学生は年々増えており、45人を上回る状況が続いている。令和3年度現在、2年次学生193人のうち54人、3年次学生216人のうち59人がスポーツマネジメントコースに在籍している。進級時の希望調査においてもさらに多くの学生がスポーツマネジメントコースを第1希望に選択しているが、スポーツマネジメント分野の専任教員の配置状況や実技授業実施の関係上、受け入れることのできる学生は限られており毎年、一部の学生についてはやむなく他コースへ進む状況となっている。このようにスポーツマネジメント分野への学生からの関心は非常に高いことが分かる。

これら旺盛な進学需要及びスポーツマネジメントコース選択の実績を踏まえれば、健康・スポーツ科学部内に新たに本学科を設置した場合でも、十分に入学定員の充足が可能であると判断している。

6 受験対象者への進学需要調査

令和5年4月設置の学部学科（心理・社会福祉学部、社会情報学部、健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科）の継続的な学生確保の見通しを定量的に確認することを目的として、設置圏域を中心に所在する高等学校の2年生女子に対する進学意向等に関するアンケート調査を実施した。調査は、学外の調査機関である株式会社進研アドに委託し、令和3年6月21日から8月10日の間に実施した。

本学学生の約80%が大阪府と兵庫県の高등학교の卒業者であることから、新設する学部・学科についても大阪府と兵庫県が学生確保における基盤となることは確実であり、大阪府と兵庫県の高등학교を中心に、108校20,465人に対して調査を実施した。うち、有効回答数は90校10,105人で、回答率は49.4%であった。その他、本学附属高등학교2年生249人からも回答を得た。

調査にあたっては、本学部の目的、特色、養成する人材像、想定される進路、入学定員、初年度納付金、交通アクセス等を明示し、有効回答10,354人（内訳：大阪府と兵庫県の高등학교2年生女子10,105人、本学附属高등학교2年生249人）のうち、19.9%にあたる2,059人が、「武庫川女子大学を受験したいと思う」と回答した。

「受験したいと思う」と回答した2,059人のうち、16.7%にあたる343人が本学科に「入学したい」と回答し、入学定員100人の3.4倍となり、入学定員数を上回る入学意向者が見込まれる。

なお、入学意向を示した343人の生徒の内訳を高校所在地別にみると大学所在地である

兵庫県の高校在籍者のうち入学意向を示したのは 244 人（17.4%）であり、兵庫県だけでも入学定員を上回る入学意向者が確認できた。また、高校卒業後の希望進路別にみると本学を受験・入学する可能性がある「私立大学」への進学希望者のうち入学意向を示したのは 1,748 人中 287 人であり、予定している入学定員を大きく上回っている。

【資料 2：スポーツマネジメント学科リーフレット】

【資料 3：武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科」（すべて仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書【高校生調査】】

ウ 学生納付金の設定の考え方

学部学科等を新設する際、本学では大学の経営に係る財務的な視点と学生への還元等、受益者に対する説明責任の観点を重視しつつ、大学の将来の発展を目的とする施設・設備の充実を考慮するとともに、近隣他大学の類似学部学科の状況を勘案したうえで、学生納付金を設定している。

本学部の学生納付金は、入学金 200,000 円、学費は 1 年次 1,251,000 円（授業料 995,000 円、教育充実費 230,000 円、実験実習費 26,000 円）、2 年次以降は 1,331,000 円（授業料 1,035,000 円、教育充実費 270,000 円、実験実習費 26,000 円※2 年次のみ）に設定した。卒業までの納付金総額 5,392,000 円は、既存の健康・スポーツ科学科と同額を予定しており、本学科を志望する受験生にとっても許容範囲内の金額であると思われる。

また、本学科及び健康・スポーツ系学部を擁する近隣大学の入学金、授業料、その他納入金、初年度納入金計は、以下の表とおりである。

（単位：円）

大 学 名	入学金	授業料	教育充実費等	諸会費等	初年度納付金	適用年度
武庫川女子大学 健康・スポーツ学部スポーツマネジメント学科	200,000	995,000	256,000	14,700	1,465,700	R5 年度
大阪体育大学 体育学部 健康・スポーツマネジメント学科	300,000	910,000	252,000	44,000	1,506,000	R4 年度
立命館大学 スポーツ健康科学部	200,000	1,219,000	0	31,000	1,450,000	R4 年度
関西大学 人間健康学部	260,000	970,000	0	27,000	1,257,000	R4 年度
大阪経済大学 人間科学部	270,000	710,000	180,000	13,000	1,173,000	R4 年度
大阪成蹊大学 経営学部 スポーツマネジメント学科	250,000	795,000	197,000	42,160	1,284,160	R4 年度

※各大学 Web サイト、河合塾大学入試情報サイト「Kei-Net」より

以上のように、本学科の予定している初年度納入金 1,465,700 円は、経営系や人間科学系の学部と比較すると高額であるが、体育系やスポーツ系の学部と比較すると同程度もしくは若干低い額となっている。

続いて、近畿圏以外の“スポーツマネジメント”を掲げる学部学科を擁する主要大学の入学金、授業料、その他納入金、初年度納入金計は、以下の表とおりである。

大 学 名	入学金	授業料	教育充実費等	諸会費等	初年度納付金	適用年度
順天堂大学 スポーツ健康科学部スポーツマネジメント学科	200,000	700,000	450,000	123,660	1,473,660	R4 年度
日本体育大学 スポーツマネジメント学部	300,000	800,000	460,000	38,000	1,598,000	R4 年度
中京大学 スポーツ科学部スポーツマネジメント学科	200,000	890,000	415,000	50,000	1,555,000	R4 年度
東海大学 体育学部 スポーツ・レジャーマネジメント学科	200,000	1,269,000	0	59,200	1,528,200	R4 年度

いずれも本学科の予定している初年度納入金 1,465,700 円を上回っており、本学科の学費は全国的にみても低く設定されており学生募集にあたって影響はないものと考えられる。

②学生確保に向けた具体的な取組状況

①学生確保に向けた取り組み

学生確保に向けた具体的な取り組みは、従来から大学全体として行っている様々な取り組みに加え、学部学科独自の取り組みを通して、受験生をはじめ社会一般への認知度向上を図り、学生の確保につなげていく。当然ながら、設置届出受理と収容定員に係る学則変更認可を受けていない段階での本学部のPR活動及び学生募集についてはルールを遵守し、入学希望者や社会一般に対して誤解や損害を与えることのないようにする。

(ア) 広報戦略

本学では、法人創立 80 周年を迎えた令和元年、創立 100 周年に向けた活性化プロジェクト「MUKOJO ACTION 2019-2039」をスタートさせた。「日本の女子大を、更新しよう。」をスローガンとし、「未来像」となるビジョンを策定、公表している。特設 Web サイトやポスター、大学案内等の各種広報媒体のビジュアルイメージを統一して大規模な広報戦

略を展開し、女子総合大学としての本学の知名度向上に努めている。

(イ) 大学案内（キャンパスガイド）や学科紹介パンフレット等の印刷物の配布

大学案内（キャンパスガイド）は約8万部を作成、また学科紹介パンフレット、入試案内、募集要項を作成し、高校訪問、オープンキャンパス、高校教員向け説明会、保護者向け説明会、大学見学会、各地域での進学・入試相談会等において幅広く配布している。

(ウ) 高校訪問

本学の設置圏域である兵庫県、大阪府の高等学校を中心に、全国の高等学校（本学に志願実績のある高等学校等）を教職員が訪問し、高校生や進路担当教諭に対して直接本学の特色のある教育等について説明を行っている。訪問校の延べ数は、令和2年度は26府県735校、令和3年度は30都府県839校にのぼる。

(エ) 多様な□学選考（選抜）試験の実施

本学では、アドミッションポリシーに沿って、次のように多様な□試を実施している（令和4年度入試実績）。

- ・公募制推薦入試（前期）・公募制推薦入試（後期）・□般選抜A・□般選抜B
- ・□般選抜C・□般選抜D（□学□試共通テスト利用型）・演奏奨学生入試
- ・グローバル（英語重視型）入試 ・スポーツ推薦入試
- ・指定校推薦入試 ・附属高校推薦入試 ・社会人特別選抜 ・外国人留学生入試

また、遠隔地の受験□に対して利便性を図り、広く志願者を確保するため、公募制推薦□試及び一般選抜A・Bでは全国12会場（東京、石川、愛知、京都、和歌山、鳥取、岡山、広島、香川、愛媛、福岡、沖縄）に学外試験場を設置している。

(オ) オープンキャンパス、各種説明会等

オープンキャンパスは夏期を中心に開催している。高校生、保護者、教員等を対象に入試概要の説明や、学科企画プログラム（学科説明・施設見学・体験授業）、予備校講師による入試対策講座、学科別のQ&Aコーナーにて入試・就職・資格・奨学金・寮・下宿など学生生活全般にわたる個別相談等を実施している。令和3年度のオープンキャンパスは6月13日、7月10日・11日、8月10日、9月26日、10月3日の6日間にわたって開催した。コロナ禍のため、参加人数を制限した上での開催となったが、6日間で3,287組5,500人の参加があった。定員変更前年度の令和4年度についても同様の時期に開催を予定している。

受験生の大学見学については、常時受け付けられるようにしている。数人のグループや個人単位の訪問に対して、平日及び土曜日の午前中は入試センター職員が応対、また、

入試センターが閉室となる土曜の午後や日祝日は、中央キャンパス内に設ける「受験生の部屋“Muko ナビルーム”」にて、学生スタッフが大学の授業や学生生活の紹介、キャンパス見学の案内、入試に関する相談・質疑応答を行っている（※令和2年度及び3年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため「受験生の部屋“Muko ナビルーム”」は閉室、また、学生スタッフによる対応も一時休止中）。

また、高校単位での受け入れ対応も行っている。その他、高校教員向けの説明会や保護者向け説明会、附属高校向け説明会を開催している。

(カ) ソーシャルメディア等による情報の提供

Facebook、Twitter、LINE 及び Instagram に本学の公式アカウントを開設し、ソーシャルメディアを利用した情報発信を積極的に実施している。学内施設や授業風景、学生の日常を動画配信等の情報発信を定期的に行い、本学で学ぶ具体的なイメージを掴めるように努めている。

(キ) 新聞・雑誌、駅・車内広告等

新聞や雑誌等のマスメディアでの広告やインターネット広告、駅・電車内の交通広告を出稿し、受験生はもちろんのこと広く社会で知名度が向上するよう努めている。また、出版社、新聞社、予備校等が発行する受験情報誌等の媒体に積極的に情報掲載を行い、具体的な学修内容や大学生活の様子、受験情報等を提供している。

②定員超過率が0.7倍未満の学科について

音楽学部への志願者を有するが進学に結びついていないクラブ活動の中でも、人気がある吹奏楽へ働きかけ、令和2年度入学生より専門に学ぶ管楽器の楽器種を5種類増やし、また追加した管楽器の非常勤講師（採用予定者）の氏名を記載して、吹奏楽に打ち込んでいる高校生の関心を引くよう試みた。その結果、令和2年度の管弦楽器入学者は3名、令和3年度4名、令和4年度5名とわずかではあるが着実に増加傾向にある。

志願者を増やす対策として、令和4年度各入試制度において大幅な見直しを行い、受験科目・内容の工夫と演奏奨学生入試における専願制を廃止した。2023年度入試からは秋に加え、国公立大学入試直前の2月にも演奏奨学生入試を行う予定である。

情報発信の点からは令和3年度はホームページにおいて授業紹介動画や主催コンサートの動画を多数公開するとともにインスタグラムも開設した。今後も高校生に本学部の良さが伝わるよう情報提供を続けていく。募集活動に欠かせない学部パンフレットはリニューアルし、学生や卒業生の様子を多数掲載する。また、教員が積極的に高校訪問を行い、今後も音楽担当教諭への面談を続け、希望があれば音楽学部教員による特別レッスンやクラブ指導を行うなど良好な関係構築を進めていく。

武庫川女子大学短期大学部の7学科のうち、定員超過率が0.7倍未満の6学科の学生

確保に向けた取組としては、学科の魅力を伝えるリーフレットの作成、より分かりやすいホームページの開設、ダイレクトメール送付等をこれまで以上に行い、入学者確保をめざしたい。なお、健康・スポーツ学科及び心理・人間関係学科については、定員充足の見込みは難しいと判断し、令和5年度に学生募集を停止し、在学生全員の卒業を待って廃止することを令和4年2月28日開催の理事会で決定した。今後も大学の新学科の増設と短期大学の縮小・廃止を計画している。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (概要)

健康・スポーツ科学部において養成する人材像に基づいて、幅広い教養と豊かな人間性を備えるとともに、時代と社会の要請とともに高度化、多様化するスポーツマネジメント領域において、リーダーシップを発揮できる女性を養成する。

健康・スポーツ科学の優れた知見を広く学び、多角的な視点からスポーツマネジメントやビジネスに対する理解を深めるとともに、スポーツの学びと実践を通して、多様な社会的課題の解決やダイバーシティの推進に資するマネジメント力、高い共感性と創造性を身につけることを目的とする。

卒業後の進路としては、スポーツ関連企業における商品開発・マーケティングスタッフ、プロスポーツチームやスポーツ団体・組織等のスタッフ、フィットネスクラブやヘルスケア産業でのマネジャー、自治体の行政職員や保健体育科教員など、広くスポーツ関連の職業に就く人材を養成する。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

1 社会的な人材需要

「2020 東京オリンピック・パラリンピック競技大会」が令和3年夏に開催され、コロナ禍の中ではあったが、大きな盛り上がりを見せた。大会の盛り上がりは今後のスポーツ産業に好影響をもたらすことになることは確実であるが、今後もスポーツ産業やスポーツ組織が持続可能な成長を達成していくためには、ビジネスとして社会と共に成長していくことが必要であり、それをマネジメントできる人材が重要となっている。

我が国のスポーツの成長産業化の実現は、「日本再興戦略改訂 2016 一第4次産業革命に向けて一」(平成28年6月閣議決定)で施策として提示された「スポーツ経営人材の育成・活用プラットフォームの構築」が鍵を握っている。平成28年にスポーツ庁がとりまとめた「スポーツ未来開拓会議中間報告」においても、「我が国においては、スポーツ経営に係る人材を育成する仕組みが社会的に未発達であり、スポーツが潜在的に有するコンテンツ力を様々な形で活用する等、スポーツの持つ価値を十分活かしていない」と指摘があり、スポーツビジネスを推進する上でのマーケティング活動はもとより、ガバナンスの向上、スタジアム等の施設運営、興業等で必要となる 様々な専門性を有した即戦力となるスポーツ

マネジメント人材の必要性が指摘された。このように、体育・スポーツの発展と推進をめぐっては、学校体育や競技スポーツにとどまることなく、地域社会やビジネス等のマネジメントの現場において、スポーツに内在している価値を引き出し、実現できるスポーツマネジメント人材の養成が喫緊の課題となっている。

文部科学省が平成 29 年に策定した第 2 期の「スポーツ基本計画」では、スポーツの成長産業化として、「スポーツ市場を拡大し、その収益をスポーツ環境の改善に還元し、スポーツ参画人口の拡大につなげるという好循環を生み出すことにより、スポーツ市場規模 5.5 兆円を 2020 年までに 10 兆円、2025 年までに 15 兆円に拡大することを目指す」としており、スポーツ産業発展への期待は大変大きいものがある。また、同基本計画で指摘されている「スポーツを通じた女性の活躍促進」はスポーツを通じた共生社会の実現を目指したダイバーシティの実践を意味するものであり、スポーツ団体やスポーツ企業で活躍する女性のスポーツマネジメント人材育成は、我が国でも重要な課題といえる。女子大学である本学が、スポーツ人材、スポーツマネジメント人材を育成することへの意義は大きい。

このように、本学がスポーツマネジメント学科を設置することは、社会的な要請に合致したものであることは明らかである。

2 企業及び事業所への人材需要に関する採用意向調査

本学科における人材需要の見通しを測定するために、本学への求人実績や卒業生の採用実績が民間企業・団体等に対して、本学部の必要性や卒業した者の採用に関する人材需要調査（無記名方式）を実施した。なおアンケート実施にあたっては、同時期に届出による設置を予定している心理・社会福祉学部、社会情報学部における人材需要についても同時に調査した。

調査は、学外の調査機関である株式会社進研アドに委託し、卒業生の採用が期待できる企業・団体の 1,413 社に対して令和 3 年 6 月 21 日から 8 月 10 日の間に郵送で調査を実施し、26.9%の 380 社から回答を得た。380 社の回答者の属性は、採用や選考にかかわっている者の割合が 90%を超えており、採用意向を確認するにあたって十分なデータを得ることができた。

<社会的必要性>

本学部の目的、特色、養成する人材像等を明示し本学科の社会的必要性をたずねたところ、380 社中 88.7%にあたる 337 社が「必要だと思う」と回答しており、スポーツマネジメント学科がこれからの社会にとって必要な学科であると多くの企業・団体が評価していることが確認でき、本学科への企業等からの期待の大きさが伺える。

<採用意向>

本学科卒業生に対する採用意向については、380 社中 65.8%にあたる 250 社がスポーツマネジメント学科の卒業生を「採用したいと思う」と回答した。250 社のうち、本学科卒業

生の想定される就職先と関連の深い業種の採用意向を抽出すると、「福祉施設・福祉関連業」では 64.5% (31 社中 20 社)、「製造業」では 77.4% (31 社中 24 社)、「スポーツ・フィットネス・ヘルス関連業」では 92.9% (14 社中 13 社) であった。以上を合わせると 57 社が採用意向を示している。

さらに「採用したいと思う」と回答した 57 社に本学科卒業生の毎年の具体的な採用予定数を聞いたところ、106 人程度の採用意向が確認できた。本学部の入学定員は 100 人であることから、定員を上回る結果となった。

このような本学への求人実績や卒業生の採用実績がある企業・団体等に限定した調査結果において、本学部を卒業した者への高い採用意向を確認できたことから、卒業後の進路においては十分な見通しがあると考えられる。

【資料 4：武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科」(すべて仮称) 設置に関するニーズ調査結果報告書【企業・団体対象調査】】

3 既存学部学科の就職状況・求人状況

本学は現在、文学部、教育学部、健康・スポーツ科学部、生活環境学部、食物栄養科学部、建築学部、音楽学部、薬学部、看護学部、経営学部の 10 学部 17 学科を有し、入学定員は女子大学としては日本最大規模の 2,190 人である。最近 5 年間の本学の就職状況は下表の通りである。

年度	卒業者数	求人件数	就職希望者数	就職者数	就職率
平成 28 年度	1,932	7,326	1,751	1,740	99.4%
平成 29 年度	1,947	7,264	1,752	1,744	99.5%
平成 30 年度	2,072	6,806	1,853	1,845	99.6%
平成 31 年度	2,019	6,225	1,832	1,820	99.3%
令和 2 年度	1,964	5,719	1,732	1,715	99.0%

多数の求人件数を得て、また高い就職実績を維持していることは、本学の有する学部・学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が、人材需要の動向等の社会の要請を踏まえたものであることを示しているものである。これは女子大学である本学が、社会が求める人材を輩出する高等教育機関として社会からの高く期待されていることの現れと言える。

既設の健康・スポーツ科学部の最近 5 年間の就職実績は下表の通り、就職希望者に対する就職率は 100% が継続している。

年度	卒業 者数	求人件数	就職 希望者数	就職 者数	就職率
平成 28 年度	189	7,326	177	177	100%
平成 29 年度	201	7,264	176	176	100%
平成 30 年度	186	6,806	165	165	100%
平成 31 年度	178	6,225	168	168	100%
令和 2 年度	181	5,719	163	163	100%

※求人件数は大学全体を記載

※令和 3 年度分については集計中。令和 4 年 6 月頃集計完了予定。

このように、昨今の就職難及びコロナ禍の状況下においても多くの求人があり、高い就職率で推移していることは本学健康・スポーツ科学部の養成する人材が高く期待されていることことを証明している。

また、令和 2 年度卒業生就職者の就職先の業種は、教育支援（教員等）が 24%、卸・小売業が 20%、サービス業が 18%、製造業 9%であり、本学部卒業生は保健体育科教員やフィットネスクラブ等のサービス業、スポーツ関連の企業に多く就職しており、養成に関する目的や教育研究上の目的が、人材需要の動向に合致していることは明らかである。先述したようにスポーツ経営人材を軸としたスポーツ産業の拡大が国策として進められている中、本学科を設置した場合でも、卒業後の進路については十分に見込むことができると考える。

【資料 5：健康・スポーツ科学科令和 2 年度卒業生の就職先業種】

以上

学生確保の見通しを記載した書類
資料目次

資料1：リクルート進学総研マーケットレポート 2021年4月号

資料2：スポーツマネジメント学科リーフレット

資料3：武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科」（すべて仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書【高校生調査】

資料4：武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科」（すべて仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書【企業・団体対象調査】

資料5：健康・スポーツ科学科令和2年度卒業生の就職先業種

資料 1

(掲載省略)

1. 書類等の題名

リクルート進学総研マーケットレポート 2021年4月号

2. 出典

リクルート進学総研

URL:https://souken.shingakunet.com/research/.assets/202104_kinki_souken_report.pdf

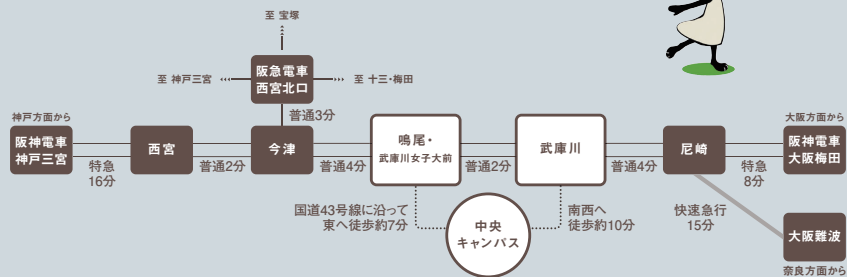
健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科(仮称) 設置概要

学科名	スポーツマネジメント学科(仮称)
理念	スポーツをビジネス的視点から学び、スポーツマネジメントに関わる基礎的な知識・技能の習得・実践を通して、スポーツ関連の企業や団体の経営、スポーツイベントの企画・運営などのスポーツビジネス分野に進出する人材の養成
入学定員	100名
修業年限	4年
開設時期	2023年4月 予定
学位	学士(スポーツマネジメント学)
開設場所	中央キャンパス(兵庫県西宮市)
初年度納付金※	1,459,700円
類似学部	<ul style="list-style-type: none"> ■立命館大学 スポーツ健康科学部 ■関西大学 人間健康学部 ■大阪経済大学 人間科学部 ■大阪体育大学 体育学部 健康・スポーツマネジメント学科 初年度納付金<参考> 1,173,000円~1,506,000円 <small>※出典:2021年4月各大学HPより 詳しくは各大学にお問い合わせください。</small>

※初年度納付金には、入学金、授業料、教育充実費を含みます。(2023年度入学者対象)
 ※2021年4月時点での学費を参考にした金額であり、変更となる可能性があります。

交通アクセス

武庫川女子大学中央キャンパスへは、阪神電車のご利用が便利です。
 阪急電車ご利用の場合は、阪急西宮北口にて今津線にお乗り換えのうえ今津駅より阪神電車をご利用ください。
 ※下記のアクセス方法・時間は一例です。曜日や時間帯によって異なりますので、十分注意してください。

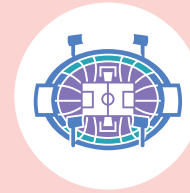


 **武庫川女子大学**
Mukogawa Women's University

中央キャンパス 文学部、教育学部、健康・スポーツ科学部、生活環境学部、食物栄養科学部、音楽学部、看護学部、経営学部、短期大学部、大学院、専攻科
 浜甲子園キャンパス 薬学部、大学院
 上甲子園キャンパス 建築学部、大学院

●お問い合わせ

入試センター 〒663-8558 兵庫県西宮市池開町6-46 TEL. 0798-45-3500 FAX. 0798-45-3563
 テレフォンサービス(24時間) 入試情報 TEL. 0798-45-8888 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/>



健康・スポーツ科学部

スポーツ マネジメント学科

(仮称)

誕生

(2023年4月 設置構想中)

SPORTS COACHING

SPORTS



SPORTS MANAGEMENT

GYM



武庫川女子大学
Mukogawa Women's University

スポーツの発展を通して より豊かな社会づくりをめざす 女子大で最先端をいく専門学科

【社会背景】

成長を続けるスポーツビジネスの現場で女性のニーズが拡大中！

人々の健康志向の高まりや趣味・レクリエーションの多様化などを背景に、需要が高まる現代のスポーツビジネス。さらにその中身も、スポーツチームの運営から用品・用具の開発、身近な健康づくりの支援まで、多岐にわたります。人々にとってスポーツが身近になった今、現場で求められるのは幅広い課題にもきめ細かく対応できる女性の視点。スポーツへの情熱とスポーツマネジメントの実践力を兼ね備えた女性の登壇に、期待が集まっています。

【設置の目的】

スポーツの理解や競技経験を社会に活かせる実践力に！

スポーツビジネスを支援できる女性の需要増加に伴い、武庫川女子大学では2023年4月、健康・スポーツ科学部にスポーツマネジメント学科を新設^(※)。専門的な学びと実技をバランスよく配置した文武両道のプログラムを設け、スポーツへの理解を通して豊かなスポーツライフをマネジメントできる女性の育成をめざします。多様な活躍の場でスポーツ経験を発揮できるため、部活動や競技に打ち込んできた人にも最適な学科です。

(※設置構想中)

スポーツマネジメント学科ならではの実践的な学び

基礎科目

スポーツビジネス最前線

スポーツビジネスの最前線で活躍するトップリーダーを講師に招き、オムニバス形式で豊かな経験に基づいたマネジメントの実践を学びます。



専門科目

スポーツイベントの企画・運営

スポーツイベントに係る実践的な知識、およびマネジメント手法を身につけます。



演習科目

スポーツマネジメント学内演習

スポーツに関連するオリジナルウェアやグッズを学生たちで企画。マーケティングからプロモーション提案、お客様への販売、本学独自イベントの開催まで、一連のスポーツビジネスの手法を実際の体験を通して学びます。



実習科目

スポーツマネジメント学外実習

スポーツ関連企業やスポーツ団体と連携して実務を体験します。自分に合った活躍の場を発見できるチャンスです。



スポーツマネジメント学科で

身につく
3つの力



スポーツマネジメント力

さまざまな課題・目的に応じてスポーツ組織を円滑に動かし、プロスポーツチームやスポーツイベントなどの運営を支える力。財務や経営の専門知識、組織の管理能力、豊かな発想力もここに含まれます。

【将来のステージ】

- ◎プロスポーツチームのマネージャー
- ◎スポーツイベントの企画・運営者
- ◎スポーツメディアの実務者
- ◎競技組織のコミッショナー
- ◎地域スポーツ団体のマネージャー ほか

スポーツビジネス力

スポーツの魅力を生かしてスポーツビジネス業界内や、他産業にも広く発信し、さまざまな企業や地域社会を豊かにできる力。アスリートとコラボした商品企画やスポーツコスメの開発など、あらゆる舞台での活躍が可能になります。

【将来のステージ】

- ◎スポーツ関連企業での企画・開発者
- ◎観光産業での企画・広報担当
- ◎美容系企業の企画・開発者
- ◎ヘルスケア産業での企画・運営者
- ◎メディア企業での企画・運営者 ほか

スポーツ指導・教育力

競技経験や専門的な知識を活かし、アスリートの成長や人々の美容・健康づくりを支援できる力。指導者・教育者にとって不可欠となる、人間力やコミュニケーション力も育みます。

【将来のステージ】

- ◎保健体育科教員
- ◎地方自治体の行政職員
- ◎トップスポーツチームのコーチ
- ◎フィットネスクラブのマネージャー
- ◎ヘルスケア産業における指導者 ほか

5つの学びのフィールド

1 マネジメント領域

「組織／管理／会計／財務」に関する科目を学び、スポーツチームやスポーツイベントのマネジメントに関する理論と技法を習得。クラブチーム、スポーツ施設の運営、地域スポーツ振興の場で活躍できる人材をめざします。

2 マーケティング領域

「企画／開発／マーケティング」に関する科目を学び、スポーツ組織の戦略、製品・サービスの企画・開発、マーケティングに関する戦略を習得。顧客目線に立った企画・開発力を発揮し、地域社会やビジネスなどの発展に貢献できる人材をめざします。

3 実務領域

「実務／マネー／接客・接遇」に関する科目を学び、ビジネス実務の基礎と対人コミュニケーションの技法を習得。知性・情操・徳性を養い、洗練されたコミュニケーション能力を有する人材をめざします。

4 生活・健康領域

「ヘルスケア／ホスピタリティ／ツーリズム」に関する科目を学び、地域社会やビジネスの場で発揮できるホスピタリティマインドを養成。生活の豊かさや健康の向上に貢献できる人材をめざします。

5 先端ビジネス領域

「イノベーション／メディア／トップスポーツ」に関する科目を学び、日々進化するマネジメントやビジネスへの高い感度と情報リテラシーを養成。スポーツ産業の発展に貢献できる人材をめざします。

取得できる資格(予定)

- 中学校教諭一種免許状(保健体育)
- 高等学校教諭一種免許状(保健体育)

- 初級障がい者スポーツ指導員
- 中級障がい者スポーツ指導員
- レクリエーション・インストラクター
- スポーツ・レクリエーション指導者

取得できる受験資格(予定)

- 健康運動指導士
- 健康運動実践指導者

講習及び試験科目一部免除(予定)

- スポーツリーダー
- スポーツプログラマー
- ジュニアスポーツ指導員
- アシスタントマネージャー

めざせる資格・検定

- 日商簿記検定3級
- イベント検定
- 販売士
- マナー検定3級
- ファイナンシャル・プランニング技能検定3級
- スポーツイベント検定
- スポーツ施設管理士

※卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要だが資格取得は卒業の必須条件ではない。

※卒業要件単位に含まれる科目のみで資格取得可能だが、資格取得は卒業の必須条件ではない。

※卒業要件単位に含まれる科目のみで受験資格を得るが、資格取得は卒業の必須条件ではない。

※卒業要件単位に含まれる科目のみで講習及び一部科目免除だが、資格取得は卒業の必須条件ではない。

※卒業要件単位に含まれる科目のみで受験可能だが、資格取得は卒業の必須条件ではない。

武庫川女子大学
「心理・社会福祉学部」
「社会情報学部」
「健康・スポーツ科学部
スポーツマネジメント学科」(すべて仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【高校生対象調査】

令和3年10月
株式会社 進研アド

—学生確保—20—

高校生対象 調査概要

1. 調査目的

2023年4月開設予定の武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」新設構想に関して、高校生の入学ニーズを把握する。

2. 調査概要

		高校生対象調査		
調査対象		高校2年生の女子		
調査エリア		大阪府、兵庫県、奈良県		附属高校留置き調査
調査方法		高校留置き調査		
調査対象数	依頼数 (依頼校)	20,465人	108校	249人
	有効回収数 (回収校)	10,105人	90校	
	回収率	49.4%	83.3%	
調査時期		2021年6月21日(月)～ 2021年8月10日(火)		2021年6月21日(月)～ 2021年8月10日(火)
調査実施機関		株式会社 進研アド		

3. 調査項目

高校生対象調査「高校留置き」
<ul style="list-style-type: none">・性別・高校所在地・高校種別・高校卒業後の希望進路・武庫川女子大学への受験意向・各学部・学科・専攻への入学意向

高校生対象調査「附属高校留置き」
<ul style="list-style-type: none">・学年・居住地・高校卒業後の希望進路・武庫川女子大学への進学意向・各学部・学科・専攻への入学意向

高校2年生対象 調査結果まとめ

高校生対象 調査結果まとめ

回答者の属性

※本調査は、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」に対する需要を確認するための調査として設計したため、武庫川女子大学の主な学生募集エリアである大阪府、兵庫県、奈良県に所在する高校の高校2年生の女子生徒(10,354人)に調査を実施した。

- 本調査の有効回答数は91校、10,354人。(うち、249人は附属校)
- 回答者の高校所在地は武庫川女子大学の所在地である「兵庫県」が61.3%を占める。次に「大阪府」が37.3%、「奈良県」が1.4%と続く。
- 回答者の高校種別は「公立」が73.3%、「私立」が26.7%である。

高校卒業後の希望進路

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「私立大学に進学」を希望する人の割合が68.1%で最も高い。次いで「国公立大学に進学」が38.3%、「専門学校・専修学校に進学」が19.7%と続く。私立大学進学志望者が多いことから、武庫川女子大学の受験を検討しうる高校生の意見を聴取できていると考えられる。

高校生対象 調査結果まとめ

武庫川女子大学への受験・進学意向

- 武庫川女子大学を「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた人は、**2,059人 (19.9%)**である。(うち、173人は附属校)

「心理・社会福祉学部 心理学科」への入学意向

- 武庫川女子大学を「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人のうち、「心理・社会福祉学部 心理学科に入学したい」と入学意向を示した人は**658人 (32.0%)**であり、予定している入学定員150名を大きく上回っている。(うち、36人は附属校)※詳細はP8～P9参照

「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」への入学意向

- 武庫川女子大学を「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人のうち、「心理・社会福祉学部 社会福祉学科に入学したい」と入学意向を示した人は**188人 (9.1%)**であり、予定している入学定員70名を大きく上回っている。(うち、15人は附属校)※詳細はP10～P11参照

「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」への入学意向

- 武庫川女子大学を「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人のうち、「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻に入学したい」と入学意向を示した人は**236人 (11.5%)**であり、予定している入学定員140名を上回っている。(うち、26人は附属校)※詳細はP12～P13参照

「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」への入学意向

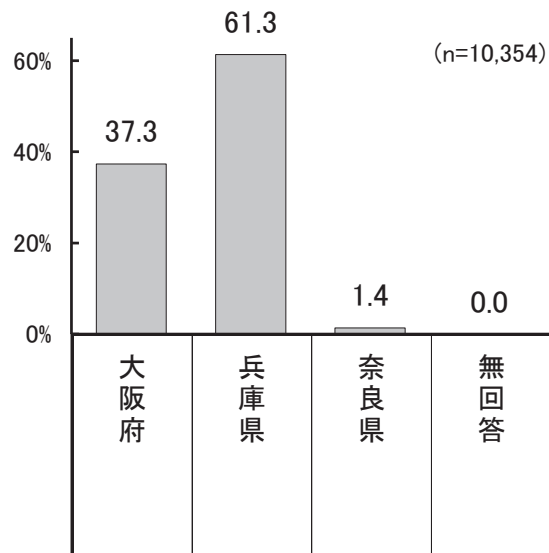
- 武庫川女子大学を「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人のうち、「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻に入学したい」と入学意向を示した人は**69人 (3.4%)**であり、予定している入学定員40名を上回っている。(うち、7人は附属校)※詳細はP14～P15参照

「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」への入学意向

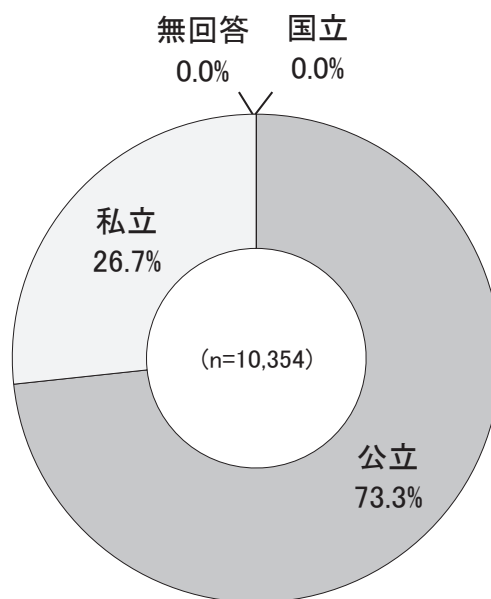
- 武庫川女子大学を「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人のうち、「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科に入学したい」と入学意向を示した人は**343人 (16.7%)**であり、予定している入学定員100名を大きく上回っている。(うち、25人は附属校)※詳細はP16～P17参照

回答者の属性(高校所在地／高校種別)

■高校所在地



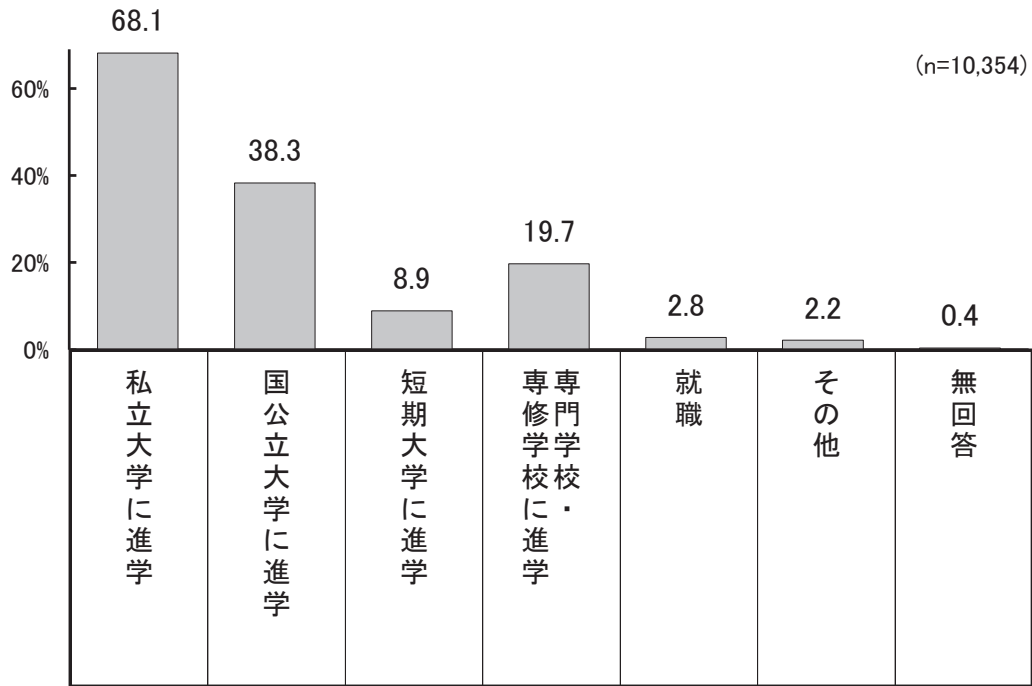
■高校種別



高校卒業後の希望進路

■高校卒業後の希望進路

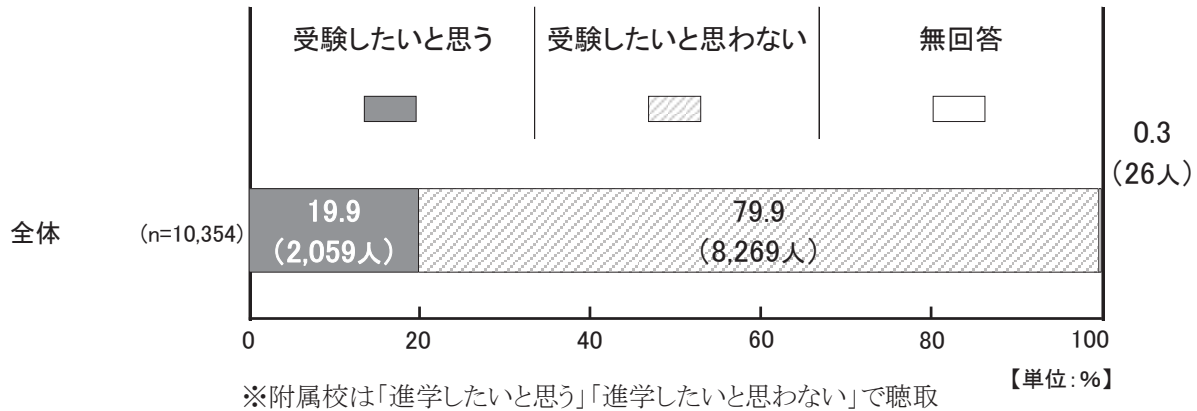
Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。
以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)



武庫川女子大学への受験意向／入学意向

■武庫川女子大学への受験・進学意向

Q2. あなたは、新しい学部・学科・専攻を備えた武庫川女子大学を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

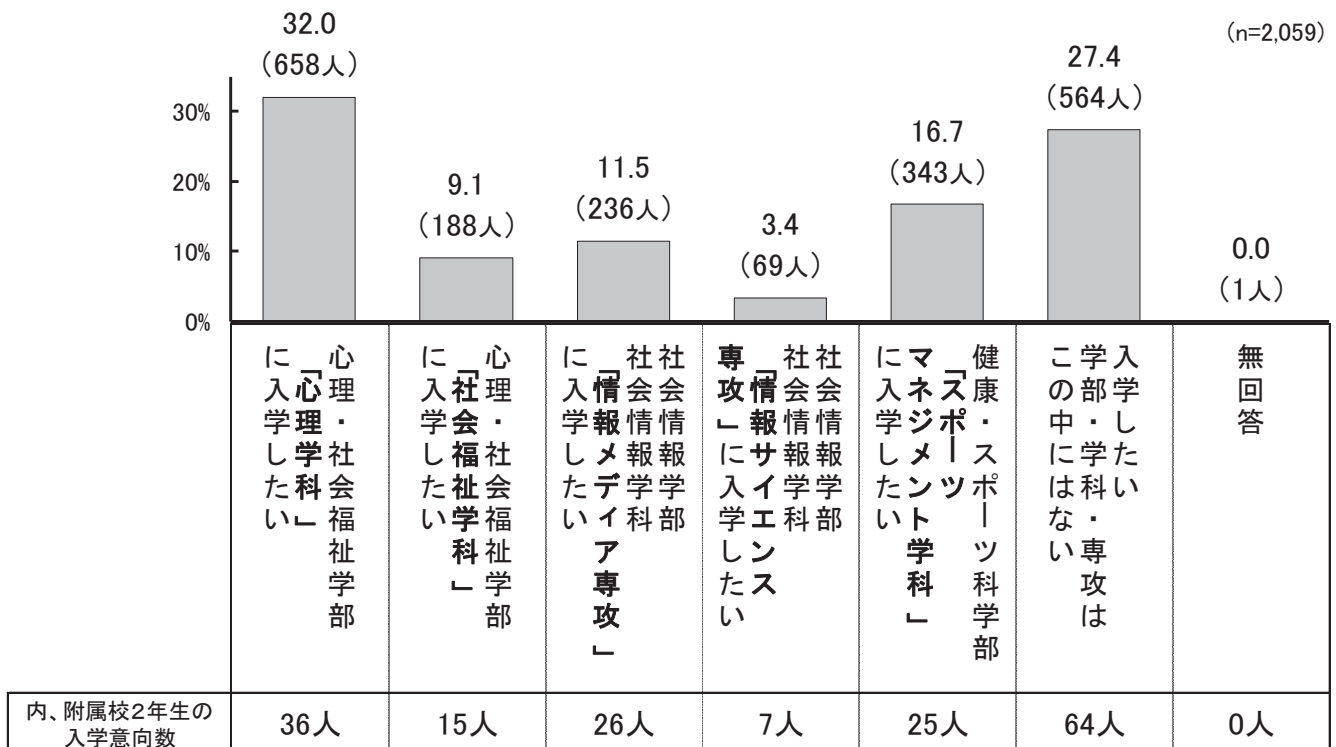


「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人
(うち、173人は附属校)のみ抽出

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への入学意向

Q3. あなたは、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称、設置構想中)を受験して合格したら、どの学部・学科・専攻に入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

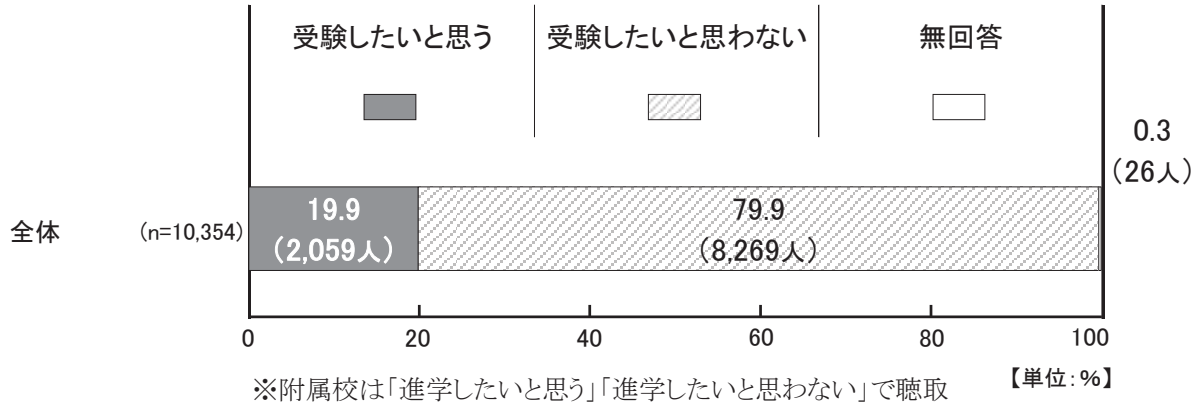
※Q2の「受験したいと思う」と答えた2,059人の回答



心理・社会福祉学部 心理学科①

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への受験・進学意向

Q2. あなたは、新しい学部・学科・専攻を備えた武庫川女子大学を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

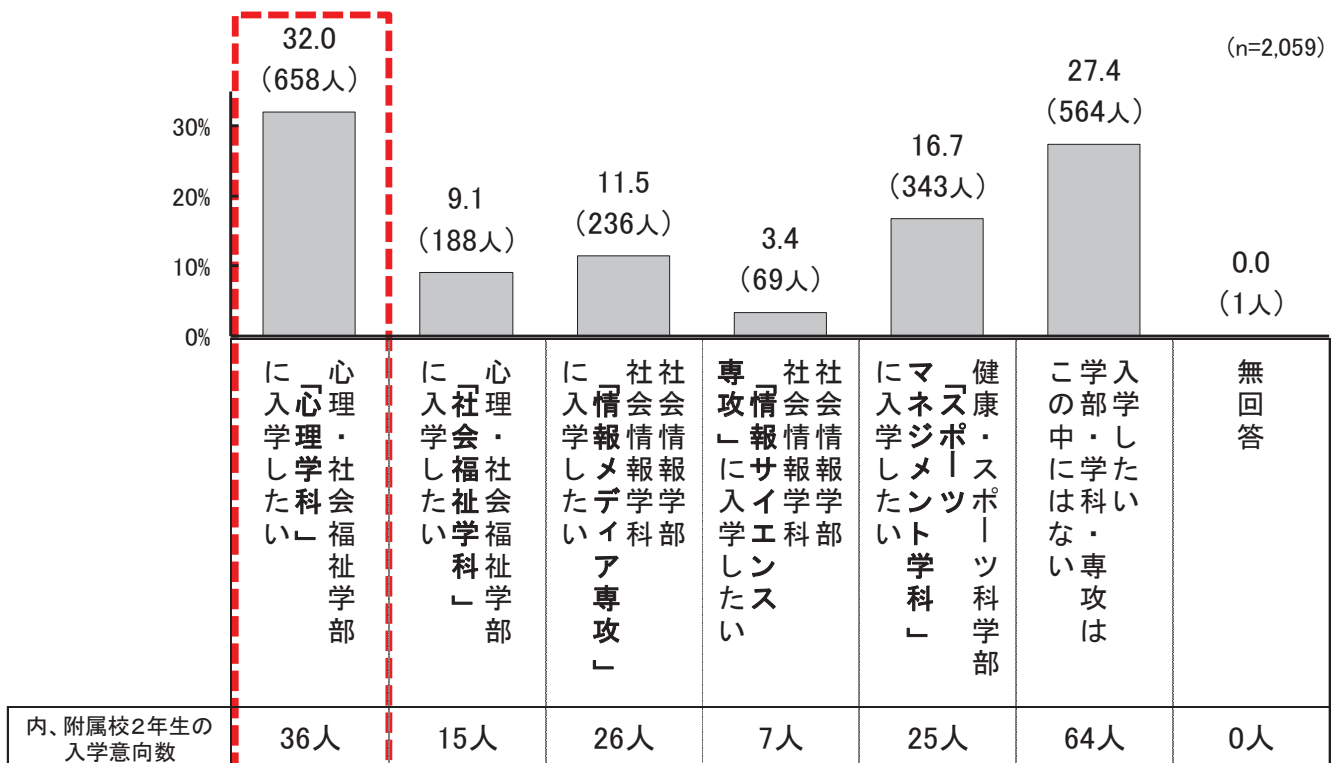


「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人 (うち、173人は附属校)のみ抽出

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への入学意向

Q3. あなたは、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称、設置構想中)を受験して合格したら、どの学部・学科・専攻に入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

※Q2の「受験したいと思う」と答えた2,059人の回答



心理・社会福祉学部 心理学科②

■「心理・社会福祉学部 心理学科」への入学意向 属性別結果

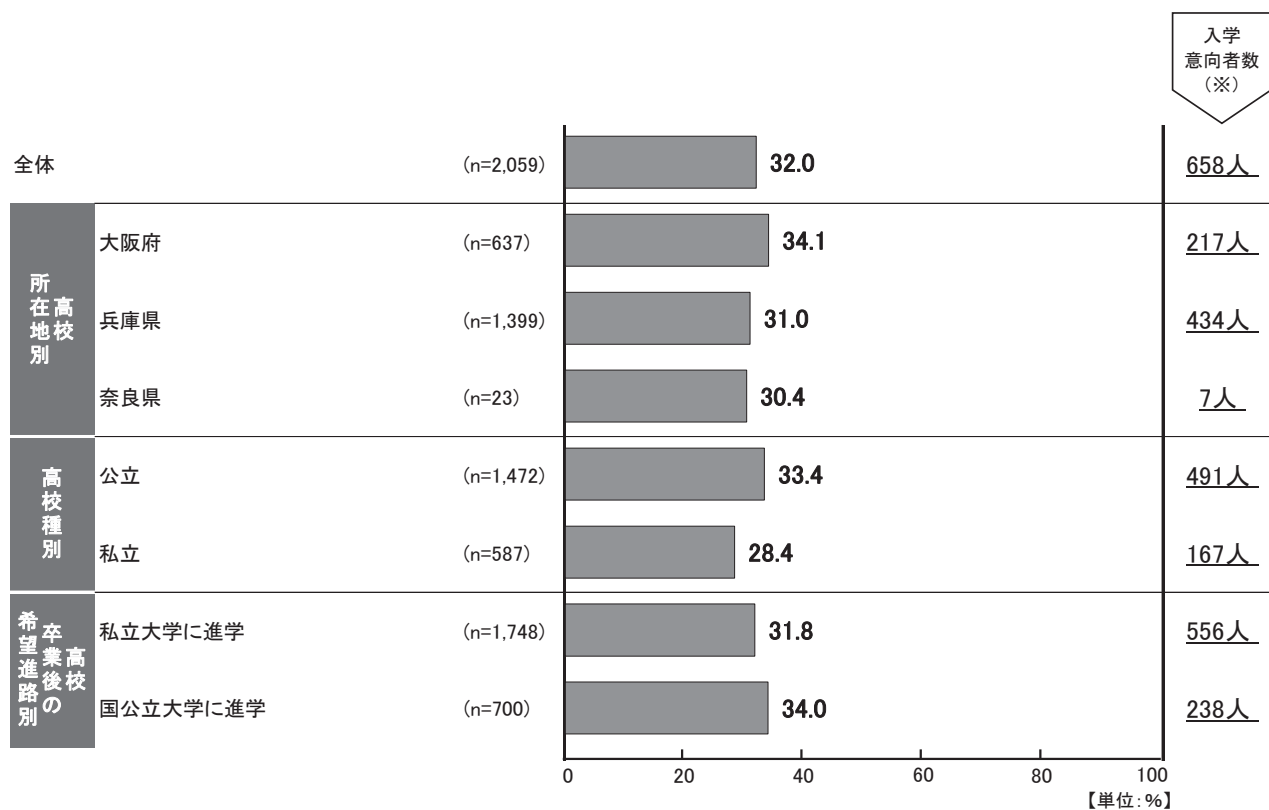
※ Q2で「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人(うち、173人は附属校)のうち、Q3で「心理・社会福祉学部 心理学科に入学したい」と答えた658人の属性別割合

◇高校所在地別

- ・大学と隣接する「大阪府」の高校在籍者のうち入学意向を示したのは637人中、**217人(34.1%)**である。(うち、2人は附属校)。また、大学所在地である「兵庫県」の高校在籍者のうち入学意向を示したのは1,399人中、**434人(31.0%)**であり、予定している入学定員を上回っている。(うち、33人は附属校)

◇高校卒業後の希望進路別

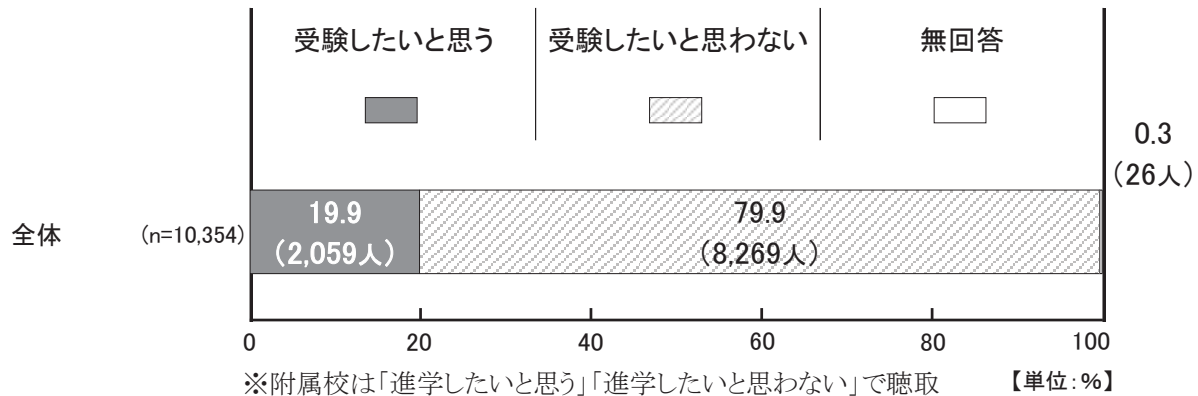
- ・武庫川女子大学を受験・入学する可能性がある「私立大学」への進学希望者のうち入学意向を示したのは1,748人中、**556人(31.8%)**であり、予定している入学定員を上回っている。(うち、32人は附属校)



心理・社会福祉学部 社会福祉学科①

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への受験・進学意向

Q2. あなたは、新しい学部・学科・専攻を備えた武庫川女子大学を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

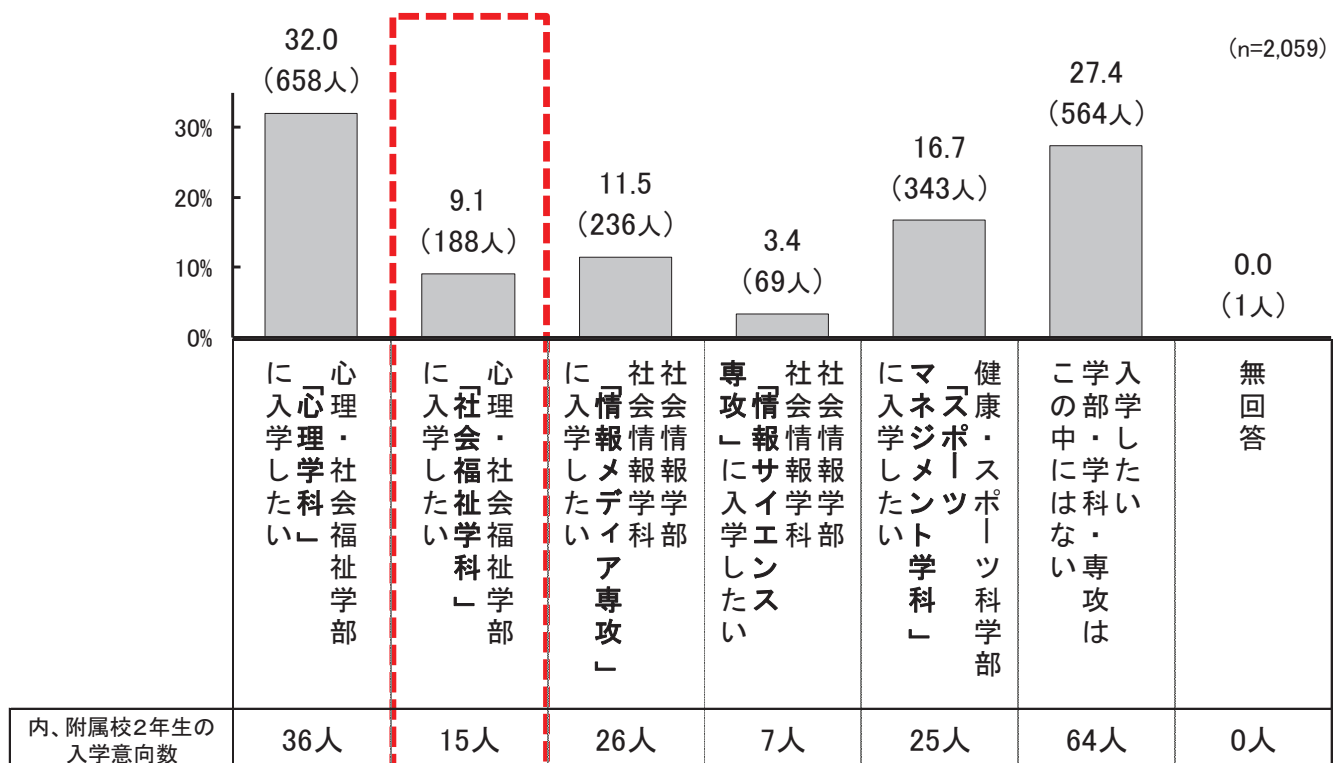


「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人 (うち、173人は附属校)のみ抽出

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への入学意向

Q3. あなたは、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称、設置構想中)を受験して合格したら、どの学部・学科・専攻に入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

※Q2の「受験したいと思う」と答えた2,059人の回答



心理・社会福祉学部 社会福祉学科②

■「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」への入学意向 属性別結果

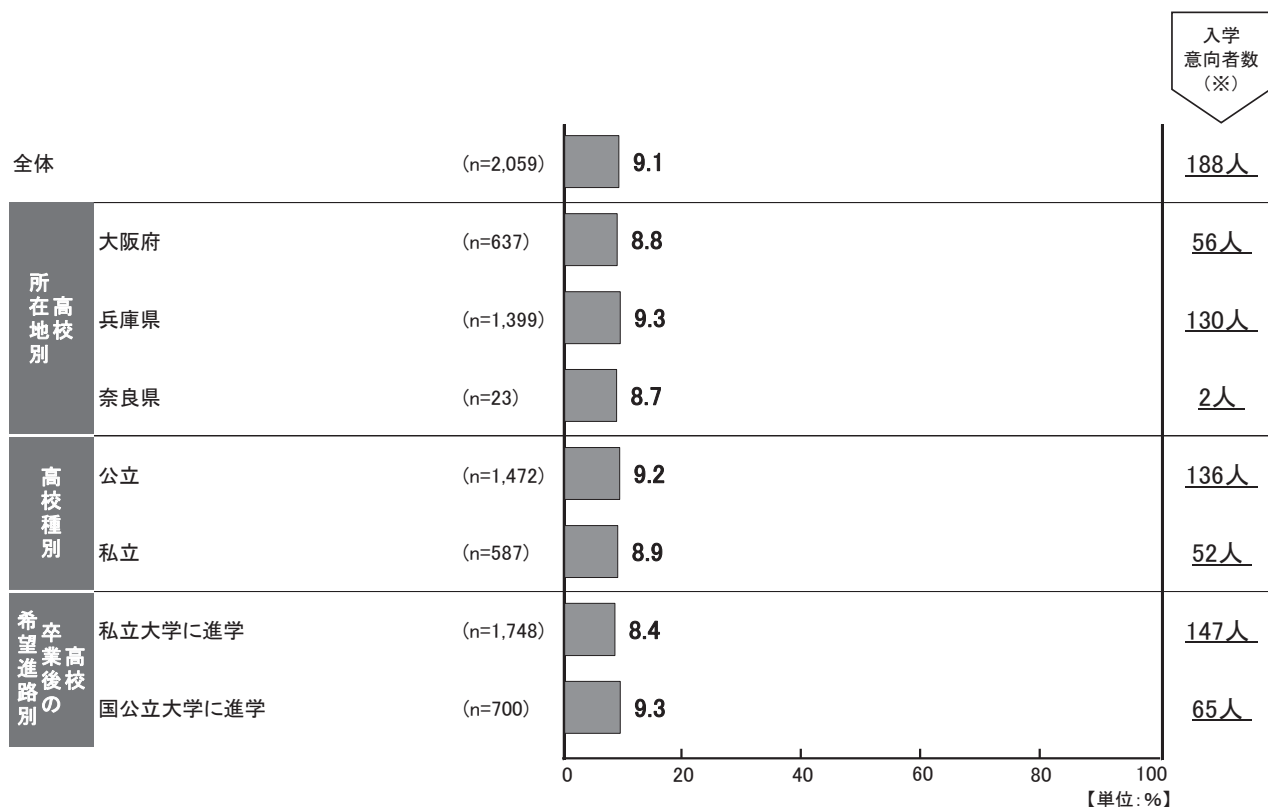
※ Q2で「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人(うち、173人は附属校)のうち、Q3で「心理・社会福祉学部 社会福祉学科に入学したい」と答えた188人の属性別割合

◇高校所在地別

- ・大学所在地である「兵庫県」の高校在籍者のうち入学意向を示したのは1,399人中、**130人(9.3%)**であり、予定している入学定員を上回っている。(うち、12人は附属校)

◇高校卒業後の希望進路別

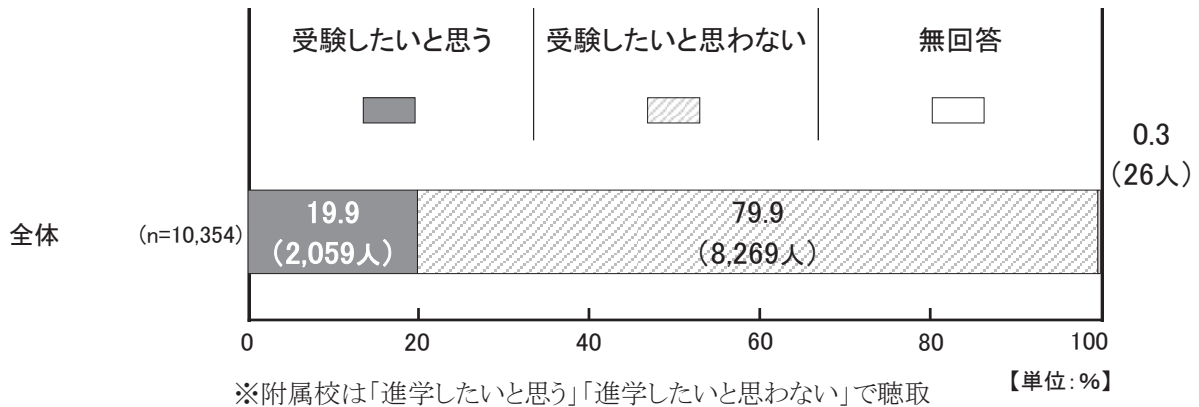
- ・武庫川女子大学を受験・入学する可能性がある「私立大学」への進学希望者のうち入学意向を示したのは1,748人中、**147人(8.4%)**であり、予定している入学定員を上回っている。(うち、14人は附属校)



社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻①

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への受験・進学意向

Q2. あなたは、新しい学部・学科・専攻を備えた武庫川女子大学を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

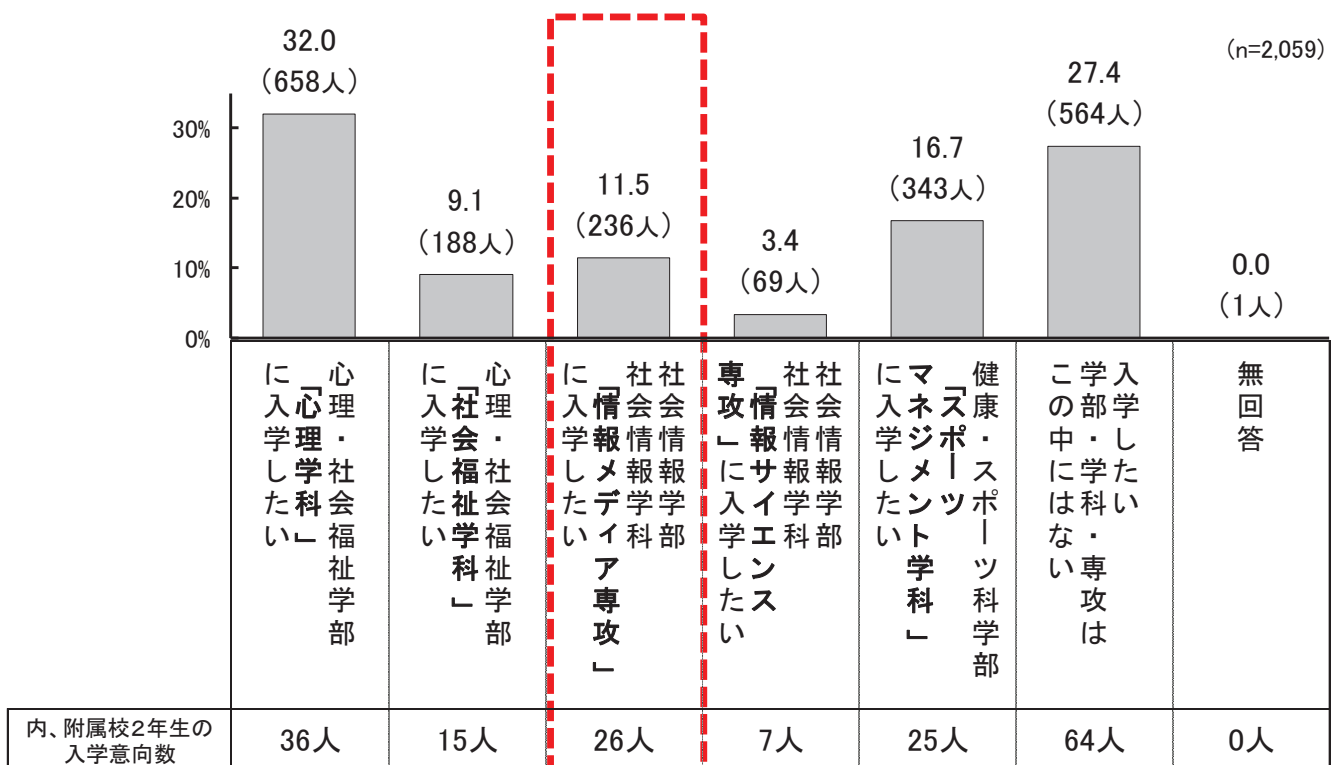


「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人 (うち、173人は附属校)のみ抽出

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への入学意向

Q3. あなたは、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称、設置構想中)を受験して合格したら、どの学部・学科・専攻に入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

※Q2の「受験したいと思う」と答えた2,059人の回答



社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻②

■「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」への入学意向 属性別結果

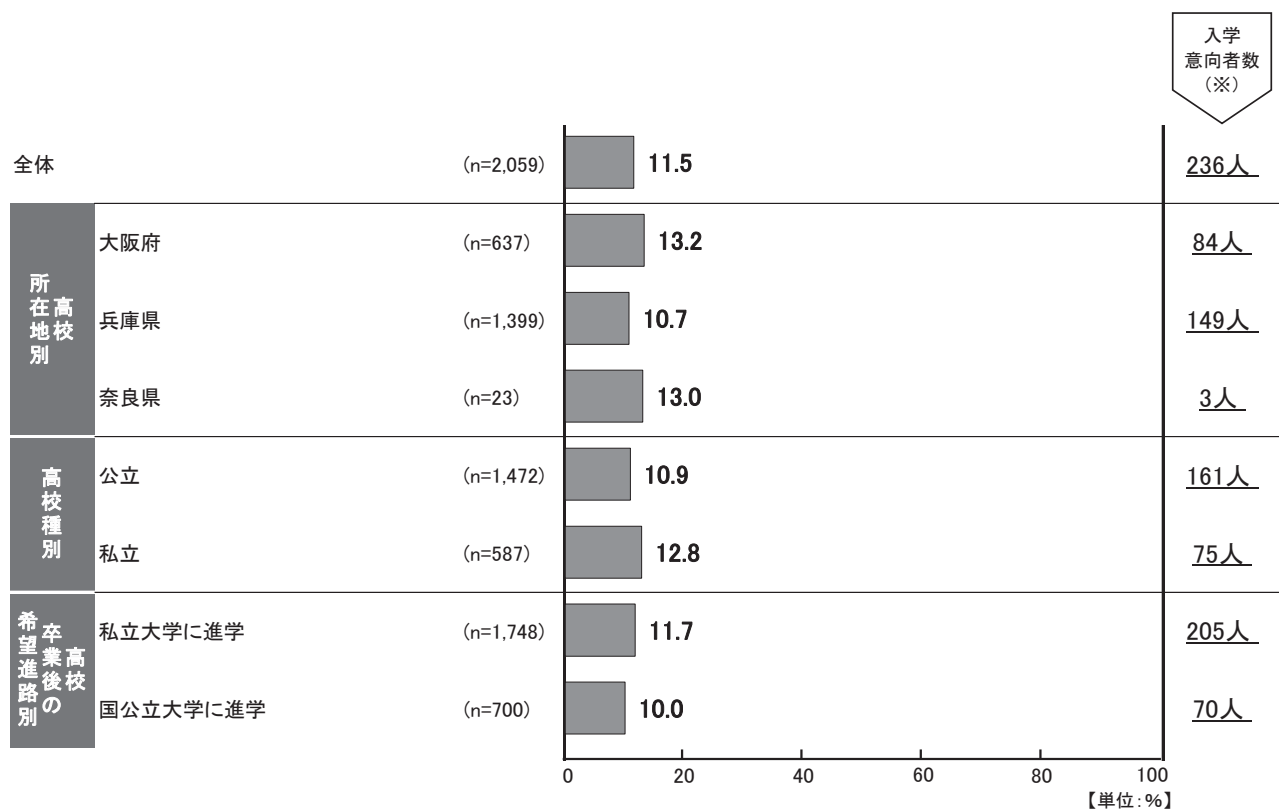
※ Q2で「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人(うち、173人は附属校)のうち、
Q3で「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻に入学したい」と答えた236人の属性別割合

◇高校所在地別

- ・大学所在地である「兵庫県」の高校在籍者のうち入学意向を示したのは1,399人中、**149人(10.7%)**であり、予定している入学定員を上回っている。(うち、22人は附属校)

◇高校卒業後の希望進路別

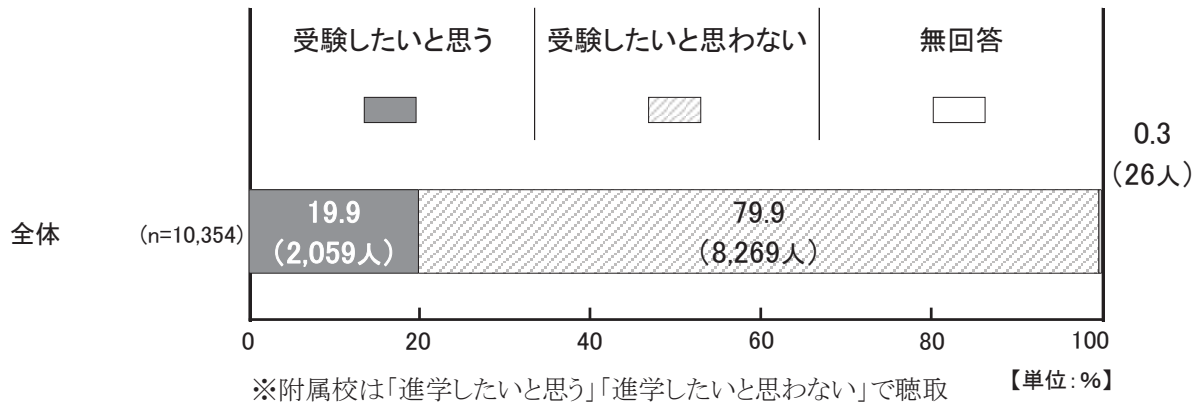
- ・武庫川女子大学を受験・入学する可能性がある「私立大学」への進学希望者のうち入学意向を示したのは1,748人中、**205人(11.7%)**であり、予定している入学定員を上回っている。(うち、25人は附属校)



社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻①

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への受験・進学意向

Q2. あなたは、新しい学部・学科・専攻を備えた武庫川女子大学を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

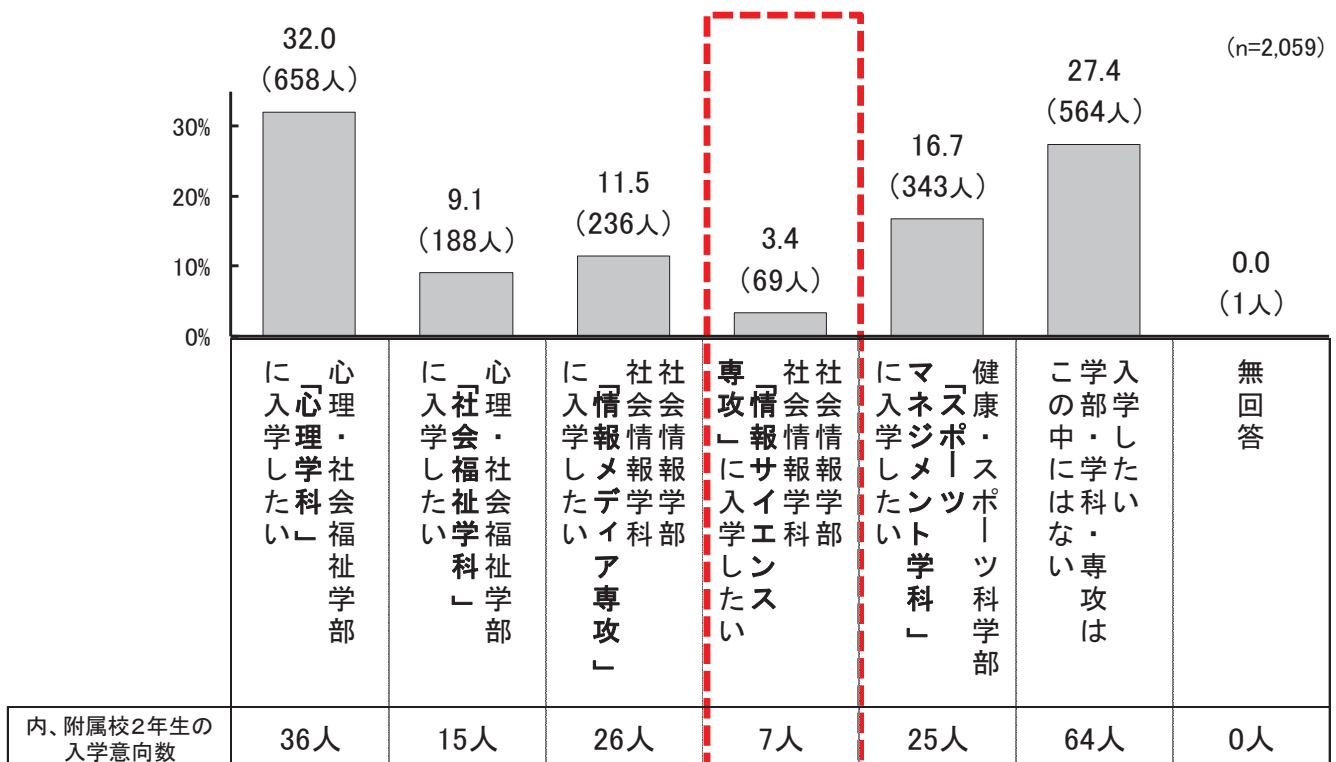


「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人 (うち、173人は附属校)のみ抽出

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への入学意向

Q3. あなたは、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称、設置構想中)を受験して合格したら、どの学部・学科・専攻に入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

※Q2の「受験したいと思う」と答えた2,059人の回答



社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻②

■「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」への入学意向 属性別結果

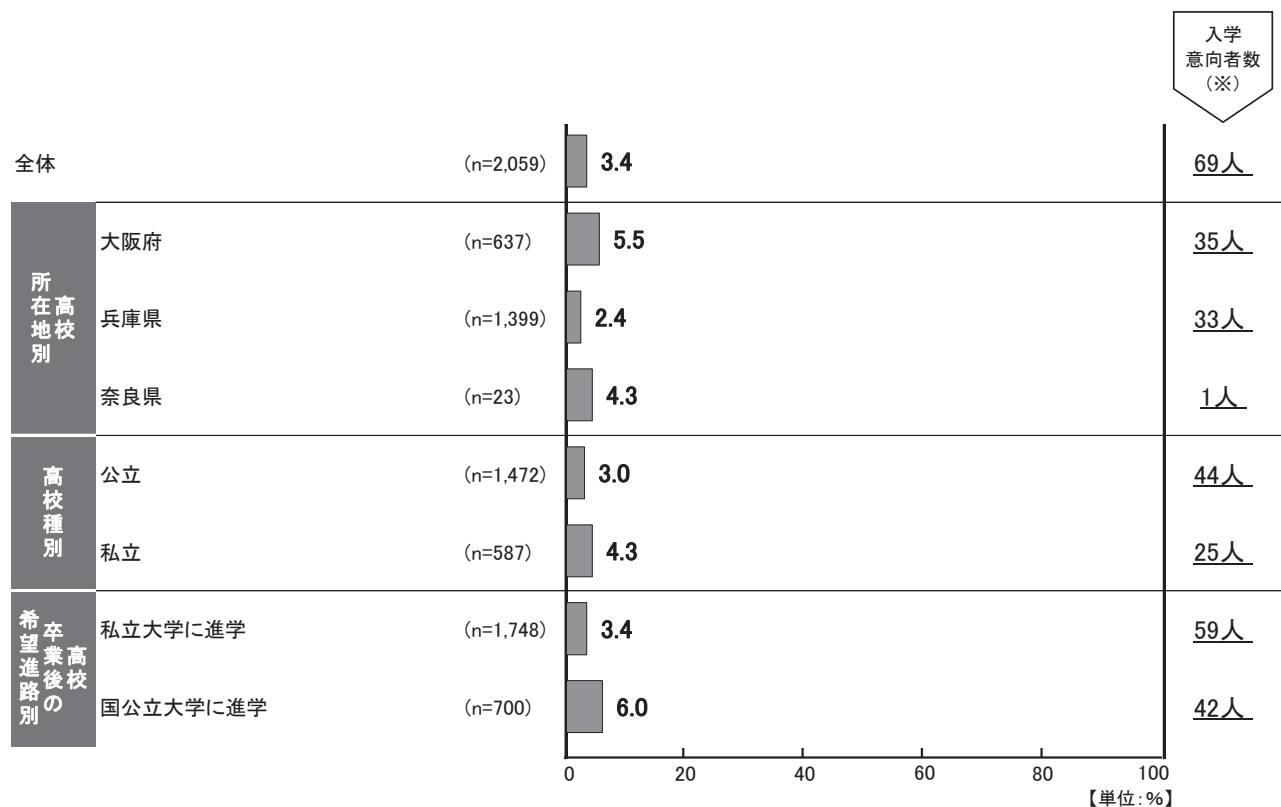
※ Q2で「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人(うち、173人は附属校)のうち、
Q3で「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻に入学したい」と答えた69人の属性別割合

◇高校所在地別

- ・大学と隣接する「大阪府」の高校在籍者のうち入学意向を示したのは637人中、**35人**(5.5%)である。(うち、1人は附属校)。また、大学所在地である「兵庫県」の高校在籍者のうち入学意向を示したのは1,399人中、**33人**(2.4%)であり、予定している入学定員を上回っている。(うち、6人は附属校)

◇高校卒業後の希望進路別

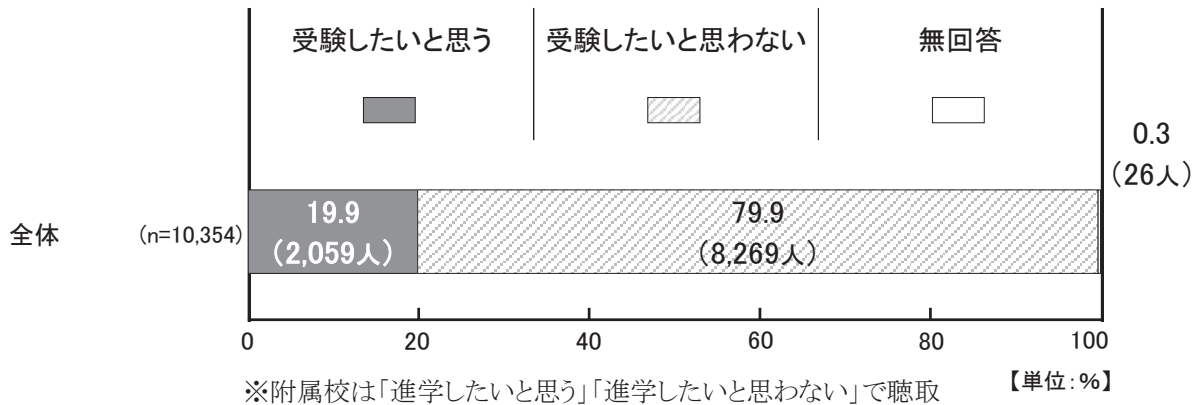
- ・武庫川女子大学を受験・入学する可能性がある「私立大学」への進学希望者のうち入学意向を示したのは1,748人中、**59人**(3.4%)であり、予定している入学定員を上回っている。(うち、7人は附属校)



健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科①

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への受験・進学意向

Q2. あなたは、新しい学部・学科・専攻を備えた武庫川女子大学を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

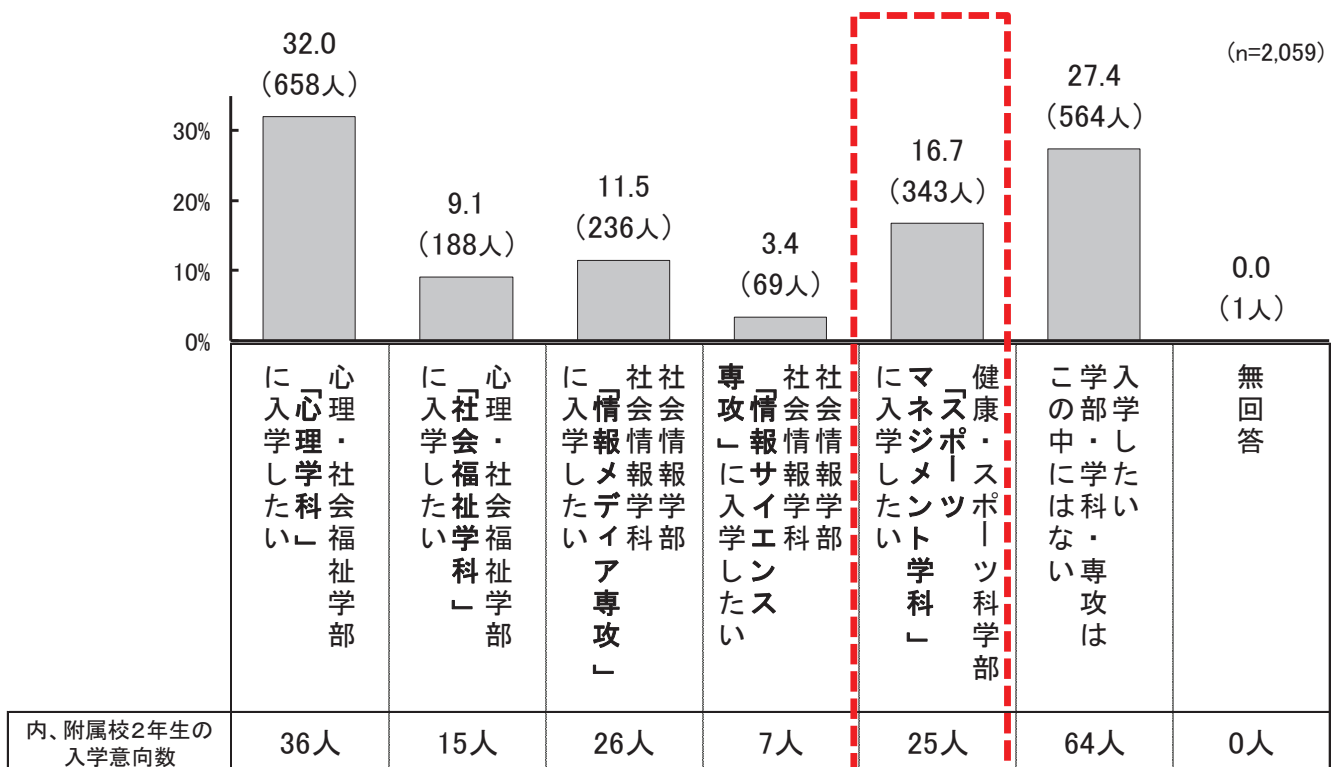


「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人 (うち、173人は附属校)のみ抽出

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への入学意向

Q3. あなたは、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称、設置構想中)を受験して合格したら、どの学部・学科・専攻に入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

※Q2の「受験したいと思う」と答えた2,059人の回答



健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科②

■「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」への入学意向 属性別結果

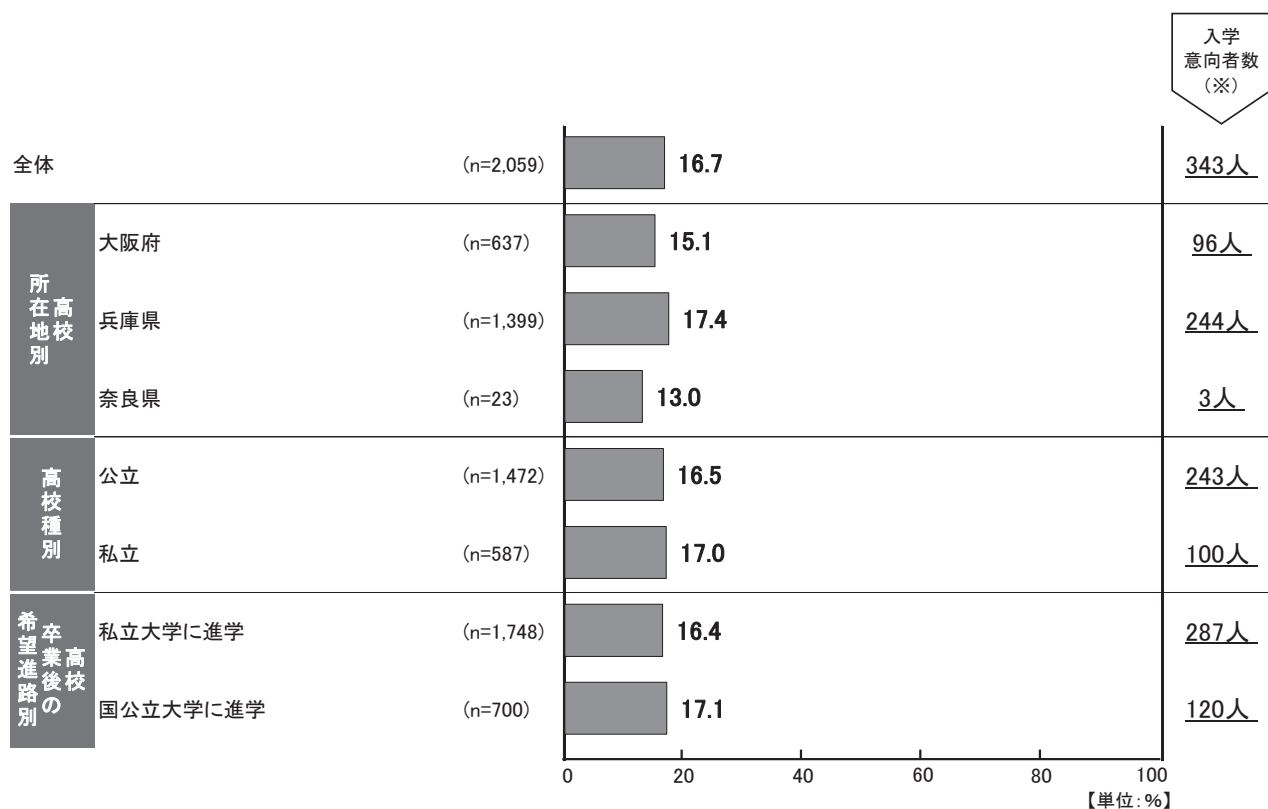
※ Q2で「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人(うち、173人は附属校)のうち、
Q3で「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科に入学したい」と答えた343人の属性別割合

◇高校所在地別

- ・大学所在地である「兵庫県」の高校在籍者のうち入学意向を示したのは1,399人中、244人(17.4%)であり、予定している入学定員を上回っている。(うち、23人は附属校)

◇高校卒業後の希望進路別

- ・武庫川女子大学を受験・入学する可能性がある「私立大学」への進学希望者のうち入学意向を示したのは1,748人中、287人(16.4%)であり、予定している入学定員を上回っている。(うち、25人は附属校)



附属高校1年・附属中学校 調査結果まとめ

附属高校1年・附属中学校対象 調査概要

1. 調査目的

2023年4月開設予定の武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」新設構想に関して、開設2年目以降の入学ニーズを附属高校1年・中学校の生徒から把握する。

2. 調査概要

			附属高校1年・附属中学校対象調査
調査対象			附属高校1年・附属中学校1～3年
調査方法			留置き調査
調査対象数	高校1年生	有効回収数	225人
	中学3年生	有効回収数	157人
	中学2年生	有効回収数	128人
	中学1年生	有効回収数	156人
調査時期			2021年6月21日(月)～2021年8月10日(火)
調査実施機関			株式会社 進研アド

3. 調査項目

附属高校1年・附属中学校対象調査
<ul style="list-style-type: none">・ 学年・ 居住地・ 高校卒業後の希望進路・ 武庫川女子大学への進学意向・ 各学部・学科・専攻への入学意向

附属高校1年・附属中学校対象 調査結果まとめ

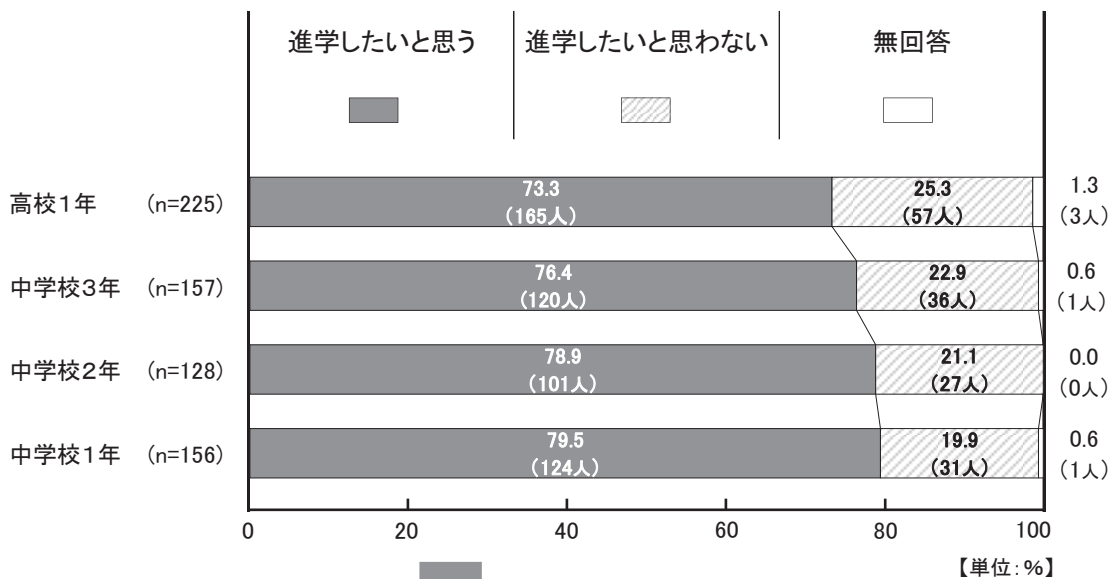
本ページ以降の結果は、武庫川女子大学 附属高校1年・中学校1～3年の生徒に高校卒業後の進路や、新学部・学科・専攻への入学意向について、聴取した結果を掲載している。

結果は、いずれの学年においても、7割超の生徒が武庫川女子大学への進学意向を示し、また新学部・学科・専攻に対して、一定の入学意向があることがうかがえる。(本ページ下部参照)

次ページ以降では、各学年ごとの結果を掲載している。

■武庫川女子大学への進学意向

Q2. あなたは、新しい学部・学科・専攻を備えた武庫川女子大学に進学したいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



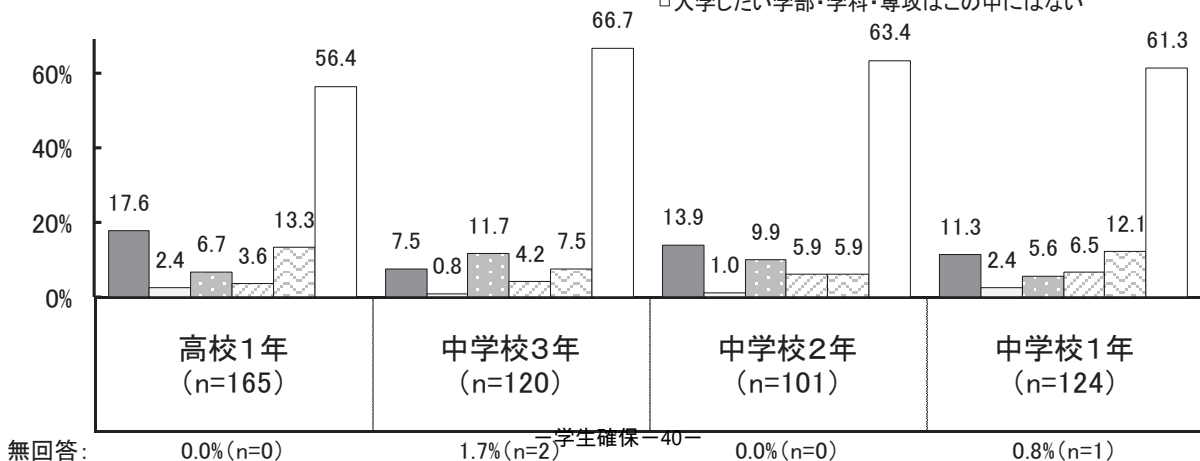
「進学したいと思う」と答えた510人のみ抽出

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への入学意向

Q3. あなたは、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称、設置構想中)のうち、どの学部・学科・専攻に入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

※Q2の「進学したいと思う」と答えた510人の回答

- 心理・社会福祉学部「心理学科」に入学したい
- 心理・社会福祉学部「社会福祉学科」に入学したい
- 社会情報学部社会情報学科「情報メディア専攻」に入学したい
- 社会情報学部社会情報学科「情報サイエンス専攻」に入学したい
- 健康・スポーツ科学部「スポーツマネジメント学科」に入学したい
- 入学したい学部・学科・専攻はこの中にはない



<附属高校1年>調査結果まとめ

回答者の属性

※本調査は、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」に対する需要を確認するための調査として設計。附属高校1年生(225人)に調査を実施した。

- 本調査の有効回答数は225人。
- 回答者の居住地は「兵庫県」が83.6%、「大阪府」が15.6%である。

高校卒業後の希望進路

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「私立大学に進学」を希望する人の割合が92.9%で最も高い。次いで「国公立大学に進学」が18.7%、「専門学校・専修学校に進学」が8.9%と続く。私立大学進学志望者が多いことから、武庫川女子大学の受験を検討しうる高校生の意見を聴取できていると考えられる。

＜附属高校1年＞調査結果まとめ

武庫川女子大学への進学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた人は、165人(73.3%)である。

「心理・社会福祉学部 心理学科」への入学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた165人のうち、「心理・社会福祉学部 心理学科に入学したい」と入学意向を示した人は29人(17.6%)。

「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」への入学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた165人のうち、「心理・社会福祉学部 社会福祉学科に入学したい」と入学意向を示した人は4人(2.4%)。

「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」への入学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた165人のうち、「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻に入学したい」と入学意向を示した人は11人(6.7%)。

「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」への入学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた165人のうち、「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻に入学したい」と入学意向を示した人は6人(3.6%)。

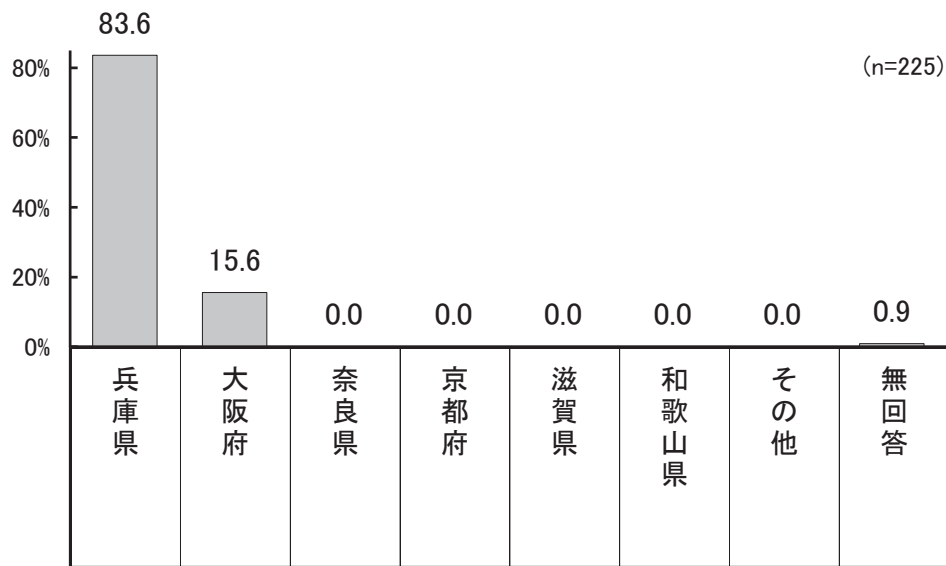
「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」への入学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた165人のうち、「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科に入学したい」と入学意向を示した人は22人(13.3%)。

<附属高校1年>

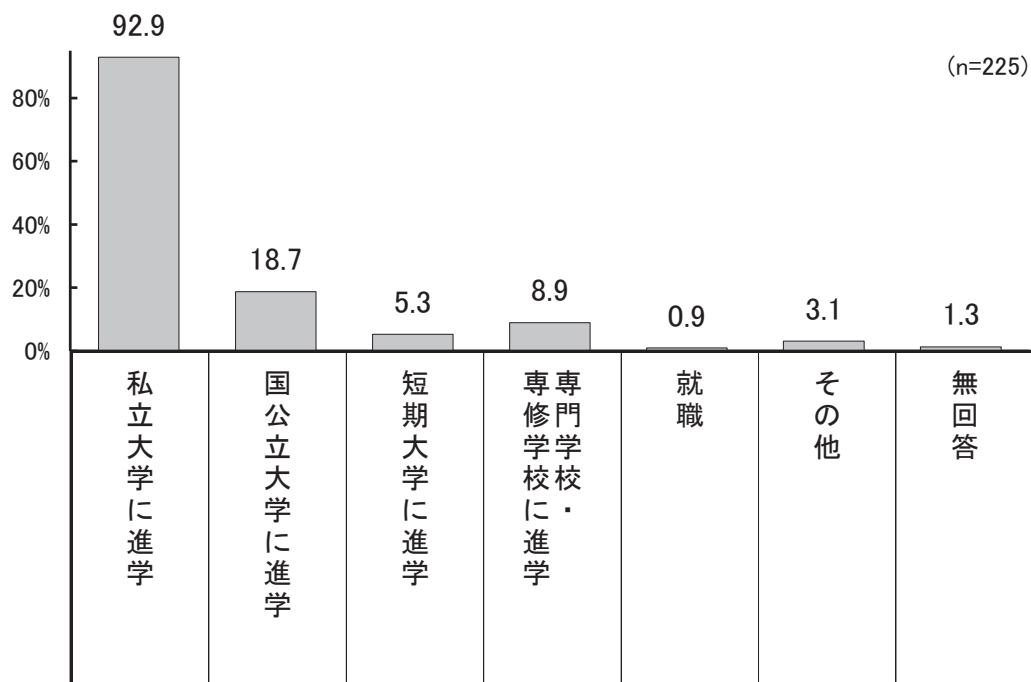
回答者の属性(居住地) 高校卒業後の希望進路

■居住地



■高校卒業後の希望進路

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。
以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)

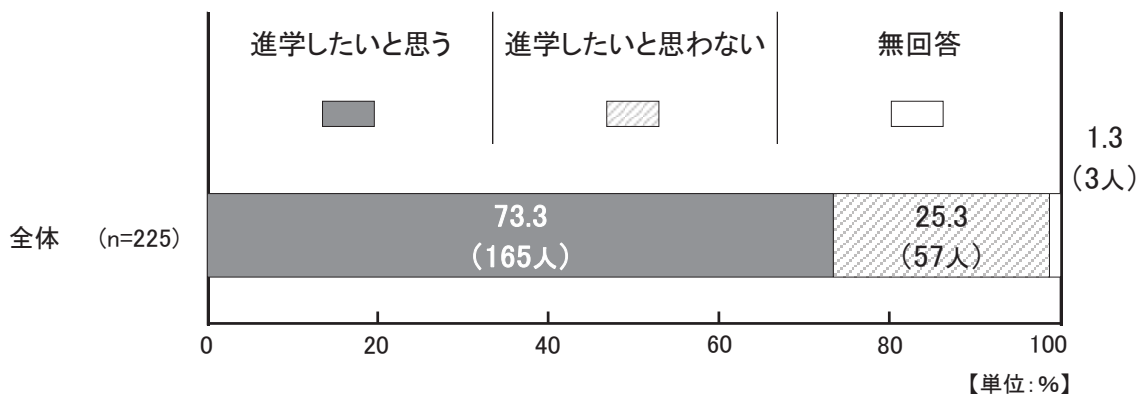


<附属高校1年>

武庫川女子大学への進学意向／入学意向

■武庫川女子大学への進学意向

Q2. あなたは、新しい学部・学科・専攻を備えた武庫川女子大学に進学したいと思いますか。
あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

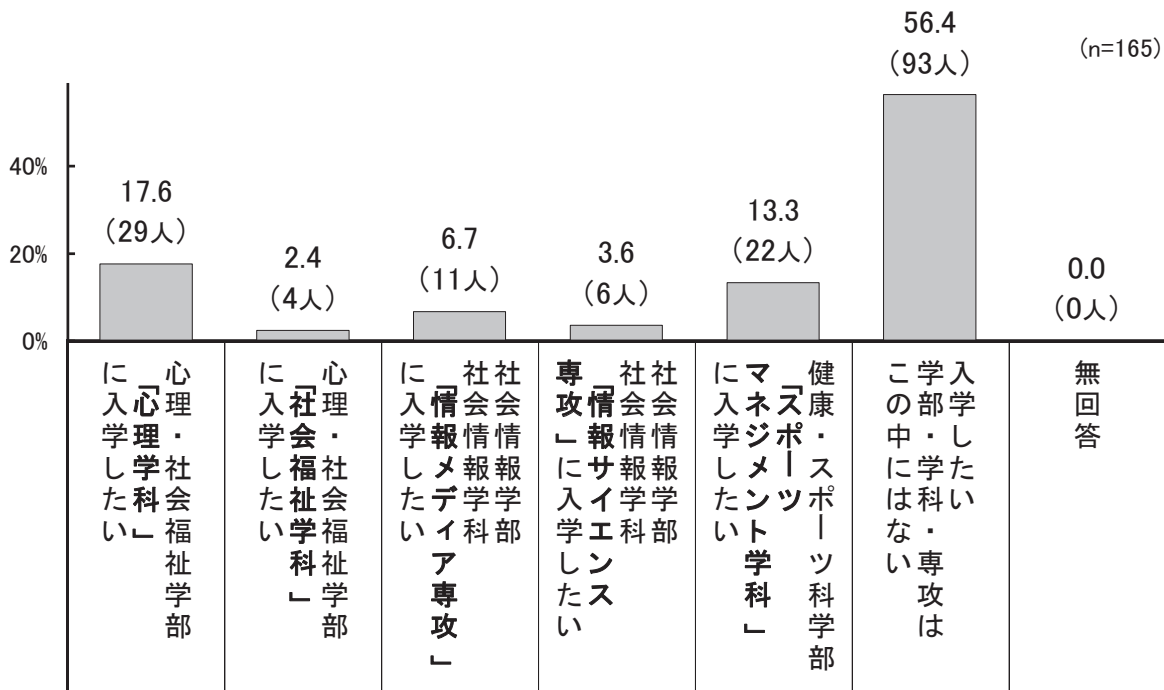


「進学したいと思う」と答えた165人のみ抽出

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への入学意向

Q3. あなたは、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称、設置構想中)のうち、どの学部・学科・専攻に入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

※Q2の「進学したいと思う」と答えた165人の回答



<附属中学校3年> 調査結果まとめ

回答者の属性

※本調査は、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」に対する需要を確認するための調査として設計。附属中学3年生(157人)に調査を実施した。

- 本調査の有効回答数は157人。
- 回答者の居住地は「兵庫県」が80.3%、「大阪府」が15.9%、「奈良県」が0.6%である。

高校卒業後の希望進路

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「私立大学に進学」を希望する人の割合が77.1%で最も高い。次いで「国公立大学に進学」が21.0%、「専門学校・専修学校に進学」が12.7%と続く。私立大学進学志望者が多いことから、武庫川女子大学の受験を検討しうる中学生の意見を聴取できていると考えられる。

＜附属中学校3年＞調査結果まとめ

武庫川女子大学への進学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた人は、120人(76.4%)である。

「心理・社会福祉学部 心理学科」への入学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた120人のうち、「心理・社会福祉学部 心理学科に入学したい」と入学意向を示した人は9人(7.5%)。

「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」への入学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた120人のうち、「心理・社会福祉学部 社会福祉学科に入学したい」と入学意向を示した人は1人(0.8%)。

「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」への入学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた120人のうち、「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻に入学したい」と入学意向を示した人は14人(11.7%)。

「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」への入学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた120人のうち、「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻に入学したい」と入学意向を示した人は5人(4.2%)。

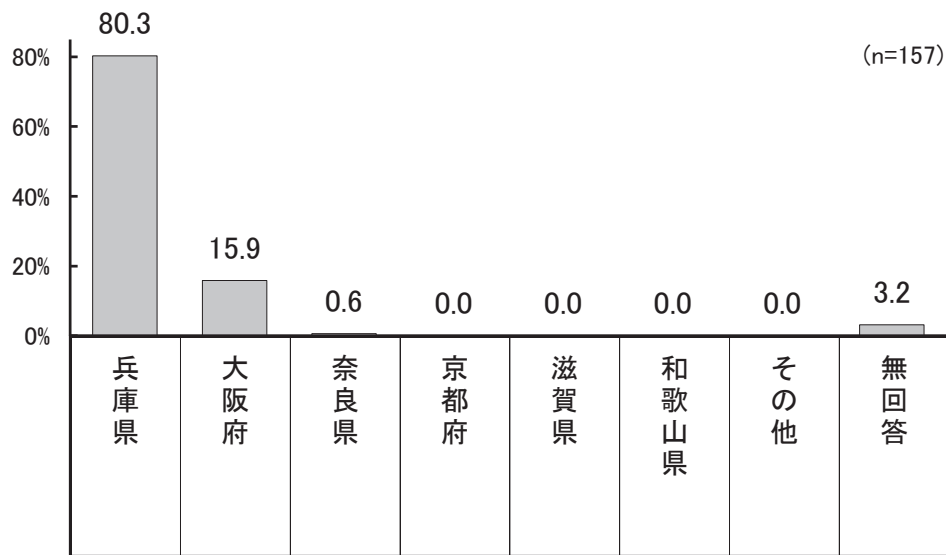
「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」への入学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた120人のうち、「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科に入学したい」と入学意向を示した人は9人(7.5%)。

<附属中学校3年>

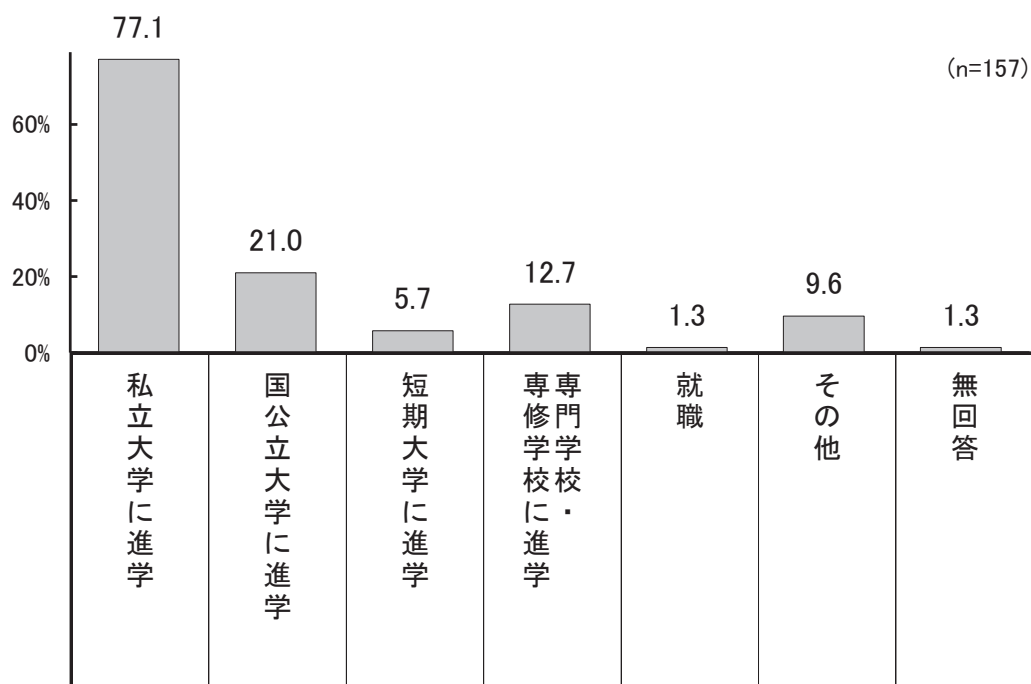
回答者の属性(居住地) 高校卒業後の希望進路

■居住地



■高校卒業後の希望進路

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。
以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)

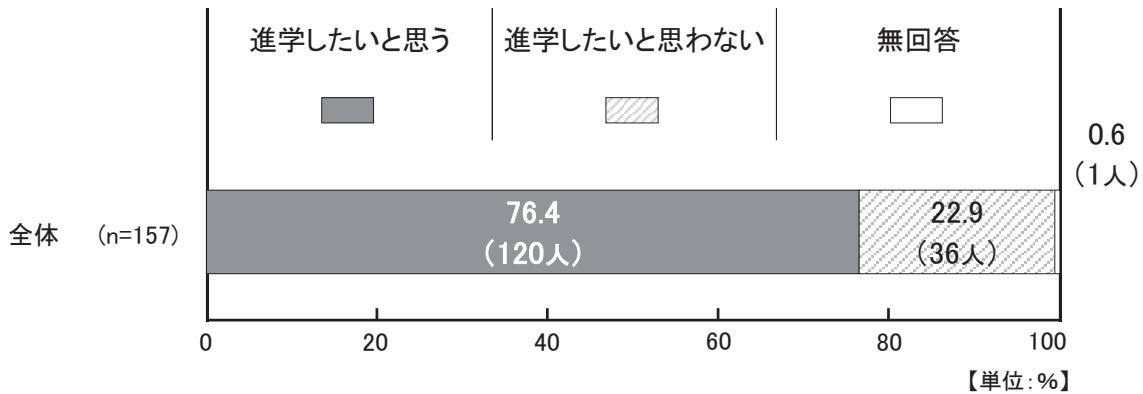


<附属中学校3年>

武庫川女子大学への進学意向／入学意向

■武庫川女子大学への進学意向

Q2. あなたは、新しい学部・学科・専攻を備えた武庫川女子大学に進学したいと思いますか。
あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

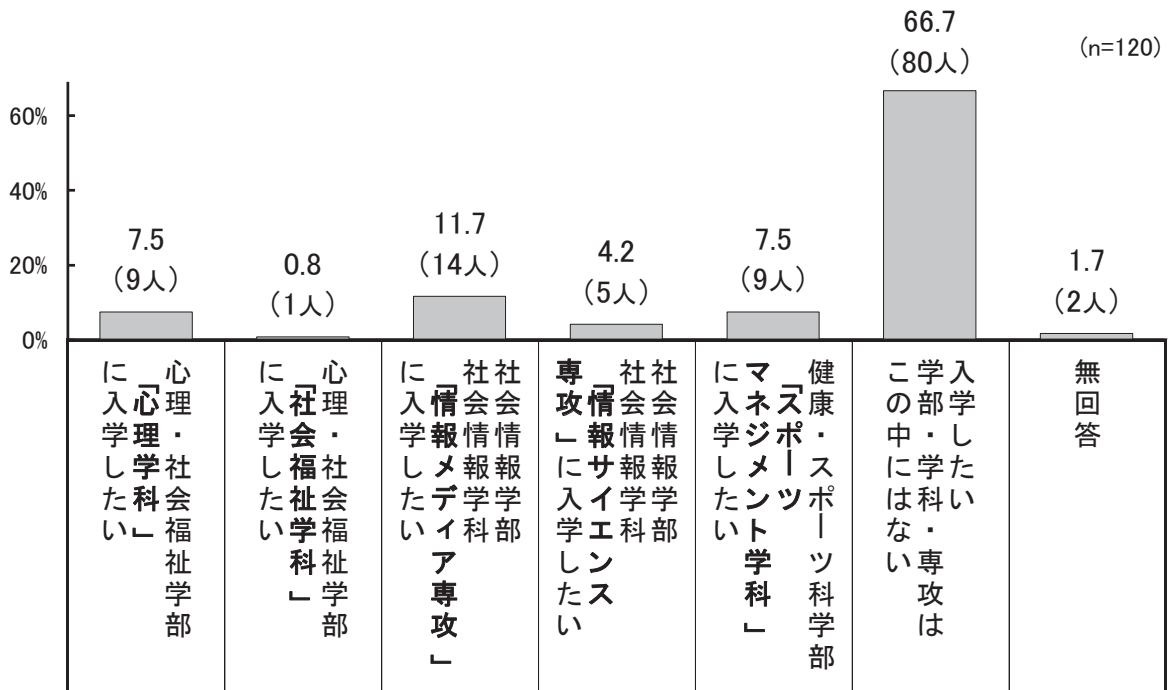


「進学したいと思う」と答えた120人のみ抽出

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への入学意向

Q3. あなたは、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称、設置構想中)のうち、どの学部・学科・専攻に入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

※Q2の「進学したいと思う」と答えた120人の回答



<附属中学校2年> 調査結果まとめ

回答者の属性

※本調査は、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」に対する需要を確認するための調査として設計。附属中学2年生(128人)に調査を実施した。

- 本調査の有効回答数は128人。
- 回答者の居住地は「兵庫県」が84.4%、「大阪府」が14.8%である。

高校卒業後の希望進路

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「私立大学に進学」を希望する人の割合が86.7%で最も高い。次いで「国公立大学に進学」が16.4%、「短期大学に進学」が15.6%と続く。私立大学進学志望者が多いことから、武庫川女子大学の受験を検討しうる中学生の意見を聴取できていると考えられる。

＜附属中学校2年＞調査結果まとめ

武庫川女子大学への進学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた人は、101人(78.9%)である。

「心理・社会福祉学部 心理学科」への入学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた101人のうち、「心理・社会福祉学部 心理学科に入学したい」と入学意向を示した人は14人(13.9%)。

「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」への入学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた101人のうち、「心理・社会福祉学部 社会福祉学科に入学したい」と入学意向を示した人は1人(1.0%)。

「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」への入学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた101人のうち、「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻に入学したい」と入学意向を示した人は10人(9.9%)。

「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」への入学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた101人のうち、「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻に入学したい」と入学意向を示した人は6人(5.9%)。

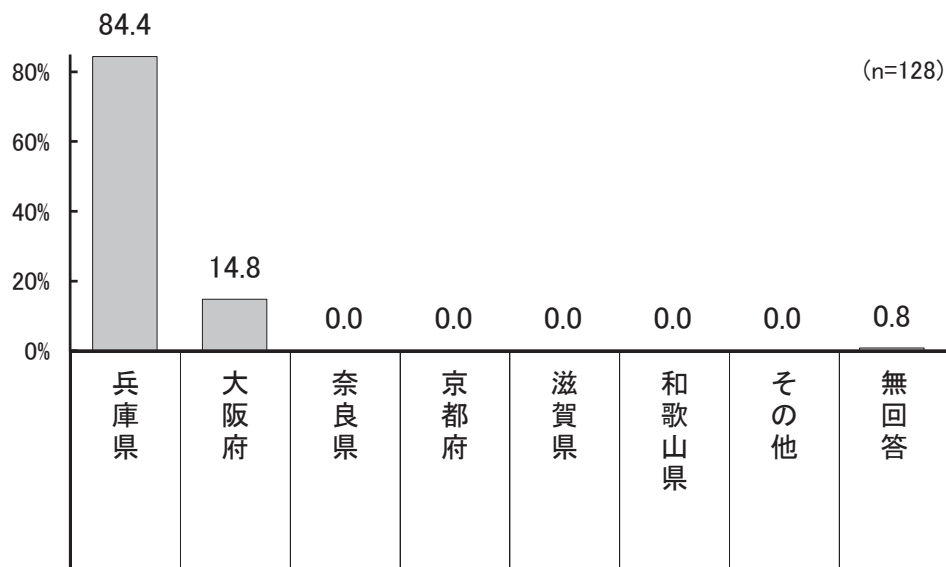
「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」への入学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた101人のうち、「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科に入学したい」と入学意向を示した人は6人(5.9%)。

<附属中学校2年>

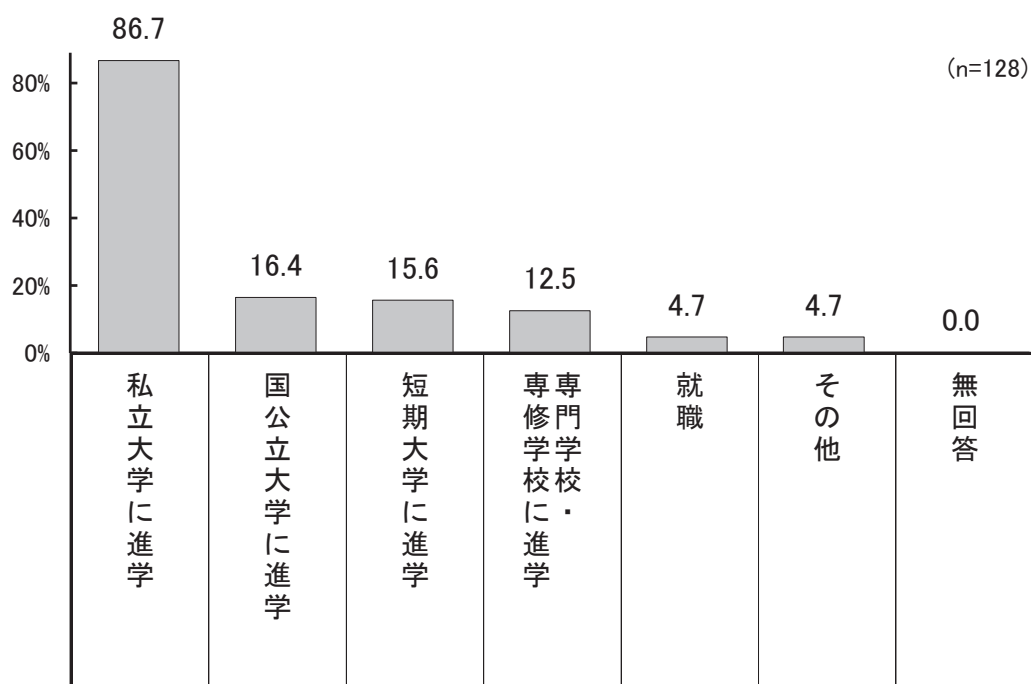
回答者の属性(居住地) 高校卒業後の希望進路

■居住地



■高校卒業後の希望進路

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。
以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)

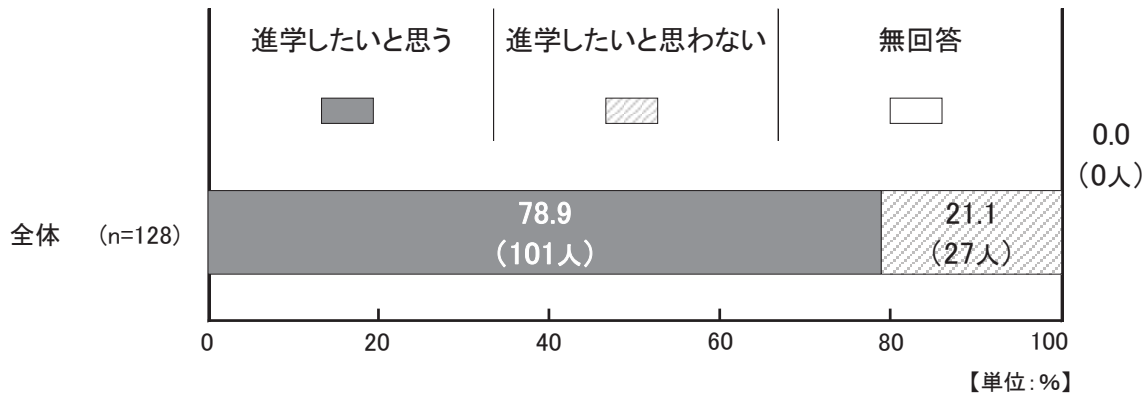


<附属中学校2年>

武庫川女子大学への進学意向／入学意向

■武庫川女子大学への進学意向

Q2. あなたは、新しい学部・学科・専攻を備えた武庫川女子大学に進学したいと思いますか。
あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

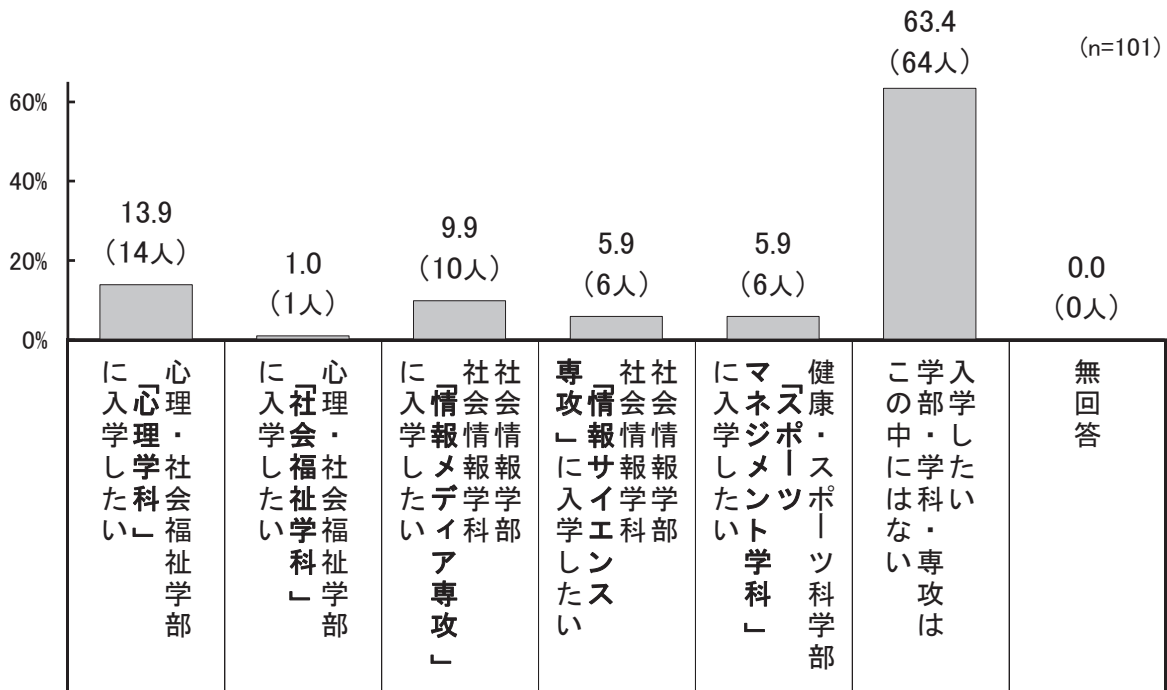


「進学したいと思う」と答えた101人のみ抽出

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への入学意向

Q3. あなたは、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称、設置構想中)のうち、どの学部・学科・専攻に入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

※Q2の「進学したいと思う」と答えた101人の回答



<附属中学校1年>調査結果まとめ

回答者の属性

※本調査は、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」に対する需要を確認するための調査として設計。附属中学1年生(156人)に調査を実施した。

- 本調査の有効回答数は156人。
- 回答者の居住地は「兵庫県」が77.6%、「大阪府」が21.2%、「奈良県」が1.3%である。

高校卒業後の希望進路

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「私立大学に進学」を希望する人の割合が84.0%で最も高い。次いで「専門学校・専修学校に進学」が19.2%、「国公立大学に進学」「その他」が13.5%と続く。私立大学進学志望者が多いことから、武庫川女子大学の受験を検討しうる中学生の意見を聴取できていると考えられる。

＜附属中学校1年＞調査結果まとめ

武庫川女子大学への進学意向

- ・武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた人は、124人(79.5%)である。

「心理・社会福祉学部 心理学科」への入学意向

- ・武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた124人のうち、「心理・社会福祉学部 心理学科に入学したい」と入学意向を示した人は14人(11.3%)。

「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」への入学意向

- ・武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた124人のうち、「心理・社会福祉学部 社会福祉学科に入学したい」と入学意向を示した人は3人(2.4%)。

「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」への入学意向

- ・武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた124人のうち、「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻に入学したい」と入学意向を示した人は7人(5.6%)。

「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」への入学意向

- ・武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた124人のうち、「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻に入学したい」と入学意向を示した人は8人(6.5%)。

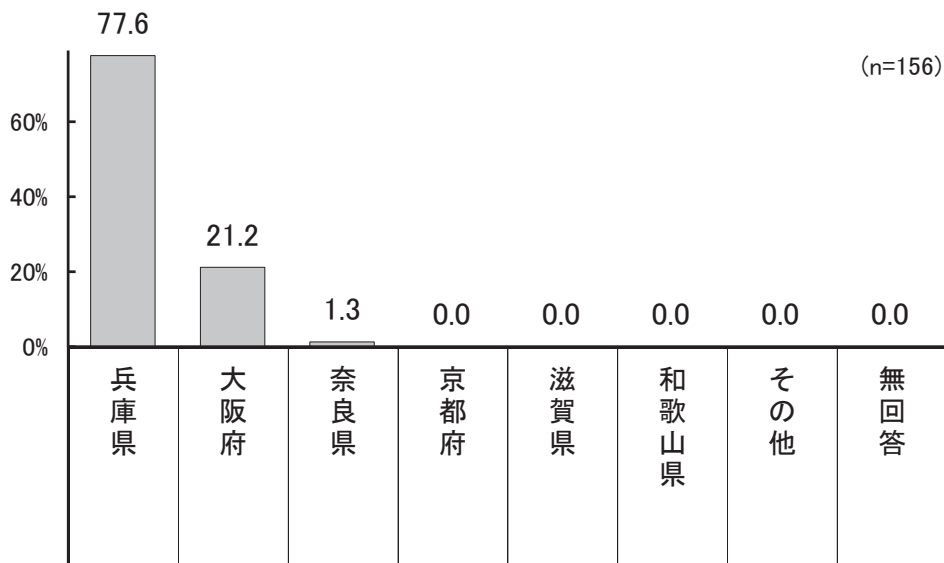
「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」への入学意向

- ・武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた124人のうち、「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科に入学したい」と入学意向を示した人は15人(12.1%)。

<附属中学校1年>

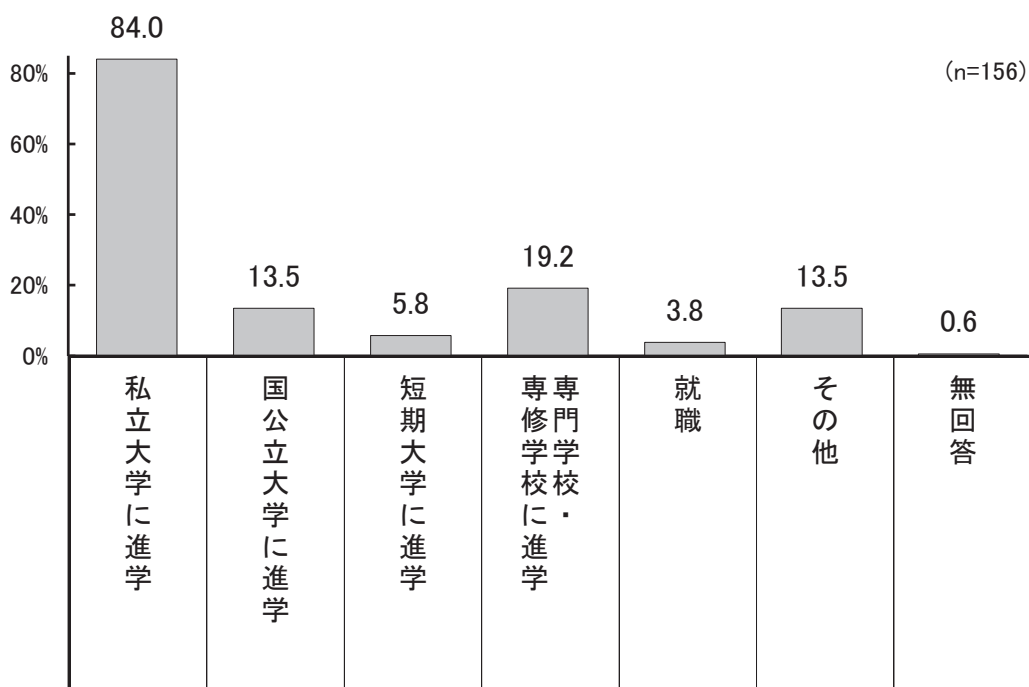
回答者の属性(居住地) 高校卒業後の希望進路

■居住地



■高校卒業後の希望進路

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。
以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)

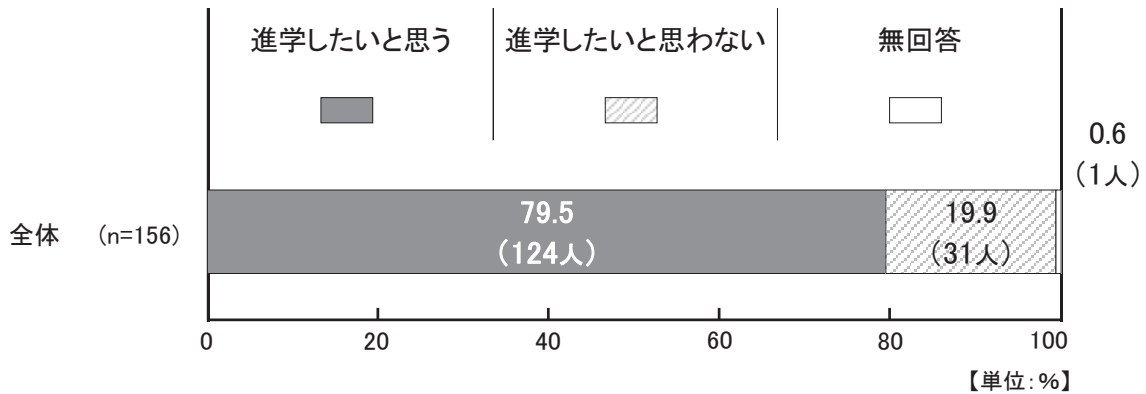


<附属中学校1年>

武庫川女子大学への進学意向／入学意向

■武庫川女子大学への進学意向

Q2. あなたは、新しい学部・学科・専攻を備えた武庫川女子大学に進学したいと思いますか。
あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

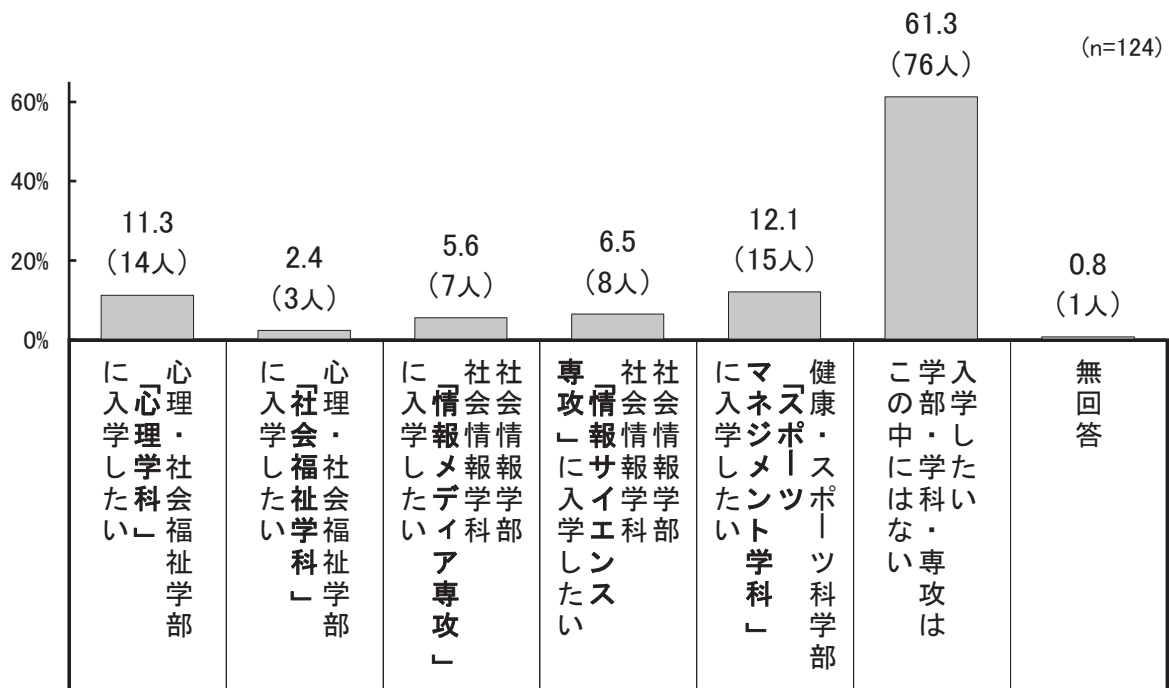


「進学したいと思う」と答えた124人のみ抽出

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への入学意向

Q3. あなたは、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称、設置構想中)のうち、どの学部・学科・専攻に入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

※Q2の「進学したいと思う」と答えた124人の回答



卷末資料 調査票

高校生対象 アンケート調査票

<対象:2021年度現在、高校2年生の女子生徒の皆さん>

武庫川女子大学
「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」
「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」
(すべて仮称、設置構想中)に関するアンケート

武庫川女子大学では2023年4月に、「心理・社会福祉学部 心理学科/社会福祉学科」「社会情報学部 社会情報学科」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称)を設置することを構想しています。

このアンケートは、高校生のみなさんの進路選択に対する考え方や、大学で学びたいことなどの意見をお伺いし、武庫川女子大学の教育をより充実したものにするための参考資料とさせていただきます。

このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※下記の記入要領をお読みいただき、次ページからの質問にご回答ください。

記入要領

1. 回答は、**あてはまる番号**に「○」印をつけてください。
2. この用紙は、電算処理しますので汚さないようにしてください。
3. 記入は、必ず**鉛筆**又は**シャープペンシル**で濃く書いてください。
4. 下記の【**良い記入例**】にしたがって記入してください。
特に、「○」印は、**番号丸枠**からはみ出さないようにつけてください。

ここに○印をつけてください

ID 20

この欄には記入しないでください

良い記入例	<input type="radio"/> 心理学	悪い記入例	<input checked="" type="radio"/> 心理学	<input type="radio"/> 心理学	<input checked="" type="radio"/> 心理学	<input type="radio"/> 心理学
	<input type="radio"/> 社会福祉学	<input checked="" type="radio"/> 社会福祉学	<input type="radio"/> 社会福祉学	<input checked="" type="radio"/> 社会福祉学	<input type="radio"/> 社会福祉学	<input checked="" type="radio"/> 社会福祉学

このアンケートや同封した資料に記載されている事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

高校生対象 アンケート調査票

「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」
「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称、設置構想中)の特色

心理・社会福祉学部	心理学科	<p>カウンセリングなどを学ぶ「臨床系」、心理学研究のための「研究系」、企業・社会で役立つ「実用系」の科目が学べます。</p> <p>実社会の課題に取り組むフィールドワークなど実践的な授業を通して課題を発見し、解決策を生み出す力を身につけることができます。また、公認心理師受験資格や社会調査士の資格取得も可能です。</p>
	社会福祉学科	<p>社会福祉士を目指す「ソーシャルワーク基礎コース」、精神保健福祉士を目指す「ソーシャルワーク・アドバンスコース」、地域貢献や国際協力の現場での活躍を目指す「ソーシャルビジネスコース」から学びを選択できます。</p> <p>フィールドワークなどを通して、地域での孤立、子どもの貧困、多文化共生などの課題に挑む実践力を身につけることができます。</p>
社会情報学部	情報メディア専攻	<p>メディアとコミュニケーションをキーワードに、生活・経済における情報デザインについて学びます。</p> <p>データ分析から広告企画、WEBページ制作まで、さまざまな実践プログラムを通して、情報技術活用力と問題解決・提案力を育みます。</p> <p>情報(広告・通信・マスコミ)業界をはじめICT社会で幅広く活躍できる力を身につけることができます。</p>
	情報サイエンス専攻	<p>システムエンジニアはもちろんコンピュータを使うすべての業種・職種で活躍できる実践的な情報処理技術を身につけることができます。</p> <p>また、4年間にわたって体系的に学ぶデータサイエンス・AI教育により、データを分析する技能を磨き、銀行・保険・観光・エンターテインメントなどの業界でもデータに強い女性として活躍することを目指します。</p>
健康・スポーツ科学部	スポーツマネジメント学科	<p>多様なスポーツビジネス業界で活躍するために必要となる「マネジメント」「マーケティング」「実務」「生活・健康」「先端ビジネス」の5つの領域を学ぶことができます。</p> <p>スポーツイベントの企画・運営などを通して、スポーツマネジメント力、スポーツビジネス力、スポーツ指導・教育力を身につけることができます。</p>

※記載の内容は、構想中のものであり、変更される可能性があります。

附属高校・中学校対象 アンケート調査票

<対象:2021年度現在、附属高校1・2年生、附属中学校1・2・3年生の皆さん>

武庫川女子大学
「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」
「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」
(すべて仮称、設置構想中)に関するアンケート

武庫川女子大学では2023年4月に、「心理・社会福祉学部 心理学科／社会福祉学科」
「社会情報学部 社会情報学科」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて
仮称)を設置することを構想しています。

このアンケートは、本学附属中学・高等学校で学ぶみなさんの進路選択に対する考え方や、
大学で学びたいことなどの意見をお伺いし、武庫川女子大学の教育をより充実したものにす
るための参考資料とさせていただくものです。

このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用
し、個人を特定することは一切ありません。
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

このアンケートや同封した資料に記載されている事項は、すべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

附属高校・中学校対象 アンケート調査票

◆最初にあなた自身についてお聞きます。

学年 (1つに○)	1. 中学1年生 2. 中学2年生 3. 中学3年生 4. 高校1年生 5. 高校2年生
お住まいの 府県 (1つに○)	1. 兵庫県 2. 大阪府 3. 奈良県 4. 京都府 5. 滋賀県 6. 和歌山県 7. その他

◆高校卒業後の進路などについてお聞きます。

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。
以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)

- | | | |
|-------------|-----------------|--------|
| 1. 私立大学に進学 | 3. 短期大学に進学 | 5. 就職 |
| 2. 国公立大学に進学 | 4. 専門学校・専修学校に進学 | 6. その他 |

**武庫川女子大学では、2023年4月に、
新しく「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部
スポーツマネジメント学科」(すべて仮称)を設置することを構想しています。**

※右に記載の各学部・学科・専攻の特色とアンケートに同封している資料をご覧の上、
以下の質問にお答えください。

Q2. あなたは、新しい学部・学科・専攻を備えた武庫川女子大学に進学したいと思いますか。
あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

- | | |
|---------------|------------|
| 1. 進学したいと思います | 2. 進学したくない |
|---------------|------------|

Q3. あなたは、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」
(すべて仮称、設置構想中)のうち、どの学部・学科・専攻に入学したいと思いますか。
あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

1. 心理・社会福祉学部 「心理学科」に入学したい
2. 心理・社会福祉学部 「社会福祉学科」に入学したい
3. 社会情報学部 社会情報学科 「情報メディア専攻」に入学したい
4. 社会情報学部 社会情報学科 「情報サイエンス専攻」に入学したい
5. 健康・スポーツ科学部 「スポーツマネジメント学科」に入学したい
6. 入学したい学部・学科・専攻はこの中にはない

* * * 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。* * *

附属高校・中学校対象 アンケート調査票

「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」 「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称、設置構想中)の特色

心理・社会福祉学部	心理学科	カウンセリングなどを学ぶ「臨床系」、心理学研究のための「研究系」、企業・社会で役立つ「実用系」の科目が学べます。 実社会の課題に取り組むフィールドワークなど実践的な授業を通して課題を発見し、解決策を生み出す力を身につけることができます。また、公認心理師受験資格や社会調査士の資格取得も可能です。
	社会福祉学科	社会福祉士を目指す「ソーシャルワーク基礎コース」、精神保健福祉士を目指す「ソーシャルワーク・アドバンスコース」、地域貢献や国際協力の現場での活躍を目指す「ソーシャルビジネスコース」から学びを選択できます。 フィールドワークなどを通して、地域での孤立、子どもの貧困、多文化共生などの課題に挑む実践力を身につけることができます。
社会情報学部	情報メディア専攻	メディアとコミュニケーションをキーワードに、生活・経済における情報デザインについて学びます。 データ分析から広告企画、WEBページ制作まで、さまざまな実践プログラムを通して、情報技術活用力と問題解決・提案力を育みます。 情報(広告・通信・マスコミ)業界をはじめICT社会で幅広く活躍できる力を身につけることができます。
社会情報学部	情報サイエンス専攻	システムエンジニアはもちろんコンピュータを使うすべての業種・職種で活躍できる実践的な情報処理技術を身につけることができます。 また、4年間にわたって体系的に学ぶデータサイエンス・AI教育により、データを分析する技能を磨き、銀行・保険・観光・エンターテインメントなどの業界でもデータに強い女性として活躍することを目指します。
健康・スポーツ科学部	マネジメントスポーツ学科	多様なスポーツビジネス業界で活躍するために必要となる「マネジメント」「マーケティング」「実務」「生活・健康」「先端ビジネス」の5つの領域を学ぶことができます。 スポーツイベントの企画・運営などを通して、スポーツマネジメント力、スポーツビジネス力、スポーツ指導・教育力を身につけることができます。

※記載の内容は、構想中のものであり、変更される可能性があります。

武庫川女子大学
「心理・社会福祉学部」
「社会情報学部」
「健康・スポーツ科学部
スポーツマネジメント学科」(すべて仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【企業・団体対象調査】

令和3年10月
株式会社 進研アド

—学生確保—64—

企業対象 調査概要

1. 調査目的

2023年4月開設予定の武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」新設構想に関して、企業・団体のニーズを把握する。

2. 調査概要

		企業・団体対象調査
調査対象		企業・団体の採用担当者
調査エリア		北海道、青森県、宮城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
調査方法		郵送調査
調査対象数	依頼数	1,413企業
	回収数(回収率)	380企業・団体(26.9%)
調査時期		2021年6月21日(月)～2021年8月10日(火)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

企業・団体対象調査
<ul style="list-style-type: none">・ 人事採用への関与度・ 本社所在地・ 業種・ 従業員数・ 正規社員の平均採用人数・ 各学部・学科・専攻の社会的必要性・ 各学部・学科・専攻卒業生に対する採用意向・ 各学部・学科・専攻卒業生の毎年の採用想定人数

企業対象 調査結果まとめ



企業対象 調査結果まとめ

回答企業(回答者)の属性

※本調査は、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」に対する需要を確認するための調査として設計したため、武庫川女子大学卒業生への採用実績のある企業・団体(以降、企業と表記) 380企業の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施した。

- 本調査の回答企業は380企業(回収率26.9%)。
- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人が26.8%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人は63.9%であり、採用や選考にかかわっている人は合わせて90.7%である。
- 回答企業の本社所在地は、「大阪府」が36.6%と最も多い。次いで「東京都」が23.9%、武庫川女子大学の所在地である「兵庫県」が20.8%と続く。
- 回答企業の業種としては、「卸売・小売業」が22.6%で最も多く、次いで「情報通信業」が13.4%、「その他サービス業」が12.6%と続く。
- 回答企業の従業員数(正規社員)は、「100名～500名未満」が35.3%で最も多い。次いで「1,000名～5,000名未満」が22.4%、「500名～1,000名未満」が17.6%と続く。

回答企業の採用状況

- 回答企業の平均的な正規社員の採用人数は、「1名～5名未満」が17.9%で最も多く、次いで「10名～20名未満」が17.1%、「50名～100名未満」が16.6%と続く。採用人数の規模は様々であるが、毎年正規社員を採用している企業がほとんどである。

企業対象 調査結果まとめ

<心理・社会福祉学部 心理学科>

「心理・社会福祉学部 心理学科」の社会的必要性

- ・ 武庫川女子大学「心理・社会福祉学部 心理学科」の社会的必要性については、94.5% (359企業) が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学部・学科であると評価されていることがうかがえる。

「心理・社会福祉学部 心理学科」卒業生に対する採用意向／毎年の採用想定人数

- ・ 武庫川女子大学「心理・社会福祉学部 心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、73.9% (281企業) である。
- ・ 「採用したいと思う」と答えた281企業へ武庫川女子大学「心理・社会福祉学部 心理学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数は合計385名程度で、予定している入学定員150名を大きく上回っている。

想定される就職先からの採用意向

◇想定される就職先の業種別

- ・ 上記281企業のうち、「心理・社会福祉学部 心理学科」卒業生の想定される就職先と関連の深い業種について、採用意向を抽出すると、「福祉施設・福祉関連業」では83.9% (31企業中、26企業)、「医療機関・病院」では58.8% (17企業中、10企業)、「公務」では76.2% (21企業中、16企業) である。加えて、「金融・保険業・不動産」では84.6% (39企業中、33企業)、「卸売・小売業」では82.6% (86企業中、71企業) と、多様な業種からの採用意向がみられる。以上を合わせると、156企業が採用意向を示している。
- ・ 前述の156企業へ、「心理・社会福祉学部 心理学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、毎年の採用想定人数は合計217名程度である。このことから、「心理・社会福祉学部 心理学科」卒業生の想定される就職先の業種においても安定した人材需要があることがうかがえる。

※詳細はP13～P14参照。

企業対象 調査結果まとめ

<心理・社会福祉学部 社会福祉学科>

「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」の社会的必要性

- 武庫川女子大学「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」の社会的必要性については、96.3% (366企業) が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学部・学科であると評価されていることがうかがえる。

「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」卒業生に対する採用意向／ 毎年の採用想定人数

- 武庫川女子大学「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、69.7% (265企業) である。
- 「採用したいと思う」と答えた265企業へ武庫川女子大学「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数は合計393名程度で、予定している入学定員70名を大きく上回っている。

想定される就職先からの採用意向

◇想定される就職先の業種別

- 上記265企業のうち、「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」卒業生の想定される就職先と関連の深い業種について、採用意向を抽出すると、「福祉施設・福祉関連業」では96.8% (31企業中、30企業)、「医療機関・病院」では76.5% (17企業中、13企業)、「公務」では90.5% (21企業中、19企業) である。以上を合わせると、62企業が採用意向を示している。
- 前述の62企業へ、「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、毎年の採用想定人数は合計131名程度である。このことから、「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」卒業生の想定される就職先の業種においても安定した人材需要があることがうかがえる。
※詳細はP15～P16参照。

企業対象 調査結果まとめ

＜社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻＞

「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」の社会的必要性

- ・武庫川女子大学「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」の社会的必要性については、97.6% (371企業)が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学部・学科・専攻であると評価されていることがうかがえる。

「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」卒業生に対する採用意向／毎年の採用想定人数

- ・武庫川女子大学「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、81.8% (311企業)である。
- ・「採用したいと思う」と答えた311企業へ武庫川女子大学「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数は合計421名程度で、予定している入学定員140名を大きく上回っている。

想定される就職先からの採用意向

◇想定される就職先の業種別

- ・上記311企業のうち、「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」卒業生の想定される就職先と関連の深い業種について、採用意向を抽出すると、「情報通信業」では96.1% (51企業中、49企業)、「製造業」では80.6% (31企業中、25企業)、「金融・保険業・不動産」では82.1% (39企業中、32企業)、「卸売・小売業」では90.7% (86企業中、78企業)である。以上を合わせると、184企業が採用意向を示している。
- ・前述の184企業へ、「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、毎年の採用想定人数は合計235名程度である。このことから、「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」卒業生の想定される就職先の業種においても安定した人材需要があることがうかがえる。

※詳細はP17～P18参照。

企業対象 調査結果まとめ

＜社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻＞

「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」の社会的必要性

- 武庫川女子大学「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」の社会的必要性については、96.3% (366企業)が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学部・学科・専攻であると評価されていることがうかがえる。

「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」卒業生に対する採用意向／毎年の採用想定人数

- 武庫川女子大学「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、82.6% (314企業)である。
- 「採用したいと思う」と答えた314企業へ武庫川女子大学「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数は合計427名程度で、予定している入学定員40名を大きく上回っている。

想定される就職先からの採用意向

◇想定される就職先の業種別

- 上記314企業のうち、「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」卒業生の想定される就職先と関連の深い業種について、採用意向を抽出すると、「情報通信業」では100.0% (51企業中、51企業)、「製造業」では90.3% (31企業中、28企業)、「金融・保険業・不動産」では84.6% (39企業中、33企業)である。以上を合わせると、112企業が採用意向を示している。
- 前述の112企業へ、「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、毎年の採用想定人数は合計151名程度である。このことから、「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」卒業生の想定される就職先の業種においても安定した人材需要があることがうかがえる。

※詳細はP19～P20参照。 -学生確保-71-

企業対象 調査結果まとめ

＜健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科＞

「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の社会的必要性

- ・武庫川女子大学「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の社会的必要性については、88.7% (337企業) が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学部・学科であると評価されていることがうかがえる。

「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」卒業生に対する採用意向／毎年の採用想定人数

- ・武庫川女子大学「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、65.8% (250企業) である。
- ・「採用したいと思う」と答えた250企業へ武庫川女子大学「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数は合計354名程度で、予定している入学定員100名を大きく上回っている。

想定される就職先からの採用意向

◇想定される就職先の業種別

- ・上記250企業のうち、「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」卒業生の想定される就職先と関連の深い業種について、採用意向を抽出すると、「福祉施設・福祉関連業」では64.5% (31企業中、20企業)、「製造業」では77.4% (31企業中、24企業)、「スポーツ・フィットネス・ヘルス関連業」では92.9% (14企業中、13企業) である。以上を合わせると、57企業が採用意向を示している。
- ・前述の57企業へ、「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、毎年の採用想定人数は合計106名程度である。このことから、「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」卒業生の想定される就職先の業種においても安定した人材需要があることがうかがえる。

※詳細はP21～P22参照。

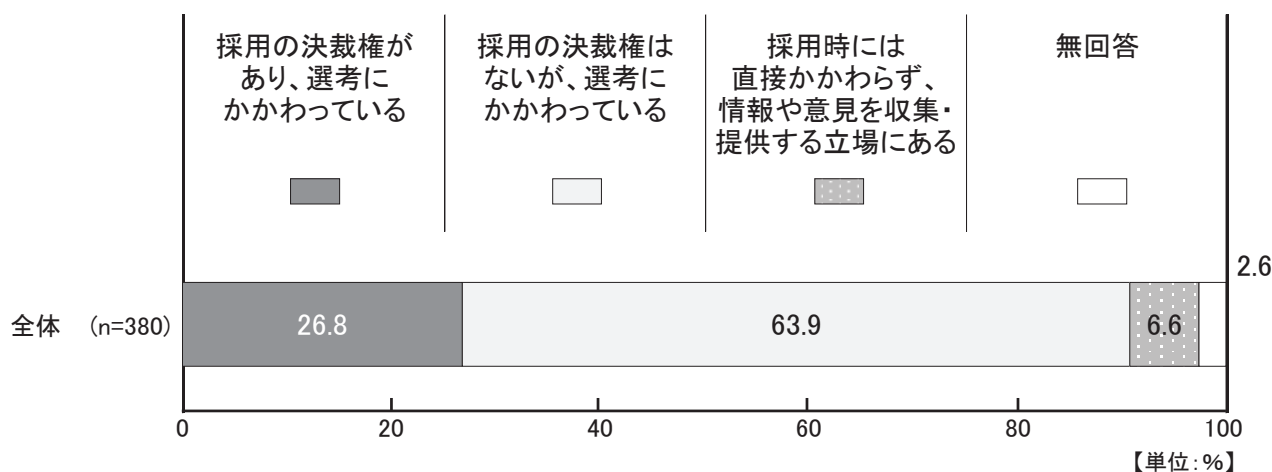
企業対象 調査結果



回答企業(回答者)の属性(人事採用への関与度/本社所在地)

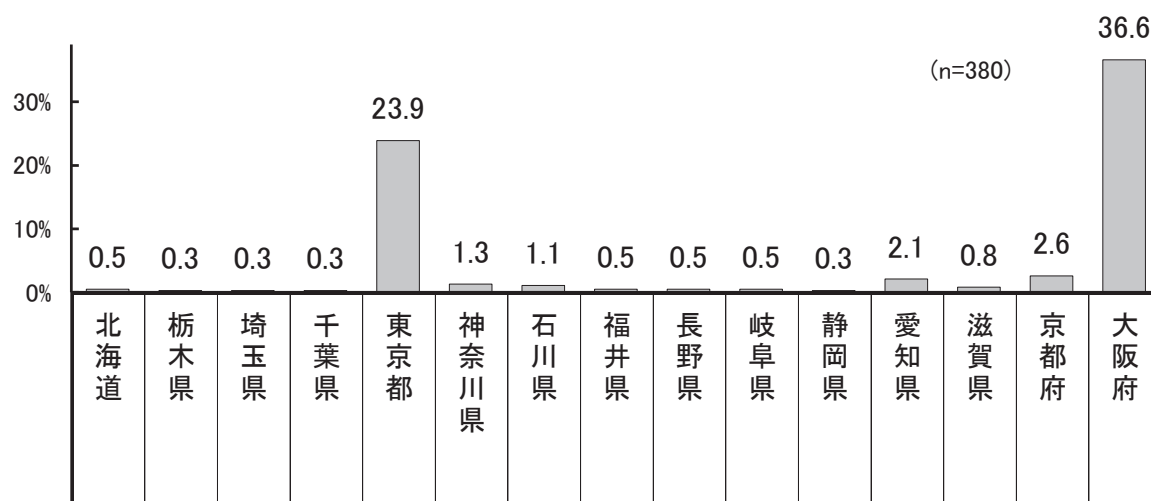
■人事採用への関与度

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)



■本社所在地

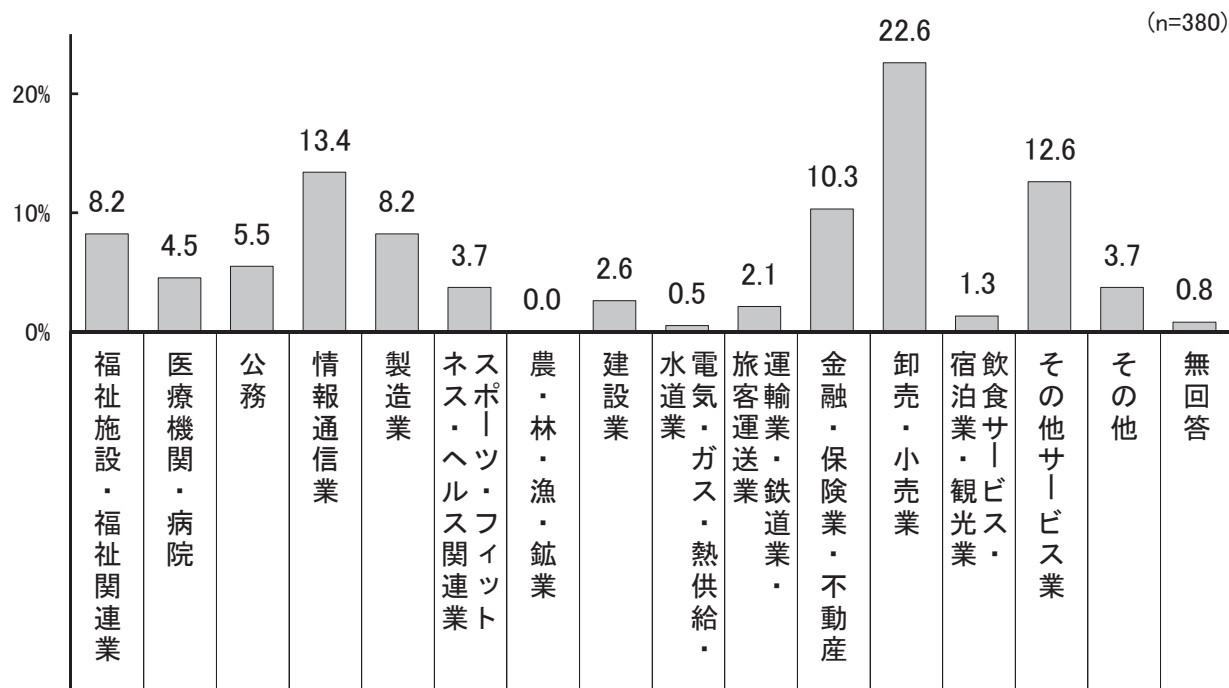
Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。



回答企業(回答者)の属性(業種/従業員数)

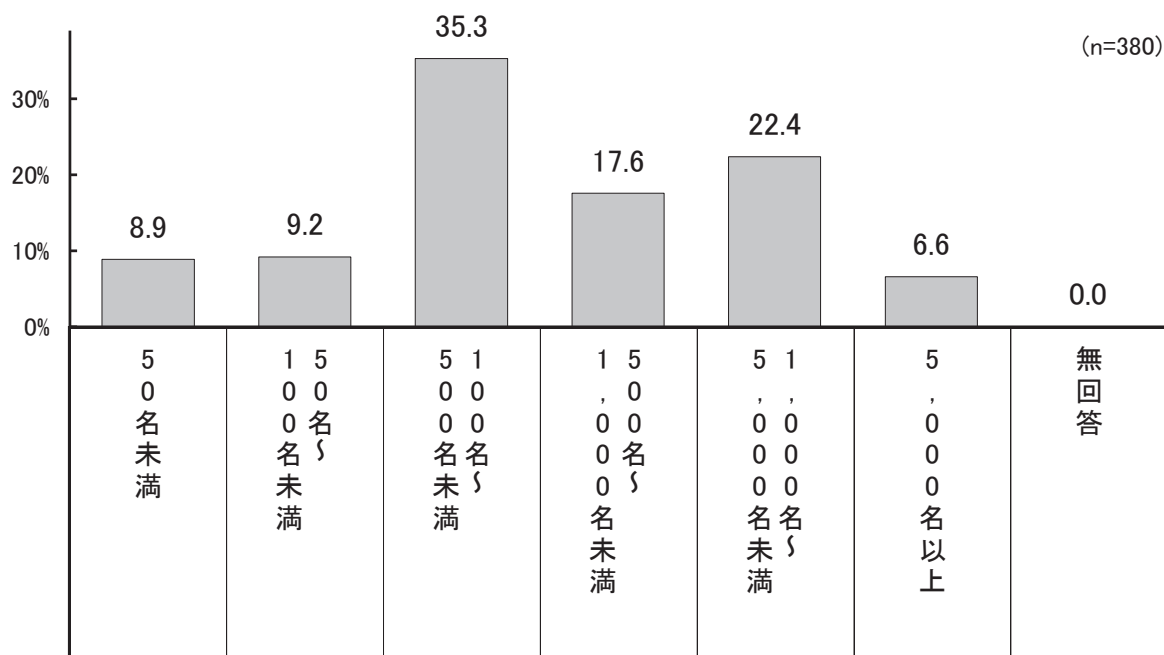
■業種

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)



■従業員数

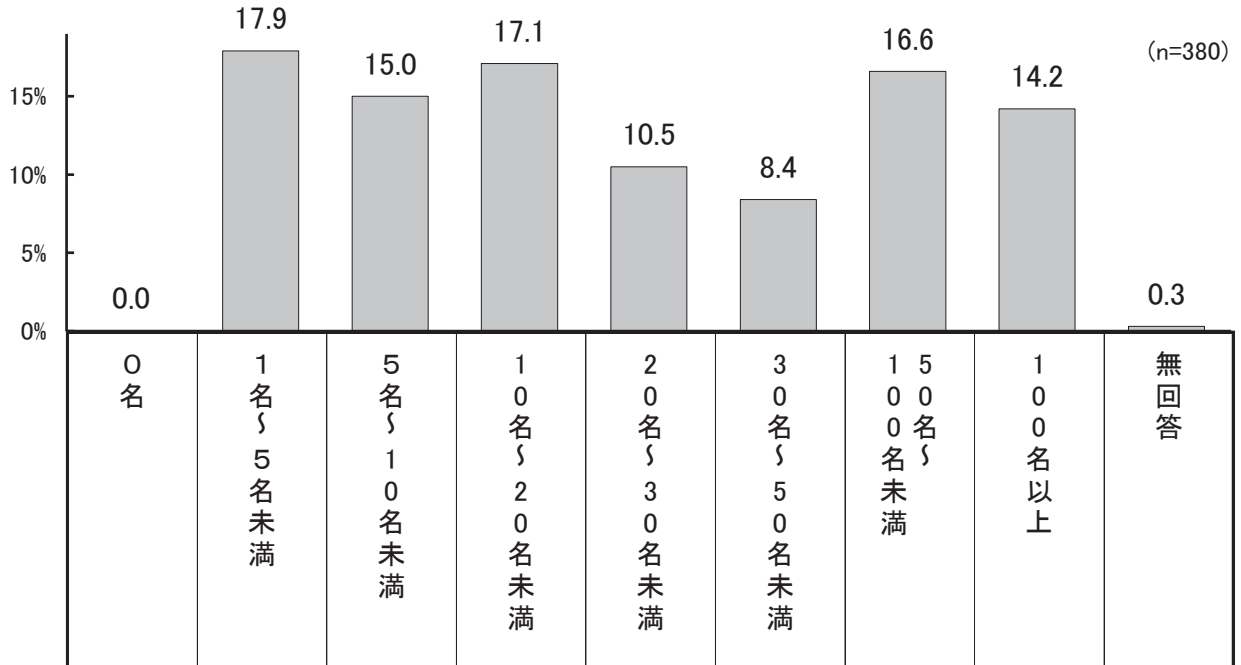
Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)



正規社員の平均採用人数

■正規社員の平均採用人数

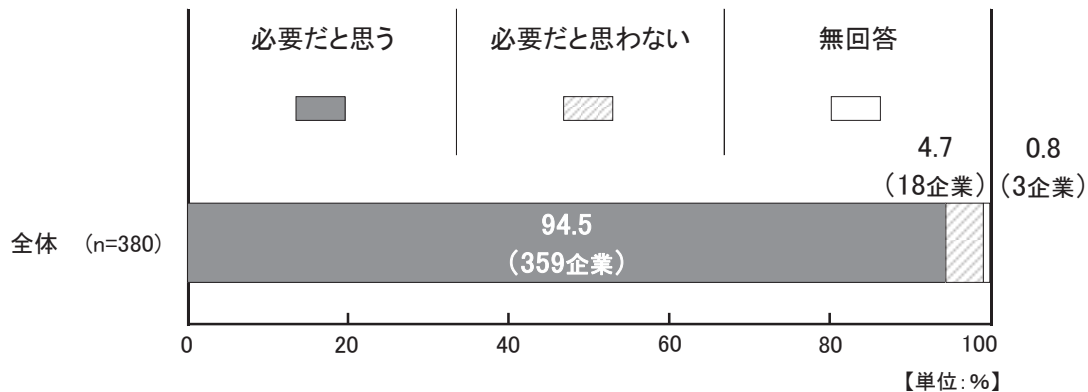
Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。(あてはまる番号1つに○)



「心理・社会福祉学部 心理学科」の社会的必要性／ 卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

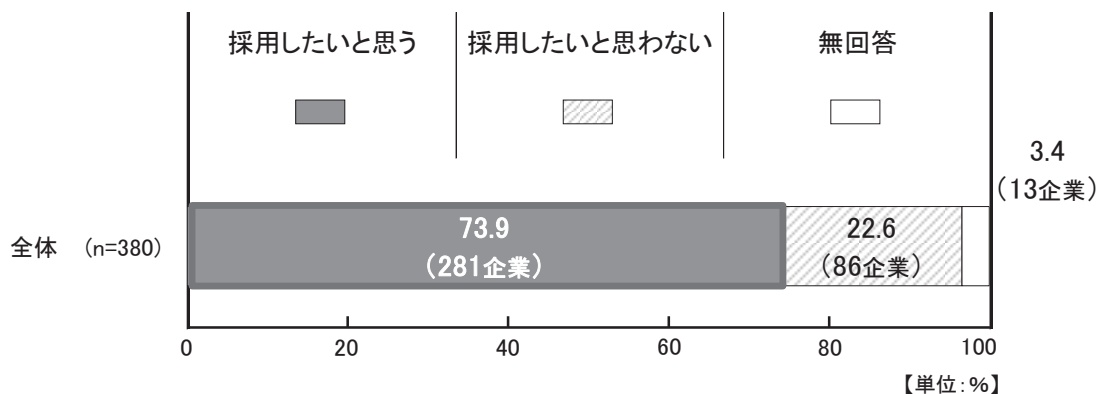
■「心理・社会福祉学部 心理学科」の社会的必要性

Q6. 貴社・貴団体(ご回答者)は、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



■「心理・社会福祉学部 心理学科」卒業生に対する採用意向

Q7. 貴社・貴団体(ご回答者)では、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



「採用したいと思う」と答えた281企業のみ抽出

■「心理・社会福祉学部 心理学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q8. Q.7でいずれかの学部・学科・専攻の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。武庫川女子大学の「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生について採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。現時点でのあなたご自身のお考えに一番近いものをご回答ください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	計 (※ びた の 採 用 企 業 採 用 想 定 人 数 ・ 計 人 数 を)	
		%	企業数	名	企業数	名	企業数		名
全体	281	70.5%	12.5%	4.6%	0.7%	2.1%	1.4%	⇒ 258 385	
			198	35	13	2	6		4
			198	70	39	8	30		40

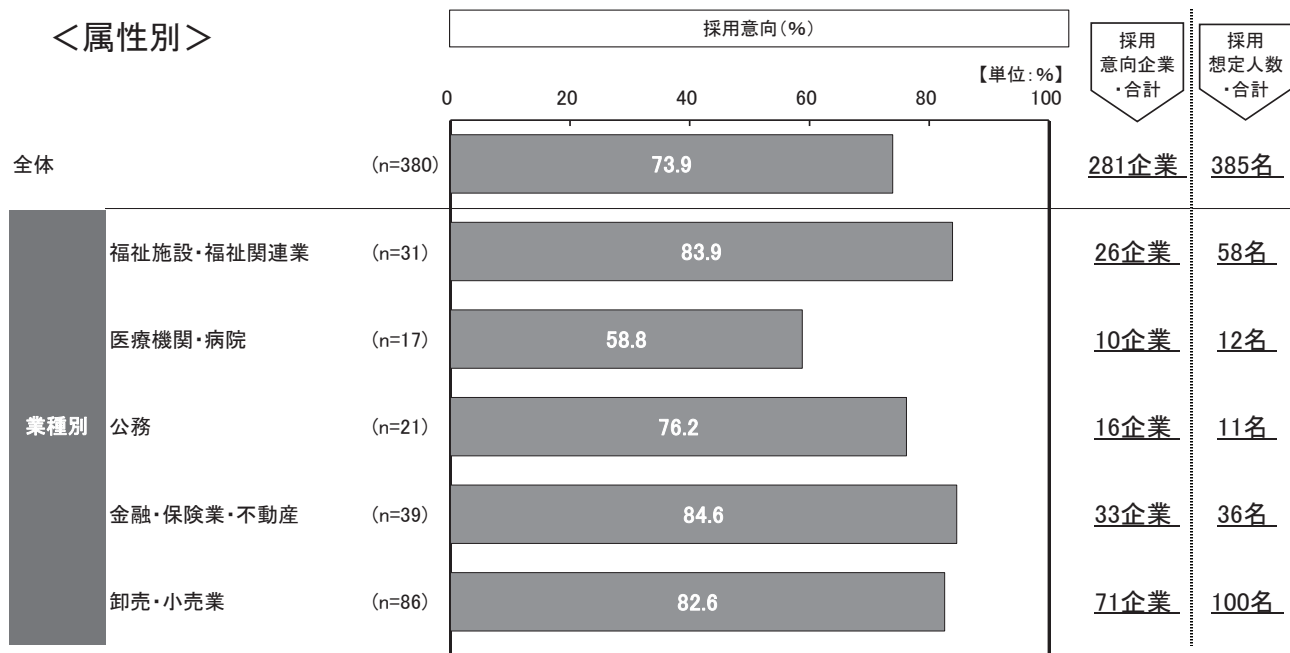
—学生確保—77—

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

「心理・社会福祉学部 心理学科」卒業生に対する 採用意向／採用想定人数<属性別>

■「心理・社会福祉学部 心理学科」卒業生に対する採用意向／ 採用想定人数<属性別>

※「心理・社会福祉学部 心理学科」に対して、Q7で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q8で具体的な人数を回答した企業の採用想定人数の合計を【採用想定人数】と定義する。

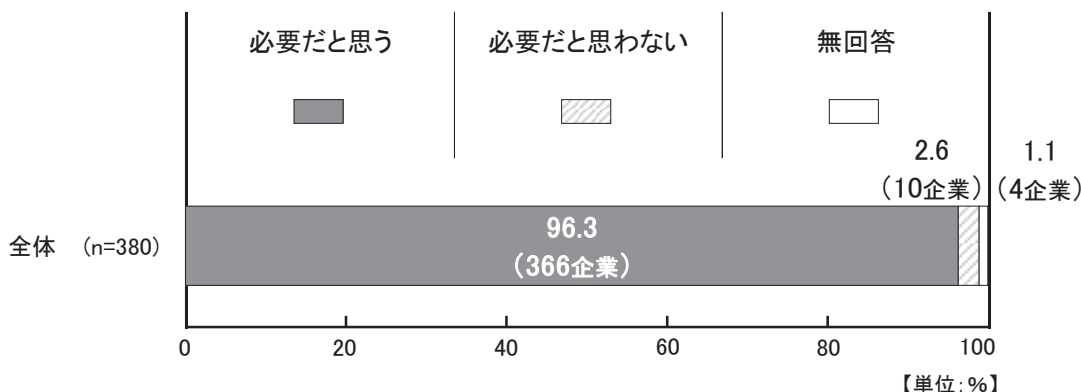


※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」の社会的必要性／卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

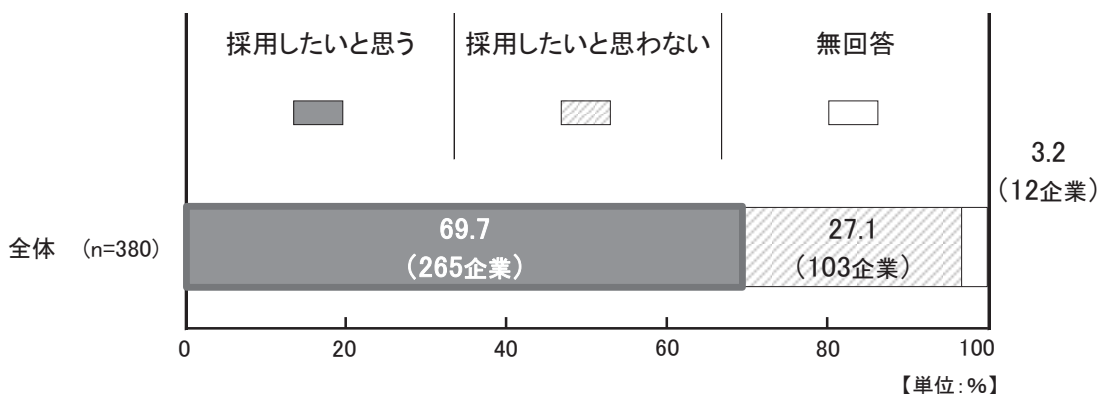
■「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」の社会的必要性

Q6. 貴社・貴団体(ご回答者)は、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



■「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」卒業生に対する採用意向

Q7. 貴社・貴団体(ご回答者)では、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



「採用したいと思う」と答えた265企業のみ抽出

■「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q8. Q.7でいずれかの学部・学科・専攻の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。武庫川女子大学の「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生について採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。現時点でのあなたご自身のお考えに一番近いものをご回答ください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	計 (※ びた の 採 用 企 業 数 ・ 計 人 数 を 示 す)
		全体	265	% 70.2%	10.6%	5.3%	0.4%	
		企業数	186	28	14	1	7	
		名	186	56	42	4	35	

—学生確保—79—

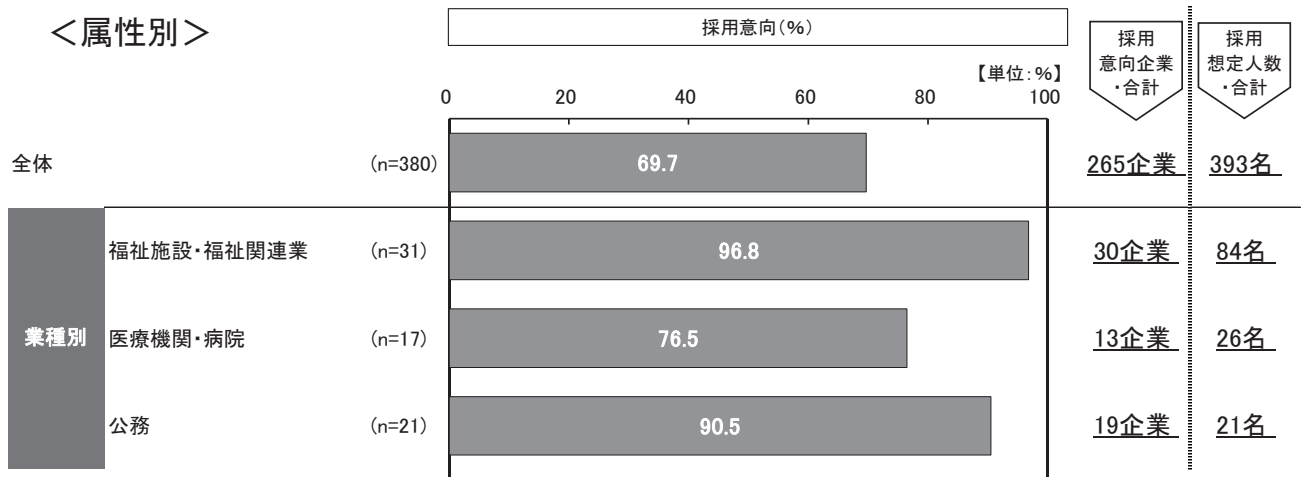
※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」卒業生に対する 採用意向／採用想定人数＜属性別＞

■「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」卒業生に対する採用意向／ 採用想定人数＜属性別＞

※「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」に対して、Q7で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q8で具体的な人数を回答した企業の採用想定人数の合計を【採用想定人数】と定義する。

＜属性別＞

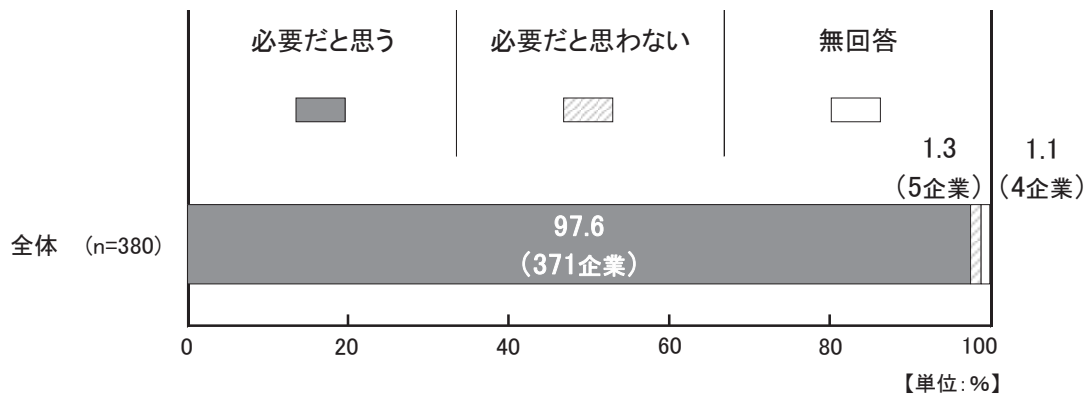


※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」の社会的必要性／卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

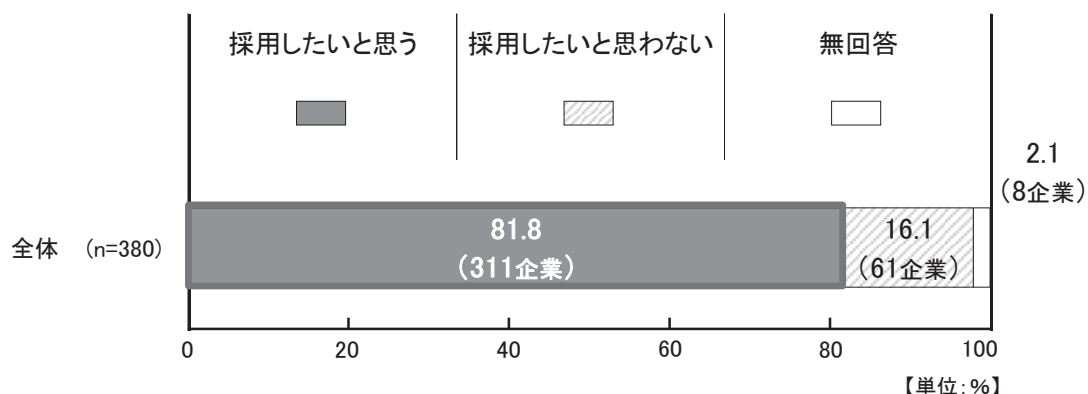
■「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」の社会的必要性

Q6. 貴社・貴団体(ご回答者)は、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



■「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」卒業生に対する採用意向

Q7. 貴社・貴団体(ご回答者)では、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



「採用したいと思う」と答えた311企業のみ抽出

■「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」卒業生の毎年の採用想定人数

Q8. Q.7でいずれかの学部・学科・専攻の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。武庫川女子大学の「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生について採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。現時点でのあなたご自身のお考えに一番近いものをご回答ください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	計 (※ びたの 採用 想定 人数 ・ 計 人数 を 示 す 毎 年 の 採用 想定 人数 を 計 算 す)	
		%	企業数	名	企業数	名	企業数		名
全体	311	%	69.8%	14.5%	5.8%	0.0%	2.6%	0.6%	
		企業数	217	45	18	0	8	2	⇒ 290
		名	217	90	54	0	40	20	

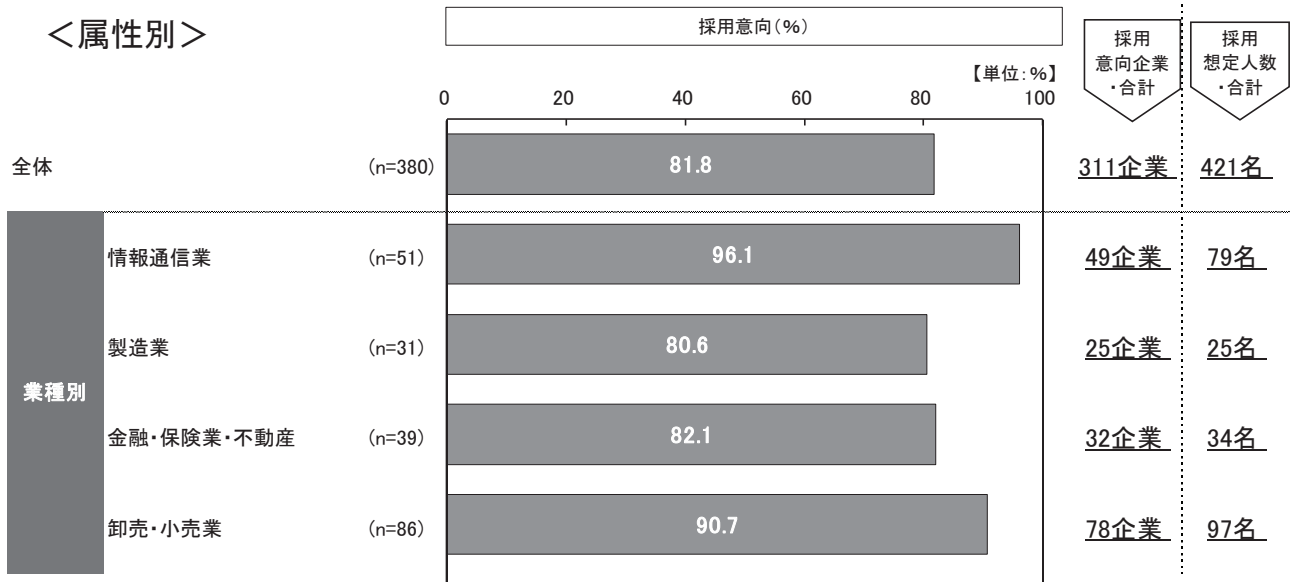
—学生確保—81—

※ 毎年の採用想定人数・計「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

■「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

※「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」に対して、Q7で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q8で具体的な人数を回答した企業の採用想定人数の合計を【採用想定人数】と定義する。

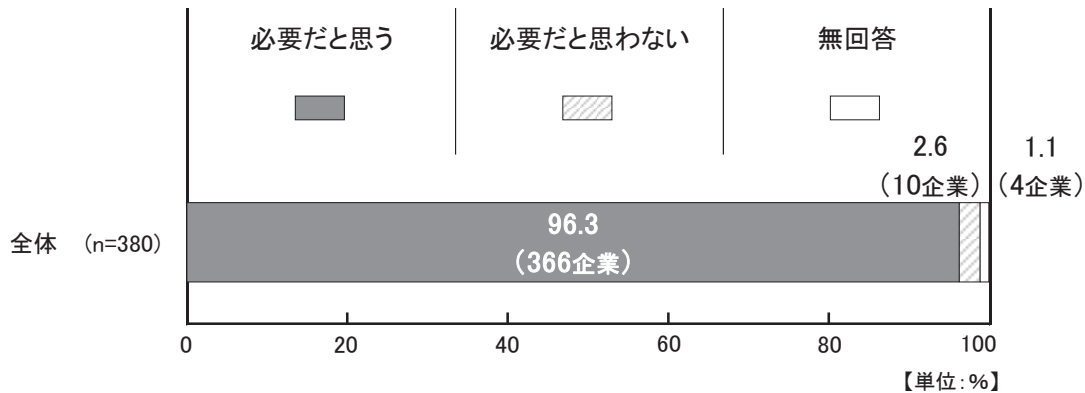


※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」の社会的必要性／卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

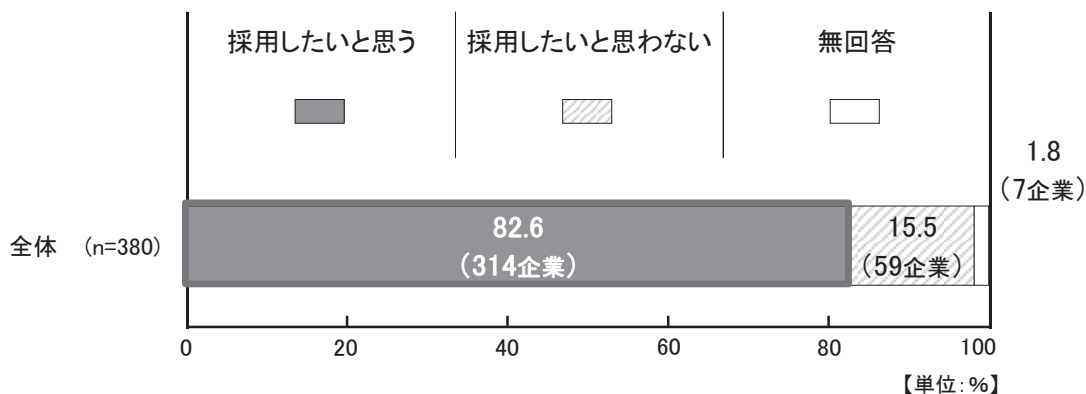
■「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」の社会的必要性

Q6. 貴社・貴団体(ご回答者)は、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



■「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」卒業生に対する採用意向

Q7. 貴社・貴団体(ご回答者)では、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



「採用したいと思う」と答えた314企業のみ抽出

■「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」卒業生の毎年の採用想定人数

Q8. Q.7でいずれかの学部・学科・専攻の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。武庫川女子大学の「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生について採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。現時点でのあなたご自身のお考えに一番近いものをご回答ください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	計	
		%	企業数	名	%	企業数	名		
全体	314	69.1%	14.6%	5.7%	0.3%	2.5%	0.6%	⇒ 292 427	
			217	46	18	1	8		2
			217	92	54	4	40		20

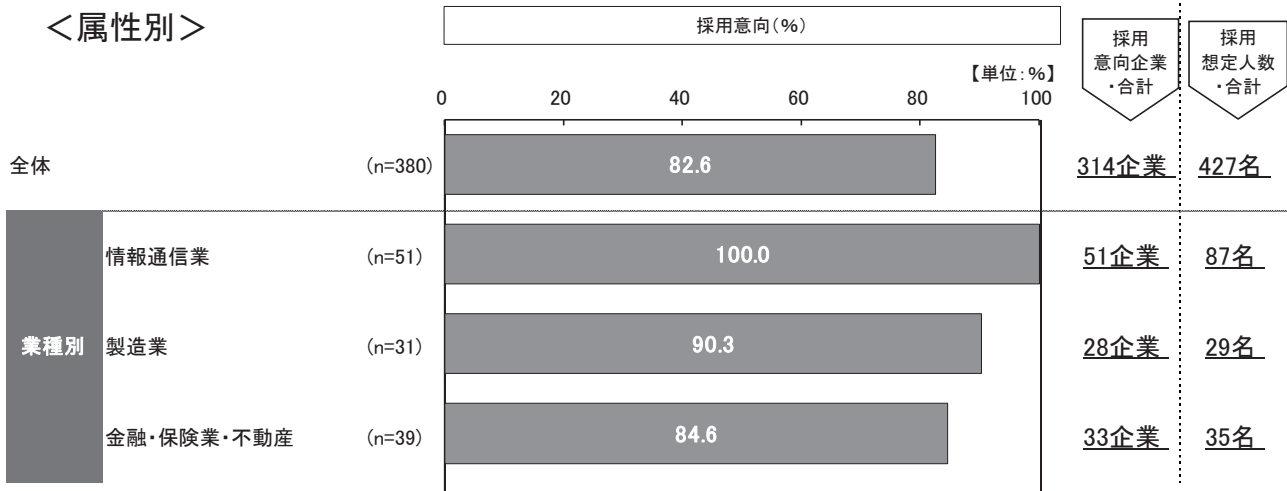
—学生確保—83—

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

■「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

※「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」に対して、Q7で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q8で具体的な人数を回答した企業の採用想定人数の合計を【採用想定人数】と定義する。

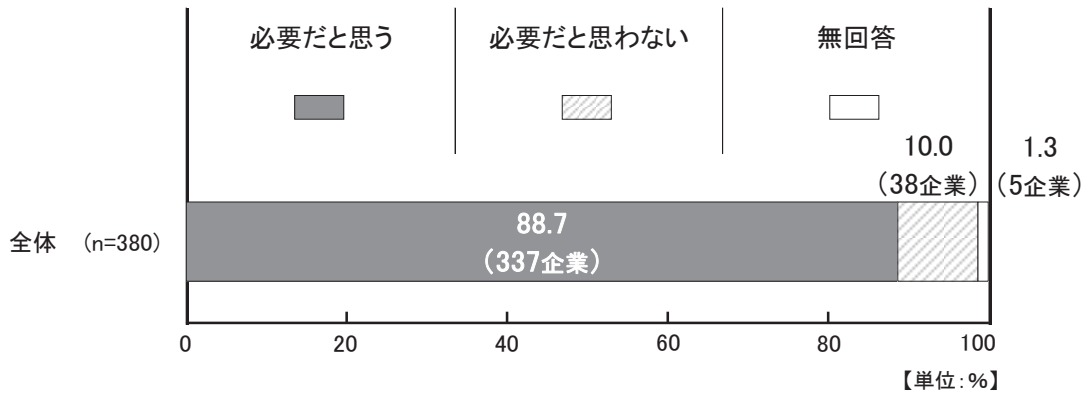


※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の社会的必要性／卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

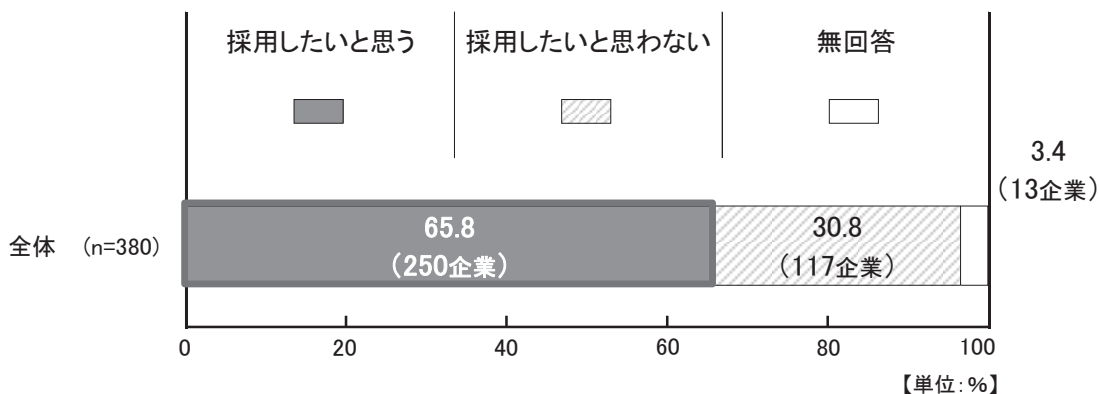
■「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の社会的必要性

Q6. 貴社・貴団体(ご回答者)は、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



■「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」卒業生に対する採用意向

Q7. 貴社・貴団体(ご回答者)では、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



「採用したいと思う」と答えた250企業のみ抽出

■「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q8. Q.7でいずれかの学部・学科・専攻の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。武庫川女子大学の「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生について採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。現時点でのあなたご自身のお考えに一番近いものをご回答ください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	計 お示 (※ びた の採 用企 業採 用 想 定 人 数 計 人 数 を)	
		%	企業数	名	名	名	名		
全体		70.4%	10.8%	6.8%	0.8%	2.8%	1.2%	⇒	
	250		176	27	17	2	7		3
			176	54	51	8	35		30

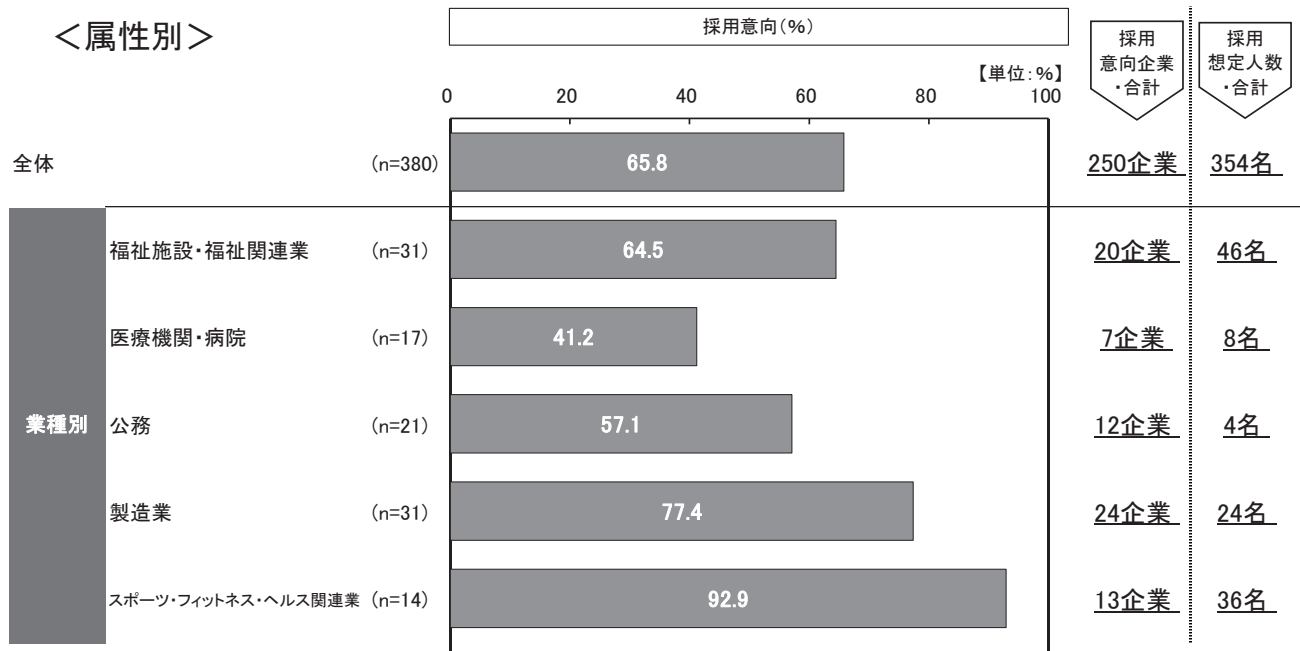
—学生確保—85—

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

■「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

※「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」に対して、Q7で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q8で具体的な人数を回答した企業の採用想定人数の合計を【採用想定人数】と定義する。



※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

卷末資料 調査票



<対象:人事・採用ご担当者様>

武庫川女子大学 「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」 「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」 (すべて仮称、設置構想中)に関するアンケート

武庫川女子大学では2023年4月に、「心理・社会福祉学部 心理学科/社会福祉学科」「社会情報学部 社会情報学科」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称)を設置することを構想しています。
このアンケートは採用ご担当者の皆様からご意見をお伺いし、より充実した大学や学部・学科にするための参考資料とさせていただきます。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※ このアンケートや同封した資料に記載されている事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

はじめに、貴社・貴団体についてお伺いいたします。

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

1. 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
2. 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
3. 採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集・提供する立場にある

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

本社(本部)所在地

都・道・府・県 ←1つに○

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|---------------|-----------------------|--------------------|
| 1. 福祉施設・福祉関連業 | 6. スポーツ・フィットネス・ヘルス関連業 | 11. 金融・保険業・不動産 |
| 2. 医療機関・病院 | 7. 農・林・漁・鉱業 | 12. 卸売・小売業 |
| 3. 公務 | 8. 建設業 | 13. 飲食サービス・宿泊業・観光業 |
| 4. 情報通信業 | 9. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 14. その他サービス業 |
| 5. 製造業 | 10. 運輸業・鉄道業・旅客運送業 | 15. その他 |

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|---------------|------------------|--------------------|
| 1. 50名未満 | 3. 100名～500名未満 | 5. 1,000名～5,000名未満 |
| 2. 50名～100名未満 | 4. 500名～1,000名未満 | 6. 5,000名以上 |

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|-------------|--------------|---------------|
| 1. 0名 | 4. 10名～20名未満 | 7. 50名～100名未満 |
| 2. 1名～5名未満 | 5. 20名～30名未満 | 8. 100名以上 |
| 3. 5名～10名未満 | 6. 30名～50名未満 | |

次ページへ続く→

調査票

武庫川女子大学では、2023年4月に、
「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部
スポーツマネジメント学科」(すべて仮称)を設置することを構想しています。

※ ここからは、右に記載の各学部・学科・専攻の特色と
アンケートに同封している資料をご覧いただいた上でお答えください ※

Q6. 貴社・貴団体(ご回答者)は、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」
「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)は、
これからの社会にとって必要だと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

			1.必要だと思う	2.必要だと思わない
心理・社会福祉学部	心理学科	→	1	2
	社会福祉学科	→	1	2
社会情報学部	社会情報学科 情報メディア専攻	→	1	2
	社会情報学科 情報サイエンス専攻	→	1	2
健康・スポーツ科学部	スポーツマネジメント学科	→	1	2

Q7. 貴社・貴団体(ご回答者)では、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」
「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)を
卒業した学生について、採用したいと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

			1.採用したいと思う	2.採用したいと思わない
心理・社会福祉学部	心理学科	→	1	2
	社会福祉学科	→	1	2
社会情報学部	社会情報学科 情報メディア専攻	→	1	2
	社会情報学科 情報サイエンス専攻	→	1	2
健康・スポーツ科学部	スポーツマネジメント学科	→	1	2

Q8. Q.7でいずれかの学部・学科・専攻の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
武庫川女子大学の「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の
各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生について採用を考える場合、毎年何名程度の採用を
想定されますか。現時点でのあなたご自身のお考えに一番近いものをご回答ください。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

			1名	2名	3名	4名	5名 ～9名	10名 以上
心理・社会福祉学部	心理学科	→	1	2	3	4	5	6
	社会福祉学科	→	1	2	3	4	5	6
社会情報学部	社会情報学科 情報メディア専攻	→	1	2	3	4	5	6
	社会情報学科 情報サイエンス専攻	→	1	2	3	4	5	6
健康・スポーツ科学部	スポーツマネジメント学科	→	1	2	3	4	5	6

～質問は以上です。ご協力ありがとうございました。～

調査票

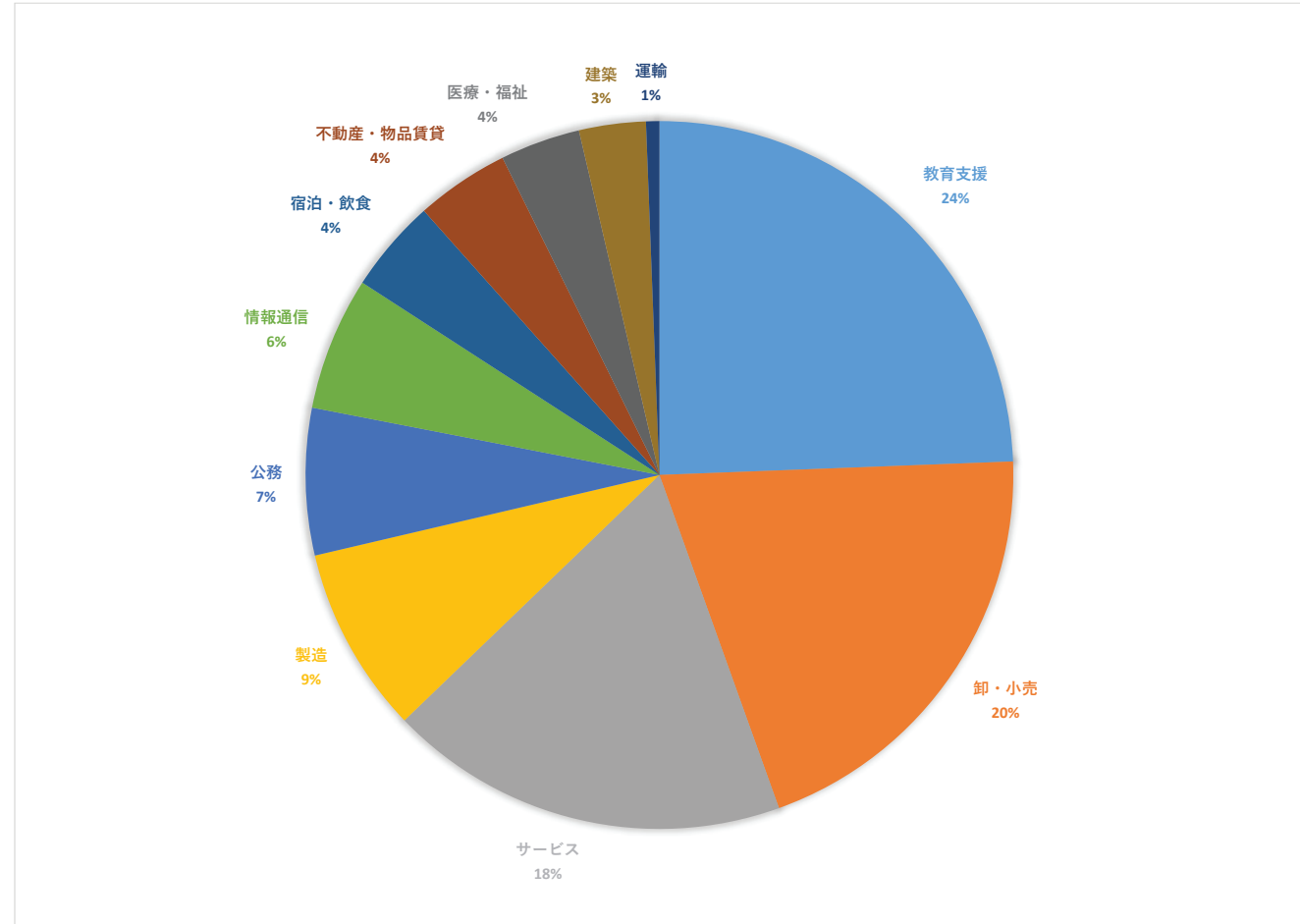
「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」
「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称、設置構想中)の特色

		学科・専攻の特色
心理・社会福祉学部	心理学科	<p>カウンセリングなどを学ぶ「臨床系」、心理学研究のための「研究系」、企業・社会で役立つ「実用系」の科目が学べます。</p> <p>実社会の課題に取り組むフィールドワークなど実践的な授業を通して課題を発見し、解決策を生み出す力を身につけることができます。また、公認心理師受験資格や社会調査士の資格取得も可能です。</p>
	社会福祉学科	<p>社会福祉士を目指す「ソーシャルワーク基礎コース」、精神保健福祉士を目指す「ソーシャルワーク・アドバンスコース」、地域貢献や国際協力の現場での活躍を目指す「ソーシャルビジネスコース」から学びを選択できます。</p> <p>フィールドワークなどを通して、地域での孤立、子どもの貧困、多文化共生などの課題に挑む実践力を身につけることができます。</p>
社会情報学部	情報メディア専攻	<p>メディアとコミュニケーションをキーワードに、生活・経済における情報デザインについて学びます。</p> <p>データ分析から広告企画、WEBページ制作まで、さまざまな実践プログラムを通して、情報技術活用力と問題解決・提案力を育みます。</p> <p>情報(広告・通信・マスコミ)業界をはじめICT社会で幅広く活躍できる力を身につけることができます。</p>
	情報サイエンス専攻	<p>システムエンジニアはもちろんコンピュータを使うすべての業種・職種で活躍できる実践的な情報処理技術を身につけることができます。</p> <p>また、4年間にわたって体系的に学ぶデータサイエンス・AI教育により、データを分析する技能を磨き、銀行・保険・観光・エンターテインメントなどの業界でもデータに強い女性として活躍することを目指します。</p>
健康・スポーツ科学部	スポーツマネジメント学科	<p>多様なスポーツビジネス業界で活躍するために必要となる「マネジメント」「マーケティング」「実務」「生活・健康」「先端ビジネス」の5つの領域を学ぶことができます。</p> <p>スポーツイベントの企画・運営などを通して、スポーツマネジメント力、スポーツビジネス力、スポーツ指導・教育力を身につけることができます。</p>

※記載の内容は、構想中のものであり、変更される可能性があります。

健康・スポーツ学部健康・スポーツ科学科の進路状況（令和2年度卒業生）

卒業生数		181
就職希望者数		163
就職者数		163
就職率（％）		100
就職 進路 以外 の	進学者	4
	専修学校等進学者	1
	留学・渡航	1
	その他	12
就職者 の業 種別 内訳	教育支援	40
	卸・小売	33
	サービス	30
	製造	14
	公務	11
	情報通信	10
	宿泊・飲食	7
	不動産・物品賃貸	7
	医療・福祉	6
	建築	5
	運輸	1
	金融・保険	0
	電気・ガス・熱供給・水道	0



教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
一	学 長	セガチ カズヨシ 瀬口 和義 <平成31年4月>		理学博士		武庫川女子大学学長 (平31.4~令5.3)

教 員 の 氏 名 等												
(健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科)												
調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
1	専	教授 (学部長)	ヤナギサワ カズオ 柳沢 和雄 <令和5年4月>		教育学修士 ※		スポーツと現代社会 スポーツビジネス最前線 地域スポーツマネジメント論 スポーツマネジメント論 販売管理論 実務技能対策論 スポーツマネジメント学内演習 スポーツマネジメント学外実習 スポーツ経営管理学 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 海外のスポーツビジネス研究	1前・後 1後 2前 1後 3前 2後 2後 3後 2前 3通 4通 1前	4 2 2 2 2 2 2 0.2 2 2 4 0.5	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 教授 (令3.4)	5日
2	専	教授	ナカムラ テツシ 中村 哲士 <令和6年9月>		体育学修士		レクリエーション論 レクリエーション指導法演習 レクリエーション指導法実習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2後 3前 3後 3通 4通	2 1 1 2 4	1 1 1 1 1	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 教授 (昭60.4)	5日
3	専	教授	マツノ ミホミ 松尾 善美 <令和5年4月>		博士 (保健学)		初期演習Ⅰ 初期演習Ⅱ (スポーツマネジメント) ヘルスケアマネジメント論 運動処方 キャンプ実習 健康・スポーツ科学の統計学演習※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1前 1後 4前 2後 2前 3後 3通 4通	1 1 2 2 1 0.5 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 教授 (平23.4)	5日
4	専	教授	ヒサシ ケンジ 久富 健治 <令和5年4月>		博士 (経営学)		スポーツビジネス論 アカウンティングⅠ アカウンティングⅡ ファイナンシャルマネジメント スポーツイノベーション論 スポーツマネジメント学内演習 スポーツマネジメント学外実習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 海外のスポーツビジネス研究	1前 1前 1後 2前 4後 2後 3後 3通 4通 1前	2 2 2 2 2 2 0.2 2 4 0.3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 教授 (平31.4)	5日
5	専	教授	コウ イサヒロ 工藤 康宏 <令和5年4月>		博士 (スポーツ 健康科学)		スポーツイベントの企画・運営 スポーツ施設マネジメント論 スポーツ・ヘルスツーリズム論 スポーツマネジメント学内演習 スポーツマネジメント学外実習 専門英語A 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 海外のスポーツビジネス研究	2後 3前 3後 2後 3後 3前 3通 4通 1前	2 2 2 0.2 2 2 2 4 0.3	1 1 1 1 1 2 1 1 1	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 教授 (令和4.4)	5日
6	専	教授	ワタナベ マサシ 渡邊 昌史 <令和5年4月>		博士 (人間科 学)		遊びの人類学 スポーツの文化・歴史 体育原理 スポーツ社会学 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後 1前 1後 2後 3通 4通	2 2 2 2 2 4	1 1 1 1 1 1	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 教授 (平26.4)	5日
7	専	准教授	アキハラ カズノリ 稚原 寿識 <令和5年4月>		博士 (経営学)		経営組織論 スポーツマーケティング論 消費者行動論 マーチャライジング スポーツマネジメント学内演習 スポーツマネジメント学外実習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 海外のスポーツビジネス研究	2後 2前 3前 3後 2後 3後 3通 4通 1前	2 2 2 2 2 0.2 2 4 0.3	1 1 1 1 1 1 1 1 1	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 准教授 (平28.9)	5日
8	専	准教授	コウイ かな 五藤 佳奈 <令和5年4月>		博士 (体育学)		スポーツ指導論 体操 保健体育科指導法(体づくり運動・器械運動)※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2後 1前 2後 3通 4通	2 2 0.5 2 4	1 2 1 1 1	武庫川女子大学 短期大学部 健康・スポーツ学科 准教授 (平24.4)	5日
9	専	講師	ウノ ヒロム 宇野 博武 <令和5年4月>		修士 (体育学)		初期演習Ⅰ 初期演習Ⅱ (スポーツマネジメント) スポーツ産業と政策 スポーツガバナンス論 トップスポーツ経営論 ヒューマンリソースマネジメント スポーツマネジメント学内演習 スポーツマネジメント学外実習 専門英語B 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 海外のスポーツビジネス研究	1前 1後 1前 2前 3後 4前 2後 3後 3後 3通 4通 1前	1 1 2 2 2 2 2 0.2 2 4 0.3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 講師 (令4.4)	5日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
10	専	講師	トナガ 豊水 潤子 <令和5年4月>		修士(体育学)		スポーツ実技(ジャズダンス) ダンスⅠ 保健体育科指導法(武道・ダンス)※ スポーツマネジメント学内演習 スポーツマネジメント学外実習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 海外のスポーツビジネス研究	1前・後 1前 3後 2後 3後 3通 4通 1前	2 2 0.5 2 0.2 2 4 0.3	2 2 1 1 1 1 1	武庫川女子大学 短期大学部 健康・スポーツ学科 講師 (令3.4)	5日
11	兼任	教授	イトウ 伊東 太郎 <令和5年9月>		博士(学術)		バイオメカニクス トラックアンドフィールド 保健体育科指導法(陸上競技・水泳)※	2前 1後 2後	2 2 0.5	1 2 2	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 教授 (平23.4)	
12	兼任	教授	サカイ 坂井 和明 <令和5年9月>		博士(体育科学)		コーチング論 バスケットボール	3前 1後	2 2	1 2	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 教授 (平15.4)	
13	兼任	教授	タジマ 田嶋 恭江 <令和5年4月>		修士(臨床教育学)		健康・スポーツカウンセリング スイミング 保健体育科指導法(陸上競技・水泳)※	3前 1前 2後	2 2 0.5	1 2 2	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 教授 (昭57.4)	
14	兼任	教授	タナカ 田中 新治郎 <令和5年9月>		教育学修士		保健体育科指導法Ⅰ 保健体育科指導法Ⅳ	1後 3前	2 2	1 1	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 教授 (平22.4)	
15	兼任	教授	トリツカ 鳥塚 ユキシ <令和6年4月>		博士(医学)		スポーツ医学※	2前	1.1	1	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 教授 (令2.7)	
16	兼任	教授	ナガカ 長岡 マサミ <令和6年4月>		博士(臨床教育学)		発育発達・老化論 ハンドボール	3前 2前	2 2	1 2	武庫川女子大学 短期大学部 健康・スポーツ学科 教授 (平9.4)	
17	兼任	教授	ナカニシ 中西 タクミ <令和6年4月>		教育学修士※		保健体育科指導法Ⅱ	2前	2	1	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 教授 (平7.4)	
18	兼任	教授	マツモト 松本 ヒロシ <令和5年4月>		博士(人間科学)		スポーツ心理学 フィットネス指導法 健康行動科学・演習 健康・スポーツ実践実習	1前 3後 4前 4前	2 4 2 1	1 2 1 1	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 教授 (平17.4)	
19	兼任	教授	ツイ 三井 マサヤ <令和5年9月>		体育学修士		スポーツ運動学 器械運動 保健体育科指導法(体づくり運動・器械運動)※	1後 1後 2後	2 2 0.5	1 2 1	武庫川女子大学 短期大学部 健康・スポーツ学科 教授 (昭57.10)	
20	兼任	教授	ヤマノエ 山添 ミヨシ <令和5年4月>		医学博士		スポーツ医学※ 運動器の解剖と機能 生活習慣病論 運動療法演習※	2前 1前 3前 4前	0.9 2 2 0.3	1 1 1 1	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 教授 (平23.4)	
21	兼任	教授(学部長)	ワタナベ 渡邊 完児 <令和5年4月>		博士(学術)		運動生理学	1前	2	1	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 教授 (平21.4)	
22	兼任	教授	コジマ 小島 アキコ <令和5年4月>		博士(文学)		鎌倉時代の文学への誘い 平安時代の文学への誘い	1前・後 1前・後	4 4	2 2	武庫川女子大学 教育学部 教授 (令2.4)	
23	兼任	教授	フクハラ 福原 スミエ <令和5年4月>		芸術学修士		ミュージカル歌唱法	1前・後	2	2	武庫川女子大学 音楽学部 教授 (平29.4)	
24	兼任	教授	フジイ 藤井 タツヤ <令和5年4月>		博士(芸術)		先端芸術表現	1前・後	2	2	武庫川女子大学 教育学部 教授 (平8.4)	
25	兼任	教授	サバウ 西道 ミル <令和5年4月>		社会学修士※		環境心理学入門	1前・後	4	2	武庫川女子大学 経営学部 教授 (平30.9)	
26	兼任	教授	ヤマモト 山本 アキコ <令和5年4月>		会計修士(専門職)		まちづくりと地方自治の役割 女性が輝く社会づくり	1前・後 1前・後	8 8	4 4	武庫川女子大学 共通教育部 教授 (令3.4)	
27	兼任	教授	カンバラ 神原 カズキ <令和5年9月>		博士(教育学)		文化を創造する数学	1後	2	1	武庫川女子大学 教育学部 教授 (平26.4)	
28	兼任	教授	ムラタ 村田 シゲノリ <令和5年4月>		博士(理学)		生命科学入門	1前	2	1	武庫川女子大学 薬学部 教授 (平19.4)	
29	兼任	教授	マツイ 松井 トクミン <令和5年4月>		農学博士		微生物がつくる発酵食品の不思議	1前	2	1	武庫川女子大学 生活環境学部 教授 (平2.4)	
30	兼任	教授	ハギミ 萩森 マサヨリ <令和5年9月>		博士(薬学)		薬の歴史と未来※	1後	0.4	1	武庫川女子大学 薬学部 教授 (令3.4)	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
31	兼担	教授	ヤノ ヨシアキ 矢野 義明 ＜令和5年9月＞		博士(薬学)		薬の歴史と未来※	1後	1.6	1	武庫川女子大学薬学部教授(令3.4)	
32	兼担	教授	ヨシダ ミチコ 吉田 都 ＜令和5年9月＞		博士(薬学)		薬とからだ※	1後	1.1	1	武庫川女子大学薬学部教授(平20.4)	
33	兼担	教授	タウチ ヨシキヨ 田内 義彦 ＜令和5年4月＞		博士(薬学)		医薬品概論※	1前	1.3	1	武庫川女子大学薬学部教授(令3.4)	
34	兼担	教授	クハラ アキコ 菜原 晶子 ＜令和5年4月＞		博士(薬学)		医薬品概論※	1前	0.7	1	武庫川女子大学薬学部教授(平20.4)	
35	兼担	教授	タカハシ チエヨ 高橋 千枝子 ＜令和5年4月＞		博士(商学)		女性のためのマーケティング	1前・後	4	2	武庫川女子大学経営学部教授(平30.4)	
36	兼担	教授	モリタ マサコ 森田 雅子 ＜令和5年4月＞		Ph. D. (西ドイツ)		イタリア語ⅠA	1前・後	2	2	武庫川女子大学生活環境学部教授(平4.4)	
37	兼担	准教授	オカザキ ユウジ 岡崎 祐史 ＜令和6年9月＞		修士(経営学)		スポーツ行政・法規 柔道 保健体育科指導法(武道・ダンス)※	2後 3後 3後	2 2 0.5	1 2 1	武庫川女子大学短期大学部健康・スポーツ学科准教授(平22.4)	
38	兼担	准教授	タケカミ ケンジ 武岡 健次 ＜令和6年4月＞		修士(学術)		体力の測定評価演習 介護法・介護予防演習 運動療法演習※	2前 3後 4前	2 2 1.7	1 1 1	武庫川女子大学短期大学部健康・スポーツ学科准教授(平20.4)	
39	兼担	准教授	タナカ ヨシエ 田中 美吏 ＜令和6年9月＞		博士(学術)		卓球 バドミントン スノースポーツ実習 健康・スポーツ科学の統計学演習※	4前 4後 2後 3後	1 1 1 0.5	1 1 1 1	武庫川女子大学健康・スポーツ科学部准教授(平27.4)	
40	兼担	准教授	ナカホリ チカコ 中堀 千香子 ＜令和5年4月＞		修士(体育学)		健康・スポーツ科学論	1前	2	1	武庫川女子大学健康・スポーツ科学部准教授(平30.4)	
41	兼担	准教授	ムラコシ ナオコ 村越 直子 ＜令和5年9月＞		博士(臨床教育学)		ダンスⅡ ダンスⅢ マリンスポーツ実習	1後 2前 2前	2 1 1	2 1 1	武庫川女子大学健康・スポーツ科学部准教授(平23.4)	
42	兼担	准教授	イノウエ シゲノブ 井上 重信 ＜令和7年4月＞		国際会計修士(専門職)		スポーツ情報・メディア論	3前	2	1	武庫川女子大学生活環境学部准教授(平26.4)	
43	兼担	准教授	タシヤマ ケン 棚山 研 ＜令和5年4月＞		博士(教育学)		現代世界の教育	1前・後	4	2	武庫川女子大学教育学部准教授(平31.4)	
44	兼担	准教授	ナガシマ アキナ 永島 茜 ＜令和5年4月＞		博士(学術)		現代フランスの音楽事情 フランスの音楽と芸術文化	1前・後 1前・後	4 4	2 2	武庫川女子大学音楽学部准教授(平20.4)	
45	兼担	准教授	ヒライ タケミ 平井 拓己 ＜令和5年4月＞		M. A. (米国)		我々のくらしと日本の産業	1前・後	4	2	武庫川女子大学生活環境学部准教授(平30.4)	
46	兼担	准教授	ヒロ ユキヨ 肥後 有紀子 ＜令和5年4月＞		修士(芸術文化)		メディア技術と文字デザイン	1前	2	1	武庫川女子大学生活環境学部准教授(平21.4)	
47	兼担	准教授	ナカオ カヨコ 中尾 賀要子 ＜令和5年4月＞		PhD (米国)		セクシュアリティ入門	1前・後	6	3	武庫川女子大学教育研究所准教授(平22.4)	
48	兼担	准教授	ケビン アラン Kevin Alan バートレット Bartlett ＜令和5年4月＞		Ed. D (豪州)		Current Affairs in Japan I	1前	2	1	武庫川女子大学文学部准教授(令3.4)	
49	兼担	准教授	アニータ リン エイデン Anita Lynn Aden ＜令和5年4月＞		M. A. in TESL (米国)		英語コミュニケーションⅢ Speaking & Listening Ⅲ Presentation Current Events I Current Events II	1前・後 3後 3後 4前 4後	6 1 1 1 1	6 1 1 1 1	武庫川女子大学共通教育部准教授(平21.4)	
50	兼担	准教授	ヤスイ トシヒデ 保井 俊英 ＜令和5年9月＞		体育学修士		障がい者スポーツ論Ⅰ バレーボール 保健体育科指導法(球技)	3後 1後 2後	2 2 1	1 2 1	武庫川女子大学短期大学部健康・スポーツ学科准教授(平3.4)	
51	兼担	講師	ミツタケ ハナコ 満武 華代 ＜令和6年4月＞		修士(教育学)		学校保健 保健体育科指導法Ⅲ	2前 2後	2 2	1 1	武庫川女子大学短期大学部健康・スポーツ学科講師(平29.4)	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に就任する週当たり平均日数
52	兼担	講師	ヤスダ リョウコ 安田 良子 <令和5年4月>		修士(教育学)		スポーツトレーニングの科学 救急処置演習	2後 1前	2 2	1 2	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 講師 (平30.4)	
53	兼担	講師	ハセガワ ヒロキ 長谷川 裕紀 <令和5年4月>		博士(工学)		音楽の科学 データサイエンスの基礎とExcel データサイエンスの応用とExcel データリテラシー・AIの基礎	1前・後 1前・後 1後 1後	4 6 4 2	2 3 2 1	武庫川女子大学 共通教育部 講師 (平20.11)	
54	兼担	講師	スギイ シンスケ 杉井 俊介 <令和5年4月>		法務博士		教養としての法律 暮らしと法律	1前 1後	4 4	2 2	武庫川女子大学 経営学部 講師 (令2.4)	
55	兼担	講師	キタオ ミカ 北尾 美香 <令和5年9月>		博士(看護学)		女性と子どものヘルスケア※	1後	1.1	1	武庫川女子大学 看護学部 講師 (令3.4)	
56	兼担	講師	ミナミグチ ヨウコ 南口 陽子 <令和5年9月>		博士(看護学)		女性と子どものヘルスケア※	1後	0.9	1	武庫川女子大学 看護学部 講師 (令2.4)	
57	兼担	講師	ジョージ クリントン George Clinton デニソン Denison <令和5年4月>		M. S. in Education (米国)		英語コミュニケーションⅣ 英語ライティングⅡ Speaking & Listening I Speaking & Listening II Writing I Writing II Global Communication I Global Communication II	1前・後 1前・後 2前 2後 3前 3後 4前 4後	2 2 1 1 1 1 1 1	2 2 1 1 1 1 1 1	武庫川女子大学 共通教育部 講師 (平30.4)	
58	兼担	助教	キシタ チアキ 岸本 千秋 <令和5年4月>		博士(文学)		SNSから日本語を見る	1前・後	4	2	武庫川女子大学 言語文化研究所 助教 (平31.4)	
59	兼担	助教	コジマ ホトミ 小島 穂菜美 <令和5年9月>		博士(薬学)		薬とからだ※	1後	0.9	1	武庫川女子大学 薬学部 助教 (平20.4)	
60	兼担	助教	フジイ ミチ 藤井 善仁 <令和5年4月>		修士(経済学)		キャリアビジョンと人物評価	1前・後	4	2	武庫川女子大学 経営学部 助教 (令2.4)	
61	兼任	講師	ササキ トモ子 佐々木 朋子 <令和5年9月>		博士(スポーツ健康科学)		ホスピタリティマネジメント論	1後	2	1	京都大学大学院 医学研究科 非常勤研究員 (令2.10)	
62	兼任	講師	ヤヅフ アサヒ 矢澤 彩香 <令和6年4月>		博士(薬学)		スポーツ栄養学	2前	2	1	大阪府立大学 総合リハビリテーション 系准教授 (平16.4)	
63	兼任	講師	フヤカズキ 古谷 和之 <令和5年4月>		学士(体育学)		障がい者スポーツ論Ⅱ 障がい者スポーツ指導法	4前 4後	2 2	1 1	大阪市舞洲障がい者スポーツセンター 指導係長 (平12.4)	
64	兼任	講師	カハラ マサキ 川原 正紀 <令和6年9月>		高等学校卒		剣道	2後	1	1	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 非常勤講師 (平26.4)	
65	兼任	講師	タカシマ レイカ 高島 玲佳 <令和5年9月>		学士(文学)		エアロビックダンス	1後	2	2	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 非常勤講師 (平30.9)	
66	兼任	講師	サトウ アキ 座古 亜紀 <令和5年4月>		文学士		情報リテラシー	1前	2	1	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 非常勤講師 (平27.4)	
67	兼任	講師	サカキ ミコ 坂本 美奈子 <令和5年4月>		社会学士		情報リテラシー	1前	2	1	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 非常勤講師 (平27.4)	
68	兼任	講師	イグチ ヨウコ 井口 陽子 <令和5年4月>		博士(言語科学)		基礎英語Ⅰ 基礎英語Ⅱ	1前 1後	2 2	2 2	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 非常勤講師 (平28.4)	
69	兼任	講師	タナカ リエ 田中 梨恵 <令和5年4月>		博士(文学)		基礎英語Ⅰ 基礎英語Ⅱ	1前 1後	2 2	2 2	株式会社ラジュネス企画 PRコーディネーター (令2.4)	
70	兼任	講師	ミウラ エイキ 三浦 栄紀 <令和5年4月>		短期大学卒		スポーツ実技(スリムエアロ) スポーツ実技(ダンスエアロ) アクアエクササイズ	1前・後 1前・後 3前	2 2 1	2 2 1	有限会社エモーション 代表取締役社長 (平15.1)	
71	兼任	講師	タケベ トモ子 武部 智子 <令和5年4月>		文学修士		神話・伝説の世界から	1前・後	8	4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平4.4)	
72	兼任	講師	オオツチ フク子 大槻 福子 <令和5年4月>		博士(文学)		平安朝文学の世界 歌舞伎鑑賞入門	1前 1後	4 4	2 2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平4.4)	
73	兼任	講師	シロカ シンジ 城阪 真治 <令和5年4月>		修士(文学)		日常生活からの哲学入門	1前・後	4	2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平27.4)	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
74	兼任	講師	スズキ タカヒロ 鈴木 貴博 <令和5年4月>		修士(芸術学)		自己発見アート 未来造形	1前・後 1前・後	2 2	2 2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平22.4)	
75	兼任	講師	エドハラ ユキ 海老原 由貴 <令和5年4月>		M.A. (米国)		日本の文化Ⅰ 日本の文化Ⅱ 英語で学ぶやさしい経済学 英語で学ぶお金の知識	1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平27.4)	
76	兼任	講師	イマヱ ヒロユキ 今滝 憲雄 <令和5年9月>		博士(学術)		差別と暴力のない世界をめざして	1後	2	1	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 非常勤講師 (平18.4)	
77	兼任	講師	ヨネダ ヒロコ 米田 浩子 <令和5年4月>		法学士		メディアに映る女性	1前・後	4	2	学校法人武庫川学院 広報室長 (平30.1)	
78	兼任	講師	ナカムラ カズコ 中村 和子 <令和5年4月>		M.S. (米国)		生涯福祉論 社会福祉とボランティア	1前・後 1前・後	4 4	2 2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平13.4)	
79	兼任	講師	ヤマザキ セイジ 山崎 清治 <令和5年9月>		学士(工学)		福祉レクリエーションの実際	1後	2	1	NPO法人生涯学習 サポート兵庫 理事長 (平15.4)	
80	兼任	講師	ヤナギハラ リカヨ 柳原 利佳子 <令和5年4月>		修士(教育学)		子育てと家族関係 子育てと母性の気づき	1前 1前	2 2	1 1	神戸常盤大学 教育学部 講師 (平24.4)	
81	兼任	講師	ヨネダ ノリコ 米田 紀子 <令和5年4月>		学士(法学)		現代社会と憲法	1前・後	4	2	神戸グレース法律事務所 所弁護士 (令2.7)	
82	兼任	講師	イデ ナオ 井出 奈緒 <令和5年4月>		短期大学士		消費者生活論	1前	4	2	公益社団法人 関西消費者協会職員 (平25.1)	
83	兼任	講師	シノヰ ヒサアキ 真貝 寿明 <令和5年9月>		博士(理学)		生活の中の物理学 最先端物理学が描く宇宙	1後 1後	2 2	1 1	大阪工業大学 情報科学部 教授 (平18.4)	
84	兼任	講師	テライ トモコ 寺井 朋子 <令和5年4月>		博士(臨床教育学)		モラルジレンマから考える私	1前	2	1	武庫川女子大学 短期大学部 共通教育科 准教授 (平28.4)	
85	兼任	講師	キム ヒロユキ 金 宝英 <令和5年4月>		学術博士		韓国文化の理解	1前・後	4	2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平18.4)	
86	兼任	講師	シノヰ セイハ 蔭 海波 <令和5年4月>		博士(学術)		中国文化論	1前・後	4	2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平18.4)	
87	兼任	講師	キムラ マイコ 木村 麻衣子 <令和5年4月>		修士(文学)		TOEIC演習Ⅰ TOEIC演習Ⅱ TOEIC演習Ⅲ TOEFL演習 英語ライティングⅠ 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ TOEIC(初級) Basics for PresentationⅠ Basics for PresentationⅡ Career Workshop Reading & Critical Thinking ドイツ語Ⅰ フランス語Ⅰ フランス語ⅠA フランス語ⅠB	1前・後 1前・後 1前・後 1前・後 1後 1前・後 1前・後 1前・後 1後 2前 2後 4後 4前 1前・後 1前・後 1前 1後	2 4 2 2 1 4 4 2 1 1 1 1 1 4 4 1 1	2 4 2 2 1 2 1 1 1 1 1 2 2 1 1	武庫川女子大学 短期大学部 共通教育科 准教授 (平8.4)	
88	兼任	講師	ホリエ マサフ 堀江 正伸 <令和5年4月>		博士(学術)		Oral communicationⅠ Oral communicationⅡ 国際協力入門 Current Affairs in JapanⅡ English for Careers 特別英語演習Ⅰ 特別英語演習Ⅱ 特別中国語演習Ⅰ 特別中国語演習Ⅱ 特別ハングル演習Ⅰ 特別ハングル演習Ⅱ	2前 2後 1前 1後 3前 1前・後 1前・後 1前 1前 1前 1前	1 1 2 1 1 16 16 2 2 4 4	1 1 1 1 1 4 4 1 1 1 1	元 武庫川女子大学 短期大学部 英語キリ・ コミュニケーション学科 教授 (令4.3)	
89	兼任	講師	マツナミ トモコ 松並 知子 <令和5年4月>		博士(言語文化学)		世界の中の日本人 メディアに見るジェンダー 女性の身体とセクシュアリティ	1前 1前・後 1前・後	4 4 4	2 2 2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平24.4)	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
90	兼任	講師	タフ マキ 田和 真希 <令和5年4月>		修士 (法学)		女性のためのライフプランニング 英語リーディング I	1前・後 1前・後	4 6	2 6	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平17.4)	
91	兼任	講師	アキタ ヒサコ 秋田 久子 <令和5年4月>		文学士		自己アビルトレーニング	1前・後	8	4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平17.4)	
92	兼任	講師	カイ タカヒロ 甲斐 隆浩 <令和5年4月>		専門学校卒		グラフィックデザイン基礎 フォトタッチ基礎 Webデザイン基礎 Webデザイン応用	1後 1前 1前・後 1前・後	2 2 4 4	1 1 2 2	Plus Project 代表 (平16.4)	
93	兼任	講師	カワモト ヒロキ 川本 俊行 <令和5年4月>		工学士		Scratchによるプログラミング 情報社会を生きる技術 Accessデータベース基礎	1前・後 1前・後 1前・後	4 4 4	2 2 2	有限会社 トランステック 代表取締役 (平7.4)	
94	兼任	講師	クロカワ トモコ 黒川 知子 <令和5年4月>		M. S. in Education (米国)		英語リーディング II Grammar for Communication Reading & Writing	1前・後 2前 2後	4 1 1	4 1 1	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平14.4)	
95	兼任	講師	トリイ タカシ 鳥居 孝司 <令和5年4月>		修士 (言語 科学)		英語ライティング I	1前・後	2	2	武庫川女子大学 文学部 非常勤講師 (平25.4)	
96	兼任	講師	イワイ マキ 岩井 麻紀 <令和5年4月>		M. Ed. (米国)		英語リーディング I	1前・後	2	2	武庫川女子大学 文学部 非常勤講師 (平28.4)	
97	兼任	講師	ウエノ トモコ 植野 智子 <令和7年9月>		Ph. D (アイルラ ンド)		Reading & Discussion	3後	1	1	武庫川女子大学 教育学部 非常勤講師 (平25.4)	
98	兼任	講師	マツイ セイイチロウ 松井 聖一郎 <令和5年4月>		学術修士		ハングル I ハングル II	1前・後 1後	4 8	2 4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平21.4)	
99	兼任	講師	チノ ソノタ 田 星姫 <令和5年4月>		博士 (文学)		ハングル I	1前・後	4	2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平28.4)	
100	兼任	講師	マンニーノ Mannino マッシミリアノ Massimiliano <令和5年4月>		Laurea (イタリア)		イタリア語 IB	1前・後	2	2	アップルケイ・ラン ゲージタリア語講師 (平25.1)	
101	兼任	講師	ツボイ ユキエ 坪井 幸栄 <令和5年4月>		博士 (文学)		スペイン語 I	1前・後	4	2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平26.4)	
102	兼任	講師	イダカ コウイチ 井高 浩一 <令和5年4月>		文学修士		フランス語 I フランス語 II	1前・後 1後	6 2	3 1	武庫川女子大学 文学部 非常勤講師 (平5.4)	
103	兼任	講師	ハンキ イクコ 橋本 郁子 <令和5年4月>		文学修士		ドイツ語 I ドイツ語 II	1前・後 1後	8 2	4 1	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平7.4)	
104	兼任	講師	イチナリ ナオコ 市成 直子 <令和5年4月>		文学博士		中国語 I 中国語 II	1前・後 1前	6 2	3 1	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平8.4)	
105	兼任	講師	カヘ ケイツン 何 景琳 <令和5年4月>		文学修士		中国語 I 中国語 II	1前・後 1後	6 2	3 1	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平3.4)	
106	兼任	講師	リュウ イェンズ 劉 燕子 <令和5年4月>		修士 (中国文 学)		中国語 I 中国語 II	1前・後 1後	6 2	3 1	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平31.4)	
107	兼任	講師	ナリタ アツコ 成田 厚子 <令和5年4月>		修士 (スポ-ツ科 学)		スポーツと栄養	1前・後	8	4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平25.4)	
108	兼任	講師	オオタ マサオ 太田 雅夫 <令和5年9月>		体育学修士		生涯スポーツ論	1後	2	1	天理大学 体育学部 教授 (平7.4)	
109	兼任	講師	ヨシカワ サユリ 吉川 小百合 <令和5年4月>		学士 (健康・ スポ-ツ科 学)		スポーツ実技(テニス)	1前・後	4	4	マーズプランニング テニスインストラク ター (平25.4)	
110	兼任	講師	マツムラ クミコ 松村 公美子 <令和5年4月>		文学士		スポーツ実技(ゴルフ)	1前・後	4	4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平23.4)	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に從事する週当たり平均日数
111	兼任	講師	アダチ マフ 足立 マフ <令和5年4月>		修士 (学校教育学)		スポーツ実技(バレーボール)	1前・後	4	4	園田学園女子大学 人間健康学部 准教授 (平20.4)	
112	兼任	講師	タカハシ ミカ 高橋 ミカ <令和5年4月>		修士 (体育方法学)		スポーツ実技(バドミントン)	1前・後	4	4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平26.4)	
113	兼任	講師	サカタ ジュンコ 坂田 ジュンコ <令和5年4月>		専門学校卒		スポーツ実技(エアロビクス)	1前・後	4	4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平19.4)	
114	兼任	講師	キノ カズキ 木野 カズキ <令和5年9月>		修士 (体育学)		スポーツ実技(水泳)	1後	1	1	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 非常勤講師 (令3.4)	
115	兼任	講師	イワタ ユリコ 岩下 ユリコ <令和5年4月>		体育学士		スポーツ実技(軽スポーツ)	1前・後	4	4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平18.4)	
116	兼任	講師	オオヤ マサコ 雄谷 マサコ <令和5年4月>		専門学校卒		スポーツ実技(ヨガ)	1前・後	4	4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平20.4)	
117	兼任	講師	ヤマシタ カズエ 山科 カズエ <令和5年4月>		修士 (教育学)		スポーツ実技(サッカー)	1前・後	2	2	セレッソ大阪スポーツ クラブコーチ (平24.2)	
118	兼任	講師	アサガ ソノエ 浅賀 ソノエ <令和5年4月>		高等学校卒		スポーツ実技(スタイルジャズ)	1前・後	2	2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (令3.4)	
119	兼任	講師	ヒガシノ マサヨ 東出 マサヨ <令和5年9月>		修士 (臨床教育学)		からだと気づきと姿勢法	1後	3	3	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 非常勤講師 (平29.4)	
120	兼任	講師	タナカ マリ 田中 マリ <令和7年9月>		博士 (医学)		公衆衛生学	3後	2	1	大阪大学大学院 医学系研究科医学専攻 特任助教 (平28.5)	

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
(健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科)										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	2人	1人	1人	人	4人	
	修 士	人	人	人	人	人	1人	1人	2人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博 士	人	人	2人	人	人	人	人	2人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	2人	人	人	人	人	人	2人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	2人	2人	1人	1人	人	6人	
	修 士	人	2人	人	人	人	1人	1人	4人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	